
遊戯王GX - 蟹と魔女の娘 -

戎鴛

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王GX - 蟹と魔女の娘 -

【Nコード】

N1348R

【作者名】

戒鴛

【あらすじ】

不動遊星、十六夜アキ、ジャック・アトラス、クロウ・ホーガン、龍可、龍亞の

6人のシグナーは、ネオドミノシティに降り注ぐ数々の脅威を6体のシグナーの竜と各々の絆の力を発揮し、守り抜いた。彼ら6人の戦いは終わったのだ。

それからしばらくの時が経ち、遊星とアキは結婚し、2人の間に子が出来た。

子の名前を不動遊璃ふどうゆりといった。

この物語は、不動遊璃がデュエルアカデミア高等部1年の時に経験した不思議な出来事である。

書き方を修正したのが本編18話からなのでそれ以前は読みにくいかもしれませんが……これは過去の自分がどんなに酷い文章を書いていたのかを思い出させる為に修正していませんので予めご了承ください。

2011/06/12 キャラの設定と初期デッキを設定資料集の方に移行しました。キャラの詳細設定などを知りたい方はこちらを読みにいつてください。

番外編は基本的に読まなくても物語の大体の概要を理解する事は出来ませんが、中には本編に直結している物もありますので可能な限り読んでいただきたいと思います。

2011/07/28 序章の前に注意事項を追加しました。オリカ投稿や感想を書こうと考えている方は一読を宜しく願います。
尚、これを読んでいないという言い訳は一切聞きませんので悪しからず。

オリカ投稿について（2011/09/26追記）（前書き）

オリカを投稿しようとしている方は必ず読んで下さい

オリカ投稿について（2011/09/26追記）

皆様はじめまして。

本小説、遊戯王GX - 蟹と魔女の娘 - の作者、かいえん 戎鴛と申します。
以後お見知りおきを。

最初に本小説は読者の方々が提供してくださったオリカを採用し、
実際の話の中で使用しています。

このページでは主にそのオリカの投稿についての注意事項を書き記
していきます。

本来であれば設定資料集に書くことですが、どうやら読まずに投稿
している方がいらっしやるようですので、特例として必ず目を通さ
れるであろう本編に載せておきます。

尚、本ページはオリカを投稿しようと考えている方専用のページで
す。

読む専用の方々はただ説明文が続くだけです。次話に進んでしま
った方が賢明かと。

また、本文は既に設定資料集または私の活動報告で発表したことが
記されています。

その点を予めご了承下さい。

オリカ投稿に関して

これは2月25日の活動報告で書いた内容を要約したものです。

主人公勢3人であれば誰でも投稿可能です。但し、主人公のみ、モンスターであれば、ドラゴン族か鳥獣族のみとします。

シンクロモンスターならレベル6、7、9、10を避けること。

(これは主人公の切り札級のカードがそのレベルに存在するためです)

主人公のデッキを根幹を変えてしまうようなカード群はNG(例、BF)

効果かステータスでゲームバランスを崩壊させない。(主人公のデッキをもう1度見て悪用する手段がないように調整してください)

出して欲しいオリカは名前、外見、攻撃力、守備力、効果、口上(シンクロモンスターに限る)をしっかりと明記すること。(明記されていない場合は登場が大幅に遅れる場合もあります)

主人公以外はシンクロモンスターを使用しないのでそれはなし
他作品からネタを持ってこないこと。(例：東方)

口上に困ったときは神話の武器を名前にして送れば作者が口上を代わりに考えます。

ただし、そのオリカの登場時期は口上が投稿されたシンクロモンスター全てが出終わった後になりますので、すぐに活躍させて欲しいのであれば気合で考えてください。

ただし、主人公のシンクロモンスターには定型文が存在するので、それを破らないでください。

*主人公のエクストラデッキに関して

ネタバレになってしまうので余り詳しくは書きませんが、主人公は未来の存在である事情によって過去……つまりは遊城十代の時代

にトリップしてしまいます。

また本小説において主人公以外のカードプール（一部例外あり）は実際のOCGで言う

「LIGHT OF DESTRUCTION」までとなっています。

理由はこのパックがGX最後のパックである為です。

逆に主人公は未来の存在の為、パックは「EXTREME VIC TORRY」、DTはDT11までとなっていますが、

これですと主人公のみカードプールが広いので実力が突出してしまう恐れがあります。

その為、主人公のエクストラデッキに対して制限を設けています。

それが主人公のエクストラデッキをOCGと同じ15枚までとする処置です。

これは主人公のみに適用され、他の登場人物には適用されない為、十代達のエクストラデッキ（当時は融合デッキでしたね）の枚数は無制限です。

また、読者の皆様全員が1枚以上投稿してしまった場合、確実に15枚は超えてしまうでしょう。

その為、主人公のサイドデッキもその対象内として扱います。

つまりは主人公は最大30枚のエクストラデッキを持つ事が出来るわけです（デュエルに使用するのは15枚までです）

因みに過去であるのにシンクロモンスターが使用できる点は本編に記してあるので恐らくは問題ないかと。

注意

2011年5月3日の時点で、エクストラデッキへのオリカ投稿は終了となっています。

ご注意ください。

もし破られた場合の処置は下記の罰則の項を参照。

*デュエル回のオリカ投稿に関して（2011/09/10 追記）

これにつきましては、本編中でデュエル回が途中で途切れた場合に発生するものです。

他の皆様が1話1話毎に構成を考えているのか、将又私のようにしているのかは存じませんが、

私の場合は一通りのデュエル展開を最初から最後まで立ててから執筆を行います。

故にデュエル回で途中で途切れた場合に、その次の話で使用して欲しいというようなオリカは非常に対処に困ります。

では何故展開が出来上がっているのに更新が遅いのか。

皆様の中にはこうお考えの方も沢山いる事でしょう。

これについては、地の文の執筆に予想以上の時間を要する事、そしてカード効果のミスなどを1枚1枚何度も確認しているからです。なのでこの文を追記した時の話の後の展開も出来ていますが、地の文とカード効果関連の調整を確認している最中なだけです。

……まあ、未だに展開を1話1話毎に構想を立てているのだと思っただのか、そのような投稿も多いのでこれについては罰則のようなものはありませんが、一々同じ文を書いたりコピーする時間が惜しいので、可能な限り控えていただきたいと思います。

*強すぎるオリカに対する返信（2011/09/26 追記）

これについては一々私の方からどの部分が強いと言っても、書き間違いなどの可能性がある為、私の方からの読み間違いなどを防ぐ為に設ける処置です。

この追記が終了し次第、修正要請を出すカードについては以下の3種類に分類します。

修正：文字通り修正要請をお願いします。

考慮中：受け取るか考慮中。なるべく早めに答えは出そうと思いますが、チートラインギリギリを通るようなカードはここに分類されます。（殆ど修正にいくと思うので考慮中は殆どありません）

返却：修正の価値なしで返却という扱いです。主に募集が終了しているエクストラデッキのモンスターや、考慮する必要もないチートカードがこれに割り当てられます。

以上の3点以外に私からは“何も言及しない”のでご了承下さい。

*罰則

上記の条件を破って投稿した場合の処置についてです。

これは「小説家になろう」にユーザー登録している方としていない方で処置が異なるので該当する方のみご覧ください。

登録している方

・初犯の場合

該当カードの返却、並びに嚴重注意

- ・再犯

該当カードとそれまでの投稿されたオリカの全返却
加えて他の何かの罰則に引っかけた場合は、今後の感想への
返信の取り止め。

- ・それでも止めない方

ブラックリストに登録

登録していない方

- ・初犯の場合

該当カードを返却。返却の旨を感想返信にて伝えます

- ・再犯

該当カードとそれまでの投稿されたオリカの全返却。
以後の感想返信はオリカ以外の部分のみに返信します。

以上となります。

登録されているされていない関係なしに関わる事は次話にて記しておきます。

お手数ですが読んで下さい。

オリカ投稿について（2011/09/26追記）（後書き）

この文を公開後、読んでいませんでした等と言いつい訳は一切聞き
ませんのでご容赦ください

その他の感想について（前書き）

オリカを投稿しない方に対しても重要な事です
全員読んでおいてくださると対応が楽になって助かります

その他の感想について

どうも皆様こんにちは。（時間帯によっては違いますが……）
戒駑です。

先程のオリカ投稿の中で出てきた他の事象についてここで述べたい
と思います。

*他作品への誹謗中傷

本小説の感想板は当然ながら本小説に対する意見や感想、オリカ投
稿等を行う場所です。

最初に書いておきますが、私の小説を読む上で恐らくはルールミス
等も出るはずですので、

「私の小説へのご指摘」は今後の執筆に活かせるいい機会ですので
大歓迎です。

ただ、謂れのない事の指摘やただの暴言は困りますが……

その為、本小説の感想板上での他作品に対する誹謗中傷は止めてく
ださい。

もしこれに当てはまるような事をした場合は、問答無用で感想の削
除、オリカの全返却並びにブラックリストに登録する所存です。

厳しいかもしれませんが、そのような迷惑な方は私としても、そし
て書かれた作品の作者も居心地が悪いのでそのような処置を取らせ
ていただきます。

* ネタバレ

これは私が小説の感想を書かれる上で一番嫌っている事です。
これを1度書かれただけでモチベーションがY^{||}-10000000
000x(x>0) (もはや縦線と言っても過言ではない)並みに
下がり、小説を削除するか迷う位悩みだします。
絶対にやめてください。

どの程度なら大丈夫かどうかとしましては、

『予想であれば問題なしです。』

例を挙げると、語尾が「」になりそう?、「これは では!?」
なら基本的に大丈夫です

ただ言い切るのはやめてください。

まあ、兎にも角にもその話の感想だけであれば問題ありませんし、
万が一書いて欲しくない内容がありましたら、前書きかあとがきに
書いておきます。

それが無い場合に私に指摘された場合は、反論してくださって構い
ません。

どうしてそのような返答をしたのか理由を書きますので。

因みにネタバレをした方につきましては基本感想削除。または、以
後の感想への返信の取りやめの形をとっています。

余りにも酷い方にはブラックリスト登録も辞さない構えですのでこ
了承ください。

* 一言感想、指摘のみの感想

私の小説に対して指摘・感想の類があるのは分かりますが、指摘のみもしくは「面白かった」のみ等の一言感想は反応に困るので可能な限りお控えください。

1つずつ書くとする、指摘のみの場合には、私は私の作品に面白かった点が“一切ない”と判断できてしまいますし、偶に設けている感想件数のキリ番のカウントの妨害にもなりえます。

一言感想の場合は単に返信に困るためです。

これは、先ほどの例に挙げた「面白かった」のみの感想を書いて頂いたとすると、私としては、“どこがどのように面白かったのか”という解答に困る為、返信に困るからです。

総じて私としては、これを読んでどうお思いになったかを知りたいです。

此処が面白かった。このコンボが凄かった。勿論褒め言葉だけでなく、これは変だなあ、といった否定的な感想でも構いません。それも今後の経験になりますので。

これらのコメントの場合の対応は、2011/08/05より、指摘のみの場合は修正後に削除。

一言感想の場合は、返答しようがないので放置もしくは削除の形をとらせていただきます。

尚、「面白かった、これからも頑張ってください」等というやはり返答がマンネリ化しそうな感想も同様の処置を致しますのでお気を付け下さい。

その他の感想について（後書き）

他に追加すべき項目が増えましたら、あとあと追加していきます

何故かこの2つの項目を足してから感想件数が激減したのですが、気のせいだと信じたい。

1話・プロローグと言つ名の大会出場（前書き）

挨拶はあとがきにて。

1話：プロローグと名づ名の大会出場

side yuri

『ママ、行ってきます。』

『いつてらっしゃい。頑張つてね。』

『うん。』

ママにそう言つて私は家を出た。

向かうのはデュエルスタジアム。今日は、デュエルモンスターの大会がある。

私はその大会で現在9連覇中。今回も優勝できれば10連覇なんだ。

あ、自己紹介がまだだつたわね。はじめまして。私の名前は不動遊璃^{ふどうめ}。

女の子で16歳のデュエルアカデミア1年生です。好きなことは料理、機械弄り、デュエルモンスターズ。嫌いな事は人を平気で馬鹿にしたり傷つけたりする人。努力もしない人。すぐに調子に乗る人。絆を否定する人や出来事。因みに、パパはこのネオドミノシティの救世主の不動遊星。ママは黒薔薇の魔女、十六夜アキ。もつとも今は黒薔薇の魔女なんて呼ばれてないし、名前も不動アキだけれどね。尊敬する人はやっぱりパパとママ。2人ともデュエルが強くて勝つた例がありません。しかも忙しいからあまりデュエルしてくれないの。だから10連覇ができたらご褒美にデュエルしてもらいたいな。

つと自己紹介をしているうちにスタジアムが見えてきたわね。

えっ!?!私の使用デッキと切り札? これから大会で嫌つて程見せ

てあげるから今は我慢してね。

・

・

・

・

- デュエルスタジアム・エントランス -

『いらつしゃいませ。本日のデュエル大会の申し込みですか？』

『はい』

『こちらの端末に個人情報とデッキ内容の転送をお願いします』

『分かりました』

私はいつも持ち歩いているPDAからデータ送信を選択し、端末に情報を送った。

始めて来たときはデッキ内容も転送する必要があることに驚いていたが、大会中にデッキがすりかえられていたり、登録されているカード以外の使用をさせないためらしい。

『・・・不動遊璃様ですね。参加を受け付けました。大会開始時間まで控え室にてお待ちください』

『はい』

受付の人に話しかけ参加登録を済ませた後、私は控え室へと向かった。

・

・

・

・デュエルスタジアム・控え室・

私が入っていくと中で話していた参加者達が静まり返った。

その後私が定位置の奥の方に歩いていくとヒソヒソと話している声が聞こえた。

『不動遊璃も参加するのか。これは終わったな』

『ああ、彼女あの不動遊星の娘だよな。デュエル強すぎるからな。』

『俺、彼女用にアンチデツキ組んできたぜ。』

『もし当たらなかつたらどうするんだ？』

『あ、その事考えてなかった。』

『馬鹿うましかになんやっつてんだよ。』

最初の方とはかく、アンチデツキ！？

努力しようとしてもしないで私のデツキを倒すためだけのデツキを組むなんて・・・とんだ最低野郎ね。

いいわ。当たった場合は覚悟しなさい。私がアンチデツキもろとも貴方の曲がった心も倒してあげる。

私はそう思った後、時間が来るまで壁に寄りかかり黙想をしていた。

・
・
・
・

『不動遊璃様、安置馬鹿様。デュエルの時間になりました。デュエル場までいらっしゃってください。』

『よっしゃあゝ俺ってば今日の運いいんじゃないね。ピンポイントで彼女と当たったぜ。』

『本当に当たるとはな。彼女がアンチデッキで止まるとは思えないけど』ボソ

『ん？なんか言ったか？』

『いいや。何も。』

『そうか。じゃあさくつと行って来るぜ。』

私はそんな会話を対戦相手がしているのを無視し、さっさとデュエル場に向かった。

・デュエルスタジアム・デュエル場・

『Everybody listen. 次のデュエルは本大会9連覇中である不動遊星の子、不動遊璃だああ！！』
私がMCの言葉と共に壇上に上がると

『ワーワー』

観客からすごい声援が聞こえてきた。

私はジャックおじさんみたいに反応したりはしないけど。

『対する対戦者はあー、安置ー馬鹿あー！』

『へっ、今日はお前を倒すために特別なデッキを組んできたぜ！このデッキを使うからには俺の負けはない。』

『おおっといきなり勝利宣言だあ』

『それだけ？』

『なっ！？』

『控え室での話、聞こえたわ。私のためにアンチデッキを組んだっ

てね。』

『汚えぞ。正々堂々勝負しろ!』

観客からも野次が飛ぶ

『うるせえ。だが、デュエルは結局勝った者が正しいんだよ!』

『確かに、そうかもしれないけどね。アンチデッキを使ってまで勝つて嬉しいの?』

『勝てりや何でもいぜ。』

『そう、ならばそんな考えを持つ貴方を徹底的に潰してあげる。』

その言葉の後に少しの静寂が生まれる。
そして

『『デュエル!』』

遊璃：LP4000 / 安置：LP4000

『先攻は俺が貰うぜ。ドロー! 《死霊騎士デスカリバー・ナイト》を守備表示で召喚! カードを1枚伏せターンエンド!』
安置の言葉とともにデュエルディスクにセットされたカードはフィールド上に現れ、守備表示のためか青色となった足を畳んだ馬に乗った骸骨の騎士が現れた。

《死霊騎士^{シキリキョウシ}デスカリバー・ナイト》
効果モンスター

星4 / 闇属性 / 悪魔族 / ATK1900 / DEF1800

このカードは特殊召喚できない。効果モンスターの効果が発動した時、フィールド上に表側表示で存在するこのカードをリリースしなければならぬ。その効果モンスターの発動と効果を無効にし、そ

のモンスターを破壊する。

「このカードの効果は説明はいりません。モンスター効果が発動したときにそのカードをリリースすることでモンスター効果を無効にし、そのカードを破壊する。ですよね？」分かっているじゃないか。」

「（分かっているてもあの効果は厄介。ただどこの手札ならそれを突破できる。）私のターン！ まずは《サイクロン》を発動。貴方の伏せカードを破壊します。更にフィールド魔法、《竜の渓谷》を発動！」

《サイクロン》

速攻魔法

フィールド上に存在する魔法・罠カードを1枚破壊する。

《竜の渓谷》

フィールド魔法

1ターンに1度、自分のメインフェイズ時に手札を1枚捨てる事で以下の効果から1つを選択して発動する事ができる。

自分のデッキからレベル4以下の「ドラグニティ」と名のついたモンスター1体を手札に加える。

自分のデッキからドラゴン族モンスター1体を墓地へ送る

最初に発動した《サイクロン》により安置のカードが破壊された。破壊されたのは《炸裂装甲》だった。

《炸裂装甲》

通常罠

相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。その攻撃モン

スター1体を破壊する。

そして私がデュエルディスクのフィールド魔法ゾーンにカードを置くと、途端に私と安置の両側を囲むように崖が出現した。

『そして《竜の渓谷》の効果を発動。1ターンに1度、手札を1枚捨てることで2つある効果の内、1つを選択し発動する。私は『自分のデッキからレベル4以下の「ドラグニティ」と名のつくモンスター1枚を手札に加える。』を選択。手札の《ドラグニティ プリムス・ピルス》を墓地に送り、デッキから《ドラグニティ ファランクス》を手札に加える。』

《ドラグニティ・プリムス・ピルス》

効果モンスター

星5 / 風属性 / 鳥獣族 / ATK 2200 / DEF 1600

このカードが召喚・特殊召喚に成功した時、自分フィールド上に表示で存在する「ドラグニティ」と名のついた

鳥獣族モンスター1体を選択して発動することができる。自分のデッキからレベル3以下の「ドラグニティ」と名のついたドラゴン族モンスター1体を装備魔法カード扱いとして、選択したモンスターに装備する。

《ドラグニティ・ファランクス》

チューナー・効果モンスター

星2 / 風属性 / ドラゴン族 / ATK 500 / DEF 1100

このカードがカードの効果によって装備カード扱いとして装備されている場合に発動する事ができる。装備されているこのカードを自分フィールド上に特殊召喚する。この効果は1ターンに1度しか使えない。

『そして、調和の宝札を発動。発動の為のコストはさつき手札に加えた。《ドラグニティ ファランクス》。私はデッキからカードを2枚ドロロー！』

《調和の宝札》
ちよつわ まつみせ

通常魔法

手札から攻撃力1000以下のドラゴン族チューナー1体を捨てて発動する。自分のデッキからカードを2枚ドロローする。

『いくわ。《ドラグニティ レギオン》を召喚。効果発動。自分の墓地に存在する《ドラグニティ ファランクス》を装備する。』

《ドラグニティ・レギオン》

効果モンスター

星3 / 風属性 / 鳥獣族 / ATK1200 / DEF800

このカードが召喚に成功した時、自分の墓地に存在するレベル3以下の「ドラグニティ」と名のついたドラゴン族モンスター1体を選択し、装備カード扱いとしてこのカードに装備する事ができる。

自分の魔法&罠カードゾーンに存在する「ドラグニティ」と名のついたカード1枚を墓地へ送る事で、相手フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を破壊する。

私の場に緑色の羽と緑色の鳥の頭のような顔を持つ人型のモンスターが現れ、効果を発動しようとしたが、

『馬鹿めが！ 《死霊騎士デスカリバー・ナイト》の効果を忘れたか。デスカリバー・ナイトをリリースすることで、モンスター効果を無効にし破壊する！』

守備の構えを取っていた《死霊騎士デスカリバー・ナイト》の馬が

突然暴れだし乗っていた骸骨騎士を落馬させ、そのまま《ドラグニティ・レギオン》に突進した。

効果を発動しようとしていたレギオンは突然のことに避ける事も出来ず馬の突進を正面から受け、馬とともに破壊された。落馬された騎士もレギオンが破壊された後に光となって消えていった。

『どうやら効果の知識だけがあるようだな。わざわざ自分からモンスター効果を発動するとは。ククク。笑えちまうぜ。』

『おおつと〜不動遊璃。効果を知っていながらもモンスター効果を発動。それにより《ドラグニティ・レギオン》が破壊されてしまったぞ〜』

『（ごめん。レギオンこんな犠牲にさせるような扱いをして。大丈夫敵はとるから。）』

いや、犠牲になる原因作ったの貴女だから・・・

『さあ、通常召喚してしまったお前にはもう手はないはずだぜ。さつさとターンエンドの発言をしるよ！ それとも何か投了^{サレンダー}でもしてデュエルを終わらすか？』

『ええ。』

『ひゃつまジかよ。たった1枚カードを破壊しただけで勝ちちゃったぜ。』

『勘違いしないで。デュエルは終わらせる・・・貴方の負けだね。』

「何！？ だがお前のモンスターは全滅。通常召喚権も使っている。このまま時間をかけるより俺にターンを渡した方がいいんじゃないか？」

「そうね。これ以上無駄な言い合いは止めましょう。魔法カード、《魂の解放》を発動。墓地に存在する、《炸裂装甲》、《死霊騎士デスカリバー・ナイト》、《ドラグニティ・プリムス・ピルス》をゲームから除外する。」

《魂の解放》
たましいかいほう

通常魔法

お互いの墓地から合計5枚までカードを選択し、そのカードをゲームから除外する。

「へっ、何をするかと思えば《死霊騎士デスカリバー・ナイト》は元々特殊召喚が出来ないし、墓地から回収することも難しい使い捨てのモンスターだ。除外されようが関係ない。」

「これを見てからそう言えるかしら？ 魔法カード、《ユニコーンの導き》を発動。私はレベル5の鳥獣族モンスター、《ドラグニティ・プリムス・ピルス》を選択。手札を1枚ゲームから除外し、選択したモンスターを攻撃表示で特殊召喚する。帰還せよ《ドラグニティ・プリムス・ピルス》！」

《ユニコーンの導き》
みちび

通常魔法

ゲームから除外されているレベル5以下の獣族または鳥獣族モンスター1体を選択して発動する。

手札を1枚ゲームから除外し、選択したモンスターを攻撃表示で特殊召喚する。

私がカード名を宣言し、手札を1枚着ている服のポケットに入れると私の目の前に小さな次元の裂け目が現れ、その中から鞭を持ち、背中に盾のような翼を持つ人型のモンスターが飛び出した。

『除外は《魂の解放》を使ったからいいとして、いつの間にそんなカードを墓地に送ったんだ？』

『あら、覚えてないの？最初に《竜の渓谷》の効果のコストとして捨てていたのを。』

- 回想 -

『《竜の渓谷》の効果を発動。1ターンに1度、手札を1枚捨てることで2つある効果の内、1つを選択し発動する。私は『自分のデッキからレベル4以下の「ドラグニティ」と名のつくモンスター1枚を手札に加える。』を選択。手札の《ドラグニティ プリムス・ピルス》を墓地に送り・・・』

- 回想終了 -

『はっ！？ あの時か。』

『思い出した？ でも今更思い出したところで、モンスターを失った貴方に勝ち目はないわ。』

『う、嘘だ。俺のライフはまだ4000残っている。そいつの攻撃力は2200、そいつの攻撃を受けても1800ライフが残る。それにお前の手札は1枚、これ以上どうやって攻撃手段を増やすんだ？ はったりかますんじゃねえ。』

『はったりじゃない。《ドラグニティ・プリムス・ピルス》のモン

スター効果発動。』

『なっ！ モンスター効果だと！ そうか《死霊騎士デスカリバー・ナイト》の効果が発動させたのもこのためか。』

『その通り。《死霊騎士デスカリバー・ナイト》、モンスターの効果の発動を無効にし破壊する。墓地や手札で発動する効果をも無効にしてしまう一見突破が難しいカード。ですが、そのカードにはたった1つ弱点がある。それは発動タイミングが選べないこと。それによって無効にしたくない効果を自身を犠牲にしてまで無効にしなければならぬ。』

『クッ』

『だから、デスカリバー・ナイト1体を出せば私の”ドラグニティ”を止められると思ったたら大間違いです。《ドラグニティ・プリムス・ピルス》の効果は召喚、特殊召喚時にデッキからレベル3以下の”ドラグニティ”と名のつくドラゴン族モンスター1体を自分のフィールド上に存在する”ドラグニティ”と名のつく鳥獣族モンスター1体に装備すること。私はこれによりデッキから《ドラグニティ・ブランディストック》をプリムス・ピルスに装備。』

《ドラグニティ・ブランディストック》

チューナー・効果モンスター

星1/風属性/ドラゴン族/ATK600/DEF400

このカードがカードの効果によって装備カード扱いとして装備されている場合、装備モンスターは1度のバトルフェイズ中に2回攻撃する事ができる。

プリムス・ピルスが鞭で1回地面を叩くと、私のデッキが光り、そ

の中から1枚のカードが飛び出した。

私はそれをデュエルディスクにセットする。

するとプリムス・ピルスの肩に水色の小さな竜が現れた。

『さあ、バトル！ 《ドラグニティ・プリムス・ピルス》でダイレクトアタック！バース・ウィップ！』

《ドラグニティ・プリムス・ピルス》は手に持った鞭で安置の背中ソリットウィジョンを打つ。立体映像だと分かっているにもかかわらず、安置もかなり痛そうにしている。

安置：LP1800

『へっ結局は2200ダメージじゃないか。俺のライフはまだ残っているぜ。さあ、とっとと俺にターンを回せ！』

『まだですよ。私のバトルフェイズはまだ終わっていませんから。《ドラグニティ・ブランディストック》がカード効果で装備されているとき、装備モンスターはもう1度攻撃できる！』

『何！？・・・や、やめる・・・立体映像でも気持ち的に物凄く痛いんだ。』

『い・や・です。』

『ヒッ！』

『《ドラグニティ・プリムス・ピルス》でダイレクトアタック！バース・ウィップ2！』

《ドラグニティ・プリムス・ピルス》は先ほど攻撃した後、手元に戻していなかった鞭を今度は横薙ぎに振った。

立体映像故に安置の体を貫通したが、安置は尻餅をついてしまった。

安置：L P O

遊璃 W I N

『きまつたあゝ。Winnerは不動遊璃いゝモンスターを破壊され一時はピンチに陥ったと思いきや、それを利用し見事にワンターンキルを行ったぞ』

『ワアー、ワアー』

『遊璃！遊璃！』

『さて・・・』

『ヒツ・・・もう嫌だ。鞭怖い。』

『私ね。アンチデツキを作ることとは否定しないわ。どんなデツキを作ろうともそれはその人の自由だから。けれどね、努力もしないでアンチデツキに走り、天津さえ暴言を吐いたりする人って・・・本当、最・低ね。』

『し、失礼しましたあー』

安置は私がそういうと控え室のある方に走り去っていった。

途中壁にぶつかっていたけれど、大丈夫だよな？

『不動遊璃、次もいいデュエルをしてくれると期待しているぞ』

私はMCの言葉を聞いたあと観客の声に後押しされながら控え室へと戻った。

・・・T o b e c o n t i n u e d

1話：プロローグとつ名の大会出場（後書き）

どうも、こんにちは。作者の戒駈です。

今回はプロローグというわけで書き始めたわけですが、実際プロローグにすらなっていないですね。

大会に出てるし、移動部分じゃなくていきなりデュエルだし。

因みに遊璃がGXの世界に突入するのは多分3話くらいになりそうです。

とりあえず今回の話はデュエル部分を書く練習……って無理ですかね？

結構構想練るのに時間かかったんですよ。

自分で《死霊騎士デスカリバー・ナイト》出すって決めたのはいいんですけど、「ドラグニティ」だとしても突破できなくて……

1800を超えるにはモンスター効果を使わなければいけませんからね。

えっ！？《ドラグニティ・ミリトゥム》に《竜操術》を使えばモンスター効果を使わずに2200を出せるって？

すみません。後書き書くまで気付きませんでした。

まあ、《ドラグニティ・ミリトゥム》は本作品でくっつとこれ以上はネタバレになるので止めておきます。

因みに安置のアンチデッキ!?は今回しっかりと機能しなかったわけですけど、《死霊騎士デスカリバー・ナイト》、《ライオウ》などの強力レベル4モンスターで「ドラグニティ」の動きを制限し、最終的には《天刑王 ブラック・ハイランダー》をシンクロ召喚するのがコンセプトです。

《天刑王 ブラック・ハイランダー》の前半の効果は永続効果なので《死霊騎士デスカリバー・ナイト》には引っかけられませんし、《ライオウ》は特殊召喚を無効にするかどうかは選択できるので問題ありません。

「ドラグニティ」はシンクロしてこそ攻撃力2800を超えるのは可能ですが、シンクロ召喚を封じた上でそれを超えるのは難しいということと組んでみました。

方法としては《ドラグニティアームズ・レヴァテイン》に何かを《竜操術》で装備するか除去カードで突破するかのどちらかだと思いますが、

前者は特殊召喚が出来なければ出しづらいですし、後者は今回は出ませんでしたが《わが身を盾に》などで防げます。

安置のデッキ解説はこの辺にしておこうと思います。

さて次回は2回戦〜準決勝までを飛ばして決勝戦です。

相手はあの・・・

それではまた次回お会いしましょう！

では〜

2話：大会の決勝の相手は元キング（前書き）

タイトル通り対戦相手は元キングです。

重要：3 / 1 3 《強化蘇生》のミスを大幅修正
フィニッシャーは変わりませんが、ルールミスをなくしました。

2話：大会の決勝の相手は元キング

side yuri

安置を倒した後、私は何人もの対戦相手を倒してきた。
全てノーダメージで。

そしてこれから決勝戦だ。
ようやく10連覇が目の前にきた。

けれども油断大敵。どんな相手にも隙は見せない。

『長かったこの大会もいよいよ大詰め！ 決勝戦の組み合わせは』
このタイミングで私は壇上に上がりはじめる。

『現在大会9連覇しかも全てがノーダメージ！ このまま彼女の優
勝となってしまうのか？不動？遊璃？！』

その言葉とともに私の両側から煙が噴射される。

それを気にせず壇上に上がりきると歓声が待っていた。

『遊璃！』

『頑張れ！』

『対するは！不動遊星の好敵手で20年前のキング！ ジャークッ、
アトラーズ！！！！』

『誰が元キングだ!』

えっ!? ジャックおじさん? というかまだ自分が元キングって自覚がないんですね。

『遊璃、9連覇中だそうだな。だがここまでだ。俺が来たからには優勝は俺のものだ。』

『デュエルしてみないと分かりませんよ。ジャックおじさん。』

『俺はまだ30代だ。断じておじさんなどではない!』 39才

『私から見たらおじさんですよ。』

『へ、減らず口をくならばデュエルで決着をつけよう。』

『元よりそのつもりです。』

『『デュエル!』』

ジャックLP: 4000 / 遊璃: LP 4000

『先攻は私が貰います。ドロー! (手札にモンスターしかない) . . . 《霞の谷のファルコン》を召喚! ターンエンド!』

《ミスト・バレー霞の谷のファルコン》

効果モンスター

星4 / 風属性 / 鳥獣族 / ATK 2000 / DEF 1200

このカードは、自分フィールド上に存在するカード1枚を手札に戻

さなければ攻撃宣言をする事ができない。

『攻撃力2000か。まずまずの数値だが、俺の前に攻撃力2000のモンスターなど何の役にもたない。俺のターン！ このカードは相手フィールド場にモンスターが存在し、自分フィールドにモンスターが存在しないとき手札から特殊召喚できる。《バイス・ドラゴン》を攻撃表示で特殊召喚！』

《バイス・ドラゴン》

効果モンスター

星5 / 闇属性 / ドラゴン族 / ATK2000 / DEF2400
相手フィールド上にモンスターが存在し、自分フィールド上にモンスターが存在しない場合、

このカードは手札から特殊召喚する事ができる。この効果で特殊召喚したこのカードの元々の攻撃力・守備力は半分になる。

紫色の形が説明しにくいドラゴンがジャックの場に現れた。

『この効果で特殊召喚した《バイス・ドラゴン》の元々の攻撃力と守備力は半分となるが、これからすることに攻撃力の増減は無意味。チューナーモンスター、《ダーク・リゾネーター》を召喚。』

《ダーク・リゾネーター》

チューナー・効果モンスター

星3 / 闇属性 / 悪魔族 / ATK1300 / DEF300

このカードは1ターンに1度だけ、戦闘では破壊されない。

《バイス・ドラゴン》の隣に白い仮面のようなものを被り、音をもった悪魔が現れた。

『遊璃、お前がモンスターを召喚してくれたおかげで後攻1ターン目から俺のエースを呼ぶことが出来る。感謝するぞ。』

『感謝されても嬉しくないです。』

『いくぞ！ レベル5《バイス・ドラゴン》にレベル3《ダーク・リゾネーター》をチューニング！』

《ダーク・リゾネーター》が3つの輪となり、《バイスドラゴン》は3つの輪をくぐり5つの星と化した。

+ || x 8

『王者の鼓動、今ここに列をなす。天地鳴動の力を見るがいい！シンクロ召喚！ 我が魂、《レッド・デーモンズ・ドラゴン》！』

《レッド・デーモンズ・ドラゴン》

シンクロ・効果モンスター

星8 / 闇属性 / ドラゴン族 / ATK3000 / DEF2000

チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

このカードが相手フィールド上に存在する守備表示モンスターを攻撃した場合、ダメージ計算後相手フィールド上に存在する守備表示モンスターを全て破壊する。

このカードが自分のエンドフェイズ時に表側表示で存在する場合、このターン攻撃宣言をしていない自分フィールド上のこのカード以外のモンスターを全て破壊する。

ジャックの場に黒と赤を多く占める割合の色をした悪魔のような龍

が現れた。

『ジャック・アトラスいきなりとばしているぞ〜！ 後攻1ターン目から《レッド・デーモンズ・ドラゴン》を召喚した〜！』

『（いきなりレッド・デーモンズですか。）』

『いくぞ。《レッド・デーモンズ・ドラゴン》で《霞の谷のファルコン》を攻撃！ アブソリュート・パワーフォース！』

《レッド・デーモンズ・ドラゴン》の右手に炎が発生しそれを《霞の谷のファルコン》に向かって突き出した。攻撃力の差が1000もある《霞の谷のファルコン》は対抗できるはずもなく破壊された。

『きゃあっ〜！』

遊璃：LP3000

『通つた〜そして不動遊璃のライフも削られたぞ〜』

『フン、貴様がこの程度でくたばる筈がないことは分かっている。かかって来い！ カードを2枚伏せてターンエンド！』

『私のターン！（来た！）・・・《調和の宝札》を発動。これにより《ドラグニティ・フランクス》を捨て、2枚のカードをドロ〜！』

『好きにしる！（遊璃にドローカードを使わせるのは危険だが、今の俺には止められない。）』

☐ 《ドラグニティ・ドウクス》を召喚！ 効果により《ドラグニティ・ファランクス》を選択。☐

《ドラグニティ・ドウクス》

効果モンスター

星4 / 風属性 / 鳥獣族 / ATK1500 / DEF1000

このカードの攻撃力は、自分フィールド上に表側表示で存在する「ドラグニティ」と名のついたカードの数×200ポイントアップする。

このカードが召喚に成功した時、自分の墓地に存在するレベル3以下の「ドラグニティ」と名のついたドラゴン族モンスター1体を選択し、装備カード扱いとしてこのカードに装備する事ができる。

白い翼を持ち、指揮棒のような棒を持った人型のモンスターが遊璃の場に現れ、その指揮棒を振った。

すると、遊璃の墓地が光り《ドラグニティ・ファランクス》が出てきた。

私はそれをドウクスと同じ列にセットした。

それと同時にドウクスの後ろに金色の鎧を纏った青い小さな龍が現れた。

☐ 《ドラグニティ・ファランクス》のモンスター効果を発動。1ターンに1度カード効果で装備カード扱いで装備されたこのカードを特殊召喚することが出来る。出て、ファランクス。☐

《ドラグニティ・ファランクス》は《ドラグニティ・ドウクス》の影から出てドウクスの横に並んだ。

『いくわよ。レベル4《ドラグニティ・ドウクス》にレベル2《ドラグニティ・ファランクス》をチューニング!』

《レッド・デーモンズ・ドラゴン》の時と同じようにチューナーモンスターは輪になり、

それ以外のモンスターが透明となり星と化す。

+ || x 6

『秘境の竜騎士が魔槍の名を携え戦場を駆ける!戦場を鎮める風となれ!シンクロ召喚!推参!《ドラグニティナイト・ゲイボルグ》』

《ドラグニティナイト・ゲイボルグ》

シンクロ・効果モンスター

星6 / 風属性 / ドラゴン族 / ATK2000 / DEF1100

ドラゴン族チューナー+チューナー以外の鳥獣族モンスター1体以上

このカードが戦闘を行うダメージステップ時に1度だけ、自分の墓地に存在する鳥獣族モンスター1体をゲームから除外して発動する事ができる。

このカードの攻撃力はエンドフェイズ時まで、ゲームから除外したそのモンスターの攻撃力分アップする。

ドウクスとファランクスが交わった後にフィールドが光だした。

暫くすると、フィールドに光りが収まり遊璃の場に色の变化した《ドラグニティ・ドウクス》だと思われる騎士が乗っている白い竜が現れ、デュエルフィールドに風が巻き起こった。

『ゲイボルグか。序盤ではヴァジュランダかガジャルグじゃないの

か？」

『確かに序盤ならそうですね。ですが、《レッド・デーモンズ・ドラゴン》を安全に倒すには《ドラグニティナイト・ゲイボルグ》が最適ですから。』

『なるほどな。』

『では遠慮なくバト』そうはさせん！ リバースカード、《スクリーン・オブ・レッド》をメインフェイズ1の終了時に発動する。』
なっ！？」

『おおつと』《スクリーン・オブ・レッド》の効果で不動遊璃は攻撃できない。』

《スクリーン・オブ・レッド》

永続罫

このカードがフィールド上に存在する限り、相手モンスターは攻撃宣言をする事ができない。このカードのコントローラーは自分のエンドフェイズ時に1000ライフポイントを払う。この時に1000ライフポイントを払えない場合はこのカードを破壊する。

フィールド上に「レッド・デーモンズ・ドラゴン」が表側表示で存在する場合、このカードを破壊し、自分の墓地に存在するレベル1のチューナー1体を選択して特殊召喚する事ができる。

『お前の《ドラグニティナイト・ゲイボルグ》は戦闘を行ってこそ真価を発揮するモンスター。ならば攻撃自体をさせなければいい。』

『クツ・・・バトルフェイズを終了し、メインフェイズ2に入ります。そして《スタンピング・クラッシュ》を発動！ これにより、

《スクリーン・オブ・レッド》を破壊！』

《スタンピング・クラッシュ》
通常魔法

自分フィールド上にドラゴン族モンスターが表側表示で存在する場合のみ発動する事ができる。

フィールド上に存在する魔法・罠カード1枚を選択して破壊し、そのコントローラーに500ポイントダメージを与える。

『ぬう〜』

ジャック：LP3500

『ターン終了。（墓地には《霞の谷のファルコン》、《ドラグニティ・ドウクス》がいる。《ドラグニティナイト・ゲイボルグ》に攻撃されても攻撃力4000までなら相打ちに出来る。あいにく手札がモンスターしかないからカードを伏せることは出来ないけれど、元々ジャックおじさんのデッキには魔法カードが少ない。だから《ドラグニティナイト・ゲイボルグ》がカード効果で破壊されることはまずないはず。』

『俺のターン。フツ。遊璃、残念だがここまでだ。このデュエル俺の勝ちだ。』

『えっ。私の場には攻撃力が最大4000までアップできる《ドラグニティナイト・ゲイボルグ》がいる。ジャックおじさんのデッキに除去魔法はない。だから《レッド・デーモンズ・ドラゴン》では私のモンスターは倒せない。』

『ならば除去手段を作ればいいことだ。魔法カード、《コール・リ

『ゾネーター』を発動！ その効果によりレベル1の《バリア・リゾネーター》を手札に加える。』

《コール・リゾネーター》

通常魔法

自分のデッキから「リゾネーター」と名のついたモンスター1体を手札に加える。

《バリア・リゾネーター》

チューナー・効果モンスター

星1 / 光属性 / 悪魔族 / ATK300 / DEF800

このカードを手札から墓地へ送り、自分フィールド上に表側表示で存在するチューナー1体を選択して発動する。選択したモンスターはこのターン戦闘では破壊されず、選択したモンスターの戦闘によって発生する自分への戦闘ダメージは0になる。この効果は相手ターンでも発動する事ができる。

『レベル1・・・まさか、墓地にいるレベル3の《ダーク・リゾネーター》を蘇生するか手札の《クリエイト・リゾネーター》を使って《スカーレット・ノヴァ・ドラゴン》のパワーで押し切る気ですか！？』

《クリエイト・リゾネーター》

チューナー・効果モンスター

星3 / 風属性 / 悪魔族 / ATK800 / DEF600

自分フィールド上にレベル8以上のシンクロモンスターが表側表示で存在する場合、このカードは手札から特殊召喚する事ができる。

《スカーレット・ノヴァ・ドラゴン》

シンクロ・効果モンスター

星12 / 闇属性 / ドラゴン族 / ATK 3500 / DEF 3000
チューナー2体 + 「レッド・デーモンズ・ドラゴン」

このカードの攻撃力は自分の墓地に存在するチューナーの数×50
0ポイントアップする。

このカードは相手の魔法・罫・効果モンスターの効果では破壊され
ない。

また、相手モンスターの攻撃宣言時、このカードをゲームから除外
し、相手モンスター1体の攻撃を無効にする事ができる。エンドフ
ェイズ時、この効果で除外したこのカードを特殊召喚する。

「・・・その通りだ！ 手札から《紅蓮魔竜の壺》を発動！ これ
によりカードを2枚ドロロー！」

《紅蓮魔竜の壺》いづれんまじゅう

通常魔法（アニメ効果）

自分フィールド上に「レッド・デーモンズ・ドラゴン」が表側表示
で存在する場合のみ発動する事ができる。

自分のデッキからカードを2枚ドロローする。

「そして《クリエイト・リゾネーター》を特殊召喚し、《バリア・
リゾネーター》を召喚！」

《レッド・デーモンズ・ドラゴン》の両隣に背に電灯のようなもの
を背負い、音さを持つ白い仮面の悪魔と背に扇風機のようなものを
背負い同じく音さを持つ白い仮面の悪魔が現れた。

『クッ』

『いくぞ！レベル8の《レッド・デーモンズ・ドラゴン》にレベル
1の《バリア・リゾネーター》とレベル3の《クリエイト・リゾネ

「ター」をダブルチューニングー！」

2体のリゾネーターは同時に音さを鳴らし、通常とは違う炎の輪と化す。

その中に《レッド・デーモンズ・ドラゴン》は飛び込んだ。

+ + || x 1 2

『王者と悪魔、今ここに交わる。荒ぶる魂よ、天地創造の叫びをあげよ。』

ジャックおじさんの手に炎が纏わり付き、口上が終わると同時に手にカードが浮かび上がった。

『シンクロ召喚！いでよ、《スカーレット・ノヴァ・ドラゴン》！』

そしてジャックおじさんの場に赤い外甲殻のようなものに紺の体を持つ悪魔竜が光臨した。

『（まずい・・・）』

『《スカーレット・ノヴァ・ドラゴン》の攻撃力は自分の墓地のチューナー1体に付き500ポイントアップする。俺の墓地には《ダーク・リゾネーター》と《クリエイト・リゾネーター》と《バリア・リゾネーター》がいる。よって《スカーレット・ノヴァ・ドラゴン》の攻撃力は1500ポイントアップー！』

『こ、攻撃力5000っー！』

『《スカーレット・ノヴァ・ドラゴン》で《ドラグニティナイト・

ゲイボルグ』を攻撃！バーニング・ソウル！』

《スカーレット・ノヴァ・ドラゴン》が体を炎に包み、体当たり攻撃を仕掛ける。

『倒せなくても、ダメージは軽減する。墓地の《霞の谷のファルコン》を除外し、《ドラグニティナイト・ゲイボルグ》のモンスター効果を発動！エンドフェイズまで攻撃力を2000ポイントアップする！』

『攻撃力4000。だが俺の《スカーレット・ノヴァ・ドラゴン》の攻撃力5000には及ばん！ 行け！《スカーレット・ノヴァ・ドラゴン》！』

《ドラグニティナイト・ゲイボルグ》は《スカーレット・ノヴァ・ドラゴン》の体当たりを槍を盾代わりに防ごうとするが、如何せん体の質量が違いすぎ、押しつぶされた。

『いやっ……』

遊璃：LP2000

『まだまだ！まだ俺のバトルフェイズは続いている！』

『えっ！？』

『俺は伏せてあった罫^{トラップ}《バーニング・リボーン》を《スカーレット・ノヴァ・ドラゴン》をリリースして発動！』

『なっ！？』

《バーニング・リボーン》
アニメオリジナル
通常罫

自分のフィールド上に表側表示で存在するレベル8以上のシンクロモンスターをリリースして発動する。

自分の墓地に存在する「レッド・デーモンズ・ドラゴン」1体を攻撃表示で特殊召喚し、このカードを装備する。

このカードがフィールド上から離れたとき、装備モンスターを破壊する。装備モンスターが破壊されたとき、このカードを破壊する。

このカードを装備した「レッド・デーモンズ・ドラゴン」と手札のチューナーモンスター1体とこのカードを墓地に送って発動することができる。墓地に存在する「スカーレット・ノヴァ・ドラゴン」1体を特殊召喚する。

この効果はバトルフェイズにも発動することが出来る。

『来い！《レッド・デーモンズ・ドラゴン》！！！』

ジャックおじさんの場の《スカーレット・ノヴァ・ドラゴン》が紅蓮の炎に飲まれ、《レッド・デーモンズ・ドラゴン》が現れる。

『これで終わりだ！《レッド・デーモンズ・ドラゴン》でダイレクタアタック！灼熱のクリムゾン・ヘルフレア』

《レッド・デーモンズ・ドラゴン》が口から大きな紅い炎を作り出し、私へと放つ。

遊璃には手札で効果の発動するモンスターも、伏せカードもなかった。なのでこれを防ぐ術はなかった。

『ぎゃああ〜』

遊璃：LPO

ジャック：WIN

『き、きまつた〜Winnerジャック・アトラス！ 不動遊璃のを圧倒的パワーで大会10連覇を防いだあ〜』

『ふん、当然の結果だ。・・・遊璃、お前油断していたらろつ。』

『いや、していない・・・はず。』

『いいや。10連覇を前に気が緩んでいた。いつものお前ならば《スタンピング・クラッシュ》で俺のリバースカードを破壊し、《スクリーン・オブ・レッド》のデメリット効果で俺のライフを減らすはずだ。つまり、気が緩んでいたために状況を把握しきれていなかったことだ。』

『・・・そうですか。あんなに油断大敵って思っていたのに、いざとなってみるとミスとかが目立ちますね。だからデッキも答ええてくれなかった。』

『そうだ。10連覇に浮かれ、油断したからこそ今回の敗北があったのだ。そのことを良く考えるよ。』

『分かった。よく考えてみる』

『答えが出たら聞こう。いつでも相手になるぞ』

『いつでもって・・・だからニート元キングって言われるんだよ』

ボソ

『何か言ったか？』

『いや。何も』

『フン。』

こうして私の大会10連覇は消えてしまった。
けれど後悔はしていない。だってもう絶対油断なんかしないって教訓を得たから。

でも、ジャックおじさんに答えを聞かせることが出来なくなるなんてこのときの私は思わなかった。

・・・To be continued

2話：大会の決勝の相手は元キング（後書き）

こんばんは。

プロローグに続き1話も投稿しちやいます。

今回の対戦相手はニートキング（ジャックファンの方ごめんなさい）
ことジャック・アトラスです。

今回のジャックのデッキはアニメでジャックが使ったカードの中で
使いやすいものだけを厳選して使わせました。

因みに遊璃が《スクリーン・オブ・レッド》を破壊したのは本編で
は油断が原因だと書いていますが、実際は作者の都合です。

（元の文は修正に伴い削除）

今回のデュエル構成は先ほどよりも早くに出来ました。

1回とはいえ慣れたのでしょうか？

はたまた内容が短すぎるだけか。

これからの課題ですね。

次回は最後の方の文で書いたとおり遊璃がネオドミノシティから消
えます。

亀更新なのでいつになるか分かりませんが宜しくお願いしますね。

ではではまた次回。

3話…トリップは神を使うか、機械の暴走を使うか迷う(前書き)

今回デュエルなしです。

日常パートは苦手なのでうまく書けるか心配。ではとじり。

3話…トリップは神を使うか、機械の暴走を使うか迷う

side aki

『き、きまつた〜Winnerジャック・アトラーズ!』

プツン

私は遊璃の参加していた大会の決勝の結果を見てからPCの電源を落とした。

遊璃、優勝は無理だったみたいね。

まあ相手がジャックじゃ仕方ないわね。

あのパワーデッキに勝つにはクロウみたいな並外れた展開力とか、遊星みたいな豊富な戦略を実現できるデッキを使って翻弄するしかないものね。

パワーでジャックに勝とうとするなんてはつきり言って無謀よ。

それでこそ過去のプロデュエリストのヘルカイザー亮あたりでないとパワー勝負は無理ね。

私は・・・どうかしら？

ジャックが攻め渋って受けに回ってくればいくらでもやりようはあるけど、《レッド・デーモンズ・ドラゴン》を先に出されたらモンスター単体での破壊は不可能に近いし、《スカーレット・ノヴァ・ドラゴン》は・・・無理ね。絶対。私、クロウみたいに除外関連のカードをデッキに入れてないから。

つと、早く夕食の準備をしないと。遊璃が帰ってきちゃっわ。

side out

side yuri

負けちゃった。油断して全力を出せず負けたのに何だか清々しいな。きつと新しい教訓を得たからね。今日のことママにも話してあげよう。

ジャックおじさんは私の9連覇を止めたからか取材に追われている。満更でもない様子だったけれど、早く帰らないと渚さんに叱られるよ？

つと、家に入るときはなるべく笑顔で・・・

『ただいま』

『遊璃、おかえり〜』

『ママ、今日のデュエルね・・・』

私は今日の大会についてママに話した。

『そうなの？ ジャックが大会に出るなんて本当に久しぶりね。彼が出るときつて遊星が大会に出るときだけだったし。』

『そっなんだ〜』

『ええ。だから大会でジャックと戦えるなんて滅多にないことだから戦えてよかったわね。』

『うん。でもジャックおじさんっていつでもデュエルできるよね。ずっと家にいるし。』

『遊璃。それは言いたくても言っではいけない事よ。』

ママ、笑っていつているけれどなんか怖いです。

『さあ、大会の話はここまでにして夕食食べましょう！』

『うん、いただきます。』

・
・
・
・

- 不動態・遊璃の寝室 -

はあ、今日は色々あったわね。

大会に出てアンチデックス使いと戦ったり、ジャックおじさんともデュエルした。

優勝は出来なかったけれど充実してたなあ。

今度の大会にもジャックおじさん出るのかな？

今度あったら聞いてみよう。

さて、明日は何をしようかな。アカデミアは休みだからアカデミア

に行くわけに行かないものね。

そうだ！ パパの研究所に行こう。きっと凄い研究をしているんだろっなあ・・・

そうと決まれば早く寝なきや！ おやすみっ！

・・・

・・・

・・・

・

・ 不動家・リビング

『ママ、おはよう。』

『ふあゝ・・・遊璃おはよう。今日は早いのね。』

『うん、パパのところに行こうと思ってね。』

『そう、気をつけてね。』

『分かった。行ってきます。』

『いってらっしゃい。』

私は朝に弱いママに挨拶をして家を出て、パパのいる旧モーメント地区へと向かった。

・・・

・・・

・
・

side yusei

『博士！ 実験は成功です。』

『そうか。ついにやったな。』

『ええ。これでイリアステルやパラドックスのような歴史への介入者が減りますね。』

『そう、使えればいいのだが。』

『博士が弱気になってどうするのです。この研究を行うと表明したのは不動博士じゃないですか。』

『フツ・・・そうだったな。それでこの「タイム・シンクロン」はどこに繋がっている？』

『少々お待ちください・・・分かりました。20×年、伝説のデュエリスト・遊城十代がデュエルアカデミアに入学する年です。』

『何！ 十代さんが・・・なるほど。分かった。引き続き異常が出ないように監視を頼む。』

『分かりました。』

俺は研究員にそういい残し、休憩室に入った。

タイム・シンクロン、俺がここ10年以上に渡って研究している装置だ。

未来から歴史に介入・つまりは歴史を改竄しようとする者が現れたときにそれを察知し、それと同時にこちらから時間制限付きで人をその時代に送ることが出来る。

これが成功すれば研究員も言ったようなパラドックス達のような未来からの来訪者の対抗策ともなりうる。

しかし、ここまでたどり着くのは容易ではなかった。

最初・つまり15年前、俺はパラドックスのような未来の人物が来たときの人類への被害や、歴史への改竄を食い止める方法はないのかと思っていた。

俺の場合は赤き竜の力を使えば過去に飛ぶことも出来る。実際にパラドックスが遊戯さんの時代に現れたときは赤き竜の力で時代を超えた。

しかし、赤き竜に毎回頼るわけにはいかないし、俺が死んでしまった後はどうなる？

止めに入るものはいない。そうしたら俺達の生きてきた過去はどうなってしまう。そう思った。

そして5年の研究の末、1つの結論に達した。

その頃から俺はその結論を実証するために家を離れ、ここに来た。アキや遊璃には悪いと思うが、”未来のため”と自分に言い聞かせ今まで過ごしてきた。

ここに来てから俺の理論を実験したところ、それは正しい事がわかった。俺の理論と、親父のモーメントの太陽ギアに使われる遊星粒子の応用だ。それを用いてD・ホイールでアクセルシンクロを行う速度で走行すれば、時間制限があるが時を越えられると。

実際、遊星粒子を改良したD・ホイールで研究員が走った結果、一瞬だが過去の世界に行けたらしい。

そこからは過去にいけるのにスピードを使わないことを目標とした。その結果つい先ほど扉から入るくらいの動作でも過去へといける結果を出した。

時間も3年となかなかの数値を出せた。実際に過去に人を送ったわけではないのだが、

どいうわけだけか過去と現在で時間の流れが違うのだ。よって特別な時間観測機をD・ホイールに付け、オートパイロットシステムを使って過去に飛ばし、その時間を計った。

研究の過程について思いふけていたら1時間以上経っていた。流石にこれ以上はまずいので俺は実験室に戻った。

side out

side yuri

ここね。パパのいる研究所って。

私は2時間近くかけ、パパのいる旧モーメント地区に来た。

ここにくるのは何年ぶりだろうか。

記憶があるのはアカデミア中等部入学のときにママと来たつきりだ。パパは忙しくて会えなかったけれども。だから1人で来るのは初めてだ。

私は意を決して研究所に足を踏み入れた。そして中の研究員に話しかける。

『あの、パパーいや、不動遊星博士はいらっしゃいますか？』

『不動博士？ ちょっと待ってくれ。・・・博士、来訪者です。お時間は空いていますか？ そうですか。分かりました。・・・研究が一段落して会えるそうだ。ついて来なさい。』

『はい。』

・

・

・

・

『ここだ』

電子プレートには「実験室」と表示されている。

『ありがとうございます』

『どういたしまして。博士の娘でもあまり長い時間は駄目だよ。』

『分かってますよ。』

私は研究員にお礼を言って実験室に入り開口一番こういった。

『パパッー』

その瞬間、私は光に飲まれた。

side out

s i d e y u s e i

『博士、来訪者です。お時間は空いていますか？』

俺の通信機にいきなり無線が入ってきた。

『研究が一段落したところだから大丈夫だ。』

『そうですね。分かりました。』

その言葉の後無線は切れた。

きつと来訪者を連れてくるのだらう。

『は、博士ー』

『どうした？』

『じつは急にタイム・シンクロンが暴走を始めました。』

『何！ とりあえず君達は非難しろ！』

『し、しかし・・・』

『俺にはタイム・シンクロンを止める義務がある。それに親父のゼ
ロ・リバーズのように皆を巻き込みたくないんだ。』

『分かりました。』

了承の返事を受けた後実験室にいた研究員は脱出ポッドのある非常口へと向かった。

全員がいなくなることを確認すると、俺は緊急停止プログラムを起動させるべく緊急停止ボタンのロックの解除にあたった。

そして・・・

『よし、緊急停止プログラムさだ『パパーー！』ッ！』

ピカーン！！

『キヤアアア』

俺は光の中で相手が誰だか視認出来なかったが、俺には誰が巻き込まれたのかわかった。

『ゆ、遊璃ー！！』

俺は緊急停止ボタンを押すことが出来ず、娘 - 遊璃が過去に飛ばされるのを見ているしかなかった。

・・・T o b e c o n t i n u e d

3話・トリップは神を使うか、機械の暴走を使うか迷う（後書き）

PV3000越えました。

皆さん見てくださってありがとうございます。

因みに前のサイトの閲覧数を既に越えました。

まさかの閲覧数に開いた口が塞がりません。

さて、第3部ということなんですけどいかがでしたでしょうか？

途中滅茶苦茶な説明を入れましたけど、遊璃を過去に飛ばしました。

次はどうなるのか。お楽しみに

デュエルないのであとがきも短めです。

ではでは

4話・過去に飛ばしたのはいいけど・・・(前書き)

PV5000って 公開してまだ1日しか経ってないのですが・・・
とりあえず当面の目標はPV100000ですね。

さて今回の内容は遊璃が過去の世界でどうなるのかです。
デュエル導入部分です。
どうぞ！

2011/07/01 文章増量 但し書き方は元のままに付け加
えました。

4話・過去に飛ばしたのはいいけど・・・

side yusei

「タイム・シンクロン」から発せられていた光が収まった。
俺はすぐに眼を開け現状把握をさせた。

「タイム・シンクロン」の稼動を一時停止し、PCを使って利用履歴を見る

そこにはこう記されていた。

20×年 6月20日 フドウ ユウリ 20×年 6月20日
ニテンソウ キカン マデノ ジカンハ フメイ

俺はこれを見た瞬間に思わず机を殴ってしまった。

「クソッ…実験は成功したとはいえ、今の状態では生体実験をしていない。俺は自分の手で遊璃を、遊璃を……ああああああ……」

俺はかつてルドガーとのデュエル中に流した以来の涙を流した。

その時、涙が通信機に触れたためかノイズが走った。

「……ん？………そうか！………遊璃の姿が見れなくても、まだ希望は………ある！」

俺はひとつの考えにいたると暴走する危険を無視して、「タイム・シンクロン」を起動した。

俺の気持ちを汲み取ったためかは分からないが、「タイム・シンクロン」は問題なく起動してくれた。

『早くしなければ…今度暴走すれば遊璃は二度と助からないかもしれない。』

『タイム・シンクロン』の転送先を遊璃の転送された時代に合わせ
て…っと

よし！ 成功だ！ このまま最後までうまくいけよ！

s i d e o u t

s i d e y u r i

ん、ここは…？

私、パパの研究所にいた…わよね？ どうして外にいるのかしら？
ん？何だろう。PDAに通信が入っている。

『はい、遊璃ですが、「遊」か？ 今…にい…？』誰？』

『…だ。…星だ。』

この声って！

『パパ？』

『あ・事・で・よ・か・。遊・璃・間・が・い・今・ど・に・い・る・か・教・
くれ』

時間がない。今何処にいるか教えてくれ？かな

『今、大きなビルの前にいるよ。KCって書いてあるから海馬コー
ポレーションかな。』

『K・んだ。も・一・つ・て・。』

も・一・つ・て・言・つ・た・ら・も・う・一・度・よ・ね。

私の方も聞きづらいのだから、パパのほうも聞こえにくいのだろう。

『KC。海馬コーポレーション。』

『・・・た。』

何とか伝わったみたい。

『遊・、ど・う・ら・。の・。だ。最・に・ル・送・。から・
れをみて・・・あ・を・し・。ピー』

最後の言葉聞き取れなかったわ。

私が途方にくれているとPDAにメールが着信した。

メールに添付ファイルが付いているけれど、まずは文よね。見てみると文面が途中で切れている。

遊璃

すまない。俺の実験に巻き込んでしまって。これが届いているかわからないが、書いておくぞ。

驚かずに事態を收拾して欲しい。俺の研究について書いている暇はないから省略するが、

今お前のいる世界は20x年だ。そして残念ながらお前を元の時代に戻す事は今の俺には出来ない。

だからと言って希望が0な訳でもない。その時代にも有名な次元学者ツバインシュタイン博士がいるはずだ。世界中を放浪しているために会う事は難しいだろう。だがその年で2年〜3年後に博士はデュエルアカデミアに行ったという記録がある。それまでは海馬コーポレーションで過ごすといい。そして彼と協力して俺達の時代との通信回線を作り上げて欲しい。俺も何とか過去への連絡手段を模索してみる。最後に遊璃、添・・・

と、とりあえず、状況を整理しようか。

まず私はパパの実験に巻き込まれた。その結果過去の世界に飛ばされてしまった。パパが私をこの時代に送ってしまった方法で帰すことは出来ないらしい。次元学者のツバインシュタイン博士に相談すれば突破口が開かれるかもしれない。ツバインシュタイン博士に会うには2〜3年かかる。それまでの間縁もない時代の海馬コーポレーションにいたほうがいい。

こんな感じかな。

自分でも驚くくらい冷静に整理しているけれど、内心落ち着いて入られない。

まずは寝床と食料の確保よね。目の前に海馬コーポレーション、横に海馬ランド、そして私の電子マネーはこの時代ではほぼ使い物にならない。

となると私はもう一か八か海馬コーポレーションで匿って…違うわね。お世話になるしかないって事？

え〜。確か20 x年の海馬コーポレーションの社長っていったら…

伝説のデュエリスト 海馬 瀬人 だ。

『終わった。何もかも。海馬瀬人社長に未来から来たなんて言えるわけない。もし聞かれていたらどんな事を言われるか〜…でもここで渋っていたら何も始まらない。当たって砕ける！ よ ……あ、その前に添付されていたデータって……』

私は意を決し、海馬コーポレーションに入る前にパパのメールに添付されていたものがあることを思い出し、開いてみる。

すると中には…

『うわあ……私のデッキに入っているこの時代にあるはずのないカードのデータ!!』

そっか。パパは私がすぐに帰れないことを考慮して、シンクロモンスターを送ってくれたのね。

あとはこれをこの時代のカードデータに組み込めば大丈夫ね。

丁度海馬コーポレーションも目の前にあるし。

じゃあ行きましょうか。

私は今度こそ意を決し、海馬コーポレーションへと入っていった。

『ようこそ。海馬コーポレーションへ。本日はどのような用件でしょうか?』

『あ、あの海馬社長と面会したいのですけれど。』

『アポは取っていますか?』

『いえ、取ってないです』

アポなんて取る暇なんかないじゃない。さっきこの時代に来たんだもの。

『それでは面会をさせるわけにはいきませんね。』

『そ、そんな! そこをどうにか』

『申し訳ございませんが、社長に面会をさせるわけには行きません』

『お願いします。このままでは私（この時代で寝所、食べ物がないから）生きていけないんです。』

『え、ええと（この子、きつと重い病気なんだわ。助けてあげたいでも私の権限でお金を出すことは出来ないし…んう〜）』 『何をしている！』 ハッ！瀬人さま！』

『貴方が海馬瀬人さんですか？』

私が突然の怒声に振り返るとそこには栗色の髪に白銀のコートを来た青年がいた。

『そつだ。で階下でうるさくしていたのは貴様らか？』

『ヒイツ！！ も、申し訳ありません。こ、こちらの方がどうしても瀬人さまと会いたいと言うものですから…』

受付のお姉さんさりげなく私に責任をなすりつけたよ…

『ほう、貴様が原因か。俺の仕事を邪魔したんだ。その堂々と邪魔をするという勇氣は褒めてやろう。』

『別に褒められても嬉しくくないですよ。それよりも少し私の話を聞いてくれませんか？』

『フウン。面白い。いいだろう。ついて来い！』

『え、えっと瀬人さまよろしいのですか？』

『俺がいいといっているのだ。それでは不満か？』

『い、いいえ』

『フン、さて何をぼやぼやしているいくぞ！』

『はいっ！』

私は教科書などでしか見たことがない海馬瀬人に続いて社長室へに入った。

海馬瀬人（一々入力が面倒なので以下海馬さん）は社長室にある椅子に座るなりして話しかけてきた。

『で、小娘。俺に何のようだ。くだらない内容だったら…分かって
いるよな？』

『はい。今日お会いしたかった理由はですね・・・』

私は自分が過去に来てしまった事。帰るためには短くて3年間ここに滞在しなければならぬこと等を話した。

社長は話を最後まで聞いてくれたが、話し終わると机を叩いてこう言った。

『ふざけるな。この俺に未来から来たなどという非科学的なことを言つとは俺を嘗めているのか！ 嘘をつくならもつとまじな嘘をつけー！』

だから私はこう言った。

『本当に未来人なんですよ。嘘なんて一つもついていませんし、第一、私は生まれてこの方嘘をついたことはありませんし、なんで伝説のデュエリストもあるうお方に嘘を言わなければならないのですか？ 私としては未来では既になくなっていく伝説の方が目の前にいて、話せるだけでも最高の名誉なのに…etc』

『分かった。分かった。お前が未来から来たことは信じよう！だが俺は貴様の面倒を見るつもりはない！』

『そこをなんとか。デュエルアカデミアの入学まででいいですから。』

『ほう。アカデミアを受験するのか。面白い。最近アカデミアのレベルが下がってきてどうするか考えていたのだ。』

『それならば尚の事、私を世話したほうがいいですよ。これでも未来のデュエル大会で優勝したことがあるんですから。』

私は社長が少し乗り気になったのを見計らって自分を売り込む。

自慢は嫌いだけれど命がかかっているんだ。出し惜しみは出来ない。

『フウン、この俺にそこまで言うか。いいだろう貴様もデュエリストなら実力は言葉ではなくカードで語れ！』

『望むところです。』

『賭けは簡単。俺が勝てばお前はここから去り、2度と俺の前に現れないこと。貴様が勝てば俺はお前がデュエルアカデミアに入学するまで生活面での保障をすること。それでいいな!』

『はい!』

『なら、着いてこい! デュエルリングはこっちだ。』

『……あの、』

あ、1つ忘れていた。

この時代じゃ私シンクロ召喚使えないじゃん……

『どうした?』

『あの、私のデッキはちょっと特殊なもので少しカード情報を付け加えたいのですが宜しいでしょうか?』

『……それがないと全力が出せないのか?』

『まあ、……はい。』

『チツ……余り社外の者にデュエルリングサーバーを見せるわけにはいかんからな……磯野!』

その言葉と共に磯野さん? が出てくる。
というかいつの間にかいた。

『瀬人様、お呼びでしょうか?』

『こいつのデツキ情報をデュエルリングサーバーに読み取らせる。なんでも未知のカードを使っらしいのでな。』

海馬社長は私を指さして磯野さんに命令する。

『畏まりました。』

対して磯野さんもそれに一礼して返し、私の方へとくる。でも別にそこまで行く必要はないんだけれどね。

『あの、別にそこまでしてもらわなくても、データとして持っていますのでそれを読み込んでいただければ大丈夫かと』

『何！？ カードデータを持っているだとお！！……ふうん、まあいい。それを磯野に渡せ。デュエルは、デュエルリングサーバーの調整時間も含めて2日後にする。その間は……海馬ランドのホテルにでも泊まってる！ これを持っていけば泊まれる。』

私が磯野さんにメモリースティックを貰い、その中にカードデータの入ったファイルを入れる間に、海馬社長は私に封筒のような物を渡してくる。

『あ、ありがとうございます』

私は封がされていた為に見ることはしなかったが、それを渡してくれたことにお礼を言った。

そして、データのコピー青割ったのを見計らい、磯野さんはそれを手に社長室を出ていく。

『では2日後、楽しみにしているぞ。』

精々足掻くのだな。

フフ

フフフ……ハッハハハハハハ！』

……To be continued

4話：過去に飛ばしたのはいいけど・・・（後書き）

まず、過去に移動後の生活手段を忘れていました。

神や転生を使った小説であれば家orアパートがあったり、入学試験当日に飛ばされたりするのですが、遊璃は時期が本当に悪かった。

デュエルアカデミアの入学式が9月なので試験は筆記も考えれば大体7月下旬。

だからそれよりも一ヶ月前に飛ばしてどうにか筆記も受けさせようとしたのですが、移動後の生活手段について失念していて海馬にお世話になるという、あまり褒められたものじゃない状況にしてみました。

一般人がいきなり大企業の社長と話せるなんてまず無理ですからね。急に変な設定を入れてしまいすみませんでした。

今回はVS海馬戦です。口調がうまく出来るか分かりませんが宜しくお願いします。

5話・青眼の咆哮と新たな竜騎士（前書き）

VS海馬となります。

今回もジャックのようにアニメやマンガ、ゲームで使っていたカードの中から海馬にとって使いやすいカードを厳選して書きます。（使っていないカードも少し含むかもしれませんが）

一進一退に出来たらいいんですけどね・・・

2011/07/01 4話の文章増量に伴い、一部に文章の補足を加えました。

5話・青眼の咆哮と新たな竜騎士

side seto

俺はあの小娘―不動遊璃に賭けを持ちかけデュエルすることになった。

だが、彼女のデッキは未来のカードが多いと言い、デュエルに支障があるという。

運よく彼女自身がカードデータを持っていた為に特別に読み込ませた。

特に変なファイルは交じっていない、寧ろ処理速度が速まった。

その点についても俺は彼女にデュエルの後に聞こうと思っている。

さて、今俺たちが向かい合っているのは、デュエル場。

かつて俺が《オベリスクの巨神兵》の実験を行った場所だ。

そして自身のデッキをシャッフルした後に互いにデッキをシャッフルする為に中央へと歩いたが、

彼女は微動だにしていなかった。

怖気づいたのかと思えば、彼女のデッキはデュエルディスクが勝手にデッキをシャッフルし始めたのだ。

……こんな機能、俺はつけた覚えがない。

またこいつが未来から来たことを信じなければいけない要因が増えたようだ。

己・・・

まあ、いいだろう。俺が勝ってから追い出す前にデュエルディスクを解析させればいいことだ。

彼女も数日分の生活費を渡せば納得するだろう。

さて、彼女は相手のデッキをシャッフルするという事は知らなかったらしく、俺もデッキのシャッフルは自身でするものだけに留め、デュエルディスクにデッキをセットした。

さあ、未来から来たというならばその実力、見せてもらおうか！

いくぞ！

『デュエル！』

side out

side yuri

『デュエル！』

私はカードを5枚デッキから引く。

そういえばデュエル前に社長が中央まで歩いて、私のデュエルディスクを見て驚いていたけれど何だったのだろう？

気になるけれど今は生活費のため、勝つことが先決だ。

『先攻はどうします？』

『フツ！ 好きにしろ！ 未来のカードの力見せてもらおう！』

『では先攻を貰います。私のターンッ！ 魔法カード《愚かな埋葬》を発動！ これにより私はデッキからチューナーモンスター、《ドラグニティ・フランクス》を墓地に送る。』

《おろかな埋葬^{まいぞう}》

通常魔法

自分のデッキからモンスター1体を選択して墓地へ送る。

『それはバトルシップで凡骨が使っていたカード。いやそんなことよりチューナーだと！？ なんだそのカードは！』

『いずれ分かります。』

『・・・まあいい。続ける！』

『私はモンスターを裏側守備表示で召喚。さらにカードを2枚伏せ、ターン終了です。』

私は平凡にターンを終えた。

社長が2枚の伏せカードで止まってくれるとは思わないけど一応、念には念を入れなくちゃね。

『俺のターン！ フツ！ 魔法^{マジック}カード、《召喚師のスキル》発動！ これにより俺はデッキからレベル8の通常モンスター！ 《青眼

の白龍《》を手札に加える。そして《正義の味方 カイバーマン》を召喚！ ここまでで何かあるか？』

(注) 一応この話から召喚時に優先権を使えないというルールを採用します。

なぜ海馬が知っているかはご都合主義って事で見逃してください。

《召喚師のスキル》
通常魔法

自分のデッキからレベル5以上の通常モンスターカード1枚を選択して手札に加える。

《青眼の白龍》
ブルーアイズ・ホワイト・ドラゴン

通常モンスター

星8 / 光属性 / ドラゴン族 / ATK3000 / DEF2500

高い攻撃力を誇る伝説のドラゴン。

どんな相手でも粉碎する、その破壊力は計り知れない。

《正義の味方 カイバーマン》
効果モンスター

星3 / 光属性 / 戦士族 / ATK200 / DEF700

このカードをリリースする事で、手札から「青眼の白龍」1体等特殊召喚する。

海馬の場に海馬と似た背格好をし、青眼の顔を模した仮面を被る青年が現れた。

『いえ。なにもありません。』

『ならば正義の味方 カイバーマン《》の効果を生け贄にする事で手

札から《青眼の白龍》を特殊召喚する。出でよ！ 《青眼の白龍》
！！」

海馬がそういうとカイバーマンが光となって消えさり、海馬の後ろから青みがかった白銀の体と青い瞳を持つ神に匹敵する力を持つといわれる龍が現れた。

『フフフフ、アーハツハツハツ！ 覚悟しろ！ 《青眼の白龍》で裏側モンスターを攻撃！滅びの爆裂疾風弾^{バーストストリーム}！！』

《青眼の白龍》がその口を大きく開き、とても大きな光弾を作り出す。

それが十分に大きくなるとそれを私の場のモンスターに向けて放ってきた。

ドグオオオーン

あたり一面に煙幕が発生し、私は海馬社長の姿を見失ってしまった。

だが、私のモンスターはまだ健在だということが確認できた。

海馬社長はどんな反応をするのか楽しみだ。

side out

side set o

どういふことだ。

《青眼の白龍》の一撃は彼女のモンスターを確かに貫いた。
高々レベル4以下のモンスターで《青眼の白龍》の攻撃を受けられ
るモンスターは存在しない。

故に彼女の場にはモンスターは存在しないはず。

だが俺の目にははっきりと見える。

彼女の場に残る羽を置んだ緑色の翼竜が。

『貴様。なぜそのモンスターが破壊されていないのだ。』

『…このカードは《シールド・ウィング》。その硬い羽に覆われた
体に傷をつけるには3度の攻撃が必要。』

『どっぴうことだ？』

『《シールド・ウィング》は1ターンに2度まで戦闘によって破壊
されません。』

『何っ！』

《シールド・ウィング》

効果モンスター

星2 / 風属性 / 鳥獣族 / ATK 0 / DEF 900

このカードは1ターンに2度まで、戦闘では破壊されない。

『そのステータスで1ターンに2度戦闘破壊されないだっ！』 巫

山戯るな！ 俺の記憶にそんなカードは存在しない。貴様それは偽造カードか？』

『いえ。偽造であればデュエルディスクが反応するわけありませんよ。このデュエルディスクはパパが作ってくれたもの。普通のデュエルディスクとは違いますし、《シールド・ウィング》もちゃんとした未来のカードです。』

『クツ… 未来のカードだと。己でそれではデュエルに俺の記憶が意味を成すわけではないか。』

『その条件を知った上でデュエルを開始したわけですが、何か文句はありますか？』

クツ…… 確かに俺はデュエルリングサーバーにデータを読み込ませたが、そのデータを確認せず、オペレーターにやらせた。

その事が裏目に出たか。

side out

side yuri

そう。このディスクと《シールド・ウィング》は私がデュエルアカデミア高等部に入學するときにパパが送ってきたもの。その時は嬉しくてママとジャックおじさんに毎日のようにデュエルを申し込んだっけな。

ママは忙しかったけれどジャックおじさんは暇を持て余していたからね。

つと過去を今振り返るときじゃない。

今は目の前の敵を倒すことに集中するだけ。

『さあ、どうします?』

『クツ…カードを2枚伏せターンエンド!』

『ではエンドフェイズにリバーズカードを発動。《ゴッドバードアタック》! 《シールド・ウィング》をリリ、いえ。生け贄にして社長の《青眼の白龍》と最初に伏せたカードを破壊します。』

《ゴッドバードアタック》

通常罫

自分フィールド上に存在する鳥獣族モンスター1体をリリースし、フィールド上に存在するカード2枚を選択して発動する。選択したカードを破壊する。

《シールド・ウィング》が不死鳥のように燃え上がり、目にも留まらない速度で《青眼の白龍》に突進する。

《青眼の白龍》は滅びの爆裂疾風弾を放つが、溜めが短いせいかなではじかれついには己の攻撃を自ら飲み込み、爆散した。

《シールド・ウィング》はその後に、社長の場にある一枚のカード - 《竜の逆鱗》を燃え盛る自分の体に包み込み、自らの体とともに燃やし、光となって消えていった。

《竜の逆鱗》
りゅうのさかひら

永続罫

自分フィールド上に存在するドラゴン族モンスターが守備表示モンスターを攻撃した時、
その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

『己。俺の《青眼の白龍》が…この屈辱。絶対に忘れんぞ！』

これで互いの場には伏せカードが1枚ずつ、勝負はこれからね！

『私のターン！ 私は《ドラグニティ・ドウクス》を召喚！ そしてモンスター効果を発動。墓地の《ドラグニティ・ファランクス》をこのカードに装備する。』

ジャック戦でも出た白い翼を持つ鳥人が現れ、指揮棒を振るとその鳥の後ろに金色の鎧を纏う青い龍が出現する。

『それはさつき《愚かな埋葬》で墓地に送ったモンスター。だが、モンスターを装備してなんになる。その《ドラグニティ・ドウクス》だったか？ そいつの攻撃力は1500、《青眼の白龍》の半分しかないぞ！』

『《ドラグニティ・ドウクス》は自分の場の「ドラグニティ」と名のつくカードの数の200倍攻撃力をアップする。よって攻撃力は1900よ。』

『何っ！ 俺のデッキにいる《ブラッド・ヴォルス》と同じ。しかも元々の攻撃力が1500だから《クリッター》でデッキから手札に加えられる…か。なるほど優秀な効果のカードのようだな』

《ブラッド・ヴォルス》

通常モンスター

星4 / 闇属性 / 獣戦士族 / ATK1900 / DEF1200

悪行の限りを尽くし、それを喜びとしている魔獣人。

手にした斧は常に血塗られている。

《クリッター》

効果モンスター

星3 / 闇属性 / 悪魔族 / ATK1000 / DEF600

このカードがフィールド上から墓地へ送られた時、

自分のデッキから攻撃力1500以下のモンスター1体を手札に加える。

「ええ。このカードは私のデッキの中核の1枚よ。だけど、私のデッキに《クリッター》はないわ。」

「何!? 《シールド・ウイング》、《ドラグニティ・ドウクス》、《ドラグニティ・ファランクス》。貴様がこのデュエルで使ったモンスターだ。どれも攻撃力が1500以下。むしろ《クリッター》を入れるべきではないのか?」

「いいえ。このデッキには入れないわ。だって種族が合わないもの。(それに《クリッター》よりも優秀で「ドラグニティ」にとって扱いやすいカードがあるからね)」

「種族、だと。そういえばこのデュエルで貴様は鳥獣族とドラゴン族を使っている。それが関係しているというのか?」

「ええ。その通りよ! そして、ドラゴン族と鳥獣族でなければならぬ理由をこれから教えてあげる。《ドラグニティ・ファランクス

ス』の効果を発動！ 1ターンに1度、カード効果で装備カード状態となつているこのカードを特殊召喚する。出てきて！《ドラグニティ・フアランクス》！』

私がそういとジャック戦と同じように《ドラグニティ・フアランクス》が《ドラグニティ・ドウクス》の影から出てきた。

『俺の前に低級モンスターを並べるか。それがお前にとって命取りになるぞ！』

『いいえ。私の融合^{エクストラ}デッキにはこの状況でないと召喚できないモンスターがいるの』

『なっ！？』

『いきます！ レベル4《ドラグニティ・ドウクス》にレベル2《ドラグニティ・フアランクス》をチューニング！』

未来の世界でシンクロ召喚を行ったときと同じように、チューナーは輪となり、他のモンスターは星となる。

それは星が一行に並ぶときに一筋の光となり辺りを白く染める。

『クッ』

+ || x 6

『秘境の竜騎士が赤槍^{せきやり}を携え、飛び交う魔術を掌握する。戦場を鎮める風となれっ！シンクロ召喚！駆け抜けよ！《ドラグニティナイト・ガジャルグ》！』

《ドラグニティナイト・ガジャルグ》

シンクロ・効果モンスター

星6 / 風属性 / ドラゴン族 / ATK2400 / DEF800

ドラゴン族チューナー+チューナー以外の鳥獣族モンスター1体以上1ターンに1度、自分のメインフェイズ時に発動する事ができる。自分のデッキからレベル4以下のドラゴン族または鳥獣族モンスター1体を手札に加え、その後手札からドラゴン族または鳥獣族モンスター1体を捨てる。

光が収まると私の場に赤と紺に彩られた竜がおり、その背には《ドラグニティ・レギオン》に似た騎士が赤色の槍を持って鎮座していた。

「何？ シンクロ召喚だと？ 何だそれは？」

「基本はチューナー1体とチューナー以外のモンスター1体以上のレベルの合計がシンクロモンスターのレベルと等しいとき、そのシンクロモンスターを自分の融合g…もういいや。エクストラデッキから特殊召喚できる。それがシンクロ召喚です。」

「条件緩すぎじゃないか。レベルを合わせるだけだなんて」

「ええ。ですから殆どどのシンクロモンスターには融合モンスター、儀式モンスターのように召喚条件があります。この《ドラグニティナイト・ガジャルグ》の場合、「ドラゴン族チューナーとチューナー以外の鳥獣族モンスター1体以上」というのが条件です。(最も、強力な効果を持っているのに指定がないモンスターもいますけれども…)」

『それと危うく忘れる所だったが、さつき言いかけていた「リ」と「エクストラデッキ」とは何だ？』

『「リリース」とは、この時代で言う生け贄の事で、「エクストラデッキ」とは、融合デッキの事です』

『何故名前を変える必要があつたのだ？』

『……恐らくは「生け贄」は語呂が悪いから、そしてエクストラデッキは……シンクロモンスターも融合モンスターと同じ場所に置く必要があるからです』

私が社長の疑問に答えると、社長は突然押し殺したような笑い声をあげ、

それは段々と音量を増し、やがて高笑いとなった。

『……フッフッフ…アッハッハッハッハ！……それが未来のデユエルか！ なかなか面白い。』

『どんどんいきますよ！ 《ドラグニティナイト・ガジャルグ》の効果発動。メインフェイズ時に自分のデッキからレベル4以下のドラゴン族または鳥獣族モンスター1体を手札に加え、その後手札からドラゴン族または鳥獣族モンスター1体を捨てます。これによって私はデッキから《霞の谷のファルコン》を手札に加え、手札から《霞の谷のファルコン》を墓地に送ります』

これで《ドラグニティナイト・ゲイボルグ》への準備は出来た。

『構わん。』

『続いてバトル！ 《ドラグニティナイト・ガジャルグ》で相手に
ダイレクトアタック てんがいしきれんそつげき
直接攻撃！天蓋式連撃！』

《ドラグニティナイト・ガジャルグ》は攻撃命令を受けると飛び上がり、社長の上までいき急降下を始める。どうやら急降下をしながら何連続も頭上から槍で突くようだ。

しかし《ドラグニティナイト・ガジャルグ》の槍が社長を貫くことはなく、社長の頭上数センチのところで槍を止めた。

『えっ？』

『リバーズカード《正統なる血統》を発動した。これにより、自分の墓地から通常モンスターを特殊召喚することが出来る！ 蘇れ！

《青眼の白龍》！』

《正統なる血統》
せいとう けつとう

永続罫

自分の墓地に存在する通常モンスター1体を選択し、攻撃表示で特殊召喚する。

このカードがフィールド上に存在しなくなった時、そのモンスターを破壊する。

そのモンスターがフィールド上に存在しなくなった時、このカードを破壊する。

社長の場に一瞬薄っすらと血だまりと騎士が浮かび、すぐに消え去った。

その後血だまりのあったであろう場所から《青眼の白龍》が浮上してきた。

『さあどうする。俺の場のモンスターの数が変化したことで巻き戻しが発生した。さあ選べ。攻撃をやめるか、《青眼の白龍》に攻撃するかを！』

『クツ…攻撃を中断します。カードを2枚伏せ、ターンエンド！』

『俺のターン、フン、魔法カード《強欲な壺》、デッキから2枚ドロ―する。』

《強欲な壺》

通常魔法

デッキからカードを2枚ドロ―する。

『えっ…それって禁止カード。』

『それは未来の話であろう。この時代では《強欲な壺》は制限カードだー！』

『あつ…！』

ここは過去の世界だった。つまり禁止・制限も違うって事ね。でもこれからこっちで過ごす上で《強欲な壺》等がないのは厳しいな。

どうにかして手に入れられないかな？

『どうした？ 続けるぞ。俺は続けて《天使の施し》を発動。デッキからカードを3枚ドロ―し、手札を2枚捨てる！…そして魔法カード、《巨竜の羽ばたき》を発動。俺は《青眼の白龍》を手札に戻し、フィールド上の魔法・罫カードを全て破壊する！』

《天使の施し》

通常魔法

デッキからカードを3枚ドロシー、その後手札からカードを2枚捨てる。

《巨竜の羽ばたき》

通常魔法

自分フィールド上に表側表示で存在する

レベル5以上のドラゴン族モンスター1体を手札に戻し、お互いのフィールド上に存在する魔法・罠カードを全て破壊する。

《青眼の白龍》が飛び上がり、その羽を動かす。

すると突如フィールドに嵐が出現し、私のカードを飲み込もうとする。

でも、私はそれをただでは破壊させない。

『リバーズカード発動！っ』

その言葉に反応するかのように1枚のカードが明らかとなり、その後の突風で私の魔法・罠カードは全て破壊された。

side out

side set o

俺には見えた。奴のリバーズカードが俺の《巨竜の羽ばたき》で破壊される前に発動したのを。

『・・・貴方のカードにチェインして、《和睦の使者》を発動しました。これにより私の場のモンスターはこのターン戦闘では破壊されず、私へのダメージもありません。』

《和睦の使者》

通常罫

このカードを発動したターン、相手モンスターから受ける全ての戦闘ダメージは0になる。

破壊したカードは分かっていたが、面倒だな。

だが次の手はある

『俺は手札から《ロード・オブ・ドラゴン・ドラゴンの支配者》を守備表示で召喚。』

《ロード・オブ・ドラゴン・ドラゴンの支配者》

効果モンスター

星4 / 闇属性 / 魔法使い族 / ATK1200 / DEF1100

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、

フィールド上に表側表示で存在するドラゴン族モンスターを

魔法・畏・効果モンスターの効果の対象にする事はできない。

俺の場に、龍の骨のような兜や靴を装備している。ローブを纏った男性が現れた。

『カードを1枚伏せ、魔法カード《命削りの宝札》を発動！これで俺の手札は5枚となる。』

《命削りの宝札》

アニメオリジナル
通常魔法

自分の手札が5枚以下の時に発動することができる。自分の手札を5枚になるようにカードをドローする。

このカードを発動した次のターンから数えて5回目のスタンバイフェイズ時に自分の手札を全て捨てる。

「・・・正直、ここまで俺の相手が務まるとは思っていなかった。大抵の相手は《青眼の白龍》1体で足りるからな。次にさつき伏せた、魔法カード《ドラゴン・目覚めの旋律》を発動。」

《ドラゴン・目覚めの旋律》
マンガオリジナル
通常魔法

自分のフィールド上に、《ロード・オブ・ドラゴン・ドラゴンの支配者》が表側表示で存在する場合のみ、このカードは発動することが出来る。

手札からモンスターカードを1枚捨てる事で、自分のデッキからドラゴン族のモンスターを2枚まで手札に加えることが出来る。

俺が新たに魔法カードを発動し、手札のモンスター《青眼の白龍》1枚墓地に送ると、《ロード・オブ・ドラゴン・ドラゴンの支配者》は竜の形をしたギターを奏でた。

「これにより俺はデッキから《青眼の白龍》を2枚手札に加える。そして《クロス・シフト》を発動！」

《クロス・シフト》
マンガオリジナル
通常魔法

自分フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を選択して発動する。

選択したカードを手札に戻し、その後手札からレベル4以下のモンスター1体を特殊召喚する。

『俺はこれにより、《ロード・オブ・ドラゴン・ドラゴンの支配者 - 》を手札に戻し、2枚目の《正義の味方 カイバーマン》を特殊召喚！』

俺の場に再び青眼の青年が現れる。

『もちろん効果を発動。カイバーマンを生け贄に、《青眼の白龍》を特殊召喚！』

そしてすぐに俺のデッキの象徴！《青眼の白龍》を出現させる。

これで俺の場は1ターン前の姿に戻った。

『《和睦の使者》が適用されている以上、攻撃しても意味がない。だがそのモンスターにはフィールドから消えてもらう！魔法カード《滅びの爆裂疾風弾》を発動！これにより《ドラグニティ・ガジャルグ》を破壊する。』

ほろ
《滅びの爆裂疾風弾》

通常魔法

自分フィールド上に「青眼の白龍」が表側表示で存在する場合のみ発動する事ができる。

相手フィールド上のモンスターを全て破壊する。

このカードを発動するターン「青眼の白龍」は攻撃する事ができない。

俺の場の《青眼の白龍》が再び口に大きな光弾を作り出すと、小娘

の場全てに攻撃を仕掛けた。

攻撃後、小娘の場にはカード1枚残っていなかった。

俺は勝利を確信した。そして一言、

『ターンエンド！』

俺の手札4枚の内2枚は奴にも分かっているが問題はあるまい。

奴の手札はすでに0。フィールドもカードがない。

俺の場には攻撃力3000の《青眼の白龍》、万が一越えてきても俺の手札には《融合》と《闇の量産工場》がある。

《融合》あいつ

通常魔法

手札・自分フィールド上から、融合モンスターカードによって決められた

融合素材モンスターを墓地へ送り、その融合モンスター1体をエクストラデッキから特殊召喚する。

《闇の量産工場》

通常魔法

墓地の通常モンスター2体を手札に戻す。

次のターンに《青眼の究極竜》を融合召喚すれば俺に負けはない

《青眼の究極竜》

ブルーアイズ・アルティメットドラゴン

融合モンスター

星12 / 光属性 / ドラゴン族 / ATK 4500 / DEF 3800

「青眼の白龍」 + 「青眼の白龍」 + 「青眼の白龍」

・・・俺の勝利に揺るぎはない。

side out

side yuri

『ターンエンド!』

なんとか社長のターンを耐え切ったけど、私の手札は0、場のカードもない。

このままではどの道勝ち目はない。

だけど、パパだってどんな時も諦めなかった。

私もそれに習い、今出来ることを全てやる。

お願い、私のデッキ。私の思いに答えて・・・!

『私のターンっ!・・・』

おそろおそろドローカードを確認する。

『(来てくれた! 逆転への布石。)(手札から魔法カード《天よりの宝札》を発動。互いのプレイヤーは手札が6枚となるようにカードをドローする。』

《天よりの宝札》

通常魔法（アニメ効果）

互いのプレイヤーの手札が6枚以下の時に発動することが出来る。
互いのプレイヤーは手札が6枚になるようにカードをドローする。

『なっ！手札0、場のカードもない状態で最強のドローカードを引
いただと！』

社長も驚きが隠せないようだ。

そして私の引いた6枚のカードは…

《ドラグニティ・ブランディストック》

《霞の谷の幼怪鳥》

《ドラグニティアームズ・ミスティル》

《死者蘇生》

《ドラグニティ・レギオン》

《シンクロ・キャンセル》

の6枚。

《ミスト・バグ霞の谷の幼怪鳥》

チューナー・効果モンスター

星2 / 風属性 / 鳥獣族 / ATK400 / DEF600

このカードが手札から墓地に送られた時、このカードを自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

《ドラグニティアームズ・ミスティル》

効果モンスター

星6 / 風属性 / ドラゴン族 / ATK 2100 / DEF 1500

このカードは自分フィールド上に表側表示で存在する「ドラグニティ」と名のついたモンスター1体を墓地へ送り、手札から特殊召喚する事ができる。

このカードが手札から召喚・特殊召喚に成功した時、自分の墓地に存在する「ドラグニティ」と名のついたドラゴン族モンスター1体を選択し、装備カード扱いとしてこのカードに装備する事ができる。

《死者蘇生つぎやせい》

通常魔法

自分または相手の墓地に存在するモンスター1体を選択して発動する。

選択したモンスターを自分フィールド上に特殊召喚する。

《シンクロキャンセル》

通常魔法

フィールド上に表側表示で存在するシンクロモンスター1体をエクストラデッキに戻す。

さらに、エクストラデッキに戻したこのモンスターのシンクロ召喚に使用したモンスター一組が自分の墓地に揃っていれば、この一組を自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

6枚のカードを見た瞬間、私の脳裏に一つの映像映像が浮かんできた。

数々のカードが並び、私は勝利への方程式を組み上げる。

そしてその最後、私を勝利へと導く1体の龍が見えた。

『いきます。魔法カード《死者蘇生》！ これにより私は墓地から《ドラグニティ・ドウクス》を特殊召喚！ 更に《ドラグニティ・レギオン》を召還し、効果発動！ 墓地の《ドラグニティ・ファランクス》を装備する。』

私の場に白い羽を持つ男性の鳥人が戻り、安置戦で犠牲にしてしまった緑の鳥人も姿を見せる。そしてその後ろに金の鎧をつけた青い龍が出現する。

『さらに《ドラグニティ・ファランクス》の効果で自身を特殊召喚！』

緑の鳥人の後ろから金色の鎧を纏う竜が姿を見せる。

これで準備は整った。

『《ドラグニティ・ファランクス》を墓地に送り、《ドラグニティ・ミスティル》を特殊召喚。このモンスターも、ドウクスのような効果を持っています。よって再び《ドラグニティ・ファランクス》を装備し、ファランクスを特殊召喚する。』

私の場の《ドラグニティ・ファランクス》が光となって消え去り、変わりに黄色で胴長な体を持つ竜戦士が出現し、再び《ドラグニティ・ファランクス》を後ろに出現させる。

なんか《ドラグニティ・ファランクス》がやつれているんですが、大丈夫でしょうか？

「クウ・・・なんて展開力だ・・・」

「そして。レベル4《ドラグニティ・ドゥクス》とレベル3《ドラグニティ・レギオン》にレベル2《ドラグニティ・ファランクス》をチューニング！」

「3体でのシンクロ召喚だ！」

《ドラグニティ・ファランクス》が少し大きめの2つの輪となり2体のモンスターは7つの星となり輪を潜り抜ける。

+ + = x 9

「ええ、...冷たき氷の世界に古代より封印されし龍よ！今こそ封印を破りて、秘境の民に力を貸さん！シンクロ召喚！咆哮せよ！《氷結界の龍 - トリシューラ》！」

《氷結界の龍 ひょうけつかいじゅう トリシューラ》

シンクロ・効果モンスター

星9 / 水属性 / ドラゴン族 / ATK2700 / DEF2000

チューナー + チューナー 以外のモンスター 2体以上

このカードがシンクロ召喚に成功した時、相手の手札・フィールド上・墓地のカードをそれぞれ1枚までゲームから除外する事ができる。

私の場に3つ首を持ち、口から冷気を吐き続け、見ているだけでも凍えてしまいそうな絶望の龍が現れた。

「《氷結界の龍 トリシューラ》だと・・・3つ首、俺の《青眼の

究極竜』と同じ。』ボン

『これが私のデッキの切り札の1枚です。まだありますけどね。』

『これが・・・切り札。・・・美しい・・・』

『そして当然《氷結界の龍 トリシューラ》にもモンスター効果はあります。それはシンクロ召喚に成功した時、相手の手札・フィールド上・墓地のカードをそれぞれ1枚までゲームから除外する事ができる』

『何！？ 3枚も除外するだ！？』

『ええ。・・・私は墓地から《青眼の白龍》、フィールドの《青眼の白龍》、そして1番左の手札を除外』

『俺の・・・《青眼の白龍》が・・・』

『バトルです。《ドラグニティアームズ・ミスティル》でダイレクトアタック！神殺しの魔剣！』

『ゲッ・・・』

海馬：LP1900

『これで最後です。《氷結界の龍 トリシューラ》でダイレクトアタック！トライデント・ブリザード！』

『う、うわああああああっっ！』

海馬：LPO

遊璃：WIN

『やったあ！これで生活面は保障された。』

『クツ悔しいが、約束だ。期日まで好きにするがいい。だが、』

『えっ！？ まだ何かあるのですか？』

『ああ。デュエルディスクの自動シャッフルのシステムを教えて欲しい。シンクロモンスターも、と言いたいが未来が変わってしまうかもしれないな。が、自動シャッフルは構わないだろうと思う。因みにこれを承諾してれた場合は貴様がデュエルアカデミアの生徒である限り、俺が保護者という扱いで面倒を見よう。』

『ほ、本当ですか！？』

『当たり前だ。俺は自分の発言には責任を持つ。』

『分かりました。これからよろしくお願いしますね。』

『ああ。』

こうして海馬社長に勝利し生活面の保障を得た私はデュエルアカデミアの筆記試験までの時間を海馬社長の擁護のもと有意義に過ごすのであった。

・・・To be continued

5話：青眼の咆哮と新たな竜騎士（後書き）

つ、疲れたー。

約11000字。いくら海馬が好きだからと言って調子に乗りすぎました。

今回はデュエル構成2時間半、文字にして入力2時間で書ききりました。

海馬の名言を多く出そうと努力したばかりに長くなってしまいました。

因みにトリシューラの効果で除外された手札は《青眼の白龍》です。

社長は一気に《青眼の白龍》を3枚失ったわけですね。

それと社長のデッキからすでに《次元融合》は抜いてあります

おそらく《混沌帝龍 - 終焉の使者》が禁止になったからでしょうけど・・・

本文で疲れたのであとがきはこの辺で。

今回は遊璃が筆記試験に挑戦します。

ではでは

6話：海馬コーポレーションが作る筆記試験はへ青眼の白龍《絡みが多い》前書

海馬編を作った勢いで投稿。

前書き書いている現在14：30。投稿は15：00を目標とします。

そして、言羽さん作『遊戯王GX 百合キング、綾風理奈が吹かせる王者の鼓動。』の主人公、綾風理奈さんから遊璃宛てに手紙が・
・（後付け）

6話・海馬コーポレーションが作る筆記試験は「青眼の白龍」絡みが多い

- K C 前・青眼像 -

あれから一ヶ月が経った。

私は海馬コーポレーションの技術者にデュエルディスクの自動シャッフルのギミックを教えたり、この時代のプロの試合を見たりして
いて過ごしていた。

そして、今日がデュエルアカデミアの筆記試験だ。

私は海馬社長が用意してくれた車に向かう。

その途中、

ブワアアア・・・

突然強風が吹いた。

私はママが16歳の頃に来ていたという服を着ていたので（未来から来たときの服装。何気に丁度いい）思わず立ち止まってしゃがみこんでしまった。

少し経つと風が止んだので私は磯野さんの待つ車へと歩を進めた。

車まであと20mとなったとき、目の前に何か落ちているのを見つけた。

よく見てみると手紙だということが分かった。

それを拾い上げ宛名を確認してみると、『不動遊璃様』と書いてあった。

『えっ、私？』

差出人の名前がないので一応開けてみることにする。

すると中には何枚かのカードと紙が入っていた。

カードを確認してみると《強欲な壺》、《天使の施し》などこれからの私に必要なカードが入っていた。

試験が終わったなら買いに行こうと思っていたカードが思わないところから手に入ったので、驚いてしまった。

誰だか知らないけれど、私にカードを送ってくれてありがとう。

大切に使用させていただきます。と思い、再び磯野さんの待つ車へと足を向けた。

―移動中・車内―

私は手紙に何かが書かれている紙が入っていることを思い出し、読んでみることにした。

そこには

『遊璃ちゃん。海馬戦勝利おめでとう。遠くから見せてもらった。同封したカードは選別だ。使ってくれると嬉しい。デュエルアカデミアのキング・綾風理奈』

えっあのデュエルって誰も見ていなかったはずなのに。

どうやって見たのだろう？

なんにせよこんな便利なカードを無償でくれるなんて、理奈さんはとても優しい方なのだろう。

「遠くから」だからいつか会えると良いな。

そうだ！

帰ったらお礼の手紙を書こう。多分デュエルアカデミアにいるのよね？

無事に届くと良いな・・・

そこに

『遊璃様、到着いたしました。』

『あ、磯野さん。ごめんなさい私ボーとしてしまっただけ。』

『いえ。筆記試験頑張ってください。』

『ありがとう』

私は磯野さんにお礼を言って会場に入った。

・
・
・
・

『はじめ!』

試験が開始された。

私は準備は万端だったので張り切って望んだ。

解答しながら試験前に見かけた人のことを思い浮かべていた。

影の薄そうなワイルドヘアの男子、
兎に角元気な茶髪の男子、
気弱そうな水色の髪の男子

・・・あれ？髪の毛と特徴しか出てこないや。

って残り10分じゃないっ

私はいそいで残りの欄を埋めた

『やめ!』

ふう・・・間に合った。今ので一般科目は終わり。

次はデュエルモンスターの試験。

海馬社長が言うにはこれが一番配点が高いらしい。

気を引き締めて望もう。

じゃないと”生け贄”と”リリース”、”融合デッキ”と”エクストラデッキ”を間違えちゃうからね。

『はじめ!』

試験官の合図で一斉に紙をめくる。

第1問

次の()内の条件を全て持つモンスターを1体答えなさい

(攻撃力3000、守備力2500、光属性、ドラゴン族、 8)

・・・これって《青眼の白龍》よね…

まあ、次の問題にいきましょう。

-
-
-
-
-

第18問

《青眼の白龍》の専用魔法カードを答えよ

・・・答えは《滅びの爆裂疾風弾》! 実際に使われたしね!

-
-
-
-

第26問

《青眼の白龍》を特殊召喚することができるモンスターを1体書け！

《正義の味方 カイバーマン》と 簡単よね。

-
-
-
-

第41問

《青眼の白龍》は3体で《融合》を使うと融合することが出来る。
融合後のモンスターを書け。

えっと、確か《青眼の究極竜》だったわね。

それにしてもまた青眼の問題・・・

-
-
-
-

最終問題（第50問）

KCトーナメントの決勝前のエキシビジョンマッチを行ったとき、とある会社が海馬コーポレーションをハッキングし、その会社の選手が参加権剥奪となった。

その選手と「海馬瀬人」がデュエルしたときにデュエルの止めを刺したモンスターの名前を答えよ

これって、海馬社長の有名なトーナメント乱入だったわよね。教科書で読んだことがあるわ。

そして答えは……《青眼の白龍》！

またですか……50問中40問の答えが《青眼の白龍》関連って・

どれだけ社長好きなんですかー

っと私がペンを置いたところで

『止めー！』

試験官から止めの合図があった。

一斉にペンを置く受験生達。

そして一斉に周りの人と話し出す。

暫く聞き流していると

『ねえ、50問目の答え分かった？』

話しかけられたので答える。

『はい』

つと。

『凄いわね。あ、私 藤原雪乃 宜しくね。』

『私は不動遊璃と言います。雪乃さん、宜しくお願ひしますね。』

『ええ。ところで50問目の答えって何なの？』

それは

『《青眼の白龍》ですよ！』

・・・その後 私達は連絡先を交換して別れた。

雪乃さんにお世話になっているところを聞かれて

『海馬コーポレーション！』

と答えたら驚かれたけれどね。

さあ、理奈さんに手紙を書こうと。

•
•
T
O
b
e
c
o
n
t
i
n
u
e
d

6話：海馬コーポレーションが作る筆記試験は《青眼の白龍》絡みが多い（後書

筆記試験書き終わりました。

問題がまさか40/50 《青眼の白龍》関係だとはね。

本当に社長の青眼好きには脱帽です。

それと遊璃だけだと寂しいので作者が唯一所持しているPSPソフトTF5より藤原雪乃さんに登場してもらいました。

服装は違いますが多分大丈夫なはず。

因みに藤原雪乃を選んだ理由ですが、作者がTF5の一般人で唯一ストーリークリアしている人物だからです。

理由が単純ですみません

これ以上後書きないので次回の予告

今回は実技試験です。

ではでは

追伸

言羽さん、無断でキャラクターの名前をお借りしてすみません。

そうしないと遊璃のデッキに必須カードが入るタイミングがありませんでした。

次回からは許可を取るようになります。

この度は本当に申し訳ありませんでした。

7話：遊璃が受験番号1番になると三沢の影がさらに薄くなる気がするのは私だやってしまった。

3000字くらいのところで1回保存しようとしたら間違っってバックスペースキーを押してしまい、前頁に戻り、書いた文が全て消えました。

多分、今回綾風姉妹の綾風理奈であれば暴走しかねないような遊璃のレアシーンも消えました>>

残念ながらそこだけ勢いで書いたので思い出せません。

そこ以外は大体覚えているので忘れないうちに復元してみます。

これからは10000字程度毎に保存するようにしますね。

はあ、思い出せないかな？

因みに今回のデュエルは短く、遊璃のデュエルに繋がる導入部分でもあります。

ではごっご。

7話：遊璃が受験番号1番になると三沢の影がさらに薄くなる気がするのは私だ

side yuri

私は今海馬ランドのブルーアイズ・ドームにいる。

なぜならば、今日がデュエルアカデミアの入学実技試験だからだ。

私は入り口の前で会った雪乃さんと一緒に会場内に入った。

side out

side daiti

なぜだ。なぜ俺の受験番号が『2』なんだ。

確かこのデュエルアカデミアの受験番号は筆記試験の順位順はず。

だからこれでは俺が筆記が2番だと言うことだ。

となれば、1番はおそらく筆記試験全問正解者だろう。

なぜなら、俺はデュエルモンスターの科目以外は自己採点の結果満点だったからだ。

しかし、デュエルモンスターズは50問目だけ間違えた。

未だに答えは分からない。

だったらその人物を探し出して聞き出す。

そしてデュエルを申し込む！

俺の計算が1番のデッキにどこまで通用するのか見てみたい。

ならばデュエルするためにも俺は試験官とのデュエルを速攻で終了させ、1番のデュエルを見る。

そしてそのデッキについて計算する。

…そうと決まれば、調整用のデッキは使うべきではない。

ディスクにセットされているデッキを外し、ポケットに入れる。

俺が使うのは…「燃え盛ること火のごとく」、火のデッキだ。

そこに

ピン・ポン・パン・ポーン

『受験番号2番の方、デュエルフィールドに来てください。試験を開始します。繰り返します…』

丁度時間か。試験官の方には悪いが、好奇心には勝てそうに無いと
考え、急ぎデュエルフィールドへと向かった。

s i d e o u t

s i d e y u k i n o

私は筆記試験のときに知り合った不動遊璃という子と一緒に歩いている。

『ところで、さ雪乃さんは受験番号何番？ 私。1なんだけど』

『私は3よ。それよりも1つてもしかして筆記試験全問正解？』

『分からないかな。』

『一般科目ボーつとしていたから。。』

『でもデュエルモンスターズは満点なのでしょうっ？』

『多分。』

『それだけでも十分順位は上がるわよ？』

『そ、そうかな。』

『そうよ』

『嬉しいな えへへ。。』

…か、可愛い。

我慢しなさい雪乃、だけど…

駄目。我慢できない…

襲っても良いわよね？

戒鷲「まで雪乃。お前はこの小説に禁断の恋愛設定を入れるつもりか。って上の発言アウト？セーフ？それよりも入れるにしても待ってくれ。今は時期が早すぎる。」

？ 何か聞こえた気がしたわ。

そうね、今は我慢よ。アカデミアに入ればいくらでも時間はあるわ。

『ピン、ポン、パン、ポーン。受験番号3番の方。デュエル場までお越しく下さい。繰り返します…』

あ、私の番ね

『遊璃、さくつと勝って来るから、私のデュエルみててね。』

『うん。』

『それと、私の事は雪乃って呼び捨てて構わないわよ。』

『分かった。…雪乃』

私は振り返らずにデュエル場に向かった。

・
・
・
・

『君が受験番号3番か。』

『宜しく願います。』

『いい返事だ。早速はじめようか。』

『『デュエル!』』

雪乃：LP4000 / 試験官：LP4000

『私の先行!...』

数分後

『うわあああああ...』

試験官：LPO

雪乃：WIN

『ありがとうございました。』

『うむ。ワンターニルとは、驚かされたよ。おめでとつ君の勝利だ。』

『はい、失礼します』

私は急いで遊璃の元に駆け戻った。

side out

s i d e d a i t i

『畏カードの効果で貴方に1850のダメージを与える』

『グウ…』

試験官：L P O

三沢：W I N

『あそこからトラップカードで追撃とは…受験生にしては、やるな。おめでとう。君の勝利だ!』

『ありがとうございます。』

俺はデュエル中に放送を聞いていたが、1番が呼ばれた様子がない。

俺はそれに安堵し、全てのデュエル場が見える席を獲得しに行った。

s i d e o u t

s i d e y u r i

…遅い

雪乃が呼ばれて、そのあと2番の人も呼ばれた。

あれから20分以上経つのに、私が呼ばれない。

そればかりかついさっき110番台の試験が始まった。

えっ 私の順番なし？

もしかして社長の逆恨み？

今更？

確かに《青眼の白龍》3体除外したけれど…やっぱり根に持っているのかな？

うう、急に不安になってきた。

雪乃、早く戻ってこないかな？

・

・

・

・

110番台の試験も終わり、最後の人・水色の気弱な人の試験が終わった。

そこに雪乃が戻ってきた。

『遊璃？ どうしたの？』

『あ、雪乃。私の受験順番を飛ばされたか、受けられないかもしれないかも知らない』

『ええ〜。それは大変ね。じゃあ、私は事務の人に聞いてくるから遊璃はデュエル場入り口で待っていて。すぐにデュエルができるよ』

うに準備しておくのよ』

『分かった。』

私は雪乃にそう返し、デュエル場入り口方面に向かった。

そのときだ。

『その女子！ どいてくれ〜』

『えっ？ ひゃっ〜！』

いきなりなことだったので私は避けられずぶつかってしまった。

。パパとママ仕込みの護身術で受身を取ったから痛くは無かったけど。

『悪いな。急いでいたんだ。・・・って遅刻だ遅刻だ〜』

何だったの。今の？

私はすぐ後にデュエル場入り口に来たので彼の名前を知ることが出来た。

『受験番号111番 遊城十代 セーフだよね。』

なんと伝説のデュエリストだったのだ。

・・・

・
・
・

そして

『スカイスクレイパー・シュート!!』

『マンマミーヤ』

クロノス：LPO

十代：WIN

『ガツチャ！楽しいデュエルだったぜ。先生！』

数分後、

『それでは、これにて実技試験全日程を終えるのネ。結果は後日郵送されるので、各自…』

えっ……結局私の試験なし？

『遊璃』

『雪乃？』

後ろから雪乃が息を切らせながら走ってきた。

『ハア、ハア……遊璃、ごめんなさい。呼ばれない理由、分から

『 ないの。』

『 ええ〜』

『 本当にごめんなさい。』

『 気にしないで。』

『 えっ!?!?』

『 大丈夫。私の保護者はあの”海馬瀬人”よ。原因だって帰ってから聞いてみるわ。運がよければ再試験受けられると思うから。』

『 そうか・・・な?』

『 ええ。だから、雪乃、もう謝らないで。』

『 ……うん』

なんとか雪乃は説得したけど、これから本当にどうしよう。

私がそう本気で考え始めたときだ。

会場に

『 そこまでだあ!』

という静止の声がかかったのを聞いたのは、

その台詞を言った人物は白銀のコートに栗色の髪を持つ、カードの貴公子 - 海馬瀬人 その人であった。

side out

side seto

おかしい。

俺は受験番号2番のデュエルが終わったあとの受験者の受験順が急に変わったのに酷く違和感を覚えた。

調べてみるか。

俺はまず電話を取り、かける

『はい、こちらデュエルアカデミア。』

『俺だ。鮫島、今日の実技試験。試験順を考えたのはお前だよな？』

『お、オーナーでしたか。ええ、そうですがそれが何か。』

『惚けるな！ 受験番号1番の試験がデュエルが行われなのまま飛ばされている。』

『そ、そんなはずは・・・すぐに確認してみます。』

ガシャッ！

俺は電話を切ると呼び出し音を鳴らした

1秒後

『お呼びですか？ 瀬人さま』

『ああ、磯野今すぐデュエルアカデミアの実技試験のスポンサーを調べ上げる！ その中に遊璃の受験順をなくした奴がいるはずだ。』

磯野に用を言いながら俺は白銀のコートを羽織る

『はっ、瀬人さま、どこへ行かれるのですか？』

『ふうん。俺を倒したデュエリストを何もさせずに不合格にしては駄目だろう。だから俺は実技試験に乱入してくる。』

『し、承知いたしました。』

そして俺は関係者用通路を通り、ブルーアイズ・ドームの中に入った。

そして

今にも解散宣言をしそうなおかつぱ頭に言い放つ！

『そこまでだあ！』

side out

yuri side

『えっ？ 海馬社長？』

雪乃が目を点にして呟く。

『どっしてここに？』

理由はすぐに分かった。

社長はおかつぱ頭（＝クロノス）からマイクを奪い取り、言葉を発した。

『受験者、並びに関係者の諸君。俺はデュエルアカデミアのオーナーにして海馬コーポレーション社長の海馬瀬人だ。今日集まった受験者の中にはある受験番号の試験が行われていない事に気づいているだろう。』

ざわざわ、ざわざわ

社長の台詞によって、辺りに動揺が走った。

『そこで、この前代未聞な事件についての処置を言い渡すため、俺直々に出向いたわけだ。』

社長の台詞に会場は静まる。

そして1分ほど経った頃だろうか。

『オーナー権限により、受験番号1番の実技試験を今から始める！』

えっ!?

『ワアーワアー』

『海馬! 海馬!』

『ふうん。そしてこのおかつぱでは不満だろうからこのデュエルに限り、俺が直々に解説もしてやろう。』

『本気かよ。伝説のデュエリストのデュエル解説だつて。』

『俺帰らなくて良かったよ』

『受験番号1番つてどんな奴なんだろう?』

『きつと格好良いに決まってますわ。』

社長の宣言で会場はマイクの音がなくなるほど騒がしくなる

そこに

『黙れえ!!--』

さらに大きい社長の声が響いた。

『貴様ら煩過ぎるぞ! その音量ではデュエルで何をしたか分からんぞ。』

『た、確かに...』

『おい、静かに観戦しようぜ』

『ああ。』

社長の意外な一言で会場はまた静かになる

社長は私のいる入り口に視線を一瞬向けてから言う

『さて、受験番号1番はすでにここに来ているから呼びたいと思うが、対戦相手をどうするべきか・・・おかつぱ俺にマイクを取られて暇だろ！お前がやれ！』

『分かりましたノーネ！』

『その口調煩わしい。』

『そ、そう言われても、こればかりハ、癖だから直らないノ
』！』

『だったら少し自重しろ！』

『は、はい』

『それでは呼ぶぞ！デュエルアカデミア筆記試験全科目満点！初の
デュエリストを！』

『『『『『え、満点？』』』』』』

多分このタイミングだ。

そう思つて雪乃に言う

『行つてくるね』

その瞬間、私の名前が呼ばれる

『その名はあー！！……不動！遊璃！』

そして私は社長の方へと歩き始めた。

・ ・ ・ T o b e c o n t i n u e d

7話：遊璃が受験番号1番になると三沢の影がさらに薄くなる気がするのは私だ

何か、違う。

消滅前と何かが違う。まあ書きながらも思い出せなかったのでこのままにしておきますが…

やっぱり気になるのでこの部分を思い出したら編集します。

あとこちらの都合で翔の受験順と三沢の受験順を変更し、

十代は受験番号を1つ遅らせました（遊璃の分）

雪乃の分は…最初からモブキャラ扱いでいたというのは駄目でしょうかね？

なんか内容がつまらなくなってますみません。

次回遊璃vsクロノスです 乞う期待。

（それよりもこのままじゃ遊璃×雪乃フラグが完成してしまう…この小説そのルートに行って良いのか？まあ、私自身そのような表現を文字にするのは苦手なので没になると思います。万が一入れるとすれば、遊璃の恋愛無知が何処までそれを押さえてくれるかもご期待ください。）

8話：古代の機械と白槍の竜騎士（前書き）

V S クロノス戦です。

今回から投稿されたオリカを使います。

投稿された順番とは行きませんが、返信がいった方のオリカは次々と使用していきますので宜しくお願いします。

8話：古代の機械と白槍の竜騎士

side yuri

『不動・・・遊璃!』

私は名前を呼ばれた後デュエル場に向けて歩き出す。

観客の人は何故かざわざわしているけれど、私には気にならない。

未来でもこんな経験はあったしね。

社長の近くまできたので目線で会釈をする

社長は無反応だったが、それを気にせずおかつぱ先生に挨拶をする

『おかつぱ先生。今日は宜しくお願ひしますね』

『おか、おかつぱじゃないノーネ！ 私はクロノス・デ・メディチ。デュエルアカデミア実技担当最高責任者ナノーネ!』

『ごめんなさい。社長がおかつぱって呼んでいたののでつきり変わった名前の人かと思っていました』

『・・・いいノーネ。それでー八試験を始めるノーネ!』

『『デュエル!』』

遊璃LP4000/クロノス：LP4000

『先攻はどうするんですか？』

『うむむむ。・・・』

『俺の独断でおかつぱから始める！ 異論は認めん！』

『分かったノーネ。私のターン、ドロー！ によ？ 私ーハ、永続魔法《古代機械の城》を発動するノーネ！』

《古代の機械城》
アンティーク・ギアキャッスル

永続魔法

フィールド上に表側表示で存在する「アンティーク・ギア」と名のついたモンスターの攻撃力は300ポイントアップする。

モンスターが通常召喚される度に、このカードにカウンターを1つ置く。「アンティーク・ギア」と名のついたモンスターをアドバンス召喚する場合、必要な生け贄の数以上のカウンターが乗っていれば、このカードをリリースの代わりにする事ができる。

クロノス先生の背後に砲台やら巨砲を装備した城が浮き出てくる。

『更に、《古代の機械兵士》を守備表示で召カーンツ！！ 通常召喚を行ったノーデ、《古代の機械城》にカウンターが1つ乗るノーネ！ ターンエンドナノーネ！』

先生の場に銃を胸を守るようにして構え、膝を立てている機械の兵士が現れた。

《古代の機械兵士》：DEF1300

それにしても、古代の機械つか・・・確かハイトマン先生と同じ。
なら、効果は大丈夫。

そして私はドロローするべくデッキに手を伸ばしたそのとき

『ふうん。なるほどそついうデッキか』

えっ!?

社長ー!

解説すると言いながら自己満足ですかー。

文句を言つと保護者の件を帳消しにされるかもしれないから言わないけど。

ごほん。気を取り直して

『私のターンツ...(いきなり手札を切れるカードが来た。)手札から魔法カード《天使の施し》を発動。それによりデッキから3枚ドロローし、2枚を捨てる』

3枚のドロローの中に古代の機械の最高攻撃力を倒せるモンスターは来なかった。

ならば今のうちに多くのダメージを与える!

そう思い、手札から《ドラグニティ・ファランクス》と《ドラグニティ・ムラサメ》を捨てる

《ドラグニティ・ムラサメ》(ガイウス様さんオリジナル)

効果モンスター

星3 / 風属性 / ドラゴン族 / ATK1000 / DEF700

このカードが召喚に成功した時、自分フィールド上に表側表示で存在する「ドラグニティ」と名のつくモンスターを選択し、このカードを装備カード扱いで装備する事が出来る。

このカードがカードの効果によって装備カード扱いとして装備されている場合、装備モンスターの攻撃力は400ポイントアップし、装備モンスターが守備表示モンスターを攻撃した場合、攻撃力が守備力を越えていれば、その差の数値分のダメージを与える。

『いきなり手札交換とーハ、手札事故でも起こしたノーネ？』

『おかつぱ、過信は身を滅ぼすぞ！』

『な！ だから私はおかつぱじゃないノーネ！』

『フン！』

あの一続けてもいいんでしょうか？

『手札から《ドラグニティ・レギオン》を召喚！ その効果により墓地からチューナーモンスター《ドラグニティ・フランクス》をレギオンに装備する。』

遊璃の場に緑の鳥人が現れ、金色の鎧を持つ青い龍が後ろに控える

《ドラグニティ・レギオン》：ATK1200

『およ？ 攻撃力が変わってないノーネ。装備する意味なんーて、ないんじゃないーノ？ それに、わざわざ《古代の機械の城》の力ウンターを増やしてくれるなんーて、間抜けなのもいいところナノ

「ネ！」

一々対応していたら私が疲れるから無視。

「《ドラグニティ・ファランクス》の効果発動。カード効果で装備カードとなつているとき、このカードを自分フィールドに特殊召喚する。」

青い龍が緑の鳥人の横に現れる

「な、手札1枚しか使わずに、モンスターを2体召喚したと言つのでスーカ？ 出鱈目過ぎるノーネ！」

この程度で、驚いちゃ困るんだけど…

「おかつぱ。来るぞ！ 彼女のエースが…」

「何？」

「ふう。いきますレベル3《ドラグニティ・レギオン》にレベル2《ドラグニティ・ファランクス》をチューニング！」

「『『『『チューニング？』』』』」

会場の声が揃う

毎度の通り、《ドラグニティ・ファランクス》が2つの輪となり、《ドラグニティ・レギオン》が3つの星となって中をくぐる。

そして一筋の光が会場を照らす

『ま、まぶしいのーネー!!』

.....

『秘境の竜騎士が白槍はくそうを構え、守りし者を貫く！ 戦場を鎮める風となれっ！ シンクロ召喚！ 舞え！ 《ドラグニティナイト・グラシーザ》！』

《ドラグニティナイト・グラシーザ》（ユタさんオリジナル）
シンクロ・効果モンスター

星5 / 風属性 / ドラゴン族 / ATK2300 / DEF2000

ドラゴン族チューナー+チューナー以外の鳥獣族モンスター1体以上
このカードのシンクロ召喚に成功した時、自分の墓地に存在する「
ドラグニティ」と名の付いたモンスターを装備カード扱いとしてこ
のカードに装備する事が出来る。

このカードに装備されたカードを墓地に送ることでこのターンのエ
ンドフェイズ時まで、このカードが守備モンスターを攻撃したとき
攻撃力が守備力を超えていた時、超えていた数値のダメージを相手
プレイヤーに与える

私の場に白銀の槍を持った女性が、紫色の竜に跨って下りてきた。

『シンクロ召喚？ 何ナノーネそれは？』

『チューナー1体とチューナー以外のモンスター1体以上のレベルの
合計がシンクロモンスターのレベルと等しいとき、そのシンクロモ
ンスターを自分の融合デッキから特殊召喚する。それがシンクロ召

喚だ。……因みに彼女の場合、「融合デッキ」は「エクストラデッキ」と独特の呼び方をするからな。覚えておけ！ おかつぱ！」

いや、過去の人に「知っていて当然だ」みたいに説明しても分かるわけないでしょ。

何も言わないけど。

「なるほど。理解したノーネ」

あ、理解したんだ。

流石教師ね。

「《ドラグニティナイト・グラシーザ》のモンスター効果発動！ このカードのシンクロ召喚に成功した時、自分の墓地に存在する「ドラグニティ」と名の付いたモンスターを装備カード扱いとしてこのカードに装備する事が出来る。私は墓地から《ドラグニティ・ムラサメ》を装備！」

《ドラグニティナイト・グラシーザ》の槍が日本刀のような剣に変わった。

《ドラグニティナイト・グラシーザ》は新たな武器！日本刀を振り、手に馴染ませる。

「また、装備ナーネ！」

「《ドラグニティ・ムラサメ》の効果！ それはカード効果で装備されたとき、装備モンスターの攻撃力を400ポイントアップさせ、

装備モンスターが守備表示モンスターを攻撃した場合、攻撃力が守備力を越えていれば、その差の数値分のダメージを与える。』

『なにい？それでは、《ドラグニティナイト・グラシーザ》の攻撃カーハ…』

《ドラグニティナイト・グラシーザ》：ATK2300 2700

『2700っ！ 手札1枚でなんでこんな強力なモンスターがあ…』

クロノス先生も驚いているけど、会場はどうかな…

『本気かよ。』

『たった、1枚で攻撃力2700の貫通効果持ち。』

『無理だ。レベルが違いすぎる。』

『すっげー、すっげー。あいつとデュエルしてよ…!』

『これが1番のデュエル!』

こんな感じね。

『バトル！ 《ドラグニティナイト・グラシーザ》で《古代の機械兵士》を攻撃！ 抜刀式・壊盾一閃!』

《ドラグニティナイト・グラシーザ》の紫の竜が飛び上がり《古代の機械兵士》に突撃する。
それに竜が当たる寸前、乗っていた女騎士がために溜めた日本刀を抜刀し、《古代の機械兵士》を切り裂く。

《古代の機械兵士》は肩から腹にかけて真っ二つにされ、その後に竜の突進も受け、爆散した。

『ぬうう』

クロノス：LP4000 2600

『カードを2枚伏せ、ターンエンド！』

私の場に2枚の伏せカードが現れる。

ブラフなんだけど止まってくれるかな？

『私のターン！ ドロー！ ヌツシツシツ。《古代の機械城》の効果発動！。「アンティーク・ギア」と名のついたモンスターを生け贄召喚する場アーイ、必要な生け贄の数以上のカウンターが乗っていれば、このカードを生け贄の代わりにする事ができるノーネ』

知っている。ハイトマン先生も使ってくるし…

『だんまりなノーネ。反応してくれないとつまらないーノ。…出でよ《古代の機械巨人》。』

アンティーク・ギアゴレム
《古代の機械巨人》

効果モンスター

星8 / 地属性 / 機械族 / ATK3000 / DEF3000

このカードは特殊召喚できない。

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、このカードの攻撃力が守備表示モンスターの守備力を超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

このカードが攻撃する場合、相手はダメージステップ終了時まで魔法・罠カードを発動できない。

《古代の機械城》が内部から崩れ落ち、中から城以上の大きさの巨人が這い出てくる。

《古代の機械巨人》：ATK3000

『《古代の機械巨人》がいれば、その伏せ（リバース）カードも怖くないですが、念には念を入れさせてもらうノーネ。まず、フィールド魔法《歯車街》を発動し、魔法カード《大嵐》を発動するノーネ！』

ギア・タウン
《歯車街》

フィールド魔法

「アンティーク・ギア」と名のついたモンスターを召喚する場合に必要なリリースを1体少なくする事ができる。

このカードが破壊され墓地に送られた時、自分の手札・デッキ・墓地から「アンティーク・ギア」と名のついたモンスター1体を特殊召喚する事ができる。

おおあらいし
《大嵐》

通常魔法

フィールド上に存在する魔法・罠カードを全て破壊する。

私とクロノス先生の両脇に黒っぽいビルや、古い機械が現れ活動しただした。

《歯車街》だからかそれらは歯車で出来ていたり、歯車を動力源にしていた。

しかし、その《歯車街》も突如発生した凄嵐によって消え去る。

ああ、私の《シンクロキャンセル》、《ユニコーンの導き》、《ドラグニティ・ムラサメ》が…

《ドラグニティナイト・グラシーザ》：ATK2700 2300

『そして、《歯車街》の効果、このカードが破壊されたとき、自分の手札・デッキ・墓地から「アンテイク・ギア」と名のついたモンスター1体を特殊召喚する事ができるのーネ！…私はこの効果でデッキから《古代の機械の巨竜》を特殊召喚！』

アンテイク・ギア
《古代の機械巨竜》

効果モンスター

星8/地属性/機械族/ATK3000/DEF2000

このカードが攻撃する場合、相手はダメージステップ終了時まで魔法・罫カードを発動できない。

以下のモンスターを生け贄にして生け贄召喚した場合、このカードはそれぞれの効果を得る。

グリーン・ガジェット：このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、このカードの攻撃力が守備表示モンスターの守備力を超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

レッド・ガジェット：相手プレイヤーに戦闘ダメージを与えた時、相手ライフに400ポイントダメージを与える。

イエロー・ガジェット：戦闘によって相手モンスターを破壊した

場合、相手ライフに600ポイントダメージを与える。

先生の場に《古代の機械巨人》に勝るとも劣らない大きさの大きな竜が出現する。

《古代の機械巨竜》：ATK3000

『このカードも攻撃時に相手の魔法・罠カードの発動をさせない効果を持っているノーネ！ バトルナノーネ！ 《古代の機械巨人》で《ドラグニティナイト・グラシーザ》を攻げーき！ アルティメット・パウンド！』

《古代の機械巨人》はその大きな巨体を俊敏に動かし、《ドラグニティナイト・グラシーザ》にパンチを繰り返す。

《ドラグニティナイト・グラシーザ》は元に戻った槍で応戦するも、パンチの圧力に屈し、竜もろとも潰された。

遊璃：LP4000 3300

『さらに、《古代の機械巨竜》で相手プレイヤーに直接攻撃するノーネ！アルティメット・ギア・バースト！』

《古代の機械巨竜》が口を開け、私に向かって大量の歯車を吐いてきた。

『きゃあああああ…』

遊璃：LP3300 300

『少し残ってしまったノーネえ。この程度の実力で伝統あるデュエ

ルアカデミアに入学しようとするなんーて冗談も程ほどにするノーネ！ 第一、シニョーラたち、女子生徒ーが筆記試験で1位などと絶対私は認めないノーネ！』

ブチン

私の頭のどこかで何か切れる音がした。

『女子生徒だからって』ボソ

『何か言ったノーネ？』

『女子だからって嘗めんじやないわよ！ 私だって雪乃だって、他の女子生徒だってデュエルが好きで必死に勉強して、デュエルアカデミアに入ろうと思ってるのよ！ それなのにその努力をも認めたくないなんて…絶対に許さない！』

『フン、そこまで言うのであればーバ、証明してみるノーネ。私の場には攻撃力3000のモンスターが2体いるのに対し、シニョーラの場合にはモンスターも、魔法・罫もない。手札が3枚あるにしてーも逆転は不可能ナノーネ。』

『じゃあ証明してあげる。自分のカードを信じれば、必ず勝機が見えることを！ 私のターンー！』

お願い、私に力を！

『ドロー……来たわ。』

『ぬっ！？』

『私は《ドラグニティ・アキュリス》を召喚！』

《ドラグニティ・アキュリス》

チューナー・効果モンスター

星2 / 風属性 / ドラゴン族 / ATK1000 / DEF800

このカードが召喚に成功した時、手札から「ドラグニティ」と名のついたモンスター1体を特殊召喚し、このカードを装備カード扱いとして装備する事ができる。

モンスターに装備されているこのカードが墓地へ送られた時、フィールド上に存在するカード1枚を選択して破壊する。

私の場に赤色の細長い竜が現れる

《ドラグニティ・アキュリス》：ATK1000

『さらに《ドラグニティ・アキュリス》の効果発動！ このカードの召喚成功時、手札から「ドラグニティ」と名のつくモンスター1体を特殊召喚し、このカードを装備する。出てきて《ドラグニティ・ミルトウム》！』

赤い竜の横に金髪で緑色の兜を被り、黄緑色の羽をもつ女性の鳥人が現れ、赤い竜が《ドラグニティ・ミルトウム》の肩に乗る。

《ドラグニティ・ミルトウム》

効果モンスター

星4 / 風属性 / 鳥獣族 / ATK1700 / DEF1200

自分の魔法&罠カードゾーンに存在する「ドラグニティ」と名のついたカード1枚を選択して発動する。

選択したカードを自分フィールド上に特殊召喚する。この効果は1

ターンに1度しか使用できない。

《ドラグニティ・ミリトゥム》：ATK1700

「今特殊召喚した《ドラグニティ・ミリトゥム》の効果発動！ 1ターンに1度、魔法・罨ゾーンに存在する「ドラグニティ」と名のついたカード1枚を選択し、そのカードを特殊召喚する！」

「なっ！」

「《ドラグニティ・アキュリス》を特殊召喚！」

《ドラグニティ・ミリトゥム》が持っている短剣で印を結ぶと肩に乗っていた《ドラグニティ・アキュリス》が戦闘態勢をとる

「そして、レベル4《ドラグニティ・ミリトゥム》にレベル2《ドラグニティ・アキュリス》をチューニング！」

今度は《ドラグニティ・アキュリス》が2つの輪と化し、《ドラグニティ・ミリトゥム》が4つの星となり、中を通る。

そして先ほどとは比べ物にならない光が辺りを照らす。

+ || x 6

「まぶしいから目を瞑るノーネ！」

「秘境の竜騎士が死に嘆く時、天から新たに雷槍らいそうを授かる。戦場を鎮める風となれっ！シンクロ召喚！殲滅せよ！《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》！」

光が収まると、電撃が走る真澄色の槍を持った真澄色の鎧を纏った女性騎士が、同じく真澄色の竜に跨っていた。

《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》

シンクロ・効果モンスター

星6 / 風属性 / ドラゴン族 / ATK1900 / DEF1200

ドラゴン族チューナー+チューナー以外の鳥獣族モンスター1体以上このカードがシンクロ召喚に成功した時、自分の墓地に存在するレベル3以下の「ドラグニティ」と名のついた

ドラゴン族モンスター1体を選択し、装備カード扱いとしてこのカードに装備する事ができる。

1ターンに1度、このカードに装備された装備カード1枚を墓地へ送る事で、このカードの攻撃力はエンドフェイズ時まで倍になる。

《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》 : ATK1900

『 : 高々攻撃力1900。貧弱すぎる攻撃力でスーネ! : 私のアンティーク・ギアには及びませーん!』

最低だ。

私だけでなくモンスターまでも馬鹿にするなんて...

『 《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》の効果で墓地の《ドラグニティ・アキュリス》を装備...』

『によ?』

『俺にはもう解説できん。』

社長……

『手札から永続魔法《竜操術》を発動。効果により、攻撃力を500アップする。そして、手札から《ドラグニティ・ブランドイストツク》を装備する……』

《竜操術》
じゅうそうじゆつ

永続魔法

「ドラグニティ」と名のついたモンスターを装備した、自分フィールド上に存在するモンスターの攻撃力は500ポイントアップする。また、1ターンに1度、手札から「ドラグニティ」と名のついたドラゴン族モンスター1体を装備カード扱いとして自分フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体に装備する事ができる。

《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》 : ATK1900 2400

『まだまだ、届きませんーノ!』

『《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》の効果、1ターンに1度、このカードに装備された装備カード1枚を墓地へ送る事で、このカードの攻撃力はエンドフェイズ時まで倍になる…私は《ドラグニティ・アキュリス》墓地へ送り、《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》の攻撃力を倍にする。』

《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》 : ATK2400 4800

『攻撃力4800ツ：私の最強モンスターより大きいノーネ!』

『まだよ!』

『まだあるノーネ?』

『墓地に送られた《ドラグニティ・アキュリス》の効果発動! このカードが装備カード状態で墓地に送られた時、フィールド上のカードを1枚破壊する。《古代の機械巨竜》を破壊!』

『にやにい!』

墓地に送られた《ドラグニティ・アキュリス》がフィールドに出現し、《古代の機械巨竜》に突進した。

そして《古代の機械巨竜》の動力源を破壊したのか、《古代の機械巨竜》は動きを止め崩落した。

『そしてバトル! 《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》で《古代の機械巨人》を攻撃。《ドラグニティナイト・グラシーザ》ヴィクテム・ライトニングの敵をとるのよ! 救済の雷撃!』

《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》の槍から白色にまで変化した雷撃が放たれ、《古代の機械巨人》を跡形もなく破壊した。

クロノス：LP2600 800

『でもライフは残ったノーネ!』

『いいえ。このターンで……終わる。装備されている《ドラグニテ

イ・ブランディストックの効果、それは装備されているモンスターに2度目の攻撃を可能とする。だが貴方に救済を求める価値はない。いけ！《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》！
直接攻撃ダイレクトアタック

『！』
《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》が再度槍を構え、今度はクロノスに向けて黒っぽい雷撃を放つ。

『ペペロンチノ』

クロノス：LP8000

遊璃：WIN

『勝者、受験番号1番 不動遊璃！』

ここで途中から黙っていた社長が宣告する。

『…あれ？私今まで、何を。』

途中から意識が遠くなった気がしたけど、先生が倒れているのだから、私が勝つたのよね？

でも全然記憶がないのは何でだろう？

私はこのことを不思議に思いながら、静まり返っているデュエル場を後にした。

-
-
-

後日

私の元に試験結果が届いた。

無事合格という結果だった。

しかも校長先生から筆記満点、実技の内容が1位ということなので、私だけ制服のデザインを変えてもいいという。

じゃあ、遠慮なく”元の世界のデュエルアカデミアの女子生徒の制服”よね。

そう決めて私は、校長先生にデザインなどを送るのだった。

・・・To be continued

8話：古代の機械と白槍の竜騎士（後書き）

はい。VSクロノス戦をお送りしました。

他作品を読んでいるとクロノスの《古代の機械巨人》を《トロイ・ホース》を使って出すのが圧倒的に多いので、本作品では《古代の機械城》を使ってみました。

そして社長の解説になっていない解説。どうでしたでしょうか。

前話、3つ前の話で使っていない有名な台詞を出し尽くそうとした結果、社長には意味不明な実況を頼むことになりました。

因みに観客はシンクロ召喚と遊璃の変貌に驚きすぎて、社長のことを忘れていきます。

また1度観客の台詞を書いたときの台詞の持ち主は

『本気^{マジン}かよ。』 モブキャラA

『たった、1枚で攻撃力2700の貫通効果持ち。』 気弱^{しやう}な水色

『無理だ。レベルが違いすぎる。』 モブキャラB

『すっげー、すっげー。あいつとデュエルしてーよー!!』 決闘^{じゆうた}馬鹿

『これが1番のデュエル!』 さらに影の薄^{みさわ}くなった人
です。

4番と5番目は誰だかはつきり分かったと思いますが、翔のことが分かった方いらっしゃいましたか？

そして 遊璃のストレスがついに限界点に達しました。

過去に來ただけで相当参っていたのに、そこに自分だけでなく自分の大切なモンスターも罵倒されたことで遊璃の堪忍袋の尾が切れたみたいです。

イメージとしてはフォーチュンカップ、アキVSフランクの最後の部分のアキと同じ感じです。

因みにDMの遊戯みたく1人の体に2つの魂というわけではないのであしからず。

この豹変した性格はストーリーを進めることで明らかになります。

因みにしばらく限界までストレスを溜めることはないと思いますが、遊璃を馬鹿にすると怖いです。はい。

私も書きながら悪寒が…(え

今回は、入学式にしようかなと思います

ではでは

それと今回使用した《ドラグニティ・ムラサメ》、《ドラグニティ ナイト・グラーシーザ》はガイウス様さん、ユタさんが提供してくださったオリカです。お二方オリカ提供ありがとうございます。

9 話・デュエルアカデミア入学！（前書き）

さて、いよいよ第1章です。

そして、クロノスが……南無

それではどじろー！

9話：デュエルアカデミア入学！

side yuri

・デュエルアカデミア・港・

私は今デュエルアカデミアの港にいます。

ちょっと船での出来事を回想…

船の中で知り合った、決闘馬鹿ゆっきじゆうだいや影みさわの薄い人だいちに決闘デュエルを申し込まれましたが、アカデミアの環境に慣れるまでと断ったり、遊城君を”兄貴”と慕う気弱まるぶじそうな水色の髪しやうの少年しやうにシンクロ召喚は卑怯だと言われたけれど。

『卑怯って言われても私のデッキを否定するつもり？』

『そうだよ。手札1枚で攻撃力が2700になったり、装備カードを墓地に送るだけで攻撃力4800の2回攻撃だなんて卑怯だよ！
どうやって勝てばいいのさ！』

本当に1部しか見てないのね…

しかも4800で2回攻撃って何だろう？

全く記憶がないんですけど…

『入学試験は相手が実技担当最高責任者だったので本気を出さなきゃいけないかつし、シンクロ召喚をしちゃいけないなら私、もう決

闘する気にはならないわ。』

だって「ドラグニティ」の真骨頂はシンクロだものね…

『いいよ。僕は試験とかでなければ不動さんと決闘しないし、見ないから。』

『それ、本気？』

『うん！』

『じゃあ、必然的に遊城くんと決闘もなくなるけどそれでもいいの？』

『えっ！？』

『さっき、貴方遊城君の事を「兄貴」って呼んでいたわよね。』

『うん。そのどっこが悪いのさ』

『悪くはないわよ。だけど、兄貴と呼ぶのだから試験にしても付いていくのでしょうか？』

これで そうだ と答えたらもうストーカーに近いわ……そうだよよって言ったわね。

『なら貴方は私の決闘を見ないとも言った。だから遊城君と私の決闘も見ないということになる。だけれどね……』

そこで今まで黙っていた雪乃が繋げる

『坊や、デュエルしていれば必然的に遊璃のデュエルを見てしまう。貴方はそれを否定したのよ』

『そ、そんなの屁理屈じゃないか！』

この抗議予想済みよ

『屁理屈かもしれないけれど、貴方の言ったことはそういうことよ！・・・自分の発言には責任を持ちなさい。』

『う、う、うわあああああん・・・』

丸藤君はそのまま泣きながら私の元と去っていった。

きっと遊城君にも迷惑をかけたと思っているのでしょう

『おい、翔！…たくあいつは……それよりも不動、俺とのデュエルなしか？』

遊城君、困っている。面白い。

ハッ私今何を…

『丸藤君がいなければOKよ。』

『よかったあゝ。じゃあデュエルするときはよろしく頼むぜ！』

遊城君はそのまま私の元を去った。

『じゃあ、俺も…』

『あれ？ 貴方誰でしたっけ？ いつからそこにいましたの？』

雪乃が言う。

『三沢大地だ！ちゃんと挨拶したし、最初からいた！』

『あら、まあ…』

『それよりもよろしく頼むよ。不動さん。』

『ええ。』

そうして影の薄い人も遊城君のあとを追った。

『それにしても、さっきの丸藤翔君を弄っていた時の遊璃。可愛かったですわ。もう食べちゃいたいくらい。待ったの嬉しいわよね？ いっただきま…』

ピピ

戒鷲へ雪乃、ストップ。私は待ってて言ったが、まだ2話しか経ってないぞ！ 少しは自重しろお！」

あれ？ 今作者さんの心の声が聞こえたような？ 気のせいかな？

ともあれ、この後は何もなく私たちはデュエルアカデミアについた。

回想終了

船の中でのことを思い出していたら、いつの間にか入学式の会場に着きました。

暫くするとハゲ、ゲフン…髪の毛を剃っている？ 赤い服のおじさんが入ってきた。

『皆さん、こんにちは。デュエルアカデミアにようこそ。私は校長の鮫島といたします。皆さんのこれからこの島での活躍を期待しますよ。』

それだけ言つと校長先生は部屋から退出した。

短くていいな〜

長いと疲れるからね…立ってるし！

そこにおかっぱ…いやクロノス先生が来た。

『ええつと、生徒諸君ーハ、各寮長の支持に従つて寮の自室に行くノーネ！ オベリスクブルー男子ーハ、私の所用があるので鮎川先生と、オベリスクブルー女子生徒と一緒に行って欲しいノーネ！ ……それと、シニョーラ不動遊璃はこのあと私と一緒に来て欲しいノーネ！ 以上解散ナノーネ！』

えっ!？

私？

何か悪いことしたっけな…

全く心当たりがないのだけれど私はクロノス先生に付いていった。

・

・

・

・

・デュエルアカデミア・校舎内・クロノスの部屋・

つくなり、クロノス先生は私に土下座した。

えっ!？

なんで？

とりあえず

『あの、頭を上げてください。どうしていきなり土下座を…』

『その節はすみませんでしたノーネ！ 女子生徒を怒らせるところになにも怖いことを私は知らなかったノーネ!』

えっと、全く記憶がないんですけど…

考えているとクロノス先生自身が勝手に話しました。

反省せずに不動遊璃への復讐計画を本格的に練り、私は再び眠りに付いた。

……今度は白い空間にいた。

そして私はデュエルディスクをしていた。

ライフポイントが - 3 4 4 0 0 になっていたので異常な攻撃力で負けたのが分かった。

私は、とりあえず身を起こした。

そこに更なる悪魔がいることに気付かず…

・
・
・
・
・

『殺れ！』

私ができ上がった瞬間、私の正面に立っていた白いコートを着た女性（声色で判断）が物騒なことを言ってきた。

すると左手から青い服を着た少女が

『《シュー……グ・スター……ゴン》攻撃力2000000で5連打！友を侮辱した罪、屈辱で償え！』

』

まだ意識が回復しきれていなかったのでモンスターの名前も聞き取れなかったが、

5色の同じ巨大な竜が私に突撃してきた。

『マンマミーアアアアア………』

当然私は吹っ飛ばされ、

唯でさえ私のライフは - 34400 だったのに - 1034400 になつた。

そして飛ばされた先には、大人の女性と思われる人物がいてその人の後ろには

3つ首のなんだか凍えてしまいそうな龍。

100個の目を持つ黒い龍。

黒い体躯に悪魔の羽のような部分を持つ龍。

巨大な黒く、時折青い模様のある怪物。

黒の電撃を纏う堕ちた神がいた。

そして女性は言い放つ！

『《氷結界の龍 トリシューラ》、《ワンハンドレット・アイ・ドラゴン》、《インフェルニティ・デストラゴン》、《地縛神 カバク C C』

a p a c A p p ^{アプ}、《ダーク・クリエイター》でダイレクトアタック！ 教師の風上にも置けねえんだよテメエ！ サティスファクション・デス・ストリーム！」

全てのモンスターの名前を知らなかった。

私は当然逃げようともがいたが、ライフが - 1034400 であるためか動くことは叶わなかった。

『ペペロンチーノオオオ...』

そして私は5体のモンスターの攻撃により私のライフは - 1048600 になった。

攻撃も痛かったが、私には女性の言葉が一番印象的だった。

私は教師として正しいことをやって来たのか？

ただ弱いものいじめをしてきただけだったのではないか。っと私は思い始めた。

…そこに、最初に攻撃を仕掛けた少女と最初に命令していた女性 - よく見たら少女だったが、

その2人が近づいてきてこう言った。

「…こんな感じでよかった？」

「オツケー、下準備完璧。」

下準備？

あれが下準備だというのが。

もしこのまま反省しなければ、ずっとこんな目にあうのかっと思像したら背筋が強張った。

そして白コートの少女が悪魔とっていい、巨大な龍を召還し、その龍に数々の魔法カードを使用していく。

それが終わると、そこには最初とは比べ物にならないまさに悪魔の化身がいた。

「では改めて：《スカーレット・ノヴァ・ドラゴン》、攻撃力12億8600万でダイレクトアタック！ 森羅万象、全てを燃やし尽くせバーニングソウル！ 女ナメるなこの野郎！ 友侮辱するなオカッパタラコ。」

悪魔が身体を炎とし、私に突っ込んでくる。

・
・
・

そして、私の世界は白一色に染まった。

気付くと私はベットから落ちていた。

起きるとまず最初に机の上にあつた
計画書を始末した。

side out

side yuri

クロノス先生が涙ながらに語った夢の話。

私は夢の中の人物は誰だか分からないが、夢の中でクロノス先生を
懲らしめた4人の人に言いたい。

ありがとう。と

これからクロノス先生が良い先生になれば、このアカデミアも良くなるだろう。

そう思ったのでクロノス先生に言った。

『許します。』

『えっ?』

『だから許しますって、先生は反省したのでしょうか?』

『したノーネ! もう”女子生徒”は差別しないノーネ!』

『ならばよし！　じゃあ私はもう行きますね。』

『分かったノーネ！』

クロノス先生の言葉を聞き、私は部屋をあとにした。

side out

side kuronosu

シニョーラ遊璃に許してもらえて良かったノーネ！

でもドロップアウトボーイはまだ許せないノーネ！

だから、ラブレターでも書くノーネ！

ウシシ！

女子のお風呂を覗いたところを証拠としてここから追い出してやる
ノーネ！

・・・To be continued

9 話：デュエルアカデミア入学！（後書き）

島に着く前に翔を十代の金魚の糞にしました。

そして遊璃に対する挑発の数々。

弱いのに…挑発するとは、よほど十代の存在が大きいのですね…

私は遊戯王GXの中で翔が一番嫌いなので、十代とのデュエルにも連れて来させないようにしちゃいました。

翔好きの皆さんごめんなさい。

そしてクロノスを女子生徒限定で更生させました。

でないとVSタイタンとか消えますから…

それに作者1期のカミューラ戦までのアニメのクロノス大嫌いです

個人的な理由ですがこういう訳で更生させました。

そして雪乃、頼むから自重しろー！！

今回は歓迎会とVS雪乃です。

なんか雪乃が賭けをしそうな気がして仕方ないのですが・・・

そしてFOOLさんと言羽さんの感想で投稿された部分を少し編集してクロノス更生の為の夢に書きました。

お2人には夜分に許可を求めに行ってすみませんでした。

うまく組み合わせてみたのですが、納得がいったでしょうか？

いっていれば本当に嬉しいです。

番外編・mission タイム・シンクロン を起動せよ！（前書き）

さて本編も10話に行ったのでそろそろ未来の遊星達は どうしているか書きたいと思います。

希望があれば今後も続けていきます。

今回の登場キャラは遊星、アキ、ジャック、クロウ、龍亞、龍可、鬼柳です。

因みに召喚のルール無視ですのでご了承を。

感覚としては《虹の橋ビフレスト》を出したときのチームラグナロクか

DM ドーマ編の最後でリヴァイアサンと対峙した遊戯、城ノ内、海馬がやたらと召還を繰り返したようなものです

あとデュエルじゃないので効果を掲載しません

それではごっごぞー！

番外編・mission タイム・シンクロン を起動せよ！

side yusei

遊璃を過去の世界に飛ばしてしまった一カ月後、

『なあ、遊星急にどうしたのさ〜俺達を呼び出して』

龍亜の言葉に集まってくれたメンバー

WRGPでチームとして活動したブルーノ以外のメンバー
ジャック、クロウ、龍亜、龍可、アキ

とチームサテイスフアクションで俺達のリーダーを務めてくれていた鬼柳は頷く。

『ああ、実は折り入って頼みがあつてな…』

そして俺は遊璃を実験に巻き込んでしまったことを話した。

『そ、そんな…遊璃！』

アキは泣き崩れ

『遊星！俺達はなあ、シティで遊璃を探していたんだ！どうして連絡をよこさなかった』

とクロウは激怒し、

『遊璃が……』

龍亞と龍可が言葉を失う。

『……』

ジャックと鬼柳はしゃべらずにいた。

・

・

・

・

『それで貴方。遊璃を助ける方法はあるの？』

泣き止んだアキが聞いてくる。

『ああ、タイム・シンクロンは俺が遊璃に通信を試みて以来、エネルギーを失っている。だからそのエネルギーを満たせばきっと過去への扉が開く』

『……遊星、そのエネルギーの溜め方は分かるのか？』

鬼柳の問いに俺は答える

『タイム・シンクロンのエネルギーの源はモーメントに使われている遊星粒子だ。だからデュエルモンスターズを使ってエネルギーをためる。』

『遊璃に通信をしたときのエネルギーは、どうしたんだ？』

今まで黙っていたジャックが口を開く

『今までのエネルギーは過去への通信で全て枯渇してしまった。だから今タイム・シンクロンのエネルギーはないに等しい。』

『そのエネルギーをどのくらい溜めればいいのか？』

アキが再び聞いてくる。

『正直俺には分からない。だが多いに越したことはない。だから皆頼む。俺に遊璃を助けるための力を貸してほしい』

『遊星。俺をなんだと思っている。』

・・・ジャック

『そつだよ遊星』

・・・龍亞

『仲間が困っているのに顔を背けられるかよ』

・・・クロウ

『私に出来ることがあったら言って！遊星』

・・・龍可

『貴方・・・遊璃を助けましょう』

・・・アキ

『・・・俺を忘れちゃ困るぜ』

・・・鬼柳

みんな、ありがとう。

『タイム・シンクロンのエネルギー供給装置はこっちだ。皆付いてきてくれ!』

俺はそういい残し、皆を案内した。

s i d e o u t

n o s i d e (誰だかわかりにくいのでここだけ台本式)

遊星『ここだ!』

ジャック『ここは・・・』

鬼柳『・・・巨人の塔』

遊星が案内したのはかつて旧モーメントの動力源の1つだった塔であつた。

アキ『それで、どこにそれがあるの?』

遊星『この塔全てだ』

クロウ『全て！？いくらなんでも滅茶苦茶だぜ！』

遊星『すまない。タイムシンクロンにはまだまだ謎が多いんだ。』

クロウ『別に攻めちゃいねーぜ！』

鬼柳『さつさとやろっぜ！』

遊星『ああ。皆いくぞ』

全員『おう！（ああ！）（うん！）【ええ。】』

そういつてそこに集まった全員がデュエルディスクを起動する。

クロウ『まずは鉄砲玉のクロウ様がいくぜ！』《BF・暁のシロツコ》を召喚！ 更に 黒き旋風よ、天空へ駆け上がる翼となれ！シンクロ召喚！《BF・アーマード・ウィング》！、漆黒の力！大いなる翼に宿りて、神風しんぷうを巻きおこせ！シンクロ召喚！吹きすさべ！《BF・アームズ・ウィング》！、吹きすさべ嵐よ！鋼鉄の意志と光の速さを得てその姿を昇華せよ！シンクロ召喚！これがオレのもうひとつの翼！出るっ！《BF・孤高のシルバー・ウィンド》！最後だ！黒き疾風よ！秘めたる想いをその翼に現出せよ！シンクロ召喚！舞い上がれ、《ブラックフェザー・ドラゴン》！』

クロウの場に青色の頭を持つカラスと人間を足したようなモンスターが現れ、その横に4つの光が柱のように出現する。

その光が晴れると、中から赤いコアのような顔をもち硬い羽をもつ鳥人、よく砥がれた剣を持ち、高速でその身体を動かす鳥人、二刀流で細長い刀を持つ鳥人が現れ、その後ろにはひととき大きなカラスのような頭を持ち、黒い大きな羽を持つ龍が現れた。

クロウ『次は誰がいく？』

龍亞『はい、俺、俺、俺が行きまーす』

龍可『龍亞〜。私もいくわ。』

龍亞『世界の平和を守るため、勇気と力をドッキング！シンクロ召喚！愛と正義の使者、《パワー・ツール・ドラゴン》！そして《ディフォーマーD・ライトン》を召喚しチューニング！世界の未来を守るため、勇気と力がレボリユーション。シンクロ召喚！進化せよ、《ライフ・ストリーム・ドラゴン》！最後に《死者蘇生》を発動！《パワー・ツール・ドラゴン》を特殊召喚！』

左手にシヨベル、右手にドリルを装備した機械の竜が龍亞の前に現れ、その後に出現した懐中電灯としか思えないモンスターと新たな姿へと昇華した。そのモンスターは《パワー・ツール・ドラゴン》と同じような顔をしているが、その身体は筋肉質である。

最後に龍亞は《死者蘇生》で《パワー・ツール・ドラゴン》を特殊召喚した。

龍亞『龍可、いけるかい』

龍可『大丈夫よ龍亞。私は、《レグルス》、《サンライト・ユニコーン》、《クリボン》、《サニーピクシー》を召喚。そして！聖なる守護の光、今交わりて永久の命となる。シンクロ召喚！降誕せ

よ、《エンシエント・フェアリー・ドラゴン》！」

龍可の前に角の生え、武装したライオン、青く淡く光る白い馬、尻尾が長くリボンをつけている《クリボー》、小さな4つの羽根をもつ妖精が現れ、それらのモンスターを束ねる水色の身体を持ち、目が赤く大きい、そして人語をしゃべる龍が現れた

エンシエ（長いから略）『龍可、事情はカードの中で聞いていました。私達も協力しましょう』

レグルス『エンシエント・フェアリーさまのお心のままに！』

クリボン『クリリーツ』

サンライ『ヒヒーン！』

サニー『……』 『しゃべれない』

龍可『皆……宜しくね。』

精霊『『『『ええ（ああ）（クリリ）（ヒヒン）（……）（……）』』』』

……

鬼柳『……次は俺だ！満足させてくれよっ！ 《インフェルニティ・デーモン》、《インフェルニティ・ビースト》、《インフェルニティ・ビートル》、《インフェルニティ・デストロイヤー》を召喚！そして！死者と生者、ゼロにて交わりしとき、永劫の檻より魔の竜は放たれる！シンクロ召喚！いでよ、《インフェルニティ・

デス・ドラゴン』！』

鬼柳が一気に手札を並べだす。

するとフィールド場には山羊の頭をもつ典型的は悪魔、色々な色の混じった狼、もはやカブトムシでいいんじゃないかね？という形の昆虫、黒い炎を纏う説明のしづらい魔人が出現し、その後ろに一筋の光が溢れ、そこからは黒い身体に黒い羽を持つ悪魔竜が現れた。

鬼柳『まだだ！ やっぱり、《地縛神 コカバク C c a p a c アブ A p u』と

《ワンハンドレッド・アイ・ドラゴン》がいなくちゃ満足できねえぜ……』

遊星『鬼柳！ 地縛神とダークシンクロモンスターはやめてくれ！

状況が悪化する。』

鬼柳『分かっているからやらねえよ！ ……まったく満足できねえぜ！』

……

アキ『次は私ね！ 遊璃。待っていて必ず助けるから！ 私は、《黒薔薇の魔女》、《ブルー・ローズ・ドラゴン》、《フェニキシアン・シード》を召喚し効果でリリース、手札から《フェニキシアン・クラスタ・アマリス》を特殊召喚！ そして……聖なる森に潜みし華麗なる棘の狩人よ、戒めの鞭を持ちて今こそ姿を現せ！ シンクロ召喚！ 現れる、《スプレンドイド・ローズ》！ 最後に、冷たい炎が世界の全てを包み込む。漆黒の華よ、開け！ シンクロ召喚！ 咲き乱れよ、《ブラック・ローズ・ドラゴン》！』

アキの場には紫の髪が生え、ゴスロリだろうと思われる服を着た魔女、青い薔薇を身体に生やし、黒色の身体を持つ竜、種から一気に不死鳥の名を冠する花へと成長した植物、薔薇と人を合わせたような女性型のモンスターが出現し、その後ろから赤い薔薇に黒い身体を持ち、《ブルー・ローズ・ドラゴン》とは身体の大きさからして違うモンスターが現れる。

――

ジャック『最後は頼むぞ遊星！』

遊星『ああ！』

ジャック『俺は最初からシンクロモンスターで行く！王者の叫びがこだまする！勝利の鉄槌よ、大地を砕け！シンクロ召喚！羽ばたけ、《エクスプロード・ウイング・ドラゴン》！王者の鼓動、今ここに列をなす。天地鳴動の力を見るがいい！シンクロ召喚！我が魂、《レッド・デーモンズ・ドラゴン》！まだだ！罫カード《バスター・モード》を発動！《レッド・デーモンズ・ドラゴン》をリリースし、来い《レッド・デーモンズ・ドラゴン/バスター》！そして《ロスト・スター・ディセント》を発動し、《レッド・デーモンズ・ドラゴン》を特殊召喚！更に《救世竜・セイヴァー・ドラゴン》と遊星の《スピード・ウォリアー》（1回目）を借りて召還しチューニング！研磨されし孤高の光、真の覇者となりて大地を照らす！光輝け！シンクロ召喚！大いなる魂、《セイヴァー・デーモン・ドラゴン》！・・・2枚目の《ロスト・スター・ディセント》を発動し《レッド・デーモンズ・ドラゴン》を特殊召喚！そして、《ダーク・リゾネーター》と・・・

』

クロウ『どうした？ジャック！』

ジャック『モンスターゾーンが空いていなあああいー！』

クロウ『調子に乗って出しすぎなんだよ！何回、《レッド・デーモンズ・ドラゴン》出しているんだ！』

ジャック『まだ3回だ。ならば空いているモンスターゾーン・・・龍亞の場に《ドレット・ドラゴン》を召喚し、罾カード《シンクロ・マテリアル》を発動！これで相手の場のモンスターもシンクロ素材に出来る。レベル7《レッド・デーモンズ・ドラゴン》にレベル3《ダーク・リゾネーター》と龍亞の場の《ドレット・ドラゴン》をダブルチューニング！王者と悪魔、今ここに交わる。荒ぶる魂よ、天地創造の叫びをあげよ。シンクロ召喚！いでよ、《スカール・レッド・ノヴァ・ドラゴン》！最後に《死者蘇生》！4度舞たひい戻れ！《レッド・デーモンズ・ドラゴン》！』

ジャックの場には遊璃戦でも出てきた紫の龍、堅固なアーマーを纏った《レッド・デーモンズ・ドラゴン》！、桃色の龍とシンクロしたからか、全身が白く光っている大きな《レッド・デーモンズ・ドラゴン》、悪魔と交わりより強力な力を入れた《レッド・デーモンズ・ドラゴン》！最後に普通の《レッド・デーモンズ・ドラゴン》が現れた。

クロウ『4回ってどんだけ過労死させてるんだよ！』

ジャック『フン、遊星スレッド・ウオリアーの過労死戦士よりましだ！』

クロウ『・・・そうだな』

.....

遊星『最後は俺だ！いくぞ！』

遊星『《ジャンク・シンクロン》を召喚！その効果で《スピード・ウオリアー》を特殊召喚！《スピード・ウオリアー》（2回目）に《ジャンク・シンクロン》をチューニング！集いし星が新たな力を呼び起こす。光さす道となれ！シンクロ召喚！いでよ、《ジャンク・ウオリアー》！1枚カードを伏せ、今伏せた《リミッター・ブレイク》を墓地へと送り、《カード・ブレイカー》を特殊召喚。そして《リミッター・ブレイク》の効果で墓地から《スピード・ウオリアー》を特殊召喚！さらに《レベル・ステイラー》と《ニトロ・シンクロン》を召喚！《スピード・ウオリアー》（3回目）と《レベル・ステイラー》、《カード・ブレイカー》に《ニトロ・シンクロン》をチューニング！集いし思いがここに新たな力となる。光さす道となれ！シンクロ召喚！燃え上がれ、《ニトロ・ウオリアー》！さらに《エンジェル・リフト》！墓地から《スピード・ウオリアー》を特殊召喚！その後、手札の《ボルトヘッジホッグ》を捨て、《クイック・シンクロン》を特殊召喚。《スピード・ウオリアー》（4回目）に《クイック・シンクロン》をチューニング！集いし叫びが木霊の矢となり空を裂く！光さす道となれ！シンクロ召喚！いでよ、《ジャンク・アーチャー》！そして《リミッター・リバーズ》を発動！墓地から《スピード・ウオリアー》を特殊召喚！手札から2枚目の《ジャンク・シンクロン》を召喚！フィールドは埋まったが、俺もジャックのように龍亞の場を利用する！手札から《マッシュ・ウオリアー》を龍亞の場に召喚し、《シンクロ・マテリアル》を発動！《スピード・ウオリアー》（5回目）、《マッシュ・ウオリアー》に《ジャンク・シンクロン》をチューニング！集いし闘志が怒号の魔神を呼び覚ます。光さす道となれ！シンクロ召喚！粉碎せよ、《ジャンク・デストロイヤー

《！ まだだ。俺は、《ハイパーシンクロン》を召喚！さらに《ギブ&テイク》！ 龍亞の場に《スピード・ウォリアー》を特殊召喚し、《ハイパー・シンクロン》のレベルを2上げる！ もう1度、《シンクロ・マテリアル》！ 《スピード・ウォリアー》（6回目）に《ハイパー・シンクロン》をチューニング！ 集いし願いが新たに輝く星となる。光さす道となれ！シンクロ召喚！飛翔せよ、《スターダスト・ドラゴン》！』

遊星の場のカードはめまぐるしく入れ替わり、何度も人工呼吸器のようなものを付けた戦士が出現したが、最後には紫色で背中にターボをつけている戦士、緑色で角のない鬼のような形相をしている後ろにロケットをつけた戦士、真澄色で弓を持っている戦士、黒い4つの手を持ち、破壊の限りを尽くす戦士。最後に全体的に白であるが、体のあちこちが光っている若干ライトグリーンが混じっている龍が現れた。

ジャック『言っただろう！ 俺の方が少ないと』

クロウ『ああ、ジャックのも合わせて6回も使いやがったぜ！』

他の皆も唾然としている。

遊星『？ どうした皆。全員のモンスターの攻撃をあれに注ぎ込むんだ！』

.....

今回はこのままでします

番外編・mission タイム・シンクロン を起動せよ！（後書き）

はい、ルール無用。《レッド・デーモンズ・ドラゴン》と《スピード・ウォリアー》の過労死はどうだったでしょうか？

そしてタイム・シンクロンは起動できるのか？

明日、用事があるので勝手に中途半端なところでできました。

途中変な説明が多かったですが、説明しにくいモンスター達なので許してください。

次の番外編は・・・いつになるか分かりません。

皆さんの反応しだいで決めます

ではでは

書き終わった後に《ジャンクデストロイヤー》が出せないことに気が付きました。

よって2枚目の《ジャンクシンクロン》に修正しました

10話：歓迎会と友への告白、同調と混沌が交わる先に（前書き）

さて、クロノスを女子生徒限定で更生させた後の歓迎会の話です。

後半に遊璃VS雪乃。

ついに雪乃の初デュエルです。

3/1 追記）vs海馬戦の《シンクロキャンセル》のミス部分を正しい方法に変えました。

内容には変わりがありますが、ルールミスが気になっていた方は戻って読み返してください。

10話：歓迎会と友への告白、同調と混沌が交わる先に

side yuri

私はクロノス先生との対談のあと、これから私の暮らす”オベリス
クブルー女子寮”に向かった。

そして入り口で待っていた雪乃と合流する。

『遊璃待っていたわ!』

『雪乃、ごめんね。待たせちゃって!』

『いいわ。気にしてないから…それと鮎川先生から貴女に伝言よ。』

『伝言?』

『伝言より通達の方がいい気がするけれど、2つあるから1つ目を
言うわね。今日の歓迎会には絶対参加すること。だそつよ。そして
もう1つは遊璃の部屋で話すわ。場所はもう私が確認済みよ。行き
ましょつ!』

『……うん!』

私は雪乃に引つ張られながらブルー女子寮の中に行くのであった。

・
・
・

・ブルー女子寮・遊璃私室・

(部屋の説明は苦手なのでパスします。

すみません。

部屋はアニメの明日香部屋と同じ感じと想像していただければ。)

『ここが…私の部屋?』

『そうよ。正確には”私たち”の部屋だけだね!』

『私たちの?どういうこと?』

『鮎川先生の話によると、「急に寮の不動遊璃さんの部屋に欠陥が見つかって、入れなくなってしまったの。だから部屋の欠陥が直るまで不動遊璃さんと相部屋をしてくれる人はいない?」って言われたから私は即立候補したわ!』

『…雪乃。…ありがとうございます!』

『どういたしまして。遊璃これから”親友”兼”ルームメイト”として宜しくね!』

『…うん。こちらこそ』

私は雪乃と握手をして、友達から親友になった。

・
・
・
・

時は経ち歓迎会

私たちは今、オベリスクブルー女子寮の食堂にいる。

どうやら歓迎会とは上級生の人達と食事をするみたいだ。

さきほど3年生の女子生徒と鮎川先生の話があり、それから皆で食事をはじめた。

今日は立食形式だ。

けれども私はどちらかという小食なので少し食べたらお暇するとする。

そのことを雪乃に話すと

『じゃあ先に大浴場に入っていて！私ももう少し食べたら行くからいい。私が行くまで出ちゃだめよ！』

『分かったわ。先に言っているわね。でもそこまで子供扱いしないで。私だってもう16歳よ』

『分かった分かった。』

本当に分かっているのか分からないけれど、私は先に大浴場に向かった。

ここから数行分お風呂シーン

この小説に今までに危ないところはあれども

R指定はないのでカット！

私は雪乃とともにお風呂から上がって部屋で涼んでいた。

ベットはいつの間にか2つになっていた。

私たちは大浴場である程度は乾かしてきた髪を梳かしながらベットの腰掛けている。

梳かし終えた頃を見計らって雪乃が話しかけてきた。

『ねえ、遊璃？』

『ん？』

『私たちって筆記試験で知り合ってから一ヶ月近くたつけど、お互いのこと全然知らないわよね』

『そうね。』

確かに知らない、雪乃の事も私は知りたいけれど、私は未来から来たことをあまり言いたくない。

どうすればいいの？

『だから、お互いに分かり合わない？』

デュエルでね』

『デュエル？』

『そ、デュエル。お互いの事を知るなら、言葉で話すよりカードで語りましょう！』

その言葉、一ヶ月前に聞いたばかりだよ

『クスッ』

思わず笑ってしまった

『な、何で笑うのよ』

『ご、ごめん。海馬社長と初めてデュエルしたときに同じ事を言われたからつい、ね。』

『そうなんだ。で・・・デュエルする？』

『しましょう。場所は女子寮の中は狭いから外にしましょう！本当なら湯上りだと出たくないけれど、ここなら暖かいし、大丈夫ですよ。』

『そうね。じゃあいきましようか!』

『ええ。』

・

・

・

・

- オベリスク・ブル女子寮前 -

外は夜だったが、意外に明るかった。

月は雲に隠れることなく、辺りを照らしている。

私たちは女子寮入り口から少し離れた場所でお互いに向き合っていた。

そして、お互いに何も言わずに構え、タイミングを見計らって言い放つ

『『デュエル!』』

遊璃：LP4000 / 雪乃：LP4000

『先攻は私がもらっていいかしら?』

『いいですよ』

『では、私のターン、ドロー。』

そういつて雪乃は穏やかにカードをドローする。

『私は、手札から《ソニックバード》を守備表示で召喚。効果によりデッキから《高等儀式術》を手札に加えるわ。』

《ソニックバード》

効果モンスター

星4 / 風属性 / 鳥獣族 / ATK1400 / DEF1000

このカードが召喚・反転召喚に成功した時、自分のデッキから儀式魔法カード1枚を手札に加える事ができる。

《高等儀式術》

儀式魔法

手札の儀式モンスター1体を選択し、そのカードとレベルの合計が同じになるように自分のデッキから通常モンスターを墓地へ送る。選択した儀式モンスター1体を特殊召喚する。

雪乃の場にジェット機を背負った鳥が現れた。

《ソニックバード》：DEF1000

そして雪乃はデッキから1枚のカードを見せて手札に加える。

『儀式デッキですか。』

『ええ。でも先行だから何もしないわ。カードを1枚伏せて、ターンエンド。』

雪乃の場に1枚の伏せカードが現れる。

そして最後まで穏やかな口調で雪乃はターンを終えた。

『私のターンね。ドロー…カードを1枚伏せ、《霞の谷のファルコン》を召喚。』

私の場に白い髪で、どこかの民族衣装を着たような青年が現れる。

《霞の谷のファルコン》：ATK2000

『レベル4 攻撃力2000っ！強いわね。』

『ただこのカードは自分フィールド上のカード1枚を手札に戻さないと攻撃できないデメリットを持っているの』

『そう、…じゃあさっき伏せたカードが。』

『《霞の谷のファルコン》で《ソニックバード》へ攻撃！伏せたカードを手札に戻す』

『…どっぞ』

《霞の谷のファルコン》は鋭く上がった爪で《ソニックバード》を切り裂く。

『カードを1枚伏せて、ターンエンド！』

『私のターン、ドロー…そうね、伏せていた魔法カード《高等儀式術》を発動するわ。』

「えっ！伏せていた？」

「そう。さっきのターン伏せたのはブラフ。それに怯えて《ソニックバード》が残ってくれば良し。そう考えていたわ。引っかかるなかつたけれどね…」

「ごめん。」

「謝らなくていいわよ。寧ろ攻撃してくれたお陰で私は安心したわ。貴女の伏せカード1枚では止まらない事を知ったから。…私は手札の儀式モンスター《破滅の女神ルイン》を選択して発動。デッキからレベル4《デュナミス・ヴァルキリア》とレベル4《デーモン・ソルジャー》を墓地へ送り、《破滅の女神ルイン》を儀式召喚ね。」

《破滅の女神ルイン》

儀式・効果モンスター

星8 / 光属性 / 天使族 / ATK 2300 / DEF 2000

「エンド・オブ・ザ・ワールド」により降臨。

フィールドか手札から、レベルの合計が8になるようカードをリリースしなければならぬ。

このカードが戦闘によって相手モンスターを破壊した場合、もう1度だけ続けて攻撃を行う事ができる。

《デュナミス・ヴァルキリア》

通常モンスター

星4 / 光属性 / 天使族 / ATK 1800 / DEF 1050

勇敢なる光の天使。その強い正義感ゆえ、負けるとわかっている悪との戦いでも決して逃げない。

《デーモン・ソルジャー》

通常モンスター

星4 / 閻属性 / 悪魔族 / ATK 1900 / DEF 1500

デーモンの中でも精鋭だけを集めた部隊に所属する戦闘のエキスパート。与えられた任務を確実にこなす事で有名。

雪乃の場に白髪で杖を持ち女神を連想させるような女性が現れた。しかし、月によって出来た影は怪しく笑っている。

《破滅の女神ルイン》 : ATK 2300

『バトル。《破滅の女神ルイン》で《霞の谷のファルコン》を攻撃ね。灼熱の 대기』

《破滅の女神ルイン》が手に持った杖から摂氏何千度の炎が放たれ、《霞の谷のファルコン》の羽を燃やし、焼死させた。

『うう。』

遊璃 : LP 4000 3700

『まだよ。《破滅の女神ルイン》の効果を発動するわ。戦闘で相手モンスターを破壊した場合、もう1度攻撃できる。遊璃に直接攻撃ダイレクトアタック…ね。酷寒の大地』

《破滅の女神ルイン》は違う魔法を私に向けて放ってきた。

『速攻魔法《溪谷の伏兵》を発動！手札から《竜の溪谷》を墓地へと送り、デッキから《ドラグニティ・フランクス》を守備表示で特殊召喚！但し、特殊召喚したモンスターはエンドフェイズ時にゲ

ームから除外されるわ。』

『なら…攻撃を取り消してターン終了』

《溪谷の伏兵》（言羽・D・カタストロフィ - さん投稿のオリカ）
速攻魔法

自分のフィールド上に存在する《竜の溪谷》または手札から《竜の溪谷》を墓地に送って発動する。

デッキからレベル4以下の「ドラグニティ」と名のつくモンスターを特殊召喚する。

この効果で特殊召喚されたモンスターが場に存在する場合はターン終了時に除外される。

また《竜の溪谷》の効果が発動したターン、このカードを発動することは出来ない。

雪乃のエンド宣言とともに《ドラグニティ・ファランクス》は次元の狭間に飲み込まれる

ごめんね。 《ドラグニティ・ファランクス》

『私のターン、ドロー！手札から《溪谷の魔女》のモンスター効果を発動します』

『手札から！？』

《溪谷の魔女》（言羽・D・カタストロフィ - さん投稿のオリカ）
効果モンスター・チューナー

星1/風属性/鳥獣族/ATK0/DEF0

このモンスターを手札から墓地に送る事で発動する。

デッキからドラグニティと名のつくチューナーモンスターを手札に

加える。

また、このモンスターをシンクロ素材にした場合、ライフを600支払う事で相手のフィールド場カードをシンクロ召喚に使用したモンスターの数まで破壊することが出来る。
このカードをリリースすることは出来ない。

「ええ。このカードを手札から捨てて、デッキからチューナーモンスター《ドラグニティ・ピルム》を手札に加える。」

「チューナー……」

《ドラグニティ・ピルム》

チューナー・効果モンスター

星3/風属性/ドラゴン族/ATK1400/DEF1000

このカードが召喚に成功した時、手札から「ドラグニティ」と名のついた鳥獣族モンスター1体を特殊召喚し、

このカードを装備カード扱いとして装備する事ができる。

このカードがカードの効果によって装備カード扱いとして装備されている場合、装備モンスターは相手プレイヤーに直接攻撃する事ができる。

この時、装備モンスターが相手ライフに与える戦闘ダメージは半分になる

「そして《ドラグニティ・ピルム》を召喚。効果を発動で手札から《ドラグニティ・ミルトウム》を特殊召喚して、このカードを装備します。」

「……分かったわ。」

私の場に金髪の緑の兜を被った女鳥人が現れ、《ドラグニティ・ピ

ルム』が彼女の周りを飛び回る

『《ドラグニティ・ミルトウム》の効果を発動、装備している《ドラグニティ・ピルム》を特殊召喚』

《ドラグニティ・ミルトウム》が私には訳の分からない言葉で《ドラグニティ・ピルム》に話しかけると、

《ドラグニティ・ピルム》は大人しくなり彼女の横に降り立つ。

『合計レベルは7、来るのね。』

『はい。レベル4《ドラグニティ・ミルトウム》にレベル3《ドラグニティ・ピルム》をチューニング！』

《ドラグニティ・ミルトウム》の周りを再び《ドラグニティ・ピルム》が飛び回り、いつしか3つの輪となる。

その輪の中で《ドラグニティ・ミルトウム》は4つの星となり1条の光となる。

+ = × 7

『秘境の竜騎士が聖なる槍を用いて邪龍を討つ。戦場を鎮める風となれ！シンクロ召喚！爆誕せよ！《ドラグニティナイトーアスカロン》！』

《ドラグニティナイトーアスカロン》（Tさん投稿オリカ）

シンクロ・効果モンスター

星7/風属性/ドラゴン族/ATK2500/DEF1900

ドラゴン族モンスターのチューナー+ドラグニティと名のつくモンスター1枚以上

このカードのシンクロ召喚に成功した時、自分の墓地のドラゴン族モンスター1体と自分フィールド上に表側表示で存在する「ドラグニティ」と名のつくモンスター1体を選択して発動することが出来る。墓地で選択したカードを選択した「ドラグニティ」と名のつくモンスター1体に装備する。

また1ターンに1度手札を1枚捨て、以下の効果から1つ選び発動することが出来る。

自分の墓地に存在する「ドラグニティ」と名のつくモンスター1体をこのカードに装備カード扱いとして装備する。

このカードに装備カード扱いで装備されたカード1枚を墓地に送り、相手フィールド上に存在するカード1枚を破壊する。

光が収まると、遊璃の場に黒色の巨大な龍にまたがり、龍の色とは対照的な白く輝く槍と白い外套を纏った男性が現れた。

《ドラグニティナイトーアスカロン》：ATK2500

『攻撃力2500つ！ルインより上・・・』

『《ドラグニティナイトーアスカロン》のモンスター効果発動。シンクロ召還に成功したとき、自分の墓地のドラゴン族モンスター1体と自分フィールド上に表側表示で存在する「ドラグニティ」と名のつくモンスター1体を選択して発動することが出来る。墓地で選択したカードを選択した「ドラグニティ」と名のつくモンスター1体に装備する。私は《ドラグニティ・ピルム》を装備！』

先ほどシンクロ召喚に使われた緑の小さな龍が今度は《ドラグニティナイトーアスカロン》の周りを飛び回る。

『また、その子・・・』

『まだですよ！《ドラグニティナイトーアスカロン》の効果発動！1ターンに1度手札を1枚捨て、2つの効果から1つ選び発動することが出来る。自分の墓地に存在する「ドラグニティ」と名のつくモンスター1体をこのカードに装備カード扱いとして装備するか、このカードに装備カード扱いで装備されたカード1枚を墓地に送り、相手フィールド上に存在するカード1枚を破壊するかです。』

『えっと、遊璃の《ドラグニティ・フランクス》は除外されているから、発動するのは・・・』

『はい、《破滅の女神 ルイン》の破壊です。』

その言葉とともに手札の《霞の谷の幼怪鳥》を捨てる。効果は使えないけどね。

すると、《ドラグニティナイトーアスカロン》の白い槍に《ドラグニティ・ピルム》が吸収され、槍の輝きを高めた。暫くすると、

『ハアー！』

《ドラグニティナイトーアスカロン》が高速で槍を突き、槍から衝撃波が発射される。

それは《破滅の女神・ルイン》に当たり、彼女を葬った。

『ああっ！』

『そして、《ドラグニティナイトーアスカロン》で雪乃に直接攻撃

！龍殺の芯突！』

《ドラグニティナイトーアスカロン》は雪乃に向けて飛び立ち彼女の胸を貫いた

『くうっ』

雪乃：LP4000 1500

『ターンエンドです。』

『シンクロモンスター、やっぱり強いわね……ゾクゾクしちゃうわ』

『え、えつとありがとうございます？』

『まあ、デュエルが終わった後にもゆっくり話しましょう。私のターン。ドロー、魔法カード《天使の施し》を発動ね。3枚ドローし、2枚を捨てる。私は《デーモン・ソルジャー》と《レッド・サイクロプス》を捨てる』

《レッド・サイクロプス》

通常モンスター

星4 / 闇属性 / 悪魔族 / ATK1800 / DEF1700

「冥界の魔王 ハ・デス」に仕える一つ目の巨人。ツノの攻撃で敵を粉碎する。

『これで揃ったわ！墓地の光属性・天使族、《デュナミス・ヴァルキリア》1体と闇属性・悪魔族、《デーモン・ソルジャー》2体、《レッド・サイクロプス》1体をゲームから除外。』

すると雪乃の目の前の地面が割れ、中から闇が噴出す。

『な、何？』

『特殊召喚。《天魔神 ノーレラス》！』

闇が霧状に変化し、その中心に地面から這い出てきた仮面のようなものを被った死神が現れる。

《天魔神 ノーレラス》

効果モンスター

星8 / 闇属性 / 悪魔族 / 攻2400 / 守1500

このカードは通常召喚できない。

自分の墓地の光属性・天使族モンスター1体と闇属性・悪魔族モンスター3体をゲームから除外した場合のみ特殊召喚する事ができる。1000ライフポイントを払う事で、お互いの手札とフィールド上のカードを全て墓地へ送り、自分のデッキからカードを1枚ドロウする。

《天魔神 ノーレラス》：ATK2400

『…でも、攻撃力ならまだ私の《ドラグニティナイト・アスカロン》の方が上よ！』

『焦らないの。私は《天魔神 ノーレラス》のモンスター効果を發動。1000ポイントのライフを払い、お互いの手札と場のカードを全て墓地に送るわ。死の濃霧！……きやあ！』

《天魔神 ノーレラス》が雪乃を切り裂き、^{ライフ}血を奪う。

雪乃：LP1500 500

そして《天魔神 ノーレラス》はその血を糧に死を招く霧を作り出し、お互いの場、手札を飲み込んだ。

・
・
・
・
・

暫くして霧が晴れると、遊璃の場にも雪乃の場にもカードがなく、手札も0枚になっていた。

『《混沌帝龍 - 終焉の使者》みたいな効果ね。だけど、効果ダメージはないみたいね？』

カオス・エンペラー・ドラゴンの使者
《混沌帝龍 - 終焉の使者》

効果モンスター

星8 / 闇属性 / ドラゴン族 / ATK3000 / DEF2500

このカードは通常召喚できない。

自分の墓地の光属性と闇属性モンスターを1体ずつゲームから除外して特殊召喚する。

1000ライフポイントを払う事で、

お互いの手札とフィールド上に存在する全てのカードを墓地に送る。この効果で墓地に送ったカード1枚につき相手ライフに300ポイントダメージを与える。

『ええ。そのかわり、《天魔神 ノーレラス》は効果使用後にデッキからカードを1枚ドローする効果があるわ。』

『えっ！？じゃあ雪乃がモンスターを引いたら…』

『無条件に直接攻撃できるわ。でも私のデッキには魔法・罾カードが4割くらいを占めているわ。このデュエルで引いたカードの殆どがモンスターカードだったから、引ける確率も大体5分よ！』

『…(ゴクリ)』

『はあ〜。このギリギリの駆け引き、ゾクゾクするわ。……ドロ―

！……』

『…何を引いたの？』

『…このデッキのもう1つの切り札よ！』

『えっ！？？』

『私は墓地の光属性《破滅の女神 ルイン》と闇属性《天魔神 ノーレラス》をゲームから除外。』

今度は《天魔神 ノーレラス》が現れた地面の割れ目から大量の光があふれ出す。

『この召喚方法って…』

『光と闇、二つの魂を生け贄に捧げ、降臨せよ！《カオス・ソルジャー - 開闢の使者》』

《カオス・ソルジャー - 開闢の使者》

効果モンスター

星8 / 光属性 / 戦士族 / ATK 3000 / DEF 2500

このカードは通常召喚できない。

自分の墓地の光属性と闇属性モンスターを1体ずつゲームから除外して特殊召喚する。

自分のターンに1度だけ、次の効果から1つを選択して発動する事ができる。

フィールド上に存在するモンスター1体をゲームから除外する。

この効果を発動する場合、このターンこのカードは攻撃する事ができない。

このカードが戦闘によって相手モンスターを破壊した場合、もう1度だけ続けて攻撃を行う事ができる。

雪乃の場の光が収まる寸前、中から1人の人影が飛び出し、地面の割れ目を塞ぐ。

そして、その手に持つ剣を振り、周りの光を払った。

ようやく見えたその姿は、伝説のデュエリスト・武藤遊戯が使っていたとされる《カオス・ソルジャー》の鎧を黄金色に変えたような装備をし、その鎧兜の周りは月の光の反射の影響か、神々しいオーラを放っている剣士だった。

《カオス・ソルジャー》

儀式モンスター

星8 / 地属性 / 戦士族 / ATK 3000 / DEF 2500

「カオスの儀式」により降臨。

《カオス・ソルジャー》 - 開闢の使者 - : ATK 3000

『あ、あわわ……《カオス・ソルジャー - 開闢の使者 -》！……』

『いくわよ。《カオス・ソルジャー - 開闢の使者 -》で遊璃に直接攻撃！開闢双破斬！』

《カオス・ソルジャー - 開闢の使者 -》は私の目の前に一足飛びで飛んでくると、持っている剣を私の急所に向けて何度も突き刺してきた。

『きゃあああああ……』

遊璃：LP3700 700

……うう。《カオス・ソルジャー - 開闢の使者 -》になんか、勝てるわけがない。

……私に勝ち目は………ない。

『私の手札はもうないわ。ターンエンド。さあ、遊璃。この状況、どう逆転するのか。私に見せて。シンクロ召喚の可能性を。』

『…シンクロ召喚の可能性？』

『ええ。私は遊璃がデュエルしたのを見たのは入学試験の時の1回だったけれど、貴女。海馬社長ともデュエルしたのよね？伝説のデュエリストともなれば、シンクロ召還をするにしても色々工夫したはずよ。それを私にも見せて。遊璃。』

……雪乃がこんなに私の事を期待してくれている。

ならば私に出来ることは何か。

それは・・・

友の期待に精一杯答える事だ。

ならば、このドローを私は信じる。

シンクロ召喚の可能性。今ここに！

『私のターンッ』

私は力を入れてデッキの上からカードを引く。

そしてそのカードを見た。・・・まだ希望は繋がる。

『・・・』

雪乃は黙って私を見ている。

『私は魔法カード《強欲な壺》を発動。デッキから2枚カードをドロ―する。』

『・・・』

『更に《天使の施し》！デッキから3枚ドロ―し、2枚を捨てる。』

『手札0枚から2連続でドロ―ソースですって！』

『次に、《愚かな埋葬》を発動。私はデッキから《ドラグニティ・アキュリス》を墓地へと送る』

『・・・また墓地を肥やした。』

ここまでで下準備は終わり。次に本命を発動するわ。

『フツ。最後の手札。これでシンクロモンスターの可能性を見せてあげますよ。魔法カード《ミラクルシンクロフュージョン》を発動！』

《ミラクルシンクロフュージョン》

通常魔法

自分のフィールド上・墓地から、融合モンスターカードによって決められた融合素材モンスターをゲームから除外し、シンクロモンス

ターを融合素材とするその融合モンスター1体を融合召喚扱いとしてエクストラデッキから特殊召喚する。

また、セツトされたこのカードが相手のカードの効果によって破壊され墓地へ送られた時、自分はデッキからカードを1枚ドロウする。

『み、《ミラクルシンクロフュージョン》ですって！遊璃、貴女融合も使うの？』

『はい。とはいっても、融合関連のカードってこのカードしか入っていませんけど。』

『で、でも素材モンスターはどこにいるの？貴女の場合と手札は0よね？』

『ええ、でも一箇所だけ残っているじゃないですか。素材モンスターとなれる場所が。』

『……はっ！もしかして？墓地？』

『正解です。私は墓地のレベル6以上の「ドラグニティ」と名のつくシンクロモンスター、《ドラグニティ・アスカロン》と風属性・ドラゴン族の《ドラグニティ・ピルム》をゲームから除外！・・・融合召喚！《ドラグニティパラディン・エクスカリバー》！！』

《ドラグニティパラディン・エクスカリバー》（ネイビーさん投稿オリカ）

融合・効果モンスター

星10 / 風属性 / ドラゴン族 / ATK3000 / DEF2800

「ドラグニティ」と名のついたレベル6以上のシンクロモンスター

+ 風属性・ドラゴン族モンスター

このモンスターは融合召喚でしかエクストラデッキから特殊召喚できない。

このカードの融合召喚に成功した時、自分の墓地に存在する「ドラグニティ」と名のついたチューナーを任意の数だけ、このカードに装備することができる。

このモンスターはバトルフェイズに、このカードに装備されている「ドラグニティ」と名のつくチューナーモンスターのカードの数だけを通常の攻撃とは別に攻撃することができる。

このカードに装備されたカード効果は無効化される。

このカードが戦闘及びカード効果で破壊される場合、装備されている「ドラグニティ」と名のつくカードを2枚墓地に送ることでこのカードの破壊を無効にする。（この時、装備カード扱いの状態から墓地に送られることで発動する効果は発動しない）

私の場に巨大な渦が生まれ、中に私の《ドラグニティ・アスカロン》と《ドラグニティ・ピルム》が吸い込まれる。

しばらくすると、渦の中から緑の鎧を身に纏い、背には緑のマントを付けた騎士の乗る黄緑色の竜。そして騎士の手には薄い緑の盾と細長い槍を持っていた。

《ドラグニティパラディン・エクスカリバー》：ATK3000

『攻撃力3000！私の《カオス・ソルジャー - 開闢の使者 -》と同じ！？』

『《ドラグニティパラディン・エクスカリバー》のモンスター効果を発動！このカードの融合召喚に成功した時、自分の墓地に存在する「ドラグニティ」と名のついたチューナーを任意の数だけ、このカードに装備することができる。私は墓地から、《ドラグニティ・

アキュリス』、《ドラグニティ・ブラックスピア》、《ドラグニティ・アイギス》を装備する。但し、この効果で装備したモンスターの効果は無効となり、装備状態で墓地に送られたときに発動する効果は無効となります。』

《ドラグニティパラディン・エクスカリバー》が手に持つ槍を天に掲げると、墓地から3体の竜が現れ、『ドラグニティパラディン・エクスカリバー』の槍に宿る。

《ドラグニティ・ブラックスピア》

チューナー・効果モンスター

星3 / 風属性 / ドラゴン族 / ATK1000 / DEF1000

自分フィールド上に存在する「ドラグニティ」と名のついたドラゴン族モンスター1体をリリースして発動する。

自分の墓地に存在するレベル4以下の鳥獣族モンスター1体を選択して特殊召喚する。

この効果は1ターンに1度しか使用できない。

《ドラグニティ アイギス》（ネイビーさん投稿オリカ）

チューナー・効果モンスター

星3 / 風属性 / ドラゴン族 / ATK900 / DEF1500

このカードの召喚に成功した時、手札から「ドラグニティ」と名のついたモンスター1体を特殊召喚し、このカードを装備カード扱いとして装備する事ができる。

このカードが装備カード扱いとしてモンスターに装備されている時、そのモンスターが破壊される場合このカードを代わりにこのカードを破壊することが出来る。

このカードが自身のカード効果で破壊された時、墓地に存在する「ドラグニティ」と名のついたチューナーモンスターを1体を特殊召喚することが出来る。

「ちよ、ちよつと待って！数が合わないわ。いつそんなにモンスターを溜めたの？」

「《ドラグニティ アイギス》は《天使の施し》で、《ドラグニティ・ブラックスピア》は《天魔神 ノーレラス》の効果で墓地に行きました。」

「そう。あの時持っていた最後の手札だったのね。でもそのモンスターの攻撃力は3000、攻撃しても相打ちするだけよ？」

「いいえ。やってみればわかりますよ。《ドラグニティパラディン・エクスカリバー》で《カオス・ソルジャー - 開闢の使者 -》を攻撃！疾風迅雷 - セイント・スレテ 聖なる槍撃！」

《ドラグニティパラディン・エクスカリバー》の緑の竜は《カオス・ソルジャー - 開闢の使者 -》に向かって飛び始め、《カオス・ソルジャー - 開闢の使者 -》と一騎打ちを始めた。

《ドラグニティパラディン・エクスカリバー》は《カオス・ソルジャー - 開闢の使者 -》が空を飛べないことをいいことに、竜を巧みに操りじわじわと《カオス・ソルジャー - 開闢の使者 -》を追い詰める。

《カオス・ソルジャー - 開闢の使者 -》は騎士の攻撃と共にくる竜の攻撃を掻い潜り、一撃を叩き込む - がしかし、それは騎士の盾によって防がれる。

その隙を《ドラグニティパラディン・エクスカリバー》の騎士が見逃すことなく、一突きで《カオス・ソルジャー - 開闢の使者 -》を討ち取った。

・・・攻撃後、攻撃前に光り輝いていた槍には光が薄れていた。

『《カオス・ソルジャー - 開闢の使者 - 》！・・・クツそれよりも、どうして破壊されていないの？』

《ドラグニティパラディン・エクスカリバー》の第2の効果、このカードが戦闘か効果で破壊される時このカードに装備されている「ドラグニティ」と名のつくカードを2枚墓地に送ることで破壊を無効とする。』

『な、なんですって・・・《ドラグニティパラディン・エクスカリバー》に装備されていたモンスターは3体・・・だから破壊を無効に出来た。』

『そう、そして《ドラグニティパラディン・エクスカリバー》の第3の効果を発動。このモンスターはバトルフェイズに、このカードに装備されている「ドラグニティ」と名のつくチューナーモンスターのカードの数だけを通常の攻撃とは別に攻撃することができる。』

『えっ！？それって・・・』

《ドラグニティパラディン・エクスカリバー》は再び攻撃の構えを取る

『《ドラグニティパラディン・エクスカリバー》で雪乃に直接攻撃！聖なる槍撃！』

《ドラグニティパラディン・エクスカリバー》は今度は雪乃の前に飛ぶと、雪乃の心臓の辺りを輝く槍で突き刺した

『くあつ………!』

雪乃：LP5000

遊璃：WIN

デュエルが終わった途端に雪乃が膝を立てて倒れる。

私は雪乃に急いで駆け寄り問う。

『ツ……雪乃!大丈夫?』

『……ええ。どうやら《天魔神 ノーレラス》に血を抜かれたような感覚が未だに残っているようね。……それより、遊璃。』

『……何?』

『……私の負けね。ノーレラスと開闢の使者を使って負けたのは初めてよ。』

『そうだったの。』

『だから、私の本気を初めて倒した証として、遊璃を……さまつて呼ぶわね』

『えっ?何』

『ごめんなさい。疲れたから寝るわ。おやすみなさい。』

『えっ！？雪乃外で寝ないで。いくらなんでも風邪を引いちゃうわ。』

『そうね。なら部屋に戻りましょうか』

そうして私達はブルー女子寮の自室に戻り、ベッドに入ると同時に深い眠りにつくのであった。

・・・T o b e c o n t i n u e d

10話：歓迎会と友への告白、同調と混沌が交わる先に（後書き）

長い。約12000字。海馬戦より10000字増えました。

何れは20000字とか書きたいですね。

多分長すぎて読む読者が減りそうですけど^^；

そして今回は雪乃の初デュエルでした。

雪乃のデッキは以前TF5と同じといたのですが、それだと若干ですが未来のカードが混じってしまうため変えました。

あとでレシピ載せますね。

とりあえず『混沌儀式天魔神』という予定です。

もう何がなんだか分かりませんね…

そして途中のカットが多くてすみません。

でもまだR指定とかGL指定入れたくないんです。

以下の会話はフィクションです。本気にしないでください。

雪乃『まだって事は何れはいれるの?』

戎鴛『それは………ね』ボン

雪乃『じゃあすぐに入れちゃいましょう。私が遊璃を襲うから』

戎鴛『誰が入れるって言った！私は「まだ分からないね」と言っただろう。』

雪乃『聞こえなかったわ……チツ』

戎鴛『舌打ち！今舌打ちしたよね』

雪乃『……』

戎鴛『無視ですか！』

雪乃『……』

戎鴛『しょうがない。活動報告でアンケートとるか。この小説をG指定にするべきかどうかを』

雪乃『…ねえ』

戎鴛『どうした？』

雪乃『それ本当？』

戎鴛『アンケートとるのは本当だが？』とりません

雪乃『やったあ！！ついについに遊璃を私の物に出来るのね！』

戎鴛『させるかあ！遊璃は無事に未来に帰らすんだ。絶対そんなことはさせん！』

雪乃『大丈夫よ。私の方に入れるお方が1名は必ずいるわ！』

戒鷲『1名だろう。私のほうはそういうのなしでという読者の方が多いに決まっている』

雪乃『じゃあ勝負よ！』

戒鷲『望むところだ』

・
・
・

フィクション終わり。

遊璃『お二人が漫才をしていますので私が次回の予告をします。今回は私VS万条目の予定です。お楽しみに！』

今回3名の方の投稿オリカを使用しました。

3名の方。本当にありがとうございました。

ネイビーさんのオリカは自滅をしないように効果を少し変えました。

ネイビーさん勝手にすみませんでした。

11話・デュエルアカデミアの定期試験の方が入学試験よりもレパートリーが多

前々回vs万丈目といいましたが、vs明日香に変更します。

理由は月1試験は同じ寮との対戦が基本だということ思い出したからです。

十代はクロノスの策で原作どおりvs万丈目ですがね・・・

前半試験（デュエルモンスターのみの執筆）、後半デュエルです。

例によってアニメ使用のカードで大半を組み、ある程度の強化カードを入れていきます。

ではどうぞ！

投稿同日：《受け継がれる力》のミスを修正しました。

3 / 3 14部までの大量の誤字を修正しました

3 / 5 ドゥーブルパッセの処理を書き換えました。

11話・デュエルアカデミアの定期試験の方が入学試験よりもレパートリーが多

side yuri

『はじめ!』

私は合図と共にペンをとり、問題を開く。

第1問

次の中で通常召喚の出来ないモンスターを選び、記号で答えなさい。

? 《裁きを下す者 - ボルテニス》

? 《レアメタル・ドラゴン》

? 《冥府の使者ゴーズ》

・・・これは、?ね。他のは特殊召喚するのが多いけれど、通常召喚も普通に出来るし!

第2問

次の中からユニオンモンスターでないモンスターを選び記号で答えなさい。

? 《Y - ドラゴン・ヘッド》

? 《ゾンビタイガー》

? 《アイツ》

・・・えっ、《ゾンビタイガー》って何？
聞いたことない。

まず？は消去よね。有名だし。

となると答えは？か？よね。

?の《アイツ》って確か《コイツ》、《ドイツ》、《ソイツ》の仲間だったはず。

その中でユニオンなのは・・・《コイツ》と《ドイツ》！

ならば答えは？ね。

でも結局、《ゾンビタイガー》って何？

・
・
・
・
・

第16問

次の中から《死者蘇生》で墓地から特殊召喚できるモンスターを選び、記号で答えなさい

? 《E・HERO フレイム・ウィングマン》

? 《タイラント・ドラゴン》

? 《真紅眼の闇竜》

・・・えっと、?は融合召喚でしか出せなかったはず、だから消去ね

?は条件付だけれど、墓地からの特殊召喚が可能ね。一応消去しないでおきましょう。

?は、どうだったかしら?

確か《真紅眼の黒竜》をリリースした”場合”のみ特殊召喚できたわよね?

ん? 場合のみ?

ああ!

?は無理ね。召喚条件を満たせないもの。ということでは?、ついでに解答部分の横に書き込んでおくわ。

「自分のフィールド上にドラゴン族がいると仮定した場合。」って。

はあ、入学試験より骨があるわね。

結構大変だわ。

・
・
・
・

第29問

次の発動時にライフポイントを払うカードのうち、発動時のライフコストが一番多い順に並び替え、記号で答えよ。

? 《カウンター・クリーナー》

? 《終焉のカウントダウン》

? 《トウーン・ワールド》

? 《わが身を盾に》

・・・えつと、?は500だったわよね。多分

?は2000払って20ターン後にデュエルに勝利するカード

?はE2のペガサスペガサス会長だけが使用するカード郡の1枚、教科書で読んだわ。確か1000だったはず。

?は未来で偶に使われたことがあるわ。《ドラグニティ・レギオン》の効果が無効にされて破壊されるのがなんて辛いのか。。払う

数値は1500

だから答えは？>？>？>？>？。

なかなかいい出来ね！

お、次が最後の問題だわ！

残り時間も10分。余裕ね

第30問

次のうち、フィールドに召喚された状態で《スキル・ドレイン》が発動されたとき、モンスター効果が無効にならないモンスターはどれか。記号で答えよ。

？ 《漆黒の戦士 ワーウルフ》

？ 《ミラーージュ・ドラゴン》

？ 《天下人 紫炎》

・・・これって・・・メインフェイズの問題よね？

でなければ？、？がフィールドに表側で存在すれば《スキル・ドレイン》、発動できないもの。

だから答えは？！

・・・それにしても《ゾンビタイガー》って何者？

・・・

・・・

・・・分からない。

そこに

『やめ!』

試験監督の合図があった。

私は伸びをし、リラックスをする

『遊璃お姉さま』

『雪乃。お、お姉さまって……2人のだけ時以外は止めて!』ボソ

『はい、分かりましたわ。それより聞きましたか?』

『ん? 何を?』

『今日発売するパックがあるんですけど、一緒に買いに行きませんか?』

『ごめん、私パス。私は試験前にデッキを調整しないことにしているの。新しいカードを入れてバランスが崩れたまま試験に臨みたくないから。』

『そうですか、確かにそうですね。』

『じゃあお弁当食べよ！今日は私の手作りよ！』

『まあ、遊璃の！？私、遊璃のお弁当を頂いてから寮の料理がお粗末に見えて仕方ありません。』

『ありがとう。』

『早く食べましょうよ！』

『いただきます』

・
・
・
・

午後

デュエルアカデミア・体育館

実技試験はここで行われる。

試験ごとにテーマが変わるそうだけれど、今回は最初なので普通にテーマなしのデュエルの試験だ

対戦相手は同じ寮の人から選ばれるんだって！

あ、遊城君のデュエルが始まるわね。見に行きましょうか。

『『デュエル!!』』』

十代：LP4000/万丈目：LP4000

『俺の先攻、ドロー！俺は《E・HERO クレイマン》を守備表示で召喚！カードを1枚伏せ、ターンエンド!!』

遊城君の場に粘土に頭が少し飛び出したような格好の戦士が現れる。

《E・HERO エレメンタルヒーロー クレイマン》

通常モンスター

星4/地属性/戦士族/ATK800/DEF2000

粘土でできた頑丈な体を持つE・HERO。

体をはって、仲間のE・HEROを守り抜く。

『俺のターン！魔法カード《打ち出の小槌》を発動！このカードと手札4枚をデッキに戻し、戻した枚数分カードをドロー!...しかも《打ち出の小槌》は使い捨てではない！何度もデッキに戻ることで再使用が出来る！俺は再び《打ち出の小槌》を発動！このカードと手札2枚に戻し、3枚ドロー!!』

万丈目は再利用可能なドローカードを使って2連続手札を入れ替えた。

《打ち出の小槌》

通常魔法(アニメ効果)

発動したこのカードと任意の手札をデッキに戻すことで、デッキに戻したカードの枚数分デッキからカードをドローする。

『俺は手札から《V・タイガー・ジェット》を召喚！ 《前線基地》を發動！ 手札から《W・ウィング・カタパルト》を特殊召喚！』

《V・タイガー・ジェット》
ワイ

通常モンスター

星4 / 光属性 / 機械族 / ATK1600 / DEF1800

空中戦を得意とする、合体能力を持つモンスター。

合体と分離を駆使して立体的な攻撃を繰り出す。

《前線基地》
ぜんせんきち

永続魔法

1ターンに1度、自分のメインフェイズ時に

手札からレベル4以下のユニオンモンスター1体を特殊召喚することができる。

《W・ウィング・カタパルト》
ダブル

ユニオンモンスター

星4 / 光属性 / 機械族 / ATK1300 / DEF1500

1ターンに1度だけ自分のメインフェイズに装備カード扱いとして自分の「V・タイガー・ジェット」に装備、

または装備を解除して表側攻撃表示で特殊召喚する事ができる。

この効果で装備カード扱いになっている時のみ、

装備モンスターの攻撃力・守備力は400ポイントアップする。

(1体のモンスターが装備できるユニオンは1枚まで。

装備モンスターが戦闘によって破壊される場合は、代わりにこのカードを破壊する。)

万丈目君のフィールドに虎を模し、ジェットを装備した機械。青色で翼をもち、上の部分に何かを射出するような窪みがある機械が現

れる。

《V-タイガー・ジェット》：ATK1600

《W-ウィング・カタパルト》：ATK1300

・
・
・

『ずるいぞ！攻撃力800のクレイマンを攻撃表示にしたら・・・』

以下、原作どおりの為省略

・

・

『ああああああああああ！！』

『俺は《E・HERO フェザーマン》で直接攻撃！ダイレクトアタック フェザーブ
レイク！』

《E・HERO エレメンタルヒーロー フェザーマン》

通常モンスター

星3 / 風属性 / 戦士族 / ATK1000 / DEF1000

風を操り空を舞う翼をもったE・HERO。

天空からの一撃、フェザーブレイクで悪を裁く。

緑色の体をし、羽を付けて飛んでいる戦士が万丈目に止めを刺す。

万丈目：LP10000

十代：WIN

結果から言えば、万丈目君の自滅？判断ミスね。2回も勝機を逃して…

まず、《XYZ-ドラゴン・キャノン》まで合体する必要はなかった。

素材の3体のモンスターと《VW-タイガーカタパルト》の攻撃で遊城君が《ヒーロー見参!》を使っても耐えられずに遊城君のライフは0になっていた。

エックスワイゼット
《XYZ-ドラゴン・キャノン》

融合・効果モンスター

星8 / 光属性 / 機械族 / ATK2800 / DEF2600

「X-ヘッド・キャノン」+「Y-ドラゴン・ヘッド」+「Z-メタル・キャタピラー」

自分フィールド上に存在する上記のカードをゲームから除外した場合のみ、エクストラデッキから

特殊召喚する事ができる（「融合」魔法カードは必要としない）。

このカードは墓地からの特殊召喚はできない。自分のメインフェイズ時に手札を1枚捨てる事で、相手フィールド上に存在するカード1枚を破壊する。

《ヒーロー見参》
けんざん

通常罫

相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。

自分の手札から相手はカードをランダムに1枚選択する。

選択したカードがモンスターカードだった場合、自分フィールド上に特殊召喚する。

違う場合は墓地へ送る。

次に《VWXYZ - ドラゴン・カタパルト・キャノン》の効果が発したとき、攻撃をせずにターンを終了すべきであったこと。

そうすれば遊城君は《ハネクリボーLv10》の効果を発動できずに、ターンを迎えドロウするはずだった《E・HERO フェザーマン》を守備表示で出す位しかすることがなく、次の万丈目君のターンで《ハネクリボーLv10》を除外して、《E・HERO フェザーマン》をVWXYZの効果で攻撃表示にしていれば勝利できていたのだ。

《^{ヴァイトウスイ}VWXYZ - ドラゴン・カタパルトキャノン》

融合・効果モンスター

星8 / 光属性 / 機械族 / ATK3000 / DEF2800

「VW - タイガー・カタパルト」 + 「XYZ - ドラゴン・キャノン」
自分フィールド上に存在する上記のカードをゲームから除外した場合のみ、融合デッキから特殊召喚が可能（「融合」魔法カードを必要としない）。

1ターンに1度、相手フィールド上のカード1枚をゲームから除外する。

このカードが攻撃する時、攻撃対象となるモンスターの表示形式を変更する事ができる。（この時、リバーズ効果モンスターの効果は発動しない。）

《ハネクリボー ^{レベル}Lv10》

効果モンスター

星10 / 光属性 / 天使族 / ATK3000 / DEF2000

このカードは通常召喚できない。

このカードは「進化する翼」の効果でのみ特殊召喚する事ができる。自分フィールド上に表側表示で存在するこのカードを生け贄に捧げ

る事で、相手フィールド上の攻撃表示モンスターを全て破壊し、破壊したモンスターの元々の攻撃力の合計分のダメージを相手ライフに与える。

この効果は相手バトルフェイズ中のみ発動する事ができる。

要するに今回の万丈目君の敗因は知識不足ね！

オベリスク・ブルーなんだし、このくらいの知識があってもいいと思うんだけど・・・

今度、実技の先生に聞いてみようかな？

・
・
・
・
・

いよいよ私の番だ。

対戦相手は…

『不動さん。よろしくね！』

天上院明日香さん・・・

確か歴代のデュエルアカデミアの女性教師の中で一番実力、知識が高かった人物。

この頃の結果は知らないけれど、きっと強いに違いない。

気を引き締めなくちゃ。

『よ、よろひくお願いします』

か、噛んだー

恥ずかしい／＼

『緊張しないで！ 楽しいデュエルをしましょう！ あと私のことは明日香でいいわ。』

『私も遊璃でいいです』

『わかったわ。』

そう言いあったあと、私達はデュエルディスクを構える。

そして

『『デュエル』』

私と明日香のデュエルが始まった。

遊璃：LP4000 / 明日香LP4000

『私が先攻を貰うわ！ カードドロー！』

明日香はそういい、カードを引く。

『私は、《エトワール・サイバー》を召喚！ カードを1枚セット

し、ターンエンド！』

《エトワール・サイバー》

効果モンスター（アニメ効果）

星4 / 地属性 / 戦士族 / ATK1200 / DEF1600

このカードは相手プレイヤーを直接攻撃する場合、

ダメージステップの間攻撃力が600ポイントアップする。

明日香の場に左目を赤い布で覆い、水色の肌？レオタード？を見せ
びらかすように着用した女性が現れる。

《エトワール・サイバー》：ATK1200

『私のターン！ 私はフィールド魔法《竜の渓谷》を発動し、その
効果で手札を1枚捨て、デッキから《ドラグニティ・ミリトゥム》
を手札に加える。そして私は《ドラグニティ・パルチザン》を召喚
！その効果により、《ドラグニティ・ミリトゥム》を特殊召喚し、
このカードを装備する。』

《ドラグニティ・パルチザン》

チューナー・効果モンスター

星2 / 風属性 / ドラゴン族 / ATK1200 / DEF800

このカードが召喚に成功した時、

手札から「ドラグニティ」と名のついた鳥獣族モンスター1体を特
殊召喚し、このカードを装備カード扱いとして装備する事ができる。
このカードがカードの効果によって装備カード扱いとして装備され
ている場合、装備モンスターをチューナーとして扱う。

私の場に大剣型の兜を付けた紫の竜が現れ、隣に最近良く出る緑の
鎧に金髪の髪をした女性が現われ、《ドラグニティ・パルチザン》

が近くに控える。

《ドラグニティ・ミルトウム》：ATK1700

《ドラグニティ・パルチザン》：ATK1200 装備カード状態

『そして《ドラグニティ・ミルトウム》の効果を発動し、装備カード状態の《ドラグニティ・パルチザン》を特殊召喚』

毎度の如く、金髪の女性が短剣で印を結ぶと近くに控える《ドラグニティ・パルチザン》が戦闘態勢をとる。

《ドラグニティ・パルチザン》：ATK1200

『い、いきなりモンスターを2体召喚ですって！』

『ええ、まあ。………続けますね。レベル4《ドラグニティ・ミルトウム》にレベル2《ドラグニティ・パルチザン》をチューニング！』

《ドラグニティ・ミルトウム》が透明となり4つの星と化し、《ドラグニティ・パルチザン》は2つの輪となり、それを覆い隠す。刹那、シンクロ召喚によって発生する光が体育館中に広がった。

『ま、眩しい』

『目が、目がああああ……』

『何も見えないっす』

『秘境の竜騎士が赤槍を携え、飛び交う魔術を掌握する！戦場を鎮める風となれっ！シンクロ召喚！駆け抜けよ！《ドラグニティナイ

ト・ガジャルグ』！』

光が晴れると、そこには赤と紺で彩られた体を持つ屈強な竜とそれに跨る赤い槍を持つ騎士がいた。

《ドラグニティナイト・ガジャルグ》：ATK2400

『…もう、大丈夫みたいね。』

『ごめんなさい。眩しかったですよね？』

『大丈夫よ！ 入学試験のときも見ていたし、シンクロ召喚の時の光に少しは慣れているわ。』

『そ、そうでしたか。』

『ええ。さぁ続けて頂戴！』

『はい！ 私は《ドラグニティナイト・ガジャルグ》のモンスター効果を発動。デッキから《ドラグニティ・レギオン》を手札に加え、手札から《ドラグニティ・ガードナー》を墓地に送る。』

《ドラグニティ・ガードナー》

効果モンスター（キラーさん投稿オリカ）

星3 / 風属性 / ドラゴン族 / ATK1000 / DEF1700

自分のフィールド上に表側表示存在する「ドラグニティ」と名のつくモンスターが攻撃対象になったとき、墓地に存在するこのカードをゲームから除外することが出来る。

攻撃対象となつた「ドラグニティ」と名のつくモンスターはこのターンのバトルフェイズの間、戦闘で破壊されない。（ダメージ計算

は適用する)

「バトル！ 《ドラグニティナイト・ガジャルグ》で《エトワール・サイバー》を攻撃！ 天蓋式連槍檄！」

「フフ、罨カード。《ドゥーブルパッセ》を発動！ これにより、相手モンスターの攻撃を直接攻撃に切り替え、攻撃対象となった自分のモンスターは相手にダイレクトアタックが出来る。」

《ドゥーブルパッセ》
アニメオリジナル
通常罨(独自解釈)

自分のフィールド上に表側攻撃表示で存在するモンスターが、相手モンスターの攻撃対象となったときこのカードは発動することが出来る。

その攻撃を無効にし、自分はその攻撃力分のダメージを受ける。
その後、攻撃対象となったモンスターの攻撃力分のダメージを相手に与える。

(この効果ダメージは直接攻撃扱いとすることが出来る。)

明日香の罨カードの発動により、《ドラグニティ・ガジャルグ》の攻撃は明日香へと向かった。

「クウウ・・・やったわね？ 反撃よ！ 《エトワール・サイバー》！ そして、《エトワール・サイバー》が相手に直接攻撃するとき攻撃力が600アップする！アラベスク・アタック！」

《エトワール・サイバー》：ATK1200 1800

そして今度は《エトワール・サイバー》が私の方に向かって来て、

強烈な蹴りを放ってくる。

『ああ!』

明日香：LP4000 1600

遊璃：LP4000 2200

《エトワール・サイバー》：ATK1800 1200

『まさかそんなカードを使うなんて…驚きです。』

『そう、照れるわ。』

『…メインフェイズ2。私はカードを1枚伏せてターンエンド
!』

『私のターン、ドロ―! 私は手札から《強欲な壺》を発動。デッキからカードを2枚ドロ―する。さらに魔法カード《融合》を発動! 場の《エトワール・サイバー》と手札の《ブレード・スケーター》を融合! 融合召喚! 《サイバー・ブレイダー》!』

《融合》
ゆうごう

通常魔法

手札・自分フィールド上から、融合モンスターカードによって決められた融合素材モンスターを墓地へ送り、その融合モンスター1体をエクストラデッキから特殊召喚する。

《ブレード・スケーター》

通常モンスター

星4 / 地属性 / 戦士族 / ATK1400 / DEF1500
氷上の舞姫は華麗なる戦士。

必殺アクセル・スライサーで華麗に敵モンスターを切り裂く。

《サイバー・ブレイダー》

融合・効果モンスター

星7 / 地属性 / 戦士族 / ATK2100 / DEF800

「エトワール・サイバー」+「ブレード・スケーター」

このモンスターの融合召喚は上記のカードでしか行えない。

相手のコントロールするモンスターが1体のみの場合、このカードは戦闘によっては破壊されない。

相手のコントロールするモンスターが2体のみの場合、このカードの攻撃力は倍になる。

相手のコントロールするモンスターが3体のみの場合、このカードは相手の魔法・罠・効果モンスターの効果を無効にする。

明日香の場に青と真澄色で作られた渦が出現すると、《エトワール・サイバー》と紫色のレオタードを着用した女性が入っていた。

その後、その渦から露出度の高いレオタードを着て、赤いサンングラスのような物を付けた、青い髪の女性が現れた。

《サイバー・ブレイダー》：ATK2100

『《サイバー・ブレイダー》・・・なんて厄介なカードを。』

『あら？ 知っているの？』

『ええ。そのカードの効果は相手モンスターの数で変わる。1体な

ならば戦闘で破壊されなくなり、2体ならば攻撃力が倍になり、3体ならば相手の魔法、罠、モンスター効果を無効にする。ですよね？」

「その通りよ（知っているとなれば当然弱点も知っているはず。ならば速攻を仕掛ける！）。手札から《サイバー・チュチュ》を召喚し、魔法カード《受け継がれる力》を発動。《サイバー・チュチュ》を墓地へと送り、《サイバー・ブレイダー》の攻撃力をエンドフェイズ時まで1000ポイントアップする。」

《受け継がれる力》ちから

通常魔法

自分フィールド上のモンスター1体を墓地に送る。自分フィールド上のモンスター1体を選択する。

選択したモンスター1体の攻撃力は、発動ターンのエンドフェイズまで墓地に送ったモンスターカードの攻撃力分アップする。

《サイバー・チュチュ》

効果モンスター

星3 / 地属性 / 戦士族 / ATK1000 / DEF800

相手フィールド上に存在する全てのモンスターの攻撃力が

このカードの攻撃力よりも高い場合、このカードは相手プレイヤーに直接攻撃する事ができる。

《サイバー・ブレイダー》：ATK2100 3100

「バトルよ！《サイバー・ブレイダー》で《ドラグニティナイト・ガジャルグ》を攻撃！グリッサード・スラッシュ！」

《サイバー・ブレイダー》が床を滑走し、《ドラグニティナイト・ガジャルグ》を足に付けられたブレードで切り裂こうとするが、そ

これは2体のモンスターの間に現れた薄い膜によって遮られた。

『えっ？』

『墓地の《ドラグニティ・ガードナー》の効果を発動。「ドラグニティ」と名のつくモンスターが攻撃対象になったとき、墓地に存在するこのカードをゲームから除外することで、攻撃対象となった「ドラグニティ」と名のつくモンスターはこのターンのバトルフェイズの間、戦闘で破壊されません。まあ、ダメージ計算は適用しませんがね。』

遊璃：LP 2200 1500

『ライフを犠牲にしてまで・・・私は1枚カードを伏せて、ターンエンド。』

《サイバー・ブレイダー》：ATK 3100 2100

『《ドラグニティナイト・ガジャルグ》はこのデュエルにおいて私の生命線ですから・・・私のターン！ 《ドラグニティナイト・ガジャルグ》のモンスター効果を発動。デッキから《ドラグニティ・コルセスカ》を手札に加え、そのまま墓地へと送る。』

《ドラグニティ・コルセスカ》

チューナー・効果モンスター

星1/風属性/ドラゴン族/ATK 800/DEF 700

このカードがカードの効果によって装備カード扱いとして装備されている場合に発動する事ができる。

装備モンスターが戦闘によって相手モンスターを破壊した場合、自分のデッキから装備モンスターと同じ種族・属性のレベル4以下の

モンスター1体を手札に加える事ができる。

『自分のカードをそのまま墓地へと送る・・・まさか、クロノス教諭とのデュエルと同じ・・・(でも、《サイバー・ブレイダー》がいれば怖くないわ、それに伏せたカードは・・・ウフフツ)。』

『私は《ドラグニティ・レギオン》を召喚！墓地の《ドラグニティ・コルセスカ》を装備する。』

緑の鳥人が出現し、桃色の胴体に黒い兜を付けた竜が現れる。

『相手の場のモンスターが2体となったので《サイバー・ブレイダー》のモンスター効果、パ・ド・トロアを発動。攻撃力を倍にするわ！』

《サイバー・ブレイダー》：ATK2100 4200

『(このまま、《ドラグニティ・レギオン》の効果が発動すれば勝てるけど・・・何か怪しい)。ここは勝負^{リバースカード}に出る。伏せカードオーブン！！《ドラグニティ・ゲツドライブ！》。』

《ドラグニティ・ゲツドライブ！》

通常罫(葦切さん投稿オリジナル)

以下の効果から1つを選択して発動する。

自分の墓地に存在するレベル3以下の「ドラグニティ」と名のついたドラゴン族モンスター1体を選択し、装備カード扱いとして自分フィールド上の「ドラグニティ」と名のついたモンスター1体に装備する。

装備カード扱いとして装備されている「ドラグニティ」と名のついたモンスター1体を自分フィールド上に特殊召喚する。

『私は2番目の「装備カード扱い」として装備されている「ドラグニティ」と名のついたモンスター1体を自分フィールド上に特殊召喚する」を選択。《ドラグニティ・レギオン》に装備されている、《ドラグニティ・コルセスカ》を特殊召喚!』

『・・・《サイバー・ブレイダー》のモンスター効果、パ・ド・カトル。相手の魔法、罠、モンスター効果を無効にする。・・・(私の負けね。すべてのモンスターの攻撃を防ぎきれないわ。)』

《サイバー・ブレイダー》：ATK4200 2100

『・・・バトル!《ドラグニティナイト・ガジャルグ》で《サイバー・ブレイダー》を攻撃!天蓋式連槍檄!』

《ドラグニティナイト・ガジャルグ》は《サイバー・ブレイダー》に向かって飛び、《サイバー・ブレイダー》を槍で滅多刺しにする。・・・よっぼどさっきの攻撃が痛かったみたいね・・・

『きやつ!』

明日香：LP1600 1300

『終わりよ!《ドラグニティ・レギオン》、《ドラグニティ・コルセスカ》でダイレクトアタック!』

『きゃあああああああ』

明日香：LP1300 1000

遊璃：WIN

『ありがとうございます。』

『こちらこそありがとうございます。でもやっぱり悔しいわ。次は絶対負けないから!』

『あ、アハハ。私も負けるつもりはありませんよ!・・・それよりも最後の伏せカード、一体なんだったのですか?』

『ああ、あれね。このカードよ!』

明日香はデッキから1枚のカードを抜き取り、私に見せてきた。

それはモンスターを破壊する効果を無効にする・・・《デストラクション・ジャマー》だった。

《デストラクション・ジャマー》
カウンター罠

手札を1枚捨てる。「フィールド上のモンスターを破壊する効果」を持つカードの発動を無効にし、それを破壊する。

『あ、危なかった』

『ん?どうして?』

『《ドラグニティ・レギオン》には装備されている「ドラグニティ」と名のつくモンスターを墓地に送ることで、相手の場の表側表示モンスター1体を破壊する効果があるんです。・・・あの時、《サイバー・ブレイダー》を効果で破壊するか、攻撃で破壊するか。迷っ

たんですよ。』

『そうなの。結局は1手差なのね。』

『まあそうですね。私がまんまと明日香さんの罠にかかった場合、明日香さんが次のターン何を引くか、それでデュエルの内容も変わりますから。』

『そうね。でも今回は遊璃の勝ち。おめでとう』

『ええ。ありがとうございます。』

そこに

『遊璃』

雪乃が走ってきた。

『雪乃！』

『見ていたわ。物凄い攻撃の応酬だったわね。』

『でも何とか勝てたわ。』

『おめでとう。』

『ありがとう。』

そこに少々空気になりかけていた明日香さんが話しかけてきた。

『えつと、あなたは藤原さんよね?』

『ええ。あ、遊璃の事を名前で呼んでいるようだし、私のことは雪乃でいいわよ』

『分かったわ。私のことは明日香って呼んで。』

『分かったわ。』

『ところで雪乃は試験どうだったの?』

明日香が聞く

『私は、明日香とよく一緒にいる浜口ももえさんとやったわ。』

『結果は?』

『聞くも何も、デュエル開始2ターン目で終わったし・・・』

『えつ!?!?』

『じじいじじいとや』

side out

ー回想ー

side yukino

なんで私のデュエルの時間がお姉さまと一緒になのよー!!

『よろしくお願いします。』

『よろしくお願いしますわ。』

早く倒してお姉さまのデュエルを見るんだ！

『デュエル！』

雪乃：LP4000

ももえ：LP4000

『私の先攻ですわ。ドロー！ 《レスキューキャット》を守備表示で召喚。ターンエンドですわ！』

《レスキューキャット》

効果モンスター

星4/地属性/獣族/ATK300/DEF100

自分フィールド上に表側表示で存在するこのカードを墓地に送る事で、デッキからレベル3以下の獣族モンスター2体をフィールド上に特殊召喚する。

この方法で特殊召喚されたモンスターはエンドフェイズ時に破壊される。

首に笛を着け、黄色のヘルメットを被った子猫が丸まって現れる。

《レスキューキャット》：DEF100

『私のターン、ドロー。手札から《トレード・イン》を発動。手札の《天魔神 ノーレラス》を墓地に送り、カードを2枚ドロー・・・

。』

《トレード・イン》

通常魔法

手札からレベル8のモンスターカードを1枚捨てる。自分のデッキからカードを2枚ドローする。

『魔法カード《高等儀式術》を発動。手札の《破滅の女神ルイン》を公開。デッキから《デュナミス・ヴァルキリア》と《デーモン・ソルジャー》を墓地に送り、《破滅の女神ルイン》を儀式召喚。』

私の場に白髪美人な杖を持った女性が現れる。

《破滅の女神ルイン》：ATK2300

『更に、墓地の《デュナミス・ヴァルキリア》と《デーモン・ソルジャー》を除外し、《カオス・ソーサラー》を特殊召喚。』

《カオス・ソーサラー》

効果モンスター

星6 / 闇属性 / 魔法使い族 / ATK2300 / DEF2000

このカードは通常召喚できない。

自分の墓地に存在する光属性と闇属性のモンスターを1体ずつゲームから除外した場合に特殊召喚することができる。

1ターンに1度、フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を選択してゲームから除外することができる。

この効果を発動するターン、このカードは攻撃する事ができない

私の場に、黒いスーツのような服を着た、執事風の男性が姿を見せる。

《カオス・ソーサラー》：ATK2300

『い、いきなり上級モンスターが2体ですのッ!』

『バトル! 《破滅の女神ルイン》で《レスキューキャット》を攻撃! 灼熱の 대기。』

《破滅の女神ルイン》の放つ魔法が《レスキューキャット》を跡形もなく消した。

『ルインの効果、モンスターを戦闘で破壊したので、追加攻撃が出来る。直接攻撃。酷寒の大地!』

ルインの魔法が今度は浜口ももえを襲う。

『嫌ですわ! 寒いですわ〜!!』

ももえ：LP4000 1700

『これで終わり。《カオス・ソーサラー》で直接攻撃。』

『きゃあああああああ・・・』

ももえ：LP1700 0

終わった。

『ありがとうございました。』

さてとつととお姉さまの元に行かなきゃ。

side out

――回想終了

side yuri

『はあ。』

雪乃のデュエル内容を聞いて明日香さんが溜息をつく。

『ももえ、負けるの早すぎよ。』

『弱すぎて困ったわ。明日香、あの子との付き合い方、考え直した
ほうが良いかもね。』

『……ちよつと考えさせて。』

そういつて明日香はデュエル場を去る。

『雪乃、ちよつと言いすぎじゃない？』

『いいの。明日香にはこれくらい言わないと聞かないでしょ。頑固
そうだし。』

『……そうかもね。それよりも試験デュエル勝利おめでとう』

『ありがとう。』

そこに、

『え、生徒諸君。試験お疲れ様でした。』

鮫島校長が放送を入れてきた。

十代の昇級を断るシーンは原作通りなので省略

『これで月1試験を終了とします。お疲れ様でした。』

こうして月1試験は終わった。

えっ 結果？

それはね。

・

・

・

1：HUDOU YURI 500

2：HUJIWARA YUKINO 498

3：TENJOIN ASUKA 497

4：MISAWA DAITI 495

こんな感じだよ

300 : MARUJI SYOU

38

.

222 : MAKURADA JUNKO
221 : HAMAGUTI MOMOE

166 167

182 : MAEDA HAYATO

197

.

143 : YUKI JUDAI

231

.

5 : MANJOME JUN

490

•
•
•
T
O
b
e
c
o
n
t
i
n
u
e
d

11話：デュエルアカデミアの定期試験の方が入学試験よりもレパトリーが多

明日香のオリカ効果が見つからず、更新に時間がかかってしまいました。

私は、TFシリーズではTF5しか持ってないので、TF2のカードとかを探すのは少々骨でした。

結局ネットで探してようやく見つけて書き始めたのが昨日の20:00くらい。

途中で寝落ちして文章が消え去り、大変でした。

どうやら寝る前に保存しておいたらしく、被害は300字くらいでしたが^^;

今回使用しましたオリカは葦切さんとキラーさんの投稿のものです。

キラーさんのオリカは元の効果ですと、戦士族サポートが受けられなくなつた《ネクロ・ガードナー》(ステータス+400ver)だったので、

調整をさせていただきました。

勝手に変更してしまい申し訳ありませんでした。

さて、あとがきで書くことがなくなつた。

どうしようっ？

もういや。次回の予告に行つちやえ

次回は廃寮にしようかな？と思っています。

ではでは

12話・夢のトラウマは消えず(前書き)

予告通り廃寮です。

ネタバレすると、タイタンの如何様はなくなる予定。

タイタンの口調が良く分からないので適当です。
すいません。

それとPV50000、ユニーク50000を超えました。

皆さん読んでくださってありがとうございます。

12話・夢のトラウマは消えず

side taitan

俺の名はタイタン。闇のデュエリスト。

俺は今、依頼人との打ち合わせのためデュエルアカデミアにいる。

おっと、依頼人が来たようだが・・・

おかつぱ頭に鱈子口だとお・・・

うづむ。まあ、俺は金が貰えればそれでいい。

さて交渉に入るとするか。

『貴様が。俺をここに呼んだのはあ』

『如何にもナノーネ！』

『それで、俺に闇に葬って欲しいのは誰だ！』

『シニョール遊城十代ナノーネ！』

『遊城十代・・・了解した。金の方だが、俺の雇い金はいつでも依頼人に如何なる事情があろうとも、依頼人の給料三か月分だあ』

『さ、三ヶ月分！ 幾らなんでも滅茶苦茶なノーネ。』

『では依頼を取り消すか？ それならばキャンセル料として給料一か月分をいただくが。』

『そつちもそつちで滅茶苦茶ナノーネ！…いいでシヨウ！依頼するノーネ！』

『分かった。依頼遂行後、貴様宛に振込み用紙を送る。ではさらばだ。』

『ちよ、ちよつと待つノーネ！』

『なんだ？』

『ひとつだけ、ひとつだけ頼みがあるノーネ！』

『言ってみる！ 内容によっては追加料金をとるぞ！』

『グツ……シニョーラ不動遊璃には手を出さないで欲しいノーネ！』

『…善処しよう。今度こそさらばだ……』

『背中みせねー』

Side out

•
•
•
•
•

s i d e y u r i

ん！

はあくよく寝た。

今何時かしら？

・・・4時45分ね。

いつもより早く起きてしまったわ。

さて、雪乃が起きるまで何をしていたのかな。

ん？

誰か外にいる。

あれは・・・明日香さん？

どうしてこんな時間に・・・

それにしても何だか悲しそう。

どうしたんだろう？

・・・

・・・

・・・

・・・

その夜――

『雪乃？』

『どうしましたの？』

『えっとね、明日香さんが朝寮の外にいる理由知ってる？』

『明日香が？ いえ、知りませんよ？・・・でもどうして？』

『いや、別に朝外に出ているだけなら気にも留めないんだけど。なんだか明日香さんの表情が悲しそう
で。』

『・・・で友達としてお姉様は相談に乗りたいって。』

『うん。でももしプライベートすぎるものだったら聞いちゃまずい
のかなって。』

『・・・じゃあ、ついて行きましょう！明日香の後を』

『・・・うん。』

『悩んでいても仕方ありません。行きましょ！』

『分かった。』

こうして、私は雪乃と一緒に明日香さんをつけることになった。

これが、恐ろしいゲームの始まりとは知らず。。。

・
・
・
・

深夜――

『雪乃、あれ、明日香さんだよね?』

『そうですね。さあ行きましょ!』

『ええ。』

私たちは明日香さんに気付かれないようにあとをつけた。

そして、ついた先は……生徒立ち入り禁止の廃寮だった。

『雪乃。明日香さんは?』

『あそこですわ。』

明日香さんはそこで花を添えていた。
まるでお葬式にでる人みたいに。

私は……思わず声を掛けてしまった。

『明日香さん?』

『ツ……遊璃?』

『どうしたんですか？こんな時間に。』

『え、えっとね散歩かな。』

『……嘘はつかないで下さい。』

『……分ったわ。話すわよ。実は……』

『その前に、雪乃出てきて。』

ガサガサ

『お姉様、勝手に出て行くなんて……あ、』

『お姉様って……貴女達、そういう関係？』

『そういう関係って？』

『今はまだ違います。何れはそうなりたいですけど……』

『はあ、雪乃は兎も角、遊璃が自覚してないのであれば大丈夫そうですね。さてっと話すわね。』

『ちょっと待ってください。雪乃。』

『はあくまずは『雪乃！』ハッ、妄想が過ぎたわ。』

『『ハア〜』』

『ん？それよりも明日香、話してくれるんでしょ！』

『まず、この寮が立ち入り禁止な事は知っているわよね？』

『『ええ。』』

『原因は分らないんだけど、この寮に入った生徒は行方不明になっているわ。』

『えっ！？ でもどうしてそう思うのですか？』

『私の兄もその1人だからよ・・・』

『ッ！』

『でも、私明日香のお兄さんは海外に留学しているって聞きましたけれど？』

雪乃が言う

『表向きにはそうなっているわ。でも、それはここの評判を下げないための口実に過ぎない。』

『酷い。』

『本当に酷い話よね。私も出来れば信じたくないわ。でもこれは真実なのよ！』

それから私たちは明日香からこの寮について色々聞いた。

そして、暫くしたころ

『ん？ 明日香に不動、藤原じゃねえか。どうしたんだこんな時間に。』

いきなり声がしたほうを見ると、そこには遊城君、丸藤君、前田君がいた。

もつとも、遊城君以外震えていたが・・・

『そつちこそ、こんな時間に何をしているの？』

『探険だよ。探険。』

『探険つてねえ。』

『別にいいだろ。大徳寺先生には見つかってないし。』

『『『はあ。』』』

『何でため息つくんですか。』

『何でつて。行きは見つからなくても、帰りは見つかるかもしれなのよ。』

『『あつ！』』

丸藤君と前田君は言う。

気付いていなかったのね。

『別に大丈夫だって。』

『あ、兄貴……』 『じゅ、十代……』

『大丈夫だって！ほらいくぞ！』

『はいっす』 『分かったんだな』

『じゃあな、明日香！』

『え、ええ。』

そう言っつて遊城君たちは廃寮の中に入っていった。

『……で、どうするの？ 貴女達は？』

少し経った頃、明日香が尋ねてくる。

私は、

『私はもう帰ろうかと思えます。今日ここに来たのだって、明日香さんがこっちに来るのを見かけただけでしたから。』

帰ることを選んだ。

『そう。……私も今日は帰るわ。さあ行きましょ！』

『ええ。』

そうして私たちは廃寮に背中を向けた。

・・・その時

ブワァアン

『ッ・・・!』

ガシッ

『明日香さん？ どうした・・・明日香さん!!』

『こら明日香を離しなさい!』

大男が明日香を羽交い絞めにしていたのである。

『ふん。こいつは遊城十代をおびき寄せ餌になってもらうんでなあ。簡単に返すわけにはいかないんだあ!』

『だ、だったらデュエルです。私が勝ったら明日香さんを返してください。そしてここから去ってください。』

『フハハハハ。いいだろう。だが私が勝ったら、お前も人質になってもらうぞ!』

『・・・分かりました。』

『ならばこの寮の地下で待つ。あまり待たせるなよ。フハハハハ！』
そう言つて大男は消えていった。

『明日香・・・』

『雪乃、私明日香さんを取り戻しに行つてくるわ！』

『なら私も行きます。』

『うん。雪乃は此処に残っていて。もし朝になつても私が戻らなかつたら先生を呼んで来て欲しいの。』

『ですが、お姉様！』

『雪乃・・・分かつたわ。』

『ありがとうございます。』

『じゃあ行くわよ！』

そうして私たちは廃寮の中へと入っていった。

・
・
・
・
・

廃寮・地下デュエル場

『・・・来たか』

『ええ。早速だけれど、デュエルよ!』

『いいだろう。貴様も遊城十代を連れて来る為の人質にしてくれるわあ!』

『『デュエル!』』

遊璃：LP4000/タイタン：LP4000

『私の先攻!ドルオオ・・・ところで自己紹介が遅れたな。我が名はタイタン。別名闇のデュエリストだあ!』

意外に律儀な大男・タイタンに思わず、気が緩みそうになった。

しかし、その後に聞こえた部分で気を引き締めなおした

『闇のデュエリスト・・・ですか? ということはこれは闇のゲーム?』

『そうしてもいいのだが、人質を消してしまつては元もこつもないからなあ。普通のデュエルだあ!・・・ところでお嬢さんの名前はなんというのだ? あそこの女は明日香というのはさっき分かったが、ずっとお嬢さんというのは気が引けるんでね・・・』

『あまり教えたくはないんですけど、私は不動遊璃です。』

『な、何！？』

タイタンは私が名前を名乗ると、驚きの声を上げた。

side out

side taitan

この少女が依頼人から注告のあった不動遊璃だとお

てつきり女性の教員だと思っていたから油断してしまった。

まあ、俺の細工したルーレットを使えば、確実に勝てるからな。焦る事はない。

『・・・取り乱してしまったようだが、続けるぞ！ 私は手札から《ジェネラルデーモン》の効果を発動。このカードを墓地へと送り、デッキから《万魔殿 - 悪魔の巣窟 -》を手札に加え発動。』

《ジェネラルデーモン》

効果モンスター

星4 / 闇属性 / 悪魔族 / ATK2100 / DEF800

このカードを手札から墓地に捨てる。

デッキから「万魔殿 - 悪魔の巣窟 -」1枚を手札に加える。

フィールド上に「万魔殿 - 悪魔の巣窟 -」が存在しない場合、フィールド上のこのカードを破壊する。

《万魔殿 - 悪魔の巣窟 -》

フィールド魔法

「デーモン」という名のついたモンスターはスタンバイフェイズにライフを払わなくてよい。

戦闘以外で「デーモン」という名のついたモンスターカードが破壊されて墓地へ送られた時、そのカードのレベル未満の「デーモン」という名のついたモンスターカードをデッキから1枚選択して手札に加える事ができる。

タイタンがフィールド魔法を発動すると、地下デュエル場全体が洞窟に変化し、

中では悪魔だと思われる人物が儀式を行っていた。

『ようこそ。地獄の一丁目へ』

『このカードを使うということは彼のデッキは「デーモン」デッキ。だとすると早めに破壊しなければ・・・』

『（そんなことはお見通しであ〜）・・・さらに《フィールド・バリア》を発動』

『えっ!?!』

《フィールドバリア》

永続魔法

フィールド魔法カードを破壊する事はできない。

また、フィールド魔法カードを発動する事はできない。

「フィールドバリア」は、自分フィールド上に1枚しか表側表示で存在できない。

《万魔殿・悪魔の巣窟》の内側に白いドーム状の膜が現れた。

きつとこれが《フィールドバリア》なのだろう。

『さらに《トレード・イン》を発動。手札に《プリズンクインデーモン》を捨て、2枚ドルオオ・・・そして《インフェルノクインデーモン》を守備表示で召喚。カードを1枚伏せてターンエンドだあ・・・』

《プリズンクインデーモン》

効果モンスター

星8 / 闇属性 / 悪魔族 / ATK 2600 / DEF 1700

このカードのコントローラーは自分のスタンバイフェイズ毎に1000ライフポイントを払う。

フィールド上に「万魔殿・悪魔の巣窟」が存在し、このカードが墓地に存在する場合、自分のスタンバイフェイズ毎にフィールド上に存在するレベル4以下の悪魔族モンスター1体の攻撃力はエンドフェイズ時まで1000ポイントアップする。

《インフェルノクインデーモン》

効果モンスター

星4 / 炎属性 / 悪魔族 / ATK 900 / DEF 1500

このカードのコントローラーは自分のスタンバイフェイズ毎に500ライフポイントを払う。

このカードが相手のコントロールするカードの効果の対象になり、その処理を行う時にサイコロを1回振る。

2・5が出た場合、その効果は無効にし破壊する。

このカードがフィールド上に存在する限り、スタンバイフェイズ毎に「デーモン」という名のついたモンスターカード1体の攻撃力をエンドフェイズまで1000ポイントアップする。

私の場に桃色の布を纏った骨が目立つ悪魔が現れる。

男女の区別はつかないが、名前からして恐らくは女性であろう。

《インフェルノクインデーモン》：DEF1500

『こ、これはとんでもないコンボ！』

『どづいうこと？ 遊璃。』

『彼の墓地にある《プリズンクインデーモン》は自分の場に《万魔殿・悪魔の巣窟・》がある限り、スタンバイフェイズ毎にフィールド上に存在するレベル4以下の悪魔族モンスター1体の攻撃力はエンドフェイズ時まで1000ポイントアップする。つまり、《万魔殿・悪魔の巣窟・》を破壊しない限り相手のターンにモンスター1体が強化されてしまう。』

『それならば、《万魔殿・悪魔の巣窟・》を破壊すれば・・・』

『それが出来ないの。』

『えっ!?!』

『《フィールド・バリア》が存在する限り、お互いにフィールド魔法を破壊することが出来ず、新たなフィールド魔法を発動することが出来ない。』

ほう、学生でこのコンボを理解するとは、なるほど依頼人が忠告するわけだ。

『その通りだ。よく分かったな。』

だがまだ私のコンボは始まったばかりだ・・・

side out

side yuri

どうする。

タイタンのカードによってフィールド魔法は封じられた。

突破するにもデーモンは対象にとる効果を発動するとサイコロの効果を発動するし、

効果で除去したらしたで《万魔殿・悪魔の巣窟》の効果で新たなデーモンが手札に加わる。

戦闘で破壊するにしても、その対策くらいタイタンは考えているだろう。

だけれど、ここで止まっては明日香を助けることは出来ない。

「私のターン！ 私は速攻魔法《渓谷の伏兵》を発動！ この効果で手札の《竜の渓谷》を捨てることでデッキから《ドラグニティ・フアリンクス》を特殊召喚！ そして《ドラグニティ・フアリンクス》をリリースし、《ドラグニティ・アングス》をアドバンス召喚。」

《ドラグニティ・アングス》

効果モンスター

星5 / 風属性 / 鳥獣族 / ATK2100 / DEF1000

このカードは「ドラグニティ」と名のついたドラゴン族モンスターを装備カードとしている場合、

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

《ドラグニティ・アングス》：ATK2100

「……攻撃力2100……だがあれよりも……」「リリース」と「アドバンス召喚」とは何の事だあ？」

タイタンが私に聞いてくるので私は正直に答えた。

「リリース」とは生け贄、「アドバンス召喚」とは生け贄召喚の事です。……私は単に「生け贄」と言う言葉が嫌いなので独特の言い方をしています」

私がそれに答えると、タイタンは納得したように何度か頷く。

余談だけれど、一緒にいた雪乃がこの事をアカデミアの生徒に話したので、これ以降私が他の生徒にそれらの言葉について聞かれる事はなかった。

さて、タイタンも納得したようですし、デュエルを再開しますか。

「更に《竜操術》を発動。その効果で手札から《ドラグニティ・ソルジャー》を《ドラグニティ・アングス》に装備する。」

《ドラグニティ・ソルジャー》（キラーさん投稿オリカ）

効果モンスター

星3 / 風属性 / ドラゴン族 / ATK1300 / DEF1300

このカードの攻撃力はフィールド上の魔法・罠カードの数×300

ポイントアップする。

相手のスタンバイフェイズ時にこのカードが装備カード状態の場合、自分のライフポイントを相手の魔法・罠の数×200ポイント回復させる。』

《ドラグニティ・アングス》：ATK2100 2600

『攻撃力2600だとお！』

『それだけではありません。《ドラグニティ・アングス》が「ドラグニティ」と名のついたドラゴン族モンスターを装備カードとしている場合、このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与えます。』

『なにー！』

『バトルです。《ドラグニティ・アングス》で《インフェルノクインデーモン》を攻撃！』

《ドラグニティ・アングス》はその手に持つ武器で《インフェルノクインデーモン》を切り裂く！

『グウウ』

タイタン：LP4000 2900

『カードを1枚伏せて、ターン終了です。』

『ではエンドフェイズに伏せカードを発動しよう！ 速攻魔法《終

焉の焰』！』

『なっ！』

《終焉の焰》しゆうえんほのお

速攻魔法

このカードを発動するターン、自分は召喚・反転召喚・特殊召喚する事はできない。

自分フィールド上に「黒焰トークン」（悪魔族・闇・星1・攻/守0）2体を守備表示で特殊召喚する。

このトークンは闇属性モンスター以外のアドバンス召喚のためにはリリースできない。

タイタンの場に黒い人魂のような炎が2つ出現する

黒焰トークン：DEF0

黒焰トークン：DEF0

『私のターン！ ドルオオ！』

『この瞬間、私は装備されている《ドラグニティ・ソルジャー》の効果を発動！貴方の場に存在する魔法・罠の数×200のライフポイントを回復します。』

遊璃：LP4000 4400

『ならば私も墓地の《プリズンクインデーモン》の効果を発動！それにより《黒焰トークン》1体の攻撃力を1000ポイントアップする。・・・まあ意味はないがなあ。』

黒焔トークン：ATK0 1000

『私は手札から《強欲な壺》を発動！ これにより更に2枚ドルオ
ーする。』

『ククク。来たぞ！ 私は《黒焔トークン》2体を生け贄とし、来
い！ 最強のデーモン！ 《Archfiend Empress》
！ フハハハハ！』

『え、英語！？』

《Archfiend Empress》

効果モンスター

星8 / 闇属性 / 悪魔族 / ATK2900 / DEF2100

自分フィールド上に表側表示で存在するこのカード以外の

闇属性・悪魔族モンスター1体が破壊される場合、代わりに自分の
墓地に存在する

闇属性・悪魔族のモンスター1体をゲームから除外する事ができる。
フィールド上に存在するこのカードが破壊され墓地へ送られた時、
自分の墓地に存在する「Archfiend Empress」以
外の

レベル6以上の闇属性・悪魔族モンスター1体を選択して特殊召喚
する事ができる。

タイトンの場に右手に髑髏の模様のついた二又の杖を持ち、左手に
はエネルギー弾を溜め、

頭からは禍々しい悪魔の角を生やし、同じく禍々しい仮面の奥から
は女性のような顔つきを見せる悪魔が現れた。

《Archfiend Empress》：ATK2900

『更に魔法カード《二重召喚》！ これにより、私はもう1度通常召喚を行える。《ジェノサイドキングデーモン》を召喚！』

デュアルサモン
《二重召喚》

通常魔法

このターン自分は通常召喚を2回まで行う事ができる。

《ジェノサイドキングデーモン》

効果モンスター

星4 / 闇属性 / 悪魔族 / ATK2000 / DEF1500

自分フィールド上に「デーモン」という名のついたモンスターカードが存在しなければこのカードは召喚・反転召喚できない。

このカードのコントローラーは自分のスタンバイフェイズ毎に800ライフポイントを払う。

このカードが相手のコントロールするカードの効果の対象になり、その処理を行う時にサイコロを1回振る。

2・5が出た場合、その効果を無効にし破壊する。このカードが戦闘で破壊した効果モンスターの効果は無効化される。

《ジェノサイドキングデーモン》 : ATK2000

タイタンの場に王冠を被り、大剣を地面に刺しているデーモンが現れるが、《Archfiend Empress》には覇気も威厳も負けている。

『そして最後の手札、《デーモンの斧》を《ジェノサイドキングデーモン》に装備！』

《デーモンの斧》おの

装備魔法

装備モンスターの攻撃力は1000ポイントアップする。

このカードがフィールド上から墓地へ送られた時、自分フィールド上に存在するモンスター1体をリリースする事でデッキの一番上に戻す。

《ジェノサイドキングデーモン》：ATK2000 3000

『いくぞ！ まず《Archfiend Empress》で《ドラグニティ・アングス》を攻撃！ ダークネス・フル・ブラスト！』

『・・・と、罨カード発動！《竜の礎》！ 《ドラグニティ・ソルジャー》を墓地に送り、攻撃対象に選択されたモンスターはエンドフェイズ時まで戦闘で破壊されず、そのモンスターの戦闘で自分が受ける戦闘ダメージは無効になり、その数値分ライフポイントを回復する。』

《龍の礎》いしすずみ

通常罨（葦切さん投稿オリカ）

自分フィールド上に表側表示で存在する「ドラグニティ」と名のついたモンスターが攻撃対象に選択された時に発動する事ができる。カードの効果によって装備カード扱いとして装備されている「ドラグニティ」と名のついたモンスター1体を墓地に送る事で、攻撃対象に選択されたモンスターはエンドフェイズ時まで戦闘で破壊されず、そのモンスターの戦闘で自分が受ける戦闘ダメージは無効になり、その数値分ライフポイントを回復する。

《ドラグニティ・アングス》：ATK2600 2100

《Archfiend Empress》の作り出した闇の波動に

《ドラグニティ・アングス》が飲まれる寸前、両者の間に《ドラグニティ・ソルジャー》の形をした石像が現れ、攻撃を防ぐ。

しかもその竜の石像は攻撃の余波を私の力に変換してくれた。

遊璃：LP4400 5200

『ぬう。倒せなかったか。しかもその石像はターン終了時まで残るだとお・・・ターンエンド』

エンド宣言と共に石像は砕け散った。

『…ありがとう。私を守ってくれて！……私のターン！ ドロー！……魔法カード《天よりの宝札》！ これによりお互いのプレイヤーは手札が6枚になるようにカードを引く』

『ふふふ。ありがとう。私の手札も補充してくれて。』

『私は、手札から《騎乗竜 エアル》を召喚！ そして《ドラグニティ・アングス》にユニオン！』

《騎乗竜 エアル》（FOOLさん投稿オリカ）

効果モンスター・ユニオン

星2 / 風属性 / ドラゴン族 / ATK800 / DEF800

1ターンに1度、このカードは自分のフィールド上に表側表示で存在する「ドラグニティ」と名の付くモンスター1体に装備または装備を解除して特殊召喚する事が出来る。

このカードが装備状態の時、1ターンに1度フィールド上の魔法・罠カード1枚を手札に戻す事ができる。

装備状態のこのカードが墓地に送られたとき、墓地に存在する「ド

ラグニティ」と名の付くモンスター1体を特殊召喚する。
このカードを装備しているモンスターが破壊されるとき、代わりにこのカードを破壊する事が出来る。

『ユニオンだとオオ・・・』

『そして《騎乗竜 エアル》の効果を発動！《万魔殿・悪魔の巣窟 -》を手札に戻す。これで貴方は次のターンからデーモンの維持コストを支払わなければならない。』

フィールドとなっていた洞窟が地下の風景に戻ったが、白い膜は残ったままであった。

『なっ！？』

『更に《ドラグニティ・クラッシュ》を発動！ 《ドラグニティ・アングス》をリリース！』

《ドラグニティ・クラッシュ》

通常魔法（言羽・D・カラストロフィーさん投稿オリカ）

ドラグニティと名のつくモンスターをリリースし発動する。

相手にリリースしたモンスターの元々の攻撃力の半分のダメージを与え相手の手札をランダムに1枚捨てる。

『グオオ・・・』

タイタン：LP2900 1850

『そして相手の手札をランダムに1枚捨てる。』

『クソツ・・・《デスルークデーモン》が・・・』

《デスルークデーモン》

効果モンスター

星3 / 光属性 / 悪魔族 / ATK1100 / DEF1800

このカードのコントローラーは自分のスタンバイフェイズ毎に500ライフポイントを払う。

このカードが相手のコントロールするカードの効果の対象になり、その処理を行う時にサイコロを1回振る。

3が出た場合、その効果を無効にし破壊する。

自分フィールド上の「ジエノサイドキングデーモン」が破壊され墓地に送られた時、このカードを手札から墓地に送る事で、その「ジエノサイドキングデーモン」1体を特殊召喚する。

『そして《騎乗竜 エアル》のモンスター効果。装備状態のこのカードが墓地に送られたので墓地から《ドラグニティ・アングス》を特殊召喚！』

《ドラグニティ・アングス》 : ATK2100

『私も《二重召喚》を発動！そして《ドラグニティ・ドウクス》を召喚！効果で墓地の《ドラグニティ・ファランクス》を装備する。』

私の場に白い翼を持つ鳥人が現れ、その横に青い金色の鎧を纏う竜も出現する。

《ドラグニティ・ドウクス》 : ATK1500 2100 2600

『レベル4で攻撃力2600だとおお』

『まだまだ行きますよ〜《ドラグニティ・ファランクス》を自身の効果で特殊召喚!』

《ドラグニティ・ドウクス》の横に《ドラグニティ・ファランクス》が並ぶ

《ドラグニティ・ドウクス》 : ATK 2600 2100

『手札0からここまで展開するとは……!』

『まだです。レベル5《ドラグニティ・アングス》、レベル4《ドラグニティ・ドウクス》にレベル2《ドラグニティ・ファランクス》をチューニング!』

『何い!』

真澄色の線で半透明となった《ドラグニティ・アングス》と《ドラグニティ・ドウクス》が9つの星となり、2つの輪となった《ドラグニティ・ファランクス》を潜る。
そして地下室一面を光で染めた。

+ + || x 1 1

『秘境の竜騎士が今ここに一騎当千の竜騎士を紡ぐ! 戦場鎮める風となれっ! シンクロ召喚! 咆哮せよ《ドラグニティナイト・セイリユウ》!』

《ドラグニティナイト・セイリユウ》

シンクロ・効果モンスター (言羽・D・カタストロフィーさん投稿)

オリカ)

星11 / 風属性 / ドラゴン族 / ATK 3500 / DEF 2500
ドラゴン族 チューナー + ドラグニティ と名のつく チューナー 以外の
モンスター 1 体以上。

このモンスターはシンクロ召喚でのみ特殊召喚できる。

このモンスターがシンクロ召喚に成功した時、墓地の「ドラグニティ」と名のつくモンスターを2体装備する。1ターンに1度自身に装備されている「ドラグニティ」と名のつくモンスター1体を墓地に送る事で相手のセットしている魔法・罫または相手の表側表示のモンスターを全て破壊できる。このモンスターが「ドラグニティ」と名のつくモンスターを装備していない場合破壊される。

このモンスターがフィールド上に表側表示で存在する限り相手は魔法・罫を破壊できない。

またこのモンスターが除外された時、攻撃力1000以下のドラグニティと名のつくモンスターを攻撃表示で特殊召喚する。

私の場に大きな黄色の竜に跨り、色々な装飾のついている青龍刀を構え、頑丈そうな鎧を着けた武将が現れた。

《ドラグニティナイト・セイリュウ》：ATK 3500

『シンクロ召喚だとお。なんだそれは？』

『えつとですねえ・・・』

『貴方がこの島に来た理由を教えてくださいなれば教えてくださいなわ』

雪乃が交換条件を出す。

『むむ。知りたいが、クライアントの事は話せない。』

『では秘密です。』

『クツ・・・』

『《ドラグニティナイトーセイリユウ》の効果発動！ 墓地から《ドラグニティ・フランクス》と《ドラグニティ・ソルジャー》を装備！』

黄色の竜の両脇に2つの竜が現れ、乗っている武将に力を分け与える。

《ドラグニティナイトーセイリユウ》：ATK3500 4000

『攻撃力4000だとお・・・（だが、《Archfiend Empress》の効果があれば、私の場は不滅。このターンで全滅することはない。）』

『そして《ドラグニティナイトーセイリユウ》に《竜操術》の効果で《ドラグニティ・イツセン》を装備！』

《ドラグニティ イツセン》

効果モンスター（ガイウス様さん投稿オリカ）

星3 / 風属性 / ドラゴン族 / ATK1000 / DEF500

このカードが召喚に成功した時、自分フィールド上に存在するドラグニティと名のつくモンスターにこのカードを装備する事が出来る。このカードがカードの効果によって装備カード扱いとして装備されている場合、装備モンスターの攻撃力を半分にする事で相手プレイヤーに直接攻撃する事が出来る。

『《ドラグニティ・イツセン》の効果、カードの効果によって装備カード扱いとして装備されている場合、装備モンスターの攻撃力を半分にする事で相手プレイヤーに直接攻撃する事が出来る。』

『なっ・・・今のそのモンスターの攻撃力は・・・4000!』

『半分で2000のダメージ。貴方のライフポイントは残り1850。終わりです。《ドラグニティナイト・セイリュウ》で直接攻撃!青龍の憤怒斬!』

《ドラグニティナイト・セイリュウ》が手に持った刀に龍を宿らせ、
タイタンに向けて衝撃波を放つ

『ぶるあああああああ!!!!!!!』

タイタン：L P O

遊璃：W I N

『クソッ負けてしまったか。』

『約束どおり、明日香さんを返してください。そして島から出て行ってください。』

『分かっている。約束は守る。』

そう言ってタイタンは腰の機械を弄ると壁の一部が動き、明日香といくつかの棺桶が出てきた。

『あれって。』

『ああ。あの棺桶はお前たちを入れる為に用意したんだ。まあ、不
必要になってしまったがな。』

『そうですか。』

『ではさらばだ。』

ブアアアアアアア

タイタンは煙と共に消えていった。

私たちは明日香さんを起こすことにする。

『明日香さん、明日香さん』

『明日香、起きなさい!』

『ん、うっん』

『明日香!』

『あれ? 遊璃に雪乃? ここは...』

『廃寮の地下です。』

『そう。私、あの男に連れられてきたのね。』

『ええ。』

『そして、遊璃達が助けてくれた・・・ありがとう。』

『どういたしまして。』

・
・
・
・
・

『さあ、早く出ましよう！』

『雪乃、こっちから入ってきたんだっけ？』

『そうですよ！』

そうして明日香達と壁を見ながら廃寮の廊下を歩いていると

『あ、これは・・・』

『どうしたんですか？明日香さん』

『これは・・・兄さんの顔写真』

『ええ！？』

私と雪乃の声がそろそろ

『この右下にあるサイン「10join」これは10を「テン」と読むとテンジヨイン、天上院という意味になるの。兄さんが良くやつていたサインよ』

『そうなんですか』

『これを見つけれられたのも貴方のお陰。ありがとう。』

『いえいえ。』

そして私達は廃寮から出た。

時間からして3時くらいだった。

『急ぎましょう！ 鮎川先生に見つかったら大変よ！』

そう言っただけで私達はブルー寮に駆け足で戻った。

side out

side judai

『なあ、何かあったか？』

『いや、何も無いっす。』

『こつちもなんだなあ』

『はあ、結局何も無いのかあ』

『幽霊も出なくてよかったっす。』

『そうなんだなあ』

『さて、何も無いんだし戻るか!』

『はいつす。』 『んだな。』

俺達は廃寮を後にした。

『やっべえ。ゆっくりしすぎた。』

『翔。隼人。急いで戻るぞ!』

side out

side kuronosu

フフン、そろそろドロップアウトボーイが倒されている頃ナノーネ!

およ!

何も無い。

さてはアイツ失敗したノーネ!

こ、これは・・・請求書 クロノス・デ・メディチ様

給料三か月分をお支払い下さいって。

依頼失敗しても払わなければいけないノーネ。

冗談じゃないノーネ!

カキゴオーリ！

・・・無視しちゃおうナノーネ！

とりあえず、この紙は即刻処分しなきゃなノーネ。

次はどうやってドロップアウトボーイを退学にさせよう・・・

・・・ここでデュエルした形跡がない以上、廃寮に侵入したっていうのは駄目ナノーネ！

うむむ。。。

お手上げナノーネ！

マンマミィヤ〜

・・・・・・To be continued

12話：夢のトラウマは消えず（後書き）

はい、タイタン強化しすぎました。

デーモンデッキ一時期組もうとしていただけに思い入れが深くて今回歯止めが利かなくなってしまうました><

そのせいでラストが適当になってしまつてすみませんでした。

次にタイタンを出すとしたら自重させます。

多分出番ないけれど。

それより6番目のセブンスターズどうしよう・・・

因みにArchfiend Empressって海外版で出たデーモンなんですよね。

パツク的には未来のカードにあたりますが、海外版なので許してください。

今回は廃寮に侵入したことがバレてないので、今度こそVS万丈目にしようかと思えます。

三沢の出番が減っていく。

そして翔の成長フラグを折るのは楽しいな オイ

13話：頼むから統一してくれ！（前書き）

はい、今回はvs万丈目です。

原作で言つと退学を掛けた三沢vs万丈目に当たります。

女子寮には潜入できない万丈目。

デッキを捨てる事が出来ない万丈目が今回足掻きます。

ついでに戦うのは遊璃ではないですよ）あ

うむむ。。書く度に小説の中身が薄くなつていく気がする・・・

今回ルールミスがありますが、打開策が見つかり次第修正しますのでそれまでお待ちください。

13話：頼むから統一してくれ！

side jun

あー、気に入らん。

遊城十代。

俺は奴に負けてから良い事がまるでない。

自分には見放されるし、特等席は席替えになるし、ブルーの奴らは俺をあざ笑う。

最近ではクロノス教諭にも見放された。

・・・そして俺はもう一人この学園に気に入らん奴がいる。

それは・・・不動遊璃。

彼女はシンクロ召喚という今までに聞いたこともない戦術を使い、

クロノス教諭を入学試験でオーバーキルで倒し、月一試験では満点を叩き出した。

天上院君も彼女とデュエルしてから何かが変わった。

それはよく分らんがな。

それにしても、高等部からの編入者に俺が負けることなどあってはならんのだ！

つと、なれば俺が彼女とデュエルし、実力を示すしかない。

なんとか場を設けられないものか・・・

とりあえず、果たし状でも書いてみるか。

カイザーにもデュエル申し込み願いがあから、なんとかなるだろう。

s i d e o u t

s i d e y u r i

な、な、何これー！！

え？

果たし状？

まったく心当たりないんですけど・・・

差出人の名前ないから判断できないし・・・

とりあえず、この紙に書いてある時間にデュエル場に行ってみよう。

・
・
・
・

時間が迫ったので私はデュエル場に向かった。

途中で会った、雪乃に問い詰められ話したら

『ついて行く』

と言われたので今は雪乃と一緒にだ。

そして、私達はデュエル場へと入った。

そこには・・・

『待っていたぞ！ 不動遊璃！』

遊城君相手に2度も勝機を逃した万丈目君がいた

『万丈目君、何で果たし状なんかを・・・』

『何で？ 決まっているじゃないか。俺が学園で生き残るためには1年でも屈指の実力を誇る天上院君を倒し、クロノス教諭をオーバーキルで倒している君を倒さなければならぬからだ。』

『・・・』

『さあ、ステージに上がって来い！ デュエルだ！』

『分かりました。そこまで気持ちが硬いのであれば受けます。』

そうして私はステージに上がろうとした。

が

『くだらない。』

その言葉を聞き、私は振り返った。

『くだらない。そんな理由で遊璃を呼び出すなんて……』

『雪乃』

そう言葉を発したのは雪乃だったのだ。

『こんなデュエル、遊璃が受ける必要はない。……私がやるわ。』

『何っ！ 嘗めているのか。』

『いえ。遊璃を相手にしたいのであれば、先に私を倒してからに
なさい！ 私にも勝てないようでは遊璃に勝つのは無理よ！』

『言ってくれる。……いいだろう！ 但し、そこまで言うのであれば
覚悟はあるんだろうな！』

『覚悟？』

『ああ、このデュエルで負けたほうがアカデミアを退学する。これでどうだ?』

『やめて。雪乃、そんな条件飲む必要はないよ』

『……いいわよ』

『雪乃!』

『遊璃、私は負けないわ。こんな腐った根性を持っている男には』

『な、何い〜』

『当然でしょ! 勝つ自信がないから退学なんて言葉を出して気を紛らわせた。違う?』

『グッ……』

『図星のようね。でも私はそんな言葉には靡かないわ。さあやりましょう!』

『『デュエル!』!』』

準：LP4000 / 雪乃：LP4000

私の説得も虚しく、

万丈目君と雪乃のデュエルが始まった。

side out

side yukino

私はお姉様の為にもこんな奴には負けない。

『先攻は？』

『フツ！レディーファーストだ。君に譲ろう！』

『では遠慮なく。．．．私のターン．．．私は《マンジュ・ゴッド》を守備表示で召喚。その効果でデッキから《高等儀式術》を手札に加えるわ。』

《マンジュ・ゴッド》

効果モンスター

星4 / 光属性 / 天使族 / ATK1400 / DEF1000

このカードが召喚・反転召喚に成功した時、

自分のデッキから儀式モンスターまたは儀式魔法カード1枚を手札に加える事ができる。

私の場に手が無数にあるように見えるモンスターが現れる。

《マンジュ・ゴッド》：DEF1000

『（私の手札《高等儀式術》以外の魔法・罫カードはない）ターンエンド！』

『儀式デッキか。だが俺のデッキのスピードについてくれるか？

俺のターン！俺は《V-タイガー・ジェット》を召喚！そして永

続魔法《前線基地》を発動！ その効果で《W - ウイング・カタパルト》を特殊召喚し、この2体を除外！ 来い《VW - タイガー・カタパルト》！』

万丈目君の場に黄色のジェット機と青の羽のような機械が現れたかと思うと、二つのモンスターはまるで磁石がくっつくかのごとく合体した。

ヴァイダブル
《VW - タイガー・カタパルト》

融合・効果モンスター

星6 / 光属性 / 機械族 / ATK 2000 / DEF 2100

「V - タイガー・ジェット」+「W - ウイング・カタパルト」

自分フィールド上に存在する上記のカードをゲームから除外した場合のみ融合デッキから特殊召喚が可能（「融合」魔法カードを必要としない）。

手札を1枚捨てることで、相手フィールド上モンスター1体の表示形式を変更する。（この時、リバーズ効果モンスターの効果は発動しない。）

《VW - タイガー・カタパルト》：ATK 2000

『さらに手札を1枚捨て、《マンジュ・ゴッド》の表示形式を変更する！』

ああ、《マンジュ・ゴッド》が攻撃表示に・・・

ダメージを受けたら私も動きにくいのに・・・

《マンジュ・ゴッド》：ATK 1400

「バトルだ！ 《VW - タイガー・カタパルト》で《マンジュ・ゴツド》を攻撃！ VW - タイガー・ミサイル！」

《VW - タイガー・カタパルト》の元Vだった部分から爪がミサイルとなって飛び、私のモンスターを破壊した。

「やあ・・・」

雪乃：LP4000 3400

「フン、カードを2枚伏せてターンエンド！」

「私のターン！・・・私は《高等儀式術》を発動！《終焉の王デミス》を公開し、デッキから《デユナミス・ヴァルキリア》を2枚墓地に送り、《終焉の王デミス》を儀式召喚する。」

《終焉の王デミス》

儀式・効果モンスター

星8 / 闇属性 / 悪魔族 / ATK2400 / DEF2000

「エンド・オブ・ザ・ワールド」により降臨。

フィールドか手札から、レベルの合計が8になるようカードを生け贄に捧げなければならない。

2000ライフポイントを払う事で、このカードを除くフィールド上のカードを全て破壊する。

私の場に黒いコートを羽織り、白い仮面を被ったモンスターが現れる。

「・・・フフフフ・・・ハッハッハッハッハッハッ！かかったな！畏力ード！《ヘル・ポリマー》を発動！」

《ヘル・ポリマー》

通常罫

相手が融合モンスターを融合召喚した時に発動する事ができる。

自分フィールド上のモンスター1体をリリースする事で、その融合モンスター1体のコントロールを得る。

「なっ！ それは融合モンスター専用のはず！ ルールくらい守りなさい！」

「大丈夫だ。このカードがあればな！ 速攻魔法！ 《コード・チェンジ》！」

「えっ！？」

《コード・チェンジ》
アニメオリジナル
速攻魔法（独自解釈）

自分の発動したカード効果に種族・属性・カードの種類が含まれている場合、そのカードにチェインすることでこのカードを発動することが出来る。

発動した効果の種族・属性・カードの種類を任意の種族・属性・カードの種類に変更する。（存在しない物を指定することは出来ない）

「これにより、《ヘル・ポリマー》のテキストの「融合モンスター」の部分を「儀式モンスター」に変更！ 《VW-タイガー・カタパルト》を生け贄に《終焉の王デミス》のコントロールを得る！」

「あっ！」

私の場のデミスが万丈目君のモンスターになってしまった。

《終焉の王デミス》：ATK2400

普段ならこれで終わってしまうかもしれないけれど、

だけど、まだ大丈夫。

手札には後続がいる。

「なら、《トレード・イン》を発動！手札から《天魔神ノーレラス》を墓地に送り、2枚ドロウする。」

「天魔神だと・・・だが無駄だ。貴様の切り札は戴いた。これを使えば俺の勝ち揺るがない。」

「フフフ。私の切り札がデミスだけだと思っては火傷しますよ。墓地の光属性・天使族の

《デュナミス・ヴァルキリア》2枚と《マンジュ・ゴッド》、闇属性・悪魔族《天魔神ノーレラス》をゲームから除外！《天魔神エンライズ》を特殊召喚！」

《てんましん天魔神 エンライズ》

効果モンスター

星8 / 光属性 / 天使族 / ATK2400 / DEF1500

このカードは通常召喚できない。

自分の墓地の光属性・天使族モンスター3体と闇属性・悪魔族モンスター1体をゲームから除外した場合のみ特殊召喚する事ができる。

フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体をゲームから除外する事ができる。この効果を発動する場合、このターンこのカ-

ドは攻撃する事ができない。

この効果は1ターンに1度しか使用できない。

《てんましん天魔神 エンライズ》：ATK2400

『なつ・・・まだ別の天魔神を持っていたのか!』

『ええ。では《天魔神エンライズ》の効果で《終焉の王デミス》を除外!』

《天魔神エンライズ》は手から理解の出来ない謎のエネルギー光弾を出し、《終焉の王デミス》を消滅させた。

『残念ながらこのターンにこのカードは攻撃宣言できませんけれど・・・』

『なんだ。結局はお前自身のモンスターを自分自身で葬っただけじゃないか。』

『いえ。更に《デーモンソルジャー》を召喚!』

雪乃の場に紫色の体にマントを羽織った悪魔のモンスターが現れる。

《デーモンソルジャー》：ATK1900

『《デーモンソルジャー》で直接攻撃!』

『グワアアア』

準：LP4000 2100

『ターンエンド!』

『クソ! 俺は負けるわけにはいかないんだ!・・・俺のターン、俺は魔法カード《壺の中の魔術書》を発動!』

《壺の中の魔術書》

マンガオリジナル
通常魔法

お互いにデッキからカードを3枚ドローする。

『ここでドローカードを引くなんて・・・』

『フフフ。来たぞ! 俺は手札から《洗脳・ブレインコントロール》を発動!』

『何!』

《洗脳・ブレインコントロール》

通常魔法

800ライフポイントを払い、相手フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を選択して発動する。

このターンのエンドフェイズ時まで、選択したモンスターのコントロールを得る。

準：LP2100 1300

『《天魔神エンライズ》を戴く。』

『クッ』

《天魔神エンライズ》は突然現れた謎の手によって操られ万丈目の僕と化した。

『そして《天魔神エンライズ》の効果で《デーモンソルジャー》を除外する！』

《天魔神エンライズ》は今度は《デーモンソルジャー》に向けて光弾を発射し、どこかに飛ばした。

『でもこれで《天魔神エンライズ》は攻撃できない。この後どうするつもり？』

『こうするのさ。俺は手札全てと攻撃力2000以上のモンスター1体を生け贄に出でよ！俺の復讐の業火！《炎獄魔人ヘル・バーナー》！』

《炎獄魔人ヘル・バーナー》

効果モンスター

星6 / 炎属性 / 悪魔族 / ATK2800 / DEF1800

このカードを除く自分の手札を全て墓地に捨て、さらに自分フィールド上の攻撃力2000以上のモンスター1体を生け贄に捧げなければ通常召喚できない。

相手フィールド上モンスター1体につきこのカードの攻撃力は200ポイントアップする。

このカード以外の自分フィールド上のモンスター1体につき、このカードの攻撃力は500ポイントダウンする。

万丈目君の場に頭は竜のような形で人が途中に生え、後ろは昆虫のような腹を持った怪物が現れた。

《炎獄魔人ヘル・バーナー》：ATK2800

『行くぞ！《炎獄魔人ヘル・バーナー》でダイレクトアタック！
受ける！俺の恨み！』

《炎獄魔人ヘル・バーナー》が口に溜め込んだ炎を私に向けて吐き出す。

『キヤアアアアア』

『ゆ、雪乃！？』

『クウウウウウウ……だい、大丈夫よ！』

雪乃：3400 600

『だがお前の場は風前の灯火。俺に勝つのは無理だろう！』

『無理じゃない。私は……諦めない』

『そういうのを往生際が悪いというのだ。さあ、サレンダーしろ！
今なら退学しなくてもいいぞ！』

『冗談言わないで。このデュエル私が勝つ！』

『戯言を』

『戯言かどうか見せてあげる。私のターン！……私は魔法カード
《異次元から埋葬》を発動！これにより《天魔神ノーレラス》、
《終焉の王デミス》、《デュナミス・ヴァルキリア》を墓地に戻す。

」

《異次元からの埋葬》

速攻魔法

ゲームから除外されているモンスターカードを3枚まで選択し、そのカードを墓地に戻す。

「今更墓地にカードを戻して何になる！」

「私は墓地の《デュナミス・ヴァルキリア》と《終焉の王デミス》を除外し《カオス・ソーサラー》を特殊召喚！」

私の場に黒い執事服を来た男性が現れる

《カオス・ソーサラー》：ATK2300

「《炎獄魔人ヘル・バーナー》は相手モンスターの数×200ポイント攻撃力をアップする！」

《炎獄魔人ヘル・バーナー》：ATK2800 3000

「そして墓地の《天魔神ノーレラス》と《天魔神エンライズ》を除外し、《カオスソルジャー - 開闢の使者 -》を特殊召喚！」

「なっ・・・そのカードは!!!・・・だが攻撃力は《炎獄魔人ヘル・バーナー》が上になるぞ！」

《カオスソルジャー - 開闢の使者 -》：ATK3000

《炎獄魔人ヘル・バーナー》：ATK3000 3200

「けれども攻撃力だけでは勝負は決まりませんよ？」

『何イ』

『《カオス・ソーサラー》の効果を発動！ 自身の攻撃権を放棄する代わりに、相手の場の表側表示モンスターを除外する！』

『アア！』

『そして、《カオスソルジャー - 開闢の使者 -》でダイレクトアタック！！ 開闢双破斬！！』

《カオスソルジャー - 開闢の使者 -》が万丈目君を一刀の元に切り伏せる。

『グワアアアアアアア』

準：LP11000

雪乃：WIN

『分かりましたか？ 憎しみ、攻撃力だけではデュエルに勝てないことが！』

『クツ・・・俺は・・・間違っていたとでも言うのか・・・』

『・・・そうでもないと思えますよ』

『遊璃？』

『私は、万丈目君は十分強いと思いますよ!』

『……どうしてそう思う?』

『だってあの遊城君や雪乃相手にあそこまで戦えたのですもの!』

『……だが、結局は両方負けてしまった。』

『1度や2度の敗北がなんですか? いけないのですか?』

『ああ。』

『どうして?』

『俺は、負けられない。負けるわけには行かない。兄さん達に遅れを取るわけには……』

『なるほど。つまり万丈目君はお兄さんの為にデュエルをしているのですか?』

『……』

『どうなんですか? 万丈目君?』

『……俺は……兄さん達の為ではなく、自分の思ったとおりの……デュエルがしたい』

『それが本心なのですね?』

『ああ。……不動遊璃。お前のお陰で俺は吹っ切れたようだ。俺

は心のどこかで常に兄さん達の事を考えていた。だから自然とデューエルにも日常にもその面が出てしまったのかもしれない。・・・感謝する。』

『どづいたしまして。・・・それで・・・』

『どうかしたか?』

『退学の件、どうするのですか?』

『ああ。あれか。勿論する。・・・だが、俺は唯では終わらん。外で自分を見直して此処に戻ってくる。』

『万丈目君・・・』

『フツ・・・じゃあな』

この言葉の後、万丈目君は誰にも行き先を告げず、島を出たという。

∴ T o b e c o n t i n u e d

13話：頼むから統一してくれ！（後書き）

なんか酷い。

自分で書いていてなぜかタイタン戦から満足できる文章が書けていません。

というか書いている途中はいいけれど、後になってくるとグダグダになったりとかしているし・・・

もしかしたら、前話とこの話は後で書き直すかもしれないです。

勝手ですみません。

今回出てきたコードチェンジは対シンクロモンスターです。

この時代にシンクロモンスター対策は殆どありませんからね・・・

奈落とか何故か不人気だし。。

今回は現在スランプっぽいところもあるので番外編にしようかなと思います。

内容はアンケートをとろうかなと思います。

なんかスランプだとしてもない案しか出てこなさそうですけれど

^^;

ルルルルル

番外編・コラボ・遊戯王　↳ 転生せし者の歩く道　↳ 編（前書き）

番外編つなぎ第1弾は他作品とのコラボになりました。

コラボ相手はユタさん作、遊戯王　↳ 転生せし者の歩く道　↳ です。

対戦者は読んでからの楽しみ。

それではどうぞ！

それと今まで手札計算を実際のカードを使って実験していたのですが、色々と大変になったのでフィールド状況を記入することにしました。

書くのはエンドフェイズか区切りのいいとき。

例

遊璃：LP

モンスター：《ドラグニティ・ファランクス》（D1100）

魔法・罫：2枚

手札：2枚

フィールド：《竜の渓谷》

という感じですよ。

(D1100)は守備表示で守備力1100という意味です。

他はそのままの意味です

もし別の効果が適用している場合はフィールドの下に書きます。

例

・
・
・

フィールド：なし

適用効果：《光の御封剣》：3 2

という風な感じですね。

同日)ミスを修正

番外編・コラボ・遊戯王 へ転生せし者の歩く道へ編

side kyoya

今俺は俺を異世界に送った神に付きまとわれている。

『あー』

『なんだ？今俺は忙しいんだが？』

『お願いします。』

『何を？』

『デュエルを。』

『誰と？』

『えっと、それは着いてからの楽しみです。』

『ハア？ちよつとまて・・・』

台詞の途中で俺の意識は途絶えた。

・
・
・
・
・

ん、ううん

ここはどこだ？

全体的に白い空間にいるんだが・・・

ん？横に誰かが倒れてる。

よく見ると、

『空！』

俺の恋人の秋葉空だったのだ。

『空！起きろ！』

『ん？・・・恭夜？・・・おはよう。』

『・・・おはよう』

挨拶すると空は起き上がった。

『あれ？いつもの部屋じゃない。・・・ねえ恭夜。ここ何処？』

俺もわからない

しばらく黙っているよ

『あ、ようやく起きましたね?』

俺を異（以下略）神がいた。

『起きたじゃねえ!ここは何処だ?』

『ここは、神の領域です。』

ふうん

『ん。分った。とりあえず精神科に行ってくれ!』

『いきなり病人扱い?それと私は神なので何処もおかしくありません。』

』

『ああ〜はいはい分かった。分かった。とりあえず、俺と空を元の世界に返せ!』

『それは・・・無理です』

『何故に?』

『それは・・・私が貴方を殺してしまったことが、上司にバレタからです。』

『あっそ。それでそれとこれとになんの関係がある?』

『上司によれば「時々私を楽しませてくれればその事については目を瞑ってやる」だそうです』

『で？何故に俺達が呼ばれた』

『それは・・・貴方なら上司を楽しませる事をしてくれそうだからです。』

『お前の事情など知ったこっちゃない。早く俺達を元の世界に返せ！今日は雄斗との約束があるんだ！』

『私は・・・朝食の準備中でしたし、火を止めてないんです』

『空の方が重大だな。』

『それなら大丈夫です。ここは時間が経過しませんから！』

『根拠は？』

『神の領域だから？』

『何故に疑問系。それに神の領域だからって理解できねえよ！はやく俺と空を元の場所に戻せ！』

『・・・異世界の人とデュエルできるとしても。ですか？』ボソ

『何？もう1度言ってくれ』

『異世界の人とデュエルしてみたくないですか？』

・・・したい

でも神のいつている通り時間経過がないというのが嘘かもしれない
デュエルして帰ったら火事になっていたじゃ洒落にもならない。

だけどこのままじゃ返してもらえそうにないし・・・

異世界の人とデュエルできるチャンスを逃すのも惜しい。

『・・・やる。』

『ありがとうございます。じゃあ早速送りますね!』

その言葉と共に俺の意識は再び途絶えた。

s i d e o u t

s i d e y u r i

今私は雪乃と料理を作っている。

今は雪乃が粉をつけているところだ

何を作っているかは秘密。

・・・そこに

ドオン

『キヤッ』

雪乃が突然の音で驚き粉を被ってしまった。

『ゆ、雪乃？大丈夫？』

『ご、ゴホツゴホツ……大丈夫よ。お姉様。』

『よかった……それよりだれ？』

『……あわわ。ごめんなさい。料理中だとは思わなくて……』

舞っていた全て落ちると私の前に羽を生やした女性がいた。

『で、結局貴女は誰ですか？』

『私は……神です！』

『とりあえず、遊璃電話持ってきて！鮎川先生呼ぶから』

『うん分かった。』

いくらなんでも神はないわよね。

『私は本当に神なんですよー信じてください！』

『じゃあ証拠を見せて！』

『えと、じゃあこの失敗した料理を元に戻します！えいつ』

女性が声を発すると

まるで時が戻ったかのように粉は浮き上がり、そして元の形に戻った。

雪乃についていた粉もしっかりと取れた。

『これで信じていただけましたか？』

『正直信じがたいけれど。元に戻してくれたし、これで許してあげるわ！』

雪乃がそう言うと

『わぁ！ありがとうございます』

女性は腰を90度曲げてお礼を言ってきた

・
・
・

『……それで貴女は何故ここにいるの？』

場所を移し、リビングで女性の話を聞く

場所を移さないとまた粉が飛びそうだったし……

女性の羽が動きまくっているからね……

料理？仕方なく中止にしたわ。雪乃にはまた今度って事にしておか
なきゃ……

『で、貴女はなんで私達の部屋に来たの？』

『それは……私を助けてもらうためです。』

『どづいづこと？』

『私は別の世界で人を殺めてしまいました。そして本人には謝罪し
て許して貰えたのか分かりませんが、転生させてあげました。』

『とりあえず、殺人犯なのはわかった。早く自首して』

雪乃が言う

『だからそうじゃなくて、私が神だと言うのはさっき話しましたよ
ね？』

『うん、まあ』

『それで神にも位というのがありました。』

『熾天使、大天使、墮天使みたいなの？』

『雪乃、墮天使は違うと思うよ……他には智天使、座天使、主天
使なんかもいたはず。』

『ほえ〜みなさんよく知っていますね。』

『まあ、言ったのは神じゃなくて天使だけれどね・・・』

『まあ、そのような階級が神にもありまして私よりも上の階級の神に殺人がばれてしまったのです。』

『じゃあ、裁かれてさよならだね。神に会えた事は感謝しておいてあげるからさっさと消えてくれない？』

『雪乃、それはちょっと酷くない？ほら自称神様泣いてるし・・・』

『・・・グス』

『ああ、言い過ぎたわ。』

『いいえ。いいんです。』

『で、犯罪がばれてしまった神様がどうしたの？』

『その上司が面白いことが好きな神でして、もし面白いものを時々見せてくれたら目を瞑るって言われて、私「分かりました！」って言うてしまったのです。』

『で、私達にそれをやれと』

『そうです。』

『誰と何をすればいいの？』

『異世界・・・私が転生させた人とデュエルしてください。』

『ふむ。いいですよ』

『ちよっ！遊璃！？』

『自称神様の言う通りならば、異世界の人とデュエルできるので
よ！滅多に出来ないことじゃないですか！？』

『それは・・・そうだけど・・・』

『（それに未来に帰る方法も分かるかもしれないしね・・・）』

『じゃあ。』

『ええ。いいわよ！』

『ありがとうございます。では早速送りますね！・・・』

そして私の目の前は真っ暗になった。

・

・

・

・

ん、ここは・・・！？

ネオドミノシティ？

でも何かが違う。

人がいないし、液晶もなにも映していない。

きつとあの自称神様が用意した空間ね。

つと移動する前に雪乃を起こさなくちゃ。

『雪乃・・・雪乃』

『ん、・・・ここは』

『（流石に故郷なんていう訳にいかないわよね。こんな都市だったら誰もが知っけていてもいくらいだし。）・・・何処だろうね。きつとあの自称神様が用意した特別な空間だと思うわ！』

『・・・なるほど。で、あの神様（という名の殺人犯）は異世界の人とデュエルって言っていたわよね？』

『ええ。でもどこにいけばいいのかわからないわね。』

『大丈夫ですよーほらこっちです。』

『えっ……どこから声が……』

『こっちですこっち！』

後ろを向くと2人の男女を連れた自称神様がいた。

side out

side kyoya

俺が目覚めるとネオドミノシティだと思われる都市にいた。

だが、あの神が作った空間だと理解していた為に驚きはなかった。

その内空が起きたので神が来るのを待っていた。

暫くすると、

『恭夜さん、着いてきてください。対戦相手の所までつれていきますから！』

『おう！』

俺の前にあの神が現れたので着いていった。

・
・
・

『大丈夫ですよー・・・ほらこっちはです。』

俺の進む先に2つの人影が現れた。

1人は桃色の髪をツインテールにした性格がきつそうな女子。

もう片方は以前テレビで見た十六夜アキに見た目がそっくりな女子だった。

思わずボーとしていると

見とれていたと思われたのか空に足を踏まれた。

『痛っ！・・・なんだよ』

『見とれない。』

『すまん』

とりあえず謝っておいた。

お互いの声が聞こえそうな位置に来たので俺から自己紹介する

『俺の名は恭夜。黒羽恭夜だ』

『私は秋葉空。よろしくね。』

俺に続いて空が名乗る。

『私は藤原雪乃。よろしくね坊や達。』

坊や!?!?!それはさておきツインテールの女子 - 藤原が名乗る。

『私は・・・不動遊璃です。よろしくお願いします。』

その後十六夜アキ似の女性が名を名乗る・・・ってちょっと待て!不動!?

隣の空も目を見開いている

『ふ、不動つて。・・・もしかして不動遊星の・・・!?!』

『えっ・・・パパを知っているのですか?』

パパと言う発言に俺の背に電撃が走った気がした。

side out

side yuri

『ふ、不動つて。・・・もしかして不動遊星の・・・!?!』

私はこれを聞いて思った。

まさかパパを知っている人に会えるとは思っていなかったから。

だから抑えるのも忘れて発言をしてしまった

『えっ……パパを知っているのですか？』

と。

『……』

顔は中世的どちらかという女性だと思われる人が何も言わなくなる。

今度はもう片方の女性が話しかけてきた。

『顔見知りじゃないけれど名前は知っている。』

そう言うてきたので

『今何をしているか知っていますか？（これに答えてくれれば大体の年代が分かる。）』

『……残念だけれど、何をしているかまでは分からないわ。』

『そう……ですか……』

『ごめんなさいね。』

『いえ。いいんです。』

そうして場が少し静まり返ったとき、

『あー私の事忘れていませんか？』

『『『あつ!』』』

全員が言う

それよりも

『酷っ!?!?・・・私、忘れられていた。』

『どうしたのさ。自称神様(と言う名の殺戮者)??』

『なんか雑音が入った気がしますーそれに私は本当の神様なんです
よう〜』グス

なんか泣き出しそうなので

『嘘嘘。だれも忘れてないよ。多分。きっと。』

『うう・・・』

『とりあえず、デュエルすればいいんだろう?どっちがやるんだ?』

中性的な顔立ちの黒羽君が言ってきた。

雪乃が出そうなのを抑えて、

『私です。』

私が名乗り出た。

『じゃあ、早速始めようか。不動』

『はい。それと私は遊璃でいいですよ』

『分かった。俺も恭夜でいい』

『分かりました。恭夜さん』

その後、他の3人・雪乃、空さん（名前でもいいと言われた）、自称神様は少し距離をとった。

そして私と恭夜さんはビル風が抜ける中言い放つ

『デュエル！』

『先攻はどうします？』

『俺はどっちでも。』

『私もどちらでもかまいません。』

『ん〜じゃあ駄目神、決めてくれ！』

『はい。こういうときはレディーファーストって決まっていますけれど、あえて恭夜さんを先攻にします。』

『（コケッ）』

『分かった。』

私達は自称神様の言葉に賛成の意思表示をした。

『では改めて・・・』

『ああ・・・』

『デュエル!』』

遊璃：LP4000

恭夜：LP4000

私達のデュエルが幕を開けた。

side out

no side (台本形式)

恭夜『俺のターン!俺は《静寂のサイコウィッチ》を守備表示で召喚!』

《静寂のサイコウィッチ》

効果モンスター

星3/地属性/サイキック族/ATK1400/DEF1200

フィールド上に存在するこのカードが破壊され墓地へ送られた時、自分のデッキから攻撃力2000以下のサイキック族モンスター1体をゲームから除外する事ができる。

次のスタンバイフェイズ時、この効果で除外したモンスターを特殊召喚する。

恭夜の場に桃色の髪をして、両手にレイピアのような棒を持った女

性が現れる。

《静寂のサイコウィッチ》：DEF1200

恭夜『そしてカードを2枚伏せて、ターンエンド！さあ遊璃のデッキはどういうんだ？早く見せてくれ』

遊璃『焦らずともすぐに分かりますよ』

恭夜：LP4000

モンスター：《静寂のサイコウィッチ》（D1200）

魔法・罫：2枚

手札：3枚

フィールド：なし

適用効果：なし

遊璃『私のターン！私は魔法カード《天使の施し》を発動！それにより3枚ドロし、2枚を捨てる』

恭夜『なっ！？』

空『《天使の施し》が禁止じゃない？』

遊璃『あ、私今訳ありで過去の世界に來ているので禁止じゃないのですよ』（恭夜だけに聞こえるように）

恭夜『なるほど。空！問題ないぞ！』

空『・・・うん』

遊璃『そして《ドラグニティ・ドゥクス》を召喚！その効果で墓地の《ドラグニティ・ファランクス》を装備する』

私の場に白い指揮棒を持った鳥人が現れ、その横に青い龍が出現した。

《ドラグニティ・ドゥクス》：ATK1500 1900

恭夜『ドラグニティか。楽しみだな』

遊璃『装備されている《ドラグニティ・ファランクス》の効果を発動し特殊召喚。』

《ドラグニティ・ファランクス》：DEF1100

恭夜『いきなりか・・・』

遊璃『ええ。レベル4《ドラグニティ・ドゥクス》にレベル2《ドラグニティ・ファランクス》をチューニング！』

《ドラグニティ・ファランクス》の2つの星がそれぞれ緑の輪を描き2つの輪となる

その中を半透明になった《ドラグニティ・ドゥクス》が潜り、4つの星となった。

それとほぼ同時、輪の中を貫く閃光が走る。

+ || x 6

遊璃『秘境の竜騎士が死に嘆く時、天から新たに雷槍らいそつを授かる。戦場を鎮める風となれっ！シンクロ召喚！殲滅せよ！《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》！』

光が晴れると、真澄の鎧を着た竜騎士が同じく真澄色の竜に跨り槍を恭夜に向けていた。

《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》：ATK1900

恭夜『よりによってそいつか・・・』

遊璃『知っているのであれば説明は不要ですね。・・・！《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》の効果で墓地から《ドラグニティ・アキュリス》を装備する』

恭夜『そのカードも墓地に送られていたのか。』

遊璃『手札から《竜操術》を発動。この効果で《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》は攻撃力が500ポイント上昇するわ』

《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》：ATK1900 2400

恭夜『クツ・・・』

遊璃『《竜操術》の効果で手札の《ドラグニティ・パルチザン》を装備し、《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》の効果を発動！《ドラグニティ・アキュリス》を墓地に送り、エンドフェイズ時まで攻撃力を倍にする！』

《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》：ATK2400 4800

恭夜『（アキュリスの効果で伏せを割られたら不味い。）』

遊璃『《ドラグニティ・アキュリス》が装備カード状態で墓地に送られたので効果発動！フィールド上のカードを1枚破壊する。《静寂のサイコウィッチ》を破壊！』

恭夜『（助かった・・・）《静寂のサイコウィッチ》のモンスター効果を発動』

遊璃『えっ！？』

恭夜『このカードが破壊され、墓地に送られたときデッキから攻撃力2000以下のサイキック族モンスター1体をゲームから除外する。その後、次のスタンバイフェイズにそのカードを特殊召喚できる！俺はデッキから攻撃力500の《サイ・ガール》を除外！』

《サイ・ガール》

チューナー・効果モンスター

星2/地属性/サイキック族/ATK500/DEF300

ゲームから除外されているこのカードが特殊召喚に成功した時、自分のデッキの一番上のカードを裏側表示でゲームから除外する。

このカードがフィールド上から墓地へ送られた時、このカードの効果で除外した自分のカードを手札に加える。

遊璃『・・・（効果破壊にも対応している事を忘れてた・・・）でもこれで恭夜さんに直接攻撃できます。いけ！《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》！恭夜さんに直接攻撃！救済の雷撃！』

《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》が白い電撃を恭夜に向けて飛ばす。

恭夜はそれによって発生した煙に包まれた

空『きよ、恭夜ー!』

雪乃『遊璃!よくやったわね!』

遊璃『・・・』

雪乃『遊璃?』

遊璃『まだ、終わってません。』

雪乃『えっ!?!?』

煙が晴れるとそこには・・・

恭夜『危ない危ない。』

恭夜：LP4000

雪乃『ライフが減ってない!?!?』

無傷の恭夜がいた。

恭夜『このカードを伏せていなければ負けていた。』

そついい、恭夜は1枚の伏せカードを明らかにする。

恭夜『リバーズカード、オープン！罨カード《ガード・ブロック》これによりダメージはなくなった。』

《ガード・ブロック》

通常罨

相手ターンの戦闘ダメージ計算時に発動する事ができる。

その戦闘によつて発生する自分への戦闘ダメージは0になり、自分のデッキからカードを1枚ドローする。

雪乃『そんな・・・』

恭夜『《ガード・ブロック》の効果はまだ続いている。ダメージを0にした後、デッキから1枚カードをドローする。』

恭夜がカードをドローすると《ガード・ブロック》が消えた

遊璃『・・・カードを2枚伏せ、魔法カード《天命の宝札》を発動』

《天命の宝札》

通常魔法（言羽・D・カタストロフィーさん投稿オリカ）

自分の手札の枚数が4枚以下のときライフポイント500払うことで発動することが出来る

自分は手札が5枚になるようにカードをドローし、相手はカードを1枚ドローする。

恭夜『宝札つて事はドローカードか？』

遊璃『ええ。まず発動コストとしてライフを500払います。』

遊璃：LP4000 3500

遊璃『そしてデッキから手札が5枚になるようにカードをドロースる。』

恭夜『なっ!?!』

遊璃『私の手札は0、よって5枚ドロ・・・そして相手もカードを1枚ドロする。』

恭夜『分かった。ドロ』

遊璃『カードを新たに1枚伏せ、ターン終了』

《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》：ATK4800 2400

遊璃LP3500

モンスター：《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》（A2400）

魔法・罫：3枚、《竜操術》、《ドラグニティ・パルチザン》

手札：4枚

フィールド：なし

適用効果：なし

恭夜『俺のターン・・・スタンバイフェイズに前のターンで破壊された《静寂のサイコウィッチ》の効果を発動。このカードの効果で除外したモンスター1体を特殊召喚する。来い!《サイ・ガール》』

恭夜の場に薄い栗色の髪の毛をし、小ぶりのマントと杖を持つ幼・
・もとい女の子が現れた。

恭夜『《サイ・ガール》が除外された状態から特殊召喚されたので、
デッキトップを1枚除外する。』

遊璃『確か、そのカードが墓地に送られたら除外されたカードを手
札に加えるのよね?』

恭夜『ああ。．．．そして、《寡黙なるサイコプリースト》を守備
表示で召喚する』

《寡黙^{かめく}なるサイコプリースト》

効果モンスター

星3 / 地属性 / サイキック族 / ATK0 / DEF2100

このカードが召喚・反転召喚に成功した時、守備表示になる。

1ターンに1度、手札を1枚墓地へ送る事で、自分の墓地に存在す
るサイキック族モンスター1体を選択してゲームから除外する。

このカードがフィールド上から墓地へ送られた時、このカードの効
果で除外したモンスター1体を選択して特殊召喚する

恭夜の場に全体的に白い服を纏ったお爺さんが現れた。

《寡黙なるサイコプリースト》：DEF2100

恭夜『そして《寡黙なるサイコプリースト》の効果を発動。手札を
1枚捨て、墓地の《ガスタの静寂 カーム》を除外する。《ガスタ
の静寂 カーム》は今《寡黙なるサイコプリースト》の効果で墓地
に送ったカードだ。捨てるのはコストだから問題ない。』

《ガスタの静寂^{せいじやく} カーム

効果モンスター

星4 / 風属性 / サイキック族 / ATK1700 / DEF1100
1ターンに1度、自分の墓地に存在する「ガスタ」と名のついたモンスター2体をデッキに戻す事で、自分のデッキからカードを1枚ドローする。

遊璃^り (モンスター効果を完璧に把握している・・・強い) ♪

恭夜^{きや} ♪そしてレベル3《寡黙なるサイコプリースト》にレベル2《サイ・ガール》をチューニング! ♪

《サイ・ガール》が2つの輪を杖から出し、その後2つの星となり輪と同化する。

完成した輪と《寡黙なるサイコプリースト》は半透明になりながら潜り抜ける。

そして輪を貫く閃光が走った。

+ || x 5

恭夜^{きや} ♪リミッター解放、レベル5!レギュレーターオープン!スラスト!ウォームアップ、オーケー!アップリンク、オールクリア!
!GO!シンクロ召喚!カモン! 《TG ハイパー・ライブラリアン》
♪! ♪

^{デッキジーナス}
《TG ハイパー・ライブラリアン》

シンクロ・効果モンスター

星5 / 闇属性 / 魔法使い族 / ATK2400 / DEF1800

チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上
このカードがフィールド上に表側表示で存在し、自分または相手が
シンクロ召喚に成功した時、自分のデッキからカードを1枚ドロ
ーする。

恭夜の場に白い服を着て、片手に本を持っている紳士が現れる。

《TG ハイパー・ライブラリアン》 : ATK2400

雪乃『シンクロ召喚。・・・遊璃以外にもする人が・・・』

遊璃『異世界なんだからいても不思議じゃないと思うよ。(なんと
してでも未来から飛ばされたことだけは隠さなきゃ・・・)』

恭夜『シンクロ素材として墓地に送られた《サイ・ガール》、《寡
黙なるサイコプリースト》の効果を発動。何かあるか?』

遊璃『いえ。ありません。』

恭夜『では、チェイン2の《寡黙なるサイコプリースト》の効果を
処理、効果で除外した《ガスタの静寂 カーム》を特殊召喚。』

恭夜の場に白の外套を羽織り、緑のマントとショートパンツ、そし
て黒っぽい服を着て、明るい緑色の髪を一纏めにした女性が現れる。

《ガスタの静寂 カーム》 : ATK1700

恭夜『そしてチェイン1《サイ・ガール》の処理。除外されたカ
ードを手札に加える。』

遊璃『まだ続きそう・・・』

恭夜『そして残ったりバースカードを発動。《リビングデッドの呼び声》！その効果により、《サイ・ガール》を特殊召喚。』

《リビングデッドの呼び声よこえ》

永続罫

自分の墓地からモンスター1体を選択し、攻撃表示で特殊召喚する。このカードがフィールド上に存在しなくなった時、そのモンスターを破壊する。

再び恭夜の場に小さな女の子が現れる。

遊璃『まずい・・・』

恭夜『そしてレベル4

《ガスタの静寂 カーム》にレベル2《サイ・ガール》をチューニング

雪乃『1ターンに2度目のシンクロ召喚!?!』

空『恭夜ならそれくらいよくやる・・・』

再び2つの輪と一体化した《サイ・ガール》の中を《ガスタの静寂 カーム》が4つの星となり潜る。

その瞬間光があふれ出した。

恭夜『・・・(口上)・・・シンクロ召喚!《ダイガスタ・スフィアード》!』

《ダイガスタ・スフィアード》

シンクロ・効果モンスター

星6 / 風属性 / サイキック族 / ATK2000 / DEF1300

チューナー＋チューナー以外の「ガスタ」と名のついたモンスター
1体以上

このカードがシンクロ召喚に成功した時、自分の墓地に存在する「ガスタ」と名のついたカード1枚を選択して手札に戻す事ができる。このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、自分フィールド上に表側表示で存在する「ガスタ」と名のついたモンスターの戦闘によって発生する自分への戦闘ダメージは代わりに相手が受ける。

また、このカードは戦闘では破壊されない。

恭夜の場に左手には巻物のような物を巻き、右手には大きな杖をもち髪が途中から真澄色の变化している女性が現れた。

《ダイガスタ・スフィアード》 : ATK2000

恭夜『《ダイガスタ・スフィアード》の効果で墓地の《ガスタの静寂 カーム》を手札に加え、《TG ハイパー・ライブラリアン》の効果でシンクロ召喚をする度に1枚ドロ』

雪乃『2度のシンクロ召喚をしたうえで手札が増えている・・・』

神様『恭夜さん、凄いですー』

恭夜『バトルだ！《TG ハイパー・ライブラリアン》で《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》を攻撃！』

雪乃『相打ち！？』

遊璃『相打ちは困ります・・・罨カード発動《竜の礎》！装備状態の《ドラグニティ・パルチザン》を墓地に送る！』

遊璃の罨が発動すると《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》の前に竜の石柱が現れ、攻撃を防いだ。

遊璃：LP3500 4000

空『ん？何故ライフが回復しているの？』

遊璃『《竜の礎》の効果で攻撃対象に選択されたモンスターはエンドフェイズ時まで戦闘で破壊されず、そのモンスターの戦闘で自分が受ける戦闘ダメージは無効になり、その数値分ライフポイントを回復する』

空『でも《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》の攻撃力は《竜操術》の効果で500アップしていた・・・あ、』

遊璃『そう。《ドラグニティ・パルチザン》が墓地に送られたので《竜操術》の効果切れ、《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》の攻撃力は1900に戻っている。』

《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》：ATK2400 1900

恭夜『クッ（ライフコストで微妙に有利になったライフを回復させてしまった。）』

遊璃『因みに《ダイガスタ・スフィアード》では攻撃しますか？』

恭夜『いや。エンドフェイズまで《竜の礎》は効力が続くから、攻撃はしない。俺はバトルフェイズを終了し、カードを4枚伏せ、ターンエンド！』

恭夜のエンド宣言と共に竜の石柱は破壊された。

恭夜：LP4000

モンスター：《ダイガスタ・スフィアード》（A2000）、《T

G ハイパー・ライブラリアン》（A2400）

魔法・罫：4枚、《リビングデッドの呼び声》

手札：2枚

フィールド：なし

適用効果：なし

遊璃『私のターン！……私は《ドラグニティ・レギオン》を召喚！その効果で墓地の《ドラグニティ・アキュリス》を装備する』

恭夜『させん！リバーズカードオープン罫カード《落とし穴》！』

遊璃『ツ……』

《落とし穴》

通常罫

相手が攻撃力1000以上のモンスターを召喚・反転召喚した時に発動する事ができる。

その攻撃力1000以上のモンスター1体を破壊する。

《ドラグニティ・レギオン》は突如足元に出来た穴に落ちそうになったが、鳥獣族の為か飛んで脱出した。
しかし、穴から謎の手が現れ、《ドラグニティ・レギオン》を引きずり込んでしまった。

その後穴は自然消滅した。

遊璃『では魔法カード《接続・ジャンクション》を発動！《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》を対象に発動。《ドラグニティ・アキュリス》を装備！』

《接続 ジャンクション》（キラールさん投稿オリカ）

通常魔法

墓地にあるモンスターカードをフィールド上のモンスター1体に装備させる。

恭夜『装備は許すが、効果は使わせない。手札から《エフェクト・ヴェーラー》の効果を発動！《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》の効果は無効にする』

《エフェクト・ヴェーラー》

チューナー・効果モンスター

星1/光属性/魔法使い族/ATK0/DEF0

このカードを手札から墓地へ送り、相手フィールド上に表側表示で存在する効果モンスター1体を選択して発動する。

選択した相手モンスターの効果をエンドフェイズ時まで無効にする。
この効果は相手のメインフェイズ時のみ発動する事ができる。

遊璃『クツ・・・』

《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》：ATK1900 24
00

雪乃「遊璃の戦術が次々に・・・」

遊璃「ならば伏せていた《ミラクルシンクロフュージョン》を発動！場の《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》と墓地の《ドラグニティ・パルチザン》を除外し融合。」

恭夜「何！？」

遊璃「融合召喚！《ドラグニティパラディン・エクスカリバー》！」

遊璃の場に緑の鎧を身に纏い、背には緑のマントを付けた騎士の乗る黄緑色の竜。そして薄い緑の盾と細長い槍を持つ騎士が現れた。

《ドラグニティパラディン・エクスカリバー》：ATK3000

恭夜「へえ。ドラグニティに融合モンスターがいたなんて・・・」

空「私も知らなかったけれど、なんて綺麗なの。」

神様「格好いいです」

雪乃「遊璃ーやっちゃえ！！」

遊璃「《ドラグニティパラディン・エクスカリバー》のモンスター効果を発動。このカードの融合召喚に成功した時、自分の墓地に存在する「ドラグニティ」と名のついたチューナーを任意の数だけ、

このカードに装備することができます。私は《ドラグニティ・ファランクス》と《ドラグニティ・アキュリス》を装備！』

《ドラグニティパラディン・エクスカリバー》の槍が光滅すると、2つの竜が槍に吸い込まれた。

《ドラグニティパラディン・エクスカリバー》：ATK3000
3500

遊璃『そして《竜操術》の効果で手札から《ドラグニティ・ピルム》を装備する』

恭夜『それじゃあ・・・』

遊璃『そして《ドラグニティパラディン・エクスカリバー》は装備している「ドラグニティ」と名のつくカードの数だけ通常の攻撃とは別に攻撃できます』

空『・・・今は3体装備されているから合計4回の攻撃！？』

神様『そして《ドラグニティ・ピルム》の効果でダメージは半分でも1回1750のダメージ。それが4回・・・2回以上防がないと恭夜さんの負けです。』

恭夜『ならば《砂塵の大竜巻》相手の魔法・罠を1枚破壊するカードだ。これで《ドラグニティ・ピルム》を破壊する。』

《砂塵の大竜巻》

通常罠

相手フィールド上に存在する魔法・罠カード1枚を選択して破壊す

る。

その後、自分の手札から魔法または罠カード1枚をセットすることができる。

恭夜「そして《砂塵の大竜巻》の効果でカードを1枚セットする。まあ、伏せたターンに速攻魔法でも罠でもカードは発動できないけれどな……」

遊璃「……えつと、残念ながら《ドラグニティパラディン・エクスカリバー》に装備されたモンスターの効果は無効になります」

恭夜「じゃあ……」

遊璃「破壊しなくても私にはダイレクトアタックする術はありません」

恭夜「あ……効果を確認してから破壊するべきだった！」

空「恭夜、ドンマイ！」

遊璃「……では《ドラグニティパラディン・エクスカリバー》で《T G ハイパー・ライブラリアン》を攻撃！疾風迅雷・聖なる槍撃！」

《ドラグニティパラディン・エクスカリバー》が一突きで《T G ハイパー・ライブラリアン》を葬る。

恭夜「ちい……」

恭夜：LP4000 2900

遊璃『私は魔法カード《天よりの宝札》を発動。・・・(いいカードが引けなかった)・・・ターンを終了・・・』

遊璃：LP4000

モンスター：《ドラグニティパラディン・エクスカリバー》(A3500)

魔法・罫：1枚、《竜操術》、《ドラグニティ・ファランクス》、《ドラグニティ・アキュリス》

手札：6枚

フィールド：なし

適用効果：なし

雪乃『遊璃？攻撃しませんの？』

遊璃『《ダイガスタ・スフィアード》は戦闘で破壊されず、「ガスタ」と名のつくモンスターの戦闘ダメージを相手が変わりに受ける効果があります。よって攻撃しませんでした』

雪乃『なるほど。』

恭夜『・・・こいつの効果も知っているか・・・』

遊璃『ええ。私は本当にマイナーなモンスター以外のモンスター効果は把握しています(例えば《ゾンビタイガー》とかね・・・)』

《ゾンビタイガー》

ユニオンモンスター

星3/地属性/アンデット族/ATK1400/DEF1600

1ターンの1度だけ自分のメインフェイズに装備カード扱いとして自分の「朽ち果てた武将」に装備、または装備を解除して表側攻撃表示で特殊召喚する事ができる。

この効果で装備カード扱いになっている時のみ、装備モンスターの攻撃力・守備力は500ポイントアップする。

装備モンスターが戦闘によって相手モンスターを破壊する度に、相手は手札からランダムにカードを1枚捨てる。

(1体のモンスターが装備できるユニオンは1枚まで。装備モンスターが戦闘によって破壊される場合は、代わりにこのカードを破壊する。)

恭夜「そりゃあ、厄介だな……まあ、俺は俺のすることをやるだけだ。……俺のターン！……来たぜ！」

遊璃「へっ!?!」

恭夜「まず、『禁じられた聖槍』を『ダイガスタ・スフィアード』に発動する」

《禁じられた聖槍》

速攻魔法

フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を選択して発動する。

エンドフェイズ時まで、選択したモンスターの攻撃力は800ポイントダウンし、このカード以外の魔法・罠カードの効果を受けない。

《ダイガスタ・スフィアード》：ATK2000 1200

恭夜「なあ、『ドラグニティパラディン・エクスカリバー』に破壊耐性はあるか？」

遊璃「ええ。装備されている「ドラグニティ」モンスター2体を墓地に送れば破壊を無効に出来ます。」

恭夜「じゃあその効果も無効にしちゃおうか。リバーズカードオーブン！《デモンズ・チェーン》！」

《デモンズ・チェーン》
永続罨

フィールド上に表側表示で存在する効果モンスター1体を選択して発動する。

選択したモンスターは攻撃する事ができず、効果は無効化される。選択したモンスターが破壊された時、このカードを破壊する。

遊璃「あっ！」

突如出現した鎖が《ドラグニティパラディン・エクスカリバー》を雁字搦めに拘束した

恭夜「これで攻撃と効果の発動が出来なくなった。俺は魔法カード《ブラック・ホール》を発動。フィールドの全てのモンスターを破壊する！」

《ブラック・ホール》
通常魔法

フィールド上に存在するモンスターを全て破壊する。

遊璃「それは止めます。カウンター罨、《ドラグニティ・ジャマー》！」

《ドラグニティ・ジャマー》

カウンター罫（言羽・D・カタストロフィーさん投稿オリカ）

墓地の「ドラグニティ」と名のつくモンスターを2枚除外し発動する。

魔法・罫・効果モンスターの効果を無効にし破壊する。

遊璃『墓地の《ドラグニティ・ドゥクス》、《ドラグニティ・レギオン》を除外して発動！《ブラック・ホール》を無効にする！』

恭夜『……だが、俺の方が1枚上手だったようだな。カウンター罫《神の宣告》！』

《神の宣告》

カウンター罫

ライフポイントを半分払って発動する。

魔法・罫カードの発動、モンスターの召喚・反転召喚・特殊召喚のどれか1つを無効にし破壊する。

恭夜：LP2900 1450

場に突如が発生し、全てのモンスターを飲み込んだ

……が、《ダイガスタ・スフィアード》は飲み込まれずに残った。

雪乃『どうして？』

空『《禁じられた聖槍》には2つの効果がある。1つは攻撃力が800下がる。もう1つはこのターンのエンドフェイズまで対象モンスターはこのカード以外の魔法・罠の効果を受けない。』

雪乃『それでは・・・』

恭夜『《ダイガスタ・スフィアード》は無事だ。』

遊璃『・・・(まずいわね・・・)』

恭夜『そして魔法カード《サイキック・ドロー》を発動！手札の《ガスタの静寂カーム》を捨て2枚ドロー！さらに伏せておいた《極限への衝動》を発動手札の《サイコフェアリー》と《静寂のサイコウィッチ》捨て、ソウルトークン2体を特殊召喚！』

《サイキック・ドロー》

ユタさんオリジナル
通常魔法

自分のフィールド上にサイキック族のモンスターが表側表示で存在するとき発動することが出来る
手札のサイキック族のモンスター1体を墓地に送り、デッキからカードを2枚ドローする。

《極限への衝動》

通常罠

手札を2枚墓地へ送って発動する。
自分フィールド上に「ソウルトークン」(悪魔族・闇・星1・攻/守0)2体を特殊召喚する。

このトークンはアドバンス召喚以外のためにはリリースできない。

《サイコフェアリー》

チューナー・効果モンスター

星1/地/サイキック族/ATK0/DEF0

このカードは手札から墓地に送られたとき特殊召喚する

この効果で召喚したこのカードは墓地に送られずゲームから除外される

恭夜の場に二つの人魂が現れた。

《ソウルトークン》：DEF0

《ソウルトークン》：DEF0

恭夜『そして《サイコフェアリー》のモンスター効果を発動。手札から墓地に送られたとき特殊召喚できる。』

《サイコフェアリー》：DEF0

雪乃『一気に3体も特殊召喚した!?!』

恭夜『レベル1《ソウルトークン》にレベル1《サイコフェアリー》をチューニング!』

人魂が1つの輪となった《サイコフェアリー》の中に入る

+ 〓 x 2

恭夜『集いし願いが新たな速度の地平へ誘^{こび}つ。光さす道となれ!シンクロ召喚!希望の力、シンクロチューナー、《フォーミュラ・シンクロン》!』

《フォーミュラ・シンクロン》

シンクロ・チューナー・効果モンスター

星2 / 光属性 / 機械族 / ATK200 / DEF1500

チューナー+チューナー以外のモンスター1体

このカードがシンクロ召喚に成功した時、自分のデッキからカードを1枚ドローする事ができる。

また、相手のメインフェイズ時、自分フィールド上に表側表示で存在するこのカードをシンクロ素材としてシンクロ召喚をする事ができる。

恭夜の場にF1の車に顔が出来た様な機械が現れる

《フォーミュラ・シンクロン》：DEF1500

遊璃『シンクロ・・・チューナー・・・しかもパパの使っていたカード・・・』

恭夜『さらに《フォーミュラ・シンクロン》の効果で1枚ドロー！そして《ソウルトークン》をリリースし、《ガスタの疾風 リーズ》をアドバンス召喚。』

《ガスタの疾風^{しっばう} リーズ》

効果モンスター

星5 / 風属性 / サイキック族 / ATK1900 / DEF1400

手札を1枚デッキの一番下に戻し、相手フィールド上に存在するモンスター1体と自分フィールド上に表側表示で存在する「ガスタ」と名のついたモンスター1体を選択して発動する。

選択したモンスターのコントロールを入れ替える。この効果は1ターンに1度しか使用できない。

恭夜の場にツインテールの筋肉質な女性が現れる。

《ガスタの疾風 リーズ》：ATK1900

雪乃『合計攻撃力は3100。まだ遊璃は負けない』

恭夜『レベル6《ダイガスタ・スフィアード》にレベル2《フォーミュラ・シンクロン》をチューニング！』

遊璃『パパのカードを持っていて、しかもレベル8のシンクロ・・・まさか』

《フォーミュラ・シンクロン》が2つの輪になり、6個の星となった《ダイガスタ・スフィアード》が中を通る

+ || x 8

恭夜『月夜に輝く星々よ、白き翼となりこの地に降り立て！シンクロ召喚！降り注げ！《スターダスト・ドラゴン》！』

光が晴れると、恭夜場に白い体が大部分を占め、所々緑色の部分があり、光の粒を纏う美しい龍が現れた。

《スターダスト・ドラゴン》

シンクロ・効果モンスター

星8 / 風属性 / ドラゴン族 / ATK2500 / DEF2000

チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

「フィールド上のカードを破壊する効果」を持つ魔法・罫・効果モンスターの効果が発動した時、このカードをリリースする事でその発動を無効にし破壊する。

この効果を適用したターンのエンドフェイズ時、この効果を発動す

るためにリリースされ墓地に存在するこのカードを、自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

《スターダスト・ドラゴン》：ATK2500

遊璃『ああ、まさか本当にパパのエースカードを・・・』

恭夜『・・・何を思っているか分からないが、このカードは遊星のじゃないぞ。』

遊璃『えっ？』

恭夜『遊璃、お前俺が異世界の人だって事忘れているだろう。』

遊璃『あ！・・・異世界ならパパしか持ってないはずのカードを持つていても不思議じゃない』

恭夜『そういうこと！じゃあこれで終わりだ。《ガスタの疾風リーズ》と《スターダスト・ドラゴン》でダイレクトアタック！！』

遊璃『キヤアアア・・・』

遊璃：LP4000 21000

恭夜：WIN

・
・
・
・
・

遊璃『参りました・・・』

雪乃『遊璃・・・』

空『やったね。恭夜!』

恭夜『おう!』

神様『どちらも凄かったです!・・・あ、今上司からテレパシ
ーが来ました。・・・どうやら満足させてもらったようです。』

遊璃『それでは、もうお別れですね。恭夜さん、今日は楽しかった
ですよ』

雪乃『見ている私も興奮しちゃったわ』

空『私も!』

恭夜『俺も楽しかったぞ!』

遊璃『また機会がありましたらデュエルしましょうね!』

恭夜『おう!』

神様『では4人を元の世界に戻します』

4人『『『『またね(な)』』』』

その後、目の前が真っ白になった。

side out

side yuri

目が覚めると私たちは自室にいた。

『雪乃、起きて。』

『ん、遊璃？戻ってきたのね』

『うん。時間もあの自称神様の言う通り進んでないみたいだから料理をやりなおそうか』

『ええ。』

そうして私達は恭夜さん達と会う前に作っていた料理を再開するのだった。

∴ To be continued

番外編・コラボ・遊戯王　↳転生せし者の歩く道↳編（後書き）

デュエル以外の部分だけで4000字を超えた・・・
10000字時点でお互いにライフが4000だし・・・

因みに合計文字は16289字。
過去最高です。

そして個人的な感覚で恭夜の視点で書いてみましたが、口調とか大
丈夫でしょうか？

物凄く心配です

空は7割以上適当です（え

そしてユタさんの小説で登場していないアニメのシンクロモンス
ターの口上はアニメの物を採用しました。

後でユタさんの方で独自の口上が出て書き換えませるのでご了承
下さい。（サイキック族は例外）

それと神様を虐めてしまつてすみません。

どうしても遊璃を別空間に送る方法が見つからなかったのです。

そして恭夜の切り札サイキックを出せずに申し訳ありません>><

14話：社長の逆襲 - 俺の嫁に手を出すな! - (前書き)

題名はスー・フクスノファコの台詞を捩りました。

今回は冬休み。アニメの14話に当たります。

十代達はアカデミアでサイコショッカーとデュエルする回です。

ではどうぞ

因みにオリカとか大量発生です

14話：社長の逆襲 - 俺の嫁に手を出すな！ -

Side Yuri

『お姉様、本当に帰ってしまうのですか？』

『・・・うん。雪乃には悪いと思っているけれど、社長直々の呼び出しだから断れなくて・・・』

『・・・そう。』

『・・・でも用事が終わったらすぐに帰ってくるから！』

『！？ 本当ですか！』

『ええ。』

『じゃあ、戻ってくるまでに私料理の腕上げておきます。』

『お！・・・じゃあ帰ってきたら雪乃の料理食べさせてもらおうかな』

『・・・楽しみにしてください。』

『さて、そろそろ出航の時間だから行くよ！』

『行ってらっしゃい！』

『・・・いきます』

そうして私は童実野町行きの船に乗り、童実野町に向かった。

side out

side seto

- 遊璃が童実野町に向かう1週間前 -

出来た。ついに出来たぞ！

不動遊璃と契約して作った最新のデュエルディスクと、彼女の話から創作して作った物が！

やはり最初の相手は彼女でなければならんだろう。

時期的にもうそろそろアカデミアも冬休みだ。呼び出すことは可能だろうからな。

・
・
・
・
・

『もしもし、不動ですが。』

『おい、俺だ！』

『えっと、どなたですか？』

『・・・海馬瀬人だ』

『か、海馬社長！？・・・どういった用件ですか？』

『貴様に見せたいものがある。冬休みにこっちに来い！』

『えっ・・・ちよっとm「ブツツ」・・・』

反論など聞く気などない。

必ず不動遊璃はここに来るだろう！

その時こそ、俺と決着をつけてやる

フッフッフフ・・・アーハッハッハ！

s i d e o u t

s i d e y u r i

つと、童実野町に到着！

早速海馬コーポレーションに行こう！

・

・

・

・

- K C ・ エントランス -

『待っていたぞ!』

『!?!?』

社長、入り口入った途端に目の前にいるの止めてください!
主に私の心臓に悪いので・・・

『・・・何を驚いている。この俺が態々待っていたのだ。とつとと
付いて来い!』

『・・・はいっ!』

無理です文句なんて言えません・・・

・
・
・
・
・

ある広い部屋に案内されたので聞いてみる

『それで私に見せたいものって?』

『その前にこれに着替える。あそこが更衣室だ』

『・・・分かりました』

私は更衣室に入って着替える・・・前に渡された服をよく見た

渡された服は《ドラグニティ・ミリトゥム》が着ているような服だが……

『これってライディングスーツ？……まあいいや。早く着替えよう……』

私はライディングスーツのようなものに着替え更衣室を出た。

そこには既に社長がいたが、社長の服装も変わっていた。

カイバーマンの服装に………見た目変わってないw

『で、結局私に見せたいものって？』

『……これだ』

そう言って社長が見せてくれたものは……

……

……

……

これって

・
・
・
・
・
・
・

D・ホイールじゃないかああ!?

なんで?
どうして?

これがここにあるの?
何故か2台あるし・・・

まさかとは思っけねど、社長が?

何の目的で?

まあ、一応私もライセンス持っているから乗れないこともないけれど……

とりあえず聞いてみよう。

『これって「D・ホイール」ですよ？……どうして社長が？』

『ふうん。貴様の話に興味は湧いたただけだ。俺の財力があればこのくらい造作もない』

『ですよ。財力って凄いですよね……』

『で、これで何をするのですか？』

『決まっているだろう。ライディング・デュエルだ！』

『……へ？……コースとかはどうするおつもりで？』

『案ずるな。すでにコースは準備してある。付いて来い！』

そいつって社長は1台のD・ホイール（青眼の形をした）に乗り込み、壁に向かって走り出した。

因みにヘルメットはカイバーマンみたいな感じ。

『ちよ、危ない』

『ふうん。』

ガガガガガ

『え？ 壁が。』

なんと社長が壁に近づくにつれて壁が開いたのだ

ガシャン

『早く来い！』

『は、はい！』

私は急いでもう1台の方・（ヴァジュランダの形をした）D・ホイールに乗り、社長の後を追った。

・
・
・
・
・

壁の外は屋外に通じていた。

つて、ここ公道じゃない！？

何故か車が1台もないけれど・・・

答えが分かりきっているけれど一応聞いてみるべきね。

私は公道のど真ん中で待っていた社長の隣に止まり、聞く

『社長、ここに公道ですよ？どうして車が1台も走ってないのですか？』

『ふうん、海馬コーポレーションの力を持つてすればこの程度造作もない。・・・以前バトルシティで童実野町全域を2日間まるまる交通止めにしたこともある。それに比べれば海馬コーポレーションと海馬ランドの周りくらい問題はない』

・・・分かってはいたけれど、海馬コーポレーションの財力って凄いな・・・

私が驚きのまま何も話さずにいると

『さあ、ライディングデュエルをはじめろ！』

『・・・は、はい！』

私は社長の左斜め下にスタンバイする。

あ、ヘルメット被り忘れていた。

私のヘルメットは《ドラグニティ・ミリトゥム》の形だ

髪を纏めヘルメットを被ったところで大事なことに気づく

『社長。spはどスピードじスヘルつするのですか？』

『フツ・・・磯野！』

『はっ！』

磯野さんがジエラルミンケースを持って現れる。

『不動遊璃にs pカードを渡してやれ！』

『はっ！』

磯野さんは私のほうにやってきてケースを開く

そこで社長は

『その中にあるカードを使い、デッキを組み上げる！ 1時間だけ待ってやる。』

そう言われたので私は急いでデッキから魔法カードを抜き、デッキを組み上げた。

・
・
・
・

『社長。終わりました。磯野さんありがとうございました。』

『いえ。』

そう言って磯野さんはケースを持って文字通り消えた。

『さあはじめるぞー』

『はい!』

『『スピード・ワールド2』発動』』

《スピード・ワールド2》

フィールド魔法（アニメ効果）

スピードスベル

「Sp」と名のついた魔法カード以外の魔法カードをプレイした時、
自分は2000ポイントダメージを受ける。

お互いのプレイヤーはお互いのスタンバイフェイズ時に1度、自
スピードカウンター分用のspcをこのカードの上に1つ置く。（お互い12個まで）

（先行1ターン目はspcは乗らない）

自分用のspcを以下の個数取り除く事で、以下の効果を発動する。

4個：自分の手札の「Sp」と名のついたカードの枚数× 80

0ポイントダメージを相手ライフに与える。

7個：自分のデッキからカードを1枚ドローする。

10個：フィールド上に存在するカードを1枚破壊する。

このカードは他の魔法・罫・モンスター効果によってフィールドか
ら離れない。

このカードは破壊されない。

『デュエル・モード、オン。マニュアルモード』』

2台のD・ホイールから機械音が零れる。

『スタートはあの時計で11:00になったらだ。先攻は第1コー
ナーを先取したほうが取る。いいな?』

『はい』

現在時刻10:57分、あと3分だ。

私も社長もスタートダッシュできるようにエンジンを高めていく。

・

・

・

・

そして、

ゴーン、ゴーン……

11:00になった。

同時に私と社長はスタートする。

暫く直線を走り、2人はコーナーに入る。

私は安全に曲がるために少しスピードを落としたが、

社長は……

『フハハハハ!!全速前進だ!』

と言ってコーナーにも関わらず直進した。

目の前にはビルがあったので

『あ、危ない!』

『ふうん』

グギャギャギャギャ・・・

そこから見事なドリフトを見せ、コーナーを曲がりきり私を追い抜いた。

社長の先攻だ

『先攻は俺が貰う！』

『デュエル！』

瀬人：LP4000 spc0

遊璃：LP4000 spc0

『俺のターンッ！』

瀬人：spc0

遊璃：spc0

『俺は《正義の味方 カイバーマン》を召喚！ その効果を発動し、《青眼の白龍》を特殊召喚する！』

社長の場に社長と同じコートを着た青年が現れ、すぐに消えた。そして社長の場に白い巨体に青き瞳を持つ龍が現れる

《青眼の白龍》：ATK3000

『早いっ!』

『俺はカードを2枚伏せてターンエンド!』

瀬人：LP4000

モンスター：《青眼の白龍》（A3000）

魔法・罫：2枚

手札：2枚

フィールド：《スピード・ワールド2》

適用効果：なし

spc：0

『私のターンッ!』

瀬人：spc0 1

遊璃：spc0 1

『私は《ドラグニティ・アキュリス》を召喚! その効果で《ドラグニティ・ミルトウム》を特殊召喚し、このカードを装備!』

私の場に赤い胴体に白い角を生やした竜が現れ、その角が光るとそこから私と殆ど同じ服装をした女性が出てきて、その肩に最初の赤い竜が乗る

《ドラグニティ・ミルトウム》：ATK1700

『クツそいつか・・・』

『更に《ドラグニティ・ミルトウム》の効果を発動。装備された《ドラグニティ・アキュリス》を特殊召喚!』

《ドラグニティ・ミリトゥム》はスピードのせいか、印を結べなかつたが、《ドラグニティ・アキュリス》がフィールドに出てくる

《ドラグニティ・アキュリス》：ATK1000

『行くわ！ レベル4《ドラグニティ・ミリトゥム》にレベル2《ドラグニティ・アキュリス》をチューニング！』

ライディングデュエルの為、《ドラグニティ・アキュリス》が進行方向に輪となり、《ドラグニティ・ミリトゥム》がその中を潜り抜ける。

+ || x 6

そして一筋の光となった。

『秘境の竜騎士が死に嘆くとき、天あまから新たに雷槍らいそうを授かる。戦場を鎮める風となれっ！シンクロ召喚！殲滅せよ！《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》！』

光が晴れるとそこには真澄色の鎧を着て、真澄色の竜に跨る女騎士がいた

《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》：ATK1900

『そして《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》の効果で墓地にある《ドラグニティ・アキュリス》を装備する！』

私の墓地から《ドラグニティ・アキュリス》が飛び出し、《ドラグ

ニティナイト・ヴァジュランダ』の槍に宿った。

『ふうん。この瞬間！ リバースカードオープン！ 《バーストブレス》！ 《青眼の白龍》を生け贄に守備力3000以下の表側表示モンスターを全て破壊する！』

《バーストブレス》

通常罨

自分フィールド上のドラゴン族モンスター1体を生け贄に捧げる。生け贄に捧げたモンスターの攻撃力以下の守備力を持つ表側表示モンスターを全て破壊する。

《青眼の白龍》が下半身から消えながら最後の1撃をフィールド全体に放つ。

そして《青眼の白龍》が消え去った後に残るモンスターはいなくなつた。

『クツ・・・カードを2枚伏せてターンエンド！』

遊璃：LP4000

モンスター：なし

魔法・罨：2枚

手札：2枚

フィールド：《スピード・ワールド2》

適用効果：なし

spc：1

『フツ！ 俺のターン！』

『ドローした瞬間！ 畏発動！』

『何っ！』

『永続罨カード《フル・スロツトル》！ これで私はスタンバイフェイズ毎にスピードカウンターを1つ増やす！』

《フル・スロツトル》

アニメオリジナル
永続罨

お互いのスタンバイフェイズ毎に自分のスピードカウンターを1つ増やす

『ならば、リバーズカードオープン《正統なる血統》！ 蘇れ！《青眼の白龍》！』

社長の場に《青眼の白龍》が再び現れる。

《青眼の白龍》：ATK3000

そしてスタンバイフェイズを迎えた。

瀬人：s p c 1 2

遊璃：s p c 1 2 3

s i d e o u t

s i d e s e t o

《フル・スロツトル》だと？

俺が作ったはいいが見向きもしなかったカードではないか!?

それほどまでにスピードカウンターは大切なのか?

確かにスピードカウンターが多ければ強力な魔法カードも使えるが・

己え・・・これが過去と未来の認識差か。

だが俺は負けん!

『俺は《ブラッド・ヴォルス》を召喚!』

俺の場に血塗られた斧を持つ殺戮者が現れる

《ブラッド・ヴォルス》：ATK1900

これで合計攻撃力は4900

これで決まりだ!

『《ブラッド・ヴォルス》でダイレクトアタック!』

『リバースカードオープン! 《竜騎士の誇り》! 《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》を特殊召喚!』

《竜騎士の誇り》

通常罫(言羽・D・カラストロフィーさん投稿オリジナル)ライフを500支払い発動する。

墓地の「ドラグニティ」と名のつくシンクロモンスター1体を特殊

召喚する。

この効果で特殊召喚されたモンスターはチューナーとして扱い、次の相手のエンドフェイズ時に破壊される。

遊璃：LP4000 3500

《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》：ATK1900

奴の場にさつき葬ったモンスターが蘇った。

このまま攻撃した場合、相打ち後《青眼の白龍》の攻撃で3000ダメージ。

しかし止めた場合は《青眼の白龍》で攻撃しても1100ダメージか・・・

手札にウィルスカードがあれば止めるのだが、俺の手札にはない。

ならば、

『《ブラッド・ヴォルス》で攻撃を続行！』

『ッ！ 迎え撃って！ 救済の雷撃！』

《ブラッド・ヴォルス》が手に持った斧をブーメランの要領で投げる。

それに対し《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》はそれを避けて白い雷撃を放つ。

結果、雷撃が到達し、《ブラッド・ヴォルス》が感電死した。

しかし、避けた斧が途中で起動を変え《ドラグニティナイト・ヴァ
ジユランダ》を真っ二つに両断した。

『続いて《青眼の白龍》でダイレクトアタック！・・・滅びの爆裂
疾風弾！』

俺の《青眼の白龍》が口に大きな光の玉を溜め込み、一息で吐き出す
当然それは彼女に直撃した。

『キヤアアア・・・』

遊璃：LP3500 500

『ふうん。カードを1枚伏せてターンエンド！』

瀬人：LP4000

モンスター：《青眼の白龍》（A3000）

魔法・罫：1枚

手札：1枚

フィールド：《スピード・ワールド2》

適用効果：なし

side out

side yuri

まずい。

残りのライフは500。

あらゆるライフコストのあるカードも使えず、《スピード・ワールド2》のセーフティラインを超えた。
このターンで何らかの手段を打たなければ負ける。

『私のターン！』

瀬戸：s p c 2 3

遊璃：s p c 3 4 5

『私は、《スピード・エンジェルバトン》を発動！ スピードカウンターが2つ以上あるとき、デッキからカードを2枚ドロし、その後手札を1枚捨てる！』

《スピード・エンジェル・バトン》
アニメオリジナル
速攻魔法（アニメ効果）

自分用スピードカウンターが2つ以上ある場合に発動する事ができる。デッキからカードを2枚ドロし、その後手札を1枚墓地へ送る

『私はこのドロに賭ける！ ドロー！ そして手札を1枚捨てる。
・・・更に《スピード・ドラグニティの凱旋》を発動！』

《スピード・ドラグニティの凱旋》
オリジナル
通常魔法

自分のスピードカウンターが5以上あるときのみ発動することが出来る。

墓地の「ドラグニティ」と名の付くドラゴン族のチューナーモンスター、チューナー以外の鳥獣族モンスター、シンクロモンスター1枚ずつ選択して発動する。

選択したカードをデッキに戻し、デッキをシャッフルした後デッキ

からカードを2枚ドロ―し、手札を1枚捨てる。

『これにより墓地の《ドラグニティ・リントウム》、《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》！そして《ドラグニティ・リントウム》を選択する』

『《ドラグニティ・リントウム》だと？そうか、さっきの《エンジェル・バトン》で・・・』

《ドラグニティ・リントウム》

チューナー・効果モンスター（オリジナル）

星1/風属性/ドラゴン族/ATK200/DEF200

このカードが「ドラグニティ」と名の付くカードの効果によって墓地を離れた場合、離れた場所によって以下の効果を発動する。

フィールド：装備カード扱いのこのカードを攻撃表示で特殊召喚する。

手札：このカードを墓地に送ることによって自分のライフを1000ポイント回復する。

除外：このカードをデッキに戻し、デッキからカードを1枚ドロ―する。その後、手札を2枚捨てる。捨てられない場合、手札を全て捨て自分は1000ポイントのダメージを受ける。

デッキ：デッキからレベル4以下の「ドラグニティ」と名の付くモンスターを特殊召喚する。この効果で特殊召喚されたモンスターの効果は無効となり、エンドフェイズにデッキに戻る。

このカードの効果はデュエル中1度しか使えない

『はい。まず《スピードドラグニティの凱旋》の効果で3体をデッキに戻し、2枚ドロ―！その後手札の《ドラグニティ・フランクス》を捨てます。そしてデッキに戻った《ドラグニティ・リントウム》の効果発動！』

『何い！？デッキから効果を発動するだ！？』

『《ドラグニティ・リントヴルム》は「ドラグニティ」と名の付くカードの効果によって墓地を離れた場合に離れた場所によって異なる効果を発動するモンスター！ 《ドラグニティ・リントヴルム》がデッキに戻ったのでデッキからレベル4以下の「ドラグニティ」と名の付くモンスターを特殊召喚します。デッキから《ドラグニティ・ドウクス》を特殊召喚！』

私の場に白い指揮棒を持った鳥人が現れる

《ドラグニティ・ドウクス》：ATK1500

『ん？ そいつは自分の場の「ドラグニティ」の数×200攻撃力をアップするのではないのか？』

『残念ながら、《ドラグニティ・リントヴルム》の効果で特殊召喚したモンスターの効果は無効となり、エンドフェイズにデッキに戻ります。まあ、シンクロ素材にするので関係ありませんが・・・』

『なにい？ まさか・・・』

『そのまさかですよ！ 私は《ドラグニティ・レギオン》を召喚！ その効果で《ドラグニティ・フランクス》を装備し、自身の効果で特殊召喚します！』

私の場に緑の体をした鳥人が現れ、その横に金色の防具を着けた青い龍が現れる。

《ドラグニティ・レギオン》：ATK1200
《ドラグニティ・ファランクス》：DEF1100

「合計レベルが9だとお・・・」

「ええ。まあ・・・ではレベル4《ドラグニティ・ドウクス》とレベル3《ドラグニティ・レギオン》にレベル2《ドラグニティ・ファランクス》をチューニング！」

《ドラグニティ・ファランクス》が2つの氷の輪となり、《ドラグニティ・ドウクス》、《ドラグニティ・レギオン》が凍えながら7つの星となる。

+ + = ×9

「冷たき氷の世界に古代より封印されし龍よ！今こそ封印を破りて、秘境の民に力を貸さん！シンクロ召喚！咆哮せよ！《氷結界の龍・トリシューラ》！！」

私の場に3つの首を持つ氷の龍が現れた

《氷結界の龍・トリシューラ》：ATK2700

「己・・・俺に2度も同じ屈辱を与える気か・・・だがそうはさせん！リバースカードオープン！《亜空間物質転送装置》！これで《青眼の白龍》をエンドフェイズまでゲームから除外する！」

あくうかんぶつしつてんせうち
《亜空間物質転送装置》

通常罫

自分フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を選択し、

発動ターンのエンドフェイズ時までゲームから除外する。

『クツ・・・ならば《氷結界の龍・トリシューラ》の効果で墓地の《正義の味方 カイバーマン》、フィールドの《正統なる血統》、手札を1枚除外する！』

『クツ』

『そして《氷結界の龍・トリシューラ》でダイレクトアタック！
トライデント・ブリザード！！』

《氷結界の龍・トリシューラ》が3つの首それぞれから冷気を吐く

『グワアアアア』

瀬人：LP4000 1300

『カードを2枚伏せてターンエンド！』

遊璃：LP500

モンスター：《氷結界の龍・トリシューラ》（A2700）

魔法・罫：2枚、《フル・スロットル》

手札：0枚

フィールド：《スピード・ワールド2》

適用効果：なし

SPC：5

『このエンドフェイズ！ 《亜空間物質転送装置》で除外した《青
眼の白龍》が戻ってくる！』

時空に穴が開き、そこから《青眼の白龍》が飛び出る

《青眼の白龍》：ATK3000

『俺のターンだが、このドローで俺がSpを引ければ《スピード・ワールド2》の効果で俺の勝ちだ！行くぞ！ドロー！』

『（ゴクリ・・・）』

瀬人：spc3 4

遊璃：spc5 6 7

『ふうん。運が良いようだな。俺は《青眼の白龍》で《氷結界の龍トリシューラ》を攻撃！滅びの爆裂疾風弾！』

《青眼の白龍》が再び口に光の玉を溜め込み、放つ

そしてそれは直撃した。

『クウウウ』

遊璃：LP500 200

『強靱・無敵・最強！粉碎・玉砕・大喝采！！フハハハハハ！！アツハツハツハツハ！！』

『この瞬間リバーカードオープン《ドラグニティ・エリクサー》！』

《ドラグニティ・エリクサー》

オリジナル
通常罫

自分のライフポイントが1000以下の時、自分の場のドラゴン族シンクロモンスターが破壊された場合のみこのカードは発動することが出来る。

破壊されたシンクロモンスターの素材となった「ドラグニティ」と名の付くモンスターの数×500ポイントのライフを回復する。

『自分のライフポイントが1000以下の時、自分の場のドラゴン族シンクロモンスターが破壊された場合のみこのカードは発動出来、破壊されたシンクロモンスターの素材となった「ドラグニティ」と名の付くモンスターの数×500ポイントのライフを回復します。破壊された《氷結界の龍 トリシューラ》の素材となった「ドラグニティ」と名の付くモンスターは3体。よってライフを1500ポイント回復します』

遊璃：LP200 1700

『クツ・・・カードを1枚伏せ、ターンエンドだ!』

瀬人：LP1300

モンスター：《青眼の白龍》（ATK3000）

魔法・罫：1枚

手札：0

フィールド：《スピード・ワールド2》

適用効果：なし

SPC：4

『私のターン!』

瀬人：SPC4 5

遊璃：SPC7 8 9

『私は、《スピード・ワールド2》の効果を発動。スピードカウンターを7つ取り除くことでデッキからカードを1枚ドローする!』

遊璃：SPC9 2

『さらに手札から《Sp・スロウチャンス》を発動。』

《Sp・スロウチャンス》

オリジナル
通常魔法

自分のスピードカウンターが相手よりも少ないとき発動することが出来る。

相手とのスピードカウンター^の差1つにつき、お互いにデッキからカードを1枚ドローする(最大3枚まで)。

このカードを発動したターン自分はバトルフェイズを行う事が出来ない。

「《Sp・スロウチャンス》」は1ターンに1度しか発動することが出来ない。

『私と社長のSPC差は3! よってお互いに3枚ドロー! そして《ドラグニティ・ミリトゥム》を召喚し、リバーズカードオープン! 《ドラグニティ・ゲッドライド》! . . . この効果で墓地の《ドラグニティ・ファランクス》を装備!』

《ドラグニティ・ミリトゥム》：ATK1700

『《Sp・ドラグニティの凱旋》でデッキに戻したカードを引き当てたか . . . 』

『ええ。そして《ドラグニティ・ファランクス》を自身の効果で特殊召喚！』

私の場に再び青い龍が出現する。

《ドラグニティ・ファランクス》：DEF1100

『そしてレベル4《ドラグニティ・ミリトゥム》にレベル2《ドラグニティ・ファランクス》をチューニング！』

《ドラグニティ・ファランクス》が2つの輪となり、《ドラグニティ・ミリトゥム》がその中に入る。

+ || x6

『秘境の竜騎士が魔槍の名を携え戦場を駆ける！戦場を鎮める風となれ！シンクロ召喚！推参！《ドラグニティナイト・ゲイボルグ》！』

シンクロ召喚されたのはジャック戦で出てきた白い龍に跨った竜騎士だった。

《ドラグニティナイト・ゲイボルグ》：ATK2000

『《Sp・スロウチャンス》を使ったターン、バトルフェイズは行えない。カードを1枚伏せ、ターンエンド！』

遊璃：LP1700

モンスター：《ドラグニティナイト・ゲイボルグ》（A2000）

魔法・罫：1枚、《フル・スロットル》

手札：2枚

フィールド：《スピードワールド2》

適用効果：なし

『ならば、エンドフェイズにリバーズカード《青眼の秘湯》を発動
！』

《青眼の秘湯》

オリジナル
通常罨

自分のフィールド上に存在する「ブルーアイズ」と名の付くモンスター1体を墓地に送って発動する。
自分のライフポイントを墓地に送ったモンスターの元々の攻撃力が守備力で高いほうの数値分回復する。
このカードの発動に対し、相手は魔法・罨・モンスター効果を発動することが出来ない。

『えっ！？ 何ですか？ それ？』

『ふうん。自分のフィールド上に存在する「ブルーアイズ」と名の付くモンスター1体を墓地に送って発動し、墓地に送ったモンスターの攻撃力が守備力で高いほうの数値分回復するカードだ。俺は《青眼の白龍》を墓地に送りその攻撃力3000ポイントのライフを回復する！』

瀬人：LP 1300 4300

『折角削ったライフが・・・』

『俺のターン！』

瀬人：SPC5 6
遊璃：SPC2 3 4

『俺は《スピード・ワールド2》の効果を発動！ スピードカウンターを4つ取り除き、手札の「Sp」1枚に付き、800ポイントのダメージを与える！ 俺は《Sp-闇の量産工場》、《Sp-エンジェル・ボタン》を公開し、1600ポイントのダメージを与える！』

瀬人：SPC6 2

《Sp-闇の量産工場》
ゲームオリジナル
通常魔法

自分のスピードカウンターが2つ以上存在する場合、自分の墓地に存在する通常モンスター2体を選択して発動する。
選択したモンスターを手札に加える。

社長のD・ホイールの青眼の口の部分から私に光線が放たれ、私のライフを削る。

遊璃：LP1700 100

『更に《Sp-闇の量産工場》を発動。俺はこの効果で墓地の《青眼の白龍》と《ブラッド・ヴォルス》を手札に加える。さらに《Sp-エンジェル・ボタン》を発動！ デッキからカードを2枚ドロし、手札の《ブラッド・ヴォルス》を捨てる。』

『連続で手札を補充した。しかも捨てるのが蘇生しやすく強力な《青眼の白龍》じゃない……まさか！』

『フフフフフ・・・アツハツハツハツハ！ 手札から《S p - オバー・ブースト》を発動！』

《S p - オバー・ブースト》

アニメオリジナル
速攻魔法（アニメ効果）

自分のスピードカウンターを4つ増やす。

エンドフェイズ時に自分のスピードカウンターを1にする。

社長は私をおいて加速する！

瀬人：SPC2 6

『更に《S p - スピード・フュージョン》を発動！』

《S p - スピード・フュージョン》

アニメオリジナル
通常魔法

自分のスピードカウンターが4つ以上の場合のみこのカードは発動することができる。

手札・自分フィールド上から、融合モンスターカードによって決められた融合素材モンスターを墓地へ送り、その融合モンスター1体をエクストラデッキから特殊召喚する。（この特殊召喚は融合召喚扱いとする）

『やっぱり、《S p - スピード・フュージョン》・・・』

『手札の《青眼の白龍》3体を融合！ 降臨せよ！《青眼の究極竜

》！！ フハハハハ！』

社長の頭上に渦が出現し、その中に3体の《青眼の白龍》が飲み込まれた。

やがて渦の中から青眼の首を3つ持つデュエルモンスターズで効果を持たないモンスター最強の竜が現れた

《青眼の究極竜》：ATK4500

「こ、これが伝説の《青眼の究極竜》・・・海馬瀬人しか正規融合で召喚できないモンスター・・・」

「フフフフ、行くぞ！ 《青眼の究極竜》で《ドラグニティナイト・ゲイボルグ》を攻撃！ アルティメット・バースト！！」

《青眼の究極竜》が3つの首に其々光の弾を溜め、一気に吐き出す。

「・・・ここまで来て負けるわけには行かないっ！ リバー斯卡ードオープン！ 《バスター・モード》！ 《ドラグニティナイト・ゲイボルグ》をリリース！」

《バスター・モード》

通常罫

自分フィールド上に存在するシンクロモンスター1体をリリースして発動する。

リリースしたシンクロモンスターのカード名が含まれる「バスター」と名のついたモンスター1体を自分のデッキから攻撃表示で特殊召喚する。

《ドラグニティナイト・ゲイボルグ》が光り輝き、やがて光の塔と化した。

そしてその塔は《青眼の究極竜》の攻撃を弾き飛ばした。

「攻撃が弾かれた!？」

「《バスター・モード》の効果で《ドラグニティナイト・ゲイボルグ》は進化する! 出でよ! 《ドラグニティナイト・ゲイボルグノバスター》! !」

《ドラグニティナイト・ゲイボルグノバスター》
効果モンスター（オリジナル）

星8 / 風属性 / ドラゴン族 / ATK2500 / DEF1600

このカードは通常召喚できない。

「バスター・モード」の効果でのみ特殊召喚する事ができる。

このカードが戦闘を行うダメージステップに付き1度だけ、以下の効果から1つを選択して発動することが出来る。

自分の墓地に存在する鳥獣族及びドラゴン族のシンクロモンスター1体をゲームから除外発動する事ができる。このカードの攻撃力はエンドフェイズまで除外したモンスターの攻撃力分アップする。

デッキから「ドラグニティ」と名の付くモンスター1体を墓地に送り、そのモンスターの攻撃力より元々の攻撃力が低い「ドラグニティ」と名の付くモンスター1体をバトルフェイズ終了時に墓地から特殊召喚する。

また、フィールド上に存在するこのカードが破壊された時、自分の墓地に存在する「ドラグニティナイト」と名の付くシンクロモンスター1体を特殊召喚する事ができる。

光の塔が消え、私の場に白銀の鎧を纏った白い竜とその竜に跨る同じく白銀の鎧を着て、手に黒色で所々輝いている槍を持った竜騎士が現れた。

《ドラグニティナイト・ゲイボルグノバスター》 : ATK2500

「な、なんだと！……だが、《ドラグニティナイト・ゲイボルグノバスター》の攻撃力は2500！ まだ《青眼の究極竜》には届かない！ もう1度攻撃だ！ アルティメット・バースト！」

再び《青眼の究極竜》が巨大な光の弾を3つの首で溜め、一気に放つ！

「《ドラグニティナイト・ゲイボルグノバスター》のモンスター効果を発動！ このカードが戦闘を行うダメージステップに1度、自分の墓地に存在する鳥獣族及びドラゴン族モンスター1体をゲームから除外発動する事ができる。そしてこのカードの攻撃力はエンドフェイズまで除外したモンスターの攻撃力分アップする！ 私は墓地の《氷結界の龍 トリシューラ》を除外し、《ドラグニティナイト・ゲイボルグノバスター》の攻撃力を2700ポイントアップする！」

《ドラグニティナイト・ゲイボルグノバスター》：ATK2500
5200

「攻撃力5200だとっ！？……莫迦な！？」

「《ドラグニティナイト・ゲイボルグノバスター》の反撃！ 魔槍まそうち投擲術究極奥義うしなげじゆつかくゑい・インフィニティ・グラウンド・スピア！！」

《ドラグニティナイト・ゲイボルグノバスター》が手に持つ槍を音速以上の速さで投擲する。

その槍はアルティメット・バーストと正面からぶつかり肉眼では瞬間止まる。

しかし、力の拮抗は一瞬にして崩れアルティメット・バーストが消失去った。

そのまま槍は《青眼の究極竜》の腹に刺さり、数え切れないほどの棘と化して破裂した。

攻撃力の低い《青眼の究極竜》がこれに絶えられるはずもなく轟音を上げて崩れ去った。

その後破裂した槍は1つに戻り、《ドラグニティナイト・ゲイボルグノバスター》の手に舞い戻った。

『グワアアアアアア・・・』

瀬人：LP4300 3600

『莫迦な・・・俺の《青眼の究極竜》が戦闘で敗れるだと・・・だが俺は最後までデュエルを続ける。ターンエンド』

社長の加速は終わり、私の後ろまで後退した

同時に《ドラグニティナイト・ゲイボルグノバスター》の効果も切れ、一層輝いていた槍の輝きが納まる。

瀬人：spc6 1

《ドラグニティナイト・ゲイボルグノバスター》：ATK5200
2500

瀬人：LP3600

モンスター：なし

魔法・罫：なし

手札：0

フィールド：《スピード・ワールド2》

遊璃：WIN

プシューウー——

社長のD・ホイールが煙を上げ、減速する。

私も社長とすれ違った後再びD・ホイールを反転させ、社長の近くで止まる。

『クツ・・・また負けてしまったか。』

『ギリギリでした。ここまで《スピード・ワールド2》の効果操るなんて・・・』

『俺も色々と学ばせてもらった。主にスピード・カウンターの重要性になー！』

『スピード・カウンターは本当に大事ですからね・・・強力なSPを使うにしても、《スピード・ワールド2》の効果を使うにしても、スピード・カウンターは必要。つまり、ライディング・デュエルはスピードが魔法になるんですー！』

『スピードが魔法か。肝に銘じておこう。だが、コースの関係上これを実用化するのは無理だな。』

『そうですね。』

『まあ、俺の財力があればライディングデュエルは出来るから、またいつか実験相手になってもらうぞー！』

『はい！ でもそのときも負けませんからね！』

『減らず口を・・・』

ゴーン、ゴーン・・・

『あ、お昼の時間ですね。』

『ふうん。じゃあ、今日の実験はこれくらいにしておくか。・・・
食堂に向けて全速前進だ！』

『はあ〜い』

こうして私と社長の2度目のデュエルはライディングデュエルとなった。

この後の冬休みの間は社長の都合や、公道を占拠出来なかったりでライディングデュエルは出来なかったけれど、

私はここ16年間で一番有意義な冬休みを送ることが出来た。

・・・To be continued

14話：社長の逆襲 - 俺の嫁に手を出すな！ - (後書き)

まず最初に過去の世界にライディングデュエルを持ち込んですみませんでした。

遊星とアキの娘が主人公なので1度は入れてみたかったですけれど、Spの資料がなさ過ぎて今まで出来ませんでした。そして対戦相手も思いつきませんでした。

因みに今回出てきたドラグニティのSpは以前私がスタンディング用で考えたオリカの数々です。

スタンディングだと色々と悪用できるのでSp化させました。今のところスタンディング用にする予定はありません。

また今回使用した《ドラグニティナイト・ゲイボルグノバスター》も1回やってみたかった奴です。

一応バランスは保ったつもりですけど、どうでしたでしょうか？ゲイボルグのパワーアップ効果の範囲を微妙に広げ、墓地肥やしも出来るようにしてみました。

ただ戦闘しなければいけないのでダメージステップ前に死んだら何も出来ない残念な子。

でも、破壊されたら「ドラグニティナイト」(種類不当)を蘇生できるのは1種の救いの意味ですね。

まあ蘇生するのはほぼ確実にゲイボルグですが・・・

因みに他のドラグニティ版のノバスター(オリカのはまだ)も考え終わっています。

使うか分かりませんが・・・

ついでだったので攻撃名も4000台と5000台で変えました。

さて色々とながくなったのでここで切ります

次回は

テニスと大原小原はすっ飛ばして、ドロップンに行こうと考えています。

ついに遊璃の好きな味が・・・

次回もお楽しみに

最後に今回の地震の被災者の方々の無事を心よりお祈りいたします。

15話・ドロパーン！今日の味はな〜にかな、な〜にかな！（前書き）

2期、3期のネタばかり浮かんできて中々書きあがりません〜<

でもこゝなして飛ぶのは可笑しすぎるのでちゃんと順序は踏みます。

15話：ドロパン！今日の味はな～にかな、な～にかな！

side yuri

冬休みが終わって2週間が経った。

私は社長にD・ホイールを押し付k・・・(ゴホン)・・・貰ってアカデミアに持ち込んだ。

港にいたトメさんとかにはものすごく驚いていたけれど、なんとか誤魔化した。

ブルー女子寮に帰ると鮎川先生がいて、私の部屋が修繕されたと言われたので今までの私たちの部屋に向かった。

え？ D・ホイール？ トメさんをお願いして港の倉庫に置かせてもらったよ。

部屋に入るといきなり雪乃に泣き付かれて『いかないで』とか言われたけれど、
元々部屋が近かったので何時でも来ていい等と説得した。

条件として今日まで一緒ということになったが・・・

因みに料理のほうもその夜に食べさせてもらったけれど、冬休み以前よりかなり上達していた。

翌日、雪乃の部屋から自分の荷物を持って自分の部屋に設置した。

自分の部屋は修繕後の影響かもの凄く新鮮味があった。

部屋の広さは雪乃の部屋と変わらないのに広く感じるのはやはり1人と2人の違いだろう。

・
・
・
・
・

そうこうしているうちに冬休みが明け、新学期が始まった。

なんだか山奥に喋る猿がいるとか、大男がブルー生徒のレアカード狩りをしている噂もあったが、あっという間に収束した。

明日香によると、遊城君が解決したらしい。

冬休み中にはオカルト研究会も助けたらしいし、凄いなと思った。

・
・
・
・
・

そして今日、

私はすっかり朝寝坊をしてしまい、昼食のお弁当を作る時間がなく作る事が出来なかった。

雪乃にそれを言うとももの凄くへこまれたが、ドローパンを奢るということで話がついた。

その後、私達は購買へと足を向けた。

戒鷲はここでこの世界のドローパンについて解説します。蟹と魔女の娘の世界のドローパンはアニメと同じように、大当たりの黄金の卵パン、50種類を軽く超え、季節限定も合わせると150種類近くあると言われている色々な味のパン、そしてドローパンの中に具がないパンで構成されています

しかし、具なしパンを引くと中に引換券のような物が入っており、それを購買部のトメさんかセイコさんに渡すと1パック分のカードが貰えるという特典があります。なので下手な外れよりも具なしの方がいいと思っっている人もいます。

但し、このパックは購買部が自作した物なので、中身を見て中に相場が1000円以上のレアカードがあつて大喜びした者もいれば、使い道が限られた外ればかりの束を押し付けられて絶望した者もいるらしい。・・・さて今日の遊璃達のドロー運は？

なんか何処かで作者の声がした気がするけれど、私達は購買についた。

そこには遊城君、丸藤君、明日香、三沢君がいた。

『あら、今日はお弁当じゃないの？』

私達に気づいた明日香が言う。

その言葉に他の皆も気付く。

『お！ 不動に藤原じゃねえか。』

『不動さんに藤原さん、こんにちはッス。』

『不動さんに藤原さんじゃないか。どうしたんだ？』

『皆さんこんにちは。実は今日寝坊をしてしまいました、購買部で何か買おうかと・・・』

『そうなのか！ じゃあ皆でドロパン引こうぜ！』

『アニキ！ またツスカ？』

『おう！』

『今日も卵パンを当てたら10日連続ね。』

『いいだろう。俺がおいしいパンを引く確率は83%だ』

『では私も一緒にさせていただきます。いいよね雪乃。』

『ええ。』

私達はトメさんにドロパンの代金をそれぞれ払い、ドロパンを引くことにした。

『誰から引く？』

明日香が言う

『うーん。じゃあジャンケンだ勝った人から時計回りでどうだ？』

『いいわよ』

『OKッス』

『はい』

『分かった』

『『『『『『『最初はゲー、じゃんけん！・・・ホイ』』』』』』

(十代を基点に時計回り)

十代：チヨキ

翔：パー

三沢：チヨキ

明日香：チヨキ

遊璃：チヨキ

雪乃：チヨキ

『翔だけ負けだな。・・・次行くぞ!』

『『『『じゃんけん・・・ホイ!』』』』

十代：パー

三沢：パー

明日香：グー

遊璃：グー

雪乃：パー

『不動と明日香は負けだな。次で決まるか?』

『『『じゃんけん・・・ホイ!』』』

・

・

・

・

『『『あいつで・・・シヨ!』』』

・

・
・
・

かれこれ20回以上あいこが続き、

『『『シヨ!』』』

十代：チヨキ

三沢：チヨキ

雪乃：グー

『私の勝ちね。』

『クウゝ負けたぜ。』

『じゃあ、順番は藤原からだな。』

『分かったわ。・・・じゃあ、これにしようかしら。ドロー!』

雪乃は少し悩んで1つのパンを引く

代金は支払い済みなのでその場で開けてパンに噛り付く。

結果は

『ウツ……辛い！ 唐辛子？……違うわこれは……幻の唐辛子パンね。……辛い！ ちょっと水買ってくるわ！』

そう言つて雪乃は退場した。

『辛そう……』

『あれつて外れか？』

『辛党には大当たりでしょうけれど、雪乃は違いそうね。』

『……じゃあ次は俺だ。……俺のターン！……ドロー！』

遊城君が迷わず1つのパンを取り出し食べる。

『……よっしゃあ！ 黄金の卵パン召喚だぜ！』

なんと遊城君は1つしかない黄金の卵パンを引き当てた。

『流石十代。引きだけは凄いわね。』

『へへっ！』

『次は翔君ね。』

『はいッス！……ドロー！……！』

丸藤君は思い切つてドロ―してすぐ開けて食べた。

『!?!?・・・具なしパンツス』

『おつ!?!?・・・じゃあ引き換えて来いよ! いいカードが当たるかもしれないぜ!』

『そうツスネ! トメさ〜ん! 1パック引き換えよろしくツス!』

『はいよ〜』

そう言つてトメさんは丸藤君の引換券とパックを交換した。

『翔!何が入っているんだ?』

『今開けるツス!』

丸藤君はパックを開けて中身を確認した。

途端、丸藤君の動きが止まった。

『どうしたんだ? 翔・・・これは・・・』

『ん?・・・ああ』

遊城君と三沢君もが固まったので私も後ろから見してみる。

《ねずみ取り》

《骨ネズミ》

《鎧ネズミ》

《バーグラー》

《イビル・ラット》

《ねずみ取り^と》

通常罠

相手が召喚・反転召喚したモンスターの攻撃力が500以下だった

場合、

そのモンスター1体を破壊する事ができる。

《骨^{ホネ}ネズミ》

通常モンスター

星1 / 闇属性 / アンデット族 / ATK400 / DEF300

ネコにやられた恨みをはらすため、アンデットとして蘇ったネズミ。

《鎧^{よろい}ネズミ》

通常モンスター

星3 / 地属性 / 獣族 / ATK950 / DEF1100

鎧のようにかたい毛で体を守ることができるネズミ。

《バーグラー》

通常モンスター

星3 / 地属性 / 獣族 / ATK850 / DEF800

ずるがしこいねずみ。

右手の大きなかぎづめで攻撃してくる。

《イビル・ラット》

通常モンスター

星3 / 地属性 / 獣族 / ATK750 / DEF800

どんな物にでもかじりつく、行儀の悪い野ネズミ。

見事にネズミ尽くであった。

これは固まるよね。

まあ絶対に使えない物ばかりではないけれど、何れも上位のカードがあったりするのはいわね。

つと、私も固まっているうちに三沢君が引いたわね

『何が入っているのか・・・俺も具なしパンか。 トメさん！俺のも引き換えてくれ！』

『はいよ〜』

『ありがとう。 トメさん』

『いいんだよ』

三沢君はさっさと取り替えてくると私達の前でパツクを開ける。

私は後ろにいたので中身を見ることが出来た。

中身は・・・

《偽物のわな》
にせもの

《偽物のわな》
にせもの

《偽物のわな》
にせもの

《偽物のわな》
にせもの

《偽物のわな》
にせもの

《偽物のわな》
にせもの
通常罠

自分フィールド上の罠カードを破壊する魔法・罠・効果モンスターの効果

を相手が使用した時に発動する事ができる。

このカードを代わりに破壊し、他の罠カードは破壊されない。

セットされたカードが破壊される場合は、そのカードを全てめくり確認する

まさかの《偽物のわな》5連発。

『スカ』って文字が5つあるよ。でも《スカゴブリン》が入っていないんだ。

《スカゴブリン》

通常モンスター

星1 / 闇属性 / 悪魔族 / ATK400 / DEF400

完璧な「スカ」の文字を極めるため、日々精進するゴブリン。その全てを一筆に注ぐ。

三沢君はこの5枚を見て何か言っているけれど《スカゴブリン》よりマシな気がする。

色々使い道あるし……

教えてあげるべきかな？

『俺の計算でもこれらは使えない。』

『そうじゃないと思うよ』

『何？』

『《偽物のわな》なんて結構便利なカードじゃない！』

『えっ！ 不動さんにはこのカードの使い道があるのか？』

『ええ。例えばパーミッション。あのデッキは罠カードが多いわね。』

『ああ。だが、パーミッションであれば《偽物のわな》にせものに頼る必要なんてないんじゃないか？』

『確かに。最初はそう考えるわ。けれどね逆転の罠を伏せたときにコストが払えなかったら、それで無効に出来ず破壊されたら嫌でしょう。』

『まあ、確かに』

『それに魔法無効がないときに《大嵐》を打たれたらどうかしら？』

『かなりの損だな』

『そう。でも《偽物のわな》はそれを一枚で防いでくれるのよ！カードは確認されてしまうけれどね。』

『何！ ノーコストで防ぐだと！？』

『うん。他にも永続罠が多いロックデッキとかに仕込まれると困るわ。(未来には他にも色々あるけれど、過去だとこれは結構優秀よね。)]

『ロックを破るカードが減るから・・・』

『その通り！ 一見使い道のないようなカードでも色々と使用法はあるのよ！』

中身は
・
・
・
・
・
・
・

『やった　でも少し重いわ。　から揚げパンよ。』

中に入っていたのは結構油が乗ったから揚げパンだった。

これだけだと栄養が偏りすぎるので

『トメさん、檸檬とレタスありますか？』

『あるよ〜』

『じゃあ、これで』

私はレタスとその両方にあつ檸檬を買って、皆の元に戻る。

『あれ？　何買ってきたんだ？』

ようやく復帰した遊城君が聞いてくる

『レタスと檸檬よ』

そういつて私はパンを2つに割り、レタスを詰め檸檬を絞ってかけた。

ちょっとかけすぎちゃったけれど、大丈夫よね？

『改めていただきます　・・・美味しい!!』

『』
『』
『』
『』
『』
『』
『』
『』

皆、唾然としているわね。

私が酸っぱい物が好きだというのが分かったからかしら？

でも私は虫とかじゃなければ基本なんでも大丈夫よ！

•

•

•

•

後日談

明日香伝いに黄金の卵パン窃盗事件があったらしい。

私はあの日以来、寝坊などしなかったのですとお弁当だ。

雪乃も自分で自分の分を作ってくる。

やっぱり運任せより、考えて栄養をしっかりと取れるほうがいいわね！

∴ T o b e c o n t i n u e d

15話：ドローパン！今日の味はな〜にかな、な〜にかな！（後書き）

ドローパン編お届けしました。

遊璃は料理が非常に上手く、雪乃曰く女子寮のコック以上なので普段は購買を利用しません。

だから、大山平とのエンカウトもしませんでした。

そしてまさかの酸っぱい物好き！？

辛党、甘党はベタすぎたので別のものを用意しました。

苦党も一回考えましたが、作者の都合で断念。

因みに私も檸檬大好きです（え

さて次回は・・・

神楽坂に行きます お楽しみに！

16話：初代デュエルキングのデッキ！（前書き）

前回は遊璃の隠された好物を紹介しました。

因みに遊璃は何にでも酸っぱい物をかけるなんて事はしません。

栄養バランス第一です。

前回の場合はから揚げの油を少しでもすっきりさせようとして檸檬に登場していただきました。

まあ、酸っぱいものが好きなので1日1食は酸っぱいものが入っている料理があるのは否定しませんが・・・

雪乃も気付かない程度に夕食等も準備していたのでドロパンの所まで露見しませんでした。

さてさて今回はVS神楽坂

デュエルする人も秘密です。

ではどうぞ！

3/28 神楽坂の手札の枚数ミスを修正。 それに伴い、使用力

ードを変えました。

16話：初代デュエルキングのデッキ！

side yuri

明日はついに初代デュエルキング武藤遊戯のデッキ公開日です。
神のカードはないらしいけれど参考にする分にはそっちの方が嬉しいですね。

だって神のカードなんて入っていたら参考にする部分が極端に減りますもの……

まあ、他にも武藤遊戯のデッキにしか入っていないカードもあるんですけどね……

で、私と雪乃は朝から購買部に並んで閲覧券を貰いました。

これで無事に見られると思っただけですけど、

明日って絶対混みそうです。

だから夜に展示館に行ってデッキを見ます。

・
・
・
・
・

夜・デュエルアカデミア・展示会場

私と雪乃は展示会場に来た。

来たんだけど、

『お！ お前らも来たのか？』

遊城君と

『わ！ 不動さんと藤原さんツス！』

ネズミしか引かない丸藤君と

『君達は、廃寮の時の人たちなんだな。』

廃寮の時に遊城君と一緒にいた前田君と

『君達もフライングかい？』

三沢君がいた。

『『ええ、まあ。』』

私と雪乃はまさか同じ事を考えている人がいるとは思わず、言い淀んだ。

『まあいいや。 さっさといこうぜ！』

そう言っつて遊城君が先頭で中に入っていった。

が、

『マンマミ〜ヤ〜!!』

恐らくクロノス先生と思われる声でしたので展示室に向かって走り、

遊城君と前田君がドアを蹴破る。

中には・・・

割れたシヨーケースと「orz」の形になっているクロノス先生がいた。

すかさず私が聞く

『あの、クロノス先生。どうしたんですか？ その格好』

『遊璃そこじゃないでしょう。先生いきなり大声上げてどうしたのですか？』

雪乃が聞くとクロノス先生は黙ってシヨーケースを指差した。

シヨーケースを見てみると、

『『『『『『デッキがない！？』』』』』』

6人の声が見事に揃った。

・
・
・
・
・

その後復活したクロノス先生に事情を聞くと、
管理者権限を使って先に武藤遊戯のデッキを見ようとしたら
すでにデッキが奪われていたらしい。

私達はクロノス先生の依頼でデツキを探しに外に出た。

クロノス先生は犯人が戻って来るかもしれないという事で展示室に残っている。

・
・
・
・

暫くして唐突に

『ウワアアアア』

丸藤君の叫び声がしたので一緒に探していた雪乃とそっちに向かう
するとそこには

犯人らしき人の方に駆ける遊城君がいた。

いそいで私達もその後続いた。

・
・
・
・

(デュエルは原作通り)

・
・
・

・
・
・

『俺は駄目なのか』

犯人ー否、神楽坂君がデッキを使いこなせなかったのかと落ち込んでいる。

『そうではないさ』

崖の上から声がした。

その場にいた全員が上を見上げると、そこには・・・

オベリスクブルーの男性と明日香がいた。

そして2人と遊城君たちの説得によって神楽坂君は立ち直り、デッキを返すことを伝えてくれた。

だが、

『ん？ 何の騒ぎでスーノ？』

崖の生徒の騒がしさに展示室から出てきたクロノス先生が来た。

そして

『シニョール神楽坂。 貴方がデッキを盗み出したのでスーカ？』

『・・・はい。 申し訳ありませんでした。』

『先生、神楽坂君は反省しています。ですからお咎めなしには出来ませんか？』

私が援護する

『君は・・・シンクロ使いの不動さん？』

『そうだ、そうだ！ 神楽坂はいいデュエルを見せてくれた。』

『こんなにいいデュエル中々見れないぜ！ クロノスセンサー！』

私に続き、崖の上で見物をしていた生徒も声を出す

『神楽坂君を許してあげられませんか？』

『むむむ・・・生徒達の意見も聞いてあげたいでスーガ、お咎めなしにするのは無理でスーノ！ しかもデュエルキングのデッキを盗み出すとーハ、流石に停学ではすまなそうなノーネ！』

『・・・そんな』

『シカーシ、代わりの罰なら与えられるノーネ！』

『それは・・・？』

神楽坂君が真っ先に反応する。

『この学園の生徒ーノ、希望者全員ート、そのデッキを使ってデュ

エルする事ナノーネ！！そうすねーバ生徒達ーモ、間接的でスーガ、デュエルキングのデッキとデュエルが出来るノーデこれからの飛躍につながると思いますノーネ！！』

『えっ！？ そんなことで宜しいのでしょうか？』

『そんなこと？ いえいえ、通常デュエルというものはソリットヴイジョンを使って1日に10回以上スルーと精神的に弱ってしまうという学説があるノーネ！ 過去にデュエルのし過ぎで狂人になってしまったデュエリストもいるらしいノーネ！ だから停学よりも厳しい罰になりますーガ、これをしてくれるのであれば、今回の事ーハ、無罪放免にしまスーノ！！』

『・・・分かりました。この神楽坂。デュエルキングのデッキでデュエルしながら散るのであれば本望です。』

『！？ 神楽坂君？』

『心配してくれてありがとう。生徒の皆！明日の朝から俺は展示室前でデュエルを開始する。使用デッキは勿論デュエルキングのデッキだ！ デュエルキングのようなプレッシャーは出せないが、タクティクス戦術はほぼ完璧だ！ 武藤遊戯のデッキと戦いたい者は展示室に来てくれ！ 俺は逃げも、隠れもしない！』

神楽坂君が声を張り上げると

『分かった。』 『明日は楽しませてくれよ！』

などと言いながら生徒達は三々五々と解散していった。

その後私達は女子寮に戻り、眠りについた。

・

・

・

・

―翌日―

私は雪乃と一緒にいくと昨日のうちに決めておいたので昼頃神楽坂君の所にいった。

『行け！ キマイラ！ インパクト・ダッシュ！』

『止めだ！ ブラック・マジック！』

『モンスターに攻撃！ ブラック・バーニング！』

『グワアアア』

『うわあああ』

『きゃあああ！！』

男子生徒A：L P O

男子生徒B：L P O

女子生徒A：L P O

神楽坂：WIN

神楽坂君はイエロー1人、ブルー1人、ブルー女子1人の3人を相手に余裕の勝利を収めていた。

「……さあ、……次の挑戦者は……だれだ？」

「……俺が行こう！」

「……帝王か。^{カイザー}相手に不足はない！」

「『デュエル！』」

神楽坂：LP4000

亮：LP4000

「先行は俺が貰う。ドロー！」

神楽坂君の先行でデュエルが始まった

――30分後――

「攻撃力16000の《サイバー・エンド・ドラゴン》で《カオスソルジャー - 開闢の使者 -》を攻撃！ エターナル・エヴォリユーション・バーストオー！！」

《サイバー・エンド・ドラゴン》

融合・効果モンスター

星10 / 光属性 / 機械族 / ATK4000 / DEF2800

「サイバー・ドラゴン」+「サイバー・ドラゴン」+「サイバー・

ドラゴン」

このカードの融合召喚は上記のカードでしか行えない。

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

昨日の男性の場の3つ首の機械竜が雪乃の切り札でもある騎士にレーザー光線を当て木っ端微塵に破壊した。

『グワアアアア』

神楽坂：LP900 0

亮：WIN

『久々にいいデュエルができた。感謝する。』

『ああ。とはいっても帝王のプレイに振り回されっぱなしだったかな。』

神楽坂君はこう言っているが、全くの嘘だと思う。

開始数ターン目からお互いに大型モンスターを並べ、神楽坂君は武藤遊戯のエースクラスのカードを5枚近く、昨日の男性はサイバーの融合体や進化形態を全て出し尽くしての結果だ。

最終的にはライフを400まで追い詰めていたし、周りのギャラリもそれを見て遠慮しだしている。

『・・・お姉様。私が行くわ。 開闢を見たらもうゾクゾクが止ま

らなくて……(ボン)』

『分かった。がんばって。』

『ええ。』

ギャラリーが譲り合いをしていたので雪乃はあっさりとデュエルで
きる位置に来た。

『神楽坂君。次は私よ!』

『き、君は……いつも不動さんの近くにいる冷酷の混沌使い 藤
原雪乃さんかい?』

『そうよ……名前の呼び方に少し気になる部分があったけれど、
聞き逃したことにしてあげる。』

『……早速はじめよう』

『『デュエル!!』』

神楽坂：LP4000

雪乃：LP4000

side out

side yukino

いよいよ神楽坂君と……いや武藤遊戯のデッキとデュエルできる

わ。

相手にとって不足はない。

正直勝てるかどうかは分からないけれど、お姉様が見ている前で無様な戦いは出来ないわ！

『先行は？』

『俺はどちらでも。』

『では先攻は貰うわ！ 私のターン。ドロー！』

クッ

事故を起こしたわね・・・

手札は・・・

《高等儀式術》

《クリボー》

《デュナミス・ヴァルキリア》

《レッド・サイクロプス》

《ケルベロス・ファースト》

《天魔神ノーレラス》

《クリボー》

効果モンスター

星1 / 闇属性 / 悪魔族 / ATK 300 / DEF 200

相手ターンの戦闘ダメージ計算時、このカードを手札から捨てて発動する。

その戦闘によって発生するコントローラーへの戦闘ダメージは0になる。

《ケルベロス・ファースト》（HIROさん投稿オリジナル）

儀式・効果

星5 / 闇属性 / 悪魔族 / ATK 2100 / DEF 1500

「地獄門の開門」により降臨

このカードがフィールド上にある時相手は効果モンスターの効果を発動できない。

このカードを手札に戻す事で手札から「ケルベロス」と名の付いた儀式モンスターを特殊召喚できる（この特殊召喚は儀式召喚扱いとなる）

「ケルベロス」と名の付く儀式モンスターは自分フィールド上に1体しか表側表示で存在できない。

一応儀式魔法と儀式モンスターはいるけれど私のデッキにレベル5の通常モンスターはいない。

まあ、召喚できるモンスターがいるだけ幾分かマシかしら？

『 《レッド・サイクロプス》 を守備表示で召喚。 ターンエンド。 』

私の場に大きな角を持つ一目鬼が現れた。

《レッド・サイクロプス》 : DEF 1700

雪乃：LP4000

モンスター：《レッド・サイクロプス》（D1700）

魔法・罫：なし

手札：5枚

フィールド：なし

適用効果：なし

『俺のターン！・・・フツ！』

『（何か来るわね）』

『俺は手札の《磁石の戦士》、《磁石の戦士》、《磁石の戦士》の3体を生け贄に、手札から《磁石の戦士マグネット・バルキリオン》を特殊召喚！』

《磁石の戦士（マグネット・ウォリアー・アルファ）》

通常モンスター

星4 / 地属性 / 岩石族 / ATK1400 / DEF1700

、 、 で変形合体する。

《磁石の戦士（マグネット・ウォリアー・ベータ）》

通常モンスター

星4 / 地属性 / 岩石族 / ATK1700 / DEF1600

、 、 で変形合体する。

《磁石の戦士（マグネット・ウォリアー・ガンマ）》

通常モンスター

星4 / 地属性 / 岩石族 / ATK1500 / DEF1800

、 、 で変形合体する。

《磁石の戦士マグネット・バルキリオン》

効果モンスター

星8 / 地属性 / 岩石族 / ATK 3500 / DEF 3850

このカードは通常召喚できない。

自分の手札・フィールド上から、「磁石の戦士」
「磁石の戦士」をそれぞれ1体ずつリリースした場合に特殊召喚
する事ができる。

また、自分フィールド上に存在するこのカードをリリースする事で、
自分の墓地に存在する「磁石の戦士」
「磁石の戦士」
「磁石の戦士」をそれぞれ1体ずつ選択して特殊召喚する。

神楽坂君の場に大量の磁石が現れ、それらが時に分解、時に溶接して1つの巨大な戦士となった。

《磁石の戦士マグネット・バルキリオン》 : ATK 3500

「1ターン目から攻撃力3500ですって・・・」

「まだだ。 《磁石の戦士マグネット・バルキリオン》 の効果を発動！ このカードを生け贄にし、墓地から《磁石の戦士》、《磁石の戦士》、《磁石の戦士》を特殊召喚する！」

合体が終わったばかりの《磁石の戦士マグネット・バルキリオン》
が再び分解し、

3つの磁石の戦士になった。

1つは灰色の剣に磁石の取り付けた盾を持つ戦士。

1つは頭の左右にU字磁石を取り付けた黄色の戦士。

1つは桃色のような体をし、羽のような物を持つ戦士である

《磁石の戦士》：ATK1400

《磁石の戦士》：ATK1500

《磁石の戦士》：ATK1700

『えっ!? 私の《レッド・サイクロプス》の守備力は1700。
磁石の戦士じゃ倒せないわよ?』

『・・・まだだ。カードを1枚伏せて、《天よりの宝札》を発動。
お互いの手札が6枚になるようカードをドロウする』

『ここで手札増強!?!』

『俺は6枚。君は・・・1枚だ。』

『ええ。』

『ドロウ・・・お! ラッキーだぜ! ドロウした《ワタポン》
《》の効果。カード効果で手札に加わったこのカードを特殊召喚!
出る! 《ワタポン》』

《ワタポン》

効果モンスター

星1/光属性/天使族/ATK200/DEF300

このカードが魔法・罠・効果モンスターの効果によって

自分のデッキから手札に加わった場合、このカードを自分フィールド上に特殊召喚することができる。

《ワタポン》：DEF300

『俺は更に《強欲な壺》を発動し、2枚カードをドロウする。』

『更なる手札増強・・・』

『そしてさつき伏せたカードを発動！ 《死者転生》！ 手札を1枚捨て墓地の《磁石の戦士マグネット・バルキリオン》を手札に加える。』

《死者転生^{ししやてんせい}》

通常魔法

手札を1枚捨てて発動する。

自分の墓地に存在するモンスター1体を手札に加える。

『そして《ワタポン》を生け贄に、《ブラック・マジシャン・ガール》を召喚！』

《ブラック・マジシャン・ガール》

効果モンスター

星6 / 闇属性 / 魔法使い族 / ATK2000 / DEF1700

お互いの墓地に存在する「ブラック・マジシャン」「マジシャン・オブ・ブラックカオス」1体につき、このカードの攻撃力は300ポイントアップする。

神楽坂君の場に青の露出度の高めな魔法具を纏い、お洒落な格好をした女性魔法使いが現れる。

『ブラマジガール最高ッス〜』

ギャラリーの何処かで変な音声が聞こえたけれど、無視。

《ブラック・マジシャン・ガール》：ATK2000 2300

『？ どうして攻撃力が・・・』

『さっきの《死者転生》で《ブラック・マジシャン》を墓地に送った。よって《ブラック・マジシャン・ガール》の効果が発動した。』

《ブラック・マジシャン》

通常モンスター

星7 / 闇属性 / 魔法使い族 / ATK2500 / DEF2100

魔法使いとしては、攻撃力・守備力ともに最高クラス。

『（今までのプレイに隙がない・・・しかも《デュナミス・ヴァルキリア》の方を出していたら大ダメージだったわ。新しいモンスターとの兼ね合いで《クリボー》を入れておいて正解だったわね。お陰でまだ戦えるわ。』

『行くぞ！ 《ブラック・マジシャン・ガール》で《レッド・サイクロプス》を攻撃！』

『『黒・魔・導・爆・裂・破』^{ブラック・バーニング} ツス！！』

ん？ 今誰か声を挟まなかった！？

デュエルに攻撃名とはいえ途中で口出しはして欲しくないわ・・・

ってそうこうしているうちに《レッド・サイクロプス》が破壊されてしまった。

もう！ 攻撃名言った人誰よ。 あんたのせいで《ブラック・マジシャン・ガール》の攻撃見逃しちゃったじゃない。

《レッド・サイクロプス》には悪いけれど、どうしてくれるのよ！
後で覚えてなさい！

（余談ですが、この後何かから逃げるが如く走り去るレッド生徒がいたとか。いなかったとか。）

『考えているところ悪いが、続けるぞ！ 磁石の戦士達マグネットウォリアーで直接攻撃
』！』

『 とは通すわ。けれど は《クリボー》を捨ててダメージを0にするわ！』

『 いいだろう。』

磁石の戦士の攻撃が1つだけ茶色の毛玉によって防がれるが、2つは私に直撃した

『 クウウウウ』

雪乃：LP4000 2600 1100

なんとか1000より多く残せたわ。

さっきの《天よりの宝札》で《天使の施し》を引けたから次のターンでそれを発動して、手札の《デュナミス・ヴァルキリア》と《ケルベロス・ファースト》を墓地に送って《天魔神ノーレラス》を出

して効果を発動し、場を殲滅する。
私のライフは100になるけれど、神楽坂君の手札も0になるし、勝ち目はまだあるわ。

『カードを3枚伏せ、再び《磁石の戦士》、《磁石の戦士》、《磁石の戦士》を生け贄に《磁石の戦士マグネット・バルキリオン》を特殊召喚。ターンエンドだ。』

《磁石の戦士マグネット・バルキリオン》：ATK3500

再び3体の磁石の戦士が大量の磁石になって、1つの戦士と化した。

神楽坂：LP4000

モンスター：《磁石の戦士マグネット・バルキオン》（A3500）

、《ブラック・マジシャン・ガール》（ATK2300）

魔法・罫：3枚

手札：1枚

フィールド：なし

適用効果：なし

『私のターン！・・・私は《天使の施し》を発動。デッキからカードを3枚ドロし、2枚を捨てるわ！』

『そうはさせない！リバーズ罫^{トラップ}、《精霊の鏡》！』

『えっ！？』

《精霊の鏡》

通常罫

プレイヤー1人を対象とする魔法の効果の別のプレイヤーに移し替える。

『これにより君の《天使の施し》の対象を君から俺に変更。よって俺がカードを3枚ドロし、2枚を捨てる。・・・今捨てたカードの中に《マジシャン・オブ・ブラックカオス》がいた。よって《ブラック・マジシャン・ガール》の攻撃力が更に300ポイントアップする。』

《マジシャン・オブ・ブラックカオス》
儀式モンスター

星8 / 闇属性 / 魔法使い族 / ATK 2800 / DEF 2600
「カオス・黒魔術の儀式」により降臨。

《ブラック・マジシャン・ガール》 : ATK 2300 2600

私の戦略がそのまま利用された上にパワーアップまで…

流石、デュエルキングのデッキ。

私の思うような動きが出来ないわ。

でも、ドロフェイズのドロはかなり恵まれていたわ。

まだ私のデッキは動き出したばかりよ。

しかも《天使の施し》が神楽坂君の手札を1枚増やして2枚になったからこのカードを発動できる。

『・・・私は《手札断殺》を発動。お互いに手札を2枚捨て、2

枚ドローする。』

《てふだんさつ手札断殺》

速攻魔法

お互いのプレイヤーは手札を2枚墓地へ送り、デッキからカードを2枚ドローする。

『・・・いいだろう。』

私達はお互いに手札を交換した。

私が捨てたカードは《天使の施し》で本来捨てる予定だったカード。

これで私のデッキの切り札の1体が出せるわ。

でも私のデッキに攻撃力3000を超えるモンスターはいない。

だから、まず蘇生されたら困る《磁石の戦士マグネット・バルキオン》を処理する。

『手札から《ブラック・コア》を発動。手札を1枚捨てて、《磁石の戦士マグネット・バルキオン》を除外』

《ブラック・コア》

通常魔法

手札を1枚捨てる。

フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体をゲームから除外する。

《磁石の戦士マグネット・バルキオン》の前に黒色の魔力球が出現

し、《磁石の戦士マグネット・バルキオン》を消し去った。

『《磁石の戦士マグネット・バルキオン》・・・』

『更に私は墓地の光属性・天使族の《デュナミス・ヴァルキリア》と闇属性・悪魔族の《クリボー》、《ケルベロス・ファースト》、《レッド・サイクロプス》をゲームから除外し、《天魔神ノーレラス》を特殊召喚するわ!』

私の目の前の地面に亀裂が走り、その中から1体の仮面を被った悪魔が現れる。

この召喚が無効にされたら勝ち目はないわね。

『クツ・・・(俺の伏せカードは《黒魔族復活の棺》、《聖なるバリア・ミラーフォース》。特殊召喚には対応していない)・・・ここは仕方あるまい。(わざわざ除外したのは蘇生を防ぐ為か?)』

《黒魔族復活の棺》

通常罫(TF3オリジナル)

相手がモンスターの召喚に成功した時に発動する事ができる。

そのモンスター1体と自分フィールド上のモンスター1体を墓地へ送り、

自分の墓地に存在する魔法使い族モンスター1体を特殊召喚する。

《聖なるバリア・ミラーフォース》

通常罫

相手モンスターの攻撃宣言時に発動することが出来る。

相手フィールド上に存在する攻撃表示モンスター全てを破壊する。

《天魔神ノーレラス》：ATK2400

『そして、《天魔神ノーレラス》の効果を発動！ ライフを1000
0払い、お互いのフィールド上のカードと手札全てを墓地に送る。
・・痛ッ』

雪乃：LP1100 100

《天魔神ノーレラス》が私の腕あたりを切り裂き、血を奪つ。

毎回この効果を使った後に貧血になるからあまり使いたくないんだ
けれども、今は形振り構ってられない。

《天魔神ノーレラス》は私の血を糧に私と神楽坂君のカードを全て
消し去った。

『そしてこの効果を発動した後、私はデッキからカードを1枚ドロ
ーする。 ドローー!!』

『・・・』

『フフフ・・・来たわ。 私は《天魔神ノーレラス》の効果で墓地
に送った光属性の《破滅の女神ルイン》と闇属性の《天魔神ノーレ
ラス》をゲームから除外！ 現れよ！《カオスソルジャー》-開闢の
使者-』

《天魔神ノーレラス》が出てきた穴から光と闇が混ざった柱が現れ、
それが晴れるとその光の発生点に金色のパーツを紺色の鎧兜に着け
た戦士が現れた。

《カオスソルジャー - 開闢の使者 -》 : ATK 3000

『やるな・・・まさかここで《カオスソルジャー - 開闢の使者 -》を引くとは。・・・余程のデッキの信頼度がないとこんなにもデッキが答えてくれる事はない。君はデッキを信じ、デッキは君を信じている。』

『・・・えつと、ありがとございます』

『おっと 中断して悪かった。 続けてくれ!』

『では遠慮なく。《カオスソルジャー - 開闢の使者 -》で直接攻撃!
! 開闢双破斬!』

《カオスソルジャー - 開闢の使者 -》が神楽坂君の体を一刀両断にするように脳天から切り裂いた。

『・・・グワアアア』

神楽坂 : LP 4000 1000

『これで私はターンエンド。』

雪乃 : LP 100

モンスター : 《カオスソルジャー - 開闢の使者 -》 (A 3000)

魔法・罫 : なし

手札 : 0枚

フィールド : なし

適用効果：なし

『俺のターン！・・・俺は魔法カード《復活の祭壇》を発動！俺はデッキの上からカードを2枚除外し、自分の墓地からカードを1枚手札に加える。俺が加えるのは《強欲な壺》だ。その後加えた《強欲な壺》を発動し、2枚ドローする。』

《復活の祭壇》
アニメオリジナル
通常魔法

自分のデッキの上からカードを2枚ゲームから除外して発動する。墓地に存在するカードを1枚選択して手札に加える。

『！！こ、ここで手札増強カードですって！？』

『デュエルキングのデッキを甘く見るな。このデッキは攻撃・防御・補助、その全てが充実していてそれらが互いに互いを補っている。故にこのようなドローは良くあることだ。・・・俺は魔法カード《死者蘇生》を発動！』

『（《死者蘇生》、良かった。神楽坂君の墓地には既に攻撃力3000を越えるモンスターはいない。だから何が蘇生されても大丈夫なはず。）』

『・・・出でよ！ブラック・マジシャン最上級魔術師！』

神楽坂君の場に紫色のローブを纏い、先端に緑の宝玉のついた杖を構える魔術師が現れた。

《ブラック・マジシャン》：ATK2500

「(クツ・・・デュエルキング武藤遊戯が最も信頼しているというモンスター・・・となると、もし《強欲な壺》で引いたもう1枚のカードが《千本ナイフ》だったら、私の負けね・・・)」

《千本ナイフ》
サウゼン

通常魔法

自分フィールド上に「ブラック・マジシャン」が表側表示で存在する場合のみ発動する事ができる。相手フィールド上に存在するモンスター1体を破壊する。

「・・・君はもう1枚の手札が何かを予想している。俺の予想では《千本ナイフ》辺りを予想しているのだろうが、それは違う。」

「えっ!?!」

「俺が引いたもう1枚のカードはこれだ! 速攻魔法、《光と闇の洗礼》!」

「!?!」

《光と闇の洗礼》
ひかり やみ せんれい

速攻魔法

自分フィールド上の「ブラック・マジシャン」をリリースする事で発動する事ができる。

自分の手札・墓地・デッキの中から「混沌の黒魔術師」を1体選択して特殊召喚する。

「こいつはまず俺の場の《ブラック・マジシャン》を生け贄にして発動する。」

『最上級魔術師を生け贄ですって!?!』

『そうだ。そして《ブラック・マジシャン》は光と闇、相反する二つの力をその身に宿し、新たな姿へと昇華する。来い! 《混沌の黒魔術師》!』

《混沌の黒魔術師》
こんとん くろまじゅつし

効果モンスター

星8 / 闇属性 / 魔法使い族 / ATK2800 / DEF2600

このカードが召喚・特殊召喚に成功した時、

自分の墓地から魔法カード1枚を選択して手札に加える事ができる。このカードが戦闘によって破壊したモンスターは墓地へは行かずゲームから除外される。

このカードがフィールド上から離れた場合、ゲームから除外される。

神楽坂君の場の《ブラック・マジシャン》の両脇に光の塔と闇の塔が建ち、それらが《ブラック・マジシャン》を呑み込むように螺旋を描き、交わる。

やがて光と闇の螺旋が一文字に切り裂かれると、そこには青い肌に長い杖を構えた魔術師が存在していた。

《混沌の黒魔術師》 : ATK2800

『でも攻撃力は2800。私のモンスターには届かない。』

『そう焦るな。《混沌の黒魔術師》の効果を発動! このカードの召喚、特殊召喚に成功したとき、自分の墓地の魔法カードを1枚手札に加える。』

『墓地の魔法を!?』（このデュエルで神楽坂君が使った魔法に除去カードはないけれど、もし《天使の施し》や、《手札断殺》で捨てていたら・・・）』

『・・・俺が手札に加えるのは・・・《天よりの宝札》!』

『!?!? でもさっきの《復活の祭壇》で《天よりの宝札》を加えなかったのはどうして?』

『簡単な事だ。俺はデッキを信じていたから、そして君にこの状況を作り出すまでに手札を補充して妨害されなくなかったからだ。』

『（・・・デッキが足りないからではないのね・・・最初に40枚のデッキと仮定して、最初のターンで6枚と《天よりの宝札》で6枚。《強欲な壺》で2枚。私のターンで《天使の施し》で3枚と《手札断殺》で2枚。再び神楽坂君のターンのドローフイズで1枚、《復活の祭壇》で2枚、《強欲な壺》で2枚。《光と闇の洗礼》で《混沌の黒魔術師》をデッキから特殊召喚。ここまでで25枚。でも次の《天よりの宝札》で6枚。計31枚 足りないからではないにしろドロースすぎよ・・・）』

『さて続けるぞ! 俺は手札に加えた《天よりの宝札》を発動! 現在お互いの手札は0。よってお互いに6枚ドロード!』

『分かっているわ。』

私と神楽坂君はお互いにカードを6枚ドロードする。

『（クツ・・・2枚目の《クリボー》が引けなかった。恐らく私の負けね・・・）』

『・・・俺は墓地の光属性の《ワタポン》と闇属性の《マジシャン・オブ・ブラックカオス》をゲームから除外し、俺も君と同じモンスターを召喚しよう！ 来い！ 《カオスソルジャー - 開闢の使者 -》！』

神楽坂君の場に再び光と闇の合わさった塔が出現し、その中から私の場の《カオスソルジャー - 開闢の使者 -》の鎧を銀色にした同じ名前を持つモンスターが現れる。

《カオスソルジャー - 開闢の使者 -》：ATK3000

『効果は言うまでもないよな？ 《カオスソルジャー - 開闢の使者 -》の効果を発動。攻撃権を放棄することで相手モンスター1体を除外する。俺は《カオスソルジャー - 開闢の使者 -》を除外！』

神楽坂君の《カオスソルジャー - 開闢の使者 -》が次元に穴をあけると私の場の《カオスソルジャー - 開闢の使者 -》がそれに吸い込まれる。

しかし、神楽坂君の場の《カオスソルジャー - 開闢の使者 -》が片膝をついた。

恐らく次元に穴をあけるには相当の体力を消費するようだ。

『これで終わりだ！ 《混沌の黒魔術師》で藤原雪乃に直接攻撃！ 滅びの呪文デス・アルテマ！』

《混沌の黒魔術師》がその杖に膨大な黒い球を作り出し私に放つ！

そしてそれは直撃した。

『キヤアアアアアア・・・』

雪乃：LP1000

神楽坂：WIN

『俺の勝ちだ。』

『・・・ええ。 参ったわ。 でも良いデュエルだったわ。』

『俺もだ。 いいデュエルをありがとう。・・・さあ次は誰だ？』

神楽坂君が声を出すとギャラリーから色々な声が上がった。

『あの藤原雪乃ですら負けたんだぜ！ 俺なんか3ターン持てば良い方だよ』

『俺も遠慮するわ。 遊戯さんのデッキとデュエルする機会を失うのは残念だけれど、大勢の前で醜態を晒したくない』

『私はやるわ。 神楽坂君、お願いできる？』

『ああ。』

『『デュエル！』』

神楽坂：LP4000

女子生徒B：LP4000

・
・
・
・
・

十数ターン後

『さあ、後1ターンで私の勝ちよ。 私が19ターン前に発動した《終焉のカウントダウン》により、あと1ターンしか貴方には残されていない。 その上、あなたの場の《カオスソルジャー 開闢の使者》は私の場の《グラヴィティ・バインド 超重力の網》で攻撃を封じられている。そして私のライフは《ホーリージャベリン》等で回復したから5800。 私に負けはないわ。』

《終焉しゆうえんのカウントダウン》

通常魔法

2000ライフポイント払う。

発動ターンより20ターン後、自分はデュエルに勝利する。

《グラヴィティ・バインド - 超重力ちゆうじゆうりきの網あみ - 》

永続罫

フィールド上に存在する全てのレベル4以上のモンスターは攻撃をする事ができない。

《ホーリージャベリン》

通常罫

相手の攻撃モンスター1体の攻撃力分のライフポイントを回復する。

『そう思っ^ていら^{れる}のも今のうちだ。俺のターン！俺は伏せていた《砂塵の大竜巻》を発動！これにより《グラヴィティ・バインド - 超重力の網 -》を破壊！』

『何！？』

『そして《クリボー》を召喚！』

神楽坂君の場に茶色の毛玉が出現した。

《クリボー》：ATK300

『バトル！開闢の使者と《クリボー》で直接攻撃！開闢双破斬！
機雷化！』

『ウツ・・・でもこれで貴方の攻撃は終わった。私の勝ちよ！』

女子生徒B：LP5800 2500

『・・・勘違いされては困る。まだ俺のバトルフェイズは終了してないぜ！』

『えっ？』

『速攻魔法発動！ 《狂戦士の魂》！』

《^{アニメオリジナル}狂戦士の魂（バーサーカー・ソウル）》
速攻魔法

自分のバトルフェイズ時に自分フィールド上に存在するこのターン直接攻撃を行った攻撃力1500以下のモンスター1体を選択し、

手札を全て捨てて発動する。

自分のデッキからカード1枚ドローして、お互いに確認しモンスターカードだった場合、そのカードを墓地へ送り選択したモンスターはもう1度攻撃宣言を行う。

モンスター以外のカードをドローするまでこの効果を繰り返す。

『え！？』

『俺は手札を全て捨て、このターン直接攻撃を行った攻撃力1500以下のモンスター・・・《クリボー》を選択する。そして自分のデッキからカード1枚ドローして、お互いに確認しそれがモンスターカードだった場合、そのカードを墓地に送ることで、選択したモンスターはもう1度攻撃宣言を行う。』

この効果はモンスター以外のカードをドローするまでこの効果を繰り返す。』

なんなのよその掟破りのカード！！

『・・・でも、私のライフは2500。最低9回ドローしなければいけないのよ？』

『ああ。でも俺はカードを信じるぜ！まず1枚目ドロー！・・・モンスターカード《磁石の戦士》！《クリボー》で直接攻撃！』

《クリボー》が女子生徒に噛みつく

女子生徒：LP2500 2200

『まだよまだ私のライフは2200残っているわ！あと8回連続』

なんて無理に決まっている。』

『・・・2枚目ドロ・・・《混沌の黒魔術師》！』

再び《クリボー》が噛みつく

女子生徒：LP 2200 1900

『3枚目《磁石の戦士》！・・・4枚目《翻弄するエルフの剣士》！』

《翻弄するエルフの剣士》
ほんろう

効果モンスター

星4/地属性/戦士族/ATK1400/DEF1200

このカードは攻撃力1900以上のモンスターとの戦闘では破壊されない。

(ダメージ計算は適用する)

《クリボー》が体当たりをしてから噛みつく。

『キヤア』

女子生徒：LP 1900 1600 1300

『5枚目！ モンスターカード！ 《ビック・シールド・ガードナー》！ 6枚目、《磁石の戦士マグネット・バルキリオン》！ 7枚目、《カース・オブ・ドラゴン》！ 8枚目、《ジャックス・ナイト》！』

《ビッグ・シールド・ガードナー》

効果モンスター

星4 / 地属性 / 戦士族 / ATK1000 / DEF2600

裏側表示のこのモンスター1体を対象とする魔法カードの発動を無効にする。

その時、このカードは表側守備表示になる。

攻撃を受けた場合、ダメージステップ終了時に攻撃表示になる。

《カース・オブ・ドラゴン》

通常モンスター

星5 / 闇属性 / ドラゴン族 / ATK2000 / DEF1500

邪悪なドラゴン。闇の力を使った攻撃は強力だ。

《ジャックス・ナイト》

通常モンスター

星5 / 光属性 / 戦士族 / ATK1900 / DEF1000

あらゆる剣術に精通した戦士。

とても正義感が強く、弱き者を守るために闘っている。

《クリボー》が体当たり、頭突き、噛みつき、機雷化を繰り返す。

女子生徒：LP1300 1000 700 400 100

『・・・そんな、8回連続モンスターカードなんて・・・もし次がモンスターカードだったら・・・』

『・・・俺の勝ちだ。ラストドロー!!!』

神楽坂君が最後のカードを勢いよくドローする。

ギャラリーも静まり返り、神楽坂君の引いたカードに注目する。

『フツ……9枚目のカードは……』

モンスターカード！ 《岩石の巨兵》！

《がんせき岩石の巨兵きょへい》

通常モンスター

星3 / 地属性 / 岩石族 / ATK 1300 / DEF 2000

岩石の巨人兵。太い腕の攻撃は大地をゆるがす。

『なっ……私の負けね。』

《クリボー》が最後の攻撃だからか盛大な爆発を起こす

『きゃあああああ……』

女子生徒：LP1000

『……本来ならこの後も効果を続けなければならないのだが、時間短縮のために省略する。それでいいか？』

『ええ。』

神楽坂：WIN

『良いデュエルだった。あそこで《狂戦士の魂》を引けていなければ俺の負けだった。』

『でも本当に9連続でモンスターをドローするなんて……』

『デッキを信じていたからこそその結果だ。……さて次は誰だ？』

神楽坂君は女子生徒Bとのデュエルの後も次々とデュエルをしていた。

side out

side yuri

雪乃と女子生徒Bのあと数々の生徒が神楽坂君に挑んでいくが、悉

く返り討ちにあった。

そして時は流れ夕方。

デュエルを終えた生徒は次々と帰って行った。

今いるのは神楽坂君、雪乃、丸藤亮、明日香、三沢君、私くらいだ。

神楽坂君は結構疲れているが、私が残っていることに気付くと口を開く。

『最後はシンクロ使いの不動遊璃。君だけだ。』

『ええ。……でも貴方そんなにデュエルして体大丈夫？』

『平気さ。このくらい……グツ……』

神楽坂君が片膝をつく。

すぐに私たち全員が近づいた。

容体を見た明日香がすぐに電話を掛ける。

少しすると、鮎川先生がやってきて神楽坂君を保健室に運び容体を調べる。

因みに運んだのは三沢君。

『……これはデュエルのやりすぎね。体の至る所が弱っているわ。こうなると全治1か月は固くて、安静期も含めると2〜3か月は

無理ね。』

『そうですか・・・あと1人。デュエルする相手がいるのに・・・』
神楽坂君は意気消沈してから答える。

『それは誰?』

『・・・私です』

私は正直に名乗り出る

『不動さんね。でも神楽坂君がこの状態じゃ、保険医としてデュエルをさせるわけにはいかないわ。』

『・・・わかっています。』

『不動遊璃。俺が体を治したら最初にデュエルをしよう。それまで待っていてくれ!』

『わかったわ。神楽坂君も早く治してね。』

『ああ・・・』

その後神楽坂君は倒れるように眠りについた。

そして神楽坂君が倒れるところを見た後に私たちは自然と解散した。

side out

後日談

クロノス先生は神楽坂君にきつい罰を与えた上に全治1か月の重傷を与えたことが鮎川先生と校長先生に知られ、減俸など色々な罰を与えられたらしい。

クビにならないのは実技の先生の中でも屈指の実力だからであろう。
・

・
・
T o b e c o n t i n u e d

16話：初代デュエルキングのデッキ！（後書き）

なんか神楽坂が格好良い気がするのはいせいでしょ？

とりあえず長引いたので一旦切ります。

遊璃VS神楽坂は後回しです。

次は学園対抗戦に行きます。

その後遊璃VS神楽坂をやる予定。

お楽しみに！

因みに半分以上は引越す前に書いておいたので昨日の今日で投稿できました。

17話：学園対抗戦 女子の部（前書き）

題名通りオリジナル設定で行きます。

スピリットサモナーのように3人の総当たりだとオリジナル性に欠けるし、十代達の出番減少になり兼ねないので……

それと今回はある人が無双します。

多分Visitors from the futureの十代並みに……

因みにレイは遊璃とは関わらなかったという設定です。

今のところレイの話で出てきた人物のうち深く関わっているのが明日香だけなので省略してもいいかなと……

精霊も今のところ出てないのでプチ劇場も出来ませんしね…（今後出すかは不明）

というわけでレイはスキップになりました。

3 / 3 1 デュエル内容修正

17話：学園対抗戦 女子の部

side yuri

今朝全校集会があつた。

校長先生によると近々他のデュエルアカデミアとの交流試合があるらしい。

私はこの世界に来て暫く経つ為に忘れかけていた未来のデュエル史を思い浮かべた。

その中にこの年のこの時期に臈げだが一つの出来事が載っていたのを思い出した。

確か伝説のデュエリスト遊城十代とその対戦相手……誰だったかの試合が全国で生中継されたが最後の最後で中断になった。

そういう歴史だった気がする。

そうなる未来人の私が出て過去を変えてしまつのは拙いわね……もし指名されたらはっきりと断ろう。

シンクロナ召喚をあまり公表したくないとか言えば多分通るから。

『……不動遊璃君が代表に指名する。』

・・・良ししつかりと断ろう。

すると横にいた雪乃がこっそりと話しかけてきた。

『お姉様おめでとう。 初の女子戦の候補に選ばれるなんて・・・』

候補は断ろうかと・・・って今雪乃なんて言った？

お姉様おめでとう

違う

候補に選ばれるなんて・・・

・・・違う その前

女子戦

女子戦！？

そんな歴史私知らないわよ！？

もしかして私が未来から来たから歴史が変わった？

そうなるとても取り返しのつかないことをしてしまったわ。

どうでしょう・・・

なんとか校長先生にお願いできないかしら。

あ、その前に雪乃は候補生って言ったわよね

いったい私の相手は誰なのだろうか

『・・・雪乃、さっき考え事をしていて聞き逃しちゃったのだけれど、私の対戦相手って誰？（ボン）』

『・・・明日香と私よ。お姉様（ボン）』

へえ〜

明日香と雪乃か・・・

って!!

尚更逃げられないじゃないか。

雪乃の目なんか血走っているし、明日香はこっぴつ時断ったりすると物凄く付きまどってきそうだし・・・

仕方がない。

真面目にやりますか。

こっぴつ私の歴史を変えないように行動をする計画は無に帰した。

・・・

・
・

時は流れ対抗戦代表者決定日

男子の部は丸藤亮先輩かと思つたら、対戦相手の代表が1年生らしくこちらも1年をとということで遊城君と三沢君が選ばれた。

2人は全校生徒の殆どが見ている最中、デュエルフィールドの中で構える

そして2人のデュエルが始まった。

(デュエルは原作通り)

結果から言えば遊城君が勝った。

一時は三沢君の罠で遊城君が大ピンチに陥ったけれども、ドローパーの時に知った異常なドローパー力でそれを補って勝利してしまった。

私としてはあの局面からの逆転劇について見入ってしまった。

すると雪乃が

『お姉様、次は私たちの出番ですよ。』

という言葉で我に返り、急いでデュエルフィールドの方へ行つた。

・
・
・

・
・

校長先生が司会をする

「次は今年から始める対抗試合女子の部の代表を決めたいと思う。代表候補はここ最近の試験やデュエル記録で優秀な女子生徒を3人指名した。3人にはバトルロイヤルルールでデュエルをしてもらう。通常のデュエルとは違う点があるので少し説明をしたいと思います・・・」

校長先生の話をもっと簡略化すると

- ・ 最初の一巡目に攻撃は不可
- ・ 他のプレイヤーをモンスター、魔法、罠で守ることはできない
- ・ 全体に効果を及ぼすカード（例《大嵐》）は3人共受ける。
- ・ 《サイバー・ブレイダー》等の特別な効果を持つモンスターはターンプレイヤーのモンスターの数で効果を変える。また召喚したプレイヤーのターンの場合、召喚時またはドローフーズ時に1人を宣言して効果を得る。
- ・ 3人の中の勝者1名が代表
- ・ 万が一引き分けた場合は引き分ける直前のライフが多かった方が代表
- ・ その数値も同じだった場合、引き分けだった選手で再試合
- ・ 最後に兎に角頑張る

最後の以外はまともね。

というか説明してくれなきゃ拙い事しかないけれど...

最後のは・・・まあ当たり前だし気にしないことにしましょう

『さて一通り説明が終わったところで、クロノス教諭頼みましたよ』

『分かったノーネ。 それではコレヨーリ対抗試合女子の部の代表決定戦を行うノーネ！ まず選手の紹介ナノーネ！ 1人目ー八、オベリスクブルー女王の二つ名を持つシニョーラ明日香ナノーネ！』

クロノス先生の言葉に明日香が入場していく。

『次に、使うカードで数々のワンターンキルやコンボで相手の意気を挫くことから、冷酷の混沌使イーと呼ばれール、シニョーラ雪乃ナノーネ！』

『ちょっと、まだその名前で私を呼ぶの！？』

私は今の立場的に擁護できないけれど観客は誰一人として雪乃に賛同してくれなかった。

まあ、ピンチだとすぐに開闢とかノーレラス引くんだし仕方ないといえは仕方ないけれど・・・

そういう考えているうちに雪乃が明日香と少し離れた位置に立つ

『最後ー八、シンクロ召喚という不思議な戦法を駆使し、勉学もデュエル成績も優秀ーな！ シニョーラ遊璃ナノーネ！』

観客が明日香や雪乃の時とはまた違う声援が観客から送られる

そして私たち3人が壇上に立つとデュエル開始前だというのに多大

な拍手が送られた。

『では先行を決めようと思う。全員1度ずつダイスを振り、その数の最も多い人から時計回りに進めようと思う。異存はないかな?』

『『『はい!』』』

『ではダイスを振ってくれ!』

その言葉の後私たちはダイスを振った

結果は

私：4

明日香：5

雪乃：2

『では天上院明日香君、不動遊璃君、藤原雪乃君の順番でデュエルをしてくれたまえ。』

私たちは等間隔をとってデュエルディスクを構える

『『『デュエル!』』』

遊璃：LP4000

雪乃：LP4000

明日香：LP4000

私たち3人の代表という座を賭けたデュエルが幕を開けた

side out

side kosuke

おお、やってるやってる

たかがカードゲームに没頭しちゃって

学生は可愛いもんだな・・・

さて目的のブツは手に入れたし、予定時間までこのデュエルでも見ていくか

side out

side yuri

『私のターン！ ドロー！ 早速だけど《強欲な壺》を発動！ デッキから2枚ドローする』

明日香がカードを引く

『（遊璃のデッキはまだ未知数の部分が多すぎる。となれば雪乃と早めに結託して遊璃を倒すべきね。雪乃のデッキにこのカードはメリットにしかならないけれども使うしかない。）・・・私はフイールド魔法《祝福の教会 リチュール・チャーチ》を発動。』

《祝福（しゅくふく）の教会（きょうかい）・リチューアル・チャーチ》
アニメオリジナル

フィールド魔法

このカードが存在する限り、手札の魔法カードを1枚捨てて発動する。

自分のデッキから儀式魔法カードを1枚選択して手札に加える。

フィールドが祝福の鐘の鳴る教会に変わる

『このカードがフィールド上にある限り手札の魔法カードを捨てることでデッキから儀式魔法を1枚手札に加えることができるわ！

私は手札の魔法カードを墓地に送り、デッキから《機械天使の儀式》を手札に加え発動。』

《機械天使（きかいてんし）の儀式（ぎしき）》
アニメオリジナル
儀式魔法

「サイバー・エンジェル」と名のついたモンスターの降臨に使用する事ができる。

自分のフィールドまたは手札から儀式召喚するモンスターと同じレベルになるように

モンスターをリリースしなければならない。

今度はフィールドが無機質な白銀の製造工場へと変わる

『手札から《サイバー・プチ・エンジェル》と《サイバー・ジムナテイクス》を生け贄に《サイバー・エンジェル 弁天》を特殊召喚！』

《サイバー・プチ・エンジェル》

効果モンスター

星2 / 光属性 / 天使族 / ATK 300 / DEF 200

このカードが召喚・反転召喚に成功した時、自分のデッキから「機械天使の儀式」を1枚選択して手札に加える事ができる。

《サイバー・ジムナティクス》

効果モンスター

星4 / 地属性 / 戦士族 / ATK 800 / DEF 1800

手札を1枚捨てる。

相手フィールド上に存在する表側攻撃表示モンスター1体を破壊する。

この効果は1ターンに1度しか使用できない。

《サイバー・エンジェル - 弁天 (べんてん) - 》

儀式・効果モンスター

星6 / 光属性 / 天使族 / ATK 1800 / DEF 1600

「機械天使の儀式」により降臨。

このカードが戦闘で相手モンスターを破壊し墓地へ送った時、破壊したモンスターの元々の守備力分のダメージを相手に与える。

明日香の場に両手に鎖で繋がれた鉄扇を持ち緑色の瞳を輝かせる女戦士が降臨した。

《サイバー・エンジェル - 弁天 (べんてん) - 》 : ATK 1800

『そしてカードを2枚伏せてターンエンド』

明日香 : LP 4000

モンスター : 《サイバー・エンジェル - 弁天 - 》 (ATK 1800)

魔法・罫：2枚

手札：0枚

フィールド：《祝福の教会 リチュール・チャーチ》
適用効果：なし

次は私の番ね

『私のターン、ドロー！』

手札は・・・まあまあね。

『（《祝福の教会 リチュール・チャーチ》はこのターン中に破壊しないと雪乃のデッキが・・・でも私の手札に魔法・罫破壊出来る魔法orフィールド魔法がない。仕方ないから防御を固めましょう）モンスターをセット、カードを2枚伏せターンエンド』

遊璃：LP4000

モンスター：1体

魔法・罫：2枚

手札：3枚

フィールド：なし

適用効果：なし

『私のターンね。ドロー。明日香ありがとう お陰で事故から解放されたわ。 私は《祝福の教会 リチュール・チャーチ》の効果を発動。手札の魔法を捨てて、《高等儀式術》を手札に加え、発動！』

雪乃が明日香のフィールドを利用してデッキを回しだす

『デッキから《デュナミス・ヴァルキュリア》と《レッド・サイクロプス》を墓地に送り、《破滅の女神 ルイン》を儀式召喚！』

雪乃の場に影が実態とは違う高貴そうな女性が現れる

《破滅の女神 ルイン》：ATK2300

『そして墓地に存在する《セメタリー・リチュアル》の効果を発動！』

『『墓地から魔法ですって！？』』

私と明日香の声が揃う

《セメタリー・リチュアル》
オリジナル
儀式魔法

ライフを1000ポイント払って発動する。

墓地に存在する通常モンスターを任意の枚数ゲームから除外することとで、除外したモンスターのレベルの合計が等しい儀式モンスター1体を手札から特殊召喚する。（この特殊召喚は儀式召喚扱いとする）

また墓地のこのカードの下にカードが存在しない時に儀式召喚が行われた場合、このカードと使用された儀式魔法を墓地から除外し以下の効果から1つを選択して発動する事が出来る。

除外した儀式魔法と同名以外の儀式魔法1枚をデッキから手札に加える。

デッキからカードを2枚ドローする。

『このカードが墓地に送られたターンの別の儀式召喚を行った場合、その儀式召喚に使用した儀式魔法とこのカードをゲームから除外し

て発動するわ。 私はデッキからカードを2枚ドロ。 . . . ついでいるわ。 今ドロした内の1枚《地獄門の開門》を発動！ 』

《地獄門の開門》

儀式魔法（HIROさん投稿オリジナル）

「ケルベロス」と名の付いた儀式モンスターの降臨に必要な手札・フィールド上からレベル5以上になる用にリリースしなければならぬ

『更なる儀式魔法を . . . 』

『手札の《デーモン・ソルジャー》と《クリボー》を生け贄に《ケルベロス・セカンド》を儀式召喚！ 』

《ケルベロス・セカンド》

儀式・効果モンスター（HIROさん投稿オリジナル）

星5 / 闇属性 / 悪魔族 / ATK2100 / DEF1500

「地獄門の開門」により降臨

このカードがフィールド上にある時相手は魔法カードを発動できないこのカードを手札に戻す事で手札から「ケルベロス」と名の付いた儀式モンスターを特殊召喚できる（この特殊召喚は儀式召喚扱いとなる）

「ケルベロス」と名のつく儀式モンスターはフィールド上に1体までしか存在できない。

雪乃の場に禍々しい瘴気を放つ門が現れその門に供物が捧げられると門が開き、中から緑色の瞳に黒い毛並みをした巨大な犬状のモンスターが出てきた。

《ケルベロス・セカンド》 : ATK2100

『まだよ。カードを1枚伏せて、手札から魔法カード《天命の宝札》を発動！ ライフを500払い、手札が5枚になるようカードを引く。そして相手はカードを1枚ドローする。この場合は……』

『直前のプレイヤーがカードを引くノーネ！』

クロノス先生が即座に答える。

雪乃：LP4000 3500

『直前のプレイヤーは私ね。ドロー。』

『私も5枚ドローよ。……フフフさて更にゾクゾクする饗宴を続けましょう。手札から《強欲な壺》を発動。デッキからカードを2枚ドローするわ。』

これだけやって手札がまだ6枚……

『更に伏せておいた儀式魔法《終末の光臨》を発動。手札の《終焉の王デミス》を生け贄に《終末の天使 ミカエル》を儀式召喚。』

雪乃の場に大きな扉のある神殿が現れ、そこに設置されている魔方陣に《終焉の王デミス》が入る。

すると《終焉の王デミス》が足元から消え、消えることに神殿の扉が開く。

やがて《終焉の王デミス》が完全に消えると扉の中から片方が黒、もう片方が白の一对の翼を持ち女性が現れる。

《終末の光臨》

儀式魔法（ユタさん投稿オリジナル）

このカードは「終末の天使 ミカエル」の光臨に必要な手札または場からレベルが8になるように生け贄に捧げなければならない

《終末の天使 ミカエル》

儀式・効果モンスター（ユタさん投稿オリジナル）

星8 / 光 / 天使族 / ATK2800 / DEF2500

このカードは「終末の光臨」の効果でのみ特殊召喚することができる。

1ターンに1度、手札の光属性または闇属性モンスターを1体墓地に送る事で、送った属性で以下の効果が発動する。

光属性：相手フィールド場の表側表示のカードを二枚まで破壊する
闇属性：相手フィールド上の裏側表示のカードを二枚まで破壊する

《終末の天使 ミカエル》：ATK2800

『1ターンで3度の儀式召喚を・・・』

明日香が物凄く驚いている

『まだよ。まだ私の饗宴は始まったばかり。《終末の天使 ミカエル》の効果を発動。手札の《カオス・ソーサラー》を墓地に送り明日香の伏せカードを2枚破壊！』

《終末の天使 ミカエル》が闇のエネルギーを発射すると、明日香の伏せカードが焼かれる。

『クツ・・・《ドゥーブルパッセ》、《聖なるバリア ミラーフォース》が・・・』

『そしてフィールド魔法《祝福の教会 リチュアル・チャーチ》の効果を発動。手札の魔法カードを捨てて、デッキから儀式魔法《天魔王の演説》を手札に加えるわ。』

《天魔王の演説》

儀式魔法（ガイウス様さん投稿オリカ）

「天魔王 ジャミラ」の降臨に必要。

手札・自分フィールド上から、レベルの合計が10になるようにモンスターをリリースしなければならない。

また「天魔王 ジャミラ」が儀式召喚に成功した時、墓地に存在するこのカードをゲームから除外する事で相手フィールド上に存在するモンスター1体を選択する。

選択したカードのコントロールを得る。

『クツ（私の戦術が完全に利用されている）』

『私は《マンジュ・ゴッド》を召喚し、効果を発動。デッキから《天魔王 ジャミラ》を手札に加える。』

雪乃の場に紺色のような手を無数に持つように見えるモンスターが現れる。

《マンジュ・ゴッド》：ATK1400

《天魔王 ジャミラ》

儀式・効果モンスター

星10 / 闇属性 / 悪魔族 / ATK2900 / DEF2000

「天魔王の演説」により降臨。

このカードが自分フィールド上に存在する限り、自分フィールド上

に存在する全てのモンスターの攻撃力が500ポイントアップする。このカードが破壊される時、代わりに自分フィールド上のモンスターを破壊する事が出来る

『フフフ、いくわよ！ 手札に加えた《天魔王の演説》を発動。場の《マンジュ・ゴッド》と手札の《天魔神 インヴェシル》を生け贄に《天魔王 ジャミラ》を儀式召喚！』

《天魔神 てんましん インヴェシル》

効果モンスター

星6 / 地属性 / 天使族 / ATK 2200 / DEF 1600

このカードは特殊召喚できない。

生け贄召喚時の生け贄によって以下の効果を得る。

光属性・天使族：このカードがフィールド上に

表側表示で存在する限り、魔法カードの効果を無効にする。

闇属性・悪魔族：このカードがフィールド上に

表側表示で存在する限り、罠カードの効果を無効にする。

雪乃の場に闇の風が吹き荒れ、それが晴れると中から二足歩行のグリフォンのような禍々しいモンスターが現れる。

《天魔王 ジャミラ》：ATK 2900

『4体目の儀式モンスター……でもこれで雪乃は手札を使い切った。バトルロイヤルルールでこのターンは攻撃できない。さあターンを終了しなさい。』

明日香が若干せかす。

『フフフ……まだよ。墓地の儀式魔法《天魔王の演説》の効果

を発動！』

『『何っ！？』』

『《天魔王ジャミラ》の儀式召喚に成功したときこのカードをゲームから除外することで相手モンスターのコントロールを得る！私は明日香の《サイバー・エンジェル 弁天》をもらっわ！』

『なっ！？』

明日香の《サイバー・エンジェル 弁天》に《天魔王ジャミラ》が闇の息吹をぶつける。

すると《サイバー・エンジェル 弁天》の瞳が赤に変わり、衣装も薄暗くなる。

やがて息吹が止むと同時に《サイバー・エンジェル 弁天》は雪乃の場に移動した。

『私のモンスターが・・・』

『最後に《天魔王ジャミラ》のモンスター効果を発動。自分の場のモンスターの攻撃力を500ポイントアップする。』

《天魔王ジャミラ》の纏う瘴気が雪乃の他のモンスターに伝染し、狂暴化させる。

《破滅の女神ルイン》：ATK2300 2800

《ケルベロス・セカンド》：ATK2100 2600

《終末の天使 ミカエル》：ATK2800 3300

《サイバー・エンジェル 弁天》：ATK1800 2300

《天魔王ジャミラ》：ATK2900 3400

『フフツ ターンエンド。』

雪乃：LP3500

モンスター：《破滅の女神ルイン》（A2800）、《ケルベロス・

セカンド》（A2600）、《終末の天使 ミカエル》（A330

0）、《サイバー・エンジェル 弁天》（A2300）、《天魔

王ジャミラ》（A3400）

魔法・畏：なし

手札：0枚

フィールド：なし

適用効果：相手プレイヤーの魔法は発動できない

自分の場のモンスターの攻撃力は500ポイントアップ
する

・・・ちょ、ちょっと待ってって！

コントロールを奪ったにしろ儀式モンスターを5体！？

明日香のフィールドのせいねこれは・・・

そこに観客席から

『れ、冷酷の混沌使って名は本当だったな』

『ああ。やばすぎだ』

『すっげえ、すっげえ！ 不動ともデュエルしたいけれど藤原とも俺はデュエルしてみたいぜ！』

『流石の不動さんでもこれは駄目だろう』

『代表は藤原雪乃かな？』

等と色々な声が聞こえている。

『・・・クツ 私のターン。 ドロー。』

明日香がターンを進める

『（やった！ドローカードを引いたわ。これで何とか巻き返す）私
は手札から《天使の施し》を発動』

だがいつになってもフィールドにカードが現れない。

『・・・どうして？』

『《ケルベロス・セカンド》のモンスター効果を発動。相手は魔法
カードを発動できない』

『『なっ！？』』

この状況ですら絶望的なのにロックもかかっているなんて・・・

『クツ・・・ターンエンド。』

明日香：LP4000

モンスター：なし

魔法・罫：なし

手札：1枚

フィールド：《祝福の教会 リチュール・チャーチ》

適用効果：自分は魔法カードを発動できない

『わ、私のターン、ドロー！』

（魔法カードが使えない以上うまく動けない・・・）

『モンスターをセット。ターンエンド』

遊璃：LP4000

モンスター：2体

魔法・罫：2枚

手札：4枚

フィールド：なし

適用効果：自分は魔法カードを発動できない

『私のターン、ドロー！・・・バトル！《サイバー・エンジェル
弃天》と《ケルベロス・セカンド》で明日香に直接攻撃！』

《サイバー・エンジェル 弃天》の鉄扇と《ケルベロス・セカン
ド》の体当たりが炸裂する

『きゃあああああああ』

明日香：LP4000 17000

『ライフが0になったシニョーラ明日香は退場し、シニョーラ明日香のカードもこのターンのエンドフェイズにフィールドから消えるノーネ!』

『・・・負けたわ。どちらが代表になるか分からないけれど頑張っ
つてね。』

そういつと明日香はフィールドから去って行った。

『遊璃。状況は違うけれど、再びあの夜の続きね。』

『・・・そうですね』

『あの夜ってなんだろう!?!』

『もしかして2人ってキヤー!?!』

観客がなんか騒ぎ出したけれど、この状況にしないようにしなければ…

side out

side kosuke

なんなんだ!?!

あの女子。1ターンで4度も儀式召喚しやがった。

幾らなんでもあり得ないだろ

ってなんで俺も熱くなっているんだ?

デュエルなんて所詮子供のお遊びだろ！

『ねえ貴方ここで何をしているの？』

そして色々と考えていたらいきなり話しかけられた。

side out

side asuka

雪乃、面と向かってデュエルするのは初めてだけれど、強いわね。

けれど、遊璃はそれを凌ぐわ。きっとね。

あれ？ 入口に昨日見かけた男がいるわ。

何をしているのかしら？

『ねえ貴方ここで何をしているの？』

聞いたら男は驚いた仕種をし、話し出した。

『俺は国崎。依頼でデュエルアカデミアの廃寮について調べている』

『！！ だから昨日廃寮にいたのね？』

『あ、やべ。驚いたからうっかりしゃべっちゃまった（ボソ）（この際だから白を切るか） まあ、知りたいことはもう手に入れたし、あとは帰りの船を待つだけだな。で、ここを通りかかったらデュ

エルをしていたからな。　少し覗いてみたわけだ。』

『何ですって!?!』

そんなデータがばら撒かれたらきつとアカデミアは終わりよ!

でも彼も少しはデュエルに興味があるみたいね

ならば・・・

『ねえ、1つ賭けをしない?』

side out

side yuri

さて雪乃と一騎打ちになったわけだけれど雪乃の場のモンスターは4体で魔法を封じてきている

そして私は2体で伏せカードも2枚

状況は不利ね。

でもまだ諦めないわ。

『行くわよ　遊璃。　《破滅の女神ルイン》でモンスターを攻撃!

食らいなさい!　灼熱の 대기!』

《破滅の女神ルイン》の炎の魔法は私の場の白色の円柱のような形のモンスターに直撃する

『クツ・・・《ドラグニティ パイルバンカー》・・・』

《ドラグニティ・パイルバンカー》

チューナー・効果モンスター（にきにきさん投稿オリジナル）

星2/風属性/ドラゴン族/ATK900/DEF500

このカードを装備したモンスターの攻撃力は200アップする。

手札のカード1枚を墓地に送ることにこのカードを装備しているモンスターの攻撃力は300アップする。

『フッフ、《破滅の女神ルイン》の効果は忘れてはいないわよね？
モンスターを戦闘で破壊したのもう1度攻撃できるわ！ 行け
！ 酷寒の大地！』

《破滅の女神ルイン》の凍結魔法が再び私のモンスターを襲う

が、しかし私の場の緑色の羽を持つ翼竜はしっかりと耐えていた

《シールド・ウィング》：DEF900

『《シールド・ウィング》は1ターンに2度、戦闘では破壊されな
い！』

『ならば《終末の天使ミカエル》で攻撃！』

『《シールド・ウィング》の効果を発動！ 戦闘では破壊されませ
ん』

『でもこれでこのターンの《シールド・ウィング》の効果は使い切

った。 《天魔王ジャミラ》！ 《シールド・ウイング》を攻撃！

『畏発動！ 《ゴッドバード・アタック》！ 《シールド・ウイング》をリリースし、《ケルベロス・セカンド》と《天魔王ジャミラ》を破壊！』

『何！？・・・でも《天魔王 ジャミラ》の効果を発動。 このカードが破壊される時、代わりに自分のモンスターを破壊できる。 私は明日香の《サイバー・エンジェル - 弁天 -》を破壊するわ』

『えっ！？』

以前海馬社長とデュエルした時と同じように、《シールドウイング》が不死鳥のように燃え上がり、《ケルベロス・セカンド》を焼き切った。 しかし《天魔王ジャミラ》を焼き切ろうとした瞬間、《天魔王ジャミラ》は《サイバー・エンジェル - 弁天 -》の頭を掴み、身代わりとした。

『フフ、《天魔王ジャミラ》には傷一つないわ。』

『でもこれで《ケルベロス・セカンド》が破壊されたので魔法カードが使えるようになる。』

『でも、《天魔王ジャミラ》は遊璃の場のモンスターが変化したのでまだ攻撃できる。 《天魔王ジャミラ》で直接攻撃！』

《天魔王ジャミラ》が私に向けて濃厚な瘴気の塊をぶつけてくる。

『ウウ・・・』

遊璃：LP4000 600

『私はカードを1枚伏せて、ターンエンド。』

雪乃：LP3500

モンスター：《破滅の女神ルイン》（A2800）、《終末の天使

ミカエル》（A3300）、（天魔王ジャミラ）（A3400）

魔法・罫：1枚

手札：0枚

フィールド：なし

適用効果：自分の場のモンスターの攻撃力は500ポイントアップする。

雪乃のターン終了と同時に明日香の残した《祝福の教会 リチュール・チャーチ》が消え去った。

でも、雪乃の場は《天魔王ジャミラ》に頼った形ね。ならばなんとか突破できそう

『私のターン！ ドロー！・・・私は《ドラグニティ アクキュリス》を召喚！ その効果で手札から《ドラグニティ ミリトゥム》を特殊召喚する！』

私の場におなじみの赤い龍と鳥人の女戦士が現れる

《ドラグニティ ミリトゥム》：ATK1700

『そして《ドラグニティ ミリトゥム》の効果を発動し、《ドラグニティ アクキュリス》を特殊召喚。』

《ドラグニティ ミリトゥム》の横に赤色の龍が飛び出る

《ドラグニティ アクユリス》：ATK1000

『・・・来るわね。』

『レベル4《ドラグニティ ミリトゥム》にレベル2《ドラグニティ アクユリス》をチューニング!!』

《ドラグニティ アクユリス》が2つの輪となり、その中を《ドラグニティ ミリトゥム》が通り抜ける。

+ || x 6

『秘境の竜騎士が死に嘆く時、天から新たに雷槍を授かる。戦場を鎮める風となれっ! シンクロ召喚! 殲滅せよ! 《ドラグニティナイト ヴァジュランダ》!!』

シンクロ召喚の光が晴れると、私の場には真澄色の龍に跨る同じく真澄色の鎧を纏った騎士がいた。

《ドラグニティナイト ヴァジュランダ》：ATK1900

『《ドラグニティナイト ヴァジュランダ》の効果で墓地から《ドラグニティ アクユリス》を装備! そして手札から《調和の宝札》を発動! 手札の《ドラグニティ ファランクス》を墓地に送り、カードを2枚ドロ! そして《ドラグニティナイト ヴァジュランダ》の効果で発動。装備された《ドラグニティ アクユリス》を墓地に送り攻撃力を倍にする!』

《ドラグニティナイト ヴァジュランダ》 : ATK1900 3800

『そして《ドラグニティ アキュリス》の効果を発動し、伏せカードを破壊！』

『なっ！（次のターンに備えた《王宮のお触れ》が・・・）』

《王宮のお触れ》

永続罫

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、このカード以外のフィールド上の罫カードの効果は無効にする。さて、次はどうするか、そう考えていたら雪乃が話しかけてきた

『遊璃残念でした。私のカードは攻撃反応系のカードじゃないわ。貴重な破壊効果を不意にしたわね』

『・・・』

『そして遊璃の場の《ドラグニティナイト ヴァジュランダ》で私の場のモンスターは破壊できるけれど、《終末の天使ミカエル》を倒せば、次の私のターンに《破滅の女神ルイン》の攻撃が、《破滅の女神ルイン》を倒せば、光属性を次に引いたらただけれど《終末の天使ミカエル》の効果が決まる。《天魔王ジャミラ》が残っていれば、私のモンスターの攻撃力は500上がり続ける。どうするつもり？』

『こうします。伏せていた《ミラクルシンクロフュージョン》を発動！墓地の《ドラグニティ パイルバンガー》と場の《ドラグニティナイト ヴァジュランダ》をゲームから除外して融合！《

ドラグニティパラディン エクスカリバー》を融合召喚!!」

「攻撃力3800を捨てた!?!」

「《ドラグニティパラディン エクスカリバー》ってそんなにも強いのか!?!」

観客が喚き立つけれど今はデュエルに集中する。

私の場に渦が現れ、その中に2体の龍が吸い込まれていく。

やがて渦の中から緑の鎧を身に纏い、背には緑のマントを付け、薄い緑の盾と細長い槍を持つ騎士とその騎士の乗る黄緑色の竜が出現した。

《ドラグニティパラディン エクスカリバー》：ATK3000

「そう。あの夜もそのカードだったわね。」

「そうですね。では遠慮なく《ドラグニティパラディン エクスカリバー》の効果を発動。墓地の《ドラグニティ アクユリス》、《ドラグニティ フアランクス》を装備!」

「攻撃力はまだ3000。ルインしか破壊できないわよ?」

「私は更に《竜操術》を発動し、手札から《ドラグニティ ムラサメ》を装備します。」

「でも効果は無効になるのよね?」

『そうですね。でも《竜操術》の効果で攻撃力は500アップしますけど・・・そして《ドラグニティパラディン エクスカリバー》は装備したモンスターの数だけ通常とは別に攻撃できますけれど・・・』

《ドラグニティパラディン エクスカリバー》：ATK3000
3500

『・・・バトル！ 《ドラグニティパラディン エクスカリバー》で《天魔王ジャミラ》に攻撃！セイント・スピア聖なる槍撃！』

『何故、そつちを？』

『雪乃が《天魔王ジャミラ》を召喚してからの様子が可笑しかったので・・・』

『そう。でも《天魔王ジャミラ》の効果を発動し、《破滅の女神ルイン》を盾にするわ。』

《ドラグニティパラディン エクスカリバー》に向けて《天魔王ジャミラ》は強力な攻撃を次々と放つが、悉く躲す、または盾に防がれた。

そして目前まで迫ってきた《ドラグニティパラディン エクスカリバー》の攻撃を避けきれないと悟ったのか《破滅の女神ルイン》の頭を掴み自身の胸の前に持ってきた。

案の定《破滅の女神ルイン》を《ドラグニティパラディン エクスカリバー》の槍は貫き、《破滅の女神ルイン》を屠った。

雪乃：LP3500 3400

『・・・2回目の攻撃！ 《天魔王ジャミラ》を攻撃！ 聖なる槍撃2！』

『《天魔王ジャミラ》の効果を使用し、《終末の天使ミカエル》を代わりに破壊！』

再び《天魔王ジャミラ》に《ドラグニティパラディン エクスカリバー》は攻撃を行う。

それを《天魔王ジャミラ》はそれを空中に逃げて避けようとする。しかし、《ドラグニティパラディン エクスカリバー》はすぐさま体制を整えると、《天魔王ジャミラ》よりも早く飛び、《天魔王ジャミラ》の上をとった。

2度目はと槍を突き立てようとするが、寸でのところで《天魔王ジャミラ》は魔法を使い、《終末の天使ミカエル》と入れ替わる。

《ドラグニティパラディン エクスカリバー》の槍はそのまま《終末の天使ミカエル》を貫いた。

雪乃：LP3400 3300

『これで《天魔王ジャミラ》が盾にするモンスターはいなくなりました。《ドラグニティパラディン エクスカリバー》で《天魔王ジャミラ》に攻撃！ 聖なる槍撃3！』

《ドラグニティパラディン エクスカリバー》は三度《天魔王ジャミラ》を屠ろうと動き出す。

《天魔王ジャミラ》は周りを見渡したが、そこに盾になるようなモンスターはいない。

そうしているうちに間合いに入った、《ドラグニティパラディン エクスカリバー》は一突きで《天魔王ジャミラ》を屠った。

『クツ!!……………ハッ』

雪乃：LP3300 3200

そして私が最後の攻撃をしようとしていると、雪乃が話しかけてきた。

『…………遊璃。ありがとう。どうやら私は《天魔王ジャミラ》に意識を乗っ取られていたみたいね。遊璃が破壊してくれた瞬間、意識が戻ったわ。』

『やっぱり。それで雪乃。体は大丈夫なの。』

『…………え、ええ。さあ最後の攻撃をして。』

『…………うん。《ドラグニティパラディン エクスカリバー》で雪乃に直接攻撃！ 聖なる槍撃4オ!』

…………《ドラグニティパラディン エクスカリバー》が入学式の夜に雪乃とデュエルした時と同じように雪乃に止めを刺す。

『…………かつはあ…………』

雪乃：LP3200 0

遊璃：WIN

『勝者！ シニョーラ遊璃ナノーネ!』

…………

・
・
・

『おめでとう。遊璃。あれだけ有利なら勝てるかと思ったけれど流石”お姉様”ね。敵わなかったわ。』

最後に爆弾を投下しないでよ

『えっ・・・!?!?』

『お姉様って・・・』

『やっぱりあの2人って・・・』

『不動の方がお姉様っていうんだから責めか?』

――――

――

『だから違います。私たちは決してそういう関係では……』
最近遊戯王GX 百合キング、綾風理奈が吹かせる王者の鼓動の世
界に行ったときに少し百合について知った。

『もういいじゃない。この際暴露しちゃいましょうよ』

『雪乃は少し黙っていて!』

『は、はい』

『まあまあ、その話はおいておいて』

校長先生が出てきた

『では本校の女子代表は不動遊璃さんお願いしますね。』

『はい。精一杯頑張りたいと思います。』

その後、校長先生が説得に参加してくれたので事態は一応収まった。そして遊璃は代表を避けるために負けるつもりだった事をその後になって思い出すのだった。

side out

side asuka

『フッフ　賭けは私の勝ちね。』

『莫迦な。あの状況で逆転なんてできるわけないだろう。』

『でも貴方が見たのはあれが現実よ！　さあ約束通り、データは返して下さい。』

『……だが断る！』

『えっ？　話が違っ』

『……でも、公表するのは止めるよ。彼女らのデュエルを見て俺が昔忘れちゃったデュエルへの情熱を思い出した。』

『そう。』

『データについては俺なりの方法で調べる。何かわかったら連絡するぜ!』

そして国崎さんは私の前から去った。

side out

・
・
・
・
・
・
・
・

その夜

side yukino

クツ・・・はあはあ。

お姉様の前では強がったけれどももう限界みたい。

私の体もだんだん言うことを聞かなくなってきたし、意識も朦朧としてきた。

ごめんなさい。

お姉様。

雪乃はこれから……

ククククク

ようやくこの体を手に入れた。

あとは闇のアイテムさえあれば・・・

フフフフフ。

ハ！ハッハッハッハ！

s i d e o u t

翌日

side Yuri

『えっ！？ それって本当？』

『本当よ！ 雪乃がいなくなっただって。』

明日香が朝一番に私の部屋に訪ねてきた。

そして開口一番に雪乃失踪の旨を伝えてきたのだ

『根拠みたいなものはあるの？』

『昨日の夜、ジュンコがよく眠れなかったらしくて、ベランダに出たらしいのよ。 したら、雪乃がフラフラして女子寮を抜け出したのを見て私に電話してきたわ。 それで私とジュンコがあとを付けていったら、廃寮の前で……文字通り消えたわ。』

『そう。……ってこうしている場合じゃない。 雪乃を探さなきゃ。』

『何処を？ 私たちは昨日雪乃を見失った後廃寮の周りと女子寮を調べたのよ！ 灯台にいる亮にも連絡して亮にも探してもらった。でもどこにもいなかったの。』

『……そんな。 雪乃……』

私はこの後しばらくの間部屋に閉じこもって泣き続けた。

・ ・ ・ T o b e c o n t i n u e d

17話：学園対抗戦 女子の部（後書き）

まず《天魔王ジャミラ》を投稿して下さったガイウス様さん申し訳ありませんでした。

曰くつきとのことだったので色々とやらかしてしまいました。

お詫びになるかわかりませんが、《天魔王ジャミラ》を少しだけ本編に影響を及ぼす存在にします。

因みに本来この役目は《天神ノーレラス》の予定でした。

一応本来の予定も必要なので《天神ノーレラス》と《天魔王ジャミラ》によって体に乗っ取られたということにします

そして葦切さんと言羽・D・カラストロフィーさん、勝手に作品名を出してしまって申し訳ありませんでした。

次回はコラボか対抗戦にします。

番外編・コラボ・ 遊戯王GX 百合キング、綾風理奈が吹かせる王者の鼓動。

言羽・D・カタストロフィーさんお待たせいたしました。

これほど展開に悩んだのは初めてかもしれません。

前回のコラボよりも難産でした。

前書きはこの辺にして本編をどうぞ！

side yuri

雪乃が疾走してから私は部屋に籠りきりになっていた。

時々明日香や鮎川先生が来てくれるが、私は誰一人として部屋に入れることはしなかった。

それだけ雪乃がいなくなった時の悲しみは大きかった。

そしてどれくらい泣いたか分からなくなった頃、私は少し前に雪乃とともにデュエルした時の夢を見た。

・
・
・
・

『はい！ またデュエルしてくださいね！ 理奈さん！』

私は2時間ほど前にデュエルをしてくれた理奈さんに別れを告げた

デュエルが気になる方は

<http://ncode.syosetu.com/n2617>

で見てから来てください。

というか見た方が早いです。

『ああ、また会おう！ 遊璃ちゃん！ クリス、遊璃ちゃんを送ってやれ！』

理奈さんが近くに來た神に言う。

『はいはいっと。』

クリスさんが何かを念じるとゲートのようなものが開いた。

『・・・ではさようなら。』

そう言い残し私はゲートに潜った。

・
・
・
・

しかし、私の前に現れたのは理奈さんとクリスさんだった。

『あれ？ 遊璃ちゃんどうして戻ってきたんだ？』

『私は潜っただけなんですけれど。なぜか戻ってきちゃいました。』

『クリスマス！』

『・・・失敗しちゃった テヘ！』

『・・・やっぱりお前駄目神だな。』

『ひ、酷い・・・』

するとそこに

『うわあああああ』

聞きなれた声が出て

人がクリスマスさんの上に落っこちた。

落っこちてきたのはなんと

雪乃だった。

しかも落ちてきたうえにぶつかった衝撃で気を失っていた

・・・

・
・
・

暫くしてデーモンズ・レッド寮の一室で目を覚ました雪乃に事情を聴くと

『遊璃が落とし穴に落ちてから、周辺を搜索していたら私の足元にも落とし穴が出来て、落ちてきたの。』

雪乃が事情を簡略化して説明してくれる

『つまりは、クリスが遊璃ちゃんを送ろうとした時にまた異次元の落とし穴を出現させてしまって雪乃を落とししてしまった訳だ。』

理奈さんが私達も納得のできるように説明を加えてくれる。

『では今度は2人纏めて送ってくれば万事解決ですね。』

私が言うと理奈さんは困った顔をして、

『実はクリスがまだ目を覚まさないんだ・・・』

と衝撃の事実を口にした。

『つまりは私たちが帰るにはクリスさんが目を覚ますまで待たなければいけないのですね。』

『そのようだ。 さてそれまでどのように過ごそうか・・・』

理奈さんが考え出したその時、

バン！！

『理奈ちゃん』

高めの身長に肩までかかる青い長髪に鬼柳おじさんのよく着ている
コートを羽織った女性と

『ちよつと京和さん、ノックもせずに入るなんて失礼ですよ』

黒髪にコート着ているが、その下に和服が見え隠れしている女性が入ってきた

・
・
・
・

見つかってしまったのは仕方ないので2人に私と理奈さんで事情を説明した。

因みに入ってきた二人は

理奈さんのお姉さんの綾風京和さんと

その嫁の榊原美希先生。

私がどうして嫁？ と聞くと理奈さんは

遊璃ちゃんはまだ知る必要はないと一蹴された。

雪乃は何故か頷いていて私を見つめていたが…

話を戻すけれど、理奈さんと私の説明を聞き終えた2人は

『あの残念神め。ついに遊りん達にまで迷惑を・・・』

京和さんは手を握り締め、クリスさんがいたら文字通り殴りかかり
そんな勢いで、

『クリスちゃん流石に酷すぎしゅ〜・・・（以下色々）』

美希先生は見た目に似合わず毒舌でクリスさんを罵っていた。

『で、私達これからどうします？』

話が終わり皆が落ち着いてきたところを見計らって雪乃が聞く。

『『『……………』』』

私と京和さんと美希さんが何も思いつかず考え込んでいると

『そつだ！』

理奈さんが何かを思いついたように声を上げた。

『どうしたんだ？ 理奈ちゃん？』

京和さんが聞くと

『クククク。我ながらいい考えが浮かんだ。京姉と美希先生。遊璃ちゃんと雪乃とデュエルすればいいじゃないか！』

理奈さんが自信満々に宣言すると

『い、いきなり何を！』

雪乃が言う

『こっちの小説で京姉達暫くデュエルしてないから弛んでいるから・・・』

『ちよっ！ こんなところでメタ発言するな！』

『だって事実だし・・・』

京和さんが抗議すると、理奈さんがすぐさま反論する。

『それは・・・まあそうだけど。』

京和さんは結局理奈さんのペースに呑み込まれた。

その後私たちは美希先生と混乱したまま、結果として2人とデュエ

ルをすることに決まった。

・
・
・
・
・

その後、私たちはデーモンズ・レッド寮のエントランスに来た。

どうやらそこでデュエルをするらしい。

『ルールはタッグフォースルール。 ライフは8000だ。』

理奈さんがタッグフォースルールと決めたのだが、私はその意味を理解する事が出来なかったので理奈さんに問う

すると理奈さんは丁寧に説明してくれた

雪乃が

『理奈ちゃんはどうしてもそんなに詳しく説明してくれるの?』

と聞くと

『キングは常に可愛い女の子の味方だ』

と答えた。

ルール説明を聞いた後、私達4人は距離をあけてデュエルディスクを構える。

そしてデュエルが

幕を開けなかった

何故かというと

『ああ、ちょっと待った。』

理奈さんがストップをかけ私と雪乃チームに近づいてきて、雪乃に話しかけた。

s i d e o u t

side yukino

いきなり理奈ちゃんはストップをかけたけれどなんなの？

そう思っていると言奈ちゃんは私に近づき一枚のカードを渡してこ
ういった。

『雪乃は天魔神使いだと聞いてな。これを渡そうと思った。』

そうして私に渡したカードは白い枠のカードだった。

『これって？』

『私のラブリーマイエンジェルあやせたんが使っていたカードを綾
風一族の力でシンクロ化したカードだ。雪乃ならきっと、いや絶
対使ってクレルヨネ・・・』

『わ、分かったわ。なんとか使ってみる。』

あんな顔でお願いされちゃ断れないわよ・・・

さて理奈ちゃんが元の位置に戻ったところで始めますか。

side out

no side

理奈『勝手に中断して悪かったが、始めてくれ』

遊璃＆雪乃＆京和＆美希『ええ×2（おう！）ふはいでしゅー！』

京和『さあ、満足させてくれよ！』

4人『『『『デュエル！！』』』』

遊璃＆雪乃：LP8000 / 京和＆美希LP8000

美希『あ、でも順番どうするんでしゅか？』

3人『あ・・・』

理奈『うーん（京姉だといきなりハンドレスになりそうだし、美希先生は論外。雪乃は無双するから駄目だから・・・って1人しかないや。）遊璃ちゃん、京姉、雪乃、美希先生の順だ。なお異論は認めない。キングの命令だ！』

遊璃＆美希『は、はい！』

雪乃『分かったわ！』

京和『了解』

遊璃『では私から。私のターン。ドロー！・・・魔法カード《愚かな埋葬》を発動！デッキから《ドラグニティ ベビーバード》を墓地へ！』

《ドラグニティ ベビーバード》

効果モンスター（ネイビーさん投稿オリジナル）

星1 / 風属性 / 鳥獣族 / ATK600 / DEF 0

自分フィールド上のモンスターに「ドラグニティ」と名のついたチューナーモンスターが装備されたとき、墓地に存在するこのモンスターを特殊召喚することができる。

京和『ふくん。遊りんは”ドラグニティ”か。満足できそうだぜ。』

遊璃『（ウツ！！何か悪寒が・・・）続けます。更に《調和の宝札》を発動！手札の《ドラグニティ ファランクス》を墓地に送って2枚ドロー！』

遊璃は次々と魔法カードを使い自分のペースに持ち込んでいく。

遊璃『そして《ドラグニティ ドウクス》を召喚。その効果で《ドラグニティ ファランクス》を装備。この瞬間墓地の《ドラグニティ ベビーバード》の効果を発動。』

遊璃の場に白の服に指揮棒を持った鳥人が現れる

《ドラグニティ ドウクス》：ATK1500 1900

美希『装備したときに墓地からでしゅか』 となると差し詰め特殊召喚効果ですかね』

遊璃『美希先生大当たりです。私は墓地の《ドラグニティ ベビーバード》を守備表示で特殊召喚』

《ドラグニティ ファランクス》が《ドラグニティ ドウクス》の後ろに現れると同時に遊璃の墓地が光り、墓地から卵から顔を出している鳥の雛が現れる。

現れると同時に《ドラグニティ ドウクス》は雛の力を身に宿す。

《ドラグニティ ベビーバード》：DEF0

《ドラグニティ ドウクス》：ATK1900 2100

京和『へへやるじゃねえか。』

理奈『その上、合計レベルが7。遊璃ちゃんは俺とのデュエルで出さなかったカードを出すつもりだな？（ボン）』

遊璃『《ドラグニティ ファランクス》を自身の効果で特殊召喚します』

遊璃の場に新たに金色の鎧を纏う青い龍が現れる

《ドラグニティ ファランクス》：DEF1100

京和『ほう。1ターンで3体のモンスターを並べるか。』

遊璃『行きます。レベル1《ドラグニティ ベビーバード》とレベル4《ドラグニティ ドウクス》にレベル2の《ドラグニティ ファランクス》をチューニング。』

卵から飛び出した雛と《ドラグニティ ドウクス》が2つの輪となつた《ドラグニティ ファランクス》の中を通り抜ける。

+ + || x 7

『秘境の竜騎士が三又の槍を振るい、策を為す。戦場を鎮める風と

なれ！ シンクロ召喚！ 鎮圧せよ！ 《ドラグニティナイト トライデント》！！」

《ドラグニティナイト・トライデント》

シンクロ・効果モンスター

星7/風属性/ドラゴン族/ATK2400/DEF1700

ドラゴン族チューナー+チューナー以外の鳥獣族モンスター1体以上自分フィールド上に存在するカードを3枚まで墓地へ送って発動する。

相手のエクストラデッキを確認し、この効果を発動するために墓地へ送った枚数と同じ数だけカードを選択して墓地へ送る。

この効果は1ターンに1度しか使用できない。

遊璃の場に三又の角のような物を顔に持ち蝙蝠のような羽を持つ青い龍に青い翼の《ドラグニティ プリムス・ピルス》が乗っているような竜騎士が現れた。

《ドラグニティナイト トライデント》：ATK2400

京和「よりもよってそいつか・・・」

雪乃「お姉・・・いや遊璃、そのモンスターどんな効果を持っているの？」

遊璃「見ていればわかりますよ。カードを3枚伏せて、《ドラグニティナイト トライデント》のモンスター効果を発動。今伏せたカード3枚を墓地に送り、相手のエクストラデッキを確認し、3枚のカードを墓地に送ります。タッグフォースルールの為、効果を受けるのは美希先生です。」

美希『あわわ〜 私でしゅか〜』

美希は沈んだ感じでエクストラデッキを遊璃に提示する

エクストラデッキ

《真六武衆―シエン》×2

《A・O・Jカタストル》

《TGIハイパーライブラリアン》

《氷結界の龍ブリューナク》

《大地の騎士ガイアナイト》

《六武衆の反逆者―ヒナタ》

《ブラック・ローズ・ドラゴン》

《ライトニング・ウォリアー》

《不退の荒武者》

《スクラップ・ドラゴン》

《ギガンテック・ファイター》

《紫炎の後継者―ヒヨシ》

《紫炎の後継者―カヤス》

《氷結界の龍トリシユール》

(効果掲載は出たものだけ後で)

遊璃『(ママの《ブラック・ローズ・ドラゴン》だけならまだしも
”六武衆”か。となれば・・・) 《ブラック・ローズ・ドラゴ
ン》と《真六武衆 シエン》2枚を墓地に送ってください。』

美希『やっぱりそうですよね。 シュン・・・』

遊璃『・・・なんかごめんなさい。 私は最後の手札、《天命
の宝札》を発動。 ライフを500払って手札を5枚になるように
ドロウします。 美希先生も1枚ドロウしてください。』

美希『はいです』

遊璃&雪乃：LP8000 7500

遊璃『カードを2枚セットし、ターン終了。』

遊璃&雪乃：LP7500

モンスター：《ドラグニティナイト トライデント》(A2400)

魔法・罫：2枚

手札：3枚

フィールド：なし

適用効果：なし

美希『・・・』

京和『そう落ち込むなよ。美希。私がついてる。』

美希『京和しゃん。』

京和『・・・いくぜ。私のターンだ。満足させてくれよ!! 手札から魔法カード、《天使の施し》を発動。3枚引き、2枚を捨てるぜ!』

遊璃『どうぞ。』

京和『あと1枚だ。それを切ればハンドレスコンボの完成だ)カードを4枚伏せる。そしてこのカードは手札のカードがこのカード以外の枚数が1枚の時、その手札を捨てることで特殊召喚する事が出来る。私は手札を1枚捨て、《インフェルニティ・ガール》を特殊召喚。』

《インフェルニティ・ガール》

効果モンスター（言羽さんオリジナル）

星2 / 闇属性 / 魔法使い族 / ATK1100 / DEF800

このカードはこのカード以外の手札1枚の時、手札を1枚捨てる事で手札から特殊召喚することができる。またバトルフェイズの時手札0の時、墓地に存在するこのカードを除外する事で「インフェルニティ」と名のつくモンスター1体は魔法・罠・モンスター効果を受けない。

京和の場にサティスファクションタウンのニコの容姿をしたモンスターが現れる。

《インフェルニティ・ガール》：DEF800

遊璃『(鬼柳おじさんの家に遊びに行ったときに見かけたニコさんのようか感じね。それにしても鬼柳おじさんのような恰好をしていたからもしかしたらとは思っていたけれど、やっぱり”インフェルニティ”デツキ・・・トラウマが蘇りそう。でもここは我慢よ。』

京和『更に伏せた魔法カード、《インフェルニティ・ガン》を発動。手札が0なのでこのカードをリリースし、墓地から《天使の施し》で捨てた《インフェルニティ・デストロイヤー》と《インフェルニティ・ガール》の効果で墓地へと送った《インフェルニティ・リベンジャー》を特殊召喚!』

《インフェルニティガン》

永続魔法

1ターンに1度、手札から「インフェルニティ」と名のついたモンスター1体を墓地へ送る事ができる。

また、自分の手札が0枚の場合、フィールド上に存在するこのカードを墓地へ送る事で、自分の墓地に存在する「インフェルニティ」と名のついたモンスターを2体まで選択して自分フィールド上に特殊召喚する。

《インフェルニティ・デストロイヤー》

効果モンスター

星6 / 闇属性 / 悪魔族 / ATK2300 / DEF1000

自分の手札が0枚の場合、このカードが戦闘によって相手モンスターを破壊し墓地へ送った時、

相手ライフに1600ポイントダメージを与える。

《インフェルニティ・リベンジャー》

チューナー・効果モンスター

星1/闇属性/悪魔族/ATK0/DEF0

このカードが墓地に存在し、自分の手札が0枚の場合、「インフェルニティ・リベンジャー」以外の自分フィールド上に存在するモンスターが相手モンスターとの戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、このカードを墓地から特殊召喚する事ができる。

この効果で特殊召喚したこのカードのレベルは、相手モンスターに破壊された自分のモンスターと同じレベルになる。

京和の場に不気味な模様の刻まれた銃が現れると、その中から説明のしにくい悪魔のようなモンスターと丸い胴体のガンマンが射出された。

《インフェルニティ・デストロイヤー》：ATK2300

《インフェルニティ・リベンジャー》：DEF0

雪乃『でもまだ遊璃のモンスターには僅かに届かない。』

遊璃『でも《インフェルニティ・リベンジャー》はチューナーモンスター。それらの合計レベルは9。出てくるモンスターも大体わかったわ。』

京和『流石にわかるか。じゃあ遠慮なく。レベル2《インフェルニティ・ガール》とレベル6《インフェルニティ・デストロイヤー》にレベル1の《インフェルニティ・リベンジャー》をチューニング！』

《インフェルニティ・リベンジャー》が手に持つ銃を撃つとその玉が輪となり2体のモンスターを包み込む。

京和『破壊神より放たれし聖なる槍よ今こそ魔の都を貫け！ シンクロ召喚！ 満足させてくれよ…さあ来い！ 《氷結界の龍トリシューラ》！』

京和の場に3つ首を持つ見ているだけで凍りつきそうな龍が現れる。

《氷結界の龍トリシューラ》：ATK2700

遊璃『クツ・・・ならば召喚成功時に私は伏せカードを発動します。畏発動！ 《バースト・ブレス》！ コストは《ドラグニティナイト トライデント》です。これにより場の守備力2400以下の表側表示のモンスターを全て破壊！』

京和『ならば《氷結界の龍トリシューラ》の効果で墓地の《ドラグニティ フアランクス》、場の残った伏せカード、手札を1枚除外する。』

遊璃『通します。』

《氷結界の龍トリシューラ》が現れた瞬間に遊璃は《バースト・ブレス》を発動させ、《氷結界の龍トリシューラ》を破壊しようとするが、《氷結界の龍トリシューラ》が捨て身の反撃で遊璃のカードを除外し尽くす。

理奈『遊璃ちゃん、どうして京姉がシンクロをする前に《バースト・ブレス》を使わなかった？ 使っていれば、《ドラグニティ フアランクス》が除外されることはなかっただろうに・・・』

遊璃『理奈さん、その理由は後で分かりますよ。』

京和『・・・私の《氷結界の龍トリシューラ》が・・・私はターンを終了する』

京和&美希：LP8000

モンスター：なし

魔法・罫：3枚

手札：0枚

フィールド：なし

適用効果：なし

遊璃『次は頼むわよ。雪乃。』

雪乃『ええ。・・・私のターン！ 私は《デーモン・ソルジャー》を召喚！』

雪乃の場に紫色の体にマントを羽織った悪魔が出現した。

《デーモン・ソルジャー》：ATK1900

雪乃『そして《デーモン・ソルジャー》でダイレクトアタック！』

《デーモン・ソルジャー》が京和を切りつける

京和『フツ・・・伏せカード《終焉の焰》！ これで攻撃は防ぐ。』

京和の場に黒い人魂が二つ出現する。

《黒焰トークン》：DEF0

《黒焰トークン》：DEF0

雪乃『構わないわ。攻撃を続行！』

《デーモン・ソルジャー》が人魂を1つ切り裂いた。

雪乃『カードを3枚セットしてターンエンド。』

遊璃&雪乃：LP7500

モンスター：《デーモン・ソルジャー》（A1900）

魔法・罫：3枚

手札：2枚

フィールド：なし

適用効果：なし

美希『私のターンでしゅ。へうっへ 噛んじゃいました。ドロ
ー！』

遊璃『（美希先生のエースカードは墓地に送ったから大丈夫なはず。
・・・）』

美希『遊璃さん、私のエースカードを1度墓地に送ったところで無
駄でしゅよ！ 私は魔法カード《六武の宝札》を発動！』

《六武の宝札》

通常魔法（葦切さんオリジナル）

墓地の「六武衆」と名のつくモンスター2体をデッキに戻しシャッ
フルする。その後デッキからカードを2枚ドロローする。

遊璃『(《六武の宝札》？ 聞いたことのないカードね・・・)』

美希『このカードは墓地の「六武衆」と名のつくモンスター2体をデッキに戻し、2枚ドローするカードです。私は《ドラグニティナイト トライデント》の効果で墓地に送られた《真六武衆 シエン》2枚をエクストラデッキに戻し、2枚ドローします。』

遊璃『《ドラグニティナイト トライデント》の効果が逆手に取られた!?!』

美希『これで手札は8枚。 どんどん動けましゅ。 私は永続魔法

《六武の門》を発動!』

《六武の門》
ろくぶもん

永続魔法

「六武衆」と名のついたモンスターが召喚・特殊召喚される度に、このカードに武士道カウンターを2つ置く。

自分フィールド上の武士道カウンターを任意の個数取り除く事で、以下の効果を適用する。

2つ：フィールド上に表側表示で存在する「六武衆」または「紫炎」と名のついた

効果モンスター1体の攻撃力は、このターンのエンドフェイズ時まで500ポイントアップする。

4つ：自分のデッキ・墓地から「六武衆」と名のついたモンスター1体を手札に加える。

6つ：自分の墓地に存在する「紫炎」と名のついた効果モンスター1体を特殊召喚する。

美希の後ろに大きな家紋の彫られた門が出現する。

遊璃『（・・・ヤバイ）』

雪乃『・・・なんだか嫌な予感がするわね。 速攻魔法、《サイクロン》！ 《六武の門》を破壊！』

美希『私のカードがまた妨害されましたあゝ（グス）』

出現した門はすぐに出現した一つの竜巻によって彼方へと飛ばされる。

美希『じゃあ、《真六武衆 カゲキ》を召喚しましゅ。』

《真六武衆 - カゲキ》

効果モンスター

星3 / 風属性 / 戦士族 / ATK2000 / DEF2000

このカードが召喚に成功した時、手札からレベル4以下の「六武衆」と名のついたモンスター1体を特殊召喚することができる。

自分フィールド上に「真六武衆 - カゲキ」以外の「六武衆」と名のついたモンスターが表側表示で存在する限り、このカードの攻撃力は1500ポイントアップする。

美希の場に義手を合わせれば4本の腕を持つ鎧武者が現れる。

《真六武衆 カゲキ》：DEF2000

雪乃『守備力2000。 守備力を固めて時間稼ぎかしら？』

美希『違いますよ？ 《真六武衆 カゲキ》の効果を発動。 このカードの召喚成功時に手札のレベル4以下の「六武衆」と名のつく

モンスター1体を特殊召喚します。 私は《六武衆の影武者》を特殊召喚！』

《六武衆の影武者》
ろくぶしゅう かげむしや

チューナー・効果モンスター

星2 / 地属性 / 戦士族 / ATK400 / DEF1800

自分フィールド上に表側表示で存在する「六武衆」と名のついたモンスター1体が

魔法・罨・効果モンスターの効果の対象になった時、

その効果の対象をフィールド上に表側表示で存在するこのカードに移し替える事ができる。

美希の場に緑色の鎧を着た侍が現れる。

《六武衆の影武者》 : DEF1800

遊璃『(最悪な展開ね。)』

美希『行きましゅよ！ レベル3《真六武衆 カゲキ》にレベル2の《六武衆の影武者》をチューニング！』

《六武衆の影武者》が空に刀を十字に振ると、空が裂け、中から2つの輪が出てくる。

その輪が3つの星となった《真六武衆 カゲキ》の周りを取り囲み、一筋の光となる。

+ || x 5

美希『集いし将兵が君臨する將軍を呼び寄せ、皆を護る將軍とな

れ。シンクロ召喚。出撃せよ！ 《真六武衆 シエン》！」

《真六武衆 - シエン》

シンクロ・効果モンスター

星5 / 闇属性 / 戦士族 / ATK 2500 / DEF 1400

戦士族チューナー+チューナー以外の「六武衆」と名のついたモンスター1体以上

1ターンに1度、相手が魔法・罫カードを発動した時に発動する事ができる。

その発動を無効にし破壊する。

また、フィールド上に表側表示で存在するこのカードが破壊される場合、代わりにこのカード以外の自分フィールド上に表側表示で存在する「六武衆」と名のついたモンスター1体を破壊する事ができる。

美希の場に真澄色の鎧を纏い、鋭き1つの刀を構える将軍が現れた

《真六武衆 - シエン》 : ATK 2500

雪乃「・・・なんて威圧感なの・・・」

美希「このカードは私のエースモンスターでしゅからね〜 へうう〜・・・2度も噛んじゃいました〜」

理奈「京姉。もう限界なんだが、襲っていいよな？」

京和「理奈ちゃん、駄目だ。美希は私の嫁だ」

理奈「・・・ケチ」

美希『更に《六武衆の師範》を特殊召喚します。』

《六武衆の師範》

効果モンスター

星5/地属性/戦士族/ATK2100/DEF800

自分フィールド上に「六武衆」と名のついたモンスターが表側表示で存在する場合、このカードは手札から特殊召喚する事ができる。このカードが相手のカードの効果によって破壊された時、自分の墓地に存在する「六武衆」と名のついたモンスター1体を手札に加える。

「六武衆の師範」は自分フィールド上に1枚しか表側表示で存在できない。

美希の場に白髭で年輩だが、まだまだ若いもんには負けんオーラを出している男性が現れる。

《六武衆の師範》：ATK2100

雪乃『攻撃力2100のモンスターを特殊召喚ですって!?!』

美希『このカードは自分の場に「六武衆」と名のつくモンスターがいれば特殊召喚できるんです。』

雪乃『緩い召喚条件ね・・・』

美希『まあそんなんですけれどね。。とりあえず、バトルフェイズです。《六武衆の師範》で《デーモン・ソルジャー》を攻撃!』

《六武衆の師範》が《デーモン・ソルジャー》と一騎打ちをするも、一瞬で《デーモン・ソルジャー》が切り殺された。

遊璃＆雪乃：LP7500 7300

美希『続いて《真六武衆 シエン》で直接攻撃でしゅ〜』

《真六武衆 シエン》の刀が雪乃を切り裂く

雪乃『クウウ』

遊璃＆雪乃：LP7300 4800

美希『カードを2枚伏せて、ターンエンド』

京和＆美希：LP8000

モンスター：《六武衆の師範》（A2100）、《真六武衆 シエン》（A2500）、《焰火トークン》（DO）

魔法・罫：4枚

手札：2枚

フィールド：なし

適用効果：1ターンに1度、相手の魔法・罫カードの発動と効果を無効にする事ができる。

遊璃『私のターン、ドロ〜！・・・（美希先生の《真六武衆 シエン》によって私たちの発動する魔法・罫は1ターンに1度無効にされてしまう。雪乃のデッキの特性上、このターン中に破壊しておかないと拙い。）私は、《ドラグニティ ピルム》を召喚！その効果で《ドラグニティ ミリトゥム》を特殊召喚して、このカードを装備します。』

遊璃の場に黄緑色の龍と黄緑色の鎧を着こむ金髪の女鳥人が現れる。

《ドラグニティ ミリトゥム》：ATK1700

そして召喚が成功された瞬間に遊璃の墓地が再び光り出す。

美希『あれその光は・・・？』

美希は頭に「？」を出していたが、すぐにそれを消し、光の謎を理解する

遊璃『自分の場の「ドラグニティ」と名のつくモンスターにチューナーモンスターが装備されたので墓地の《ドラグニティ ベビーバード》を特殊召喚します。』

遊璃の場に再び卵の雛が現れる。

《ドラグニティ ベビーバード》：DEF0

美希『またでしゅか・・・へうゝ また囁んじやいましたゝ』

遊璃『ええ、まあ。《ドラグニティ ミリトゥム》の効果を発動。

1ターンに1度装備されている「ドラグニティ」と名の付くモンスターを特殊召喚する。《ドラグニティ ピルム》を特殊召喚！』

《ドラグニティ ピルム》：ATK1400

理奈『（遊璃ちゃんは今度はレベル8のシンクロ召喚をするつもりか・・・）』

美希『また軽々とモンスターを3体並べた・・・魔法も、畏も使わ

ずに・・・』

遊璃『さて、レベル1《ドラグニティ ベビーバード》とレベル4の《ドラグニティ ミリトウム》にレベル3《ドラグニティ ピルム》をチューニング!』

再び卵から出た雛と鳥人の女戦士は3つの輪に囲まれて光となる

+ + || x 8

遊璃『秘境の竜騎士が秘境の龍を束ね、戦を終結させるべく君臨する。 戦場を鎮める風となれ! シンクロ召喚! 終結せよ! 《ドラグニティナイト バルーチャ》!』

《ドラグニティナイト・バルーチャ》

シンクロ・効果モンスター

星8 / 風属性 / ドラゴン族 / ATK2000 / DEF1200

ドラゴン族チューナー+チューナー以外の鳥獣族モンスター1体以上このカードがシンクロ召喚に成功した時、自分の墓地に存在する「ドラグニティ」と名のついた

ドラゴン族モンスターを任意の数だけ選択し、装備カード扱いとしてこのカードに装備する事ができる。

このカードの攻撃力は、このカードに装備された「ドラグニティ」と名のついたカードの枚数×300ポイントアップする。

遊璃の場に大きな羽の緑色の巨大な龍に跨り鋭い槍を振りかざす竜騎士が現れた。

《ドラグニティナイト・バルーチャ》 : ATK2000

美希『でも、攻撃力は2000でしゅ。私のモンスターには勝てませんよ?』

遊璃『《ドラグニティナイト・バルーチャ》のモンスター効果を発動。シンク口召喚時に墓地に存在するドラゴン族の「ドラグニティ」と名の付いたモンスターを任意の数だけ装備し、その数×300ポイント攻撃力をアップする。』

美希『でも遊璃さんの墓地には《ドラグニティ ピルム》の1体だけ。攻撃力は2300です。』

京和『美希。それは違う。』

美希『へ?』

京和『《ドラグニティナイト バルーチャ》が装備できるのは何も他の《ドラグニティ ドウクス》達に共通する「ドラグニティ」と名の付くレベル3以下のドラゴン族モンスターだけではない。』

理奈『そうだ。《ドラグニティナイト バルーチャ》に装備できる「ドラグニティ」と名の付くドラゴン族モンスターにレベル制限はない。そして「ドラグニティナイト」も立派な「ドラグニティ」と名の付くドラゴン族モンスターだ。』

京和の言葉に理奈も説明を付け足す。

美希『「ドラグニティナイト」・・・あ!』

遊璃『そう、理奈さんたちの言う通り私の墓地には「ドラグニティ」と名の付くドラゴン族モンスターは2体。・・・私は《ドラグニティ

イナイト バルーチャ』の効果で《ドラグニティ ピルム》と《ドラグニティナイト トライデント》を装備するわ!』

《ドラグニティナイト バルーチャ》が手に持つ槍を翳すと遊璃の墓地から2つの光が溢れ、槍に吸収された。

《ドラグニティナイト バルーチャ》：ATK2000 2600

美希『《真六武衆 シエン》の攻撃力を上回った。』

遊璃『そして墓地から再び《ドラグニティ ベビーバード》の効果を発動し、特殊召喚』

三度遊璃の場に卵の中に入る雛が現れる

《ドラグニティ ベビーバード》：DEF0

京和『・・・今更だけど《氷結界の龍トリシューラ》で除外するカード間違ったかな?』

遊璃『どうでしょう?・・・バトル! 《ドラグニティナイト バルーチャ》で《真六武衆 シエン》を攻撃! 結束の槍撃!』
ユニティ・ランサー

美希『《真六武衆 シエン》の効果を発動して、《六武衆の師範》を代わりに破壊しましゅ。』

《ドラグニティナイト バルーチャ》が目に見えない速度で《真六武衆 シエン》に迫り、一瞬で《真六武衆 シエン》の後ろに飛び去る。

その後、《真六武衆 シエン》は刺されたことに気付き、破壊された

に思えたが、《六武衆の師範》が身代わりとなっていた。

まさに決死の守りである。

美希『ひゃあっ！』

京和 & 美希：LP8000 7900

遊璃『やっぱり守りますか。メインフェイズ2、私は《強欲な壺》を使い2枚ドロー。』

美希『しゃせましえん！ 《真六武衆 シエン》の効果を発動し、無効にします。』

遊璃『なら雪乃の伏せた《強欲な壺》を使って、2枚ドロー。』

美希『へう〜・・・結局ドローされちゃいましたあ〜』

遊璃『魔法カード《ユニコーンの導き》を発動。手札を1枚除外し、除外されているレベル5以下の鳥獣族モンスター、《ドラグニティ プリムス・ピルス》を特殊召喚。』

理奈『！！・・・まさか《氷結界の龍トリシューラ》の効果わざわざと使わせたのって・・・』

遊璃『3分の1の確率でこのカードが除外されることに賭けたからですよ。』

遊璃のその言葉の後に遊璃の場に先ほど《ドラグニティナイト ト

ライドント》に乗っていた騎士が緑色の羽とムチを持った姿で現れる。

《ドラグニティ プリムス・ピルス》：ATK2200

京和『しかもそいつの効果って・・・』

遊璃『はい！ 《ドラグニティ プリムス・ピルス》の効果で《ドラグニティ プリムス・ピルス》に2枚目の《ドラグニティ ファランクス》をデッキから装備。』

雪乃『お姉様。何をしようとしているの・・・（ボソ）』

遊璃『そして装備された《ドラグニティ ファランクス》を特殊召喚。』

遊璃の場に再び金色の鎧を持つ青い龍が現れる

《ドラグニティ ファランクス》：DEF1100

理奈『（遊璃ちゃんの今の場で出せるシンクロモンスターは7か8。しかも俺とやった時とは別人みたいに次々とシンクロ召喚をするな・・・）』

遊璃『レベル5《ドラグニティ プリムス・ピルス》にレベル2《ドラグニティ ファランクス》をチューニング！』

理奈『（レベルは7か。だが、俺の知っている「ドラグニティ」のレベル7のシンクロモンスターは《ドラグニティナイト トライデント》だけ。遊璃ちゃんのデッキ構成からして複数枚入れている。

るとは言い難い。』

理奈が色々と試行している頃フィールドでは5つの星となった《ドラグニティ プリムス・ピルス》が2つの輪となった《ドラグニティ ファランクス》の中を通り光となる。

+ || x 7

遊璃『秘境の竜騎士が聖なる槍を用いて邪龍を討つ。戦場を鎮める風となれ！ シンクロ召喚！ 爆誕せよ！ 《ドラグニティナイト アスカロン》！』

遊璃の場に黒色の巨大な龍とそれに跨る龍の色とは対照的な白く輝く槍と白い外套を纏った男性が現れた。

《ドラグニティナイト アスカロン》：ATK2500

雪乃『このモンスターは・・・私とのデュエルで私の《破滅の女神ルイン》を破壊した…』

遊璃『そうだよ。そして、この状況で一番活躍できそうなカード。』

美希『一体どういう効果なんですか？』

遊璃『まずシンクロ召喚時に墓地のドラゴン族モンスター1体を自分の場の「ドラグニティ」と名の付くモンスターに装備する。私は召喚した《ドラグニティナイト アスカロン》に《ドラグニティ ファランクス》を装備。』

雪乃『・・・確かそのあとは！』

遊璃『《ドラグニティナイト アスカロン》は1ターンに1度2つの効果から1つを選択して発動できる。自分の墓地に存在する「ドラグニティ」と名のつくモンスター1体をこのカードに装備カード扱いとして装備するか、このカードに装備カード扱いで装備されたカード1枚を墓地に送り、相手フィールド上に存在するカード1枚を破壊するか。私の墓地に「ドラグニティ」と名の付くドラゴン族モンスターはもういません。なので2つ目の効果を発動。このカードに装備された《ドラグニティ ファランクス》を墓地に送って、美希先生の《真六武衆 シエン》を破壊。』

美希『へう〜』

遊璃『私はこれでターンエンドです』

美希『エンドフェイズに《六武衆推参!》を2枚発動しましゅ。この効果で特殊召喚したモンスターはエンドフェイズ、つまりすぐに破壊されましゅが、身代わり効果を使えば1体は生き残りましゅ。

私は墓地から《六武衆の影武者》と《真六武衆 シエン》を選択
『!』

《六武衆推参!》
ろくぶしゅうしゅいさん

通常罫

自分の墓地に存在する「六武衆」と名のついたモンスター1体を自分フィールド上に特殊召喚する。

この効果で特殊召喚されたモンスターはこのターンのエンドフェイズ時に破壊される。

遊璃『させない! 雪乃の伏せた最後のカード! 《王宮のお触れ》! お互いのプレイヤーの罫カードの効果を無効にするわ。』

美希『・・・また私のカードが邪魔しゃれました』

遊璃『チェーン処理が終了。《六武衆推参!》の効果は無効になりました。改めてターン終了です』

遊璃&雪乃：LP4800

モンスター：《ドラグニティナイト バルーチャ》(A2600)、

《ドラグニティナイト アスカロン》(A2500)、《ドラグニティ ベビーバード》(DO)

魔法・罫：《王宮のお触れ》、《ドラグニティ ピルム》、《ドラグニティナイト トライデント》

手札：0枚

フィールド：なし

適用効果：お互いの罫カードの効果は無効になる。

京和『やっと私のターンだな。ドロー！ フツ 手札が0枚の時に《インフェルニティ・デーモン》をドローした場合、《インフェルニティ・デーモン》は手札から特殊召喚する事が出来る。』

《インフェルニティ・デーモン》

効果モンスター

星4 / 闇属性 / 悪魔族 / ATK1800 / DEF1200

自分の手札が0枚の場合にこのカードをドローした時、このカードを相手に見せる事で自分フィールド上に特殊召喚する。

また、このカードが特殊召喚に成功した時、自分の手札が0枚の場合、自分のデッキから「インフェルニティ」と名のついたカード1枚を手札に加える事ができる。

京和の場に山羊のような顔をした悪魔が現れる。

《インフェルニティ・デーモン》：ATK1800

京和『そして《インフェルニティ・デーモン》の特殊召喚に成功したとき、手札が0であればデッキから「インフェルニティ」と名の付くカード1枚を手札に加える事が出来る。私は《インフェルニティ・ミラージユ》を手札に加え、召喚！』

《インフェルニティ・ミラージユ》

効果モンスター

星1/闇属性/悪魔族/ATK0/DEF0

このカードは墓地からの特殊召喚はできない。

自分の手札が0枚の場合、このカードをリリースし、自分の墓地に存在する「インフェルニティ」と名のついたモンスター2体を選択して発動する事ができる。

選択したモンスターを自分フィールド上に特殊召喚する。

京和の場に頭に羽飾りを着け、ポンチョを着ている人型のモンスターが現れる。

《インフェルニティ・ミラージユ》：ATK0

雪乃『攻撃力0？』

遊璃『・・・あ、あのカードは...』

京和『早速だが《インフェルニティ・ミラージユ》の効果を発動！

手札が0の時にこのカードをリリースすることで墓地から「インフェルニティ」と名の付くモンスターを2体特殊召喚する。私が特殊召喚するのは《天使の施し》で墓地に送ったもう1枚のカード

《インフェルニティ・ビートル》と《インフェルニティ・デストロイヤー》！！」

《インフェルニティ・ビートル》

チューナー・効果モンスター

星2 / 闇属性 / 昆虫族 / ATK1200 / DEF0

自分の手札が0枚の場合、このカードをリリースする事で自分のデッキから

「インフェルニティ・ビートル」を2体まで特殊召喚する。

京和の場に不気味な昆虫型のモンスターと先のターンで召喚された悪魔が蘇る。

《インフェルニティ・ビートル》 : ATK1200

《インフェルニティ・デストロイヤー》 : ATK2300

雪乃「手札0から一気にモンスターを展開した。」

京和「これが”ハンドレスコンボ”だ。私は更に《インフェルニティ・ビートル》の効果を発動。手札が0の時、このカードをリリースすることでデッキから《インフェルニティ・ビートル》を2体まで特殊召喚する。」

京和の場の《インフェルニティ・ビートル》が2つに分裂し、2体となった

《インフェルニティ・ビートル》 : ATK1200

《インフェルニティ・ビートル》 : ATK1200

雪乃『場が全て埋まった・・・』

京和『いくぜ！ レベル4《インフェルニティ・デーモン》とレベル1の《黒焰トークン》にレベル2《インフェルニティ・ビートル》をチューニング！』

《インフェルニティ・ビートル》が自身の羽で飛行し、2つの輪となる。

その中を悪魔と人魂が5つの星となって潜り抜けた。

+ + || x 7

遊璃『レベル7。』

京和『新たなる王者の脈動、混沌の内より出でよ！ シンクロ召喚！ 誇り高き、《デーモン・カオス・キング》！』

《デーモン・カオス・キング》

シンクロ・効果モンスター

星7 / 闇属性 / 悪魔族 / ATK 2600 / DEF 2600

悪魔族チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

このカードの攻撃宣言時、相手フィールド上に表側表示で存在する全てのモンスターの

攻撃力・守備力をバトルフェイズ終了時まで入れ替える事ができる。

京和の場に白い仮面に両手に炎を纏う悪魔が現れる

《デーモン・カオス・キング》：ATK 2600

理奈『・・・京姉え！俺を差し置いて元キンの使ったカードを・・・
借りたカードとはいえ使ったカードを俺の前で堂々と使うとは・・・
キングを嘗めているのかあ？』

京和『ちよっ！理奈ちゃん嘗めてないから。胸倉掴まないでっつて
…それに丁度出せたんだからいいじゃん』

理奈『フンッ！』

京和『・・・ゲホッ。そんなもってレベル6の《インフェルニティ
イ・デストロイヤー》にレベル2《インフェルニティ・ビートル》
をチューニング!!』

続いて同じように2つの輪となった《インフェルニティ・ビートル
》に6つの星となった《インフェルニティ・デストロイヤー》が飛
び込む。

+ || x 8

京和『死者と生者、ゼロにて交わりし時、永劫の檻より魔の龍が放
たれる！シンクロ召喚！死神の恐怖味わいな！いでよ！《
インフェルニティ・デス・ドラゴン》！』

《インフェルニティ・デス・ドラゴン》

シンクロ・効果モンスター

星8 / 闇属性 / ドラゴン族 / ATK3000 / DEF2400

闇属性チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

1ターンに1度、自分の手札が0枚の場合に相手フィールド上に存
在する

モンスター1体を選択して発動することができる。

選択した相手モンスターを破壊し、破壊したモンスターの攻撃力の半分のダメージを相手ライフに与える。

この効果を発動するターンこのカードは攻撃する事ができない。

京和の場に次は黒い体躯に説明しがたい顔をした龍が現れる。

《インフェルニティ・デス・ドラゴン》：ATK3000

遊璃『!!』

雪乃『なんて悍ましい・・・』

遊璃『ヒイ……いやぁ……もう来ないで。』

理奈『？ どうしたんだ遊璃ちゃん？』

遊璃『もう満足なんてさせてあげられないから許して下さい！ 鬼柳おじさん。』

美希『遊璃ちゃん、どうしたんでひょうか？ へう〜』

理奈『・・・遊璃ちゃんはどうやら満足野郎にトラウマを植え付けられたようだな。 京姉、早くターンを雪乃に回せるようにプレイしてくれ!』

京和『了解 《インフェルニティ・デス・ドラゴン》のモンスター効果を発動! インフェルニティ・デス・ブレス! 《ドラグニティナイト アスカロン》を破壊!』

《インフェルニティ・デス・ドラゴン》が口からどす黒い息吹を放

ち、《ドラグニティナイト アスカロン》を破壊した。

そしてその攻撃の余波が遊璃に向かって飛んでいくが、遊璃はまだ
独り言を呟いていて受け身をとる事が出来ない状態にあった。

理奈『ツッ！ 遊璃ちゃん！！』

刹那

理奈が遊璃と《インフェルニティ・デス・ドラゴン》の攻撃の余波
の間に入り、身を挺して守った。

遊璃&雪乃：LP4800 3550

遊璃『ブツブツ………?? 理奈さん？』

理奈『大丈夫。 大丈夫だから。』

遊璃『……それにしても理奈さん私の代わりに攻撃を……』

理奈『たかが1250ポイント。 痛くも痒くもないさ！』

遊璃『……ごめんなさい。 理奈さん。 私のせいで。』

理奈『早期に病むな。 さっきも言っただろう。 キングは可愛い
女の子の味方だと。』

遊璃『理奈さん……』

京和『あー、ヴヴン。 ゲフン！ 理奈ちゃん。 異世界の人は落

としちゃ駄目だぞ〜 色々と大変になる。』

理奈『……（いけない、いけない。つい少し前のクセみたいのが出てしまった。）さあ、遊璃ちゃん最後まで諦めるんじゃないぞ！』

遊璃『……はい！』

京和『えっと、続けていいか？』

遊璃『はい！ 皆さんご迷惑をおかけしました。』

京和『いって。いって。』

美希『遊璃ちゃん小動物見たくて可愛かったです』

雪乃『平気よ！ むしろ遊璃が元に戻って良かったわ！（さっきまでのお姉様も新鮮で可愛かった 理奈ちゃんにいいとこ取られただけど……）』

京和『さて、続きだ。《デーモン・カオス・キング》で《ドラグニティナイト バルーチャ》を攻撃！』

雪乃『相打ち？』

京和『違っただな〜これが。《デーモン・カオス・キング》の効果を発動。このカードの攻撃宣言時、相手フィールド上のモンスター1体の攻撃力と守備力をバトルフェイズ終了時まで入れ替える事が出来る。私は当然入れ替える効果を発動する。』

《ドラグニティナイト・バルーチヤ》：ATK2600 1200

雪乃『《ドラグニティナイト バルーチヤ》の攻撃力がたったの1200に……』

京和『これで倒せるな！ 行け！ 《デーモン・カオス・キング》！』

《デーモン・カオス・キング》が《ドラグニティナイト バルーチヤ》を手に纏う炎で焼き切る。

遊璃『きゃあああああ』

遊璃&雪乃：LP3550 2150

京和『俺はこれでターンを終了。』

京和&美希：LP7900

モンスター：《インフェルニティ・デス・ドラゴン》（A3000）

、《デーモン・カオス・キング》（A2600）

魔法・罫：2枚

手札：0枚

フィールド：なし

適用効果：お互いの罫カードの効果は無効になる

雪乃『……私のターンね。（お姉様が厄介な《真六武衆 シェン》を破壊してくれたと思ったら、すぐに巻き返された。2人も流石は綾風一族とその関係者ね。強いわ。でも理奈ちゃんが貸してくれたカード。あれさえ出せれば……）（ドロー！）（来た！）』

京和『（ん？ 雪のんの表情が変わった。何かくるな。）』

雪乃『私は《天使の施し》を発動。これで3枚ドロし、2枚を捨てる。』

美希『手札交換。そして雪乃さんのデッキは”混沌儀式天魔神”
・・拙いでしゅ〜』

雪乃『フフツ 私は儀式魔法《高等儀式術》を発動！ 手札の《終焉の王 デミス》を公開し、デッキから《デュナミス・ヴァルキュリア》2枚を墓地へ！ 降臨せよ！ 《終焉の王 デミス》！』

雪乃の場に黒いコートを羽織った人型のモンスターが現れる。

《終焉の王 デミス》：ATK2400

京和『（《終焉の王 デミス》の効果は確かに強力だ。しかし雪のん達のライフポイントは2150。気安く使えるライフじゃない。』

雪乃『そして《終焉の王 デミス》の効果を発動！ ライフを2000ポイント払い、このカード以外のすべての場のカードを破壊する！ 終焉の嘆き！』

京和『何！？ ここでその効果を使う！？』

遊璃&雪乃：LP2150 150

《終焉の王 デミス》が何かを唱えるとフィールドに破壊の嵐がフィ

ールドに舞い降りる。

それは《終焉の王デミス》以外のカードを全て巻き込んだ。

そしてその嵐が止む頃には一番丈夫そうだった《王宮のお触れ》も無残に崩れた姿を晒していた。

雪乃『・・・そして、京和さん。ハンドレスコンボって手札が0枚でなければならぬのよね？』

京和『そうだ。』

雪乃『ならその目論見を潰してあげる。最後の手札、《天よりの宝札》を発動！ お互いに手札が6枚になるようにカードをドロ―する。』

京和『なん・・・だと！ 私のハンドレスコンボが・・・』

そして京和と雪乃はお互いに6枚ずつカードを引いた。

雪乃『フフツ（これは、またいいカードを引いたわ。）』

京和『ククク。確かに私のハンドレスコンボは消えた。だが、手札が0枚の時に《インフェルニティ・デーモン》をドロ―したので、手札の《インフェルニティ・デーモン》を守備表示で召喚する。しかも2枚引いたから2体を特殊召喚だ。』

京和の場に再び山羊の顔をした悪魔が出現する。

《インフェルニティ・デーモン》：DEF1200

《インフェルニティ・デーモン》：DEF1200

雪乃『そんな。私のターンなのに・・・』

京和『・・・だが、手札が0枚じゃないからデッキから「インフェルニティ」と名の付くカードは手札に加えられない。』

雪乃『（クツ・・・流石に簡単に攻撃を通してはくれなさそうね・・・でも、私の手札の中にはそれを突破するカードがある） 私は墓地の光属性・天使族の《デュナミス・ヴァルキュリア》2体と《天使の施し》で墓地へと送った《破滅の女神ルイン》、闇属性・悪魔族の《デーモン・ソルジャー》をゲームから除外し、《天魔神エンライズ》を特殊召喚！』

雪乃の場に白い羽に説明のしがたい仮面のようなものを付けている所々黒い天使が現れた。

《天魔神エンライズ》：ATK2400

京和『（ここで出てきたか・・・）』

雪乃『更に《天魔神エンライズ》の効果を発動。このターンのこのカードの攻撃権を放棄する代わりに、相手モンスターを1体、ゲームから除外する。私は《インフェルニティ・デーモン》を除外！』

《天魔神エンライズ》が黒い球状の物を作り出し《インフェルニティ・デーモン》は最初からそこにいなかったのでは？ と彷彿させるように文字通り跡形もなく消え去った。

京和『《インフェルニティ・デーモン》……（だが何故攻撃権を……）』

雪乃『更に私は《死者蘇生》を発動！ 特殊召喚するモンスターは……』

遊璃『（雪乃、いったい何を……）』

京和『（ここで《死者蘇生》？ 何を出すつもりだ？ 遊りんの「ドラグニティナイト」達はシンクロ召喚に成功したときに効果を発揮するものが多い。となれば別のモンスターを選んでくるはず……）』

美希『（雪乃さんが《死者蘇生》を使った。攻撃力と効果で考えて候補に挙げるとすれば、京和さんの《インフェルニティ・デス・ドラゴン》、《デーモン・カオス・キング》、《氷結界の龍トリシューラ》か私の《真六武衆 シエン》のはず。）』

雪乃『私が特殊召喚するのは……』

遊璃の《ドラグニティ ファランクス》！！！

理奈『（ほう。そうきたか）』

理奈と雪乃以外の3人『なんだって！！』

京和『雪のんがシンクロ召喚！？ 莫迦な。 雪のんはシンクロモンスターを持ってないはず。』

美希『完全に予想外でしゅ。 可能性として想定できりゅのは理奈さんに渡されたカードのはずでしゅ……』

遊璃『（雪乃……）』

雪乃の場に二度金色の鎧を纏う青い龍が現れる

《ドラグニティ ファランクス》：ATK500

雪乃は融合^{エクストラ}デッキから1枚のカードを取り出しほくそ笑む。

雪乃『フフツツ 行くわよ 初のシンクロ召喚！！ ゾクゾクするわ！！』

遊璃&京和&美希『やっぱり！！』

雪乃『行くわよ！ レベル8の《天魔神エンライズ》にレベル2のチューナーモンスター《ドラグニティ ファランクス》をチューニング！！』

《天魔神エンライズ》がその羽を開くと8つの星となり飛び散る。

それを2つの輪となった《ドラグニティ ファランクス》が順に星を通すように動き、10個の星と輪の塊に変貌する。

+

|| × 10

雪乃&理奈『大切な人を守りたいと願う時、全てを包む魔神を呼び覚ます。混沌溢れる世界へ！ シンクロ召喚！ 生来せよ！

《天魔極神ルシファー》^{①②}

《天魔極神ルシファー》

シンクロ・効果モンスター（言羽・D・カタストロフィーさんオリジナル）

星10 / 闇属性 / 悪魔族 / ATK3800 / DEF3400

チューナー + 天魔神と名のつくモンスター1体

このモンスターは自分のスタンバイフェイズ時に墓地に存在する場合、墓地の天魔神と名のつくモンスターを除外することで墓地から特殊召喚することができる。

この効果で特殊召喚された場合、このモンスターは他のカードの効果で破壊されず、他のカード効果でゲームから除外されない。

このモンスターはシンクロ素材にしたモンスターまたはこのカードの効果で特殊召喚した時に除外したモンスターによって以下の効果を得る。

・《天魔神ノーレラス》：ライフを1000支払う事で相手の手札を全て墓地に送る事ができる。

・《天魔神エンライズ》：1ターンに1度相手モンスター1体を除外できる。

・《天魔神インヴェシル》：相手は魔法・罫を発動できない。

雪乃の場の光が収まると、真っ黒な軀に悪魔の様な雰囲気を持つ、白い装束に天使の羽を持った神と悪魔を合わせた感じの見えるだけで恐ろしさを感じるモンスターが出現していた。

《天魔極神ルシファー》：ATK3800

京和『な、なんだこのモンスターは!!!』

美希『見ていてだけで震えてきましゅ・・・』

遊璃『・・・(雪乃・・・)』

雪乃『これがシンクロ召喚。予想以上に気持ちよかつたわ。遊璃は毎回こんな思いをしているのね。羨ましいわ〜』

遊璃『(そうなのかな。よく分からないや。)』

雪乃『・・・つと感傷に浸っている場合じゃないわ。私は《天魔極神ルシファー》の効果を発動！このカードのシンクロ召喚に使用した「天神」の種類によって異なる効果を得る。《天神エンジンライズ》を使用した場合の効果は・・・「1ターンに1度相手モンスター1体を除外できる！」よ！この効果にデメリットはないわ。《天魔極神ルシファー》の効果で残った《インフェルニティ・デーモン》を除外!』

《天魔極神ルシファー》も《天神エンジンライズ》と同様の玉を作り出すとそれを《インフェルニティ・デーモン》にぶつける。

そして2体目の《インフェルニティ・デーモン》も1体目と同じようになつた。

京和『・・・クッ』

雪乃『そしてバトル！ 《終焉の王デミス》と《天魔極神ルシファー》でダイレクトアタック！！』

《終焉の王デミス》は破壊の嵐を、《天魔極神ルシファー》は先程とは比べ物にならないくらい大きな球を作り出して放つ。

それらは京和に直撃した。

京和『アアアアアア・・・』

京和&美希：LP7900 5500 1700

美希『あわわ〜 京和さん大丈夫でしゅか？』

京和『ああ。 今のは効いたぜ。 中々に満足させてくれる。』

雪乃『・・・カードを1枚セットして、ターンエンド（今伏せたカードは2枚目の《王宮のお触れ》。美希先生がどんな畏カードを伏せても無意味よ。）』

遊璃&雪乃：LP150

モンスター：《終焉の王デミス》（A2400）、《天魔極神ルシファー》（A3800）

魔法・罫：1枚

手札：3枚

フィールド：なし

適用効果：なし

美希『わ、私のターンでしゅ。へう〜。ドロ〜!!（あの雪乃さんの伏せカード。恐らくは妨害系のカードですね。）魔法カード《大嵐》でしゅ。これで、伏せカードを破壊!』

雪乃『クツ・・・《王宮のお触れ》・・・』

美希『やっぱり妨害系のカードでしたね。予想は当たってました。』

雪乃『・・・』

美希『私は《強欲な壺》を発動して2枚ドロでしゅっ!』

美希は新たに《強欲な壺》を発動し、2枚のカードを引く。

遊璃『（このデュエル。私たちの勝利は絶望的。だけれど最後まであきらめないわ!）』

美希『来ましたあ! 手札から《真六武衆 エニシ》を召喚でしゅっ!』

《真六武衆・エニシ》

効果モンスター

星4 / 光属性 / 戦士族 / ATK1700 / DEF 700

自分フィールド上に「真六武衆・エニシ」以外の「六武衆」と名のついたモンスターが表側表示で存在する場合、1ターンに1度、自分の墓地に存在する「六武衆」と名のついたモンスター2体をゲームから除外する事で、フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を選択して手札に戻す。

この効果は相手ターンでも発動する事ができる。

また、自分フィールド上に「真六武衆・エニシ」以外の「六武衆」と名のついたモンスターが表側表示で2体以上存在する場合、このカードの攻撃力・守備力は500ポイントアップする。

美希の場に緑色の和服を着た侍が現れる。

《真六武衆・エニシ》：ATK1700

美希「更に《死者蘇生》を発動！ 《真六武衆 シエン》を特殊召喚でしゅっ！」

美希の場に再び真澄の鎧を着こむ將軍が現れる。

《真六武衆 シエン》：ATK2500

雪乃「でも、《真六武衆シエン》の攻撃力では《天魔極神ルシファ―》にはかなわず、《終焉の王デミス》を破壊しても私達のライフは50残ります。」

美希「分かっていますしゅよ！ 私はここで《真六武衆 エニシ》の効果をはちゅ動！ あわわ。 噛む回数が多くなってきたやいました。 自分の場に《真六武衆 エニシ》以外の「六武衆」と名の付いたモンスターが表側表示で存在するとき…墓地の《六武衆の影武者》と《真六武衆 カゲキ》をゲームから除外してフィールド上のモンスター1体を手札に戻す事が出来ましゅ。 私は《天魔極神ルシファ―》を手札に戻しましゅ！」

雪乃「なっ！」

《真六武衆 エニシ》が刀を振り下ろすと、《天魔極神ルシファール》は何も出来ないまま彼方へと飛ばされる。

遊璃『私たちの切り札が…』

美希『そしてバトルでしゅ！ 《真六武衆 シエン》で《終焉の王 デミス》を攻撃！ 六武天烈紫炎斬！』

《真六武衆 シエン》の攻撃が《終焉の王デミス》を貫く。

雪乃『グッ…』

遊璃&雪乃：LP150 50

美希『これで終わりでしゅっ！ 《真六武衆エニシ》でダイレクトアタック！』

雪乃『…なんとか遊璃のターンまで繋いでみせる！ 手札から《クリボー》のモンスター効果を発動！ このカードを捨てて、戦闘ダメージを1回0にする』

《真六武衆 エニシ》の攻撃は突如出現した大量の茶色の毛玉によって遮断される。

雪乃『…凌ぎ切った。 遊璃につなげた。』

美希『…喜ぶのはまだ早いですよ？ 六武天烈紫炎斬！』

毛玉が消えたところに再び侍が切り込んでくる

雪乃『・・・カハツ！！・・・何故？』

遊璃&雪乃：LP500

京和&美希：WIN

・
・
・
・
・

雪乃『一体何が・・・』

美希『私の最後の手札《六武衆の理》を発動しました。』

《六武衆の理》
ろくぶしゅう ひとつわり

速攻魔法

自分フィールド上に表側表示で存在する「六武衆」と名のついたモンスター1体を墓地へ送って発動する。

墓地に存在する「六武衆」と名のついたモンスター1体を自分フィールド上に特殊召喚する。

美希『この効果で《真六武衆 シエン》を墓地に送って再び召喚して攻撃したんです。』

遊璃『だから《真六武衆 シエン》が攻撃してきたのね・・・』

美希『はい！』

雪乃『成る程。　けど、あそこまで行けたのに悔しかったわね。』

遊璃『まあね。　・・・でも楽しかったでしょ？』

雪乃『ええ。』

京和『私も楽しかった。　満足させてもらったぜ！』

美希『私も楽しかったです。』

理奈『俺もなかなか楽しかった。　特に遊璃ちゃんが怯えているところかな　（あの時は俺のドSの血が目覚めて危なかった。）』

遊璃『わっ！　わっ！　理奈さん忘れてください〜』

理奈『無理だ。』

遊璃『グスッ』

理奈『あ、泣くな。　分かった忘れるから。』

遊璃『本当ですか？』

理奈『本当だ。』

遊璃『・・・信じます』

理奈『ありがとな　遊璃ちゃん』

????『あ〜』

突然5人が話しているところに誰かが割り込んだ

雪乃『誰？』

理奈『ああ、クリスじゃないか。　どうしたんだ？』

京和『お！　残念神じゃないか。　一発殴らせろ！』

クリス『理奈さんどうした？　じゃないです。　遊璃さん達を返すためにここに来たんです。　そして京和さんは何故殴ろうと・・・』

理奈『ああ、そうだった。』

京和『ん〜なんとなくだ』

クリス『理奈さん忘れていたんですか？　しかも京和さんの理由が不純すぎる・・・』

理奈『余りにも楽しいひと時だったものだからつい・・・な！』

京和『別にいいじゃん。　残念神なんだし。』

クリス『気持ちわかりますが、彼女らにも向こうの生活があるんですよ。　京和さんいい加減残念神は止めてください。』

理奈『分かっている』

京和『却下』

クリス『分かつていたのでしたら、尚更です。』

理奈『・・・そうだな。』

・
・
・
・
・

時間は夜の8時過ぎ

クリスを含めた6人はデーモンズ・レッド寮の外にいた。

遊璃『理奈さん、京和さん、美希さん今日は楽しいひと時をありがとうございました。』

理奈『こっちこそありがとな!』

京和『また遊びに来いよ!』

雪乃『ええ。次は負けないわ!』

美希『お二人ともまた会いましょうでしゅ!』

5人『ええ。(ああ)』

クリス『そろそろ時間です。遊璃さんと雪乃さんこちらにどうぞ!』

クリスは《ワーム・ホール》を開いて手招きをしている。

今度は間違わないように自分自身で送るらしい。

遊璃&雪乃『はい。今行きます』

クリス『じゃあワープしますよ!』

雪乃『・・・あ、ちょっと待って。』

クリス『どうしました?』

雪乃『・・・理奈ちゃんちょっと来て。』

理奈『ん? どうした?』

雪乃『《天魔極神ルシファー》をありがとう。返すわね。』

理奈『・・・いいんだ。雪乃がもらってくれ。』

雪乃『ううん。それをもらっちゃうと尚更シンクロ召喚の魅力から離れられなくなってしまうわ。だから・・・』

理奈『・・・そうか。分かった。』

雪乃『それとお礼になるか分からないけれど・・・』

雪乃は理奈の耳元で一言話すと離れた。

そして雪乃は遊璃達の元に戻った。

雪乃『クリス。待たせたわね。』

クリス『いいえ。　じゃあ戻りましょうか。』

遊璃&雪乃『ええ。』

クリス『ワープ!!!』

そうしてクリスを含めた異世界組は消えた。

京和『？　理奈ちゃん　どうしたんだ？』

美希『た、大変でしゅ。　理奈さん鼻血出していましゅ!』

京和『マジか。　というか犯人は1人だよな?』

美希『ええ。　間違いなく雪乃さんでしょう・・・』

京和『おゝい　理奈ちゃん。　なんて言われたんだ?』

理奈『フガ・・・り、理奈・・・お姉ちゃん・・・フガフガ』

京和『・・・』

美希『はわわ・・・』

こうして百合キングの世界での物語は幕を閉じた。

side out

side yuri

・・・少し前の夢。

あの時は雪乃も本当に楽しそうだったな。

でも今雪乃はいない・・・

こんな時理奈さんだったらなんていうだろう？

きつと

『最後まであきらめるな。遊璃ちゃんの親父さんや母親のようにな。』

というでしょうね。

でも、理奈さんの夢を見たお陰で少し楽になったわ。

ありがとう。

綾風理奈さん。

・・・T o b e c o n t i n u e d

遊璃『まず一言、長い、長すぎる！！ 戒鴛24358字ってど
んだけ書いているのよ！！』

戒鴛『ごめんごめん。色々ネタ突っ込んだりしていたらいつの
間にか・・・というか私としては理奈たちの性格とかが大丈夫だっ
たかが心配なのですが・・・』

遊璃『そこら辺は言羽さんに聞かないと分からないわね。 とい
うかネタってどんなの？』

戒鴛『ネタっていうかノルマ。まずは言羽さんの希望のデスドラ、
トリシユ、真シエンの使用。そして私の方のノルマが使っていな
いドラグニティナイトの召喚とルシファアの召喚。』

遊璃『その6個だけでいつもよりも8000字も増えるの？』

戒鴛『増えるんじゃない？ 実際にできているわけだし・・・』

遊璃『しかも最後の雪乃のオマケ台詞いらないでしょ！』

戒鴛『・・・以前感想で理奈から雪乃に「私にも理奈お姉ちゃんか
理奈お姉様って呼んで」っていう要望があったからつい・・・』

遊璃『・・・』

戒鴛『・・・』

遊璃『……いつまでもだんまりじゃいけないわね。 次回はなんなの？』

戒鷲『次回は対抗戦の予定です。』

遊璃『ではまた〜』

どうでもいい余談。

《ドラグニティナイト バルーチャ》の攻撃でデュエルが終了する
場合、攻撃名が終結の槍撃シ・エン下・オブ・ランサーになります

遊璃『……本当にどうでもいいわね』

最後に言羽さん理奈を盾のように使って申し訳ありませんでした。

18話・デュエルアカデミア交流戦 前編(前書き)

今回は地の文を重視していきます

感想の方では今までに比べてどうだったかなどと書いてくれるとうれしいです。

では、ごっご。

18話・デュエルアカデミア交流戦 前編

side yuri

私は今デュエルアカデミアの埠頭にいる。

何故かと言われれば理由は単純明快。

今日が交流試合当日だからだ。

私は朝早めに出てここに来たはずだが、そこにはすでに多くの生徒がいた。

・
・
・

私が埠頭に来て数十分。

沿岸より一つの船 - 否、潜水艇と思わしき船が近づいてきた。

その中から1人の人物が出てきてこちらに手を振る。

生徒たちは対戦相手の学校が来たことに一斉に湧き上がった。

そしてこちら側からは校長先生が進み出て同じく手を振る。

恐らくは旧友か何かの関係なのだろう。

やがて潜水艇が埠頭に定着し、向こう側の校長とこちら側の校長が握手をし、何かを話している。

恐らくはお互いの健闘を称えあっているのだろうが、校長先生の事だ。

何を考えているか分からない。

そうこうしているうちに対戦校：デュエルアカデミアノース校の人たちが潜水艇から出てきた。

出てくると同時にこちらから一人の影が飛び出し、ノース校の人たちに話しかける

『校長先生。そんな話はそれくらいにしてさ。早く俺の相手を紹介してよ。』

質問の内容からも分かるが、声からして遊城君の声だ。

私は校長先生が話し合っている途中に飛び出すのはどうかと思う。

実際校長先生は遊城君を止めようとし、相手側の校長先生に詫びを入れる。

相手側の校長もそれを受け入れ、遊城君を一瞥し、

『いやいや。元気が宜しいようで…』

と返す。

校長先生はその言葉に機嫌をよくする

やはり自分の学校の生徒を褒められるのは嬉しいのだろう。

しかし、遊城君も諦めない

しつこくノース校の人たちに話しかける。

何度かそれを繰り返しているうちにノース校側から返答があった

『俺だ。』

あれ？ この声は…

『誰だ？』

遊城君は姿が見えないからかすぐに疑問で返す。

『俺だ。』

相手方の人物もそれを悟ったのか前に出て答える。

あ、あの人は…万丈目君だ。

『何処だ？』

前に出てきたにも関わらず遊城君は惚ける。

その後何度かそのやり取りを繰り返すうちに万丈目君の機嫌が悪くなる。

それはそうだろう。

遊城君の目の前に来て答えているのに無視されているからだ。

でも私はならとつとと名乗ってしまえばいいのにも思う。

そして万丈目君が拳を震わせてきた頃に…

『万丈目！ ああ万丈目だ。』

遊城君がやっと気づく。

すると万丈目君が言い返す

『万丈目さんだ。』

と。

だが遊城君もまだ対戦相手を理解していないよつでさらに惚ける。

『目の前にいる』

万丈目君は気付いてもらったからか怒りを鎮め、冷静に言い返すが、

遊城君はさらに惚ける

『だから俺だ！』

万丈目君は再びイライラしてきたのか遊城君に向かって怒鳴る。

遊城君はその言葉でようやく理解したようで驚き固まる。

その後遊城君が万丈目君の事を対戦相手かと確認を取ると

『万丈目”さん”だ』

万丈目君はただそれだけを返す。

私としてはいい加減このやり取りに疲れてきたので止めて欲しいな
と思った矢先

今度はノース校の面々がそれに絡む。

『1年！ さつきから聞いていりや、サンダーさんの事を呼び捨て
にしやがって…』

吼えるように言ったのはオレンジ色の服にカリアゲのような髪をし
た男性。

それを万丈目君は宥める。

ところでサンダーさん？

なんでサンダーさんなのだろうか。

もしかしてこれが伝説のプロデュエリスト 万丈目サンダーの始ま
り。

ますます私の中で疑問が始まったところに私たちに向けて突風が吹く。

私はいきなりの事に慌てたが、それは他の人たちも同じようだった。

そしていち早く我に返った遊城君が一つのコンテナの上を指さす。

その場にいた人たちは私を含めてその指先を追う。

そこには…『万』と大きくペイントされたヘリコプターが何機か飛んでいた。

私はこれですべてを納得する。

ああ、これがテレビ撮影の正体だと。

するとヘリコプターの中から2人の男性が出てきて万丈目君に話しかける。

それに対し万丈目君は

『兄さん!』

と答える。

きつと降りてきた二人が万丈目君のお兄さんなのだとその場の人物はすべて理解したであろう。

・
・
・

その後、テレビ局の人が降りてきて私以外の人は驚いていた。

校長先生もそれは知らなかったようで急だがそれについて話し合い許可を出す。

すると同時に遊城君は寝癡を直すと一言残し立ち去り、

まるでそれに釣られる様にアカデミアの生徒はその場を離れた。

…ただ1人、私を除いて。

・

・

・

・

暫くして万丈目君たちも校舎に向かった頃、

残っていた校長先生が私に気付き話しかける。

『おや？ 不動さん。 どうしたんだね？』

私はその問いに対し、

冷静に返す。

『私も対戦相手を知りたくて……でも、テレビ局の人が来たりして聞くタイミングを逃してしまいました……』

それに対し相手側の校長 市ノ瀬校長は答える

『いや、まだ彼女は降り来ておらんよ。だから紹介しようか？』
と。

私はそれに対しては否定した。

周りがこんなにも騒がしくなっても出てこないのはそれ相応の理由があるからと判断したからだ。

市の瀬校長はそれについては何も言わず頷き、こちらの校長先生は

『遊城君にも不動さんのような落ち着きを見せてもらいたいものだ』

とぼやく。

私はその後2人の校長先生に一礼し、校舎へと向かった。

・
・
・
・
・

時は流れ、デュエル会場。

今私は控室でモニターを見ている。

モニターと言ってもテレビ中継される画像を見ているだけだが……

・
・
・

やがて決着が着く頃、モニターが急に消えた。

私はそれに対し、モニターの最後の部分について振り返る。

その部分とは、万丈目君のモンスターが遊城君によって倒され、ライフが0になる寸前の事だった。

歴史の通りにテレビ中継を中止した理由は万丈目グループの為に万丈目君のお兄さんが予め仕組んだものと理解するとともにその事実に失望した。

しかし、それと同時に私は考える。

これでテレビ中継されずにデュエルが出来るって。

そう思うと自然と胸が軽くなった。

・
・
・
・
・

私の予想通り、私がデュエルリングに行くとテレビ局の人たちはいなくなっていた。

その変わりステージ中央で万丈目君が

『万丈目……サンダーア!!!』

と吼えていたが見なかったことにしよう。

・
・
・

それから少しの時間が経ち、私の出番となった。

ステージ上にクロノス先生が現れて発言する。

…足にコードが絡まっているけど大丈夫なのかな……

色々と他の事を気にしていたらクロノス先生が選手紹介に入った。

『デュエルアカデミア代表うー、シニョーラ不動遊璃！ ナノーネ
!!!』

その言葉に対し私はステージに上がる。

アカデミアの生徒は歓声を。

ノー schools の生徒は雄叫びを上げた。

偶に

『可愛い！』

とか聞こえるのは無視しよう。

私がステージに上がると同時にクロノス先生の足に絡まったマイクのコードが更に絡まり、ステージから転落した。

それに対し、満場一致でまたかよ…とため息が漏れる。

このままでは拉致があかないと判断したのか観客席に座っていた市ノ瀬校長が大声を出す。

『ゴホン。では我が校の女子代表を紹介しよう。桃^{もも}栞^{しほ}——瑞^{みずは}波^{なみ}！じゃ。』

その紹介とともに私は視認できなかったが、

ステージに上がってくる濃い青の髪をポニーテールにした美女。

その人物の登場とともに

ノース校は

『姉御おー！……！』

と

アカデミアからは

『・・・・・・・・』

と無言だった。

まあ、私でさえ一瞬言葉を失ったのだし仕方ないと思う。

まあ、とりあえず対戦相手の彼女 いや桃埜さんが話しかけてきた。

『よろしくな!』

つと言い、右手を差し出す

それに対して私も

『はい。よろしくお願ひします!』

と返し、右手を出しお互いに握手する。

その握手が行われた瞬間、両校から拍手が巻き起こった。

きつとお互いの健闘を称えあうための拍手だと私は理解した。

・
・
・

握手の後、私たちはお互いのデッキをシャッフルしあい、距離を取る。

因みに入学当初私はシャツフルに慣れていなかったの（自動だったから）、ぎこちなかったが雪乃達にコツを教わり今では普通にできるようになった。

構えると同時に私は最近取り付けたデュエルディスクの自動シャツフルスイッチを切る。

相手に積み込みだと誤解されないためだ。

その証拠に私がデッキをセットしても自動シャツフルは行われなかった。

そして桃堃さんもデュエルディスクを構え、足は肩幅に開く。

私は足を閉じ、直立の体制で構える。

そして

『デュエル！』

デュエルアカデミア交流戦女子の部が始まった。

遊璃：LP / 4000 / 瑞波：LP / 4000

『先攻はあたいが貰うよ！ ドロー！』

桃堃さんはデッキからカードを勢いよくドローする。

そして少し考えた後に3枚のカードをディスクに差し込む。

『あたいはカードを2枚セットし、永続魔法《スライム増殖炉》を発動するよ!』

桃堃さんのフィールドに裏側表示のカードが現れ、その横に銀色の大きな炉が現れる。

《スライム増殖炉》
ぞうしよくろ

永続魔法

自分のスタンバイフェイズ毎に自分のフィールド上に「スライムモンスタートークン」

(水族・水・星1・攻/守500)を1体攻撃表示で特殊召喚する。
このカードが表側表示でフィールド上に存在する限り、自分はモンスターを召喚・反転召喚・特殊召喚する事はできない (「スライムモンスタートークン」を除く)。

そして桃堃さんは更にカードを使用する

『更にあたいは魔法カード、《マジック・ガードナー》を発動。
対象は当然《スライム増殖炉》だ。』

《マジック・ガードナー》

通常魔法

自分のフィールド上に表側表示で存在する魔法カード1枚を選択し、カウンターを1個乗せる。
選択したカードが破壊される場合、代わりにカウンターを1個取り除く。

桃堃さんは1枚の魔法カードを私に見せて対象を宣言すると、

1機の機械がフィールドに現れ、《スライム増殖炉》に光線を浴び

せて消えた。

光線を浴びた《スライム増殖炉》は虹色の膜を纏っている。

《スライム増殖炉》：カウンター / 0 1

『ターンエンドだ!』

桃埜さんはその後に何もせずターンを終えた。

瑞波：LP / 4000

モンスター：なし

魔法・罫：《スライム増殖炉》、2枚

手札：2枚

フィールド：なし

適用効果：自分は《スライムトークン》以外の召喚・反転召喚・特殊召喚を行うことが出来ない

その宣言と共に私にターンが周ってくる。

ドロウする前に先ほどの桃埜さんのプレイからどんなデッキか考える。

しかし、それを理解することはできない。

私は《スライム増殖炉》というカードを知らなかったからだ。

だから何故モンスターを召喚しなかったのか。

それ程までに《スライム増殖炉》を守る必要があるのか。

等と数々の考えが私の脳裏を翳める。

だけど、今は考えている暇がない。

『私のターン。　ドロー』

私は直立の体制を崩さずにカードをドローする。

そのドローカードを確認し、出来ることを即座に決め、1枚のカードを提示する。

『私は手札から魔法カード《愚かな埋葬》を発動。　デッキから《ドラグニティ　ファランクス》を墓地に送るわ。』

私がカード名を宣言するとデュエルディスクが1枚のカードをデッキから押し出す。

私はそのカードをそのまま墓地に送り、デッキをシャッフルした。

『《愚かな埋葬》……送ったモンスターはいいとして自分からモンスターを墓地に送るから殆ど使用されないカード。（ボソ）』

その時に桃堃さんが私のカードに反応して何かを呟くが、私は何を言ったのか聞き取れなかった。

その後に私の手札からカードを1枚取り出してモンスターゾーンに置く。

『《ドラグニティ　ドゥクス》を召喚！』

私の場に現れるのは白い服を羽織り、指揮棒のようなものを持つ鳥人。

《ドラグニティ ドウクス》は場に出るとともに、その身を震わせてポーズを決める。

《ドラグニティ ドウクス》：ATK/1500 1700

『攻撃力が…』

桃埜さんが少し驚いていたので私は《ドラグニティ ドウクス》の効果の説明し、墓地から《ドラグニティ ファランクス》を取り出そうとする。

しかし、その瞬間に私の手に軽い静電気が流れた。

この反応は効果を無効にされた時に起きる現象。

だから私は桃埜さんの場を見る。

するとそこには1枚の罨カードを表になっていた。

『罨カード、《スキルドレイン》を発動するよ！ これの効果は…知っているよな？』

桃埜さんが確認してくるので私は頷く。

《スキルドレイン》

永続罨

1000ライフポイントを払って発動する。
このカードがフィールド上に存在する限り、
フィールド上に表側表示で存在する効果モンスターの効果は無効化
される。

桃堃：LP/4000 3000

桃堃さんのカード効果が有効になると同時に私のフィールドの《ドラグニティ ドウクス》も赤いエネルギー：多分モンスター効果を《スキルドレイン》に吸収された。

《ドラグニティ ドウクス》：ATK/1700 1500

そして予想できなかったカードの発動に動揺しながら手札を見つめるが、残念ながら魔法カードで手札に打開できるカードがない。

しかし、桃堃さんのフィールドにモンスターがない為に攻撃を試みる

『では、《ドラグニティ ドウクス》で直接攻撃！』

《ドラグニティ ドウクス》が手に持つ指揮棒を振ると突風が吹く。

その風が桃堃さん目掛けて一直線に進んだ。

『甘いよ！ リバースカードオープン！ 《ドレイン・シールド》
』！

《ドレインシールド》

通常罫

相手モンスター1体の攻撃を無効にし、そのモンスターの攻撃力分の数値だけ自分のライフポイントを回復する。

《ドラグニティ ドウクス》の起こした突風は突如出現した透明な壁に遮られれ吸収される。

やがて突風が止むと、《ドレインシールド》に吸収されたエネルギーが、桃堃さんのライフを回復させた

瑞波：LP / 3000 4500

私は攻撃が逆手に取られた上に《スキルドレイン》で減ったライフを補われたことに驚愕し、唇を噛む。

だがそれも一時的な事。

すぐさまメインフェイズ2に移行し、手札のカードを伏せる。

『カードを2枚伏せて、ターンエンド。』

そして私はターンを終了した。

遊璃：LP / 4000

モンスター：《ドラグニティ ドウクス》（A1500）

魔法・罫：2枚

手札：2枚

フィールド：なし

適用効果：モンスター効果は無効となる。

そして攻撃を封じて上機嫌なのか桃埜さんは再び勢いよくカードを引く。

そしてメインフェイズに移るのかと思いきや、

『あたいはスタンバイフェイズに《スライムトークン》を特殊召喚するよ！』

桃埜さんの場の炉が震えると中から変な顔を持つスライムが1体射出された。

《スライムトークン》：ATK/500

その事に私は少し納得を覚えた。

桃埜さんのデッキはトークンを主軸としたデッキ。

トークンはルール上通常モンスターとして扱うから《スキルドレイン》とも相性がいい。

そう考えるとともにここが過去だという事に安堵し、息を吐く。

もし未来であれば《トークン感謝祭》や《暴走闘君》、《大熱波》などと言ったカードを組み合わせることでトークンは恐ろしいデッキになるからだ。

(ややこしくなるので効果は載せません by 戎鴛)

未来の知識を久々に出した後にここが過去だという事に更なる安心

感を私は得た。

安心感が出ると私は周りに耳を傾ける余裕が出来た。

s i d e o u t

s i d e a s u k a

遊璃がデュエルを始めた。

始まるまではまだ雪乃の事を引つ張っているのか心配したけれど、声の具合や表情からは心配ないみたいね。

ただどあの対戦相手の子のデッキ、全く理解できない。

私は傍に亮がいたので聞いてみる。

『亮、あの子のデッキどう思う?』

すると亮は

『俺でも分からない。今のデュエルはレベルが高く、攻撃力の高いモンスターを出すデュエルが主流。自分のモンスターを召喚する権利を捨ててまで発動する価値があるのか…』

亮はそう言うとフィールドを見つめ、考え込んでしまった。

こうなると私には手を付けられない。

私も静かに観戦しましょう…

∴
∴
∴

でも周りの生徒がうるさいわ

何でも

『あんなカード使う奴がいるなんて…』

等と話している。

中でもノース校と隣り合わせの生徒は口論を始めそうな勢いね。

静かにすることはできないのかしら…

s i d e o u t

s i d e m i z u h a

いつもそうだ。

私がこのデッキを使うと必ず罵倒される。

親もそうだった。

私がこのデッキを使うとデュエルの後に必ず文句を言ったり怒られたり…

私はそれが嫌でノース校に入った。

ノース校に入るときの試験は大変だったわ。

女の私にでさえ、試験内容を緩めてくれることなくカードを40枚集めさせられた。

女子生徒は私1人だったけれど、集めたカードのデュエルで私はトップに立った。

え？ さっきと一人称が違ってます？

私の素はこっち。

ノース校は男子生徒ばかりだからこの口調の方が都合がいいの。

それで私は入学試験後にデッキが自由になってからはこのデッキ達を使いだしたわ。

当初は皆親と同じことを言っていたけれど、私がこのデッキで相手を圧倒することに何も言わなくなったわ。

その時に私はこのデッキが認められたと思った。

でもそれは早とちりだったのかもしれないわね。

対戦相手の学校の人たちは私のデッキを罵倒してくる。

唯一何も言わないのが対戦相手の不動遊璃さん。

彼女は今何を考えているのかしら。

何も言わずに心の中で私のデッキを罵っているのかな？

多分そうよね。

このデッキは今の環境では常識破りもいいところだから…

…

…

…

そこにまさか彼女から聞けるなんて思わなかった。

side out

side yuri

さつきから聞いていれば、桃埜さんのデッキを雑魚やらクズなどと。

あんなにも考えられたデッキなんてそうないのに…

ああ…私の我慢も限界に近づいてきた…

そこにノース校とアカデミア校の間で口論が始まった。

ブチ

どこかで何かが切れる音がした。

あれ？ この感じ、どこかで…

それと同時に私の意識は遠のいた。

side yuri

side mizuha

『うるさいわね。 ちょっとは静かにしなさい！』

いきなり彼女が声色を変えて怒鳴りだす。

それと同時に会場は静まった。

それもそうだろう。

見かけにもよらず凄い声ですものね。

『ヒッ』

近くで怯えるような声が聞こえたけれど、何かしら？

…

まあいいわ。彼女が何を言うのか。しっかりと聞きましょう。

『アカデミアの君達？ 何に対してさっきから雑魚やらクズカードとか言っているのかな？』

まず出だしはこうだった。

多分会場に聞いたうえで罵るのね…

やはり彼女も…

会場からはポツポツと《スライム増殖炉》やら《スキルドレイン》
等と答えが返ってきた。

まあ、予想通りだけど…

その言葉を聞き、彼女は言う

『あなたたち馬鹿じゃないの？ あのカードは桃埜さんが1枚1枚
信じて入れたカードよ！ 私にはね。 桃埜さんのデッキからはあ
なた達のように強いカードを入れただけのデッキから感じるような
気配は感じない。 強敵の気配。 そしてデッキを信じている心を
感じるわ！』

え？

今なんて言ったの？

彼女、もしかして私のデッキを…

『あなた達のような適当にデッキを組んでいる人とは違うのよ！
もう少し桃埜さんのデュエルを見ればそれが分かるわよ！』

始めてよ。

私のデッキを初見で強敵等と言い、罵らず、褒めてくれたのは。

こんな子も世の中にはいるのね。

私、少し世の中を変に見ていたのかな…

そう考えていたら、ノース校側から

『不動さん。よく言った！！ 姉御！ 頑張つて下せえ！…！』
×100くらい

そう言われるとはね。

『あたいのターン、続けていいかい？』

一応聞く。

『…ハッ！！ 私は今まで一体何を… あ、どうぞ。続けて
ください。』

急に元に戻ったわね。

さっきまでの夢…じゃなさそうね。

ノース校の歓声が止んでいないもの。

さて、初めてこのデッキを心から認めてくれた彼女に精一杯の誠意
を見せましょうか…

side out

えっと、私は先ほど何をしていたのだろうか…

とりあえず、ノース校の人たちが私も応援してくれているのは分かる。

でもいったい何を？

そう考えていたら、桃埜さんが話しかけてきた。

『不動。ありがとな。あたいのデッキを初見でそう言ってくれたのはあんたが初めてだ。この後はお互いに楽しいデュエルをしよう、なっ！』

そう言っただけで彼女は笑みを浮かべた。

ノース校側からは

『あ、姉御が笑った…』

『何！？ カメラ持ってくれば良かった』

等と色々な言葉が飛び交っている。

私がそれに対し、返事を返すと、桃埜さんは手札のカードを1枚引き抜きディスクにセットした。

『あたいは《強欲な壺》を発動するよ！ この効果で2枚のカードをドローする。』

桃埜さんはカードを2枚勢い良く引き、4枚の手札を見つめる。

そして出すカードを決めたのが、1枚のカードを私に見せる。

『あたいは魔法カード《アームズ・ホール》を発動！ デッキの1番上のカードを墓地に送り、デッキから装備魔法《下克上の首飾り》を手札に加える。』

《アームズ・ホール》

通常魔法

（効果は瑞波の説明通り。 但し、墓地からも手札に加えることが出来る）

《下克上の首飾り》

装備魔法

通常モンスターにのみ装備可能。

装備モンスターよりレベルの高いモンスターと戦闘する場合、

装備モンスターの攻撃力はレベル差×500ポイントアップする。

このカードが墓地へ送られた時、このカードをデッキの一番上に戻す事ができる。

私は予想が当たってしまった上にキーカードが手札に加わったので困ったような顔を浮かべる。

すると桃埜さんは

『その顔だとこのカードの効果は知っているようだね……（このカードの効果まで知っているとは……）』

桃埜さんは私が効果を知っていると感じ取るとさらに考え込んでいく。

しかし結局は使うことに決めたようだ。

『あたいは《スライムトークン》に《下克上の首飾り》を装備するよ！』

《スライムトークン》に首飾りをかけようとするが、首がない為かけることが出来ない。

すると焦れたのか《スライムトークン》が首飾りを啜える。

それだけならなんともないのだが、《スライムトークン》は首飾りを食べた。

まさかの装備方法に私は声が出なくなる。

すると

『気にすんな。 毎回こんな装備方法なんだ。』

と桃埜さんが説明する。

毎回なんだ……

そう考えることで何とか気持ちを落ち着ける。

落ち着いた頃を見計らい、桃埜さんが続けてきた。

『バトルだ。 《スライムトークン》で・・・』

と言ってきたのですぐに止める

『で、ではメインフェイズ終了時に《ドラグニティ・ゲットライド！》を発動。 墓地の《ドラグニティ

フアランクス》を装備。』

私の魔法・罨ゾーンに《ドラグニティ フアランクス》を差し込むと、《ドラグニティ ドウクス》の後ろに金色の鎧を纏った青い龍が現れた。

しかし、効果が吸収されている為に攻撃力は上がらない

『だが攻撃力は変わらない！ 《スライムトークン》で《ドラグニティ ドウクス》を攻撃！』

《スライムトークン》がどんな攻撃をしてくるかと思っていたら、粘液の付いた首飾りを吐き飛ばしてきた。

それはないでしょ…

普通体当たりじゃない？

と疑問を浮かべるが、攻撃がすぐそばに迫っていたのでフィールドに残ったもう1枚のカードを発動させる。

『罨カード発動！ 《ドラグニティ・ブレイク》！』

《ドラグニティ・ブレイク》（言羽・D・カタストロフィーさん投稿オリジナル）

通常罨

装備されている「ドラグニティ」と名のつくモンスターを墓地に送り発動する。

相手フィールド上に表側表示で存在するカードを2枚選択し、破壊する。

私がこのカードを発動し、《ドラグニティ ファランクス》を墓地に送ると、私の場に2つの砲塔を持つ砲台が現れ、標準を定める。

私は少し悩んでから《スキルドレイン》と《スライム増殖炉》と指示する。

砲台から2つの弾が発射され、2枚のカードにぶつかった。

…
…

しかし、破壊されたのは《スキルドレイン》だけであった。

『どっしってっ』

そう疑問を口にする

すると

『《マジック・ガードナー》によって置かれたカウンターを取り除

き、《スライム増殖炉》の破壊を無効にした。』

《スライム増殖炉》：カウンター／10

《マジック・ガードナー》の存在を考え込んでいるうちに忘れていた私は再び唇を噛んだ。

それでも《スキルドレイン》が破壊されたため、《ドラグニティドゥクス》は力を取り戻す

《ドラグニティ ドゥクス》：ATK／1500 1700

そしてその後にスライムの粘液が4倍の大きさになる

《スライムトークン》：ATK／500 2000

やがてスライムが飛ばした首飾りは《ドラグニティ ドゥクス》にぶつかり、《ドラグニティ ドゥクス》はぶつかった時に触れた粘液に溶かされて破壊された。

遊璃：LP／4000 3700

《スライムトークン》：ATK／2000 500

ダメージは減らしたが、私は自分のプレイミスを悔やんだ。

あの場で破壊すべきだったのは《スライム増殖炉》ではなく《下克上の首飾り》であったと気付いたからだ。

だが時は既に遅し。

結果として《ドラグニティ ドウクス》は破壊され、私のデッキに貴重な魔法・罫カードを破壊するカードを消費してしまったのだ。

自分が悔やんでいてもデュエルは止まってくれない

『あたいはカードを3枚伏せて、ターンエンド。』

瑞波：LP/4500

モンスター：《スライムトークン》（A500）

魔法・罫：《スライム増殖炉》、《下克上の首飾り》、3枚

手札：0枚

フィールド：なし

適用効果：自分は《スライムトークン》以外の召喚・反転召喚・特殊召喚を行うことが出来ない

そして再び私のターンが回ってきた。

しかしやはり始める前に色々と考えてしまう。

だがやはり今の手札を見て考えても意味はない

今はただデュエルを続けるしか方法がないからだ。

『私のターン！』

このドロローで全てが変わる。

私は今まで直立していた姿勢を変え、足を肩幅まで開く。

そしてカードを勢いよくドロした。

・・・T o b e c o n t i n u e d

18話・デュエルアカデミア交流戦 前編（後書き）

地の文重視で書いてみました。

どうでしたでしょうか。

遊璃が普段考えていたこと等が伝わったでしょうか？

伝わったのであれば幸いです。

今回はこの書き方のお試しなので途中で切りました。

因みに瑞波のデッキは私の持っているデッキの1つです。

下克上スライム楽しいですよね…？

今更ながら最終回とその付近について…

遊星の研究と本作の研究が被らなくて良かったー

大人遊星が出なかつたことと、アキもドクター十六夜じゃなくてドクターアキと呼ばれているところから色々考えることが出来るからこの小説もその1つに使えてよかった。

最後ジャンク・ウォリアーで終わりましたが、背景を変えただけの最初のOPな気がしたのは気のせい……？？

他にも色々ありますが、1つだけ？

結局ルドガーとゴドウィンどうなったんだ？

イリアステルと（以下略ー）と言って消えたけど……

イリアステルの面々の台詞に全然でないし……

気になりすぎるw

19話・デュエルアカデミア交流戦 後編（前書き）

後編です

今回もお試しの書き方です。

最後に新規カードを載せました。

効果を台詞に回したので多少見やすくなったとは思いますが、
どうでしょうか？

その点について特に感想等を書いてくださると今後の執筆が非常に助かります。

19話：デュエルアカデミア交流戦 後編

フィールドのおさらい

遊璃：LP / 3700

モンスター：なし

魔法・罫：なし

手札：2枚

フィールド：なし

適用効果：なし

瑞波：LP / 4500

モンスター：《スライムトークン》（A500）

魔法・罫：《スライム増殖炉》、《下克上の首飾り》、3枚

手札：0枚

フィールド：なし

適用効果：自分は《スライムトークン》以外のモンスターの召喚・反転召喚・特殊召喚を行うことが出来ない

ターンプレイヤー：遊璃

フェイズ：ドローフェイズ前

s i d e y u r i

必ずドローしてみせる。

この状況を切り抜けるカードを！

お願い、私のデッキ。

『私のターン！ ドローー！』

私は今まで閉じていた足を肩幅にまで開き、デッキの上からカードをドローする。

ドローしたカードを見る……

残念ながら望んだカードではなかった。

しかし、ある程度行動はできる。

その為に私は今ドローしたカードを桃埜さんに提示する。

『このカードは手札から墓地に送ることによってデッキから《竜の渓谷》を手札に加えることが出来る。 私は手札より《ドラグニティリーダー》を墓地へ。』

私が《ドラグニティリーダー》の効果の発動を宣言すると、デッキから1枚のカードが飛び出した。

私はそれを手札に加え、デッキをシャッフルする。

そしてデッキを元に戻してからディスクの端にあるフィールド魔法ゾーンを開く。

…

桃堃さんが何もしないのを確認してから手札のカードをそこに置く。

『フィールド魔法、《竜の渓谷》を発動。』

すると、私と桃堃さんを囲うように半透明の谷が現れる。

谷の上空では龍が咆哮をあげた。

しかし桃堃さんはまだ何も行動を起こさない。

私にはそれが不気味に見えたが、今は続ける以外の選択肢がなかった。

『私は《竜の渓谷》の効果を発動！手札から《ドラグニティパルチザン》を墓地へを送り発動。』

そう言うってから桃堃さんに効果を一通り説明する。

先ほどの《ドラグニティ ドウクス》のようにカードを展開するのを恐れたのか、1枚のカードが起き上がった。

そのカードは……

《サイクロン》。

突如フィールドに竜巻が出来上がる。

それによって私の《竜の渓谷》は吹き飛ばされ、効果は不発となった。

『クツ…モンスターをセットし、ターンを終了。』

仕方なく私はモンスターをセットし、ターンを終える。

遊璃：LP / 3700

モンスター：1枚

魔法・罫：なし

手札：0枚

フィールド：なし

適用効果：なし

私のターンを何もできずに終了したためかアカデミア側からは諦めの声やため息が聞こえる。

対してノース校側からは歓声の嵐。

これがもし戦であれば、戦力の前に士気で負けるであろう。

私はそう思った。

そんな中、桃埜さんは歓声には目をくれずにカードを引く。

『あたいのターン！』

桃埜さんはドローしたカードを眺めていたが、やがて行動を起こす。

『あたいはスタンバイフェイズに《スライムトークン》を特殊召喚する。』

炉から再び1体のスライムが作られ、フィールドに射出された。

《スライムトークン》：ATK/500

早く破壊しなければ……そう思い先のターン、パルチザンを墓地に送って行動したが、今思えば急ぎ過ぎたのかもしれない。

だが、あの状況を早めに改善しなければならなのは事実だ。

その相反した思いが私を焦らせている。

そういう意味でも桃埜さんは強い。

私にこう思わせたのは滅多にいない。

雪乃でさえ、ここまで焦ることはなかった。

そうこう考えているうちにデュエルは進む。

『バトルだ。』 《下克上の首飾り》を装備した《スライムトークン

《で攻撃！》

再びスライムが首飾り付きの粘液を飛ばす。

それが近づくとつれて私のモンスターは表となり、その姿を見せる。

そしてその姿に合わせるように粘液も大きさを増した。

《スライムトークン》 : ATK / 500 2000

大きくなった粘液は私のモンスターに直撃するが、モンスターは破壊されず、首飾りを跳ね返した。

それをスライムは空中で飲み込む。

「…互角か。」

桃埜さんがそう零した。

私のモンスターは守備力2000のモンスター《デブリ・ドラゴン》だからだ。

《デブリ・ドラゴン》 : DEF / 2000

桃埜さんは他のモンスターでも破壊できないことを知ると、バトルフェイズを終え、ターンを終えた。

瑞波 : LP / 4500

モンスター : 《スライムトークン》 × 2、

魔法・罫 : 《スライム増殖炉》、《下克上の首飾り》、2枚

手札：1枚

フィールド：なし

適用効果：自分は《スライムトークン》以外のモンスターの召喚・
反転召喚・特殊召喚を行うことが出来ない

そして再び私のターンが周ってくる。

今度こそお願い！

そう願ってデッキの一番上のカードを引き抜き、見る。

……来た。

『どうやらいいカードを引いたみたいだな。だがあたいはそれを
発動させはしない！ リバーズ罫！ 《水霊術 葵》！』

桃埜さんは私がドロした瞬間に一瞬顔が弛んだのを見逃さず、罫
カードを発動してくる。

発動の為に首飾りを呑み込んでいないスライムが生け贄となり、罫
カードから一人の少女が出てくる。

その少女が何かを唱えると、私の手札が桃埜さんに明かされた。

私がドロしたカードは…

…

∴
∴

《ハリケーン》。

私のデッキに入っている大量の魔法・罫カードに効果のあるカードの1枚。

それが《水霊術 葵》から出てきた少女の魔法によって打ち抜かれた。

私は折角の逆転のカードを失った。

それによって諦めずに私を応援してくれた人も減り、アカデミア側からは殆ど何も聞こえなくなってしまった。

しかも私にはもう手札がない…

私はそのまま

『ターンエンド…』

ターン終了を宣言する以外なかった。

遊璃：LP/3700

モンスター：《デブリ・ドラゴン》(D2000)

魔法・罫：なし

手札：0枚

フィールド：なし
適用効果：なし

『あたいのターン！』

桃堃さんはカードをドローする。

『クツ：スタンバイフェイズに《スライムトークン》を特殊召喚…』

桃堃さんの場の炉から3度スライムが精製される

《スライムトークン》：ATK/500

『あたいはカードを伏せて、ターンエンド！』

その後、桃堃さんは1枚のカードを伏せてターンを終えた。

恐らく、私のモンスターを破壊できるカードを引き当てることが出来なかったのだろう…

瑞波：LP4500

モンスター：《スライムトークン》（A500）×2

魔法・罫：：《スライム増殖炉》、《下克上の首飾り》、2枚

手札：1枚

フィールド：なし

適用効果：自分は《スライムトークン》以外のモンスターの召喚・反転召喚・特殊召喚を行うことが出来ない

《ハリケーン》を失った今、私のデッキに逆転の切り札はほぼないに等しい。

『私のターン！』

でも私は諦めない。

諦めたらそこで全てが終わってしまう気がするから。

『ドロー！』

…

…

…

ドローカードは…

と必死の思いで確認する。

引いたカードは…

うん。いける！

『私は《強欲な壺》を発動。それによってカードを2枚ドロー！』

私は今引いたカードを桃埜さんに提示し、何もしないのを確認すると、デッキからカードを2枚引いた。

引いたカードは…

《ドラグニティ トリプル》。

ともう1枚。

今までの反応なしから推定して、桃堃さんのセットカードの1枚は《スライム増殖炉》を破壊から守るカード。

もう1枚は……多分戦闘補助カードでしょうね。

それなら…大丈夫かもね。

「私は、《ドラグニティ トリプル》を召喚！ その効果を発動。」

私が効果を説明すると桃堃さんはそれを少し悩んでから通す。

…もしかして、《天罰》だったりしないわよね…？

嫌な予感が私を包む。

予感も何もブラフかもしれないが、効果発動で悩む必要はないし、《スキルドレイン》なら発動したはず。

そして過去の時代で残っている効果を無効にするカードは他には《天罰》くらいしかない…

でも発動を宣言した以上、続けるしかない。

『私は《ドラグニティ トリブル》の効果で、《ドラグニティ ムラサメ》を墓地へと送る。』

墓地に送ったのは日本刀のような容姿の竜。

これを墓地に送っておけば、何とかなるかも…

…

…

ここまで考えたとき、私の脳裏に1つの可能性が浮かび上がる。

あった。

この状況を逆転できる方法が…

ならばそのカードを使えば、何とかなるかもしれない。

そうと決めれば今やることは1つ。

『行きます。 レベル1《ドラグニティ・トリブル》にレベル4《デブリ・ドラゴン》をチューニング！』

私の場の《デブリ・ドラゴン》が咆哮をあげるとその咆哮によって起こった音の波が4つの波動となり輪と化す。

その中に《ドラグニティ トリブル》が1つの星となって通り抜け

る。

…

刹那、

一筋の光が会場を照らしつくした。

+ || x 5

『秘境の竜騎士が白槍はくそでうを構え、守りし者を貫く！戦場を鎮める風となれっ！シンクロ召喚！ 舞え！ 《ドラグニティナイト・グラーシーザ》！』

光が晴れると、私の場に紫色の竜に跨る1人の女竜騎士が出現していた。

《ドラグニティナイト・グラーシーザ》：ATK2300

『シンクロ召喚？』

『はい。 チューナーモンスター1体と、チューナー以外のモンスター1体以上を墓地に送り、墓地に送ったモンスターの合計レベルと等しいシンクロモンスターをエクストラデッキから特殊召喚する。それがシンクロ召喚です。』

『……………(クツ)…そんな方法でモンスターを出してくるなんて……………私の伏せカードは《王家の呪い》と《デストラクシオン・ジャマー》。止められない… さっき悩むふりをしてみたが、こうなると……………(』

『そしてシンクロ召喚をした《ドラグニティナイト・グラーシーザ》の効果を発動！ シンクロ召喚に成功したとき、墓地から《ドラグニティ ムラサメ》を装備する！』

《ドラグニティナイト・グラーシーザ》の持つ槍が日本刀に変化した。

『攻撃力2700のレベル5モンスターだと・・・』

桃埜さんは素直に驚いていた。

『（これで《下克上の首飾り》の効果を使用したスライムにも負けはしない。となれば、今のうちに多くのダメージを与える。）
バトル！ 《ドラグニティナイト・グラーシーザ》で何も装備していない《スライムトークン》を攻撃！ 壊盾一閃！』

《ドラグニティナイト・グラーシーザ》は私の攻撃命令と共に天井に向かって飛び立つ。

そして天井に着いたと思われる頃に天井のライトを日本刀の刀身で反射させ、会場内に拡散させた。

私は何か発動するのではないかと桃埜さんの方ばかり見ていたのであまり被害はなかったが、会場の殆どの人はあまりの眩しさに目を瞑った。

所々で眩しいなどと色々な声上がる中、《ドラグニティナイト・グラーシーザ》は急降下を始め、一刀のもとに《スライムトークン》を切り捨てた。

『グッ!!』

瑞波：LP4500 2300

そして攻撃が終わり桃堃さんに2200のダメージが入った時、辛うじて目を瞑っていなかったアカデミア生徒が喚き立つ。

アカデミア生徒の誰もが勝てる。 そう思ったからだ。

私はその例にならず、大量のダメージを与えたが厳しい顔つきをしていた。

勝負は次の桃堃さんのターンを凌ぎ切った後だから。

そう思い、私は《強欲な壺》で引いたもう1枚のカードを伏せる

『カードを1枚伏せ、ターンエンド。』

そして私はターン終了を宣言した。

遊璃：LP3700

モンスター：《ドラグニティナイト・グラシーザ》（A2700）

魔法・罫：《ドラグニティ ムラサメ》、1枚

手札：0枚

フィールド：なし

適用効果：なし

『あたいのターン!』

桃埜さんは少し精彩を欠いている。

私の伏せカード次第では、このままないも装備していない《スライムトークン》を破壊されれば、ライフが持たないことを理解しているからだろう…

だが、天使は桃埜さんに味方した。

ドローカードを確認した桃埜さんがニヤリと笑い言う。

『さっきのターン、《下克上の首飾り》を装備したスライムが破壊されなくて良かったぜ。』

『なっ!?!?』

もしかして攻撃力の低い方を狙ったのはミス!? と考えてしまう。

それだけに今の言葉は衝撃的だった。

『(まあ、破壊されても首飾りの効果でデッキの一番上に戻せば変わらなかったんだが…) スタンバイフェイズ、《スライムトークン》を特殊召喚!』

桃埜さんの場に4度 《スライムトークン》が射出される。

《スライムトークン》 : ATK500

『(さて、さっきのターンは《デストラクション・ジャマー》の効果のコストの為に手札に残っていたカードを使いますか。) 手札からフィールド魔法《湿地草原》を発動するよ!』

そういうと、桃堃さんはフィールド魔法ゾーンに1枚のカードを設置した。

同時に会場に雑草が生え、ホログラムの豪雨が降り注ぐ。

その豪雨によって雑草が急激に成長した。

『この効果で水属性・水族・レベル2以下のモンスターの攻撃力は1200ポイントアップする!』

『なっ!?!』

私が驚きの声を上げ、

『『『『『『『『『『『『1200も!?!』』』』』』』』』』』

アカデミア側からはアップ数値に対する驚きの声が上がった。

ノース校側からは

『あ、姉御の最強布陣だ...』

『攻撃力1700のスライムが毎ターン...ああああ!?!...』

等と色々な声が上がっている。

え？

ちょっと待って。

『ちょっと確認させて。もしかして《スライムトークン》って。』

私が質問を投げかけると桃埜さんにはにっこりと笑い

『レベル1の水属性・水族だ。』

と言った。

という事はつまり……

理解したとき、豪雨の水分を吸収したのか2体の《スライムトークン》が最初の約3倍の大きさの《スライムトークン》に成長していた。

《スライムトークン》：ATK / 500 1700

《スライムトークン》：ATK / 500 1700

私は《スライムトークン》の大きさに思わず後ずさった。

それを見た桃埜さんが言う。

『逃がさないよ！ 《スライムトークン》で《ドラグニティナイト・グラーシーザ》を攻撃！』

攻撃を仕掛けてきたのは勿論首飾りを装備した方。

今までよりも巨大な粘液を吐いてくる。

それを避けようと女竜騎士は竜に命じ飛び立とうとするが、少しとはいえ豪雨を浴びた竜は翼の重さに飛び上がることが出来ない。

女竜騎士がもたついている間にスライムの粘液はその大きさを増し、女竜騎士の眼前に迫っていた。

《スライムトークン》：ATK/1700 3700

仕方なく女竜騎士が竜を破棄し、逃げ出そうとするが、時既に遅く、粘液は龍諸共女竜騎士を包み込み溶かしてしまった。

そしてその溶かし終わった後に残った粘液が私の方に礫となって飛来する。

『ウウ…』

遊璃：LP3700 2700

私のライフが削られた。

けれどもそれは私が待ち望んでいた瞬間でもあった。

『この瞬間、リバーズ畏発動！ 《烈風嵐》！ このカードは風属性のシンクロモンスターが破壊されたときにライフを半分払うことで発動できる。』

遊璃：LP2700 1350

私のライフがもう1体の《スライムトークン》の攻撃力を下回るが、今は関係ない。

『《烈風嵐》はフィールド上の全てのカードをデッキに戻す!』

『何!』

桃埜さんは驚きの声を上げるがもう遅い。

豪雨が降りそそぐ地に突如計り知れない強さの嵐が現れ、すべてを消し去っていく。

やがてその嵐が過ぎ去る頃、フィールド上のカードは全てなくなっていた。

するとノース校から

『あ、姉御の最強布陣が…』

等と声が漏れる。

『まさかデッキに戻されるとはね。　してやられたよ。』

桃埜さんが声をかけてくる

『何とか賭けに勝てたみたいです。』

私が安心した声を上げると

『そのようだね。　だがあたいはまだ負けてないよ！　カードを1枚セツトし、ターンエンド！』

そう言い、私にターンを回してきた。

瑞波：LP2300

モンスター：なし

魔法・罫：1枚

手札：0枚

フィールド：なし

適用効果：なし

『私のターン。』

私は恐らくは最後のカードになるだろうと思い、カードをドローする。

『私は、《ドラグニティ ドウクス》を召喚！　その効果で《ドラグニティ ムラサメ》を装備！』

私が最後にドローし、召喚したカードは最初の召喚したものと同じでデッキに2枚入れている《ドラグニティ ドウクス》。

再び現れた白い鳥人の持つ棒が日本刀へと変わる。

《ドラグニティ ドウクス》：ATK/1500　1900　2300

『フツ……（攻撃力が私のライフと同じか。 どうやら最後の賭けも……）』

桃埜さんが息を吐き出す。

それを見て私は召喚に対しては何もないと感じ、次の段階に移った。

『《ドラグニティ ドウクス》で直接攻撃！』

日本刀を構えた白い鳥人が桃埜さん目掛けて飛び立つ。

そして日本刀を振り下ろそうとしたその時、

『…残念だけど、最後はあんたも道連れだ。』

桃埜さんがそう言い、私が言い返す前に、

『あたいの最後の賭け、毘発動！ 《破壊輪》！ 破壊するのは《ドラグニティ ドウクス》！』

桃埜さんが伏せた最後のカードが露わになると、《ドラグニティ ドウクス》の首に爆弾が着いた首輪がセットされた。

セットされた直後《ドラグニティ ドウクス》は持っていた日本刀を放してまでその首輪を外そうとするが外れず、そして《破壊輪》は爆発した。

『うわああああ……』

『ぎゃああああああ……』

遊璃：LP / 1350 0

瑞波：LP / 2300 0

DRAW

爆発によって起きた余波で私たちのライフは同時に尽きた。

・
・
・
・
・

そして万丈目君や桃埜さん達を見送るべく埠頭に来た。

『元気でな。 万丈目。 またデュエルやろうな。』

遊城君が言う。

私も

『桃埜さん、今日は楽しいデュエルをありがとうございました。
機会があればまたデュエルしましょうね。』

と声をかける。

すると万丈目君が

『いや、俺はノース校には帰らん。』

万丈目君が表情を沈ませ、言う。

小さな声だったのにそれはノース校の生徒にも聞こえたようだ

『『『『ええ〜!!』』』』

ノース校の人たちが声を上げると

『俺はここでやり残したことがある。』

万丈目君がノース校の人たちの方を向いて言う。

すると今朝遊城君に噛みついたカリアゲの人が

『やり残したことって・・・?』

と問うと、万丈目君が

『江戸川。キングの座はお前に返すぜ!』

と言う。

キングって。

もしジャックおじさんが聞いていたらなんていうかしらね。

そう思った。

それよりもカリアゲさんって江戸川さんって言うんですね。

まあどうでもいいですけど。

そう考えていると、

『あら？ サンダーも残るんだ。』

と桃埜さんが言う

『え？ “も”？』

私が聞くと、

『ああ。 あのまま引き分けていうのも気に入らねえし、初めてあたいのデッキを初見で認めてくれた人の元で強くなりたいんだ。』

そう桃埜さんが言う

『あ、姉御も…』

江戸川さんが言う。

それを2人は無視して万丈目君は

『校長、そういうことだ。 また厄介になる』

と言い、桃埜さんは

『あたいも頼めるか？』

と言う。

すると校長先生は

『万丈目君は元々この学園の生徒ですからな。桃埜さんも市ノ瀬校長が良ければ。』

と返した。

それを聞いた市ノ瀬校長は

『普通なら止めようとも思うが、さっきの理由を聞いて決めたよ。行ってこい』

と桃埜さんの背中を後押しした。

それに対して桃埜さんは目に涙を浮かべ返す。

『校長・・・ぜんせい…グズツ…ありがとな。あたい・・・頑張る。』

と言った。

『鮫島校長、私の生徒を頼みます』

市ノ瀬校長は桃埜さんの言葉を聞いてか、涙を浮かべ、校長先生に頭を下げた。

『分かりました。』

校長先生はそれを承諾した。

こうして万丈目君と桃埜さんはアカデミアに残ることが決まった。

・
・
・

そしてその後、表彰式になった。

突如出現したステージに誰も驚かず、ステージに立ったクロノス先生が言う。

『それでーハ、出港の時間もありますノーで、表彰式を始めるノーネ！ 勝利校は…1勝1分けてデュエルアカデミー本校の勝ちナノーネ！ そして、表彰するノーハ……ミスデュエルアカデミーア！』

ミスデュエルアカデミアなんていたかしら？

私がそう思っていると、ステージにトメさんが上がってきてウィンクをする。

それと同時に遊城君が

『メイクアップモンスターだ。』

と言った。

・ ・ ・

後日校長先生に聞いた話では1勝1敗だった場合は校長先生同士のデュエルで決着をつける予定だったらしい…

・ ・ ・

表彰で鮫島校長先生が表彰される中、市ノ瀬校長が、

『サンダー、瑞波君。強くなれよ！ 来年こそは…』
ウワアア
アン…』

と大泣きしながらノース校の潜水艇に走って行った。

そして…ノース校は帰って行った。

・ ・ ・

ノース校の潜水艇が見えなくなった頃、

『不動。これからよろしくな。』

桃埜さんが言う。

私も

『こちらこそよろしくお願ひします。 桃埜さん。 そして私は遊
璃って呼んで構いませんよ。』

と返した。

桃埜さんははにかんで、

『おう。 あたしも瑞波って呼んでいいぜ。』

つと返した。

そんな言葉を返している中、

『なあっ！！』

万丈目君の声が聞こえたので桃：瑞波と声のする方に向かった。

私が周りの生徒に聞くと、

万丈目君の出席日数が足りない為にレッド寮になった事を教えてく
れた。

まあ、3か月も欠席なら仕方ないわよね。

すると、

『文字通り、同僚になるんすね。』

今までどこにいたのかすらわからない丸藤君と

『よろしくな同僚』

遊城君が言う

そついうと万丈目君が

『な、なんで俺がこいつらと・・・!』

と叫んだ。

それに対して遊城君が

『そんじゃ、万丈目の入寮を祝して…』

と言つのですかさず私が

『ちよつと、瑞波を忘れないでよ』

と言つと

遊城君が

『あ、ごめん。 基、万丈目の入寮と、桃埜の転入を祝して〜』

と始め

n o s i d e

?? 『闇のアイテムが欲しいというか』

闇の中、誰かの声が響く。

?? 『ああ。 我は闇のアイテムがあれば現世に蘇ることが出来る。

その為ならお前の目的に手を貸そう』

その声に誰かが返す。

?? 『いいだろう。 闇のアイテムを受け取るがいい。 そして、

三幻魔の復活をさせるべく僕に協力しろ。』

?? 『……いいだろう。』

s i d e o u t

こうして遊璃達が知らぬ中で??の野望は進むのであった。

・・・T o b e c o n t i n u e d

今回の初登場（使用）カード

《ドラグニティ レーダー》（ネイビーさん投稿オリジナル）

チューナー・効果モンスター

星1 / 風属性 / ドラゴン族 / ATK 1000 / DEF 1000

このカードを手札から墓地に送ることで、デッキから「竜の溪谷」を一枚手札に加える。

このカードが装備カード扱いとして、モンスターに装備されている状態で破壊されたとき、墓地の「ドラグニティ」もしくは「溪谷」と名のついたカードを1枚手札に加える。

《デブリ・ドラゴン》

チューナー・効果モンスター

星4 / 風属性 / ドラゴン族 / ATK1000 / DEF2000

このカードが召喚に成功した時、

自分の墓地に存在する攻撃力500以下のモンスター1体を攻撃表示で特殊召喚する事ができる。

この効果で特殊召喚した効果モンスターの効果は無効化される。

このカードをシンクロ素材とする場合、

ドラゴン族モンスターのシンクロ召喚にしか使用できない。

また、他のシンクロ素材モンスターはレベル4以外のモンスターでなければならない。

《水霊術・「葵」》

通常罫

自分フィールド上に存在する水属性モンスター1体を生け贄に捧げる。

相手の手札を確認し、カードを1枚選択して墓地に送る。

《ハリケーン》

通常魔法

フィールド上に存在する魔法・罫カードを全て持ち主の手札に戻す。

《ドラグニティ・トリプル》

効果モンスター

星1 / 風属性 / 鳥獣族 / ATK 500 / DEF 300

このカードが召喚・特殊召喚に成功した時、

自分のデッキからレベル3以下の

ドラゴン族モンスター1体を墓地へ送る事ができる。

《湿地草原》

フィールド魔法

全ての水属性・水族・レベル2以下のモンスターの攻撃力は1200ポイントアップする。

《烈風嵐》れつぷうしん

通常罨（葦切さん投稿オリジナル）

自分フィールド上に表側表示で存在する風属性のシンクロモンスターが破壊された時、ライフポイントを半分払って発動する事ができる。

フィールド上に存在する全てのカードをデッキに戻しシャッフルする。

《破壊輪》はかいりん

通常罨

フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を破壊し、お互いにその攻撃力分のダメージを受ける。

19話・デュエルアカデミア交流戦 後編（後書き）

後編をお送りしました。

結果はまさかの引き分けです。

えっ？ ドウクスの効果にチェーンして破壊輪で瑞波の勝ちだった？

それだと瑞波が残る理由にならないので引き分けにしました。

どうも初めて認めてくれただと理由として弱いので…

市ノ瀬校長も瑞波の相手になっていたのが万丈目くらいだったので、万丈目がいなくなる上に引き分けた人に勝ちたいという思いに押されて瑞波を送り出しました。

という訳で偶に皆さんの感想の返信とかに偶に登場していた？？は瑞波でした。

そして最後の部分について。

『感想には誰だか分かってても書き込まないでください。』

そして、この話で1章終わりです。

次からは2章に入っていきます。

じけくじけ

20話・く古代遺跡訪問記 (前書き)

さてこの話から第2章。

前回は瑞波をメインキャラに加えましたが、いきなりお休みです

瑞波『おい!』

またオリジナル設定でもあります。

今回は地の文を重視しつつ、会話文も増やしてみます。
それは読みごたえがある分、書き進めるのも意外と大変なので慣れるまでご辛抱ください。

20話：古代遺跡訪問記

side yuri

瑞波がノース校の成績でオベリスクブルーに編入されてから2週間ほどが経った。

そして私は今、錬金術の講義に出ている。

まあ、出ている人は少ないけど…

『：そういう訳で中世の錬金術師達はこうやって薬品を調合し、金を作っていたんだにや』

講義の担当は大徳寺先生。

大徳寺先生は講義の途中で説明した薬品を混ぜ合わせる為に薬品を入れた丸底フラスコを振る。

あ、でもその薬品同士って……

そう思うのと同時に、丸底フラスコは急激に光を放ち、大爆発を起こした。

『うわぁ…ゲホッ！』

爆発した煙の中から咳き込む大徳寺先生の声が聞こえた

『『『うわあ！！』』』

講義に出ていて、且つ真面目に講義を聞いていた数人は声を上げる。

・
・
・

やがて煙が晴れると、中からボロボロの大徳寺先生がフラフラしながら現れ、

『かつはあ、はあ………で、でも…作れるわけないんだにゃ！』

そう最後に言い残し倒れた。

でも生きているみたいでよかった。

私は素直にそう思う。

キーン、コーン、カーン、コーン……

そうして午前中の最後の講義である錬金術の講義が終わった。

『ふわあああ………よく寝た。 よーし、昼飯だあ！』

後ろの方から声がする。

振り向くと遊城君がそう言っていたらしい。

周りの人が皆、遊城君の方を見ている。

……寝てたのね。

『ね、寝てたんすか？』

隣の遊城君の隣に座っている丸藤君が言う。

…隣なんだから気付くでしょ。 よっぼど講義に集中していれば
を除くけど。

すると、前の方でガタツという音が聞こえたので、再び振り向いて
みると

倒れたはずの大徳寺先生が起き上がっていた。

隣の机では爆発して割れた実験器具から煙が上がっている。

『ちよ、ちよ、ちよと待って欲しいんだにゃ。 このプリント
を持って行って欲しいんだにゃ。』

起き上がった大徳寺先生はいつの間にやら持ってきたプリントの山
を持っていた。

何時持って来たの…

素直な私の疑問だ。

それに対して遊城君が真つ先に反応を示す。

『ええ〜…宿題か〜?』

まあ、まずそう疑うわよね。

講義の直後だし。 私がそう思っていると、

『ち、違つんだにゃ。 今度の日曜日に島に眠る遺跡を訪ねるピクニックを企画しているんだにゃ〜!』

成る程ね。

となるとあのプリントはその詳細ってどこかしら?

『希望者はこぞって参加して欲しいんだにゃ!』

そう言つて大徳寺先生は残っている私を含めた生徒にプリントを配り、講義が終わった。

・
・
・
・
・

時は流れ日曜日

えっ！？ 飛ばすなって。

飛ばすなって言われても何もなかったし。

雪乃もいまだ行方知れずだし…

私は2つの事を目的にピクニックに参加するわ！

1つ目は雪乃搜索の手がかり。

これは明日香も明日香のお兄さんの手がかりを探す為に参加するみたいだったから手伝ってくれるらしい。

2つ目は、未来へと帰る手がかり。

パパはツバインシュタイン博士って言うていたけれど、もしその方が駄目だった場合の伏線を探さなければいけないし……

古代遺跡ともなれば何か不思議なことがあるに違いない。

そう考えると参加する以外の選択肢はなかった。

それと、瑞波は来ないみたい。

どうもまだ生活に慣れていないらしい。

まあ、転入して早々に月1テストもあったしね。

しょうがないと言えばしょうがないか。

・ ・ ・

で、集合場所のデュエルアカデミア本校舎の前に行くと、

遊城くんと丸藤君、前田君に明日香がいた。

つて大徳寺先生含めれば6人だけ！？

少ない……

お弁当、作りすぎちゃったかも……

集合時間直前に大徳寺先生が来て、

『今日は皆集まってくれて嬉しいんだにや〜』

と言つと

『皆つて5人だけですよ……しかも、大徳寺先生に無理やり集められたようなものだし……』

と丸藤君が言った。

まあ、私と明日香は違っけれどね……

『よいしょっど。』

大徳寺先生が大きなリュックサックを背負う。

それにしても大きすぎね。

一体何が入っているのやら……

と、そこに

『でも古代遺跡には興味あるんだな。あの遺跡は火山の近くにあるから、いつもは立ち入り禁止なんだな』

と前田君が言う。

へえ〜。

廃寮以外にも立ち入り禁止の場所があったのね……

まあ、火山の近くじゃしょうがないか……

と私は納得する。

『ふう〜ん。』

と遊城君が頬を書きながら相槌を打つと、私と明日香の方を見て言う。

『俺たちはオシリス・レッドの義理があるから参加したけど、お前から来て来るなんてな。』

『あの遺跡はいわく付きなの。闇のデュエルにも関係しているって言われている。』

明日香が返すと、

『ふう〜ん。兄さんの失踪と何か関係があるのか？』

『それは・・・分からないけれど。』

遊城君の質問に明日香が困りながら答えた。

遊城君はその後、

『で、不動はどうしたんだ？』

『…（未来へと帰る手がかりとは言えないわね…）雪乃の手がかりを探しに…』

と言った。

すると明日香を含め、遊城君の顔にも影が差し、

『そうか。藤原行方不明になったんだよな。悪い不謹慎で。』

と言っので

『いえ、気にしないでください。』

と返しておいた。

その返答を受けた遊城君の顔は再び明るくなった。

悪い雰囲気が無くなったのを見てか、大徳寺先生が生徒手帳を取り出すように言い、

私たちが生徒手帳を取り出すと、古代遺跡のデータを送信してきた。

古代遺跡の写真…まあ、入り口だけだが…

はアーチ状の柱が折れている写真だった。

まあ、コケとかも見えるから、相当古いのでしょうね……

その後、私たちは古代遺跡の入り口の写真を見ながら、大徳寺先生の説明を受ける

『この古代遺跡は古代人のお墓と言われているのにや』

へえ

お墓か……

それだと希望薄いかも…

まあ、何か手がかりがあるかもしれないから行くけど。

『ひい〜』………』

丸藤君が小さく悲鳴を上げたので何かとと思っていると、

『アニキ。ちよつと気になることが…』

『ちよつ…翔!』

そう言つて遊城君と丸藤君はその場を離れる。

その後、大徳寺先生の説明が終わるまで二人でコソコソと話していた。

・
・
・

大徳寺先生の簡易講義が終わると、遊城君達が話し終わるのはほぼ同時だった。

『さあ〜出発だにや〜!』

『おう!』

大徳寺先生の声に遊城君が声を上げ、大徳寺先生を先頭に古代遺跡ピクニックが始まった。

・
・
・

森林を抜け、山道を通り、崖を登り、流れが急な川の上にある丸太橋を渡り、

ついに私たちは、古代遺跡の入り口が見えるところまで来た。

隣では丸藤君と遊城君が前田君に肩を貸している。

振り返った大徳寺先生が、

『古代遺跡の入り口なのによ！』

と、って手で入り口を指し示す。

『『うわあ〜』』

『何か遺跡っぽいぞ！』

『だから遺跡だって！』

順に丸藤君、前田君、遊城君、明日香が言う。

その反応に気をよくしたのか、大徳寺先生が手を腰に据え置き

『この奥にはもっと凄い。古代のデュエル場と呼ばれている遺跡とか、お墓の遺跡とかがあるのによ〜』

と説明すると、

段差に腰かけた丸藤君と前田君が

『何で大徳寺先生元気なんだろう』

『皆クタクタなんだなあ』』

と話しているのが聞こえたので

『…やっぱり、危険性がないからとかで何回か下見に来ていたんじゃないかしら？』

と言いつつ

『『あ、成る程』』

・
・
・

一通り説明が終わった頃、遊城君が背負っていたカバンを下し、

『本格的に遺跡探検する前に、昼飯食おうぜ』』

と提案すると、

『つと、しょうがないのにや。』』

と表情を変えずに大徳寺先生が賛成の意を示し、

『それじゃ、これからお弁当の時間にするのにや』』

と言ったので

満場一致（大徳寺先生以外で5人だが）で

『『『『『『やつたあ〜』』』』』』』』』』』

と声を漏らした。

当然私も。

ここまで歩いてきたのでお腹が空いてきた頃だったからだ。

・
・
・

遺跡の周りで食べられそうな綺麗な場所を見つけ、各々でお弁当を取り出す。

組は明日香達4人のグループ。　大徳寺先生、私の纏まりだ。

大徳寺先生は

『先生は、購買部のトメさんに作ってもらった特製弁当があるのにや〜』

と自慢するように声を出す。

それを聞いた遊城君は

『んあ？　そのリュック全部弁当か？　俺にも分けてくれよ〜』

と言っが、

『やなのにゃ〜皆に分ける分はないのにゃ〜』

『ちえっ…ケチ…』

こんなやり取りの後、

先生はリュックを漁る。

漁るが……

リュックの中からは…

大徳寺先生の飼い猫のファラオが口にご飯粒を付けて出てきた。

あらら…

ファラオ、大徳寺先生のお弁当。 全部食べたわね…

きつと。

そうになると次の展開が読めてくるわ。

今のうちに準備しておきますか〜

私が準備に入ると同時に

『…先生にお弁当分けて欲しいのじゃ〜』

と大徳寺先生が涙ながらに言うが、

明日香達4人は目を普段の大徳寺先生のような表情をして

『嫌なのじゃ！ 先生に分ける分はないのじゃ！』

『そんな釣れないこと言わないでほしいのじゃ〜』

『先生が最初に言ったんス！』

遊城君と丸藤君が返す。

はあ……飽きた。

人間困ったときはお互い様でしょうに……

そう思ったので、

『大徳寺先生。』

と呼びかけた。

『ん？ どうしたのじゃ？ 不動さん。』

『いえ。 どうしたって事でもないのですが、お弁当作りすぎちゃったので私のでよければどうぞ！』

と言い、お弁当箱の1つを出す。

『おお！　ありがとうなのによ！　不動さんはまるで天使なのによ！』

『天使だなんてそんな……人間困ったときはお互い様でしょう？』
と返した。

そうしたら明日香達の方から

『クツ……私たちが悪人みたいじゃない……しかも遊璃の料理って3ツ星レストラン並だってブルー女子で噂になっているわ……一度食べてみたかった……』

『そうなのか？』

『でも、大徳寺先生にああ言ってしまった建前、言いづらいです。』

『そうなんだな』

と聞こえた気がする。

まあ、私としても、つい雪乃の分と2人前しか作ってこなかったの
で言うてこられない方がいいのだが……

・
・
・
・
・

こうして、私たちはお弁当を食べ終えた。

・
・
・

『さあ、いよいよ遺跡探検に出発だにや！』

大徳寺先生が足を踏み出そうとした瞬間。

『にゃ〜』

ファラオが大徳寺先生の胸を飛び出し、穴を掘り始める。

私たちがそれを気になって見つめていると、

穴の中から紋章のようなレリーフが出てきた。

ファラオは気にせずレリーフが露わになるように周りを掘ると、

ピカ――

そんな音がしてレリーフから緑っぽい光が漏れだした。

『何。何。何。何！』

誰かが騒ぎ出す。

それにつれて光の漏れる量も増え、今度は地面からも柱のように光が溢れ出す。

・
・
・

暫くすると私たちは、おかしなところにいた。

『ど、どうしたのにや。 太陽が3つに…』

いち早く異常に気付いた大徳寺先生が声を漏らす。

・
・
・

少し経つと3つの太陽の上にオーロラのような膜が現れる

『ああ、綺麗だな。』

『こんな自然現象、見たことないんだなあ』

『わああ』

口々に皆が感想を言う。

そんな中、私は嫌な予感がしたので古代遺跡の入り口から離れる。

するとその直後、

ゴロゴロー……

『雷だ。逃げるのにや』

と大徳寺先生が指示を出した。

皆は遺跡の中に逃げる中、私は入り口付近にあったちよつとした崖に身を隠す。

・

・

・

・

・

そして、私の意識は途絶えた。

・

・

・

・
・
・

『ん。ううん。』

ここは何処？

『おや？ 目を覚ましたようですね。』

いきなり隣から声をかけられる。

私はまだぼやける目を擦りながら話しかけてきた人物に顔を向けた。

…

そこには…

人間の男性のように思えたが、足は鳥の足に4枚の白い羽。

つまりは鳥人がいた。

私が思わず絶句していると、

『…………私に見覚えがありませんか？』

と目の前の鳥人が言ってくるので、

私は少し近づきすぎた顔を遠ざけ、その鳥人の全体を見る。

鳥の足に4つの白い羽。

胸には羽のようなレリーフを付け、顔を白い布で覆っている。

…

…

…

！！

もしかして、

私は急いでいつも使っているデッキを取り出し、

1枚のカードを取り出す。

そしてその絵柄と目の前の鳥人を比べてみる。

『分かりましたか？』

目の前の鳥人 ううん。《ドラグニティ トリブル》が話しかけてくる。

『貴方は、《ドラグニティ トリブル》？』

私がそう問うと、鳥人はにっこりと笑い

『ええ。この集落では“トリル”と呼ばれていますが……勿論、貴女もそう呼んで構いませんよ。“マスター”。』

『マスター？』

『ええ。私たちのマスターは貴女です。不動遊璃。』

『そっか。 そうなんだ。』

私が納得したような顔を見ると

『おや？ 驚かないのですね……』

『昔から、龍可姉さんから色々と聞いていますから……』

と苦笑を零しながらそう返すと《ドラグニティ トリブル》…もと
いトリルは腕を組み思考し始める。

『龍可……ああ、あの《古の森》を治めている《エンシエント・

フェアリー・ドラゴン《殿の主ですか？》

『え、ええ。そうよ！　ところでトリル？』

『はい。　なんでしょう？』

『ここは一体何処？』

私は起きてから一番聞きたかったことを聞く。

するとトリルは立ち上がり、

『それについては族長に聞くのが一番でしょう。　着いてきてください。』

私はそれに着いていくしかなかった。

・
・
・
・
・

…トリルの家を出たその先の景色は

…絶壁。

それ以外の言葉が成り立つのかという位、急な崖であった

更に上を見ると何体かの動くものを見つけることが出来た。

私が思わず見とれてみると、先に行ったトリルが引き返ってきて急かされたので景色を見るのをやめ、ついていく。

トリルの案内の元、

私は周りに建つ家々の間を抜け、一番大きな館にたどり着く。

トリルは言った。

『ここが、族長の館です。』

それに私が頷くと、

トリルは館の戸を叩き、

出迎えが来るのを待つ。

…数分後

『はい。レヴァティン様の館に何かご用でしょうか?』

と1人のメイドさんが出てきた。

まあ、勿論鳥人だが・・・

トリルは用件を伝えると、メイドさんに私を示し、私の方にやってきていった。

『私の役目はここまでです。　これからは彼女について行ってください』　と

私はそれに頷き、メイドさんの元へと歩む。

そして私はトリルと別れ、屋敷の中へと入った。

・
・
・

『遊璃様、私をご案内をいたします。』

2人きりになった後、メイドさんは私に頭を下げた。

余りに丁寧すぎて私の方が緊張してしまうので、

『いえ。　そこまで丁寧にしなくても…』

と返すと、

『いいえ。　これはメイドの義務ですから!』

と返され、その後も言い包められてしまった。

・

『こちらがレヴァアティン様の書斎になります。』

メイドさんは私を族長のレヴァアティン……多分と言つか絶対に《ドラグニティアームズ・レヴァアティン》でしょうけど。の元に案内すると、扉をノックした。

『入って良い』

中から重々しい声が聞こえ、入室を許可される。

『失礼いたします。』

メイドさんは扉を開け、1礼して中に入る。

入った後は扉を開けたまま、扉の横に立って待っているのだから、私に入れと無言で促しているのだと気付く。

その意図に気付き、私は部屋に入り、メイドさんと同じ位置で一礼し、

『失礼します』

と言った。

『うむ。その方、ご苦労であった。下がって良い』

レヴァアティンが座っているとと思われる椅子から声が響き、

私を案内したメイドさんはそれに対し、ただ一礼し、部屋を去る。

・ ・ ・

やがてそのメイドさんの気配がなくなった頃、

『主、よく来たな。 歓迎するぞ』

とレヴァティンだと思われる女性が椅子から立ち、私の方に歩いてきた。

・ ・ ・

その後私は《ドラグニティアームズ・レヴァティン》から色々と説明を受けた。

因みにレヴァティンは竜の姿ではなく人間の姿をしていたけれどね。人間と言っても体の形だけで、背中には真澄色の翼、下半身には同じく真澄色の尻尾が見え隠れしている。

その後に私はレヴァティンから精霊世界についての講習を受けた。

…いくつか専門的な事も混ざっていて全てを理解することは叶わなかったが・・・

とりあえず分かったことは
ここは未来の精霊界。

その中でもここは《竜の渓谷》と呼ばれる集落だそうだ。

『デュエルモンスターのフィールド魔法と同じ…』

と声を漏らすと

レヴァティンはそれに頷き、未来の精霊界はデュエルモンスターのフィールド魔法で成り立っていると聞いた。

また、私はここから元の世界に戻れるかとも聞いたが、レヴァティンはそれには否定をし、

『主が精霊世界に呼び寄せられる接触があつて、それに介入してこちらに呼び寄せた。だから、主の意識はこちらにあるが、肉体は過去。すなわち戻るとは叶わぬ。』

と答えた。

『じゃあ、過去の世界には戻れるの？』

『…それも今は叶わぬ。先の接触で、あの辺りの次元が乱れておる。そこが落ち着かなければ主を元の世界に戻すことはおるか、下手をすれば違う次元に送ってしまいかねん。』

と返してくれた。

そして

『まあ、主はいつも妾達を大切に使ってくれておるからな。次元の乱れが収まるまで、ここでゆっくりしたらよかつ。……誰かある!』

レヴァティンはそう付け加えた後に大声を出した。

少しして、

『お呼びでしょうか？ レヴァティン様。』

さつきとは違うメイドさんがやってきた。

今度は竜の翼が見え隠れしているから竜人さんだ。

『ミリトゥムをここへ!』

『畏まりました。』

メイドさんは一礼し、レヴァティンの命令を遂行すべく退出した。

・
・
・

数分後。

コンコンコン。

『入るがよい』

『失礼します。』

ノックをしてから入ってきたのはいつも兜で顔が隠されてしまっている金髪の女性。

そう《ドラグニティ ミリトゥム》だ。

《ドラグニティ ミリトゥム》は部屋に入ると、私に一瞬視線を向け、レヴァティンの前で跪いた。

『ミリトゥム！』

レヴァティンの重々しい声が響くと

『ハッ！』

ミリトゥムが気合のこもった返事を返す。

『そこにおるのは我らが主だ。主が人間世界に帰還するまでの世話をお前に任せる。』

『…仰せのままに。』

ミリトゥムはレヴァティンの命令を聞くと、私に近づき膝を折り平伏するという。

『主。この度、主の世話役を務めることになりました、《ドラゲニ
ティ ミリトゥム》と申します。この集落では主に騎竜軍を率い
ております。どうぞよろしくお願い申し上げます。』

『…え、えつと、そんなに畏まらないでください。』

私がミリトゥムの挨拶にそう返すと、

『いえ、これは生まれつきの性分なもので…』

とミリトゥムは顔を少し上げ、困ったような声で返す。

『……じゃあ、私と一緒にいる時だけでもいいので、友達のように
接してください。』

私が妥協してというと

『…御意。』

ミリトゥムはそう一言言い、再び平伏した。

『だからそう畏まらないで！』

『ハッ！ 申し訳ありません。』

『だーかーらー…』

そしてこのやり取りが繰り返される。

・
・
・
・

暫くしてレヴァティンの館から出た私たちはミリトゥムの案内の元、
《竜の渓谷》を見て回った。

「ドラグニティ」のドラゴン族モンスターの雛を育てる、飼育施設。

「ドラグニティ」の鳥獣族モンスターに軍人としての思考を教えたり、
竜への乗り方を教える学校。

「ドラグニティナイト」達の行軍練習場

立ち入り禁止だった為に入り口までしか見ることは叶わなかった、
《竜の渓谷》の奥に位置する火山地帯。

集落の入り口より先には濃霧が発生していた為に進むことが出来なかつた、
《霞の谷の神風》へと続く道。

その他にも色々な場所を案内してもらった。

案内するうちに少し打ち解けたのかミリトゥムの口調も少し柔らかくなってきた。

・
・
・
・
・

その後、私はミリトゥムの家に招かれ、そこで寛いでいる時にそれは起こった。

時は《竜の溪谷》に降り注ぐ日が夕日に変わる頃だった。

ドグオオーン！！！

遠くの方で大爆発の音がした。

すぐさまミリトゥムが外に行き、すぐに血相を変え、戻ってきた。

『主。緊急事態の為、無断での法力を行使を致します。　ハア！』

そついうとミリトゥムは私に向けて手を翳し、

『
　　↑　　（我、我が法力を贄に汝を守護する衣を具現せん）』

ミリトゥムが私には理解できない言葉を何かを呟くと

私の周りに透明な膜が現れた。

『これで主は安全かと。　さあ、私についてきてください。』

『ねえ！　緊急事態ってどついついこと？』

ミリトゥムが急かすので私は気になった質問をぶつけてみる。

ミリトゥムはそれに後で。という言葉しか言わなかった。

・
・
・

私たちは緊急事態の為にレヴァティンの館まで避難した。

避難したところでミリトゥムが話し出す。

『…主にはお話しても大丈夫でしょう。実はここ《竜の溪谷》には伝説とも謳われたドラゴンが眠っています。』

『…伝…説？』

『はい。そしてそのドラゴンは主を案内した火山に眠っていると
いわれているのです。・・・しかし、』

そういった後にミリトゥムは口を閉ざす。

『しかし？』

『……しかし、そのドラゴンは決して守護の事で謳われたことはな
く、寧ろ逆。破壊竜として謳われているのです。』

『…という事は……その緊急事態と言うのは……』

私がミリトゥムの説明に1つの結論に辿り着くと同時にミリトゥム
が頷き、続きを話し出す。

『主の察しの通り、この緊急事態とは敵襲です。しかも敵は「霞
の谷」を突破してきています。…今までここまで侵攻されたこと
はなかったのに……』

私の予想した結論は当たっていた。

そしてその後にはミルトウムが零した言葉も聞こえてしまった。

『今までって、どういうこと?』

『聞こえてしまいましたか。今までと言うのは私達「ドラグニティ」と「霞の谷」は古来より封印されたドラゴンを護るためとこの辺りに集落を築きました。

そして「霞の谷」とは同盟を結び、「ドラグニティ」からは「霞の谷」が襲撃された時の援軍を、「霞の谷」は「ドラグニティ」へ外部の情報や技術を輸出することで利害が一致し、互いに手を取り合っていました。最近あった大きな戦争と言えば、「ワーム」や「魔轟神」との戦いです。』

そういえば龍可姉さんから少し聞いたことがある。

《猿魔王ゼーマン》が精霊世界を支配する環境が終わり、パパ達がシグナーでなくなった後、精霊世界で戦争が起きたって。

敵は宇宙から飛来した生命体と古来から地に封印されていた悪魔。

多種多様な種族が集結し、共に戦った。

結果としては「氷結界」が封印されていた3体目の龍、《氷結界の龍トリシューラ》を封印から解き放ち、戦場に投入することで戦争は終わった。

と言っていた。

私が龍可姉さんから聞いた話をミリトゥムにすると

ミリトゥムは頷いて、

『主の言う通りの結果で大戦は終わりました。』

さっきの事を話すには大戦の事を詳しく知っておいた方がいいので説明します。

その中でも「霞の谷」は大戦当初から過激派の《ミスト・ウォーム》殿の率いる軍が戦場に入り、戦っていました。

暫くの内は宇宙から飛来した「ウォーム」にのみ対処していれば良かったので、被害もありましたが軽微だったそうです。』

そこで一旦言葉を切り、近くにあった水差しから一口だけ水を補給して、話し出す。

『ある時に地に封印されていた「魔轟神」が目覚めたことで戦況は一変しました。』

彼らがウォームと手を結ぶことはありませんでしたが、我々とウォームの戦いに乱入しては両軍に多大な被害を与えてきました。

その中で「霞の谷」は特に被害を被った種族でした。

流石にこれ以上、《ミスト・ウォーム》殿に任せてはおけないと思っただけでしょう。

《霞の谷の雷神鬼》殿と《霞の谷の巨神鳥》殿が率いる精鋭が援軍として駆けつけました。

しかし事態は好転することはなく、むしろ悪化の一步を辿るだけでした。』

ここでまた話を切って、私が理解しているか聞いてくる。

私が何とかと返すとミリトゥムは続きを話しますね
と言い、口を開く。

そこで私は1つの疑問が出来、聞いてみる

『ちよつと待つて。 「ドラグニティ」は「霞の谷」に力を貸さな
かったの?』

『それも含めて今話します。

私達「ドラグニティ」はそんな中、「霞の谷」が戦争をしている
なんて露程も知りもしませんでした。

ここは「霞の谷」が居住している《霞の谷の神風》の奥地で秘境。

外部からの情報は殆ど「霞の谷」の方たちから聞いたものだから
です。

そんなあるとき、空にそれは大きな球状の生物が現れました。

他の種族たちはそれを《ワーム・ゼロ》と名付けたそうです。

そうして日々その球体が近づいてくる中、「霞の谷」より「ドラ
グニティ」に救援要請があったのです。』

一旦切りますね。 とまたミリトゥムが話を切り、また水を一口口
に含み、話し出す。

『救援要請があつてからの「ドラグニティ」の動きは普段よりも一
段と違っていました。

レヴァティン様は精鋭の「ドラグニティナイト」達にすぐさま招
集をかけ、《ドラグニティナイト・ゲイボルグ》、《ドラグニティ
ナイト・ガジャルグ》の軍隊と共に戦場に駆けつけ、その場で苦戦

していた他の種族を救出し、戦況を覆しました。

原住種族連合軍はその隙を逃さず、「A・O・J」が作り出した最終兵器、《A・O・J デイサイシブ・アームズ》の一撃によって《ワーム・ゼロ》を破壊しました。』

ミルトウムがここまでいいですか？

と尋ねてくるので私はそれを頷きで返す。

すると、ミルトウムは

『本来なら大戦はここで終わるのですが、大戦の傷跡は深く、私達「ドラグニティ」も軽微ですが、被害を受けました。』

そんな中、大戦の途中から姿を眩ました「魔轟神」が「魔轟神獣」という使い魔を召喚し、その力を利用して世界に宣戦布告をしてきたのです。

原住種族は再び緊急に同盟を軍事同盟を結びましたが、前回の大戦の被害もあり、集まったのは未だ力を残している私達「ドラグニティ」と2体の龍の封印を解いて大戦に参加していた「氷結界」。そして、「A・O・J」と「ジエネクス」が技術を結集した「A・ジエネクス」。他には「ナチュル」や「ジュラック」と言った種族が集まりました。』

ミルトウムはここまで一気に話すと、水を一気に飲む。飲み込んで落ち着いた後に話し出した。

『因みに私もこの頃から戦場に入りました。』

まあ、その事はおいておいて、そこで開かれた軍議で「魔轟神」との戦力差に圧倒されていることを知った我々は策を立てることが出来ずに悩んでいました。

主もご存じかとは思いますが、デュエルモンスターズでこれらの

種族があまり相性が良くないというのはご存知ですね?』

そう聞いてきたので、少し思考してみる。

「A・ジエネクス」。 「A・O・J」と「ジエネクス」の特徴を持っている。

色々な属性に対して効果を発揮するが、ミリトゥムの話した種族との相性はそれほど良くない。

「氷結界」。 多種多様な効果を持つが、基本はサポートカードや防御系のカードが多い。

シンクロモンスターは殆どのデッキと相性がいいが、その他との相性はあまり良くない。

「ナチュル」。 基本ロック系の効果やそれをサポートするカードが多い。

やはり連合との相性はそれほど良くない。

「ジュラック」。 炎属性の恐竜族のカード群。

パワータイプだが、「ジュラック」を対象とする効果が多い為、やはり連合との相性は良くない。

……

うん。 連合の相性と言うか団結力ほぼ皆無だね。

私が入り得し、頷くとミリトゥムが続けて話し始める。

『そういう訳で連合もあまりにも連携が取れないだけでなく、「魔轟神」との戦で物凄く疲弊していききました。』

「ジュラック」は戦いの最中に決死の特攻として《ジュラック・メテオ》を試みましたが、それが決定打になりうる事はなく、「ジュラック」は全滅し、
「ナチュル」も《ナチュル・ビースト》殿が討たれてからは一線を退きました。

全滅の危機に瀕した我らが「ドラグニティ」は《竜の渓谷》に援軍を要請し、

《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》と《ドラグニティナイト・トライデント》の隊を送ってもらったことで辛うじて全滅は避けられました。

そんな中、前回の大战で疲弊していた「ネオ・フレムベル」が援軍として来てくださいました。

それにより何とか全種族全滅を回避。劣勢ではありましたが、戦況は膠着となりました。』

ミリトウムがまた話を切り、ここまでの事を確認してくる。

私が納得するとまた口を開く。

『そんな膠着した戦況のある日、遂に長々とした大战に嫌気がさしたのか《氷結界の虎将 ガンターラ》將軍と軍師の《氷結界の軍師》殿はある作戦を提示してきました。

それが、大战の決定打になる《氷結界の龍トリシューラ》の復活です。』

『成る程』。』

私が素直にそう言っていると

『しかし、その作戦を実行するためには現存の原住種族の戦力だけ

では遙かに足りませんでした。

「A・ジエネクス」や「ネオフレムベル」、「ドラグニティ」は「氷結界」に対し、なんで早く言わなかったのだ。等と責め立てました。

これに対して、「氷結界」の面々は何も言わず、ただ頭を下げるだけでした。

結局、「氷結界」の作戦が可決されたため、他の原住種族は《氷結界の龍トリシューラ》復活までの時間稼ぎの為に最大戦力を集め、「A・ジエネクス」は更なる兵器を急ピッチで作り出しました。私達「ドラグニティ」も例に漏れず、最終的には「ドラグニティ」最強の。

封印された破壊竜の封印が解けないように門番の役割をしていた《ドラグニティナイト・バルーチャ》の軍隊を戦場に呼び寄せました。今思えば、これが失敗だったのかもしれない。」

『失敗って?』

『後で話します。』

私が聞くと、ミリトゥムはそれに対し、あとでと返す。

私が口を閉じると、ミリトゥムは

『続きですが、結果として《氷結界の龍トリシューラ》が復活し、大戦は原住種族の勝利で終わりました。』

『それが、大戦の内容なのね。』

『そうです。これが、大戦の話になります。そしてここからは

恐らく《エンシエント・フェアリー・ドラゴン》殿の主の龍可殿も知らない内容かと。』

そう言ったので、私は知らない内容と言うところに興味を引き、早く聞かせてつと視線を浴びせる。

『では、……大戦に勝利した後、私たちは「ジュラック」や数々の戦で犠牲になつて行つた者へ、細やかながら葬式のような物をし、それぞれの故郷へと帰りました。

そしてそれぞれの種族で大戦の傷を癒し始めたのです。

私達「ドラグニティ」も大戦の傷を癒していました。失つた精銳の数は数知れず、今日、主を案内した集落を見ても分かるかは分かりませんが、あれでも増えた方です。大戦後は生き残りの「ドラグニティナイト」部隊は30騎程。中でも前線で戦っていたレヴァティン様の親衛隊は全滅。つまりは「ドラグニティアームズ」部隊はレヴァティン様と留守を預かっていた《ドラグニティアームズ・ミスティル》様以外死亡と言う現実でした。』

思い出してみれば、集落の中に「ドラグニティアームズ」はいなく、「ドラグニティ」の鳥人しかいなかった気がする。

ミリトウムにメイドさんは？

と聞くと

『あのメイド達は戦闘に適性のない「ドラグニティ」のドラゴンや鳥人がなっています』

と言つので、

成る程。

本当にいないんだなと納得した。

私が相槌を打ったのを見て、

『そして、最近になって謎の軍勢が「霞の谷」及び「ドラグニティ」に攻め入ってきているのです。』

そこまで説明された瞬間、

ドン

屋敷の扉が開き

『キヤーシャツシャツシャ！ レヴァティンはここにいるんだよな？』

と屋敷の外から大きな鳥が見え、その鳥が声を出していた。

そしてその鳥の足には1人の鳥人が掴まれている。

あれ？ 私、あの鳥人に見覚えが・・・

『えっ！？ トリル、さん？』

鳥の足に掴まれていたのは

今朝私をレヴァアティンの屋敷まで案内してくれた《ドラグニティ
トリブル》こと、トリルだった。

『主、下がってください。』

ミリトゥムがすぐさま腰の剣を抜き、大きな鳥と対峙する。

『その侵入者。ここより先は騎竜軍第2大隊軍長《ドラグニティ
イミリトゥム》が通さん！ どうしても通りたいのであれば、私
を殺してからにしろ！』

ミリトゥムが吼えると、

『キヤーシャツシャー！ー 面白い事を言う。 良かるう。 ではない
くぞー！』

それと同時に強風が吹き荒れる。

私は地面に這いつくばることでそれで飛ばされなかった。

『グウ……グウウ……ハア！』

ミリトゥムは風に耐えながら虚空に向かって剣を振っている。

その都度剣と何かがぶつかっている音がキンッ！ キンッ！ と響

く。

『キヤーシャツシャツシャ！ なかなかやるな……ん？（後ろの奴、無防備だな。） じゃあ、これは防げるかな？』

そついうが否や風の強さが強まり、ミリトゥムが剣を振る回数も増えてくる。

…だが、それだけで済む風ではなかったのだ。

見えない何かは私の方にも迫ってきていた。

反射的に転がり私は避けた。

しかし、第2波は既に放たれていたのだ。

『キヤアアアアアアアア』

私は来る時を想像し、目を閉じた。

だがいつになってもそれは訪れない。

私が恐る恐る目を開くと、

『み、ミルトウム。』

『主。』
『……無事で何より。』

ミルトウムが私を庇って負傷していた。

そんな時

『キヤーシャツシャツシャ！ やはり予想通り。 後ろの奴を狙えば必ず守りに行くと思っただぜ！ キヤーシャツシャツシャ！』

え、それじゃ

私、ミルトウムを負傷させるために狙われたの？

私が罪悪感に飲まれようとした頃、

『主、主は悪くありません。 ゴホゴホ！ 悪いのは全て……あいつです。』

ミルトウムは私の気持ちを悟ってか、ミルトウムが咳き込みながら

話してくる。

『ミルトウム、もういい。話さないで。』

『……そうはいきません。主の……遊璃の悲しむ顔、見たくありません。』

ミルトウムは途中で首をガクリと落とした。

『み、ミルトウム！ ねえ、起きてよ！』

『ちよっと見せてみなされ。』

私がテンパってミルトウムを揺り動かしていると、横から爺さんの声が聞こえた。

私がそちらを振り返ると、

緑の瞳に黄色の鱗を所々に纏った御爺さんがいた。

『その女子おなひ、ちよっとその子を見せてくれんかの？』

御爺さんが優しい音色で言うので、ミルトウムを渡すと、御爺さんは手早く脈を測り、応急処置を施した。

その後に私の方を向き、

『大丈夫じゃ。気絶しているだけじゃ。』

と言ってきた。

私はそれを聞いて安心すると共にミリトゥムを傷つけた鳥への怒りが湧き上がってきた。

私はおじいさんの制止も聞かずに立ち上がり、

鳥に向かって言う

『ねえ！ その鳥、デュエルしなさいよ！』

『キヤーシャ！ お前はさっきの。……デュエルか。面白い受けてやるう。 それと我は鳥ではない。 《ダーク・シムルグ》だ。』

『如何ぞ。 この世界のデュエルは……』

鳥の答えに御爺さんが制止をかけるがもう遅い。

私は手早くデュエルディスクを起動すると、デッキケースからデッキを取り出し、デッキをセットする。

・
・
・

そして

『『デュエル！』』

遊璃：LP/4000 VS 《ダーク・シムルグ》：LP/4000

私と《ダーク・シムルグ》のデュエルが始まった。

・ ・ ・ T o b e c o n t i n u e d

20話：～古代遺跡訪問記～ （後書き）

はい！ 古代遺跡とみせかけて《竜の渓谷》へと飛ばしてみました。
そして残念ながら本文中の説明通り、遊璃は帰れません。

更に最近炎属性のドラグニティの投稿が増えていたために火山帯を捏造しました。

あとは火山から何とかで遊璃に炎属性のドラグニティが行くはず…

呪文は適当です。

「記号」で変換して適当なところでEnterキーを押すのを繰り返しただけです。

魔法ではなく法術です。

魔法使い族じゃないのに～などと言う感想は受け付けません。

そして伝説の竜についてですが、この物語のキーパーツになりますので皆さんの方で勝手に予想をする分には一向に構いませんが、オリカ系は受け取りませんので予めご了承ください。

途中出てきた大戦はデュエルターミナル1〜8の内容。

「ドラグニティ」を美化しまくりましたがね…

独自解釈も混じっているので明らかに違うもの以外は否定しないでくれると助かります。

「ネオ・フレムベル」を早めに出したのは戦況が一方的過ぎたからです。

最後の大战後の事はデュエルターミナル10から引用。

マスターガイド3の時代背景の誤差？

それいれていたら色々とごちゃごちゃになるのでパス！

色々詰め込んだけれど、これからどうするんだ自分。

…後で矛盾が発生しないように努力します。

次は……精霊界でのデュエルですかね…

さてはてどうなることやら…

21話：命を賭けた決闘。 VS ダーク・シムルグ (前書き)

VS ダーク・シムルグ です

デッキ内容に滅茶苦茶困りました。

結局、遊璃がいるのは未来だけどカードの1部が過去のものに…

すいません。

今回は前回と同じ調子で書いてみます。

但し、デュエルなのでバランスが取れるか不明です。

そして今回は執筆中、「戸惑いのデュエル」を聞きながら書きま
した。

攻撃力16000のサイバー・エンドだと!?! のあれです。

6/13 《テイク・オーバー・ファイブ》の効果の間違って理解
していたようなので修正

21話：命を賭けた決闘。 VS ダーク・シムルグ

side yuri

『『デュエル!』』

遊璃：LP/4000 VS ダーク・シムルグ：LP/4000

私達のデュエルが始まった。

ダーク・シムルグの前には石板が落ちてきて手札となった。

…相手の目的はよく分からないけれど、これ以上私の友達を傷付けさせはしない!

『先攻は私が貰うわ!』

私が言つと、

『キヤーシャツ! いいだろう。 それぐらいのハンデがないと勝負になりそうもないからなあ。 キヤーシャツシャツシャ!』

い、言つたわね!

良いわよ。

余裕面をしているのも今のうちよ。

『私のターン！ ドロー！』

私はいつも通り直立の構えでカードをドローする。

手札を確認し、最良の選択肢を選ぶ。

『私は、フィールド魔法《竜の渓谷》を発動！』

私が1枚のカードを取り出し、デュエルディスクの左端に付いているフィールドカードゾーンにセットすると、周りの景色が……

変わらなかった。

あ、ここは元々《竜の渓谷》だったわね……

ま、まあいいわ。

『そのまま《竜の渓谷》の効果を発動。手札の《BF 精鋭のゼピュロス》を墓地へと送り、デッキから《ドラグニティ・ファランクス》を手札に加えるわ！』

私が相手に捨てるカードを示し、デッキから手札に加えるカードを口にする時、

デッキにサーチ光が灯り、1枚のカードをデッキから押し出した。

私はそれを手に取り、手札に加える。

その後にもた手札から1枚のカードを取り出す。

『更に魔法カード《天使の施し》を発動。デッキからカードを3枚ドロ―し、2枚を捨てる。私は《ドラグニティ・フランクス》と《ドラグニティ・ベビーバード》を墓地へ!』

《天使の施し》の効果でカードを3枚引いた後に少し考えると、2枚のカードを選び墓地へと送った。

『そして、墓地の《BF 精鋭のゼピュロス》の効果を発動。自分のフィールド上に存在する表側表示のカード1枚を手札に戻し、このカードを墓地から特殊召喚する。私は《竜の渓谷》を手札に戻し、《BF 精鋭のゼピュロス》を特殊召喚!』

私の場に黒の一对の翼を持ち、青い髪が特徴の人型のモンスターが現れた。

《BF 精鋭のゼピュロス》：ATK/1600

『そして特殊召喚した後に自分は400ポイントのダメージを受けます。』

《BF 精鋭のゼピュロス》が特殊召喚された時に発生した羽毛が鋭くなり、私目掛けて降り注ぐ。

『イヤアアアア…』

遊璃：LP4000 3600

『キヤーシャツシャツシャ！』

400ポイントのダメージを受けたことを嘲笑っているのか、ダーク・シムルグが鳴き声を出す。

私は足がフラフラになりながらなんとか立ち上がり、言う

『な、何……今の…』

『人間。そんなことも知らなかったのか。この世界のデュエルは文字通り決闘。ライフポイントは命と同じ。ライフが0になった瞬間、敗者は死ぬのだ。キヤーシャツシャツシャ！』

『おお、何という事だ。だが、1度始まってしまったデュエルはどちらかが敗北するまで止められぬ。』

ダーク・シムルグが私の状態を説明するのと同じ頃、ミリトゥムを空き部屋へと運んでいた御爺さんが戻ってきて、デュエルについての事を言う。

クツ…

軽率だったのもある。

しかし、ミリトゥムを、トリルを傷つけたことも変わらない。

だから、このデュエル……絶対に勝つ！

そう思うのと同時に手札から1枚カードを取り出す。

『私は手札から再び《竜の渓谷》を発動！ その効果で手札の《ドラグニティ・コルセスカ》を墓地に送り、デッキから《ドラグニティ・レギオン》を手札に加える。』

私は再び手札に戻したフィールド魔法を手札に加えて使用する。

そしてその効果を使い、更に手札を入れ替えた。

『そして《ドラグニティ・レギオン》を召喚！ その効果で《ドラグニティ・ファランクス》を墓地から装備する。』

私が手札から先程加えたカードを召喚すると、私の場に緑色の鳥の頭を持つ鳥人が現れ、

その後ろに毎度おなじみの金色の鎧を纏う青い龍が出現していた。

《ドラグニティ・レギオン》：ATK/1200

更に墓地からカードを1枚取り出し、ダーク・シムルグに見せつける。

『このカードは自分フィールドに「ドラグニティ」と名の付くチューナーモンスターが特殊召喚された時、このカードを墓地から特殊召喚することが出来る。 墓地から《ドラグニティ・ベビーバード》を特殊召喚。』

私の場に卵が出てきたかと思うと、いきなり殻が割れ、中から鳥の雛が顔をのぞかせていた。

《ドラグニティ・ベビーバード》：DEF/0

『更に《ドラグニティ・ファランクス》はカード効果で装備カード状態になっている時、特殊召喚することが出来る。出てきて《ドラグニティ・ファランクス》！』

私の場の《ドラグニティ・レギオン》の影から《ドラグニティ・ファランクス》が飛び出してきた。

《ドラグニティ・ファランクス》：DEF/1100

さて、ダメージが現実となるデュエルな以上、最初から全力で行くしかない！

『レベル4《BF・精鋭のゼピュロス》とレベル3《ドラグニティ・レギオン》にレベル2《ドラグニティ・ファランクス》をチューニング！』

《ドラグニティ・ファランクス》の頭についている2本の槍が互いに絡み、螺旋を描き、その軌跡が2つの輪となる。

その中に《BF 精鋭のゼピュロス》と《ドラグニティ・レギオン》が飛び込み、7つの星となった。

+ + = × 9

そして、7つの星を通り抜けるように一筋の光が駆け抜ける。

『冷たき氷の世界に古代より封印されし龍よ！ 今こそ封印を破りて、秘境の民に力を貸さん！ シンクロ召喚！ 咆哮せよ！ 《氷結界の龍・トリシューラ》！』

光が晴れると、そこには3つ首で全体的に青っぽい体を持つ、氷結界が封印を解いたとされる3体目の龍が咆哮を上げていた。

《氷結界の龍・トリシューラ》：ATK/2700

『キヤーシャツ！』

ダーク・シムルグは《氷結界の龍トリシューラ》を見ると、その赤い瞳を細め、睨みつける。

まあ、《氷結界の龍トリシューラ》は何も返さないのだが……

『私は、《氷結界の龍トリシューラ》の効果を発動。シンクロ召喚に成功したとき、相手の墓地・場・手札を1枚ずつまでゲームから除外できる。』

『だが、我には墓地と場にカードがない。』

『だから私は手札を1枚除外する。』

《氷結界の龍トリシューラ》の真ん中の頭が氷のプレスをダーク・シムルグの石板に当てた。

それを確認すると、私はターンを終了すべく行動する。

『私はカードを2枚セットし、ターンエンド!』

遊璃：LP / 3600

モンスター：《氷結界の龍トリシューラ》（A2700）、《ドラ

グニテイ・ベビーバード》（DO）

魔法・罫：2枚

手札：2枚

フィールド：《竜の渓谷》

適用効果：なし

『キヤーシャツ！ 我はこのエンドフェイズにモンスター効果を発動する。 キヤーシャツシャツシャ!』

『なっ!? このタイミングで!?!』

私はダーク・シムルグの言葉に驚き、声を漏らす。

『左様。 我が発動するのは除外された《異次元の偵察機》。 このカードがゲームから除外されたターンのエンドフェイズ。 攻撃表示でこのカードを特殊召喚する！ キヤーッシャツシャツシャ!』

ダーク・シムルグの場に球状で色々な器具が取り付けられている機械が現れる。

《異次元の偵察機》：ATK / 800

まさか《氷結界の龍トリシューラ》の効果が裏目に出るなんて……

『キヤーシャツ！ 我のターンだ！ 我は手札より《幻惑の巻物》

を発動。これにより《異次元の偵察機》の属性を風属性に変える。
」
不思議な機械を巻物が包み込むと《異次元の偵察機》の色が若草色
に変わった。

《異次元の偵察機》：属性/闇 風

でも属性を変えて何の意味が……

「我は《異次元の偵察機》をリリースし、《疾風鳥人ジョー》をアドバンス召喚！」

若草色の《異次元の偵察機》が消えると特徴的なツンツン頭の鳥人が恰好つけて、
ダーク・シムルグのフィールドに現れた。

《疾風鳥人ジョー》：ATK/2300

「でも攻撃力2300じゃ私のモンスターには勝てないわ」

「まあ、そう慌てるな。《疾風鳥人ジョー》が風属性モンスターをリリースすることでアドバンス召喚に成功したとき、フィールド上の魔法・罠カードを全て手札に戻す！ キャッシュ！」

「なっ！・・・罠カード《和睦の使者》を発動。このターンの自分に発生する戦闘ダメージを0にする。」

私が、《疾風鳥人ジョー》の効果に対して、1枚の罠カードを発動

させると、ダーク・シムルグは目を細め、私を睨んできた。

こ、怖い。

『小娘があ・・・凌ぎおつたか。ならば我は《テイク・オーバー・ファイブ》を発動。デッキの上からカードを5枚墓地へと送る。』

ダーク・シムルグは更に1枚の石板の風でひっくり返すと、石板デッキの上から石板を5枚墓地へと送った。

『墓地肥やし・・・何かくる。』

『我は墓地の《レベル・ステイラー》の効果を発動。《疾風鳥人ジョー》のレベルを1下げることこのカードを特殊召喚する。』

ダーク・シムルグは墓地に送られたカードを一瞥し、その中の1枚のカードを発動した。

そのカードはフィールドの《疾風鳥人ジョー》からエネルギーを吸い取ると、ダーク・シムルグのフィールドに定着した。

そのモンスターは天道虫のような容姿に背に一つの星を持つ虫だった。

《疾風鳥人ジョー》：

《レベル・ステイラー》：ATK/0

『更に墓地の《異次元の偵察機》と《暴風小僧》をゲームから除外し、我を特殊召喚！』

フィールドに次元の裂け目が開き、2つの魂が吸い込まれていく。

その後に黒い風が吹き荒れ、目の前にいるダーク・シムルグと瓜二つの鳥がいた。

《ダーク・シムルグ》：ATK/2700

「カードを2枚伏せて、ターンエンドだ。そしてエンドフェイズに除外された《異次元の偵察機》は特殊召喚される。 キャーシヤツシヤツシヤ！」

ダーク・シムルグのフィールドに再び球状の機械が出現した。

《異次元の偵察機》：ATK/800

ダーク・シムルグ：LP/4000

モンスター：《ダーク・シムルグ》（A2700）、《疾風鳥人ジヨー》（A2300）、《レベル・ステイラー》（A600）、

《異次元の偵察機》（A800）

魔法・罫：2枚

手札：0枚

フィールド：なし

適用効果：なし

危なかった。もし私が《和睦の使者》を発動できていなければ、自分は《疾風鳥人ジヨー》の直接攻撃を受けていただろう。そうなれば私のライフは残り1300。負けはしないが、400ポイントであんなにも激痛が走るデュエルだ。意識を保っている自信がない。

私はその最悪の事態の事を考え、身震いすると、すぐにその思考を破棄。

ダーク・シムルグに向き合った。

『私のターンね！ ドロー。』

私は足元が少し覚束無いが、何とか立っている。

手札を見て、何とかかなりそうかと判断し、1枚のカードを使う。

『私は《ドラグニティ・ミリトゥム》を召喚！』

私の場に先ほどダーク・シムルグの攻撃で倒れたミリトゥムと同じモンスターが現れる。

《ドラグニティ・ミリトゥム》：DEF/1200

私は《ドラグニティ・ミリトゥム》を一瞥した後、手札にはこの状況に対抗できる策はないとして、1枚の魔法カードに手を伸ばす。

『更に《烈風の宝札》を発動。このカードはお互いのフィールド上に風属性モンスターが存在しない場合発動する事が出来ません。』

『むう。我は風属性としても扱い、《疾風鳥人ジョー》は元々風属性……』

ダーク・シムルグがそう答えるので、私は

『そうです。よって発動条件は満たしています。そしてこのカードはこのターンに自分はレベル5以上のモンスターの召喚と特殊召喚を行えない代わりに、お互いの風属性モンスターの枚数分カードをドローし、その後相手フィールドの風属性モンスターの数だけ手札を墓地に送ります。今フィールドにいる風属性モンスターは4体。よってカードを4枚ドローし、2枚捨てます。』

私は手早くカードを4枚引くと、ダーク・シムルグの影響でセットできない罫カードを2枚墓地へと送った。

『このターン、私はレベル5以上のモンスターの召喚、特殊召喚が行えず、《ダーク・シムルグ》の効果でカードをセットすることもできません。ですが、私の手札にはまだこれがあります。私はさっきのターンに手札に戻された《竜の渓谷》を発動します。』

私が三度フィールド魔法ゾーンにカードをセットすると、周りの景色は変わらないが、《竜の渓谷》の効果が発動した。

『私は《竜の渓谷》の効果で、手札の《ドラグニティ・アングス》を墓地に送って、デッキから《ドラグニティ・ドウクス》を手札に加えます。』

私は今の手札では到底使えそうにない《ドラグニティ・アングス》を墓地に送った後、《ドラグニティ・ドウクス》を手札に加え、次のターンに備える。

『バトルです。《氷結界の龍トリシューラ》で《異次元の偵察機》に攻撃！ トライデント・ブリザード！...』

《氷結界の龍トリシューラ》はその3つの首に吹雪を溜め込み、一気に放つ。

「キヤーツシャツシャツシャ！！ もう少し考えた方がよかったのではないか？ リバーズ罷発動。 《プライドの咆哮》！ こいつは自分のモンスターの攻撃力が相手攻撃モンスターの攻撃力より低い時、ライフをその差の分払うことでダメージ計算時の間のみ、自分のモンスターの攻撃力は相手攻撃モンスターの攻撃力を300ポイント上回る。」

「！！ なんですって！？」

「グオオオオオオ……だが、これで終わりだ。 自らの攻撃で凍死しろ！」

ダーク・シムルグ：LP / 4000 2100

《異次元の偵察機》：ATK / 800 3000

ここで私は思った。 前のターン何故《和睦の使者》があるのに《レベル・ステイラー》を攻撃表示で出したのか。

…軽率だった。

そう思うが早いかどうか、

《異次元の偵察機》は攻撃力があがると《氷結界の龍トリシューラ》の吹雪をその球体を生かしていなし、

色々についている偵察器具を反射板代わりにして吹雪を反射。

《氷結界の龍トリシューラ》は自分の吹雪で破壊された。

そしてその余波……氷の破片は私にもやってきた。

『キヤアアアアア……ん？ 冷たくない。』

遊璃：LP / 3600 3300

《異次元の偵察機》：ATK / 3000 800

痛みはあるが、何故か冷たくない。

私はそれが疑問で目を開く。

するとそこには…

・
・
・

ミリトウムの張ってくれた膜が私へと降りかかる熱を吸収していた。

まさかミリトウムが張ってくれた膜が守ってくれるとは思ってもみ
なかつたので、

私は自分の場にいる《ドラグニティ・ミリトウム》に

『ありがとう。 ミリトウム』

と言ってみた。

そうしたら、《ドラグニティ・ミリトゥム》が振り返った気がするけど、多分気のせいよね。

『おのれえ〜 精霊の加護か… 誤算だった。（まあいい。私の場は万全。 我に負けはない）』

『私は手札から《ドラグニティ・ポーション》を発動します。このカードの効果により、自分はライフポイントを600回復します。ターン終了です』

遊璃：LP / 3300 3900

私のダメージによる傷が少し癒え、ミリトゥムの膜も少し回復した。

遊璃：LP / 3900

モンスター：《ドラグニティ・ミリトゥム》（D1200）、《ド

ラグニティ・ベビーバード》（DO）

魔法・罫：なし

手札：3枚

フィールド：《竜の渓谷》

適用効果：セットすることが出来ない

『私のターン！ 私は伏せカード《DNA移植手術》を発動する。

我は風属性を宣言！』

ダーク・シムルグのフィールドに奇妙な手術台のような物が現れると、《異次元の偵察機》と《レベルステイラー》がそこに放り込まれ、その体の色が若草色へと変化した

《異次元の偵察機》：属性/闇 風

《レベル・ステイラー》：属性/闇 風

『更に前のターンに発動した《テイク・オーバー・ファイブ》の効果を発動。墓地のこのカードと墓地の同名カードをゲームから除外することで、デッキからカードを1枚ドローする。』

ダーク・シムルグのフィールドに《テイク・オーバー・ファイブ》の石板が浮かび上がると、それが次元の裂け目に吸い込まれる。

それと同時にダーク・シムルグの元に1枚の石板が降ってきた。

『そして我は風属性となった《レベル・ステイラー》と《異次元の偵察機》をリリースし、《神鳥シムルグ》をアドバンス召喚！』

若草色に染まった2体のモンスターが黄色の渦に包まれると、その姿が消え、《ダーク・シムルグ》の翼を若草色にしたような鳥が現れた。

《神鳥シムルグ》：ATK/2700

『更に、《疾風鳥人ジョー》のレベルを1つ下げ、《レベル・ステイラー》を特殊召喚！』

《疾風鳥人ジョー》：

再び《疾風鳥人ジョー》のエネルギーを《レベル・ステイラー》が吸い取ると、

《レベル・ステイラー》はダーク・シムルグの場に定着した。

《レベル・ステイラー》：DEF0

『行くぞ！ 《神鳥シムルグ》で《ドラグニティ・ミリトゥム》を、
《疾風鳥人ジョー》で《ドラグニティ・ベビーバード》を攻撃！』

最初に《疾風鳥人ジョー》がものすごい速さで切り込んできて《ドラグニティ・ベビーバード》を切り裂き、

《神鳥シムルグ》が起こした風によって、私の場のモンスターは全滅した。

（ここから次の遊璃のターンまで「戸惑いのデュエル」にBGMを切り替えてください。多分合います…）

『ついに攻撃が通る。 我で人間に直接攻撃！ ダーク・ストーム！』

《ダーク・シムルグ》が黒い鎌鼬入りの暴風を吹きあらす。

それは私に向かって飛来する、私の体を翳める。

・
・
・

致命傷になる傷はミリトウムの張ってくれた膜で防いだが、少しは
軀に当たり激痛となる。

『いやああああ』

遊璃：LP / 3900 1200

私は痛みで座り込んでしまう。

『・・・我はカードを1枚伏せターンを終了する。（今伏せたカードは《シフト・チェンジ》。これで戦闘するモンスターや効果の対象は我が選ぶ。…いかに強力なモンスターの攻撃も効果も《レベル・ステイラー》に向けてくれるわ！）そしてエンドフェイズに《神鳥シムルグ》の効果、ゴット・トルネードが発動する』

『……ゴ、ゴット・トルネード？』

座り込んだまま、私が繰り返すと

『…お互いのエンドフェイズ時に《神鳥シムルグ》はお互いのプレイヤーに1000ポイントのダメージを与える。この効果でそれぞれのプレイヤーが受けるダメージは、魔法・罠カードをコントロールしている数×500ポイント少なくなる。』

ダーク・シムルグの説明が終わるや否や、《神鳥シムルグ》が咆哮をあげ、巨大な竜巻を作り出す。

ダーク・シムルグ側は2枚のカードが盾となって防ぐが、私の方は1枚しかない。

当然風は私の元に辿り着き、私の躰の痛みを増やした

『きゃああああ』

遊璃：LP / 1200 700

『我はこれで本当にターンエンド』

ダーク・シムルグ：LP 2100

モンスター：《神鳥シムルグ》（A2700）、《ダーク・シムルグ》（A2700）、《疾風鳥人ジョー》（A2300）、《レベル・ステイラー》（DO）

魔法・畏：《DNA移植手術》、1枚

フィールド：なし

適用効果：お互いにエンドフェイズに1000ポイントのダメージを受ける。

このダメージは自分がコントロールしている魔法・畏の数×500ポイント少なくなる。

私は未だに立ちあがれていなかった。

理由は躰に走る激痛で立ち上がることが出来ないからだ。

・
・
・

暫く経つても私がピクリともしないので

『どうした？ 今更怖気づいたわけでもあるまい。このまま進行しないのであれば私のターンとさせて貰うが、それでもよいかな？』

とダーク・シムルグが聞いてくるので

『…そんなわけないでしょ。』

と答えるが、やはり立ち上がることが出来ない。

『ならば早く立ち上がれ。我は気が短いんだ。』

そうやって急かしてくるが、私は立ち上がれない。

『もう良いか。人間。貴様のターンはおわら……』

とダーク・シムルグが言った瞬間、

・
・
・

『待て！』

私の後方より声が聞こえた。

私はわずかに残っている気力でその方向を見る。

そこには……

・
・
・
・
・
ダーク・シムルグの攻撃で倒れたミリトゥムが立っていた。

ミリトゥムは脇腹を抑えた状態で歩いてくる。

途中、何度か転びそうになるが、羽を精一杯に動かしてバランスを保ち、歩き続ける。

・
・
・
そしてミリトゥムは私の隣に辿り着いた。

そして耳元で

『主、クツ……ここからは私が貴女の手となります。　ハアハア……出すカードを……指示してください』

と囁いた。

私はそんなことはできないと思ったので

『駄目。そんなに怪我をしているミリトゥムに無理はさせられないよ。』

と言うが、ミリトゥムは受け入れず、私を強引に立ち上がらせた。

そして唐突に

『ハアハア……私達のターン、ハアハア……ドロー……』

とターンを開始してしまった

ダーク・シムルグは

『ふん。死にぞこないが……』

と声を漏らした。

・
・
・

ドローしてから少し経ち、ミリトゥムの息が荒くなっていることに私は気付いた。

そしてミルトウムの方を見てみると、

ミルトウムは顔を真っ赤にして肩で息をしていた。

何事かと思い、手をミルトウムのおでこに当てると、物凄い熱だった。

私はその時、今まで何も考えられなかった自分のプライドを捨て、ただ単にデュエルを早く終了させることを考え始めていた。

そしてドローカードをミルトウムから受け取り、言う。

『後は私がやります。 ミルトウムは休んでいて。』

そういつとミルトウムは安心したのか、再び意識を失った。

ここまで来るだけでも重労働だっただろうに…

私はそう考えると、ミルトウムを後ろの御爺さんに預け、

ミルトウムが取り戻させてくれた物を失わないようにデュエルを再開した。

『《竜の渓谷》の効果を発動！ 手札から《ドラグニティアームズ・レヴァティン》を墓地へと送り、デッキから《ドラグニティ・アキュリス》を手札に加える。』

私はこのデュエルで4度目になる《竜の渓谷》の効果を発動して、手札を入れ替える。

そして勝利へのキーパーツも手札に揃った。

私の脳裏に一瞬の出来事だが、映像が流れる。

そしてそれを遂行すべく行動を起こす。

『私は《ドラグニティ・ドウクス》を召喚。その効果で《ドラグニティ・コルセスカ》を装備!』

私の場に全体的に白い体を持つ鳥人が現れ、桃色の籠を従えた。

《ドラグニティ・ドウクス》：ATK1500 1900

『まだその攻撃力では我には勝てんぞ? キャーシャツシャ!』

ダーク・シムルグが言うてくるが、私はそれを無視する

『更に、墓地から《ドラグニティアームズ・レヴァティン》の効果を発動! 自分フィールド上の「ドラグニティ」と名の付いたモンスターを装備しているモンスターをゲームから除外することで、このカードは特殊召喚できる。来て! レヴァティン!』

私の場の《ドラグニティ・ドウクス》が次元に呑み込まれると、天空から咆哮が聞こえ、空から真澄色の翼に真澄色の尻尾を持つ巨大なドラゴンが舞い降りてきた。

《ドラグニティアームズ・レヴァティン》：ATK/2600

『グッ……ここでレヴァティンだと……』

そうダーク・シムルグが零すと

私の背後から

『良くも我が郷を襲ってくれたのお』

と声が聞こえ、私が振り返る間もなく、

その影は私の場の《ドラグニティアームズ・レヴァティン》と同化する。

そして

『主、我が郷を襲った報い、しっかりと与えてやるぞ！』

と《ドラグニティアームズ・レヴァティン》がしゃべったので私はそれに軽く頷き、

デュエルを続ける。

『更に《ドラグニティアームズ・レヴァティン》の効果を発動。このカードの特殊召喚に成功したとき、自分の墓地に存在するドラゴン族モンスター1体を装備することが出来る。私は《ドラグニティ・ファランクス》を装備！』

私が墓地から1枚のカードを提示して、レヴァティンに装備すると

レヴアティンが

『おお。これは中々……主は、あの破壊竜も使いこなそうと言っただな……』

と言った

それに対し、

『破壊竜……もしかしてこの地に封じられた伝説の龍……』

『察しが良いのお………』

ダーク・シムルグが絶句する中、私は更に1枚のカードを墓地から取り出す。

『そして自分のモンスターに「ドラグニティ」と名の付くチューナーモンスターが装備されたので墓地から《ドラグニティ ベビーバード》を特殊召喚！』

取り出したカードの効果を行い、そのカードをフィールドにセットすると、

私の場に卵に閉じこもった鳥の雛が現れた

《ドラグニティ ベビーバード》：DEF/0

『そして《ドラグニティ ファランクス》は自身の効果で特殊召喚できる。来なさい！ ファランクス！』

私が魔法・罨ゾーンにある《ドラグニティ ファランクス》を取り出し、フィールドにセットすると

私の場に金色の鎧の先端に2本の槍を持つ青い龍が現れた。

《ドラグニティ ファランクス》：DEF/1100

『行くぞ！ 主！』

レヴァティンが意気揚揚に声を出す。

『はい！ レベル8《ドラグニティアームズ・レヴァティン》にレベル2《ドラグニティ ファランクス》をチューニング！』

『何！？ 最上級モンスターをシンクロ素材にするだと……』

私のシンクロ召喚の方法にダーク・シムルグが驚いていた。

館の東にある火山帯へと飛び去る《ドラグニティアームズ・レヴァティン》と《ドラグニティ ファランクス》。

2体はかなりの速度で飛び続け、火山の火山口の中に消えた。

刹那。

火山の火山口より一筋の光が溢れ出る。

+

|| x 10

『秘境の奥に封ぜられし厄災の龍。 今、長き年月を経て、秘境の龍達と共に立ち未来への道を開け！』

私がここまで言ったときに、火山より1つの影が飛び出し、私たちの方に飛来してくる。

そして…

『シンクロ召喚！ 破壊せよ！ 《トライデント・ドラギオン》！
』！

私の場に飛来した影は私の場に舞い降り、砂埃を上げ、地割れを起こす。

現れたのは胴体は赤く、3つの首を持ちその其々が禍々しい顔を持ち炎を吐き続ける

まさに、破壊竜だった。

《トライデント・ドラギオン》：ATK/3000、属性：炎 風

『こ、これが……封印された破壊竜……』

『なんと……』

『うわああああ……』

順にダーク・シムルグ、御爺さん、観客が口々に言う。

『《トライデント・ドラギオン》の効果を発動。このカードのリンク召喚に成功したとき、自分フィールドのカードを2枚まで破壊することが出来る！ 私は《竜の渓谷》と《ドラグニティ ベビーバード》を破壊！ トライ・デストロイ！』

私が効果の発動を宣言すると、《トライデント・ドラギオン》の1つの首は《ドラグニティ ベビーバード》を捕食し、残りの2つの首は、《竜の渓谷》の絶壁に炎をぶつけ、破壊した。

『（ごめんなさい。 《ドラグニティ ベビーバード》……）』

『……キヤーシャッシャ！ 自分のカードをも破壊するとは……まさに破壊竜だなあ。 キヤーシャッシャ！ 人間、貴様を殺してから破壊竜は我が活用させてやる。 光栄に思え。 キヤーシャッ！』

ダーク・シムルグが《トライデント・ドラギオン》の行動に対して、歓喜の声をあげる。

私はそれを冷めた目で見、残りの手札を全て使用した

『……私は手札から《竜操術》を発動！そして、その効果で《トライデント・ドラギオン》に《ドラグニティ アクユリス》を装備！』

私の場に赤い体に白い角を持つ龍が現れ、《トライデント・ドラギオン》の手助けをしようとするが、
《トライデント・ドラギオン》の暴れっぷりに怖気づいたのか、距離を取る。
結局、遠隔でのサポートをするようになった。

《トライデント・ドラギオン》：ATK/3000 3500

『攻撃力が上がったと……』

『《竜操術》の効果で私の場の「ドラグニティ」と名の付くモンスターを装備されているモンスターの攻撃力は500ポイントアップします』

私は効果をダーク・シムルグに説明し、息を一息吸う。

『バトル！ 《トライデント・ドラギオン》で《疾風鳥人ジョー》を攻撃！ トライデント・ヴォルカノンバースト！』

私が攻撃を宣言すると、《トライデント・ドラギオン》は地を震わせ、灼熱の業火を吐き出す。

『畏カード、《シフトチェンジ》を発動。これで攻撃対象を《レベル・ステイラー》に変更する。』

《疾風鳥人ジヨ》と《レベル・ステイラー》が謎の光に包まれると、

次の瞬間で消え、《トライデント・ドラギオン》の攻撃が通る頃に位置を交換して現れた。

当然、《レベル・ステイラー》が火力に耐えられるはずもなく、跡形もなく焼失した。

『キヤーシャツシャ！ 我へのダメージは0だ。破壊竜といえども守備表示モンスターを破壊してもダメージは与えられまい… キヤーシャツ！』

ダーク・シムルグはそう声を上げているが、私のバトルフェイズはまだ……

終了していない。

『《トライデント・ドラギオン》で《疾風鳥人ジヨ》を攻撃！』

『キヤーシャツ！……何！？』

『《トライデント・ドラギオン》はシンクロ召喚に成功した時に破壊したカードの枚数だけ、このターン通常の攻撃とは別に攻撃することが出来る！』

『なっ！？ となると……あと合計2回の攻撃があるのか…』

『そういうこと。 トライデント・ヴォルカノンバースト2！』

そうして私がダーク・シムルグに効果を解説し、攻撃名を宣言すると、《トライデント・ドラギオン》の3つ目の首が灼熱の業火を放つ。

…

そしてそれは、《疾風鳥人ジョー》に当たり、跡形もなく消し去った。

『グオオオオオ…』

ダーク・シムルグ：LP / 2100 900

『これが最後の攻撃！ 《トライデント・ドラギオン》で《ダーク・シムルグ》を攻撃！ トライデント・ヴォルカノンバースト3！！』

《トライデント・ドラギオン》は地ならしをし、地割れを起こす。
《ダーク・シムルグ》はそれを空中に逃げることで回避した。

しかし、それは前兆だったのである。

地中の中から灼熱の業火が吹き出し、地割れを避けて安心していた
《ダーク・シムルグ》の体毛を完全に燃やし、骨にした。

『グワアアアアア……オノレエ……我が分身をよくも……』

ダーク・シムルグ：LP/900 100

ダーク・シムルグの言葉は気にせず、私はターンを終える。

『私はこれでターンを終了。』

『キヤーシャツシャ！ 我のター……』

ダーク・シムルグがフィールドに残っている効果は無視してターンを開始しようとするので

『待った。 貴方のフィールドにいる《神鳥シムルグ》の効果発動。 お互いのエンドフェイズ時にお互いのプレイヤーに1000ポイントのダメージを与える。』

私はそこで一旦言葉を切り、

『まあ、私のフィールドには《竜操術》と装備魔法カード扱いの《ドラグニティ アキュリス》がいるから1000ポイント軽減で0ダメージだけど、貴方は違う。』

『グッ……』

ダーク・シムルグが声に詰まる。

「貴方がコントロールしている魔法・罫は《DNA移植手術》の1枚だけ。よって500ポイントのダメージ。貴方の残りのライフポイントはわずかに100。この効果で貴方のライフポイントは尽きる。」

そう言い終えたとき、《神鳥シムルグ》は自身の効果「ゴット・トルネードを発生させ、フィールドに嵐を呼び出す。

私には《竜操術》とカードに戻った《ドラグニティ アキュリス》が防いでくれたけれど、
ダーク・シムルグは違う。

「莫迦な……この我が……人間ごときにいい……」

そう言って、ダーク・シムルグは文字通り、消え去った。

ダーク・シムルグ：LP/1000

遊璃：WIN

・
・
・

デュエルが終わると同時に、《トライデント・ドラギオン》は元の

2体の姿に戻る。

レヴァティンはデュエル後の自分の郷を見て、

『壊れてしまったな……だが、主のお陰で犠牲も少ない。』
：感謝
する。』

その言葉を聞いた瞬間、私は今まで我慢していた疲労がどっと押し寄せ気を失った。

・

・

・

・

・

・

・

う、うん。

『目が覚めたか？ 主。』

私が重い瞼を上げ、目をあけると

・
・
・

ミリトゥムがいた。

『ミリト……ウム？』

『ああ。』

ミリトゥムと確認した後に私は1つ大切なことを思い出す。

『……ねえ……トリルさんは？』

そう尋ねると、

ミリトゥムは目を閉じ、首を横に振った。

『トリルは……間に合わなかった。ダーク・シムルグの足が体の

中にまで食い込んでいたようで……主のデュエルが終わる頃には……
もう……』

そう言うってからミリトゥムは口を閉ざした。

そして、私は初めて身近な者の“死”を体験したことで、涙を流した。

涙が枯れ果てるとも言えるまで……

それをミリトゥムは私を抱きしめ、慰めてくれていた。

・
・
・
・
・

私が目覚めてから数日後。

私はレヴァティンから呼び出しを受け、書斎へと向かった。

何故かミリトゥムも一緒に。

・
・
・

レヴァティン宅 書斎

部屋に入って早々、ミリトゥムは跪き、私も《竜の溪谷》を壊してしまった罪悪感からそれに倣った。

『ミリトゥム、主。顔を上げて構わぬ。』

レヴァティンがそういうので私たちは顔を上げる。

『今日はいくつか連絡があっってお主等と呼んだのだ。』

そう言っレヴァティンは話し出した。

・
・
・

話の内容は主に彼の次元の乱れが収まりそうなので元の世界……と
いっても過去だが…に帰れるという内容だった。

早速、レヴァティンが送り出そうとするので私は慌てて口を開く。

『レヴァティン……ごめんなさい。私が《トライデント・ドラギオン》の封印を解いたせいで《竜の渓谷》を壊してしまって……本当にごめんなさい。』

私は誠心誠意心を籠めて笑った。

すると……

『フフフフ……ハツハツハ……主、儂らは誰も怒っておらんよ。寧ろ感謝しているくらいじゃ。』

そういので私は首を傾げる。

レヴァティンはそれを疑問と取ったのであろう。

丁寧に説明してくれた。

『実はな。破壊竜……いや、《トライデント・ドラギオン》が壊した崖からは隠されていた水源が、そして地割れが起きた地面からは植物が生えてきよった。儂らも最初は驚いたが、もしかすると破壊竜とは先達は何もかも破壊する姿だけを謳った物なのだろうな……それに水源が見つかり、植物が生えてくるとは、儂ら龍人や鳥人には非常にありがたいのじゃ。感謝すべきなのはこっちじゃよ……』

そう言つて、レヴァティンは目を細める。

そして、

『だが、僕らには主に返せることが何もない。』

そこで一旦レヴァティンは言葉を切り、

『…だから僕は考えた。そして思いついたことがある。 ミリト
ウム。』

『ハッ！』

今まで黙っていたミリトウムが声を出す。

『お主に新しい指令を与える。 人間界で主の手助けをせよ！ 良
いな？』

『ハッ！ この《ドラグニティ ミリトウム》、精一杯レヴァティ
ン様より賜った使命を全う致します。』

・
・
・
・
・

あの後、私は《竜の溪谷》でも精鋭というか軍団長を連れて行くことなんて出来ません。

と言ったが、レヴァティンはそれを一蹴。

完全に言い包められ、結果的には自分でミリトゥムを連れて行くという発言もしてしまった。

そして今、レヴァティンの術で過去の世界に戻された。

・

・

・

う、うっん。

こっちは・・・

「お目覚めですか？ 主。」

（精霊の言葉は分かりづらいので」「で書きます by 戎鴛）

私の前に半透明のミリトゥムが現れて言う。

・・・

そっか。ミリトゥムも一緒にこっちに来たんだっけ。

とういふか今何時!?

《竜の溪谷》で何日も過ごしたから多分平日…

・・・って、大丈夫ね。

日曜日の13時ごろだわ。

多分、過去と未来では時間軸に差があるのだろう……

そう自己解決していると、

「クリクリ」

そう鳴き声でしたのでその鳴き声の方向に向かってみる。

ミリトゥムは私の斜め後ろを飛んで着いてきていた。

鳴き声の元に辿り着くと……

・
・

「クリクリ〜クリクリ〜」

あそこね…

つて、皆!?

私は急いで駆け寄った。

すると

『ん……んあ……みんな』

遺跡の門に寄りかかっていた遊城君が目を覚ました。

『遊城君! 大丈夫?』

私が聞くと

『あ、ああ。 大丈夫だ。 不動こそ、どこに行っていたんだ?』

そう聞き返してきたので、

『遊城君は?』

と聞き返す。

『質問を質問で返すなよ……まあ、いいけど。俺たちは精霊世界に行っていたんだ』

と言うので、私は物凄く驚いてしまい、

『ええ！？ 遊城君も！？』

と言ってしまった。

急いで口を塞ぐが時既に遅し、

『も？……不動も精霊世界に行っていたのか？』

『……え、ええ。』

言ってしまった手前仕方がなかったので私は遊城君に言われたことを肯定した。

・
・
・

遊城君が立ち上がると、そこには《ハネクリボー》のカードがあり、遊城君がそれを見た後に前田君の頭に《デス・コアラ》のカードがあるのを見つける。

私がどうしてそんなところにカードが落ちているのか疑問に思っ

いると、

「主。そのカード達は精霊です。確かに力を感じます」

ミリトゥムが私の背後に現れて私の耳元でそう言ってきた。

そうしたら突然遊城君が周りをキョロキョロしだして、

『あれ？ 今何か聞こえなかったか？』

遊城君がミリトゥムの方を向く時にはミリトゥムは既に姿を消していたので
私は…

『ううん。聞こえなかったよ』

と言った。

『・・・そうか。 それにしても……あれは夢だったのかな？』

遊城君が言うので

『夢？』

そう聞いたときに遊城君が自分の首に何かがかかっているのに気づく。

暫くそれを眺めた後に顔を上げ、

『……あれは！ 夢じゃなかったんだ！』

と言っので

『何よ？ 自己完結しないですよ。 気になるから。』

と言った。

その言葉で話すことに決めたのか遊城君は精霊界の出来事を話してくれて、

私は私で《竜の渓谷》での出来事を話した。
都合の悪い部分は除いて…

・
・
・

その後、私たちは他の3人を起こして下山した。

ただ一つ、私の精霊・《ドラグニティ ミリトゥム》が増えたという事を秘密にして…

・・・T o b e c o n t i n u e d

今回の新規登場（使用）カード

ブラックフェザース
《BF - 精鋭のゼピュロス》

効果モンスター

星4 / 闇属性 / 鳥獣族 / ATK1600 / DEF1000

このカードが墓地に存在する場合、

自分フィールド上に表側表示で存在するカード1枚を手札に戻して発動する。

このカードを墓地から特殊召喚し、自分は400ポイントダメージを受ける。

「BF - 精鋭のゼピュロス」の効果はデュエル中に1度しか使用できない。

異次元の偵察機
《異次元の偵察機》

効果モンスター

星2 / 闇属性 / 機械族 / ATK800 / DEF1200

このカードがゲームから除外された場合、

そのターンのエンドフェイズ時にこのカードを

自分フィールド上に表側攻撃表示で特殊召喚する。

幻惑の巻物
《幻惑の巻物》

装備魔法

装備モンスター1体の属性を、自分が選択した属性に変える。

疾風鳥人ジョー
《疾風鳥人ジョー》

効果モンスター

星6 / 風属性 / 鳥獣族 / ATK2300 / DEF1400

風属性モンスターを生け贄にして生け贄召喚に成功した場合、

フィールド上の魔法・罫カードを全て持ち主の手札に戻す。

《テイク・オーバー・ファイブ》
アニメオリジナル
通常魔法

自分のデッキの上からカードを5枚墓地に送る。
自分のスタンバイフェイズにこのカードが墓地に存在する場合、
このカードとデッキ、手札、墓地に存在する同名カードをゲームから除外する事で、デッキからカードを1枚ドロウする。このカードは1ターンに1度しか発動できない。

《レベル・ステイラー》

効果モンスター

星1 / 闇属性 / 昆虫族 / ATK600 / DEF0

このカードが墓地に存在する場合、自分フィールド上に表側表示で存在する

レベル5以上のモンスター1体を選択して発動する。

選択したモンスターのレベルを1つ下げ、このカードを墓地から特殊召喚する。

このカードはアドバンス召喚以外のためにはリリースできない。

《暴風小僧》
ウインド
リノ

効果モンスター

星4 / 風属性 / 天使族 / ATK1500 / DEF1600

風属性モンスターをアドバンス召喚する場合、

このモンスター1体で2体分の生け贄とする事ができる。

《ダーク・シムルグ》

効果モンスター

星7 / 闇属性 / 鳥獣族 / ATK2700 / DEF1000

このカードの属性は「風」としても扱う。

自分の墓地の閻属性モンスター1体と風属性モンスター1体をゲームから除外する事で、このカードを手札から特殊召喚する。

手札の閻属性モンスター1体と風属性モンスター1体をゲームから除外する事で、

このカードを自分の墓地から特殊召喚する。

このカードが自分フィールド上に表側表示で存在する限り、

相手はフィールド上にカードをセットする事ができない。

《烈風の宝札》

通常魔法（豆フクロウさん投稿オリジナル）

このカードは、お互いの場に風属性モンスターが存在する時のみ発動する事が出来る。

このカードを発動させたターン、レベル5以上のモンスターの召喚、特殊召喚を行うことが出来ない。

このカードが発動したとき、フィールド上に存在する風属性モンスターの数だけデッキからカードをドロース、その後相手の場の風属性モンスターの数だけ手札のカードを墓地に送る。

《プライドの咆哮》

通常罫

戦闘ダメージ計算時、自分のモンスターの攻撃力が相手モンスターより低い場合、

その攻撃力の差分のライフポイントを払って発動する。

ダメージ計算時のみ、自分のモンスターの攻撃力は

相手モンスターとの攻撃力の差の数値 + 300ポイントアップする。

《ドラグニティ・ポーション》

速効魔法（キラールさん投稿オリジナル）

自分フィールド上の「ドラグニティ」と名のついた表側表示のモンスターの数×300ポイントのライフを回復する

《DNA移植手術》

永続罨

発動時に1種類の属性を宣言する。

このカードがフィールド上に存在する限り、
フィールド上の全ての表側表示モンスターは自分が宣言した属性になる。

《神鳥シムルグ》

効果モンスター

星7 / 風属性 / 鳥獣族 / ATK2700 / DEF1000

このカードは特殊召喚できない。

このカードをアドバンス召喚する場合、

リリースするモンスターは風属性モンスターでなければならない。

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、

お互いのプレイヤーはお互いのエンドフェイズ毎に1000ポイントダメージを受ける。

この時、それぞれのプレイヤーが受けるダメージは
魔法・罨カードをコントロールしている数×500ポイント少なく
なる。

《ドラグニティアームズ・レヴァティン》

効果モンスター

星8 / 風属性 / ドラゴン族 / ATK 2600 / DEF 1200

このカードは自分フィールド上に表側表示で存在する

「ドラグニティ」と名のついたカードを装備したモンスター1体をゲームから除外し、

手札または墓地から特殊召喚する事ができる。

このカードが召喚・特殊召喚に成功した時、

「ドラグニティアームズ・レヴァティン」以外の

自分の墓地に存在するドラゴン族モンスター1体を選択し、

装備カード扱いとしてこのカードに装備する事ができる。

このカードが相手のカードの効果によって墓地へ送られた時、

装備カード扱いとしてこのカードに装備されたモンスター1体を特殊召喚する事ができる。

《トライデント・ドラギオン》

シンクロ・効果モンスター

星10 / 炎属性 / ドラゴン族 / ATK 3000 / DEF 2800

ドラゴン族チューナー+チューナー以外のドラゴン族モンスター1体以上

このカードはシンクロ召喚でしか特殊召喚できない。

このカードがシンクロ召喚に成功した時、

自分フィールド上に存在するカードを2枚まで破壊する事ができる。

このターンこのカードは通常の攻撃に加えて、

このカードの効果で破壊した数だけ1度のバトルフェイズ中に攻撃する事ができる。

《シフトチェンジ》

通常罫

相手が魔法・罫・戦闘で自分のフィールド上モンスター1体を指定

した時に発動可能。

他の自分のフィールド上モンスターと対象を入れ替える。

21話：命を賭けた決闘。 VS ダーク・シムルグ (後書き)

新規カードの欄を除いても15000字。

どうしてこんなにも長くなった……

途中で色々与会話イベント入れたからですね……

さて、ダーク・シムルグは単発キャラなのでデッキ解説。

ダーク・シムルグのデッキは自身と神鳥シムルグを切り札に相手のカードをロックして戦います。

しかし、装備魔法や召喚サポートに魔法カードが多く使われている為に《魔封じの芳香》は入っていません。

他には隠しエースで《獣神機王 バルバロス U r》も入っています。

出ませんでした……

その素材で相性のいい《異次元の偵察機》や、魔法・畏を退かす為に《賢者・ケイローン》、守備貫通で《激昂のミノタウロス》が入っています。

両方出ませんでしたけど……

《DNA移植手術》や《幻惑の巻物》は《神鳥シムルグ》や《疾風鳥人ジョー》の召喚サポート。

でも効果が使えるかは分かっていません。
いくら裁定調べても載っていなかったの……

そういう訳で上記の2体はフィールドでの属性を参照すると判断して使わせました。

最後に《シフト・チェンジ》や《プライドの咆哮》はダーク・シムルグの性格そのものを表しています。

《トライデント・ドラギオン》の封印を解くために《霞の谷》は部下にすべて任せた上に、プライドだけは高いです。

色々台詞で言っているので探してみてください。

今回は……

やっと、セブンスターズに入ります！

セブンスターズの順番は変えません。

大事なので……

その分敵過剰強化注意です。

最後にバランス悪くて読みにくくてすみません。

22話：紅き瞳を操る者の襲来（前書き）

今回の題名で相手は分かりますよね…
前回は言いましたし…

今回は遊璃に私の本音を言わせてみます。

その為に遊璃の酷い交渉をします

まあ、物語的に拙い発言なので読みたくなければそこを飛ばすあるいはブラウザバックで。

そして今回はアニメ効果のカードも出すので最後の新規登場カードまでしっかりと読んでください。

OCGとは違うという指摘は無視するつもりです。

22話：紅き瞳を操る者の襲来

side yuri

私が《竜の溪谷》で命を賭けた決闘をしてから2週間ほどの時が過ぎた。

その間、私は瑞波と色々と交流を図ったり、ミリトゥムに精霊について聞いたりしていたわ。

…やっぱり龍可姉さんの言葉をもっと真面目に聞いていれば良かったなんてその時思ったわ。

殆ど知らないことだったし…

・

・

・

今は講義の途中だけど、だんだんと講義の時間も終わりに近づいてきたわ。

因みに今の講義は錬金術。

またって思うかもしれないけれど、錬金術の授業が結構多いのよね…

何故かしら？

…まあ、そんな疑問よりも今回は爆発事件はなさそうよ。
実験していないから。

・
・
・
・
・

キーン、コーン、カーン、コーン……

授業が終わった瞬間

『よっしゃあ！！ 昼飯だあ！！』

『ね、寝てたんすか！？』

『気付けよ。 翔。』

……

何か前にもあったようなやり取りね……

声の主は分かっていたが、一応後ろを見てみると、
目を書いたお面を頭に乗せた遊城君と、

全く気が付いていないようだった丸藤君がいた。

……思うんだけど、よく気が付かないわね…

私がそう思っていると、遊城君は重箱を取り出し、

『今日は、トメさんお手製の弁当だぜ!』

とニコニコ笑い、手を擦り合わせている。

「あの者、本当に幸せそうな顔をしているな。」

突然ミリトゥムが出てきて話しかけられたので、

『（そうね）』

念話で返しておいた。

念話とは精霊が精霊の持ち主と話す上で周りに知られたくない内容
や、雑談に使われるらしい。

私の場合はもっぱら、雑談用だけどね。

私がある後もミリトゥムと少し雑談していると、

講義が終わったのに退出していなかった大徳寺先生が、

『ああ、遊城十代君。　お昼はちょっと待つのだにや。　私と校長室に行くのだにや。』

と言ってきた。

内容は兎も角として、あの幸せそうな顔をしている遊城君を止めるなんて勇氣あるわね…

と思っていると、案の定遊城君は

『ええ。』

と返す。

まあそうよね。

お昼食べようと……いえ、食べ始まっているところを邪魔されたのですものね。

エビフライ食べ始めているし…

そう私が考えていると、

遊城君の後ろに座っていた前田君が顔を乗り出してきて、

『十代、お前また何か拙い事をやったんじゃないのか？』

『拙い事って……？』

『校長室だって。　兄貴まさか退学とか……』

『ん？ 覚えがないぞ。 そんな事』

等と話しているのが聞こえた。

というか。

食べながら話すのは行儀が悪いと思うわ。

というか良く話せたわね。

しかも話すならまだしも聞く方も良く聞こえたわね。

聞くのは……なんか違う気がするけど…

私が自分の考えに突っ込んでいると、

遊城君の斜め後ろの方に座っていた万丈目君が立ち上がり、

『ハハハハハ！ 十代、短い付き合いだったな。 さよならだ！』

と言つて、遊城君を指さした。

…なんというか、遊城君って退学しそうなことしていたっけ？

私は記憶を探るが、特にないと思う。

寧ろ丸藤君の方が……明日香に密かに教えられた丸藤君の覗きぐらいしかない気がする。

その事件については詳しく教えてくれなかったんだけどね…
すると大徳寺先生が

『あ、そうそう。 万丈目君、貴方も来てください。』

『エエ！』

『それから、三沢君、明日香さん、遊璃さんも。』

と万丈目君以外にも呼び出しをし……

つて私も！？

私、何も覚えがないんですが…

そう思いつつも立ち上がり、大徳寺先生の方へと向かった。

・
・
・

暫く大徳寺先生と遊城君たちと歩き、今は校長室のある部屋の前の
廊下。

『何で呼ばれたのさ？』

『さあ？ 実は私も良く知らないのにや！』

『ふう〜ん』

遊城君のボヤキに大徳寺先生は答える。

とうか先生も知らないなんてね…

余程の機密情報があるいは…

「（主、主の考えは分かります。それに、あの大徳寺という男。何かある気が…）」

私が考え込んでいるとミリトウムが私の考えを読んで言った。最初の頃は急に読まれていたから吃驚したけれど、今は慣れたわ。

しかも、今みたいに悩みこんでいないと読めないみたいだし…

そうしているうちに皆とは少し離れてしまったわ。

早く追いつかないと。

私が追いついてからまたしばらく歩き、校長室の前に来た。
偶然か否か、向かい側からクロノス先生と男の人。

……誰だったっけかな？

私は会った事がないがどこかで見たことのある顔。
しかし、前から来た男性が誰だか分からない。

未来の知識も少しずつ薄れてきているのだ。

私はそう思い、その思考を断ち切った。

それとほぼ同時に両者が校長室の前に辿り着く。

対面してお互いに立ち止まったところでクロノス先生が口を開く。

『ほゝ 層々たる顔ぶれナノーネ！ 貴方たちも校長に呼ばれた
のですーカ？』

そういった後に私たちの顔を一瞬一瞥し、

遊城君に向かって言う。

『ティラミスふうくみ、これは間違い探しですーノ！ 1人だけ仲
間外れがいるノーネ！』

『気にすんなよ。サンダー！』

『お前だ!』

遊城君が万丈目君に振り、万丈目君が否定した。

私としては仲間外れは

未来人と言う点では私。

学年と言う点では目の前の男性。

先生は2人いるから除外。

女性は私と明日香だから除外。

…寮で見ると、

私と明日香がオベリスク・ブルー女子。

目の前の男性がオベリスク・ブルー。

三沢君がラー・イエロー。

遊城君と万丈目君がオシリス・レッド。

寮で言えば、目の前の男性と三沢君が仲間外れね…

等と私が色々と仲間外れ探しをしているうちに話は終わり、みんなで校長室に入ることになった。

・
・
・
・
・

デュエルアカデミア・校長室

現在この部屋にいるのは、校長先生、遊城君、万丈目君、三沢君、オベリスク・ブルーの男性、クロノス先生、明日香、そして私。

大徳寺先生は来て早々に退出したわ。

そして、校長先生から発せられた第一声は

「三幻魔」という言葉だった。

三幻魔。

確かトップスの図書館で読んだことがあるわ。

色々といわくつきのカードで、デュエルモンスターの力を吸い取って力にするだとか。

永遠の若さを手に入れることが出来る。とか色々書いてあったわね。

まあ、持ち出し禁止図書の中にデータがあつたし、データコピーもできないようにロックがかかっていた。

それだけでも十分強固なのに、現在のそのカードの在り処などのページは閲覧パスワードという物が必要だったわ…

流石にハッキングしてまで見るような内容じゃなかったからそのまま元に戻して馬鹿馬鹿しい話だと一蹴した覚えがある。
永遠の若さとかは特に…ね。

つて、思考に浸っている場合じゃないわ。

ちゃんと聞かなきゃね……

と思つたけど、あまり進んでいないみたい。

どうやら皆初耳のようで反応に困っているらしい。

ふう…聞き逃していないようによかつた。

私はそのことに安心した。

そして私が本格的に聞く体制になつた頃、

『三幻魔のカード？』

我に返つたのか遊城君が聞いてくる。

校長先生は少し考えるような仕種をした後に振り返り、

『そうです。この島に封印されている古より伝わる3枚のカード。』

』

なんか、危ないところなのね…

こじって…

私がそう思っているよ、

『えっ！ この学園ってそんなに昔からあったのか？』

『うるさい！ 黙って聞け！』

遊城君、確かに疑問に思うと思うけれど今そこは大切じゃないと思うわ。

万丈目君もいいタイミングで止めてくれたわ。

下手すればずっと遊城君のペースに巻き込まれかねないから…

『そもそもこの学園はそのカードが封印された場所の上に、建っているのです。』

…いきなり、しかもさり気無く重要な話をしましたよ。 校長先生。

そんな大切なことは皆が落ち着いてからしましょうよ…

案の定、

皆納得がいかないのか

『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『
『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『
『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『
『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『
『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『
『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『
『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『
『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『
『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『
『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『
『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『
『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『
『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『
『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『
『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『
『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『
『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『
『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『
『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『
『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『
『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『
『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『
『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『
『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『
『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『
『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『
『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『
『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『
『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『
『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『
』 』 』 』 』 』 』 』 』 』 』

私以外は口を揃えていった。

私は普段から考え終わってから口にするようにしているから、
どうしてもこつこついう時に合わせられないのよね……

・ ・ ・

あの後、みんなが落ち着いた頃を見計らって再度校長先生が同じ話
をし、

その上で詳しい話をし始めた。

くアカデミアの伝承の説明は原作通りなのでスキップく

『 そのカードの封印を解こうと、挑戦してきた者たちが現れたので

す。』

全く迷惑な……

もし封印を解いたらその人達も危ないのに…

『一体、誰が…？』

オベリスク・ブルーの男性が聞く。

確かに私も気になるわ。

『七精門。 - セブンスターズ - と呼ばれる7人のデュエリストです。 全くの謎に包まれた7人ですが、もう既にその内の1人がこの島に…』

そこまで分かっているんですね…

校長先生の情報力侮れないかも……

『何ですって。』

『でもどうやって封印を解こうと…』

三沢君と明日香が言う。

まあ、封印を解きに来たのに7人の内1人しか来ないとすれば…

偵察か、嘗められているのか。

そんなところでしょうか…

私が1人というところで色々と可能性を考えていると、

『勿論デュエルです。』

……ちょっと待て。

落ち着け私。

デュエルで封印の何かを取り合うつて事かしら。

それなら1人でも事足りそうね。 うん。

私が無理やり納得した頃、校長先生は続きを話す。

『三幻魔のカードはこの学園の地下に封印され、「七精門」と呼ばれる7つの巨大な石柱がそのカードを守っています。…その7つの石柱は7つの鍵によって開かれる…』

ふむ。

となるとデュエルで鍵の奪い合いをするのかしら？

私が大体の予想を頭の中で整理していると、

校長先生がいつの間にか取り出した箱を机の上に置いて言った。

『…これがその7つの鍵です。 皆さんには、この7つの鍵を守っていただきたい。』

『……………』

私を含め、皆が唾を呑み込む音が聞こえる。

どうやらその方法、「七精門」の鍵の争奪戦について理解したみたい…

『守るって言ったってどじやって…』

三沢君が聞く。

さっきの話を聞いていなかったのかしら？

校長先生は…

『勿論、デュエルです。』

って言ったわよね。 もう1度言ってくれたけれど…

『七精門の鍵を奪う為にはデュエルによって勝たねばならない。これは古よりこの島に伝わる約束事。…だからこそ、学園内でも屈指のデュエリストである貴方方に集まっていたいたのです。』

その後校長先生は拳を口元に持って行って1回咳払いをしてから

『まあ、1名程数合わせに呼んだのもありますが……』

とクロノス先生に向かって言うが……

クロノス先生は遊城君を指差し、

『貴方の事ナノーネ！』

『フン！』

ああ、良かった。

無益な争いにならないで……

遊城君もクロノス先生の扱い方に慣れたみたいね……

すると校長先生が再び口を開き、

『この7つの鍵を持つデュエリストに彼らは挑んできません。……貴方方にセブンスターズと戦っていたただける覚悟を持っていたただけるのなら……』

一旦口を止め、箱を開く。

『どうか、この鍵を受け取って欲しい。』

と言って、頭を下げた。

・

・

あの後、その場に集まった私を含めた7人は鍵を受け取り、各自の部屋でデッキ調整をすることになった。

瑞波にはすでにこのことを伝えたわ。

そうしたら

『藤原だっけ？ そいつの事はあたしに任せて、遊璃は鍵を守ることに集中しな！』

と言われた。

え？ 瑞波の一人称？

ここはノース校みたいに男子ばかりの所じゃないから一人称を元に戻そうと思っているらしいけれど、なかなかうまくいかないみたいよ。

そういう訳で私は瑞波に雪乃探しを少し任せて、自室に入った。

コンコンコン。

誰かがノックをしてきた。

『はい。開いていますよ。』

そう返すと扉が開いて1人の人影が入ってくる。

私は少し構えて誰が入ってきたのか見定める。

入ってきたのは…

・ ・ ・

…セブンスターズ。

ではなく、明日香だった。

入ってきた明日香が目を点にして話しかけてきた。

『遊璃、どうして構えているの？』

と。

だから私は正直に

『セブンスターズかと思って……』

と告白した。

それに対して明日香は笑って、

『フフフ。 ……そんなわけではないでしょう。』

なんていうから、

『もしかしたら至極丁寧な人かもしれないじゃん』

『それは……ないとは言えないわね……』

私が返答すると、明日香は少し困ったような顔つきでそう答えた。

…

そして私が明日香にお茶を用意し、飲み干した辺りで問う。

『で、明日香は何のようであたの？』

そういつと明日香は思い出したように慌てて、

『あ、すっかり忘れていたわ！ 遊璃ついてきてー！』

そう言って、私の手を引っ張り、女子寮を出た。

あ、電気は明日香が出ざまに消してくれたわよ？

走りながら明日香が聞いてくる

『ねえ。 セブンスターズ側の視点で考えてみて。 敵側から見て、最初に狙うのは強い人と弱い人。 どちらだと思っ？』

私はそれに

『うん。 強い人を倒してから弱い人と行くのが理想的だけれど、下手をすると強い人で全滅する可能性もあるから、やっぱり弱い人

から地道に倒すわ。私だったら。』

と返した。

明日香はそれに頷いて、

『そう、私もそう思ったの。それで相手側から見ても個人の強さは分からない。けれど寮の情報とかが知られているとしたら……』

そこまで話した時に明日香の意図が分かり、口に出す。

『『やっぱりオシリス・レッドから。』』

図らずも明日香と声が被ってしまった。

・
・
・

そうして走り続けること暫く。

ようやくオシリス・レッドが見えてきた頃それは起こった。

……なんとオシリス・レッドの一室が突然光始めたのだ。

それを見た明日香は

『十代!』

そう言って走り去った。

どつちからあの部屋は遊城君の部屋らしいわね。

って、考えている時間はないわ。

早く向かわなきゃ！

そう言って、明日香の後ろを追った。

・
・
・
・
・

『う、ううん。　ここは…』

私は確か、遊城君の部屋に入ってそれで…

…光に包まれ意識を失った。

私はその事実を納得すると、起き上がった。

そこには……

遊城君と明日香が倒れていたなので私は2人を起こした。

・
・
・

『1111は…』

2人を起こした後には明日香が声を漏らす。

すると遊城君が私たちが乗っている白い膜状の台を張って行って、

『火山じゃんか…』

そう零した。

って火山!?

それって色々ありがたいような拙いような……

・
・
・

私がそんなことを考えているとは露知らず、突如溶岩の中から1つの火中というか
なんだかよく分からないものが現れ、私達から少し離れた場所に着弾した。

それによって大きな炎が舞い上がる。

・

・

・

というか、それって凄い仕掛けよね…

流石に溶岩の中に仕掛けをする気にはならないわ。

等と考えていたら、

炎の中から1人の男性が歩いてきた。

そうして声が聞こえる所まで来てから口を開く。

『我が名はダークネス。 セブンスターズの1人。』

『お前が…』

『遊城十代。 お前が私の最初の相手だ。』

『やっぱ俺が一番強い!?!』

男…ダークネスの言葉に遊城君が反応する。

…するとダークネスの掛けていた首飾りが突然発光し、ダークネスはそれを見て言う。

『…何故だか分らぬが、このペンダントの光に導かれた。 …だが欲しいのはその胸に揺れる七精門の鍵。』

そう言ってペンダントを持っていた右手を遊城君目掛けて指差す。

そして

『貴様からその鍵を奪って見せよう。 闇のデュエルで。』

『闇のデュエル……』

遊城君が最後の言葉に反応を示した。

•
•
•

って、闇のデュエル!?

確かあの時タイタンは…

〈回想〉

『闇のデュエリスト……ですか？ ということはこれは闇のゲーム?』

『そうしてもいいのだが、人質を消してしまったては元もこつもないからなあ。普通のデュエルだあ!……』

〈回想終わり〉

そう言って普通のデュエルをしてくれた。

でもママから闇のデュエルについては聞いたことがある。

それはダメージが現実のものになるという恐ろしいデュエル。

でも精霊界のデュエルは……

ダメージが現実ではなく、実際に命を削りあつたデュエルだった。

・
・
・

ううん。今はそんなことを考えている場合ではないわ。

遊城君1人でデュエルさせるのはあまりにも危険すぎる。

どうかして1対2に形に持ち込まないと…

・
・
・

私その方法を考えている間にも2人の話は進んでいる。

会話はよく聞いていなかったけれど、丸藤君と前田君が光の檻に人質になっている。

卑怯な…

そう思うと同時に私は口を開いていた。

『ちよつと待ちなさい!』

s i d e o u t

s i d e d a r k n e s s

私がデュエルの方法を遊城十代に説明していると、

遊城十代の後ろにいた1人の女が中断してきた。

『ちよつと待ちなさい!』

グッ…

私は話を途中で遮られるのが嫌いなのだが、紳士風に装わねばな。

私は震える拳を袖に隠し、女に聞く。

『なんだ？』

すると女は、

『そのデュエル、私も参加します。』

・
・
・

何！ 正気かこの女。 自分から闇のデュエルに参加するだ！？

だが、私は遊城十代とデュエルすると決めていた。

だから断ろうと口を開こうとしたが、その前に女が口を開く。

『・・・入れてくれなければ、鍵を火口に捨てます。』

ハア！？

よくよく見ると女の首には七精門の鍵が掛かっている。

だが、1対2は分が悪い。

でも鍵を捨てられるといくら頑張っても6つしか鍵が集まらない…

仕方ない。

受けるしかない。

『いいだろう。 2人同時に相手になつてやる。』

私がそういった瞬間女は笑みを浮かべた。

本当に何なんだ。

こいつ…

s i d e o u t

s i d e y u r i

私の苦肉の策ともいえる作戦は成功し、なんとかダークネスと1対2のデュエルに持ち込むことが出来た。

隣の遊城君が何か渋っているが、仕方ない。

今は早くダークネスを倒して前田君たちを助ける必要があるんだ。

『ルールは1対2の変則マッチ。 私たちのライフポイントは4000ずつ。 ダークネスは2人の合計の8000ポイント。 順番は遊城君、ダークネス、私、ダークネス、遊城君…の順番で2回目の遊城君のターンから攻撃が可能。 それでいいわね。』

私がルールを提示すると

ダークネスからは

『…いいだろう』

と、遊城君からは前田君たちを早く助けるといつ気持ちは高ぶったのであろう

無言で頷きが返ってきた。

『『『デュエル!』』』

十代：LP / 4000 & 遊璃：LP / 4000 VS ダーク
ネス：LP / 8000

『俺のターン!』

遊城君が大きく足を開いた状態でカードを引く。

『俺は《E・HERO バブルマン》を召喚!』

遊城君の場に現れたのは青いタイトのようなズボンに所々水色の鎧を着た戦士。

その戦士が色々とポーズを決めて遊城君の場に降り立った。

《E・HERO バブルマン》：ATK / 800

『そして、《E・HERO バブルマン》の効果発動! このカードの召喚・特殊召喚に成功したとき、自分のフィールド上に他の力

ードがなければ、2枚のカードをドロォできる。俺は2枚ドロォ
!』

…あれ? バブルマンってそんな効果だっけ?

確か手札も0じゃないと発動できなかつたような……

まあ、いいわ。多分私の知っているのはエラツタ後ね。

多分、きつと…

まあ、今はそれをおいておいて、遊城君はカードを2枚ドロォした。

そして、その中に目的のカードがあつたのか嬉しそうな表情を見せて手札のカードを2枚取り、掲げる。

『更に俺は魔法カード《融合》を発動! 手札の《E・HERO
バーストレディ》と場のバブルマンを融合!』

フィールドに渦が現れ、その中に露出度が高く化粧をしまくつた赤いレオタードを着た女性と先ほどのバブルマンが吸い込まれる。

やがてその中から1体の戦士が降臨した

『融合召喚! 《E・HERO スチーム・ヒーラー》!』

遊城君の場に現れたのは紫色のボディに所々線の入っている戦士。その頭がバブルマンと同じにしか見えないのは気のせいかしら…

《E・HERO スチーム・ヒーラー》: ATK/1800

『カードを2枚伏せて、ターンエンド』

最後に遊城君はカードを2枚伏せてターンを終えた。

十代：LP / 4000

モンスター：《E・HERO スチーム・ヒーラー》（A1800）

魔法・罫：2枚

手札：3枚

フィールド：なし

適用効果：なし

『私のターン、ドロー！』

ダークネスは肩幅に足を開いた体制でカードを引き、1枚のカードをディスクにセットした。

『私は《仮面竜》を守備表示で召喚！ ターンエンドだ。』

ダークネスの場に現れたのは白い胴体に所々赤い体をし、顔には仮面が着いている竜だった。

《仮面竜》：DEF / 1100

ダークネス：LP / 8000

モンスター：《仮面竜》（D1100）

魔法・罫：なし

手札：5枚

フィールド：なし
適用効果：なし

『私のターン！』

私はカードを引き、手札を眺める。

そして歯噛みをした。

事故を起こした…

モンスターはあるけれど、今後のドローが良くなければシンクロすらできないと。

…仕方がない。

『私は《ドラグニティ・ガードナー》を守備表示で召喚。カードを1枚伏せて、ターン終了。』

私の場には大きな盾を持った竜騎士が現れ、守備の体制を取った。

《ドラグニティ・ガードナー》：DEF/1700

遊璃：LP/4000

モンスター：《ドラグニティ・ガードナー》（D1700）

魔法・罫：1枚

手札：4枚

フィールド：なし

適用効果：なし

『私のターン!』

変則ルールの為、再びダークネスのターンになる。

そしてダークネスはドローカードを見て笑みを浮かべた。

『私は《黒竜の雛》を召喚。』

ダークネスの場に小さな黒い竜が頭を覗かせる赤い卵が現れた。

《黒竜の雛》：ATK/800

つて、不味い。

あのカードは…

『《黒竜の雛》の効果を発動。このカードを生け贄にすることで手札から《真紅眼の黒竜》を特殊召喚できる。』

『何!?!』

遊城君が声を上げる。

つて、知らなかったの?

まあ、《真紅眼の黒竜》自体数十万するからね。仕方ないと言え
ば仕方ないか。 仕方ないと言え

私がそう自己完結していると、

《黒竜の雛》が卵から完全に孵り、どんな方法かは分からないけれど、一気に成体へと進化を遂げた。

その竜は《黒竜の雛》の丸みがあった目を尖らせ、翼をより鋭利にした漆黒の竜だった。

《真紅眼の黒竜》：ATK/2400

とここで気付く。

『変則ルールでこのターンまで攻撃できないはずよ！ どうしてこのターンで…』

私がそういうとダークネスは笑って言い返してきた。

『ククククク……確かに攻撃はできない。だが効果ダメージは別だ。』

そう言ってきたので私は1つの可能性に辿り着く。

そしてそれは…間違っではいなかったのだ。

『私は手札から《黒炎弾》を発動！ 《真紅眼の黒竜》が自分フィールドにいる時、相手プレイヤーに《真紅眼の黒竜》の元々の攻撃力分のダメージを与える！』

『何だって!?!?』

遊城君が驚きの声を上げる

『私が狙うのは女。貴様だ!』

《真紅眼の黒竜》が口に大きな炎を溜め込むとそれを一気に私に放ってきた。

『きゃあああああ』

遊璃：LP / 4000 1600

私は… 《黒炎弾》によって明日香の横まで飛ばされ、明日香によって助け起こされた。

…… 《ダーク・シムルグ》の攻撃ほどではないけれど… 結構…… 効くわね…

私はよろける体を何とか支え、所定位置に戻った。

するとダークネスは、

『ほう。女のお前が今の攻撃に耐えるか。面白い。私もお前に興味湧いた。女、名前は何という?』

そう言ってきたので

『ふ、不動…… 遊…… 璃よ。』

と何とか言った。

『不動遊璃か…覚えておこう。』

そう言っつてダークネスは再び自分の手札を見つめだした。

その後、カードを取り出し、伏せだす。

『私はカードを2枚セットし、ターンエンド!』

こうして、ダークネスの攻撃は決まり、私たちはいきなり不利になったのだ。

ダークネス：LP/8000

モンスター：《真紅眼の黒竜》（A2400）、《仮面竜》（D1100）

魔法・罫：2枚

手札：1枚

フィールド：なし

適用効果：なし

『俺のターン!』

遊城君はカードを引く。

その目は怒りに染まっているけど、大丈夫かしら…?

『俺は《強欲な壺》を発動! デッキから2枚ドロウする。……よし! 魔法カード《融合回収》を発動! この効果で《融合》と融合召喚に使用した素材モンスター1体を手札に加える! 俺は《融

合』と《E・HERO バブルマン》を手札に戻す！』

遊城君は2枚ドロしてから、先ほど融合に使用したカードを手札に戻した。

それにしてもよくもそう欲しいカードが引けるわね。羨ましいわ。

私は事故を起こした手札を見て、そう思った。

『そして俺は《融合》を発動！俺は手札の《E・HERO フェザーマン》、《E・HERO バブルマン》、《E・HERO スパークマン》を融合！来い！《E・HERO テンペスター》
』！』

遊城君の場にまたもや渦が生まれてその中に3体のヒーローが吸い込まれる。

やがて遊城君の場に羽と頭がフェザーマン、顔のアイシールドと上半身がスパークマン、武器と下半身がバブルマンと3体の特徴を合わせたようなヒーローが現れた。

《E・HERO テンペスター》：ATK/2800

『行くぞ！《E・HERO スチーム・ヒーラー》で《仮面竜》を攻撃！』

《E・HERO スチーム・ヒーラー》が右手についている穴から蒸気を噴射し、《仮面竜》にぶつけた。

攻撃を受けた《仮面竜》は何故か爆発して破壊された。

「クツ…この瞬間！ 《仮面竜》の効果を発動！ このカードが戦闘で破壊され、墓地に送られた時、デッキから攻撃力1500以下のドラゴン族モンスター1体を特殊召喚できる。」

「…だがその前に《E・HERO スチーム・ヒーラー》の効果が発動！」

「何！」

「《E・HERO スチーム・ヒーラー》が戦闘によって相手モンスターを破壊し、墓地に送った時そのモンスターの攻撃力分、ライフポイントを回復する！」

《E・HERO スチーム・ヒーラー》の蒸気が遊城君を回復させる。

十代：LP/4000 5400

効果処理を見終わった頃に今度はダークネスが口を開く。

「ならば次は《仮面竜》の効果処理だ。 私はデッキから2体目の《仮面竜》を特殊召喚する。」

ダークネスの場に先ほど破壊されたモンスターと同じモンスターが現れる。

《仮面竜》：DEF/1100

「次だ！ 《E・HERO テンペスター》で《真紅眼の黒竜》を

攻撃！ カオス・テンペスト！」

《E・HERO テンペスター》が飛び上がり、《真紅眼の黒竜》の斜め上に辿り着いた頃に青色のレーザーを放つ！

「甘いぞ！ 十代！ 速攻魔法《飛龍天舞》を発動！ 私はデッキから《真紅眼の黒竜》、《デコイ・ドラゴン》、《真紅眼の飛竜》2体を墓地に送り、《真紅眼の黒竜》の攻撃力を1200ポイントアップする。 ……反撃だ！ 真紅眼！ 黒炎弾！」

《真紅眼の黒竜》：ATK2400 3600

ダークネスの魔法によって強化される《真紅眼の黒竜》。

先程の私に対しての黒炎弾よりも数倍大きい物を作り出し、放つ。

テンペスターの攻撃と一瞬の力の均衡で停止したが、攻撃力800の差は大きくカオステンペストを打ち破った。

「ま、まずい！ テンペスターの効果を発動！ 自分のフィールド上のカードを1枚墓地に送り、テンペスターの破壊を無効にするぜ！」

そう言って、遊城君は伏せていたカードを1枚墓地に送った。

その瞬間、黒炎弾はテンペスターに直撃し、その余波が遊城君へと向かった。

『うわあああ……』

十代：LP / 5400 4600

『あ、兄貴!』

『十代!』

遊城君へのダメージに2人が声をかける。

『大丈夫だあ。 そっちは大丈夫か?』

遊城君は2人の心配を余所に逆に2人を心配する。

それに対して2人は少し壁を調べて言う。

『何とか大丈夫なんだなあ』 二人とも気張って欲しいんだなあ!』

前田君が言う。

その言葉で少しは頑張れそうよ…

・
・
・

さて場に視線を戻しましょうか。

《E・HERO テンペスター》は効果を使ったおかげで健在。

彼が残っていれば暫くは大丈夫そうね。

でもダークネスのモンスターは結局破壊できなかった。

次の私のドロー次第ね。

『俺はカードを1枚セットし、《悪夢の蜃気楼》を発動！ ターン
エンドだ！』

遊城君は残った手札を全て使い切り、ターンを終えた。

《真紅眼の黒竜》：ATK3600 2400

十代：LP/4600

モンスター：《E・HERO テンペスター》（A2800）、《
E・HERO スチーム・ヒーラー》（A1800）

魔法・罫：《悪夢の蜃気楼》、2枚

手札：0枚

フィールド：なし

適用効果：なし

『私のターン』

ダークネスのターンが開始となった。

『この瞬間《悪夢の蜃気楼》の効果を発動！ 手札が4枚になるよ
うにカードをドローする。』

遊城君、なんかやり過ぎじゃない…ドローしすぎだって……

まあ、味方だからいいけど…

『小賢しい。私も《強欲な壺》を発動しよう。デッキからカードを2枚ドロウする。』

そう言つて、ダークネスはカードを2枚引いた。

そして

『私は、《真紅眼の黒竜》を生け贄に《真紅眼の闇竜》を特殊召喚する!』

ダークネスの場の《真紅眼の黒竜》が炎に包まれると、その炎を身に纏い、黒い体に所々赤色の線を走らせる邪悪な龍と化した。

《真紅眼の闇竜》：ATK/2400

『そして《真紅眼の闇竜》は墓地に存在するドラゴン族モンスターの数×300ポイントアップする。私の墓地のドラゴン族は現在7体。よつて攻撃力は4500だ!』

《真紅眼の闇竜》：ATK/2400 4500

攻撃力4500。

海馬社長の《青眼の究極竜》と同じですつて!?

『更に手札から2枚目の《飛龍天舞》を発動! デッキから《スピア・ドラゴン》、《黒竜の雛》、《アタッチメント・ドラゴン》、

『《軍隊竜》を墓地へと送り、《仮面竜》の攻撃力を1200ポイントアップする。』

ダークネスが2枚目の《飛龍天舞》を発動すると、《仮面竜》の大きさが約2倍になった。

《仮面竜》：ATK1400 2600

『そして墓地のドラゴン族モンスターが増えたことで《真紅眼の闇竜》の攻撃力も1200ポイントアップだ。』

《真紅眼の闇竜》：ATK4500 5700

…もう何も言えない。

攻撃力が《F・G・D》とかを超えたわ。

まず、勝てくない。 攻撃力で…

私がそう思っていると、ダークネスがこっちを向き

『まずは、1人目から退場していただく。 《仮面竜》を攻撃表示に変更！ そして畏カード《竜の逆鱗》を発動。』

拙い。 あのカードは…

『この効果がある限り、ドラゴン族モンスターが守備表示モンスターを攻撃した場合、攻撃力が守備力を超えていればその差の数値分のダメージを与える。』

『何ですって!?!』

明日香が驚きの声を上げる。

『これで1つ目の鍵はいただいた。《真紅眼の閻魔》で《ドラグニティ・ガードナー》を攻撃! ダークネス・ギガ・フレイム!』

《真紅眼の閻魔》が溜め込んだ特大の炎が《ドラグニティ・ガードナー》に迫る。

私の伏せカードは今使っても意味がないから…

…私は来るべき激痛に備えて、目を閉じた。

・

・

・

だが、その衝撃はいつになっても来なかった。

『小癪な!』

ダークネスのその言葉が聞こえたので私は目を開く。

そこには…

『罨カード《ヒーロー・バリア》を発動した。この効果で攻撃を1度だけ無効にする。』

そう言っつて、遊城君は私に向かってサムズアップをしてきた。

私は

『ありがとう。助かったわ。』

『良いつて。それに…』

『それに…？』

『それに……加えて《非常食》を発動！俺は発動した《ヒーロー・バリア》と《悪夢の屋気楼》を墓地に送って2000ポイントのライフを回復する。』

十代：LP/4600 6600

……手札補充に回復つて。

どこまで都合のいい手札なのよ……

私は素直にそう思った。

『クツ…ならば、《仮面竜》で《E・HERO スチーム・ヒーラー》に攻撃！』

そう言っつてダークネスは《仮面竜》に攻撃を指示した。

まあ、私のモンスターを攻撃しても私は倒せないものね。

…などと考えている間に《仮面竜》の炎は《E・HERO スチー
ム・ヒーラー》に辿り着き、爆散させた。

『ぐあああああ』

十代：LP/6600 5800

遊城君はダメージを負うが、元々のライフポイントが多い為そこま
で辛そうではない。

『：カードを1枚セットし、ターンエンド。』

ダークネスのエンド宣言と共に仮面竜が元の大きさへと戻った。

《仮面竜》：ATK/2600 1400

『エンドフェイズに《渓谷の精霊》を発動！ その効果で《ドラグ
ニティ・トークン》2体を特殊召喚する。』

私の場に半透明の鳥人が2体現れる。

《ドラグニティ・トークン》：DEF/0

《ドラグニティ・トークン》：DEF/0

ダークネス：LP/8000

モンスター：《真紅眼の闇竜》（A5700）、《仮面竜》（A1

400)

魔法・罾：《竜の逆鱗》、1枚

手札：0枚

フィールド：なし

適用効果：なし

さて、私のターンね。

『私のターン！ ドロー！』

遊城君が助けてくれたんだ。

せめて何か手伝わないと…

『私は、《手札抹殺》を発動。この効果で全てのプレイヤーは手札を全て捨て、同じ枚数だけドローします。』

そうしたら遊城君が

『ありがとな。墓地にあつてこそそのモンスターがあつたから助かったぜ』

と私だけに聞こえるように言ってきた。

本当、なんでもありね。

遊城君って…

まあ、今は私のカードを信じなければ…

私は手札を4枚捨てて、4枚ドロウした。

「（・・・主。）」

『（ミリトウム。来てくれたのね。）』

「（はい。これより戦列に加わります。）」

『（お願い。）』

「（…御意。）」

そんなやり取りをしてミリトウムとの念話は途切れた。

『魔法カード《鳥籠昇華》を発動！ 《ドラグニティ ガードナー》をリリースし、《ドラグニティ レギオン》をデッキから特殊召喚し、墓地の《ドラグニティ パルチザン》を装備！』

私の場の《ドラグニティ ガードナー》が光となって消えると、その光が別の姿を再構築してフィールドに具現した。

そして具現した緑色の鳥の顔をした鳥人の後ろに紫色の竜が出現する。

《ドラグニティ レギオン》：ATK/1200

『何？ そんなモンスターをいつの間に…』

『《手札抹殺》で墓地に送りました。……そして《ドラグニティ ミリトウム》を召喚。』

「（参る！）」

私の場にいつも通り黄緑色の兜を付けた女鳥人が現れる

《ドラグニティ ミリトウム》：ATK/1700

『そんなにモンスターを展開したところで私の《真紅眼の闇竜》には勝てんぞ！』

『戦闘ではですけどね…』

『何？』

ダークネスが疑問の声を上げてきたところで私は

『行きます。私は《ドラグニティ ミリトウム》の効果を発動し、

《ドラグニティ パルチザン》を特殊召喚！』

ミリトウムが何かを唱えると、紫色の竜が前線に躍り出た。

《ドラグニティ パルチザン》：ATK/1200

『そしてレベル1の《ドラグニティ トークン》2体とレベル3《ドラグニティ レギオン》、レベル4《ドラグニティ ミリトウム》にレベル2《ドラグニティ パルチザン》をチューニング！』

私の場の5体のモンスター全てをシンクロ素材とする。

《ドラグニティ パルチザン》がいつもより二回り大きい輪となり、

その中に他の4体のモンスターが入り込んだ。

+ + + + + || x 1 1

4体のモンスターが合計9個の星となり、輪が収縮してから一筋の光と化する。

『秘境の竜騎士が今ここに一騎当千の竜騎士を紡ぐ！ 戦場鎮める風となれっ！ シンクロ召喚！ 咆哮せよ！ 《ドラグニティナイト・セイリュウ》！』

光が貫いたのは下の溶岩。

その中から巨大な黄色の龍が現れ、その上に乗る將軍の格好をした竜騎士が持っている槍を振るうと、周りの溶岩を弾き飛ばして、フィールドに降臨した。

《ドラグニティナイト・セイリュウ》：ATK/3500

『だが攻撃力は僅かに3500。私のモンスターには届かない。』

『本当にそうでしょうか？』

『何！？』

『私は戦闘ではと先ほど言いました。それは効果でなら容易に破壊できるという事です。』

『あ！』

ダークネスは今頃気づいたのか口をぱっくりと開けている。

『私は《ドラグニティナイト・セイリュウ》の効果を発動します。墓地から、《ドラグニティ・パルチザン》と《ドラグニティ・ガードナー》を装備し、《ドラグニティナイト・セイリュウ》の効果を発動します。1ターンに1度、装備されている「ドラグニティ」を墓地に送って、相手の表側表示のモンスターか、裏側表示の魔法・罠カードを破壊できる。』

『何だと！』

私の効果説明にやっと事態が悪いことに気づき、慌てますが、もう遅い。

『《ドラグニティナイト・セイリュウ》の効果で《ドラグニティガードナー》を墓地に送り、相手の表側表示のモンスターをすべて破壊します。』

《ドラグニティナイト・セイリュウ》が持っていた槍を振るうと、それが衝撃波となり、溶岩に波を作らせ、ダークネスのモンスターを呑み込む。

『クッ……』

『バトル！ 《ドラグニティナイト・セイリュウ》でダークネスにダイレクトアタ　　』

『…そう簡単にダメージを与えられると思うな！ 畏カード《レッ
ドアイズ・スピリッツ》！ 蘇れ！ 《真紅眼の闇竜》！』

攻撃しようとした瞬間、ダークネスの畏が発動した。

それは私の今までの苦勞を全て断ち切るような出来事だった。

……To be continued

今回の新規登場（使用）カード

（デッキから墓地に送っただけは書きません）

《E・HERO エレメンタルヒーロー バブルマン》

効果モンスター（アニメ効果）

星4 / 水属性 / 戦士族 / ATK800 / DEF1200
手札がこのカード1枚だけの場合、

このカードを手札から特殊召喚することができる。

このカードが召喚・反転召喚・特殊召喚に成功した時に
自分のフィールド上に他のカードが無い場合、

デッキからカードを2枚ドローする事ができる。

《E・HERO エレメンタルヒーロー バーストレディ》

通常モンスター

星3 / 炎属性 / 戦士族 / ATK1200 / DEF800
炎を操るE・HEROの紅一点。

紅蓮の炎、バーストファイヤーが悪を焼き尽くす。

エレメンタルヒーロー

《E・HERO スチーム・ヒーラー》

融合・効果モンスター

星5 / 水属性 / 戦士族 / ATK1800 / DEF1000

「E・HERO バーストレディ」+「E・HERO バブルマン」

このモンスターは融合召喚でしか特殊召喚できない。

このカードが戦闘によってモンスターを破壊し墓地へ送った時、破壊したモンスターの攻撃力だけ自分のライフポイントが回復する。

マスクド・ドラゴン

《仮面竜》

効果モンスター

星3 / 炎属性 / ドラゴン族 / ATK1400 / DEF1100

このカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、

自分のデッキから攻撃力1500以下のドラゴン族モンスター1体を自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

828

しゅくまうしゅひな

《黒竜の雛》

効果モンスター

星1 / 闇属性 / ドラゴン族 / ATK800 / DEF500

自分フィールド上に表側表示で存在するこのカードを墓地に送る事で、

自分の手札から「真紅眼の黒竜」1体を特殊召喚する。

《真紅眼の黒竜》

通常モンスター

星7 / 闇属性 / ドラゴン族 / ATK2400 / DEF2000

真紅の眼を持つ黒竜。怒りの黒き炎はその眼に映る者全てを焼き尽くす。

《黒炎弾》
こくえんだん

通常魔法

自分フィールド上に表側表示で存在する「真紅眼の黒竜」1体を選択して発動する。

選択した「真紅眼の黒竜」の元々の攻撃力分のダメージを相手ライフに与える。

このカードを発動するターン「真紅眼の黒竜」は攻撃する事ができない。

《融合回収》
フュージョン・リカバリー

通常魔法

自分の墓地に存在する「融合」魔法カード1枚と、

融合に使用した融合素材モンスター1体を手札に加える。

《E・HERO》
エレメンタルヒーロー スパークマン》

通常モンスター

星4 / 光属性 / 戦士族 / ATK1600 / DEF1400

様々な武器を使いこなす、光の戦士のE・HERO。

聖なる輝きスパークフラッシュが悪の退路を断つ。

《E・HERO》
エレメンタルヒーロー テンペスター》

融合・効果モンスター（アニメ効果）

星8 / 風属性 / 戦士族 / ATK2800 / DEF2800

「E・HERO フェザーマン」+「E・HERO スパークマン」
+「E・HERO バブルマン」

このモンスターは融合召喚でしか特殊召喚できない。
自分フィールド上のカード1枚を墓地に送る。

このカードは、このターン戦闘によっては破壊されない。(ダメージ計算は適用する)

この効果は相手ターンにも使用する事ができる

《飛龍天舞 (ひりゅうてんまい)》
アニメオリジナル
速攻魔法

自分フィールド上に表側表示で存在するモンスターを1体選択して発動する。

自分のデッキからドラゴン族モンスターを4枚まで選択して墓地へ送る。

選択したモンスターの攻撃力は、エンドフェイズまでこの効果で墓地へ送った

ドラゴン族モンスターの数×300ポイントアップする。

《悪夢の屋気楼》
あくむ しんきろう

永続魔法

相手のスタンバイフェイズ時に、

自分の手札が4枚になるようにカードをドローする。

自分のスタンバイフェイズ時に、

その効果でドローした枚数分だけカードを手札からランダムに捨てる。

《真紅眼の闇竜》
レッドアイズ・ダークネスドラゴン

効果モンスター

星9 / 閻属性 / ドラゴン族 / ATK2400 / DEF2000

このカードは通常召喚できない。

自分フィールド上に存在する「真紅眼の黒竜」1体をリリースした場合のみ特殊召喚する事ができる。

このカードの攻撃力は、自分の墓地に存在するドラゴン族モンスター1体につき300ポイントアップする。

《ヒーローバリア》

通常罫

自分フィールド上に「E・HERO」と名のついたモンスターが表側表示で存在する場合、相手モンスターの攻撃を1度だけ無効にする。

《非常食》ひじょうしょく

速攻魔法

このカード以外の自分フィールド上に存在する

魔法・罫カードを任意の枚数墓地へ送って発動する。

墓地へ送ったカード1枚につき、自分は1000ライフポイント回復する。

《溪谷の精霊》（言羽・D・カタストロフィーさん投稿オリジナル）
速攻魔法

このカードを発動するターン、自分は召喚、反転召喚、特殊召喚できない。自分のフィールド場に「ドラグニティトークン」（鳥獣族、風、レベル1、攻守0）を2体特殊召喚する。

このトークンは風属性モンスターまたはドラゴン族・鳥獣族モンス

ター以外のアドバンス召喚のためにはリリースできない。

またこのトークンをドラグニティと名のつくモンスターのアドバンス召喚の為にリリースまたはシンクロ召喚に使用した場合、そのモンスターはターン終了時までカードの効果では破壊されない。

《手札抹殺》 てふだまじやう

通常魔法

お互いの手札を全て捨て、それぞれ自分のデッキから捨てた枚数分のカードをドローする。

《鳥龍昇華》 ちゆうりゅうしやうしやうか

通常魔法

自分フィールド上のレベル3以下のドラゴン族・鳥獣族1体をリリースして発動する。

以下の効果のうち一つ選択し、発動する。

墓地に存在するレベル6以下の「ドラグニティ」と名のついたモンスターを特殊召喚する。

デッキ・手札・墓地からレベル4以下の「ドラグニティ」と名のついた鳥獣族を特殊召喚し、墓地に存在する「ドラグニティ」と名のついたモンスターを装備する。

デッキ・墓地から「龍の溪谷」を手札に加える。

《レッドアイズ・スピリッツ》 アニメオリジナル

通常罫

自分フィールド上の「レッドアイズ」と名のついたモンスターが破壊された時に発動する事ができる。

このターンに破壊された「レッドアイズ」と名のついたモンスター

1体を

召喚条件を無視して自分フィールド上に特殊召喚する。

22話：紅き瞳を操る者の襲来（後書き）

まさか、亮VS十代をやらなかった代償がここになってくるとは…
最大の誤算です。

まさかの遊璃との初対面でした。

他の面々はレイの部分で知り合っています。
本編では省きましたけど…

それと交渉、自分で言うのもなんですけど酷い…
言葉がまとまっていないという意味で…

もう自分の意見入れたりするの止めます。

でもこうしないと1VS2になりませんでした。

あと本作では漫画の融合HEROと素材HEROは登場しません。
ZEROワンパターンになりそうなので…

最後に…やっぱり主人公とGX主人公のタッグは…

それよりも…ダークネス自重を忘れてしまった…

どうやって倒そう…

23話：紅き瞳を持つ闇の竜の咆哮（前書き）

前回の続きです。

攻撃力6000の闇竜を相手に主人公組はどうするのか！

十代がやり過ぎた為に短いです

23話：紅き瞳を持つ闇の竜の咆哮

〈フィールドのおさらい〉

ダークネス：LP/8000

モンスター：《真紅眼の闇竜》（A6000）

魔法・罫：《竜の逆鱗》

手札：0枚

フィールド：なし

適用効果：なし

十代：LP/5800

モンスター：《E・HERO テンペスター》（A2800）

魔法・罫：なし

手札：4枚

フィールド：なし

適用効果：なし

遊璃：LP/1600

モンスター：《ドラグニティナイト セイリュウ》（A3500）

魔法・罫：《ドラグニティ パルチザン》

手札：2枚

フィールド：なし

適用効果：なし

ターン：遊璃

フェイズ：メインフェイズ1

side yuri

私が《ドラグニティナイト・セイリュウ》の効果で《真紅眼の闇竜》を破壊し、有利になったと確信した瞬間、

ダークネスが口を開いた。

『…そう簡単にダメージを与えられると思うな！ 畏カード《レッドアイズ・スピリッツ》！ 蘇れ！ 《真紅眼の闇竜》！』

ダークネスの場にあった1枚の畏カードが発動し、やっこの思いで破壊した《真紅眼の闇竜》が蘇った。

《真紅眼の闇竜》：ATK/2400

『更に墓地のドラゴン族モンスターに《仮面竜》が加わり、合計12体となった事で《真紅眼の闇竜》の攻撃力は3600ポイントアップする！』

《真紅眼の闇竜》：ATK/2400 6000

『こ、攻撃力…6000……』

明日香が絶望したような口調で言う。

それにしても私には疑問があった。

『《真紅眼の闇竜》には召喚制限があるはず……どうして特殊召喚が…』

そういうとダークネスは

『《レッドアイズ・スピリッツ》の効果は自分フィールド上の「レッドアイズ」と名のついたモンスターが破壊された時に発動する事ができるカードだ。その効果はこのターンに破壊された「レッドアイズ」と名のついたモンスター1体を“召喚条件を無視”して自分フィールド上に特殊召喚する。』

と効果を説明してくれた。

なんてカードなの…

1時的に攻撃力を超えたとして破壊してもすぐに蘇ってくるなんて……

もう今の私の手札に《真紅眼の闇竜》を破壊できるカードはない。

『カードを2枚セットし、ターンエンド。』

私は手札を全て伏せ、他力本願だが、遊城君に全てを任せるしかなかった。

遊璃：LP / 1600

モンスター：《ドラグニティナイト・セイリユウ》（A3500）

魔法・罫：2枚

手札：0枚

フィールド：なし

適用効果：なし

『私のターン！』

ダークネスはカードを引き、暫く思考する。

そして顔を上げるとすぐに言った。

『遊璃とか言ったな。我が《真紅眼の闇竜》を1度破壊したことは称賛に値する。だが、私とてそうたやすく負けるわけにはいかない！』

ダークネスの真意が分からずに私は漏洩してしまう。

すると

『だから私はこの攻撃で君を倒す！ 《真紅眼の闇竜》で』

ダークネスが攻撃宣言だと思わしき発言をしたので私は急いで1枚のカードを開く。

『畏発動！ 《ドラグニティ・ゲッドライト！》。墓地から《ド

ラグニティ ジャベリン》を装備！』

《ドラグニティナイト・セイリュウ》：ATK/3500 3500

《ドラグニティナイト・セイリュウ》は突如現れた大きな槍を構え、
2 槍流になる。

『《手札抹殺》で捨てたカードか……だが、攻撃力は変わらない！
今度こそ終わりだ！ 《真紅眼の闇竜》で《ドラグニティナイト
・セイリュウ》を攻撃！ ダークネス・ギガ・フレイム！』

《真紅眼の闇竜》が口に溜め込んだ大きな炎が《ドラグニティナイ
ト・セイリュウ》に向かって放たれる。

攻撃力差は2500あるのに対し、私の残りライフは1600到底
耐えきれない。

だから私は次のターンのドローにかけてライフを繋ぐ！

『更にもう1枚の罨発動！ 《龍の礎》。 《ドラグニティ ジャ
ベリン》を墓地へ！』

《ドラグニティナイト・セイリュウ》が片方の槍を放棄した瞬間、
《ドラグニティナイト・セイリュウ》を炎が飲み込む。

『何？ 何故貴様は倒れていない。』

最初に異変に気付いたのはダークネスだった。

私が立っているのがとても不思議らしい。

そして炎を浴びた《ドラグニティナイト - セイリユウ》も・・・

《ドラグニティナイト - セイリユウ》：ATK / 3500

『何？ そのモンスターも無事だったか。 一体何をした？』

そう聞いてきたので私は墓地からカードを取り出し、効果を説明する。

『《龍の礎》の効果は自分フィールド上に表側表示で存在する「ドラグニティ」と名のついたモンスターが攻撃対象に選択された時に発動する事ができる罠カード。』

コストとしてカードの効果によって装備カード扱いとして装備されている「ドラグニティ」と名のついたモンスター1体を墓地に送る必要がありますが、エンドフェイズ時まで戦闘で破壊されず、そのモンスターの戦闘で自分が受ける戦闘ダメージは無効になり、その数値分ライフポイントを回復する効果を持っています』

そう説明が終わると同時に《真紅眼の闇竜》の攻撃のエネルギーが私に注ぎ込まれ、ライフを回復する。

遊璃：LP / 1600 4100

自分の攻撃が空振りになったばかりか完全に裏目に出たことをダークネスは悔しがったような仕種をした。

「クツ…私はカードを1枚セットし、ターンエンド。そしてエンドフェイズに墓地の《真紅眼の飛竜》の効果を発動。墓地のこのカードを2体ゲームから除外し、《真紅眼の黒竜》を2体特殊召喚する。」

ダークネスの場に《真紅眼の黒竜》と見た目が殆ど変わらない大きさが少し違う竜が現れたかと思うと、その姿が急に成長し、2体の《真紅眼の黒竜》となった。

《真紅眼の黒竜》：ATK / 2400

《真紅眼の黒竜》：ATK / 2400

「そして、墓地のドラゴン族モンスター4体減ったことで《真紅眼の闇竜》の攻撃力も下がる。」

《真紅眼の闇竜》：ATK / 6000 4800

ダークネスがモンスターを展開するために《真紅眼の闇竜》の攻撃力を下げたが、それでも4800。まだ私のモンスターじゃ届かない。

このターンの遊城君の攻撃が勝負。

ダークネス：LP8000

モンスター：《真紅眼の闇竜》（A4800）、《真紅眼の黒竜》（A2400）、《黒紅眼の黒竜》（A2400）

魔法・罫：《竜の逆鱗》、1枚

手札：0枚

フィールド：なし

適用効果：なし

『俺のターン！』

遊城君が思い切りカードを引く。

その顔は厳しい。

何を出すのか決めたのか1枚の手札を公開する。

『俺は魔法カード《融合解除》を発動！ 解除せよ！ テンペスタ
ー！』

《E・HERO テンペスタ》の結合が乱れ、やがてそれは元の
3体のヒーローとなった。

《E・HERO フェザーマン》：DEF/1000

《E・HERO スパークマン》：DEF/1400

《E・HERO バブルマン》：ATK/800

遊城君。 一体何を……

しかも《E・HERO バブルマン》を攻撃表示なんて……

そう思った時、遊城君が2枚目のカードを引き抜く

『そして俺は《バブル・シャッフル》を発動！ この効果で《真紅眼の闇竜》と《E・HERO バブルマン》を守備表示に変更する。』

『なに！』

ダークネスが驚きの声を上げるが、この作戦は上手い！ 《真紅眼の闇竜》のアップするステータスは攻撃力のみ。

守備表示になれば関係がない

そう思うが早いか、《真紅眼の闇竜》は翼を折りたたみ、《E・HERO バブルマン》は腕を胸の前でクロスして片膝をつく。

《真紅眼の闇竜》：ATK/4800 DEF/2000

《E・HERO バブルマン》：ATK/800 DEF/1200

『更に《バブルシャッフル》のもう1つの効果を発動！ 守備表示にしたバブルマンを生け贄に《E・HERO エッジマン》を手札から特殊召喚する！ 来い！ エッジマン！』

《バブルシャッフル》の効果でバブルマンがゆっくりと消滅すると、遊城君の場に新しいヒーロー

……金色の体に腕にスケートのブレードを付けたようなヒーローが現れた。

《E・HERO エッジマン》：ATK/2600

『攻撃力2600だと！ 私の《真紅眼の闇竜》よりも上…！』

『まだまだ行くぜ！ 手札から《戦士の生還》を発動！ この効果で墓地のバーストレディを手札に戻し、《融合》を発動！ 場のフエザーマンと手札のバーストレディを融合！』

三度遊城君の背後に融合によって生じる渦が現れる。

そして…

『融合召喚！ MYフェイバリットヒーロー 《E・HERO フレイム・ウィングマン》！』

渦から出てきたのは左側の半身が緑色の体と翼を持ち、右手は竜を

模した手がついているヒーローだった。

《E・HERO フレイム・ウィングマン》：ATK/2100

『クッ………』

まさかの再びの融合召喚に再びダークネスは歯噛みをする。

本当に貴方のデッキはどうなっているの？

都合のいい時に都合のいいカードばかり引けて……

まあ、味方だし気にしないことにしましょう。

…ん？ さっきもこの考えがあったような……

気のせいね。

・

・

・

『バトルだ！ 行け！ エッジマン！ パワーエッジ・アタック！』

その掛け声とともに《真紅眼の黒竜》に向かっていくエッジマン。

よく攻撃対象言っていないのにわかるわね…

という今はどうでもいい疑問を捨て、

エッジマンがどうなるのか見守る。

…

そしてエッジマンは両手に着いたブレードで《真紅眼の黒竜》を屠った。

『グオツ…!』

ダークネス：LP / 8000 7800

やっとダークネスにダメージが入ったわ。

『次だ！ フレイム・ウィングマン、《真紅眼の闇竜》に攻撃！
フレイム・シュート!』

飛び上がったフレイム・ウィングマンが翼をたたんだ《真紅眼の闇竜》の目の前に飛び、

右手の竜を模した腕から灼熱の炎を出し、《真紅眼の闇竜》を焼き切る

『クツ…私の《真紅眼の闇竜》が……畏発動！ 《レッドアイズ・バーン》！』

ダークネスは《真紅眼の闇竜》が破壊されるや否や1枚の畏カードを発動させる。

つて、あのカードつて……

『このカードは「レッドアイズ」と名の付いたモンスターが破壊された時、発動できるカードだ。……お互いのプレイヤーは破壊されたモンスターの元々の攻撃力分のダメージを受ける。この場合は…3人共ダメージを負う。』

何ですつて！

じゃあ、私のライフはまた…

そう考えている間に《レッドアイズ・バーン》から紅蓮の炎が吐き出され、私達3人に降り注ぐ。

『ゲウウウウ』

ダークネス：LP / 7800 5400

『うわああああ…』

十代：LP / 5800 3400

『いやああああ…』

遊璃：LP / 4100 1700

私たちはそれぞれに2400ポイントのダメージを受け、遊城君は膝をつき、私は上手く起き上がれない。

それを見た明日香が言う。

『もうやめて！』

すると唯一立っていたダークネスが

『お前は？』

『天上院明日香。私も鍵を持っている。これを渡すから十代と遊璃、翔君達を助けて。』

明日香何を言っているの？

そんな馬鹿な事言わないでちょうだい。

そう思っていると、遊城君がなんとか立ち上がって、

『明日香……こんなに燃えるデュエルを俺から取り上げるのかよ……』

遊城君、私が言いたかったことだけど、燃えるのかな……

まあ、ある意味燃えているわね。

って聞いている場合じゃない。

私も明日香を止めなきゃ…

『あ…すか……そんなこと言わないで……』

私は体の力が抜ける足にムチを打って立ち上がり、

『セブンスターズが仮に明日香の鍵を受け取ったとしても私達を助ける保証なんてないでしょ。寧ろ弱っているから叩き潰して鍵を奪うと思っわ。』

と若干本音交じりに言う。

『確かにな。』

遊城君がそれに賛同すると明日香は諦めたのかただ頷くだけだった。

そして遊城君がダークネスを睨みつけて言う。

『ダークネス、フレイム・ウィングマンの効果を忘れちゃ困るぜ！』

『何！』

『《E・HERO フレイム・ウィングマン》は戦闘で破壊して墓地に送った相手モンスターの元々の攻撃力分のダメージを与える！』

『なあ！』

そういうが早いか、フレイムウィングマンはダークネスの前に現れ、炎を浴びせる

『グアアアア』

ダークネス：LP / 5400 3000

ダークネスが片膝をつく。

よしあと少し……

私は倒れそうな体を必死に支え、持ちこたえようとする。

『ターンエンド』

そして遊城君のターンは終わった

十代：LP / 3400

モンスター：《E・HERO フレイム・ウィングマン》（A2100）、《E・HERO エッジマン》（A2600）

魔法・罫：なし

手札：0枚

フィールド：なし

適用効果：なし

『グウ……私の……ターン！』

ダークネスはふらついている体でカードを引く。

『私は、《真紅眼の黒竜》でフレイム・ウィングマンを攻撃！ 黒炎弾！』

《真紅眼の黒竜》が口に溜めた炎がフレイム・ウィングマンへと直撃し、遊城君へとその余波が襲い掛かる。

『あああああ…』

十代：LP / 3400 3100

『私はこれでターンを終了。』

ダークネス：LP / 3000

モンスター：《真紅眼の黒竜》（A2400）

魔法・罫：《竜の逆鱗》

手札：1枚

フィールド：なし

適用効果：なし

『私のターン！』

私は震える足に鞭を打ちカードを引く。

『《強欲な壺》を発動。その効果で更に2枚をドロロー！』

引いたカードは《強欲な壺》だった。

私はカードをすぐさま使い、カードを2枚引く。

引いたカードは

…罫が2枚。

このターンで止めはさせそうにないわね…

『私は《ドラグニティナイト・セイリュウ》で《真紅眼の黒竜》を攻撃！ 青龍の憤怒斬！』

《ドラグニティナイト・セイリュウ》がその手に持つ偃月刀で《真紅眼の黒竜》を切りつけた。

それにより《真紅眼の黒竜》は倒れ伏し、その時に起きた振動が衝撃となりダークネスを襲う。

『ウウウ……』

ダークネス：LP / 3000 1900

よしついにダークネスのライフが2000を下回った。

あと少し、あと少しよ。

私は自分にそう言い聞かせ、今にも倒れそうな体を支える。

『カードを2枚セットし、ターンエンド！』

遊璃：LP / 1700

モンスター：《ドラグニティナイト・セイリュウ》（A3500）

魔法・罫：2枚

手札：0枚

フィールド：なし

適用効果：なし

『フツ……良い一撃だったが、さっきのターンで私を倒せなくて残念だったな……』

『どういこと?』

私はダークネスの言葉を完全に理解することが出来ずに尋ねる。

『こうい事だ。私のターン!』

ダークネスは今までのダメージがまるでなかったかのようにカードを引く。

『私は魔法カード《左腕の代償》を発動。このカードは発動時に手札を全て捨てる代わりにデッキから魔法カードを1枚手札に加える。』

なんてカードを……

でも《真紅眼の黒竜》は破壊したから《黒炎弾》はないはず……

『私に加えるのは……《命削りの宝札》だ……』

えっ!?! あのカードは……

『そして《命削りの宝札》を発動。その効果でカードを5枚ドロイする。』

そうやってダークネスはカードを5枚ドロイした。

『ククク…魔法カード《貪欲な壺》を発動。墓地の《アタッチメント・ドラゴン》、《真紅眼の闇竜》、《黒竜の雛》、《仮面竜》、《真紅眼の黒竜》をデッキに戻し、2枚ドロー！』
……更なるドローカード。

これは……非常に拙いわ。
下手したらこのターンで全滅の可能性も……

いや。伝説のデュエリスト遊城十代が味方なのだから。

ここで終わりはしない……はず。

『クツ…（《黒炎弾》がない…）私は《思い出のブランコ》を発動。
この効果で墓地の通常モンスター《真紅眼の黒竜》を特殊召喚！』

ダークネスの場の風景が夕焼けになり、1つのブランコが揺れる。

そして、ブランコの揺れが次元に穴をあけ、中から《真紅眼の黒竜》が現れた。

しかし、ブランコの鎖が《真紅眼の黒竜》の首に巻きついている。

《真紅眼の黒竜》：ATK/2400

『最もこのターンのエンドフェイズに破壊されるが、今の私には関係ない。』

『何!』

遊城君がダークネスの言葉に反応する。

『私は《真紅眼の黒竜》を生け贄に、再び闇竜を特殊召喚!』

再びダークネスの《真紅眼の黒竜》が炎に包まれ、1体の邪悪な龍が現れた。

《真紅眼の闇竜》：ATK/2400

『そして《真紅眼の闇竜》の攻撃力は墓地のドラゴン族モンスターの数×300ポイントアップする。現在の私の墓地のドラゴン族は6体。よって攻撃力は4200だ』

《真紅眼の闇竜》：ATK/2400 4200

『攻撃力4200…十代を攻撃しても遊璃を攻撃しても致命的なダメージになる。』

明日香がその攻撃力に反応して言葉を紡ぐ。

『クッ…』

それを聞いていた遊城君が声を漏らす。

『更に《アタッチメント・ドラゴン》を召喚。このカードの召喚・反転召喚・特殊召喚に成功したとき、相手モンスターの装備カードとなり、その表示形式を変更する。(不動遊璃のモンスターの表

示形式を変更すれば闇竜の攻撃で丁度ライフを0にできる。しかし、あの伏せカードを破壊する手立てが私にはない。……闇竜を今失ったら私に勝ち目はないからな……） 私は《E・HERO エッジマン》を守備表示に変更！』

《アタッチメント・ドラゴン》がエッジマンを羽交い絞めにし、強制的に表示形式を変更。

その後エッジマンを抱きしめる形になり、エッジマンを拘束した。

《E・HERO エッジマン》：ATK/2600 DEF/1800

『何！ 守備表示だって！？』

遊城君が守備表示にする理由が分からないのか、ダークネスに聞く。

『十代。 貴様はこのカードを忘れたか……』

そう言ってダークネスは1枚のカードを指さす。

そのカードは……

《竜の逆鱗》。

ドラゴン族モンスターに貫通能力を与えるカード。

『このカードがあれば貴様のモンスターが守備表示だろうが関係な

いからな……更に《二重召喚》を発動し、《スピア・ドラゴン》を召喚！』

ダークネスは遊城君に守備表示にした理由を説明すると、新たな魔法を使い、モンスターを召喚した。

そのモンスターは青と白で彩られ、口と翼が鋭利に尖っている竜だった。

《スピア・ドラゴン》：ATK/1900

『そしてバトルだ。行け！ 《真紅眼の闇竜》！ 《E・HERO スパークマン》に攻撃！ ダークネス・ギガ・フレイム！』

《真紅眼の闇竜》が口に黒っぽい炎を溜め込むと一息にそれを吐き出し、スパークマンを跡形もなく消え去った。

『うわああああ……』

十代：LP/3000 200

『そして《スピア・ドラゴン》で《E・HEROエッジマン》に攻撃！ スピア・クラッシュ！』

《スピア・ドラゴン》は飛び上がった。

そして、嘴で突き刺すのかと思いきや、呼吸を振動させるプレス攻撃を放ち、エッジマンを躰の内側から破壊しつくした。

『グアアアア…』

十代：LP / 200 100

『！…十代！』

『兄貴！』

遊城君のライフは100まで削られ、手札もフィールドのカードもなくなった。

そこにダークネスが

『少し残ったか。 まあいい。 《スピア・ドラゴン》は攻撃後守備表示になり、《アタッチメント・ドラゴン》が墓地に送られたので《真紅眼の闇竜》の攻撃力が300ポイントアップする。』

《スピア・ドラゴン》：ATK / 1900 DEF / 0

《真紅眼の闇竜》：ATK / 4200 4500

また攻撃力が4500まで…

『カードを2枚セットし、ターンエンド。』

最後にダークネスは残りの手札を全て伏せてターンを終えた。

ダークネス：LP / 1900

モンスター：《真紅眼の闇竜》（A4500）、《スピア・ドラゴ

ン》(D O)

魔法・罫：《竜の逆鱗》、2枚

手札0枚

フィールド：なし

適用効果：なし

『俺のターン、ドロー！』

あんなにもダメージを受けたのに遊城君は根気よく立ち上がってカードをドローする。

『俺は《ホープ・オブ・フィフス》を発動。墓地の《E・HERO フレイム・ウィングマン》、《E・HERO バブルマン》、《E・HERO スチーム・ヒーラー》、《E・HERO フェザーマン》、《E・HERO バーストレイ》をデッキに戻し、3枚ドロー！……そして《E・HERO バブルマン》を召喚！その効果で2枚ドロー！』

……もういいや突っ込むだけ無駄。

0枚から4枚ってどんな人よ…

ダークネスも若干顔が引きつっているし…

って言っている間に遊城君の場に本日3度目のバブルマンが現れた。

《E・HERO バブルマン》：ATK/800

『……《HEROの遺産》を発動！更に3枚ドロー！』

……

『『貴様（遊城君）、何枚ドロ―するんだ!?!』』

図らずもダークネスと突っ込みが被ってしまった。

でも間違っではないわよね？

最初0枚から始まって、今6枚だもの…

『そして俺は《死者蘇生》を発動！ この効果で《E・HERO
ワイルドマン》を特殊召喚！』

遊城君の私たちの言葉を無視して、魔法を発動した。

それによって場に野生人のような体躯の男性が現れる。

《E・HERO ワイルドマン》：ATK/1500

『何！ そんなモンスターをいつの間に!?!』

私の予想ではおそらく…

『不動の《手札抹殺》で墓地に行ったのさ!』

やっぱりね。

そう思った頃に遊城君が1枚のカードをさらに引き抜く。

『魔法カード《ワイルド・ハーフ》！ 《真紅眼の闇竜》の元々の攻撃力・守備力を半分にし、相手フィールド上に「ハーフトークン」1体を特殊召喚する。』

「ハーフ・トークン」の元々の攻撃力・守備力は選択したモンスターの元々の攻撃力・守備力の半分の値となり、種族・属性・レベル・効果は選択したモンスターと同じになる！』

ワイルドマンが虚空を剣で切ったかと思うと、突然闇竜が分裂して2つの姿となった。

《真紅眼の闇竜》：ATK/4500 2400 1200 3300

《ハーフ・トークン》：ATK/1200 3300

『《ミラクル・フュージョン》を発動！ 場のワイルドマンと墓地のエッジマンを融合！ 来い！ 《E・HERO ワイルドジャギーマン》』

遊城君の場に白い渦が現れたかと思うとそこに2体のヒーローが吸い込まれ、

その中からエッジマンの装甲を身に着けたワイルドマンが出てきた。

《E・HERO ワイルドジャギーマン》：ATK/2600

『だが、攻撃力は2600。私のモンスターには勝てない。』

それを聞くと遊城君は

『へへ！ 俺のヒーローはこんなにも暑いところじゃ実力を発揮できねえ！ だから場所替えだ！』

『何！』

『フィールド魔法！ 《摩天楼・スカイスクレイパー》を発動！』
遊城君がフィールド魔法をフィールド魔法ゾーンに置くと、

周りの景色が火山から高層ビル街へと姿を変えた。

『行くぞ！ 《E・HERO ワイルドジャギーマン》で《ハーフ・トークン》に攻撃！』

『馬鹿な！ 《E・HERO ワイルドジャギーマン》の攻撃力は《ハーフ・トークン》より低いはず…』

確かにそうだけど、フィールド魔法の効果を忘れているわ！

『《摩天楼・スカイスクレイパー》は「E・HERO」が自分よりも攻撃力が高いモンスターとバトルする時、その攻撃力を1000ポイントアップするのさ。』

『何！ ……ならば速攻魔法《神秘の中華なべ》！ 《ハーフ・トークン》を生け贄に3300のライフを回復する。』

《真紅眼の闇竜》と同じ格好をした《ハーフ・トークン》が突如出現した中華鍋によって料理され、栄養分だけがダークネスへと向か

う。

ダークネス：LP/1900 5200

「クツ……だが《E・HERO ワイルドジャギーマン》は相手モンスターに1度ずつの攻撃が出来る。《真紅眼の闇竜》に攻撃！
インフィニティ・エッジ・スライサー！」

《E・HERO ワイルドジャギーマン》：ATK/2600 3600

《E・HERO ワイルドジャギーマン》が高速で駆け出し、《真紅眼の闇竜》を一刀両断にした。

「グツ……」

ダークネス：LP/5200 5100

《E・HERO ワイルドジャギーマン》：ATK/3600 2600

「次だ。《スピア・ドラゴン》に攻撃！」

よしこのタイミングね。

「罠カード発動！ 《ドラグニティ・スパイラル》。自分のフィールド上に「ドラグニティ」と名の付くシンクロモンスターが存在する時、フィールド上のモンスター1体はエンドフェイズまで守備モンスターを攻撃したとき攻撃力が守備力を超えていればその差の貫通ダメージを与える。……私は《E・HERO ワイルドジャギ

『マン』を指定!』

『不動。 ナイスだ!』

遊城君が急に話しかけてきたので私は頷いて返す。

・・・そして《ドラグニティ・スパイラル》の効果を受けた《E・HERO ワイルドジャーマン》は《スピア・ドラゴン》を一刀両断にしたうえでその半身をダークネスに投げつけた。

『ゲツ...』

ダークネス：LP / 5100 2500

『バブルマンでダイレクトアタック! バブル・シュート!』

バブルマンが右手に着いた鉄砲状の筒から水流を噴出させる。

どうでもいいけど、バブルマンより、アクアマンの方がいいんじゃない?

『グア...』

ダークネス：LP / 2500 1700

『カードを1枚セットし、ターンエンド!』

十代：LP/100

モンスター：《E・HERO ワイルドジャギーマン》（A2600）、《E・HERO バブルマン》（A8000）

魔法・罫：1枚

手札：1枚

フィールド：《摩天楼 - スカイスクレイパー - 》

適用効果：なし

『エンドフェイズに罫発動！』

遊城君がターンを終了しようとしていたら、ダークネスが残ったもう1枚のカードを発動してきた。

『発動したのは《レッドアイズ・スピリッツ》！ 再び舞い戻れ！

《真紅眼の闇竜》！』

ダークネスの場に巨大な炎が舞い上がり、中から《真紅眼の闇竜》が飛び出した。

《真紅眼の闇竜》：ATK/2400 4800

クツ…《スパア・ドラゴン》が増えたことで攻撃力が上がった…

でもまだ勝機はある。

『私のターン！ …《真紅眼の闇竜》で《ドラグニティナイト》セ

イリユウ》に攻撃！ ダークネス・ギガ・フレイム！」

《真紅眼の闇竜》の炎が再び私のモンスターに迫る。

『墓地の《ドラグニティ ガードナー》の効果を発動。 このカードをゲームから除外し、バトルフェイズ中の戦闘による破壊を無効にする！ キャッツ！』

遊璃：LP / 1700 400

『クツ……小賢しい。 だが、私の攻撃はまだ終わっていない。』

『エツ！？』

嘘でしょ。 彼のモンスターはすでに攻撃を終えたはず…

『速攻魔法《闇からの奇襲》。 自分のエンドフェイズに発動可能。 エンドフェイズ後にもう1度バトルフェイズを行う！』

えっ！？

『これで終わりだ！ 《真紅眼の闇竜》で《ドラグニティナイト セイリユウ》に攻撃！ ダークネス・ギガ・フレイム！』

このターン2度目の攻撃が私に降りかかろうとしていた。

しかし、その攻撃は一向に届かなかった。

『畏発動！ 《攻撃の無力化》！』

遊城君の畏によって私への攻撃は阻まれていた。

『クツ……ターンエンド』

ダークネス：LP/1700

モンスター：《真紅眼の闇竜》（A4800）

魔法・罫：なし

手札：なし

フィールド：《摩天楼 - スカイスクレイパー - 》

適用効果：なし

ここで遊城君の伏せカードもダークネスの伏せカードも尽きた。

勝負はこのターン。

セイリユウを犠牲にすれば、《真紅眼の闇竜》は破壊できるが、再びダークネスのターンが周ってきてしまう。

そうなれば私たちのどちらかが倒されても不思議ではない。

だから、…引くしかない。

墓地のカードを回収または攻撃力1700以上のモンスターを。

『私のターン！』

来た。

『私は《ドラグニティナイト・セイリュウ》の効果を発動。《ドラグニティ パルチザン》を墓地に送り、《真紅眼の闇竜》を破壊！そして装備カードを失ったセイリュウは破壊されます。』

私が《ドラグニティ パルチザン》を墓地に送った瞬間、《ドラグニティナイト・セイリュウ》の乗る黄色の竜が暴れだし、将軍の格好をした竜騎士は制御不能に陥り、溶岩に転落していく。

しかし、最後に一撃をと竜騎士が投げた燕月刀は《真紅眼の闇竜》の翼を打ち抜き、溶岩へと転落させた。

『……自分のモンスターを犠牲にしてまで……』

『でもこれで私たちは勝ってます』

『何？』

『魔法カード《死者蘇生》！蘇るモンスターは……《ドラグニティ ミリトゥム》！』

《死者蘇生》の効果で私の墓地からカードが1枚飛び出てくる。

そのカードは最近私の精霊としてついてきてくれたモンスター。

ミリトゥム。

《ドラグニティ ミリトゥム》：ATK/1700

『攻撃力1700だと……』

『これで終わりです。 ミリトゥムで直接攻撃！ (ミリトゥム。頼んだよ)』

「(御意。) ハアアアア！」

ミリトゥムがダークネスに切り込んでいき、切り伏せた。

『ガハッ……』

ダークネス：LP/1700 0

十代&遊璃：WIN

•

•

•

勝利が確定し、ソリットウィジョン立体映像が消えるのを確認し、

私は今までのダメージの蓄積から気を失った。

side out

side asuka

遊璃の攻撃でダークネスには勝てた。

そして翔君達も《ドラグニティナイト・セイリユウ》と《真紅眼の閻竜》の破壊によつて起こった溶岩の波に飲み込まれそうになったところで、遊璃の攻撃が決まったことで助かった。

因みに今、私たちは火口付近にいる。

近くには十代、翔君、隼人君、遊璃そしてダークネスがいるけれど私以外誰も起きていない。

…でもダークネスの声、どこかで聞いたことがあるような…

私がそう思った頃、

『お〜い!〜!』

万丈目君たちが来て、

遊璃達を看始めた。

・
・

『大丈夫。 気絶しているだけだ。』

脈を嗅った万丈目君達が安心した声色で言う。

私はその言葉で安心すると共に先ほどのダークネスの声気がなくなった。

私は確認するためにダークネスに近づく。

『あ……す……か……（カク）』

『……』

吹雪兄さん……

ぞうしん……

あの後、亮が近づいてきて兄さんを背負ってくれた。

鮎川先生のいる保健室に皆で尋ねて鮎川先生に事情を説明し、3人を寝かせて貰った。

因みに十代は三沢君、遊璃は私が運んだわ。

翔君と隼人君は万丈目君一人じゃ無理だから起こして歩かせたけれどね…

でも兄さんがどうしてセブンスターに…

こんな闇のデュエルがこれからも続くのね。

私はそんなことを思いながら兄さんと遊璃の顔を交互に見つめるのだった。

side out

side ryou

十代に不動と言ったか？

彼らがデュエルをしていたのは明日香から聞いた。

そしてそれがどんなデュエルだったのかも…

デュエルアカデミアの交流試合で代表になった者同士が共闘してようやく勝利を得られるとは…

セブンスターズ、かなりの強敵とみて間違いはないだろう。

874

それにしても、吹雪は何故…

∴ To be continued

新規（使用）カード

《ドラグニティ・ジャベリン》

チューナー・効果モンスター

星2 / 風属性 / ドラゴン族 / ATK1200 / DEF800

このカードがモンスターカードゾーン上で破壊された場合、墓地へ送らずに装備魔法カード扱いとして

自分フィールド上に表側表示で存在する

「ドラグニティ」と名のついた鳥獣族モンスター1体に装備する事ができる。

《真紅眼の飛竜》レッドアイズ・ワイバーン

効果モンスター（アニメ効果）

星4 / 風属性 / ドラゴン族 / ATK1800 / DEF1600

通常召喚を行っていないターンのエンドフェイズ時に、

自分の墓地に存在するこのカードをゲームから除外する事で、自分の墓地に存在する「真紅眼の黒竜」を1体を特殊召喚する。

《融合解除》融合解除

速攻魔法

フィールド上に表側表示で存在する

融合モンスター1体を選択してエクストラデッキに戻す。

さらに、エクストラデッキに戻したこのモンスターの融合召喚に使用した

融合素材モンスター1組が自分の墓地に揃っていれば、

この1組を自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

《バブル・シャッフル》

速攻魔法

「E・HERO バブルマン」がフィールド上に

表側表示で存在する時のみ発動することができる。

自分フィールド上に表側攻撃表示で存在する「E・HERO バブルマン」1体と

相手フィールド上に表側攻撃表示で存在するモンスター1体を守備表示にする。

守備表示にした「E・HERO バブルマン」1体を生け贄に捧げ、「E・HERO」と名のつくモンスター1体を手札から特殊召喚する。

《E・HERO エッジマン》

効果モンスター

星7/地属性/戦士族/ATK2600/DEF1800

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、

その守備力を攻撃力が超えていれば、

その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

《戦士の生還》

通常魔法

自分の墓地に存在する戦士族モンスター1体を選択して手札に加える。

《E・HERO フレイム・ウィングマン》

融合・効果モンスター

星6/風属性/戦士族/ATK2100/DEF1200

「E・HERO フェザーマン」+「E・HERO バーストレディ」

このカードは融合召喚でしか特殊召喚できない。

このカードが戦闘によってモンスターを破壊し墓地へ送った時、破壊したモンスターの攻撃力分のダメージを相手ライフに与える。

《レッドアイズ・バーン》
アニメオリジナル
通常罫

自分フィールド上の「レッドアイズ」と名の付くモンスターが破壊された時、お互いのプレイヤーは「レッドアイズ」と名の付くモンスターの元々の攻撃力分のダメージを受ける。

《左腕》
アニメオリジナル
通常魔法

（ひだりうで）の代償（だいしょう）
このカードの発動時、自分の手札を全て捨てる。
その後、自分のデッキから魔法カード1枚選択して手札に加える。

《貪欲な壺》
どんよく
通常魔法

自分の墓地に存在するモンスター5体を選択し、デッキに加えてシャッフルする。
その後、自分のデッキからカードを2枚ドローする。

《思い出のブランコ》
通常魔法

自分の墓地に存在する通常モンスター1体を選択して発動する。
選択したモンスターを自分フィールド上に特殊召喚する。
この効果で特殊召喚したモンスターはこのターンのエンドフェイズ

時に破壊される。

《アタッチメント・ドラゴン》

効果モンスター（アニメオリジナル）

星1 / 風属性 / ドラゴン族 / ATK1000 / DEF1000

このカードは召喚・反転召喚・特殊召喚に成功した時、このカードを装備カードとして扱い

相手フィールド上のモンスターに装備する事ができる。

このカードが装備された時、そのモンスターの表示形式を変更する。また、このカードが存在する限り、装備モンスターの表示形式を変更する事ができない。

《スピア・ドラゴン》

効果モンスター

星4 / 風属性 / ドラゴン族 / ATK1900 / DEF0

守備表示モンスターを攻撃した時にその守備力を攻撃力が越えていれば、

その数値だけ相手に戦闘ダメージを与える。

このカードは攻撃した場合、ダメージステップ終了時に守備表示になる。

《ホープ・オブ・ファイブ》

通常魔法

自分の墓地に存在する「E・HERO」と名のついたカードを5枚選択し、

デッキに加えてシャッフルする。

その後、自分のデッキからカードを2枚ドロウする。
このカードの発動時に自分フィールド上及び手札に他のカードが存
在しない場合は
カードを3枚ドロウする。

《HEROの遺産》
マンガオリジナル
通常魔法

自分の墓地にレベル4以上のHEROと名のつくモンスターが2体
以上いるとき
カードを3枚ドロウする。

《E・HERO エレメンタルヒーロー ワイルドマン》
効果モンスター

星4 / 地属性 / 戦士族 / ATK1500 / DEF1600
このカードは畏の効果を受けない。

《ミラクル・フュージョン》
通常魔法

自分のフィールド上または墓地から、融合モンスターカードによって
決められたモンスターをゲームから除外し、「E・HERO」という
名のついた融合モンスター1体を融合デッキから特殊召喚する。
(この特殊召喚は融合召喚扱いとする)

《E・HERO エレメンタルヒーロー ワイルドジャギーマン》
融合・効果モンスター

星8 / 地属性 / 戦士族 / ATK2600 / DEF2300

「E・HERO ワイルドマン」+「E・HERO エッジマン」
このモンスターは融合召喚でしか特殊召喚できない。
相手フィールド上の全てのモンスターに1回ずつ攻撃をする事ができる。

《まてんろう摩天楼 - スカイスクレイパー - 》

フィールド魔法

「E・HERO」と名のつくモンスターが攻撃する時、

攻撃モンスターの攻撃力が攻撃対象モンスターの攻撃力よりも低い場合、

攻撃モンスターの攻撃力はダメージ計算時のみ1000ポイントアップする。

《ワイルド・ハーフ》

通常魔法

自分フィールド上に「E・HERO ワイルドマン」が表側表示で存在する場合、

相手フィールド上の表側表示で存在するモンスターを1体選択して発動する。

選択したモンスターの元々の攻撃力・守備力を半分にし、相手フィールド上に

「ハーフトークン」1体を特殊召喚する。

「ハーフトークン」の元々の攻撃力・守備力は選択したモンスターの元々の

攻撃力・守備力の半分の値となり、種族・属性・レベル・効果は選択したモンスターと同じにする。

《神秘の中華なべ》

速攻魔法

自分フィールド上のモンスター1体を生け贄に捧げる。
生け贄に捧げたモンスターの攻撃力が守備力を選択し、
その数値だけ自分のライフポイントを回復する。

《ドラグニティ・スパイラル》

オリジナル
通常罫

自分フィールド上に「ドラグニティ」と名の付くシンクロモンスターが表側表示で存在しているときにフィールド上の表側表示モンスター1体を選択して発動する。

選択したモンスターが守備表示モンスターを攻撃したとき、攻撃力が守備力を超えていればその差の数値分の戦闘ダメージを与える。
この効果はこのターンのエンドフェイズまで続く。

《闇からの奇襲》

速攻魔法

自分のターンのエンドフェイズ時に発動する事ができる。
エンドフェイズからバトルフェイズへ戻す。

その後、このターンの戦闘を行ったモンスターはもう1度行う事ができる。

《攻撃の無力化》

カウンター罫

相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。
相手モンスター1体の攻撃を無効にし、バトルフェイズを終了する。

23話：紅き瞳を持つ闇の竜の咆哮（後書き）

フレイム・ウィングマンのミスを修正したのに新たなプレミが発覚。

スピア・ドラゴンが先に攻撃していれば十代負けてます。

まあ、ダークネスに十代が負けると色々と拙いですし、アニメの世界ではゴーズなどの様子見とかなしに攻撃力の高いモンスターから攻撃することが多いので、見逃してください。

ダークネスが2枚目のレッドアイズスピリッツを発動したタイミン
グが可笑しいですが、ああしないとどうしてもライフを0に出来な
かったので見逃してください。

シャイフレはカミューラ戦に入れたと十代が明言しているので使用
不可。

その為にあんな倒し方になりました。

次は遊璃復帰不可っぽいのでリクエストのあった「遊璃の未来の日
常生活」にしようと思います。

ではでは

番外編 - 不動遊璃、BF取得秘話 - (前書き)

10日振りの更新です。

遅れて申し訳ありません。

さて遊戯王GX - 蟹と魔女の娘 - も今回(番外入れて)で30話達成です。

記念としまして(というか本編の遊璃が動けない)

前のアンケートでリクエストのあった

「遊璃の普段の日常生活」をやります

因みに普段過ぎると書くことがすぐになくなるので、遊璃が5D'sの誰かに会いに行ったときの話です。

その中でも特にBF取得秘話についてやります

番外編 - 不動遊璃、BF取得秘話 -

side yuri

あれ？ ココは…

確か私はダークネスと戦って、それから……

……駄目、思い出せない。

・
・
・

それに… ココは、

私の部屋？

ブルー女子の部屋じゃなくて、本当の自分の家の…

・
・
・

という事は今までの事は全部…夢？

そうだ。

日付は？

月×日 日曜日。

…そうだ。

今日はクロウおじさんの家に遊びに行くんだっけ。

とじろで、

時間は？

⋮

⋮

⋮

私は時計を見た。

8 : 2 0

・

・

・

寝坊した！？

今日はママと一緒に行く予定だったのに……

約束の時間まであと40分！

早く準備しなきゃっ！

・
・
・

・
・

・

・

ふう。今は8:55分。

ギリギリ間に合ったわ。

朝食は抜くしかなかったけれど大丈夫よね……

玄関前でママと集合し、Dホイールに乗る。

そして、

私たちはクロウおじさんの家へと向かった。

・
・
・

・
・

・

・

『おう！ よく来たな！』

クロウおじさんは私達を笑顔で迎えてくれた。

私とママはDホイールから降りて、

ヘルメットを外し、外気に髪を靡かせる。

ママは髪がよく靡いて格好いいな・・・

私はそう密かに思った。

・

・

『…そうか』 遊璃が今年でもう16か…』

『フフ、そうよ。』

あの後私たちはクロウおじさんの住処で談笑をしていた。

今は私についての話だ。

因みに私が初めてクロウおじさんにあっしたのは5年前。

丁度私がデュエルモンスターズを始めた時だったわ…

〈回想〉

『遊星!』

そう言って1人のDホイラーが近づき、パパの目の前でヘルメットを取る。

『ッ! クロウ! 久しぶりだな!』

『ああ!』

そうしてパパとクロウ…おじちゃん？ は拳をぶつけ合った。

そして握手をした後に今度はママの方を向く。

『アキも元気そうだな！』

『ええ。』

その後にママとも握手をした後に今度はパパからもらったばかりのデッキを持った私の方を向いてきた。

『おっ！ 嬢ちゃんもデュエルをやるのか？』

そう言ってきたので

『うん！ あと私は嬢ちゃんじゃなくて遊璃。 不動遊璃って言うの。 おじちゃんは？』

まだ幼かった私はその言葉に素直に答えた。

『俺はクロウ。 クロウ・ホーガンだ。 へえ…嬢ちゃんは遊璃っていうのか………って不動！？ もしかして遊星達の……』

『ええ。 私と遊星の娘よ！』

ママが私を抱き上げて言う。

『そっか遊星達が結婚してもう10年以上が経つんだな………って、なんで子供が出来たって知らせなかったんだ！』

クロウおじちゃんは何かを思い出したような顔を見ると、すぐにそれを怒っているような声に変え、パパに言った。

『いや、クロウにはちゃんと知らせたはずだが…』

『そういえば、あの頃ってクロウはプロリーグで世界中を飛び回っていたなかったかしら？』

『そうだったか？ なら届いていないても仕方がないな…』

パパとママがそう返すと、

『じゃあ、帰った時に溜まっていた手紙と一緒に捨てちまったのかもしれないな。 あん時、ファンレターが多くて困っていたから…』

クロウおじちゃんはそうやって詫びてきた。

そのあとは私もたまに話に加わり、クロウおじちゃんの武勇伝について聞いた。

私も思ったが、同じことは3回も繰り返してほしくなかったな…

まあ、話し方を変えてくれたので結構面白かったけれどね。

それから暫くして、クロウおじちゃんが私の方を向いて

『そういや、遊璃だったか？ デュエルモンスターズをやるなら、俺とデュエルしないか？』

『…ちよつと、クロウ！ 遊璃はまだ初心者よ。ルールもまだあやふやだし…』

ママが制止に入ったが、

『なら尚の事、デュエルをしようぜ！ 俺だって昔はカードを通して字の読み書きや計算を勉強したんだ。それにデュエルってのは仲間との絆を深めてくれるしな！』

そう言ってパパとママの顔を見る。

その声にパパは顔を緩ませ、

『ああ！』

そうパパが言ったので私は

『はい！ よろしくお願いします』

そういつて腰を90度曲げて言った。

『お、おう…！』

クロウおじちゃんはそう言ってデュエルディスクを構えた。

〈回想終了〉

『おい！ 遊璃！』

私が昔の事に浸っているとクロウおじさんが話しかけてきた。

『…………えっ？ どうしたんですか？』

『どうしたじゃねえ。いきなり黙りやがって。しかも話しかけても無反応だし…』

クロウおじさんが声の高さを変えて次々に言ってきたので

『すみません。実は…』

私は1度誤り、正直に昔の…………クロウおじさんとのデュエルの事を思い出したことを話した。

すると、クロウおじさんは立ち上がって、

『そっか。 良し！…………遊璃。 お前が5年間でどれだけ強くなっただか、このクロウ様が見極めてやるぜ！』

私を指さし、クロウおじさんは言い放った。

なので私も立ち上がり、

『……望むところです。』

そう返した。

・

・

・

・

クロウおじさんの家を出て少し行ったところにあるスペース。

そこでデュエルをすることになった。

どうでもいいけれど近くに海が見えるわ。

『私が立ち会っわー!』

そう言ってママが私たちの間に立つ。

そしてママから丁度等間隔に距離を取り、デュエルディスクを構える。

・

・

・

『デュエル!』

こうして私の5年越しのリベンジデュエルが幕を開けた。

side out

side aki

遊璃とクロウのデュエルが始まった。

私にとって遊璃が初めてカードを手にした日に遊璃はデュエルをした。
相手はクロウ。

当然だけれど勝ったのはクロウ。

…でも遊璃はその時負けず嫌いだったから、
それから毎日のようにデュエルの参考資料をトップスの図書館で借りたり、
私たちにデュエルを挑んでくるようになった。

…でも私は医者で夫は研究者。
そう時間があかない。

だから遊璃が14歳になった頃に近所のショップで行われた市民大会に出した。

結果は遊璃の圧勝。

その当時のシヨップのトップに1ダメージも食らわずにマッチを勝ち抜いた。

それで自分の腕に自信を持ったのか、それからはシティの大きな大会にも出るようになったわ。

今は…… 6連覇だったかしら？

10連覇したらお願いを聞いて！

と言ってきたから私も夫も快く了承したのを覚えているわ！

……だからこの試合は遊璃にとってクロウに対する雪辱戦でもあり、実力を高めるための練習でもある。

最近はずいぶん遊璃のデュエルをまともに見れなかったけれど、どうなったのかしら？

結果だけはあっても、実際に見ないことには始まらないものね……

そこに

『デュエル！』

クロウ：LP/4000 VS 遊璃：LP/4000

2人のデュエルが始まった。

『先行は私が貰います』

『いいぜ！』

遊璃の言葉にクロウが頷く。

まあ、プロデュエリストだし、それくらいは当然よね…

『私のターン！ ドロー。』

遊璃が私がデュエルをするときと同じように直立でディスクを構え、カードを引く。

そして少し考えた後に手札からカードを1枚残して残りを取る。

『《シールド・ウィング》を守備表示で召喚！ カードを3枚セットし、《愚かな埋葬》を発動。デッキから《ドラグニティアームズ・ミスティル》を墓地へ。 ターンエンド』

遊璃の場に4枚のカードを出現し、1枚は中から緑の盾のような翼を持つ翼竜。

あとの3枚は不明のセットカードだ。

《シールド・ウィング》：DEF/900

遊璃：LP/4000

モンスター：《シールド・ウィング》(D900)

魔法・罫：3枚

手札：1枚

フィールド：なし

適用効果：なし

『俺のターン！』

クロウは遊璃と反対に半身の構えでカードを引く。

『俺は《BF 暁のシロツコ》を召喚！ こいつは相手の場にのみモンスターが存在する時、リリースなしで召喚できる！』

クロウの場に青い頭を持ったカラスと人間を足して2で割ったような鳥人が現れたわ。

《BF 暁のシロツコ》：ATK/2000

『更にこのカードは自分フィールドに「BF」が表側表示で存在していれば手札から特殊召喚することが出来る！ 来い《BF 黒槍のプラスト》！』

クロウの場に赤い顔を持ち、黒い槍を持つ鳥人が現れたわ。

それにしてもクロウ。 毎回よくこのカードを引けるわね…

《BF 黒槍のプラスト》：ATK/1700

『まだまだ行くぜ！ 《BF 疾風のゲイル》も特殊召喚！』

クロウが更に1枚の手札をデュエルディスクにセットすると、場に緑の髪(?)に黄色の顔を持つ小型のカラスのような鳥が現れ

たわ。

《BF 疾風のゲイル》：ATK/1300

ここまで来ると、クロウは必ずあのカードを手札に持っている。

『《BF 暁のシロッコ》の効果発動！ 1ターンに1度、フィールドに表側表示で存在する「BF」1体は他の「BF」の攻撃力分攻撃力をアップする。俺は《BF 黒槍のブラスト》を選択！』

持っていないかったわね…

クロウにしては珍しいわ。

それでも《BF 暁のシロッコ》の効果で攻撃力が3300上昇ね。

《BF 黒槍のブラスト》：ATK/1700 5000

これで攻撃力は5000。

黒槍のブラストには守備モンスターを攻撃し時、攻撃力が守備モンスターを守備力を超えていればその差のダメージを与える効果を持っている。

遊璃の《シールド・ウィング》の守備力は900。

このままでは遊璃の負けね…

どうするのかしら？

『遊璃、まさかこれで終わるとは思えないが……《BF 黒槍のブ

ラスト』で《シールド・ウイング》を攻撃！ ブラック・スパイラル！』

暁のシロツコの効果でなんだか違う力のこもった黒槍を持ち、黒槍のブラストは《シールド・ウイング》に突撃する。

『畏カード！ 《守護翼に託されし希望・パラディンスター》を発動！ フィールドの《シールド・ウイング》と墓地の《ドラグニティアームズ ミステイル》を除外し、《守護星龍 ガーディアン・スター・ドラゴン》を特殊召喚！』

遊璃の場に薄い煌めく翼が現れたと思つたら、そこに2体のモンスターが吸い込まれたわ。

それによつてクロウの攻撃は1時中断。

その後に煌めく翼から夫の《スターダスト・ドラゴン》のような体に《シールド・ウイング》の羽を持つ龍が現れたわ。

《守護星龍 ガーディアン・スター・ドラゴン》：ATK/？

攻撃力が決まってるわね…

『攻撃力が決まってるわね？』

クロウが私の考えていたことを言つたわ。

でも攻撃表示で出すのだからそこそこの攻撃力は持っているはずよね…

『《守護星龍 ガーディアン・スター・ドラゴン》の元々の攻撃力は除外したモンスターの守備力の合計となります。』
成る程ね。

《シールド・ウィング》の守備力は900、《ドラグニティアームズ ミスティル》の守備力は1500。
合計は2400。

でもクロウの《BF 黒槍のブラスト》との攻撃力差は2600。
もしクロウが《BF 月影のカルト》を持っていたら終わりよ！

『折角召喚したモンスターだが、攻撃力はまだ俺の方が上だ！』
《BF 黒槍のブラスト》で《守護星龍 ガーディアン・スター・ドラゴン》を攻撃！ ブラック・スパイラル！』

『もう1枚の罠カードも発動！ 《マインドクラッシュ》！ 私は
《BF 月影のカルト》を宣言します。』

遊璃は何でこのカードを入れたのかしら？

確かに相手の手札を確認できたうえに複数枚捨てられることが出来るのは魅力的だけれど、

失敗したら自分が損をする。

ましてやランダムだから、手札に溜まった「ドラグニティ」のドラゴン族モンスターを捨てられるとは限らないのに……

そう考えている間に遊璃の場に1本の指が現れ、クロウの手札を貫く。

『クツ……俺の手札に《BF 月影のカルート》は……ある。だが、制限カードだから手札は見せないぜ!』

『分かっています』

クロウは1枚の手札を遊璃に見せてから墓地へと送った。

そして、《BF 黒槍のブラスト》の攻撃が決まる。

『グツ……』

遊璃：LP / 4000 1400

でも《守護星龍 ガーディアン・スター・ドラゴン》は破壊されていない。

どうしてかしら？

『《守護星龍 ガーディアン・スター・ドラゴン》の効果、2回まで戦闘またはカード効果で破壊されません!』

『なんだそのインチキカード』

確かに効果は強力すぎね。

でもクロウに言われたくはないとは思っわよ？

でも今回はその強力効果が仇になりそう。

クロウの場には《BF 疾風のゲイル》がいる。

下手をすればサンドバックね。

「バトルフェイズを終了し、メインフェイズ2に入る。」

クロウは攻撃をやめ、次のフェイズに移行した。

《BF 暁のシロツコ》の効果があつたから当然でしょうけど…

「俺は《BF 疾風のゲイル》の効果を発動！ 1ターンに1度相手モンスター1体の攻撃力と守備力を半分にする。俺は《守護星龍 ガーディアン・スター・ドラゴン》を選択。」

この効果って強力なのよね…

半分にするのは永続だからずっと半分になつたままだし、

半分になる前に《団結の力》を使つても、アップした数値を半分にしたうえで

その後の能力補正もなくなるし…

考えていたら《BF 疾風のゲイル》の効果を受けたせいか、《守護星龍 ガーディアン・スター・ドラゴン》の攻撃力が半分になっているわ。

《守護星龍 ガーディアン・スター・ドラゴン》：ATK/240
0 1200

しかもクロウのターンはまだ終わっていない。

『更に俺はレベル4の黒槍のブラストにレベル3の疾風のゲイルを
チューニング!!』

クロウの場の《BF 疾風のゲイル》が突風を起こし3つの輪とな
る。

そしてその中を槍を構え、突撃をしようとする格好の《BF 黒槍
のブラスト》が潜り抜け、4つの星と化す。

+ || x7

『黒き旋風よ、天空へ駆け上がる翼となれ！ シンクロ召喚！ 《
BF アーマード・ウィング》!』

クロウの場に黒い装甲のような物を纏い、顔が赤い球体のようなモ
ンスターが現れたわ。

《BF アーマード・ウィング》：ATK/2500

『カードを2枚伏せ、ターンエンド!』

クロウ：LP/4000

モンスター：《BF 暁のシロツコ》（A2000）、《BF ア
ーマード・ウィング》（A2500）

魔法・罫：2枚

手札：0枚

フィールド：なし

適用効果：なし

やっとクロウのターンが終わったわ。

場に戦闘耐性モンスターと攻撃力を上げるモンスター。
それに伏せカードが2枚。

手札が0でも十分すぎる布陣ね。
遊璃はどうするのかしら？

『私のターン！』

遊璃はさっきダメージを受けた時に崩した体制を再び元の直立の状態に戻してカードを引いた。

『私は《調和の宝札》を発動！ 手札の《ドラグニティ アキュリス》を墓地に送り、カードを2枚ドローする！』

遊璃は「ドラグニティ」の中核になるモンスターの1枚を墓地に送りながらカードをドローした。

これで遊璃にも反撃の機会があるわね…

『更に《ドラグニティ レギオン》を召喚！ その効果で《ドラグニティ アキュリス》を装備！』

遊璃の場に緑の鳥の頭をした鳥人が現れ、ファイティングポーズを決める。

鳥人なんだから、もっと別の格好をしてほしかったわ。

《ドラグニティ レギオン》：ATK/1200

……そして、遊璃のモンスターが何かを発すると、フィールドに穴が開き、その中から赤い胴体の竜が出てきて、《ドラグニティ レギオン》の首に巻きついた。

『続けて、《ドラグニティ レギオン》の効果を発動！ 装備されている《ドラグニティ アクユリス》を墓地に送り、相手の表側表示のモンスターを1体破壊します。 私が破壊するのは《BF アーマード・ウイング》！』

《ドラグニティ レギオン》が首に巻きついていた《ドラグニティ アクユリス》を引きはがすと、そのまま《BF アーマード・ウイング》に向かって投げつける。

『させるか！ 罨カード《ボム・ガード》を発動！ モンスター1体の破壊する効果を持つカードの発動を無効にし、500ポイントのダメージを与える！』

クロウの場に複数の爆弾が現れ、投げつけられた《ドラグニティ アクユリス》を巻き込んで爆発。
そのまま誘爆を続け、《ドラグニティ レギオン》を破壊した上に遊璃にダメージを与えた。

『キヤッ！』

遊璃：LP/1400 900

『でも、《ドラグニティ アクユリス》の効果は発動します！』

遊璃の場に透明な《ドラグニティ アクユリス》が現れる。

『《ドラグニティ アクユリス》がカード効果によって装備カード状態から墓地へと送られた時、フィールド上のカードを1枚破壊する。 《BF アーマード・ウイング》を破壊！』

遊璃が指示を出すと、《ドラグニティ アクユリス》が《BF アーマード・ウィング》に向けて飛び出した。

しかしクロウは…

『そう安々と続けさせるかよ！ 《ブラック・ブースト》を発動！ このカードは自分の場に「BF」が2体以上存在する時、カードを2枚ドローする！』

クロウは《BF アーマード・ウィング》が破壊される前にカードを発動し、カードを2枚ドローした。

でもその罠カードの効果はドロー効果だけ。

案の定《ドラグニティ アクユリス》が《BF アーマード・ウィング》に巻きつき、それを破壊したわ。

『クツ……（すまねえ、アーマード・ウィング……）』

クロウが少し顔に影を差しているわ。

大方モンスターに謝っているのかしらね。

「BF」はクロウにとって一種の家族みたいな存在だから……

でも遊璃はどうするのかしら？

フィールドには攻撃力1200の《守護星龍 ガーディアン・スター・ドラゴン》。

手札は1枚。

通常召喚はもう使用した後。

最低限《BF 暁のシロツコ》を破壊しなければ遊璃に勝ち目はないわ。

次のターンで攻撃力100以上の「BF」を出された時点で勝負が決するから…

そう思っていた時、遊璃が行動を起こした。

『畏カード《龍の帰還》！ ゲームから除外されている「ドラグニティ」と名の付くチューナーモンスター以外のモンスターを1体特殊召喚し、このカードを装備する。《ドラグニティアームズ ミスティル》を特殊召喚！』

遊璃の場に光の塔が現れ、空から黄色の胴体をした竜が舞い降りてきたわ。

《ドラグニティアームズ ミスティル》：ATK/2100

『そして墓地から「ドラグニティ」と名の付くチューナーモンスターを装備します。私は《ドラグニティ アキュリス》を装備！』

再び赤い体躯の竜が現れ、今度は《ドラグニティアームズ ミスティル》の周りを旋回し始めたわ…

…ってチューナーモンスターを装備できるって、

もし《ドラグニティ ファランクス》を装備した場合即シンクロ召喚できるのかしら？

私がちよつとした疑問を浮かべていると、遊璃は眉を少し下げ、

『但し、この効果で特殊召喚したモンスターと装備したカードはエンドフェイズまで効果を発動することが出来ません。』

…まあ、当然と言えば当然よね。

ノーコストで実質2体のモンスターを特殊召喚できるなんて虫が良すぎるものね…

クrouもその事を聞いて少し安心しているようだわ。

でも安心しすぎて忘れていないかしら？

《ドラグニティアームズ ミスティル》の攻撃力って《BF 暁のシロツコ》よりも高い事を…

しかもクrouは既に《BF 月影のカルート》を失っているからこの攻撃に耐えられるはずない。

ましてや、さっきの2枚のドローで「BF」に戦闘耐性を持たせる《BF 蒼天のジェット》を引ける確率なんてたかが知れているわ。

『《ドラグニティアームズ ミスティル》で《BF 暁のシロツコ》を攻撃！』

『何！ 攻撃はできるのか！！』

やはりクrou忘れていたのね…

しかもあの表情からしてなかったようね。

蒼天のジェット。

遊璃のミスティルが手に持った剣で暁のシロツコの翼を切り裂く。それによって空中から暁のシロツコは落下し、頭を打って破壊されたわ。

『クツ・・・』

クロウ：LP / 4000 3900

『更に《守護星龍 ガーディアン・スター・ドラゴン》でクロウおじさんに直接攻撃！』

《守護星龍 ガーディアン・スター・ドラゴン》がその輝く翼からダイヤモンドダストを具現させてクロウにぶつけたわ。

『ウツ・・・』

クロウ：LP / 3900 2700

『カードを1枚セットしてターンエンドです。』

遊璃はカードを1枚伏せてターンを終えたわ。

…でもクロウの手札は次に3枚になる。

このターンが勝負ね。

遊璃：LP / 900

モンスター：《守護星龍 ガーディアン・スター・ドラゴン》（A1200）、《ドラグニティアームズ ミスティル》（A2100）
魔法・罠：《龍の帰還》、《ドラグニティ アクユリス》、1枚

手札：0枚

フィールド：なし

適用効果：自分は守備表示でモンスターを召喚・特殊召喚できず、表示形式の変更が出来ない。

『俺のターン！』

クロウのターンが始まったわ。

クロウはドロートしたカードを確認するとすぐに手札を1枚引き抜いてデュエルディスクにセットした。

『俺は《BF 極北のブリザード》を召喚！ その効果で墓地の《BF 月影のカルート》を特殊召喚！』

クロウの場に水色のフクロウのようなモンスターが現れ、そのモンスターが吼えると

クロウの墓地から黄色の髪に薄暗い色の顔を持つカラスが現れたわ。

《BF 極北のブリザード》：ATK/1300

《BF 月影のカルート》：DEF/1000

ん？ でもどうして《BF 月影のカルート》なのかしら？

《BF 黒槍のブラスト》を特殊召喚して《BF アームズ・ウィング》にシンクロ召喚すれば攻撃だけで勝てるのに……

もしかして遊璃の伏せカードが攻撃反応系かと考えているのかしら？

でも私が最後に見た時は遊璃のデッキに攻撃反応系のカードなんて入ってなかった気がする。

完全にカード効果と攻撃で勝つタイプのデッキだったわ。平等じゃないから言わないけれど…

まあクロウの事だから考えがあるのね。

・
・
・

2分ぐらい経ったのかしら？

ようやくクロウが手札を1枚を遊璃に見せてから、デュエルディスプレイにセットしたわ。

『このカードは場に「BF」がいる時、特殊召喚できる。』
《BF

白夜のグラディウス》を特殊召喚！』

《BF - 白夜のグラディウス》：ATK/800

出てきたのは玩具のような剣を持ち、鎧を着た鳥人。

そして合計レベルは8ね。

そうなればクロウが出すモンスターは当然、

『俺はレベル3《BF 月影のカルト》と《BF 白夜のグラディウス》にレベル2《BF 極北のブリザード》をチューニング！

！』

極北のブリザードが吹雪の交じった竜巻を巻き起こし、他の2体を巻き込んだ

+ + || x 8

達明が晴れると、周りに黒い羽が舞い散る。

『吹き荒べ嵐よ！ 鋼鉄の意志と光の速さを得て、その姿を昇華せよ！ シンク口召喚！』
《BF 孤高のシルバー・ウィンド》！』

8つの星と輪から湧き出た黒い羽を跳ね除け現れたのは

1振りの刀を持ち、銀のコートを羽織ったカラスの頭を持つ鳥人だった。

《BF 孤高のシルバー・ウィンド》：ATK/2800

今回はこっちなね。

いつもは《ブラックフェザー・ドラゴン》になるのに…

でも今回はこちらの効果の方がいいかしら？

『《BF 孤高のシルバー・ウィンド》の効果発動。このモンスターはシンク口召喚に成功した時、フィールド上に存在するこのカードの攻撃力未満の守備力を持つモンスターを2体まで破壊できる。……俺は《ドラグニティアームズ ミステイル》と《守護星龍

ガーディアン・スター・ドラゴン』を破壊！ パーフェクト・ストーム！！』

《BF 孤高のシルバー・ウィンド》が刀を振り上げ、遊璃の竜を切り裂こうと飛びかかる。

遊璃、どうするのかしら？

この効果が決まってもこのターンバトルを行えないから負けるわけではないけれど、

《守護星龍 ガーディアン・スター・ドラゴン》は残る。

さっきの遊璃のターンからして守備表示でモンスターを出せない可能性が非常に高い。

そうなるともう遊璃の伏せカードに頼るしかなさそうね。

・
・
・

《BF 孤高のシルバー・ウィンド》が刀に風を溜め込み、放とうとした瞬間。

遊璃の伏せカードが起き上がった。

『永続罨カード《ラグイン・リフレクション溪谷防護壁》！ デツキの《竜の溪谷》と《ドラグニティ ドウクス》2枚を墓地に送り、1度だけ、自分フィールド上の「ドラグニティ」と名の付くモンスターはカード効果によって破壊されない！』

『何!』

クロウが驚きの声を上げるが遅く、《BF 孤高のシルバー・ウィンド》の刀に溜まった風は遊璃のモンスターへと直撃した。

・
・
・

暫く経って煙が晴れたが、2体のモンスターは破壊されておらず、クロウのモンスター効果は効果を得られなかった。しかもバトルが行えないというオマケを残して……

『クソツ…《BF 孤高のシルバー・ウィンド》の効果を発動したターンは攻撃できない。俺はカードを1枚伏せ、ターンエンド!』
こうしてクロウのターンは終わった。

クロウ：LP / 2700

モンスター：《BF 孤高のシルバー・ウィンド》（A2800）

魔法・罫：1枚

手札：0枚

フィールド：なし

適用効果：なし

遊璃のターンね。

でもこのターンで自分のモンスターも処理できなければ確実に次のターンに遊璃は負ける。

どうするのかしら？

『私のターン！』

遊璃は最後まで直立の体制を崩さずカードを引く。

そしてドローカードを見つめ、目を輝かせた。

どうやら待っていたカードを引けたみたいね。

そのままの顔でデュエルディスクにカードを差し込んだ。

『私は魔法カード《ドラゴン・パージ》を発動！ この効果で装備カード扱いの《ドラグニティ アキュリス》を特殊召喚！』

《ドラグニティアームズ ミスティル》の周りを旋回していた《ドラグニティ アキュリス》が飛び回るの止め、フィールドに降り立つ。

《ドラグニティ アキュリス》：ATK/1000

これで遊璃は8か10でシンクロ召喚が行える。

確か遊璃のエクストラデッキには両方あったはずだけれど、どっちを出すのかしら？

『レベル8 《守護星龍 ガーディアン・スター・ドラゴン》にレベル2 《ドラグニティ アキュリス》をチューニング！』

遊璃の2体の竜が近くにあった海に飛び込み、姿を消す。

…
暫くすると中から光の塔が具現した。

+ || x 10

『秘境の奥に封ぜられし厄災の龍。 今、長き年月を経て、秘境の龍達と共に立ち未来への道を開け！ シンクロ召喚！ 破壊せよ』
トライデント・ドラギオン』！』

光の塔が消え中から3つの首を持つ邪悪な龍が現れたわ。

《トライデント・ドラギオン》：ATK/3000

『《トライデント・ドラギオン》の効果で《ドラグニティアームズ ミスティル》と《渓谷防護壁》を破壊！ トライ・デストロイ！』

遊璃の言葉と共に2枚のカードが砕け散ったわ。

遊璃：LP/900 700

…これで遊璃のモンスターは3回攻撃が出来るけれど…

クロウの伏せカード次第で勝負が決まるわね…

『行きます』《トライデント・ドラギオン》でBF 孤高のシルバ
ー・ウィンド』を攻撃！ トライデント・ヴォルカノンバースト！』

《トライデント・ドラギオン》が3つの首から灼熱の炎を吐き出す。

『《BF 孤高のシルバー・ウィンド》の効果を発動！ 相手ターンに1度、「BF」は戦闘によって破壊されない！』

『それでも戦闘ダメージは受けてもらいます』

『《BF 孤高のシルバー・ウィンド》が刀を振り回し、炎を振り払ったわ。』

でも振り払えなかった部分がクロウに向かう

『クツ…』

クロウ：LP / 2700 2500

『次です。 《トライデント・ドラギオン》で《BF 孤高のシルバー・ウィンド》を攻撃！ トライデント・ヴォルカノンバースト2！』

『《トライデント・ドラギオン》がさっきと同じように灼熱の炎を吐き出す。』

『《BF 孤高のシルバー・ウィンド》も先ほどのように刀を振り回そうとするが、』

『疲れたのかうまくいかず、焼き払われた。』

『グア…』

クロウ：LP / 2500 2300

これでクロウの場にモンスターがいなくなった。

遊璃チャンスよ！

『これで終わりです。 《トライデント・ドラギオン》で直接攻撃
！』

遊璃が攻撃命令を出す。

クロウの伏せカードを忘れて…

『……………時……………ていたぜ！』

クロウが何かを言ったわね。

『えっ！？』

遊璃にも聞こえたらしく聞き返す。

それに答えるためかクロウは伏せていた1枚のカードを表にした。

『俺はこの時を待っていたぜ！ 畏カード《BF バックフラッシュ
ユ》を発動だあ！ 俺の墓地に「BF」が5体以上いて、相手が直
接攻撃をしてきたとき相手モンスターをすべて破壊する！』

クロウの場に墓地へ行った多くの「BF」の魂のようなものが現れ、
《トライデント・ドラギオン》に接近する。

《トライデント・ドラギオン》は口から炎を吐いて応戦するが、先

ほどの2連発が効いたのか炎の勢いは弱い。

…結果、遊璃のモンスターは全て貫かれ、破壊された。

そして手札も場にもカードがなくなった遊璃は黙ってターンを渡すしかなかった。

遊璃：LP / 700

モンスター：なし

魔法・罫：なし

手札：0枚

フィールド：なし

適用効果：なし

『俺のターン！』

クロウは渾身の力を籠め、カードを引く。

これで攻撃力700以上のモンスターを引いた時点でクロウの勝ち。

『俺は《BF たいはい 大旆のヴァーユ》を召喚！』

クロウの場に現れたのは黒い体に白い毛の顔を持つ小さな鳥。

《BF 大旆のヴァーユ》：ATK / 800

クロウの勝ちね。

なんだかしくくりこないけど…

遊璃も若干顔を引き攣らせているし……

『俺の勝ちだな！』《BF 大旆ヴァーユ》で直接攻撃！』

《BF 大旆のヴァーユ》が遊璃をつつき、ダメージを与えた。

遊璃：LP / 700 0

クロウ：WIN

・
・
・
・
・

デュエルが終わり、2人は握手をして私の方に戻ってきた。

遊璃は少し泣いていたけど……

無理……ないわよね？ 最後があれだし……

でもここで遊璃を抱きしめてあげたりはしない。

私が泣き止ませるよりは自分で泣き止ませろっよ！

私はそう考えて、私は2人に声を掛ける。

『遊璃、クロウ。 お疲れ様。』

『……グスツ……うん。』

『ああ。』

2人はそれぞれ返答を返してきた。

s i d e o u t

s i d e y u r i

もう少しでクロウおじさんに勝てたのに、最後に気を抜いてしまっ
たわね。

伏せカードを忘れるなんて……ね。

ハア。 落ち込みそう。

『……遊璃。』

そう思っていたら、クロウおじさんが話しかけてきた。

私が黙っていたら

『遊璃、強くなったな。』

そうしてクロウおじさんは私の頭を撫でてくれた。

なんか心地いいかも。

・ ・ ・

そうして暫く撫でられた後、クロウおじさんはデッキを漁り、2枚のカードを取り出してきた。

『これは？』

『遊璃のデッキに合いそうなカードだ。俺を追い詰めたご褒美だ。お前にやるよ！』

・ ・ ・

私はそれを聞いて一瞬何を言ったのか理解できなかったが、意味を理解すると同時に笑い

『ありがとうございます』

そう言ってカードを受け取った。

受け取ったカードは、

《BF 精鋭のゼピュロス》と《BF

・ ・ ・
・ ・ ・
・ ・

ガバツ！

私は布団を跳ね除け起き上がった。

…まだ目が翳む。

私は少し痛くなるのを覚悟で目を擦った。

・ ・ ・

すると段々と視界がはっきりとしてきた。

そこにあった景色は……

・ ・ ・

デュエルアカデミアの保健室だった。

・・・To be continued

今回の新規登場カード

《BF - 暁のシロッコ》
ブラックフェザークワック

効果モンスター

星5 / 闇属性 / 鳥獣族 / ATK 2000 / DEF 900

相手フィールド上にモンスターが存在し、

自分フィールド上にモンスターが存在しない場合、

このカードはリリースなしで通常召喚する事ができる。

1ターンに1度、自分フィールド上に表側表示で存在する

「BF」と名のついたモンスター1体を選択して発動する。

選択したモンスターの攻撃力は、そのモンスター以外の

フィールド上に表側表示で存在する「BF」と名のついた

モンスターの攻撃力の合計分アップする。

この効果を発動するターン、選択したモンスター以外の

モンスターは攻撃する事ができない。

《BF - 黒槍のブラスト》
ブラックフェザークワック

効果モンスター

星4 / 闇属性 / 鳥獣族 / ATK 1700 / DEF 800

自分フィールド上に「BF - 黒槍のブラスト」以外の

「BF」と名のついたモンスターが存在する場合、

このカードは手札から特殊召喚する事ができる。

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、

その守備力を攻撃力が超えていれば、

その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

《BF - 疾風のゲイル》
ブラックフェザークワック

チューナー・効果モンスター

星3 / 闇属性 / 鳥獣族 / ATK1300 / DEF400

自分フィールド上に「BF - 疾風のゲイル」以外の

「BF」と名のついたモンスターが存在する場合、

このカードは手札から特殊召喚する事ができる。

1ターンに1度、相手モンスター1体の攻撃力・守備力を半分に
する事ができる。

《守護翼に託されし希望 パラディン・スター》（金魚さん投稿オ
リジナル）

通常罫 多分

フィールド上に存在する「シールド・ウイング」と自分の墓地のド
ラゴン族モンスター1体を除外することでのみ発動することが出来
る。

エクストラデッキから「守護星龍 ガーディアン・スター・ドラゴ
ン」を特殊召喚する。

《守護星龍 ガーディアン・スター・ドラゴン》（金魚さん投稿オ
リジナル）

融合・効果モンスター

星8 / 風属性 / ドラゴン族 / ATK? / DEF0

このカードは「守護翼に託されし希望 パラディン・スター」の効
果でのみ特殊召喚することが出来る。

このカードの攻撃力は融合素材としたモンスターの守備力を合計し
た数値となる。

このカードは2回まで魔法・罫・モンスター効果・戦闘によって破
壊されない。

このカードがフィールド上に存在する限りこのカードをコントロー
ルするプレイヤーはモンスターを守備表示で召喚・特殊召喚するこ

とは出来ず、表示形式を変更することも出来ない。

《マインドクラッシュ》

通常罫

カード名を1つ宣言する。

相手は手札に宣言したカードを持っていた場合、

そのカードを全て墓地へ捨てる。

持っていなかった場合、自分はランダムに手札を1枚捨てる。

《BF - アーマード・ウィング》 ブラックフェザー

シンクロ・効果モンスター

星7 / 闇属性 / 鳥獣族 / ATK 2500 / DEF 1500

「BF」と名のついたチューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

このカードは戦闘では破壊されず、

このカードの戦闘によって発生する自分への戦闘ダメージは0になる。

このカードが攻撃したモンスターに

楔カウンターを1つ置く事ができる(最大1つまで)。

相手モンスターに乗っている楔カウンターを全て取り除く事で、

楔カウンターが乗っていたモンスターの攻撃力・守備力を

このターンのエンドフェイズ時まで0にする。

《ボム・ガード》

通常罫

「自分フィールド上に存在するモンスター1体を破壊する効果」を持つ

カードが発動した時に発動する事ができる。
その発動を無効にし破壊する。
さらに相手ライフに500ポイントダメージを与える。

《ブラック・ブースト》

通常罠（アニメ効果）

自分フィールド上に表側表示で存在する「BF」と名のついたモンスターが2体以上存在する時、発動する事が出来る。
自分のデッキからカードを2枚ドロウする。

《龍の帰還》（言羽・D・カタストロフィーさん投稿オリジナル）

永続罠

ゲームから除外されているチューナー以外の「ドラグニティ」と名のつくモンスター1体を選択し、攻撃表示で特殊召喚する。

その後、特殊召喚したモンスターに墓地の「ドラグニティ」と名のつくチューナーモンスターを装備カード扱いとして装備する。

この効果で特殊召喚したモンスター及び装備したチューナーモンスターはこのターンのエンドフェイズまで効果を発動する事が出来ない。

このカードがフィールドから離れた場合、装備モンスターはゲームから除外される。

装備モンスターがフィールドから離れた時、このカードを破壊する。

ブラックフェイズはくほく

《BF - 極北のブリザード》

チューナー・効果モンスター

星2 / 闇属性 / 鳥獣族 / ATK1300 / DEF0

このカードは特殊召喚できない。

このカードが召喚に成功した時、自分の墓地に存在するレベル4以下の「BF」と名の付いたモンスター1体を表側守備表示で特殊召喚する事ができる。

《BF - 月影のカルート》
ブラックフェイズ

効果モンスター

星3 / 闇属性 / 鳥獣族 / ATK1400 / DEF1000

自分フィールド上に表側表示で存在する「BF」と名のついたモンスターが

戦闘を行うダメージステップ時にこのカードを手札から墓地へ送る事で、

そのモンスターの攻撃力はこのターンのエンドフェイズ時まで1400ポイントアップする。

《BF - 白夜のグラディウス》
ブラックフェイズ

効果モンスター（漫画オリジナル）

星3 / 闇属性 / 鳥獣族 / ATK800 / DEF1500

フィールド上に「BF」が存在する時、このカードは手札から特殊召喚する事ができる。

このカードは戦闘では破壊されない。

《BF - 孤高のシルバー・ウィンド》
ブラックフェイズ

シンクロ・効果モンスター

星8 / 闇属性 / 鳥獣族 / ATK2800 / DEF2000

「BF」と名のついたチューナー+チューナー以外のモンスター2体以上

このカードがシンクロ召喚に成功した時、

フィールド上に表側表示で存在する、

このカードの攻撃力よりも低い守備力を持つ

モンスターを2体まで選択して破壊する事ができる。

この効果を発動するターン、自分はバトルフェイズを行う事ができない。

また、相手のターンに1度だけ、

このカードが自分フィールド上に表側表示で存在する限り、

自分フィールド上に存在する「BF」と名のついたモンスターは戦闘では破壊されない。

《ラウイン・リフレクション 渓谷防護壁》（自作オリジナル）

永続罫

1ターンに1度、自分フィールド上に表側表示で存在する「ドラグニティ」と名の付くモンスターを破壊するモンスター効果が発動した時のみ、このカードは発動する事が出来る。

自分の手札・デッキから「竜の渓谷」と破壊する効果を発動した効果モンスターのレベルと同じになるように鳥獣族モンスターをデッキから墓地に送ることで、このターンのエンドフェイズまで自分フィールド上に表側表示で存在する「ドラグニティ」と名の付くモンスターはカード効果によって破壊されない。

このカードがカード効果で破壊された場合、自分は自分の場のカードの数×200ポイントのダメージを受ける。

《ドラゴン・パージ》（バラランシャさん投稿オリジナル）

通常魔法

自分フィールド上に存在する装備カード扱いで装備されている『ドラグニティ』と名の付くモンスター1体を選択して発動する。

装備されているそのモンスターを自分フィールド上に特殊召喚する。

バックフラッシュ
《BF - バックフラッシュ》
通常罫

自分の墓地に「BF」と名のついたモンスターが5体以上存在する場合、

相手モンスターの直接攻撃宣言時に発動する事ができる。

相手フィールド上に存在するモンスターを全て破壊する。

バックフェイズ
《BF - 大旆のヴァーク》

チューナー・効果モンスター

星1/闇属性/鳥獣族/ATK800/DEF0

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、

このカードをシンクロ素材とする事はできない。

このカードが墓地に存在する場合、このカードと墓地に存在するチューナー以外の

「BF」と名のついたモンスター1体をゲームから除外し、

そのレベルの合計と同じレベルの「BF」と名のついた

シンクロモンスター1体をエクストラデッキから特殊召喚する事ができる。

この効果で特殊召喚したモンスターの効果は無効化される。

番外編・不動遊璃、BF取得秘話・（後書き）

最近あとがきが味気ないので何か始めたいと思います。

候補は

- ・話内での疑問突っ込み解消
- ・ポピュラーな最強カード

疑問突っ込み解消の方は分かりずらいと思うので今回試しにやってみます

クロウの家って何処？

ダイダロスブリッジの近くです。

近くに海ありますし、クロウの憧れはダイダロスブリッジから飛んだ伝説のDホイーラーですからね…

アキって医者？

公式設定も出てますし、もういいやって感じですよ。

一応3部で遊璃はアキを朝に弱いと表現していますが、夜勤で朝起きてこないという解釈をしていただければ…

アキュリスの効果って使えたって？

レギオンの効果は裁定を調べても載っていなかったのよ

「アキュリスを外すのはコストなのでアキュリスはカード効果で墓地に送られた」という解釈にし、レギオンの効果が無効にされてもアキュリスの効果は発動するという事にしました。

間違っていた場合はクロウの伏せを調整するのでデュエル内容大幅

調整の為に1回この話を削除します。

漫画版のBFかいw
使ってみたくてw
噂の公私混同BFを…

アキの予想が…
故意に外しました。
後悔はしていません。

海に飛び込んだってどうして？
海底火山に向かっていったという事にしておいてください。

最後がヴァーユかよw
作者も大会でやられましたよ？
あれって精神的に参るんですよねw

みたいな感じでやります。
感想かメッセで質問や突っ込みを送ってくださいれば、
次話の前書きで解答します。

今回は遊璃も目覚めたし、カミューラ行きますか。
絶対波乱の予感が…

――

最後に日常編なのにデュエル入れて申し訳ありませんでした。

24話：闇夜の吸血美女の訪来（前書き）

予告通りvsカミューラです。

そろそろ原作キャラにもデュエルさせてみます。

誰が戦うかは秘密。

予想は簡単ですけどね。

ついでにちゃんとあの台詞も盛り込みましたよ

ちなみに両方に魔改造を施しましたw

活動報告にてアンケートを実施中です。

よろしければ参加してください。

それと、2期のデッキ案はまだ募集中です。

気軽に参加してくださいね。

…あ、今更ですけど後半のアンケート無意味だったかもしれません。
前書きあるのですし、そっちを利用すればいいのかも…

思い至ったら即行動。

という訳で

今回の最強カード

《生還の宝札》

永続魔法（漫画効果）

自分または相手の墓地に存在するモンスターが特殊召喚に成功した時、

このカードのコントローラーはデッキからカードを3枚ドローする。

何と言うチートカードw

弱点は一応ありますがね…

強制効果っていうところですが…

あまり関係ないかもしれませんが…

1回でも発動できれば十分すぎます。

OCG効果の物でも強力なのにこれは……

…と言うわけで今回は《生還の宝札》が大暴れします

24話：闇夜の吸血美女の訪来

side yuri

私が保健室で目を覚まして数日。

ようやく私の外出許可が出るまで明日となった夜、

『ハッ！！ ウウ・・・』

『兄貴！ どこか痛むんすか？』

ダークネス戦からずっと眠っていた遊城君が起き上がった。でもまだ体に痛みが走るらしく動けないらしい。

それでも自分の事よりダークネス……呼び方が違ったわね。

吹雪さん、行方不明だった明日香のお兄さんの事を心配する。

他人の心配もいいけれど兎に角まずは自分の体を心配するべきだと私は思う。

遊城君が目覚めたことで話しかけた鮎川先生は吹雪さんの事を

『まだ意識は戻ってないけれど、大丈夫。命に別状はないわ』

と遊城君に吹雪さんの容体を伝える。

鮎川先生も遊城君も一応病人なんだからまずは安静にさせるべきだと思っただけだ……

まあ、遊城君だし多分大丈夫よね…

・
・
・

さて、今日の昼間に三沢君達から聞いたことだけれど、ここ最近アカデミアで不思議な噂が立っている。

曰く、湖に淒く美人の女性が立っていたが、その女性の口元には牙があった

曰く、女の吸血鬼がでた

などと。

その噂は迂曲左折し、明日香達七精門の鍵の所有者へと届き、セブンスターズではないかという結果に至った。

そして昼に遊城君、私、明日香以外の4人は校長室に招集されたらしい。

私と遊城君は外出が無理だったし、明日香も吹雪さんの事で行くの辞退したらしいわ。

・
・
・

さて、私と明日香にその事を伝えに来た三沢君達がいなくなり、明

日香と少し話していると外は夜になっていた。

…なにか胸騒ぎがする。

寝ようにも寝られず、私は寝返りを打つ。

その時…

ウィーン

そんな音と共に保健室の扉が開き、前田君が入ってきていきなり叫んだ。

『大変なんだなあ』 クロノス教諭が闇のデュエルをするんだな！』
と。

ぷん……

つて、ええええええええええええ…

私が内心驚くのと同時に

丸藤君と明日香が反応を見せる。

『ええ！！ クロノス教諭が！？』

『そんな、無茶よ！ またあんな危険なデュエルを始めるなんて…』

…確かに明日香の言う通りね。

ママに聞いて少しは危機感を持つていたけれど、やはり聞いただけの話と実際の体験では違う。

私はダークシムルグ、そしてダークネスとのデュエルからそれを学んだ。

もうあんなデュエルを繰り返してはいけない…と。

だから私はそれを警告すべくベッドから起き上がり、明日香に着替え中の壁になってもらえるよう頼んだ。

・
・
・
・
・

遊城君を含め、私達は湖へと向かう。

湖では前田君の情報通りクロノス先生が闇のデュエルを行っていた。

そして辿り着くか否かるとき、対戦相手のデュエリストの言葉が聞こえた。

『……私にこんなに無様で弱いデュエリストを向けるなんて……』

クロノス先生は十分強いと私は思うわよ。

私のそんな考えを読み取ったのか、前田君に背負われている遊城君が言う

『それは違うぜ！……クロノス先生は強いぜ！……戦った俺が言うんだ！間違いない！クロノス先生！見せてくれよ！あんなのターン！！』

と。

だから私もそれに便乗する

『ええ。クロノス先生は強い。それは私も分かります！だから頑張ってください！』

：私達の言葉に反応したのか倒れ伏していたクロノス先生が必死に立ち上がり、

『シニョーラコミュニーラ。』

そう話しかけた。

対戦相手はコミュニーラと言うのね。

まあ、今はあまり関係ないでしょうけれど…

案の定コミュニーラは

『お目覚めかしら？』

と返す

それに対して

『このクロノス・デ・メデイチ。断じて闇のデュエルなどに負けるわけにはいきませぬーノ！！ 何故なら、デュエルとは本来、青年に希望と光を与えるものであり、恐怖と闇を齎すものではないノ―ネ！！』

…そうですね。　クロノス先生。

最近暗いデュエルが多くて、私もその事を忘れていましたよ。

私たちがデュエルをするうえで特に大切なものを思い出させてくれてありがとうございます。

私がそう思っているのと同時に

『だよな！　クロノス先生！！』

『それで闇のデュエルなんか存在しないと…』

『存在してはならぬと言っていたのか。』

遊城君、三沢君、そして丸藤先輩（吹雪さんのお見舞いに来てくれた時に自己紹介をした）が言った。

他のみんなもその顔にだんだんと笑みが戻り、クロノス先生の言葉を真に受けているのだと思う。

そんな中、クロノス先生はデュエルを続行する。

『……………諸君。』

クロノス先生は次のターンでエースモンスターの《古代の機械巨人》を召喚するも、
僅かにカミューラが上手を取り、次のターンで確実に負けの状態を作り出された。

それを一瞥し、クロノス先生は負けを悟ったのか、私たちの方を向き、講義のように話し出す。

『…よく見ておくノーネ！！　そして約束するノーネ！！　……………例え闇のデュエルに敗れたとしても、闇は光を凌駕出来ない。……………そう信じて決して心を折らぬこと。　私と約束してくだサーイ！！』

…大丈夫ですよ！

そんな事言われなくても分かっています。

・

・

・

『ボーイ……………光の……………デュエルを……………』

クロノス：LP / 1000

カミューラ：WIN

あのとクロノス先生の《古代の機械巨人》は破壊され、2体のモンスターが直接攻撃で決着が着いた。

それと同時にクロノス先生は一言言い残し倒れ伏した。

カミューラは倒れたクロノス先生に近づき、七精門の鍵を奪った。

そして鍵を失ったクロノス先生はカミューラの持つ人形に封印された。

……闇のデュエルに負けると……あなるのね……

私はダークネス戦で自分が負けていたことを想像して身震いした。

……

……

……

……

あのと、カミューラはクロノス先生の人形が好みではないと言い、地面に放り、蝙蝠となって姿を消した。

……

翌日、夜になると突如湖に不気味な城が現れた。

私達鍵の所有者はカミューラの城だと断定し、乗り込むことにした。
城まで続く赤い絨毯を渡り、城に乗り込む。

何故か、丸藤君と前田君が着いてきたのがものすごく気になるけれど……

私はその事を一言も言わずに城の中央へ向かった。

先頭を歩いているのは丸藤先輩。

今回は丸藤先輩がデュエルをするらしい。

「（主、あの者の感情。怒りに飲まれつつあります）」

ミリトゥムが念話で丸藤先輩の感情を教えてくださいました。

……クロノス先生の事は分かりますが、怒りで自滅しなければいいけれど……

そう思いながら私は明日香の補助を受けながら城の中を進んだ。

・

・

・

・

そして……

『デュエル!!』』

亮：LP / 4000 vs カミューラ：LP / 4000

城の中央で待ち構えていたカミューラと丸藤先輩の戦いが幕を開けた。

『先攻は私。 ドロー!』

カミューラが牙によって少し聞き取りづらく感じる声で声を発し、カードをドローする。

『私は《ヴァンパイア・レディ》を攻撃表示で召喚するわ。』

カミューラの場合に明るい紫色のドレスを纏い、体の色が青っぽく変化した女性ヴァンパイアが牙を剥き出しにし、今にも噛みつきこうとする恰好で現れた。

《ヴァンパイア・レディ》：ATK / 1550

『カードを2枚伏せて、ターンエンド!』

カミューラの場合に新たに2枚の伏せカードが現れる。攻撃力1550のモンスターを攻撃表示なのだから十中八九、攻撃反応系のカード。

でも今の丸藤先輩はクロノス先生の一件から頭に血が登っている。
大丈夫かしら？

カミュラ：LP/4000

モンスター：《ヴァンパイア・レディ》（A1550）

魔法・罫：2枚

手札：3枚

フィールド：なし

適用効果：なし

『俺のターン……ドロー！』

丸藤先輩は一見落ちて着いているようにカードを引くが、
ミリトゥムの念話で聞いた感情によると相当怒っているらしい。

自滅するような事だけはして欲しくないわ…

そう思っている中、丸藤先輩は手札から1枚のカードをカミュラ
に見せる。

『このカードは相手の場にモンスターがいて、自分の場にモンスター
が存在しないとき、手札から特殊召喚することができる。《サイ
バー・ドラゴン》を特殊召喚！』

丸藤先輩が召喚したのは蛇のような体を持つ機械竜。

《サイバー・ドラゴン》が小さな咆哮をあげて、フィールドに舞い
降りた。

《サイバー・ドラゴン》：ATK/2100

『出た！ 亮の《サイバー・ドラゴン》！』

『お兄さん！！』

《サイバー・ドラゴン》を見た明日香と丸藤君が期待の声を上げる。

反応からして丸藤先輩のデッキのエースのようね。

もしデュエルすることがあれば注意しなくちゃ…

そう考えていると、丸藤先輩は更に手札のカードを出す。

『俺は《タイムカプセル》を発動。デッキからカードを1枚ゲームから除外し、2ターン先の自分のスタンバイフェイズに除外したカードを手札に加える。』

丸藤先輩の場に変な模様が入った棺が現れた。

そして丸藤先輩が1枚のカードをデッキから取出し、制服の内ポケットに入れると、棺の中に1枚のカードが封印された。

《タイムカプセル》か……

デッキから直接カードを持ってこれるところは便利だけれど、破壊されたりすると除外されたままなのがネックね。

丸藤先輩はカードの封印を見届けてから、デッキをシャッフルした。

…そして丸藤先輩は手札には触れず、《ヴァンパイア・レディ》を指さし言い放つ。

『バトル！ 《サイバー・ドラゴン》で《ヴァンパイア・レディ》を攻撃！ エヴォリューション・バースト!!!』

《サイバー・ドラゴン》がその口に大きな光球を作り出し、光線として照射した。

・
・
・

しかし、その攻撃は到達することなく、突如現れた赤い月によって阻まれる。

どうして？

私がそう思い、カミューラの方を向くと、1枚の罨カードが起き上がっていた。

『罨カード！ 《妖あやかしの紅月ベネムーン》。手札のアンデット族モンスターを捨てて発動！ 攻撃モンスターの攻撃を無効にし、その攻撃力分のライフを得る』

『
・
・
・
・
』

カミューラのカードに対して何も言わない丸藤先輩。

カミューラ：LP / 4000 6100

《妖かしの紅月》……確か、あの効果には続きがある。

∴ライフポイントを回復した後にバトルフェイズを終了する。

∴だから実質効果は《ドレイン・シールド》と《攻撃の無力化》が合わさったようなカード。
発動にコストがいるけれど、アンデット族にはメリットにしかかならない…

アンデットデッキにしか入らないけれど、十分強力なカードね…

丸藤先輩はどうするのかしら？

『クツ・・・《サイバー・フェニックス》を守備表示で召喚。カードを2枚伏せて、ターンエンド』

丸藤先輩は不死鳥のような体形を持つ機械鳥を召喚し、カードを2枚伏せてターンを終了した。

《サイバー・フェニックス》：DEF/1600

亮：LP/4000

モンスター：《サイバー・ドラゴン》（A2100）、《サイバー・フェニックス》（D1600）

魔法・罫：《タイムカプセル》、2枚

手札：1枚

フィールド：なし
適用効果：なし

丸藤先輩、確かに召喚反応系の罫を警戒して出さないのは分かりませんが、

《サイバー・フェニックス》を召喚してさえいれば《妖かしの紅月》は発動されなかったのに…

やっぱり、頭に血が上って冷静にデュエルが出来なくなっているのかしら？

だとしたら非常に拙い。

『私のターン、ドロー！ 永続魔法《生還の宝札》を発動！ お互いの墓地からモンスターが特殊召喚されるたびに私は3枚のカードをドローする！』

『『『何！？』』』』

その場にいた遊城君、丸藤君、三沢君、明日香、万丈目君の声をそろそろ。

私も内心驚いていた。

あれはエラッタ前のカード。

登場当初は蘇生系のカードが少なかったからあまり使われなかったけれど、

最近になってそのようなカードが増加。
強力すぎるが故に効果が変更された。

しかし、前の効果のカードは制限カードとしてデッキに投入できる。これがこの時代のKCC社が出した裁定。

ややこしいけれど拙いわね…

カミューラはモンスターを特殊召喚するたびに3枚ドロー。

弱点は強制効果の点だけれど、デッキが0になる前に決着をつければいいだけ。

丸藤先輩はこれで更に追い詰められたともいえるわ。

『更に私は《ゾンビ・マスター》を召喚！』

カミューラは手札のカードを1枚、デュエルディスクにセットするとカミューラの場合に骸骨を山のように積み重ねた上で何かを唱える人型のモンスターが現れた。

《ゾンビ・マスター》：ATK/1800

本当に拙いわね。《ゾンビ・マスター》の効果を使えば、モンスターを墓地から特殊召喚することができる。

そうなればカミューラはカードを3枚引くことができる。

下手をすればこのターンで決着がつきそうね。

『そして《ゾンビ・マスター》の効果を発動。手札のモンスターカード、《馬頭鬼》を墓地に送り、私の墓地のレベル4以下のアンデット族モンスター……《ゾンビ・マスター》を特殊召喚！』

カミューラの場合に2体目の《ゾンビ・マスター》が現れる

《ゾンビ・マスター》：ATK/1800

『何！ いつの間にそんなカードを…』

万丈目君が言う。

そんなことを言わずとも墓地に送るのは1回しか機会がなかったでしよ。

そう、

『《妖かしの紅月》の効果をお忘れかしら？
（《妖かしの赤紅月》のコスト。）』

カミューラが私が思い至った結論を口にする。

『！…あの時か…』

万丈目君も思い出したのか目を点にして驚く。

『…』

それに対し、丸藤先輩は何も反応を見せない。
一体何を考えているのかしら？

私がそれを気にしている間にもデュエルは進む。

『《生還の宝札》の効果発動！ デッキからカードを3枚ドロ！
』！

《ゾンビ・マスター》の効果によって手札が尽きていたカミューラの手札が潤いを取り戻す。

このターンを乗り切れるかどうかでデュエルが大きく傾きそうね。

『特殊召喚した《ゾンビマスター》の効果を発動！ 手札の3枚目の《ゾンビマスター》を捨てて、そのカードを特殊召喚！』

カミューラの場に3体目の骸骨の山が出来上がり、その上で何かを唱える人型のモンスターが現れる。

《ゾンビ・マスター》：ATK/1800

『また……お兄さん……』

丸藤君が丸藤先輩を心配するような声を上げる。

その直後広間にカミューラの声が響く。

『オーツホホホホ……墓地からモンスターを特殊召喚したので更に3枚ドロロー！』

カミューラはデッキに手を伸ばし、さらにカードを3枚引いた。

これでカミューラの手札は5枚。

まだまだ動くには十分ね。

カミューラは5枚の手札を一通り眺めると1枚に手を延ばす。

『私は3枚目の《ゾンビ・マスター》の効果を発動！手札の《ヴァンパイア・ロード》を墓地に送り、《馬頭鬼》を特殊召喚する。そして3枚ドロー！』

《ゾンビ・マスター》が何かを唱えると城の床が盛り上がり、なかから2足歩行の馬のような外見をしたモンスターが現れる。

《馬頭鬼》：DEF/800

そしてカミューラは3枚のカードをドローした。

…でも攻撃力は最高1800。

《サイバー・ドラゴン》には敵わない。

『そして手札から《大嵐》を発動！フィールドの魔法・罠カードをすべて破壊する！』

カミューラは《馬頭鬼》の特殊召喚によりドローしたカードの中から1枚のカードを抜き取って発動する。

『ならば《アタック・リフレクター・ユニット》を発動！《サイバー・ドラゴン》を生け贄にし、デッキから《サイバー・バリア・ドラゴン》を特殊召喚！』

丸藤先輩の場の《サイバー・ドラゴン》が光となって消え、頭に襟巻のようなパーツの付いた《サイバー・ドラゴン》が蜷局を巻いて出現した。

《サイバー・バリア・ドラゴン》：DEF/2800

《サイバー・バリア・ドラゴン》……攻撃力は低い、攻撃表示の時1ターンに1度攻撃を無効にできるモンスター。
流石に今の状況だと守備表示ね…

まあ、それはいいとしてカミューラの発動した《大嵐》によって丸藤先輩の《タイムカプセル》と伏せていた《攻撃の無力化》、発動済みの《アタック・リフレクター・ユニット》。
カミューラの伏せていた《不死族の棺》、発動していた《生還の宝札》が破壊された。

しかし、《不死族の棺》の効果で特殊召喚されようとした《ヴァンパイア・ロード》はカミューラ場に空きがないので破壊された。

それと《生還の宝札》を破壊するのは惜しいけれど、カミューラはこのターンで終わらすつもりで発動したのだろう。

物凄く悔しそうな顔をしている。

そしてカミューラの口が2つに裂け、
中からヴァンパイアの牙がその姿を覗かせた。

『…コノターンで決メルツモリダッタノニ。 マア、イイワ。 《ゾンビ・マスター》デ、《サイバー・フェニックス》ヲ攻撃！』

カミューラの《ゾンビ・マスター》は突如手を動かし、自らが乗っている骸の山を動かさず。

それによって《サイバー・フェニックス》は袋叩きの状態になって、破壊された。

『・・・《サイバー・フェニックス》が破壊された時、デッキから1枚カードをドローする。』

しかし、《サイバー・フェニックス》は最後の体の断片を丸藤先輩に与え、それによってカードをドローした。

そしてカミューラのモンスターで《サイバー・バリア・ドラゴン》が破壊できないことを悟ると、割れた口を元に戻して言った。

『：バトルフェイズは終了するけれど、これで終わりではなくてよ！手札からフィールド魔法、《ダーク・ゾーン》を発動！』

カミューラはデュエルディスクにある蝙蝠の羽を模した部分に1枚のカードをセットする。

すると城の天井が消え去り、黒い雲に雷が落ちる空へと変貌した。

『この効果でフィールドの闇属性モンスターの攻撃力が500ポイントアップし、守備力が400ポイントダウンするわ！』

拙い。 そうなれば攻撃力は……

《ヴァンパイア・レディ》：ATK/1550 2050

《ゾンビ・マスター》：ATK/1800 2300

《ゾンビ・マスター》：ATK/1800 2300

《ゾンビ・マスター》：ATK/1800 2300

合計攻撃力8950

まだ《サイバー・バリア・ドラゴン》は超えないとはいえ、いつ超えてもおかしくはない。

次のターンが勝負ね…

『私は更にカードを1枚伏せて、ターンを終了するわ!』

カミュラは《ダーク・ゾーン》を発動すると、1枚のカードを伏せて、ターンを終了した。

不用心ね。最低限 《ヴァンパイア・レディ》は守備表示にするべきだと思っわよ。

まあ、あの攻撃力の中で突破されると思う方が不自然だけれど…

カミュラ：LP/6100

モンスター：《ヴァンパイア・レディ》(A2050)、《ゾンビ・

マスター》(A2300)、《ゾンビ・マスター》(A2300)、

《ゾンビ・マスター》(A2300)、《馬頭鬼》(D800)

魔法・罫：1枚

手札：4枚

フィールド：《ダークゾーン》

適用効果：閻属性モンスターの攻撃力は500ポイントアップし、守備力は400ポイントダウンする。

『俺のターン！』

丸藤先輩は思い切ってカードを引く。

そしてドローカードを確認する前に口を開いた。

『《タイムカプセル》によって除外された《異次元からの宝札》の効果が発動！』

…どうして？ 《タイムカプセル》で除外されたカードは裏側表示ではないの？

『……《異次元からの宝札》はカード効果でゲームから除外された次のターンに手札に戻る。除外されたのが、表側表示でも裏側表示でも！……そしてこの効果で手札に戻った時、お互いにカードを2枚ドローする。』

それって《タイムカプセル》と合わせれば必ず2枚ドローできるカード。

でも戻った後は使えない魔法カードに戻る。
手札コストがいい所かしら？

私がそう思う中、コミュニラと丸藤先輩が2枚ずつカードを引いた。

この効果で丸藤先輩の手札は5枚。

1枚は使用用途不明の《異次元からの宝札》。
だけれどそれでも手札が潤ったのは確かね。

周りのみんなも丸藤先輩が手札を一気に増やした様に驚きこそすれ、

口は開かなかった。

そんな沈黙を破るように丸藤先輩は手札から2枚のカードを取り出した。

『カードを1枚セットし、《サイバー・ヴァリー》を召喚！』

丸藤先輩が出したカードは1枚が伏せカード。

もう1枚が攻撃力は0なのに複数の効果を併せ持つ機械龍だった。

《サイバー・ヴァリー》：ATK/0

…この場合、《サイバー・ヴァリー》の効果で1ターンの時間稼ぎをして、次のターンに賭ける気かしら？

・
・
・

しかし、私の予想はまんまと崩された。

『《サイバー・ヴァリー》の効果を発動！ このカードと自分の場のカードを1枚ずつゲームから除外し、デッキからカードを2枚ドロウする！ 俺は…《異次元からの宝札》を除外！ 2枚ドロウ！』

…そんな使い方で再利用を……

これで丸藤先輩は次のターンで3枚のカードをドロウする事が出来る。

次のターンまで耐えることが出来ればだけれど……

しかも通常召喚は済んでしまった今、どうやって準備を…

そう思っている中で丸藤先輩は今引いたカードの1枚を提示した

『更に《強欲な壺》を発動！ デッキからカードを2枚ドローする。』

更にドロー！？

『そして《融合》を発動！ 手札の《サイバー・ドラゴン》2体を融合！ ……《サイバー・ツイン・ドラゴン》を融合召喚！…！』

丸藤先輩の場に2体の《サイバー・ドラゴン》が現れ、その2体が出現した渦に呑み込まれ、中でその尾を結合する。

そして渦が消えた時、フィールドには2つの異なる《サイバー・ドラゴン》のような顔を持つ《サイバー・ツイン・ドラゴン》が出現していた。

《サイバー・ツイン・ドラゴン》：ATK/2800

…攻撃力は2800だけれど2回攻撃の可能なモンスターを召喚出来たわ。

上手くいけばこのターンで勝利できる！

私はそう思ってしまった。

周りのみんなもそう思っているようだ。

『行け！ 《サイバー・ツイン・ドラゴン》！ 《ゾンビ・マスター》を攻撃！ エヴォリューション・ツイン・バースト！！』

《サイバー・ツイン・ドラゴン》がその2つの口に《サイバー・ドラゴン》の時のようにエネルギーを溜めると、一気に放射した。

だが、

『甘いわね！ 《ライジング・エナジー》を発動！ 手札を1枚捨てて、《ゾンビ・マスター》の攻撃力を1500ポイントアップするわー！』

カミューラが1枚の罫カードを発動すると、《ゾンビ・マスター》に雷が落ち、
その電気を纏ったのか攻撃力が増大した

《ゾンビ・マスター》：ATK/2300 3800

『これで返り討ちよ！』

カミューラが自信満々に言う。

しかし、《ゾンビ・マスター》は《サイバー・ツイン・ドラゴン》の攻撃に耐えることが出来ず、
破壊された。

どうして？

私はそう思い視線を丸藤先輩の方へと移す。

そこには既に手札から1枚のカードを発動している丸藤先輩がいた。

『俺は速攻魔法《リミッター解除》を発動した。この効果で機械族モンスターの攻撃力は倍になる。』

《サイバー・ツイン・ドラゴン》：ATK/2800 5600

《サイバー・バリア・ドラゴン》：ATK/800 1600

『何ですって!?!? アアアアアア』

カミューラ：LP/6100 4200

カミューラに1900ものダメージも与えるも先ほどの回復量がありにも多く、致命傷にもなっていない。でも丸藤先輩はまだ余裕がありそうだ。

『まだまだ! 《サイバー・ツイン・ドラゴン》は2度の攻撃が出来る! 《サイバー・ツイン・ドラゴン》で《ゾンビ・マスター》に攻撃! エヴオリュション・ツイン・バースト!』

1度攻撃を終えた《サイバー・ツイン・ドラゴン》の青いコアに再び輝きが戻り、

エネルギーが充填されていく。

そして充填されたエネルギーをレーザーに変え、再び照射した。

・
・
・

当然攻撃力が1900の《ゾンビ・マスター》で耐えられるはずも

なく、破壊される。

『クツ・・・3700のダメージは受けるわ。 ……あまりにもきつそうだから蝙蝠を盾にするけど…』

カミューラはそう言い、近くを飛んでいた蝙蝠を自分の前に移動した。

そこに《サイバー・ツイン・ドラゴン》の攻撃が蝙蝠に襲い掛かり、蝙蝠は次々と消え去った。

カミューラ：LP/4200 500

カミューラ……まさか蝙蝠を盾にするなんて……

私はそう思い、カミューラを睨みつける。

カミューラは高笑いをして全く気付いていなかったが…

そんな時、丸藤先輩が1つのミスを冒した

『《サイバー・バリア・ドラゴン》で《馬頭鬼》を攻撃！ エヴォリューション・バリア・ショット！…』

《サイバー・バリア・ドラゴン》が《馬頭鬼》に襟巻状の首輪からエネルギーを抽出して放射する。

…でも《馬頭鬼》は墓地から除外することでアンデット族モンスターを墓地から特殊召喚する効果を持っている。

明らかにミス。

まさか効果を知らないとは思わないけれど、それでもこのタイミングではやってはいけない。

カミューラの墓地には《ヴァンパイア・ロード》が眠っている。

次のターン、カミューラその《ヴァンパイア・ロード》が真祖へと進化をさせたら

今度こそ本当に丸藤先輩に勝機はなくなる。

私はこう考えても一度宣言した攻撃命令は取り消されない。

《サイバー・バリア・ドラゴン》の攻撃は《馬頭鬼》を打ち抜いた。

でもこの後どうするつもり？

《リミッター解除》のデメリットがまだ解決していない。

このターンをこのまま終えるのは自殺行為よ？

勿論、丸藤先輩はその対策を怠ってはいなかった。

『速攻魔法《融合解除》！ 《サイバー・ツイン・ドラゴン》の融合を解除し、《サイバードラゴン》2体を特殊召喚！』

丸藤先輩の《サイバー・ツイン・ドラゴン》の結合した尾が段々と離れる。

…その結果、丸藤先輩の場には2体の《サイバー・ドラゴン》が現れた。

《サイバードラゴン》：ATK/2100

《サイバードラゴン》：ATK/2100

『行くぞ！ 《サイバー・ドラゴン》で《ヴァンパイア・レディ》を攻撃！ エヴォリューション・バースト！』

特殊召喚された《サイバー・ドラゴン》の1体が口に光球を溜め、一気に放つ。

それをまともに浴びた《ヴァンパイア・レディ》は跡形もなく消え去った。

『・・・』

カミューラ：LP/500 450

カミューラは50ポイントのダメージでは何も感じていないのか、反応を示さない。

それにカミューラの場合にいる残りのモンスターは《ゾンビ・マスター》。

攻撃力は2300。

《サイバー・ドラゴン》では倒すことが出来ない。

それは丸藤先輩も承知の事、カミューラのモンスターを屠れるだけ屠った後、バトルフェイズを終了した。

『カードを1枚伏せ、ターンエンド！ …そして《リミッター解除》の効果を受けた《サイバー・バリア・ドラゴン》は破壊される。』

《サイバー・バリア・ドラゴン》の襟巻状の首輪から発せられてい

る電撃が暴走を始め、
《サイバー・バリア・ドラゴン》は自身の電撃でショートし、破壊される。

亮：LP / 4000

モンスター：《サイバードラゴン》（A2100）、《サイバードラゴン》（A2100）

魔法・罫：1枚

手札：0枚

フィールド：《ダーク・ゾーン》

適用効果：闇属性モンスターの攻撃力は500ポイントアップし、守備力は400ポイントダウンする。

「私のターン、ドロー！」

カミューラは自分のドローフェイズでカードを引く。

これで手札は6枚。

しかも墓地には《馬頭鬼》がいる。

唯一の望みは丸藤先輩の伏せた1枚のカード。

これが攻撃抑制のカードでなければ丸藤先輩の負けは確定も同然ね。

私とその考えに至ると同時、カミューラは墓地から2枚のカードを取り出した。

「墓地に存在する《馬頭鬼》の効果を発動！ このカードを墓地から除外することで墓地のアンデット族モンスターを特殊召喚できる。

蘇れ！ 《ヴァンパイア・ロード》！』

カミューラの場に風が吹き始め、

その風は1つとなり、黒い竜巻と化した。

「ハハハハハ」

多分その声が正しいだろう。

竜巻の中から笑い声が聞こえ、竜巻の中から白みがかった髪に蒼白の顔を持つ
まさに吸血鬼。

その王とも呼ばれる存在が君臨した。

《ヴァンパイア・ロード》：ATK/2000 2500

攻撃力は《ダークゾーン》の効果も合わせて2500。

《サイバー・ドラゴン》より高い。

しかも《ゾンビ・マスター》の効果も残っている。

一体どうするつもり？ 丸藤先輩。

だが私の心配を余所にデュエルは続く。

カミューラは更に手札のカードを墓地に送り、口を開く。

『更に《ゾンビ・マスター》の効果を発動！ 手札の《ヴァンパイア・バツツ》を墓地に送り、《ゾンビ・マスター》を特殊召喚！』

《ゾンビ・マスター》が4度、足元の骸からモンスターを蘇生させる。

《ゾンビ・マスター》：ATK/1800 2300

『（もつとモンスターを並べたいけれど、生憎モンスターカードは残り1枚ね。…だから）今特殊召喚した《ゾンビ・マスター》の効果発動！ 手札の《ヴァンパイア・ジェネシス》を墓地に送り、《ヴァンパイア・バツツ》を特殊召喚！』

カミューラは特殊召喚した《ゾンビ・マスター》の効果を発動すべく手札を墓地へと送った。

それによって《ゾンビ・マスター》は5度目となる骸あさりをするが、

出てきたのは吸血蝙蝠そのものだった。

《ヴァンパイア・バツツ》：ATK/1000 1500

しかも《ヴァンパイア・バツツ》って…

私はその効果を思い出す前にカミューラが口を開く。

『クロノス先生の時にも召喚したからご存知よね？ 《ヴァンパイア・バツツ》がフィールド上に存在する時、私の場のアンデット族

モンスターの攻撃力は200ポイントアップする。』

《ヴァンパイア・バツツ》が体内からダークレッドのエネルギーを放出。

それが他のアンデット族モンスターに力を与える。

《ヴァンパイア・ロード》：ATK/2500 2700

《ゾンビ・マスター》：ATK/2300 2500

《ゾンビ・マスター》：ATK/2300 2500

《ヴァンパイア・バツツ》：ATK/1500 1700

攻撃力が上がり終わったと同時にカミューラがバトルフェイズに移る。

『バトルよ！ 《ゾンビ・マスター》で《サイバー・ドラゴン》を攻撃！』

《ゾンビ・マスター》の攻撃が《サイバー・ドラゴン》にあたり、

《サイバー・ドラゴン》は見るも無残な形となり、スクラップと化した。

亮：LP/4000 3600

『更に《ヴァンパイア・ロード》で《サイバー・ドラゴン》に攻撃！ 受けよ！ 暗黒の使徒！』

《ヴァンパイア・ロード》が身に纏うマントを開き、中から蝙蝠を

溢れださせ、

《サイバー・ドラゴン》に襲い掛かる。

『：罨カード《サイバネティック・ヒドウン・テクノロジ》を発動！ 相手の攻撃宣言時、俺の場の「サイバー」と名の付く機械族モンスター1体を墓地に送ることでのその攻撃を無効にし、バトルフェイズを終了する』

どうしてこのタイミングで？

その私の疑問を余所に

丸藤先輩とカミュラがデュエルをする階下に巨大な炉が現れ、その中に《サイバー・ドラゴン》が飛び込む。

すると炉から灼熱の液体が壁となり蝙蝠を消し去った。

その様子はカミュラの他のモンスターにも影響を与えたようで攻撃する意欲をも奪い去った。

『悪運のいい子ね。：カードを1枚セットし、ターンエンド！』

カミュラは一言ぼやくと、1枚のカードを伏せてターンを終了した。

カミュラ：LP/450

モンスター：《ヴァンパイア・ロード》(A2700)、《ゾンビ・マスター》(A2500)、《ゾンビ・マスター》(A2500)、《ヴァンパイア・バツ》(A1700)

魔法・罨：1枚

手札：3枚

フィールド：《ダーク・ゾーン》

適用効果：閥属性モンスターの攻撃力は500ポイントアップし、守備力は400ポイントダウンする。

アンデット族モンスターの攻撃力は200ポイントアップする。

カミューラのターンを乗り切ったわ。

このターン、丸藤先輩は3枚のカードをドロウすることが出来る。これが丸藤先輩に残された最後のチャンスね。

「俺のターン……スタンバイフェイズに前のターンに除外した《異次元の宝札》の効果を発動！ このカードを手札に戻し、お互いにカードを2枚ドロウする。」

丸藤先輩とカミューラが同時に2枚のカードを引く。

そして丸藤先輩は手札を眺めた後、口元に笑みを浮かべた。

「魔法カード《パワー・ボンド》を発動！ このカードは機械族専用の融合カード。フィールドまたは手札から決められたモンスターを墓地へと送り、機械族の融合モンスターを融合召喚する！」

でも丸藤先輩の場合には《サイバー・ドラゴン》がない。3枚は既に墓地よ？

「だが、俺のフィールドと手札にそのカードはない……だからそれに対して速攻魔法《サイバネティック・フュージョン・サポート》を発動！ ライフを半分支払い、融合素材を墓地から除外すること

でこのカードを融合モンスターの素材の代わりとする!」

亮：LP / 3600 1800

『何!』

カミューラはあまりにも強引な方法での融合召喚に驚きを隠せない様子だ

そんな中丸藤先輩の背後に3つの首を持つ巨大な機械龍が具現しだした。

『出だよ! サイバー流皆伝! 《サイバー・エンド・ドラゴン》
!』

丸藤先輩の背後に具現しかけていた機械龍は完全な姿となり、フィールドに舞い降り咆哮をあげた。

《サイバー・エンド・ドラゴン》：ATK / 4000

『《パワー・ボンド》で融合召喚した機械族モンスターの攻撃力はその融合モンスターの攻撃力分攻撃力をアップする。』

《サイバー・エンド・ドラゴン》：ATK / 4000 8000

『よし! これでカミューラのどのモンスターを攻撃してもお兄さんの勝ちだ!』

丸藤君がまるで自分の事のように喜び声を上げる。

…しかし、

『フフフフ、アハハハハ。この状況で《サイバー・エンド・ドラゴン》を呼び出すとわね。驚いたわ。でもね……畏カード発動！』

カミューラは高笑いをし、1枚のカードを表にする。

そのカードは…

『《激流葬》を発動！モンスターの召喚・反転召喚・特殊召喚成功時に発動！フィールド上のモンスターをすべて破壊する！』

カミューラ場に発動したカードから大量の流水が溢れ、フィールドのモンスターを流しつくした。

カミューラは吸血鬼。

流水は苦手なのか、空中に飛び退避していた。

・
・
・

ようやく流水が止まった頃、

カミューラ場にダークレッドの塊が出現した。

あれって……

『《ヴァンパイア・バツツ》の効果を発動！ このカードが破壊されるとき、代わりにデッキの《ヴァンパイア・バツツ》を墓地に送ることで破壊を免れる。』

その台詞と同時にカミュラの場に《ヴァンパイア・バツツ》が現れた。

丸藤先輩はそれを見て、若干歯噛みをすると、残りの手札に手を伸ばす。

『ならば《時間融合・タイム・フュージョン》を発動。手札を1枚ゲームから除外し、このターンに破壊された自分の融合モンスター1体を召喚条件を無視して次の自分のターンのスタンバイフェイズに特殊召喚する。俺が除外したのは《異次元からの宝札》。次のターンが来ればまた合計3枚のカードをドローすることが出来る。…………俺はこれでターンエンド！』

亮：LP/1800

モンスター：なし

魔法・罫：《サイバネティック・ヒドウン・テクノロジー》

手札：0枚

フィールド：《ダーク・ゾーン》

適用効果：闇属性モンスターの攻撃力は500ポイントアップし、守備力は400ポイントダウンする。

丸藤先輩は次のターンにモンスターを特殊召喚しようとカードを使うが、

恐らく次のターンはない。

『私のターンッ！！』

カミューラがカードをドロウした後にカミューラの場に棺が現れる。

『・・・それは？』

丸藤先輩がその棺について聞くとカミューラは高笑いし始める。

その後に口を開き

『残念ねえ。 次のターンが来るなんて思っちゃって……』
『何！？』

カミューラの蔑みの言葉に丸藤先輩は敏感に反応する。

その表情がいいと思ったのかカミューラは表情をうつつりとさせ、再び口を割る。

『私八手札カラ《死者転生》ヲ発動！ 手札1枚ヲコストニ《ヴァンパイア・ロード》ヲ手札ニ戻シ、《ヴァンパイア・バツツ》ヲ生ケ贄ニシテ、《ヴァンパイア・ロード》ヲ召喚！』

カミューラは聞き取りづらい声を上げながら《ヴァンパイア・ロード》を手札に戻し、再び召喚した。

だが、それはすぐには現れなかった。

『どうしたんだ？ 召喚失敗か？』

遊城君が言う。

いや、無効もされてないのにそれはないでしょ。

私がそう思った時、

ギシギシ…

ギシギシ…

そんな音がした。

その音に皆が気が付いたのか、その方を向く。

その音の元は…

・
・
・

カミューラの足元の棺から出ていた。

『目覚メヨ！ 《ヴァンパイア・ロード》！』

次の瞬間！

棺の蓋が取り払われ、《ヴァンパイア・ロード》が姿を現した。

《ヴァンパイア・ロード》：ATK/2000 2500

『・・・翔。』

負けを悟ったのか丸藤先輩が丸藤君に声を掛けた。

『どんな時でも決してリスペクトの精神を忘れるな!』

『・・・そんな、嫌だよ! お兄さん!』

丸藤君が涙を流し、丸藤先輩に駆け寄る。

『・・・行ケ! 《ヴァンパイア・ロード》! プレイヤーニ、ダイレクトアタック! 暗黒ノ使徒!』

先のターンと同じように《ヴァンパイア・ロード》は蝙蝠を使役し、攻撃する。

…それは何も防ぐ手立てのない丸藤先輩に直撃した。

『グウウウウウ...』

亮：LP/1800 0

カミューラ：WIN

デュエルが終了すると同時に丸藤先輩は膝をつき、呆然と前を見る。

そこに駆け寄った丸藤君が辿り着いた。

そして何度か丸藤君は話しかけるが、全く反応を返さない。

その内に、丸藤先輩の体が足元から消え去った。

・
・
・

そして全身が消え去る頃、首元から落ちた鍵がその姿を消す。

私がかミューラの方を見ると、手に持っていた人形が丸藤先輩そのものになっていた。

『…カイザー。』

遊城君が悔しそうに眼を閉じ、嗚咽を漏らす。

『ではまたね。 坊や達。』

…そういつてかミューラは姿を消した。

・
・
T o b e c o n t i n u e d

今回の新規登場カード

《ヴァンパイア・レディ》

効果モンスター

星4 / 闇属性 / アンデット族 / ATK 1550 / DEF 1550
このカードが相手プレイヤーに戦闘ダメージを与える度に、
カードの種類（モンスター、魔法、罫）を宣言する。

相手はデッキからその種類のカード1枚を選択して墓地に送る。

《サイバー・ドラゴン》

効果モンスター

星5 / 光属性 / 機械族 / ATK 2100 / DEF 1600

相手フィールド上にモンスターが存在し、

自分フィールド上にモンスターが存在していない場合、

このカードは手札から特殊召喚する事ができる。

《妖かしの紅月》

アニメオリジナル
通常罫

手札のアンデット族モンスターを1枚捨てて発動する。

相手フィールド上のモンスター1体の攻撃を無効にし、

そのモンスターの攻撃力の数値分、自分のライフを回復する。

その後、バトルフェイズを終了する。

《タイムカプセル》

通常魔法（アニメ仕様）

自分のデッキからカードを1枚選択し、裏側表示でゲームから除外する。

発動後2回目の自分のスタンバイフェイズ時にこのカードを破壊し、そのカードを手札に加える。

《サイバー・フェニックス》

効果モンスター

星4 / 炎属性 / 機械族 / ATK 1200 / DEF 1600

このカードが自分フィールド上に表側攻撃表示で存在する限り、

自分フィールド上に存在する機械族モンスター1体を対象とする魔法・罫カードの効果は無効にする。

フィールド上に表側表示で存在するこのカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、自分のデッキからカードを1枚ドローすることができる。

《生還の宝札》

永続魔法（漫画効果）

自分または相手の墓地に存在するモンスターが特殊召喚に成功した時、

このカードのコントローラーはデッキからカードを3枚ドローする。

《ゾンビ・マスター》

効果モンスター

星4 / 闇属性 / アンデット族 / ATK1800 / DEF0

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、

手札のモンスターカード1枚を墓地に送る事で、

自分または相手の墓地に存在するレベル4以下のアンデット族モンスター1体を特殊召喚する。

この効果は1ターンに1度しか使用できない。

《馬頭鬼ウマコウキ》

効果モンスター

星4 / 地属性 / アンデット族 / ATK1700 / DEF800

墓地に存在するこのカードをゲームから除外する事で、

自分の墓地からアンデット族モンスター1体を特殊召喚する。

《アタック・リフレクター・ユニット》

通常罫

自分フィールド上の「サイバー・ドラゴン」1体をリリースして発

動する。

自分の手札・デッキから「サイバー・バリア・ドラゴン」1体の特
殊召喚する。

《サイバー・バリア・ドラゴン》

効果モンスター

星6 / 光属性 / 機械族 / ATK800 / DEF2800

このカードは通常召喚できない。

このカードは「アタック・リフレクター・ユニット」の
効果でのみ特殊召喚する事ができる。

このカードが攻撃表示の場合、1ターンに1度だけ
相手モンスター1体の攻撃を無効にする。

《不死族の棺》
ヴァンパイア・ベッド
アニメオリジナル

通常罫

セットされたこのカードが破壊され墓地に送られた時、
自分の墓地に存在するアンデット族モンスターを1体選択する。
選択したモンスターを自分フィールド上に特殊召喚する。

《ダーク・ゾーン》

フィールド魔法

フィールド上の闇属性モンスターの攻撃力は500ポイントアップ
し、

守備力は400ポイントダウンする。

《異次元からの宝札》
いじげん
アニメオリジナル
通常魔法

このカードがゲームから除外された場合、次の自分のターンの
スタンバイフェイズ時にこのカードを手札に戻る。

この効果で手札に戻った時、お互いのプレイヤーは

デッキからカードを2枚ドローする。

《サイバー・ヴァリー》

効果モンスター（アニメ効果）

星1 / 光属性 / 機械族 / ATK0 / DEF0

次の効果から1つを選択して発動する事ができる。

このカードが相手モンスターの攻撃対象に選択された時、

このカードをゲームから除外する事で自分はデッキからカードを1枚ドローし、

バトルフェイズを終了する。

このカードと自分フィールド上に存在するカード1枚を選択してゲームから除外する。

自分のデッキからカードを2枚ドローする。

このカードと自分の手札1枚をゲームから除外する。

自分の墓地のカード1枚を選択してデッキの一番上に戻す。

《サイバー・ツイン・ドラゴン》

融合・効果モンスター

星8 / 光属性 / 機械族 / ATK2800 / DEF2100

「サイバー・ドラゴン」+「サイバー・ドラゴン」

このカードの融合召喚は、上記のカードでしか行えない。

このカードは一度のバトルフェイズ中に2回攻撃する事ができる。

《ライジング・エナジー》

通常罫

手札を1枚捨てる。発動ターンのエンドフェイズ時まで、

フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体の攻撃力は1500ポイントアップする。

《リミッター解除》かいじょ

速攻魔法

このカード発動時に、自分フィールド上に表側表示で存在する全ての機械族モンスターの攻撃力を倍にする。

この効果を受けたモンスターはエンドフェイズ時に破壊される。

《ヴァンパイア・ロード》

効果モンスター

星5 / 闇属性 / アンデット族 / ATK2000 / DEF1500

このカードが相手プレイヤーに戦闘ダメージを与える度に、

カードの種類（モンスター、魔法、罫）を宣言する。

相手はデッキからその種類のカード1枚を選択して墓地に送る。

また、このカードが相手のカードの効果で破壊され墓地に送られた場合、

次の自分のスタンバイフェイズにフィールド上に特殊召喚される。

《ヴァンパイア・バッツ》

効果モンスター（アニメオリジナル）

レベル2 / 闇属性 / アンデット族 / ATK800 / DEF600

このカードが戦闘またはカードの効果で破壊される場合、代わりにデッキから

「ヴァンパイア・バッツ」1体を墓地に送る事ができる。

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、自分フィールド上の全ての

アンデット族モンスターの攻撃力は200ポイントアップする。

《サイバネティック・ヒドウン・テクノロジー》

永續罫（アニメ効果）

相手モンスターの攻撃宣言時に、自分フィールド上に表側表示で存在する

「サイバー」と名の付く機械族モンスターを墓地に送る事で、その

攻撃を無効にし、バトルフェイズを終了する。
また1ターンに1度手札の「サイバー」と名の付く機械族モンスターを墓地に送ることで相手モンスター1体を破壊する。

《パワー・ボンド》

通常魔法（アニメ効果）

手札またはフィールド上から、

融合モンスターカードによって決められたモンスターを墓地へ送り、
機械族の融合モンスター1体を融合デッキから特殊召喚する。

このカードによって特殊召喚したモンスターは、元々の攻撃力分だけ攻撃力がアップする。

発動ターンのエンドフェイズ時、フィールド上に特殊召喚したモンスターが表側表示で存在する場合

このカードを使用したプレイヤーは特殊召喚したモンスターの元々の攻撃力分のダメージを受ける。

（この特殊召喚は融合召喚扱いとする）

《サイバネティック・フュージョン・サポート》 アニメオリジナル 速攻魔法

自分のライフポイントを半分払って発動する。

このターンに機械族融合モンスター1体を融合召喚する場合、
手札または自分フィールド上の融合素材モンスターを墓地に送る代わりに、
自分の墓地に存在する融合素材モンスターをゲームから除外する事ができる。

《激流葬》

通常罫

モンスターが召喚・反転召喚・特殊召喚された時に発動する事がで

きる。

フィールド上に存在するモンスターを全て破壊する。

《じかんゆうじゆう時間融合・タイム・フュージョン》
アニメオ리지ナル
通常魔法

手札を1枚ゲームから除外して発動する。

このターンに破壊された自分フィールド上の融合モンスター1体を召喚条件を無視して次の自分のターンのスタンバイフェイズ時に特殊召喚する。

この効果で特殊召喚したモンスターはこのターン、攻撃を行う事ができない。

24話：闇夜の吸血美女の訪来（後書き）

話中の質疑応答

Q：遊璃達に情報を伝えに来たのは誰？

A：三沢と万丈目です。

Q：丸藤、丸藤ややこしい

A：遊璃は余程のことがない限り男性は苗字なので…
先輩か君で見分けてください

Q：クロノスの台詞って入れる意味あった？

A：特にはありません。ですが、クロノスの敗北を入れておかないと
後でややこしくなったりするのと

あの台詞は個人的に好きな部分だからです

Q：カミューラvs亮まで飛びすぎでは？

A：あそこであまり語るべきことがなかったなので…省略しました。

Q：亮がプレイミス？

A：私は原作のように怒りでドロークが上がったりしてからの強力なコンボはできないと思います。

寧ろ我を忘れてミスをする確率の方が高いかと…

Q：生還の宝札…

A：原作効果でないと手札が足らなかったの…

Q：遊璃が言っているエラッタって？

A：表現としては間違いです。

しかし、「OCG」の単語を出すわけにはいかないので過去と未来で効果が違うという設定にしました。

ダークネス戦のバブルマンも同様です。

Q：異次元からの宝札って使えたっけ？

A：アニメでもしつかりと発動しています。

Q：真祖を捨てるなよ！

A：あの状況では真祖を使うよりも展開するべきだと判断しました。

Q：どうして、サイバネティック・ヒドウン・テクノロジーをあのタイミングで？

A：亮は次のターンであのカード達を引けると確信していた…という事にしておいてください。

Q：ソリットヴィジョンの激流葬で何故飛んだ！？

A：吸血鬼の弱点の一つに流水があります。
なのでカミューラがソリットヴィジョンなのに飛んだのは、本能的な回避行動です。

Q：あれ？ 幻魔の扉は？

A：あの程度の亮にはいらなんでしょう…

Q：翔…

A：カミューラに捕らわれたことで亮が負けたという原作の言い訳みたいな決着から正当な決着方法にしてみればあのような感じで動くと思いました。

Q：最後に作者のお互いのデッキの魔改造度は？

A：カミューラ7割、亮4割です。
カミューラは70%くらい真面目に考えました。
亮は最初から負けさせるつもりでしたのでこれくらいでいいかなっ
と。

因みに次回は……

十代VSカミューラだと思います。

遊璃「えっ…私の出番は？」

戎鴛「次回でわかります」

瑞波「それより私に出番をよこせ！」

戎鴛「はいはい。タニヤの後くらいにね！」

25話：悪魔の契約（前書き）

少々物騒なタイトルですが、この話と次の話はそれが鍵を握ります。

それ以外に書くことは……多分ないです。

今回の最強カード

《生者の書 - 禁断の呪術 - 》
通常魔法

自分の墓地に存在するアンデット族モンスター1体を特殊召喚し、相手の墓地に存在するモンスター1体をゲームから除外する。

遊璃「またカミューラのカードね。墓地のアンデットを蘇生しつつ相手の墓地も除外する。私の「ドラグニティ」のチューナーが除外されたら大損害ね。」

瑞波「弱点は自分の墓地にアンデットがないか、相手の墓地にモンスターがない時は発動できないことだ。あたしのデッキにモンスターはいないから腐るな。」

遊璃「そうだね……因みに次回使用されます。今回は次回でまた別の最強カードを使うので今回で紹介させていただきました。」

今回は遊璃達に説明させてみました。

私が自己解釈を書くのとどちらが良かったでしょうか？

25話：悪魔の契約

side yuri

丸藤先輩がカミューラに負けた次の日。

私は図書室にいた。

調べているのは、吸血鬼について。

理由は、私が知っていた吸血鬼の伝承に生と死を超えた者という物があるから。

……これだと理由が弱いわね。

もし、私が未来に帰れなかった場合、吸血鬼の力を借りることが出来ればパパ達の時代まで生きることが出来るから。

まあ、その場合私はパパ達を影から見守る存在になると思うし、主人…カミューラが許可してくれなければ見守ることもできないでしょうけれど…

でも、可能性が0という訳ではないわ。

保険は多い方がいいし。

そう思って私は吸血鬼について調べている。

とは言ってもやはり吸血鬼なんて本当ならば架空の存在。

お伽話や作り話しかないわ。

…そうやって数々の本を読み漁っていたが、有益な成果は上がらず、ただ時間が経っただけだった。

・
・
・
・
・

『うう〜ん』

私は凝り固まった肩を解し、目の疲れを軽減するために目を閉じ、軽く揉む。

そして少し楽になってきたかなと思う頃、外を眺めて驚く。

外はもう夕日が沈みかけ、夜の兆しが見えていた。

…それは図書館の閉館時間を意味していた。

私は今まで時間を忘れて読み漁っていたことに驚き、机に積み重なっていた本を次々に棚に戻す。

…だが、あまりに焦り過ぎたため、

『ひゃあ！！』

持っていた本の1冊を取り落とし、
それを無理な体制で拾おうとした拳句に持っていた本を全て落としてしまった。

私が落とした拍子にバラバラになった本を見て呆然としてみると、

『おやおや、こんな時間までいるのはどなたですか？』

と、誰かの声が聞こえてきた。

・

・

・

・

図書室に入ってきたのは図書室の管理人兼ライイエローの寮長、樺山先生だった。

声を掛けられ、姿を見られてしまったので私は素直に名前などと言
い、

本を落としてしまったことを謝罪した。

だが樺山先生は頷きながら笑って

『いえいえ。最近はデュエルに夢中になって、図書室に来る生徒が少なくなってきたので来てくれる方がいるだけで私も図書室の管理人をする価値があるものですよ。』

と言い、一頻り相槌を打った後に私の落としてしまった本を1冊拾い、軽く埃を払った後に中身を軽く一読する。

そうして読みながら相槌を打ち、口を開いた。

『成る程。不動遊璃さんでしたか？ 吸血鬼の本とはなかなかの珍しい趣味をしていますね。』

『えと、名前はそれであっています。…でも私が知りたかったのは………』

樺山先生の言葉に私は答え、今日どうして図書室で吸血鬼について調べていたのかを話した。

勿論、未来に関わることを隠蔽して…

話が終わると、樺山先生は今まで笑っていた顔つきを止め、目を開く。

『不動さん、貴女がどうして図書室に来たのかはよく分かりました。………ですが、隠し事はいけませんね………』

『グッ！…！』

私は樺山先生の言葉に一瞬言葉を詰まらせる。

しかし、そのことを見破られることはその声を詰まらせた反応だけで十分だった。

『……まあ、人間は他人にはどうしてもはなせない秘密という物を持っているものです。だから私は追及しませんよ。』

『……ありがとうございます』

樺山先生は私が秘密にしている事があると言った上で言わなくてもいいとおっしゃった。

私としてもこの事だけはどうしても言いたくなかったことなのでその言葉は非常にうれしかった。

・
・
・
・
・

少し時間が経ち、私は樺山先生と共同で本を片付けている。

ジャンルは大体同じなのだが、本の厚さによって棚が違うので戻すのにも一苦労だ。

そして30分の時が過ぎ、ようやく片付け終えた。

『不動さん、お疲れ様でした。』

樺山先生はいつの間にか私に近づき、労いの言葉を言う。

私はそれを両手を体の前で振り、

『いえいえ、私こそ先生の手伝いが必要なければ片づけるのにもっと時間がかかっていましたよ』
と返す。

樺山先生はその言葉に顔を弛ませ、また頷きだす。

30秒くらい経った頃か、樺山先生が図書室の中を歩きだした。
私がどうしたのですか？ と尋ねると

『誰が残っていないのかを確認しているだけです。』
と返してきた。

しばらくし、誰もいなくなった事を確認したのだろう

樺山先生は私の方に戻ってきて口を開く。

『……実は、吸血鬼について書いてある本がありますね。それは普段閲覧不可の場所にあるのですが、見に行きますか？』

まさかの提案である。

私はカムフラとの決戦までに時間があるかどうかを確認すべく、生徒手帳を確認し、

時間があることを確認するとそれを了承した。

・
・
・
・
・

樺山先生が案内した先は図書室の管理人室の隠し扉の中。

樺山先生はただ一言

『内緒ですよ』

と言い、隠し部屋の中に入っていく。

私はそれを追いかけた。

隠し部屋の中は数冊の本しか置いていなかった。

樺山先生は私に入り口で少し待つように言つと、

1冊の本が置かれている机に歩み寄り、その本を持って私の元に戻つてきてそれを差し出した。

『これは…“Distiny of blood”という本です。』

中身は翻訳されていない海外の文字ですが、不動さんなら読む事が出来るでしょう。……普段は閲覧禁止の書なのでここで読んでくださいね。』

そう言つて樺山先生は隠し部屋から出て行つた。

その直後、私は“Distiny of blood”を開き、次に目的の項目があることを知ると、そこを開き、読書に没頭した。

・
・
・

・
・

・

・

そして、私は夜遅く、カミューラの待つ城へと向かった、

・

・

・

カミューラの城・大広間

私がそこに辿り着くと、既に遊城君達がいてデュエルをしていた。

でもどうしてかしら？

カミューラの後ろに扉が建っている。

私にはそれが理解できなかったので近くにいた明日香に問いかける
と、

『遊璃、やっと来たのね。 十代とカミューラのデュエルだという
のに……まあいいわ。 えっと、カミューラの後ろに立っている扉
だったわね？ あれは《幻魔の扉》。 発動時に相手モンスターを
すべて破壊し、その後このデュエル中に使用されたモンスターカ
ードを召喚条件を無視して特殊召喚するカードよ！』

明日香にカミューラのカードについて聞き、

コストは？ と返すと

明日香は若干眉を下げて

『…残念ながら発動条件はないわ。 その代わりにデュエルに負け
たら自分の魂を幻魔に捧げなければいけないらしいわ。 …』

明日香は、私も考える間もなく表情に出してしまった《幻魔の扉》
について話、

明日香達を代わりに生け贄にしようとしたカミューラの策。

そしてそれが遊城君の持つ闇のアイテムで破られたことを語った。

後日談だが、明日香曰く表情が引つ切り無しに変わっていたらしい。

・
・
・
・
・

私が観戦に参加して10分後：

カミューラと遊城君は互角の戦いを続け、
今は遊城君のターンバトルフェイズ。

遊城君の場には効果で攻撃力が600ポイントアップして3100
の《シャイニング・フレア・ウイングマン》。

カミューラの場には切り札の《ヴァンパイア・ジェネシス》。
攻撃力3000。

攻撃力の差は100だけけれど、これで遊城君の勝ちは決まりね。

…となれば急いで準備をしなくちゃ！

そう思って私は

『(ミリトウム)』

「……………」

と、念話を使ってミリトゥムを呼ぶ。

すると私の後ろに音もなくミリトゥムが現れた。

勿論誰にも見えていないし、唯一見ることできる遊城君はデュエルに夢中。

問題はないはず。

なので私はカムイウラが止めを刺される前にミリトゥムに作戦を伝える。

それに対してミリトゥムは珍しく反対をした。

「主の読んでいた書物は私も読みました。だから……だからこそ！ それは承知できません。もし主の身に何かあれば……」

『（確かにミリトゥムの言う通りね……）』

「……では……」

『（……でもね。今は未来に帰る方法を探すのが一番大切なの！）』

私はミリトゥムの言葉も最もだというが、今は兎に角帰る方法を模索しなければと

ミリトゥムを説得する。

……その結果、

「……分かりました。……ですが、二度とこのような無理はなさらないでください。…そして、必ず勝ってください。」

とミリトゥムは折れた。

私はそれに対して

『（ありがとう。ミリトゥム）』

と返し、タイミングを待つ。

・
・
・
・
・

チャンスは一瞬だった。

『闇のモンスター ヴァンパイアは朝日と共に灰になる！ ゆけ！
究極の輝きを放て！シャイニング シュート！』

遊城君が《シャイニング・フレア・ウィングマン》に攻撃命令を出したと同時に

私の………いいえ。

私とミリトゥムの作戦が始まった。

私はみんなに見つからないようにカミューラの方へと歩きだし、ミリトゥムは短剣を構えて呪文を唱える。

「……？、？？」
（溪谷に住まい

し者が祈る。彼の者が囚われし、邪悪なる呪いを解き放て！」

呪文が唱え終わると同時にミリトゥムはその手に持つ短剣を《幻魔の扉》に向けて投じる。

同時に

『アアアアアア……』

《シャイニング・フレア・ウィングマン》の効果を受けたカミューラの断末魔が広間に響き渡った。

カミューラ：L P O

十代：W I N

・
・
・
・

カミューラがデュエルに負け、膝をつくと同時にそのポケットから一つの人形が落ちる。

するとその人形から煙が立った。

…煙が晴れるとそこには人形にされていた丸藤先輩が片膝をついていた。

私は作戦のためにそれには触れず、タイミングを計る。

・
・
・

そしてそのタイミングが来た。

カミューラの背後に《幻魔の扉》が姿を現し、その扉を開いた。

きつと明日香の言う通りの内容になるのだろう。

《幻魔の扉》の中から瘴気が漏れ出す。

私はそれと同時にスタートを切った。

あと5m

片膝をついたカミューラまで私が走る。

その時、《幻魔の扉》から白っぽい手が現れ、カミューラに向かって伸びだす。

間に合って！

私はそう心の中で祈り、カミューラに頭から飛び込んだ。

『どうして助けた？』

崩れ落ちた城をバツクにカミューラが私に問う。

〈回想〉

私の飛び込みは間一髪のところの間合った。

私がかミューラに飛びつき、姿勢を崩させたことで
白っぽい手はかミューラの首を持つことが出来ずに空を切ったのだ。

その瞬間にミリトゥムの投じた短剣が《幻魔の扉》に突き刺さり、
強力な光を発した。

…《幻魔の扉》はそれによって文字通りに消滅し、おおもとのが消滅した白っぽい手も姿を消した。

《幻魔の扉》の効果が完全に消え去った事の証明だった。

だが、悲劇はそれだけでは終わらなかった。

ゴゴ……

ん？

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴ……

…城がいきなり震え、天井から塗料の粉末が落ちてくる。

『何！？』

私が小さな声で咳くといつの間にか近くに来ていた明日香が、

『……城が崩れるわ！ 逃げるのよ！』

と言って、逃げようとするので私はカミューラの手を引き、城から脱出した。

城から脱出したところで先ほどのカミューラの質問に戻る。

〜回想終了〜

side out

no side

遊璃がカミューラに返答しようとしたとき、先に逃げ出していた翔が声を荒げて言い出す。

『なんでさ……なんでそんな化け物を助けたんスか？ そいつはお兄さんを人形にした………化け物なんすよ！』

その瞬間、遊璃は翔に近づき、右手を振り上げていた。

パシンッ！

そんな音が湖に響き渡る。

音源は翔の頬だった。

遊璃は目を吊り上げ、右手は振り上げたままの体制になっていた。

『いい加減にきなさい！ 丸藤君の言うとおり、カミューラさんとしてはいけないことをした。……でも、命は1つしかない。それは人間でも吸血鬼でも変わらないわ！』

右手を下した遊璃が翔を叱る。

『クッ……』

『ッ……翔!』

翔はその言葉には何も返さず、遊璃から目を背け、湖を去った。それを十代と隼人が追いかける。

・
・
・

暫くして湖に残ったのは、遊璃、カミューラの二人。

万丈目と三沢は気を失ったままの亮を保健室へと運び、明日香は吹雪の看病に行くためにそれに付き添った。

クロノスは、明日の授業の準備をするとか行つて走り去つたが、その目にははつきりとカミューラへの恐怖心が映っていた。

誰もいないと気配を読み取ったのか、カミューラが口を開く。

『貴女はああ言っていたけれど、本当のところはどうして私を助けたの?』

『本心ですよ……まあ、今回は例外かもしれませんが……』

カミューラの鋭い問いに遊璃は答え、その答えが真逆であるような言い回しをし、

一回咳払いをすると、口を開いた。

『カミューラさん。・・・吸血鬼って悪魔の1種ですよね?』

『……突然何を言うのかしら? ……まあ、そうだけどそれが何かあつて?』

遊璃の突然の問いにカミューラは戸惑いながらも正直に返す。

『……じゃあ、悪魔の契約ってご存知ですか?』

『!……え、ええ。悪魔の契約。人間と悪魔が結ぶ契約事。悪魔は人間の願いを叶える代わりに人間は死後に魂を捧げなければならぬ。』

『……それです!』

遊璃の質問に、カミューラは今度は驚いたが助けられた手前、誤魔化す事も出来ずにその事を話してしまう。

遊璃はその説明と書物の説明が一致したためか、喜びの声を上げた。

『でも、どうして?』

カミューラは契約を結びたいのか理解できないのだろう。

素直に疑問の声を発した。

『それは……まだ言えません。でもその契約を結びたいの気持ちは事実です。』

遊璃は未来人であることなど、色々と秘密にしなければいけないことが多いために真実を明かせず、決意だけを言う。

だが、それだけではいくら悪魔の一種である吸血鬼であつても容認できることではない。

もしも結んだ契約が吸血鬼側の生命を脅かすものであつたりすれば契約が成立し、人間側の魂が捧げられる前にカミューラ自身が消え去つてしまつかもしれないからだ。

カミューラは遊璃の決意だけの言葉に一旦言葉を詰まらせるが、今までの協力者を失つた手前、このチャンスを逃せば次はいつ機会が訪れるのか。

それは1年、10年、100年、いやそれ以上かもしれない。

吸血鬼は不老であるとはいえ、流石に何百年もとなると気が遠のく。

そのような考えが倒錯し、カミューラの考えを歪める。

だがその時、カミューラの脳裏に第3の選択が浮かんだ。

『（これしかないわ！）……………いいわよ。でもその代わりに条件があるわ。私とデュエルなさい！そして勝つた方が相手に言い分を認めさせるの。これでどうかしら？』

カミューラは第3の選択が1番の良策と考えるや否や、

遊璃に提案という形でいう。

…それは偶然にも遊璃が最初に予想をし、ミリトゥムが懸念した未来と同じであった。

当然遊璃はこの提案を飲んだ。

『いいですよ！ 元々、私はそうするつもりでしたから……では私が勝った場合は、数年後に私の願いを叶える。それでお願いします。』

遊璃は未来に帰る方法が無くなった時の非常手段を誤魔化しながら、カミューラに伝えるが、カミューラは逆にその程度の事だったのかと、色々と考え込んでいた自分を恥じた。

しかし、カミューラも言ってしまった上で相手も承認した事。撤回することが出来ず、自分の要件も口に出してしまう。

『いいでしょう。その代わりに、私が勝った場合は貴女には人形になって貰うわ。そしてヴァンパイア一族が復活するその時まで元には戻さないわよ！ それでも良くて？』

カミューラの要件はやはり遊璃の予想と同じであった。予想と同じだからか遊璃は即答という形でそれを返す。

1言を加えて。

『構いません。わかっていましたから。…分かっていたからこそ1つ提案があるのですが……』

遊璃は即答でそれを承諾すると、今度は自分の提案をカミューラにいう。

カミューラはさっきのだけではなかったか、と納得するが、その内容を聞いて驚きが隠せなくなってしまう。

なんせ内容は

遊璃が負けた場合、『カミューラの手で吸血鬼となり、カミューラの眷属または下僕として一生仕える』という提案だったからだ。

カミューラはそれに対してはデュエルの内容次第で決めるといった。もしも自分に対等の戦力であれば、他の人間を支配するうえでも役に立つと考えたからだ。

そして2人はそれ以上に語ることがなくなったからか湖で等間隔を取り、デュエルディスクを構える

『デュエル！』

そうして遊璃の一生とカミューラの野望を賭けた運命のデュエルが始まった。

遊璃：LP / 4000 VS カミューラ：LP / 4000

『私の先攻よ！ ドロー！』

カミューラが先攻を取り、カードをドローする。

彼女は引いたカードと5枚の手札を確認すると、すぐに行動するべく5枚のカードをデュエルディスクにセットする。

『私は《ミイラの呼び声》を発動するわ。自分の場にモンスターが存在しないとき、1ターンに1度、手札のアンデット族モンスターを特殊召喚することが出来る！ 私は《ミイラの呼び声》の効果によって《ヴァンパイア・ロード》を特殊召喚。そして《ピラミッド・タートル》を守備表示で召喚し、カードを2枚セットし、ターン終了。』

カミューラが召喚したのは亮に止めを刺した、ヴァンパイアの王たる存在《ヴァンパイア・ロード》と甲羅の代わりにピラミッドを背負った亀だった。

それらが召喚された後、カミューラはカードを伏せてターンを終了した。

《ヴァンパイア・ロード》：ATK/2000

《ピラミッド・タートル》：DEF/1400

カミューラ：LP/4000

モンスター：《ヴァンパイア・ロード》（A2000）、《ピラミッド・タートル》（D1400）

魔法・罫：《ミイラの呼び声》、2枚

手札：1枚

フィールド：なし

適用効果：なし

『私のターン！ ドロー！』

遊璃はいつもの体勢でカードを引き、6枚の手札を見て少し思考に浸る。

そしてそれを決めたのか危険を承知で1枚の魔法カミューラに見せてからデュエルディスクにセットし、発動した。

『手札から《手札抹殺》を発動！ 互いのプレイヤーは手札を全て捨て、その枚数分のカードをドローする。』

遊璃の使った魔法により、カミューラは1枚。

遊璃は5枚のカードを墓地へと送り、5枚のカードをドローした。

しかしその後カミューラの墓地が光りだし、1枚のカードを排出する。

そのカードは……

『ホホホホ……私が《手札抹殺》によって捨てられたモンスターは《闇より出でし絶望》よ。このカードがカードの効果によって手札またはデッキから墓地に送られた時、このカードをフィールド上に特殊召喚する。 現れなさい！ 《闇より出でし絶望》！』

カミューラの場に赤と黒で彩られた邪悪な影が不気味な笑い声と共に現れた。

《闇より出でし絶望》：DEF/3000

・・・To be continued

今回の新登場カード

《ヴァンパイアジェネシス》

効果モンスター

星8 / 闇属性 / アンデット族 / ATK 3000 / DEF 2100

このカードは通常召喚できない。

自分フィールド上に存在する「ヴァンパイア・ロード」1体を

ゲームから除外した場合のみ特殊召喚することができる。

1ターンに1度、手札からアンデット族モンスター1体を墓地に捨てる事で、

捨てたアンデット族モンスターよりレベルの低い

アンデット族モンスター1体を自分の墓地から選択して特殊召喚する。

エレメンタルヒーロー
《E・HERO シャイニング・フレア・ウィングマン》

融合・効果モンスター

星8 / 光属性 / 戦士族 / ATK 2500 / DEF 2100

「E・HERO フレイム・ウィングマン」+「E・HERO スパークマン」

このカードは融合召喚でしか特殊召喚できない。

このカードの攻撃力は、自分の墓地に存在する「E・HERO」と名のついた

カード1枚につき300ポイントアップする。

このカードが戦闘によってモンスターを破壊し墓地へ送った時、破壊したモンスターの攻撃力分のダメージを相手ライフに与える。

《幻魔の扉》

アニメオリジナル
通常魔法

相手モンスターをすべて破壊する。

その後、このデュエル中に使用されたモンスター1体を召喚条件を無視して自分フィールド上に特殊召喚する。

このカードを発動したプレイヤーがデュエルに敗北したとき、プレイヤーの魂は幻魔の物となる。

アニメ効果だとこんな感じですかね？

TF効果は無視しますよ。あれだと原作設定が維持できないので。

《ミイラの呼び声》

永続魔法

自分フィールド上にモンスターが存在しない場合、

手札からアンデット族モンスター1体を特殊召喚する事ができる。

この効果は1ターンに1度しか使用できない。

《ピラミッド・タートル》

効果モンスター

星4/地属性/アンデット族/ATK1200/DEF1400

このカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、

自分のデッキから守備力2000以下のアンデット族モンスター1体を

自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

《闇より出でし絶望》

効果モンスター

星8/闇属性/アンデット族/ATK2800/DEF3000

このカードが相手のカードの効果によって手札またはデッキから墓地に送られた時、

このカードをフィールド上に特殊召喚する。

25話：悪魔の契約（後書き）

まず最初に…

短くなつてすみません。

原因がわかりませんが何故か8500字以降が保存するときに消えます。

新規登場カードを合わせて8424字です

その為にここ2日は更新できませんでした。

因みに大学が早めのGWになったので今は帰省しています。

帰ってきたのが2日前だから何かしらの関係があるのかもしれない。

なので帰ったら次の話を更新します。

質問回答コーナー

Q：図書館に樺山先生？

A：ゲームとかでは管理人みたいなことをしていたので、本作でもやらせてみました。

Q：そもそも樺山先生って誰？

A：いやこれはないでしょう。原作でデュエルをしたのは1回だけですけど影が薄く、自身の寮生のライイロー生徒からも名前を忘れた方ですが、剣山を追い詰めた人ですよ？

Q：Distiny of bloodって？

A：作者が前に執筆しようとしてプロット途中で止まり、廃案とな

った2次つばい設定もありますが、内容はほぼ完全なオリジナル小説です。

因みにリアルの中身は英文ではなく日本語ですのでお間違いなく。ご希望がありましたら執筆しますよ。

但し、読者に行動を決めていただく形になりそうですが……

Q：遊璃が遅刻……だと。

A：あの闇のアイテムがどうのこうのの所を書くのが本作には関係ないと思ひまして……

Q：万丈目も精霊見れますよ？

A：万丈目は十代のデュエルとポケットに入れたクロノス先生の人形で周りに気を使う余裕がありませんでした。

Q：《オジャマ・イエロー》なら気づいたのでは？

A：いいえ。《オジャマ・イエロー》はクロノス先生の人形を弄るのに夢中だったのでミリトゥムの存在に気づいていません。

Q：ミリトゥムの短剣、どうして気づかれない……

A：まず精霊の武器ですので十代と万丈目以外には見えません。隼人も精霊界などではないので見れませんので……

因みに十代はガツチャを行った時に自分の手で短剣を隠してしまい、万丈目に至っては元に戻ったクロノス教諭に振り回されていました。

Q：翔……

A：亮をあんな風にされた挙句、カムィーラを遊璃が無断で助けたのです。

彼の気持ちは察してあげてください。

Q：遊璃が手を挙げた？

A：敵だからと命を蔑ろにした翔のことが許せなく、ついやってしまった感じです。

Q：何故にノーサイド。

A：あのやり取りはお互いの思考の読みあい結構重要です。なので2人の考えがわかるノーサイドにするしかありませんでした。

Q：吸血鬼って悪魔だっけ？

A：不明。まあ、吸血鬼自体架空の存在（過去にいたという事例もあつたりしますが・・・）ですし、少しぐらい事実を捻じ曲けてもいいかなつと（オイ
因みに違う場合は独自設定という事で貫きます。
でないが悪魔の契約云々がなくなってしまうので…

Q：遊璃の保険って？

A：秘密。まあ簡単でしょうが…

Q：眷属まで行きますか…

A：微妙。カミューラの機嫌次第ですね。
眷属になれば、遊璃の立場は一応保障されます。
それに吸血鬼化すればカミューラは唯一の生き残りではなくなりま
すからね。

Q：吸血鬼化した場合、遊璃はどうなるの？

A：今のところ考えてはいません。
当初はデュエルするだけだったのですが、単にデュエルするの
もど
うかと思ひ、この契約の設定を付け加えましたので…
まあ、少なくとも自由はなくなります。

カミューラに仕える存在になるわけですから、彼女の命令で動くよ
うになりますので…

Q：物語的に勝者は遊璃では？

A：まあ、そうですね。

：ですが、私は悪堕ち（R物はあまり好きではない）とか吸血鬼化とか結構好きなジャンルなのでまだわかりません。

まあ、次善策は考えておきますので続きをお楽しみにしてください。

Q：短い

A：ごめんなさい。原因不明です。

26話：真祖と英雄の決闘の果てに。

（前書き）

悪魔の契約があまりにも不評だったことに驚いています。
まあ、確かに皆様の反応も分かることは分かりますがね・・・
しかし、テロップ上初めからある2期以降の設定の練習のつもりで
したのにここまでとなると、1期終了＝完結にしようか迷います。
というか、8：2の割合で完結にする形で向かっています。

・・・

さてしんみりした空気はここまでにして、今回でカミューラ戦完結
の予定。

下手すればまだ出番があるかもしれないです。

今回の最強カード

《ドラグニティナイト ???》

シンクロ・効果モンスター

星？/風属性/ドラゴン族/ATK????/DEF????

????

遊璃『あれ？ 殆ど「？」』

瑞波『どういうことだ？ これではコメントのしようがない。』

遊璃『とりあえず「ドラグニティ」だから私のカードね。 一体何
のカードなのかしら？』

さて最強カードはなんでしょう？

じゅんじゅん。

26話：真祖と英雄の決闘の果てに。

（フィールドのおさらい）

カミュラ：LP/4000

モンスター：《ヴァンパイア・ロード》（A2000）、《ピラミッド・タートル》（D1400）、《闇より出でし絶望》（D3000）

魔法・罫：《ミイラの呼び声》、2枚

手札：1枚

フィールド：なし

適用効果：なし

遊璃：LP/4000

モンスター：なし

魔法・罫：なし

手札：5枚

フィールド：なし

適用効果：なし

ターンプレイヤー：遊璃

フェイズ：メインフェイズ1

思わぬモンスターの出現に遊璃は少し怯むが、そこは何とか振り払い、手札のカードに手を伸ばした。

『私は魔法カード《死者蘇生》を発動します。この効果で墓地から《ドラグニティ アンクス》を特殊召喚!』

遊璃の場に現れたのは青い翼を羽ばたかせ、奇妙な模様の入った仮面を被る男の鳥人。

それが空中でポーズを決め、遊璃の場に降り立った。

《ドラグニティ アンクス》：ATK/2100

遊璃はカミューラが特殊召喚に対して何もしないのを理解すると同時に更にカードを1枚デュエルディスクにセットする。

『更に《ドラグニティ アーチャー》を召喚!』

遊璃の場に雉の形をした帽子と赤い服を着て、更には燃え盛る炎弓を持つ女性の鳥人が

その炎の弓から矢をばら撒きながら現れた。

《ドラグニティ・アーチャー》：ATK/1700

それだけでは遊璃は止まらない。

《ドラグニティ・アーチャー》の矢の1つが遊璃の墓地へと入り、沈下した炎を蘇らせる。

『そして墓地の《ドラグニティ ウィリオン》の効果を発動! 自

分フィールドに炎属性・鳥獣族のモンスターが存在するとき、このカードを墓地から特殊召喚することができる！」

遊璃の場でまだ燃える炎の1つから

頭に大砲を付け、体は亀のようだが、小さな羽と竜の尾を持つモンスターが現れた。

《ドラグニティ ウイリオン》：DEF/200

《ドラグニティ ウイリオン》が召喚されたと同時に燃えていた炎も消えた。

『一気に3体のモンスターを……』

展開力に長けるアンデットデッキを使うカミューラもこの状況には驚いていた。

だが、遊璃の展開はまだまだ始まったばかりだ。

一度、自分を落ち着けるためか、深呼吸をして遊璃が口を開く。

『レベル4《ドラグニティ アーチャー》にレベル1の《ドラグニティ ウイリオン》をチューニング！』

《ドラグニティ ウイリオン》がその身と引き換えに1つの輪を砲身から打ち出し、

《ドラグニティ アーチャー》がそれに向かって4つの矢を放つ。

それがやがて矢は炎と化し、輪にぶつかって輪を真澄色に燃やす。

そして《ドラグニティ アーチャー》は1つの炎の輪に飛び込んだ。

+ || x 5

遊璃のフィールドに1つの火柱が出現する。

『異なる渓谷の民が、渓谷の火山より新たなる力を紡ぎだす。新たに吹き荒れる風となれ！ シンクロ召喚！ 砲撃せよ！ 《ドラグニティガンナー リボルディング》！』

火柱が消え去ると、そこには…

赤い竜を模した服と帽子を被った幼j……………

もとい、赤い竜を模した服と帽子を被り、右手に銃口から炎が見え隠れするリボルバーを持つ少女がいた。

《ドラグニティガンナー リボルディング》：ATK/2000

『シンクロ…召喚…（なるほど。これがアムナエルとあの女の言っていた召喚方法か。）』

カミューラは初めて見るシンクロ召喚に驚きつつも、頭の中では冷静にその事を分析していた。

遊璃はそれに対して、シンクロ召喚とは何かとカミューラに説明し、カミューラは情報通りだと確認する。

「その他諸々の事情でその説明シーンはカットします。 by 戎鴛」

『《ドラグニティガンナー リボルディング》の効果を発動！このカードのシンクロ召喚に成功したとき、手札または墓地から「ドラグニティ」と名の付くモンスター1体を装備する事ができる。私は《ドラグニティ リントヴルム》を装備！』

《ドラグニティガンナー リボルディング》がリボルバーを使って弾を空中に打ち出す。

その弾は空中で火の粉として飛散し、私の場に降り注いだ。

降り注いだ火の粉が晴れるとそこには、舌が槍になっている蛇型のモンスターがいた。

そしてそのモンスターがその身を躍らせ、フィールドに君臨する

《ドラグニティ リンドヴルム》：DEF/200

当然カミューラは装備カードがいきなりフィールドに出てきたことに驚き、疑問の声を発した。

『…どうして、装備カード扱いになったモンスターが召喚されたのかしら？』

『《ドラグニティ リンドヴルム》の効果です。このカードが「ドラグニティ」と名の付くカードの効果で墓地を離れた場合、離れた場所によって異なる効果を発動します。この場合、墓地からフィールドに離れたのでこのカードを特殊召喚する効果が発動しました。』

遊璃はカミューラの質問にも的確に答えこの状況がインチキではない事を示した。

そしてエクストラデッキからもう1枚のカードを取出し、モンスターに命じる。

『レベル5《ドラグニティ アンクス》にレベル1《ドラグニティ リンドヴルム》をチューニング！』

『連続でシンクロ召喚ですって！？』

カミューラは2度の連続融合で敗北した後だからか、2度という点に敏感に反応を示した。

一方遊璃のモンスター達は…

《ドラグニティ リンドヴルム》が槍状の舌を吹き矢のようにして吐き出す。

吐き出された槍は一筋の光となり、その中に《ドラグニティ アンクス》が飛び込んだ。

+ || x 6

『秘境の竜騎士が魔槍の名を携え戦場を駆ける！ 戦場を鎮める風となれ！ シンクロ召喚！ 推参！ 《ドラグニティナイト・ゲイボルグ》！』

光が晴れると遊璃のフィールドの上空には、白い強大な龍に跨り、禍々しい瘴気を放つ槍を携えた竜騎士が旋回していた。

《ドラグニティナイト ゲイボルグ》：ATK/2000

「フツ！ 2体とも攻撃力2000とはね。 嘗めているのかしら？ オーホツホツホ…」

カミューラは遊璃が2連続でシンクロ召喚したモンスターの攻撃力が共に2000と知ると、効果も気にせず嘲笑しだした。

遊璃の展開はまだ終わっていないのに……

「…まだです」

「…ホホホ！……えっ？」

案の定遊璃の発言に耳を疑い、笑い声を止めてしまう。

それと同時に遊璃は手札から1枚のカードを取り出した。

「手札から魔法カード《ミラクルシンクロフュージョン》を発動！」

「《ミラクルシンクロフュージョン》ですって！？」

「ええ。 このカードは……シンクロモンスターを使用した融合とでも思っていてください（色々と説明に困るので……）」

「……分かったわ」

遊璃の発動したカードは毎度遊璃に勝利を齎してきたカードの召喚

するカード。

カミューラは2度の他にも融合に過敏に反応するが、遊璃の説明に少しだけ落ち着き何とか返答する。

そして遊璃のフィールドに1つの渦が現れる。

『私はフィールドの《ドラグニティナイト ゲイボルグ》と墓地の《ドラグニティ リンドヴルム》を除外！』

渦に飛び込んだのは禍々しい槍を持つ竜騎士と、舌が槍となっている蛇。

それらが渦の中に消え去り、少しの時が経つ。

* Miracle Synchron Fusion *

《ドラグニティナイト ゲイボルグ》

+

《ドラグニティ リンドヴルム》

||

《ドラグニティパラディン エクスカリバー》

突如、渦から多大な光が漏れ、飛散する。

∴ 光が晴れると遊璃のフィールドには、黄緑色の龍に跨り、緑の鎧と左手に盾を持ち、背に緑のマントと細長い槍を背負った竜騎士が鎮座していた。

《ドラグニティパラディン エクスカリバー》：ATK/3000

『攻撃力3000。その攻撃力じゃ《闇より出でし絶望》は倒せ

なくてよ？（それにあの女からはそのモンスターの情報は貰っている。対策は万全よ）』

カミューラは落ち着き払った声で事実を述べる。

しかし、まだ遊璃は《ドラグニティパラディン エクスカリバー》は効果を発動していない。

『《ドラグニティパラディン エクスカリバー》の効果が発動！このカードの融合召喚に成功した時、自分の墓地に存在する「ドラグニティ」と名のついたチューナーを任意の数だけ、このカードに装備することができる。……私は墓地から《ドラグニティ ダーインスレイヴ》、《ドラグニティ コルセスカ》を装備！』

《ドラグニティパラディン エクスカリバー》が背に背負う槍を振るうと遊璃の墓地から2つの緑色の光が

《ドラグニティパラディン エクスカリバー》の槍に吸収される。

吸収が終わると遊璃は残った2枚の手札を一気に使った。

『カードを1枚伏せ、《天命の宝札》を発動！ ライフを500払い、自分は手札が5枚になるようカードを引き、カミューラさんは1枚ドローする。』

遊璃：LP / 4000 3500

遊璃はライフを犠牲として5枚のカードを引き、カミューラも1枚のカードをドローした。

そして新たに引いたカードを遊璃は眺め、1枚のカードを発動する。

『手札から《龍騎士の覇戟》を発動！ このカードは、装備モンスター
の攻撃力を1000ポイントアップする。そしてこのカード
を装備したモンスターは、このカード以外のカード効果の対象にな
らない。このカードを《ドラグニティパラディン エクスカリバ
ー》に装備！』

《ドラグニティパラディン エクスカリバー》の持つ槍が覇気を持
つ戟に変わり、力をみなぎらせる

《ドラグニティパラディン エクスカリバー》：ATK/3000
4000

『攻撃力4000ツ！！』

カミューラは情報通りとはいえ、いきなり《闇より出でし絶望》を
超える攻撃力を出すとは思わなかったのだらう。物凄く驚いた声
を發した。

そして遊璃はバトルフェイズへと移行した。

『バトル！ 《ドラグニティガンナー リボルディング》で《ピラ
ミッド・タートル》を攻撃！』

《ドラグニティガンナー リボルディング》は手に持つリボルバー
に素早く弾を込めると、それを《ピラミッド・タートル》へと放つ
た。

それによってピラミッドに穴が開いた《ピラミッド・タートル》は
突然変わったピラミッドの重量にそれを支える事が出来ず、押しつ
ぶされた。

『…《ピラミッド・タートル》の効果を発動。このカードが戦闘で破壊されたとき、デッキから守備力2000以下のアンデット族モンスターを特殊召喚できる。私は《不死のワーウルフ》を特殊召喚！』

カミューラの場に残ったピラミッドが崩れ落ちると、中から1匹の人狼が顔を出した。

《不死のワーウルフ》：DEF/1000

遊璃はそれには気を留めず、もう1度攻撃命令を出す。

『続いて、《ドラグニティパラディン エクスカリバー》で《闇より出でし絶望》に攻撃！ 聖なる槍撃！』

遊璃が攻撃命令を出すと、《ドラグニティパラディン エクスカリバー》は跨る竜を駆けさせ、

《闇より出でし絶望》へと向かう。

…しかし、《闇より出でし絶望》を貫くことはできなかった。

それどころか、“槍”は《闇より出でし絶望》の手前で止まっている

『どづつしてっ…』

遊璃が堪らず疑問の声を発するとカミューラは口を裂けさせ、自分のフィールドを指さす。

そこには1枚の畏カードが発動していた。

それを確認させてからカミューラは発動したカードの事を語った。

『畏カード、《邪神の大災害》ヲ発動シタワ。　コノカードハ、相手モンスターノ攻撃宣言時ニ発動出来ル畏。　コノカードガ発動シタトキ、オ互イノ魔法・畏カードヲ全テ破壊スル。』

その瞬間2人の上空に暗雲が立ち込め、暴風雨が発生する。

それによつて《ドラグニティパラディン　エクスカリバー》に装備されていた3枚のカードと遊璃の伏せカード……《渓谷の精霊》とカミューラの《ミイラの呼び声》と1枚の伏せカードが彼方へと飛ばされた。

《ドラグニティパラディン　エクスカリバー》：ATK/4000
3000

装備カードを失った《ドラグニティパラディン　エクスカリバー》はその力を失った。

その後、遊璃が1つの事に気づく。

『……でもどうしてエクスカリバーの槍が止まっているの？　攻撃が成立したのなら元の位置に戻るはずなのに……』

遊璃の疑問に対し、カミューラは口を元に戻して言い放つ

『私が《邪神の大災害》によつて破壊したのは《不死族の棺》！　このカードがカード効果によつて破壊されたとき、墓地のアンデット族モンスターを1体特殊召喚する。　私は《ピラミッド・タートル》を特殊召喚！』

カミューラの場に髑髏の書かれた棺が現れ、どのような仕掛けか分からないが、中から《ピラミッド・タートル》が姿を現した。

《ピラミッド・タートル》：DEF/1400

これによって遊璃は理解する。

《ドラグニティパラディン エクスカリバー》の攻撃は止まったのではない、止められたのだと。

デュエルモンスタースにおいて、バトルフェイズ中に相手のモンスターの数が増えた場合、攻撃宣言前に戻るルールが存在する。

その他色々あるのだが……と遊璃は思考をやめ、攻撃対象を選び直す。

『ならば、《ヴァンパイア・ロード》に攻撃！ 聖なる槍撃！』

《ドラグニティパラディン エクスカリバー》が《闇より出でし絶望》から槍を引き、《ヴァンパイア・ロード》へと襲い掛かる。

そして《ヴァンパイア・ロード》を無事に刺し抜いた。

『……………』

カミューラ：LP/4000 3000

カミューラは1000ポイントのダメージを受けたにも関わらず、まるで風を受けたように髪を靡かせた。

遊璃はそれに対してこれは闇のゲームではないと理解する。

カミューラはそれを察したのか遊璃に対して説明を始めた。

『言い忘れていたけど、これは契約の儀式であって闇のデュエルではないわ。闇のデュエルにするのはいいけど、負けた方が消えかねないしね…』

『そうだったのですか…』

遊璃はそれに納得したのか何度か相槌を打った。

相槌が終わると遊璃はターンを終了すべく動き出す。

『私はカードを2枚セットし、ターンエンド。』

遊璃：LP / 3500

モンスター：《ドラグニティパラディン エクスカリバー》（A3000）、《ドラグニティガンナー リボルディング》（A2000）

魔法・罫：2枚

手札：2枚

フィールド：なし

適用効果：なし

『私のターン、ドロー！』

カミューラが遊璃のターンが終わった途端に間髪入れずカードをドローし、引いたカードを合わせ
3枚の手札を見比べる。

そしてその中から1枚のカードを発動した。

『私は《強欲な壺》を発動！ この効果で2枚のカードをドロ―！』
カミューラが発動したカードによって2枚のカードをドロ―した。

その中にカミューラが待ち望んでいたカードがあったのか、ニヤリと笑い、そのカードに手を伸ばす。

『私は《ハリケーン》を発動！ お互いの魔法・罠カードを全て手札に戻す！』

カミューラが続けて発動したカードによってフィールドに突風が舞い起こる。

だが、遊璃も負けじと1枚のカードを発動した。

『罠カード、《救済の竜騎士》を発動！ 「ドラグニティ」と名の付くシンクロモンスターが存在するとき墓地の「ドラグニティ」と名の付くチューナーモンスターを特殊召喚する。《ドラグニティ コルセスカ》を特殊召喚！』

遊璃が突風が吹き荒れる中で発動したカードによって遊璃の場に桃色の体に黒色の武器を付けた小さな龍が現れた。

《ドラグニティ コルセスカ》：DEF/700

その直後、遊璃のもう1枚の伏せカードは手札へと戻された。

そうして伏せカードをなくしたからか、カミューラは安全だと判断し、更に手札を使用した。

『……更に《生者の書 禁断の呪術》を発動！ 私の墓地から《ヴァンパイア・ロード》を特殊召喚し、《ドラグニティ アングス》をゲームから除外する。』

カミューラの場に緑色の書物が現れたかと思えば、その書物から黒い光が漏れ、

遊璃の墓地の《ドラグニティ アングス》の生気を吸い取り、カミューラの墓地から《ヴァンパイア・ロード》を特殊召喚した。

《ヴァンパイア・ロード》：ATK/2000

『そして私のモンスター全てを攻撃表示に変更』

カミューラはそう宣言すると、デュエルディスクに手を添え、フィールドのモンスターの向きを変える。

それによってカミューラの場で守備の態勢を取っていた3体のモンスターはその構えを解き、いつでも攻撃が出来るという姿勢へと変化する。

《闇より出でし絶望》：DEF ATK/3000 2800

《ピラミッド・タートル》：DEF ATK/1400 1200

《不死のワーウルフ》：DEF ATK/1000 1200

『行くわよ！ 《ピラミッド・タートル》で《ドラグニティガンナ
ー リボルディング》に攻撃！』

カミューラの攻撃命令によってのんびりと動き出す《ピラミッド・タートル》。
しかし、《ドラグニティガンナーリボルディング》が高火力の弾丸を放つと、再びピラミッドに押しつぶされた。

カミューラ：LP / 3000 2200

だが、カミューラは自分のモンスターが破壊され、ダメージを受けたにも関わらず、笑みを浮かべた。

『《ピラミッド・タートル》の効果を発動！ この効果で《ヴァンパイア・バツ》を特殊召喚！ そして《ヴァンパイア・バツ》の効果により、アンデット族モンスターの攻撃力を200ポイントアップする！』

再びピラミッドの残骸が崩壊し、中から蝙蝠の群れが集まり、1匹の蝙蝠となる。

《ヴァンパイア・バツ》：ATK / 800

そして《ヴァンパイア・バツ》よりカミューラのモンスターにエネルギーが供給される

《ヴァンパイア・ロード》：ATK / 2000 2200

《闇より出でし絶望》：ATK / 2800 3000

《ヴァンパイア・バツ》：ATK / 800 1000

《不死のワールフ》：ATK / 1200 1400

カミュラのモンスターの攻撃力が遊璃のモンスターに届き、遊璃は思わず唾を呑み込む。
だが、カミュラの戦術はまだ続いていた。

『更に《不死のワーウルフ》で《ドラグニティガンナー リボルディング》に攻撃！ 吠えよ！ ハウリング・スラッシュ！』

『：《ドラグニティガンナー リボルディング》、迎え撃って！』

カミュラはこのターン2度目の自爆特攻を命じた。

遊璃としては効果を知っている以上防ぎたいが、伏せカードがない為にそれができない。

遊璃がその状況に歯噛みすると同時に1つの銃声が響いた。

音源は言うまでもなく《ドラグニティガンナー リボルディング》。その手に持つ銃からは煙が上がっていて、その先には《不死のワーウルフ》が胸を撃ち抜かれ、倒れ伏していた。

その後、《不死のワーウルフ》は遠吠えを上げるとその身を粉々にした。

カミュラ：LP / 2200 1600

そして遠吠えに呼ばれたのか、カミュラのデッキから1枚のカードが飛び出す。

『《不死のワーウルフ》の効果を発動。このカードが戦闘で破壊されたとき、デッキから同名モンスターを攻撃力を500アップさ

せて特殊召喚できる。 出でよ！ 《不死のワーウルフ》！」

カミューラの場に再び遠吠えが響き渡り、湖の周りの森から人狼が1匹飛び出てきた。

《不死のワーウルフ》 : ATK 1200 1700 1900

『さて続きね。 《闇より出でし絶望》で《ドラグニティパラディン エクスカリバー》を攻撃！』

カミューラのフィールドにいる強大な影の腕が動きだし、《ドラグニティパラディン エクスカリバー》を押し潰そうとする。

しかし、《ドラグニティパラディン エクスカリバー》も最後の一撃をと

竜から飛び降りつつ、手に持つ槍を投擲した。

…そして

両者の攻撃が両者に辿り着くのは同時。

… 《闇より出でし絶望》は細長い槍に胸を貫かれ、
《ドラグニティパラディン エクスカリバー》は大きな腕に押し潰れられていた。

結局、お互いに致命傷を負いそのまま破壊された。

『クッ…』

遊璃は今まで自分に逆転の一手等を授けてくれた《ドラグニティパラディン エクスカリバー》の破壊に軽く唇を噛む。

対してカミューラはアンデット族の特権で特殊召喚できるからか、平然とし、次の攻撃命令を言い放った。

『《ヴァンパイア・ロード》で《ドラグニティガンナー リボルディング》を攻撃！ 暗黒の使徒！』

《ヴァンパイア・ロード》がそのマントから数えきれないほどの蝙蝠を出現させ、攻撃を仕掛ける。

《ドラグニティガンナー リボルディング》は何度も発砲し、攻撃するが、如何せん数に大差があり、その内に弾切れを起こして蝙蝠の餌食となった。

『クッ…』

遊璃：LP / 3500 3300

そして残った蝙蝠が遊璃のデッキに取り付き、生気を吸い取る。

『《ヴァンパイア・ロード》の効果を発動！ このカードの戦闘によつて相手にダメージを与えたとき、私は魔法・罫・モンスターの3種類から1つを選択する。そして相手は選択した種類のカードをデッキから墓地へと送る。……私は、魔法カードを宣言！』

『…私は、《竜操術》を墓地へと送ります。』

遊璃がカード名を宣言すると、デッキに光の線が入り、該当カードを検出する。

そしてデッキから1枚のカードが飛び出すと、蝙蝠はそれを足で掴み墓地へと送った。

それを確認してからカミューラは更なる攻撃命令を出す。

『《ヴァンパイア・バツツ》で《ドラグニティ コルセスカ》を攻撃！ 舞え！ ブラッディ・スパイラル！』

《ヴァンパイア・バツツ》は数多くの蝙蝠に分散し、遊璃のモンスターに襲い掛かる。

…そして360°。全てから超音波をぶつけて《ドラグニティ コルセスカ》を破壊した。

『これで最後よ！ 行け！ 《不死のワーウルフ》！ 吠えよ！
ハウリング・スラッシュ！』

カミューラの命令を受けた人狼が勢いよく飛び出し、遊璃に向かって突進する。

『キヤアアアアア…』

遊璃：LP / 3300 1400

遊璃はその攻撃を受け、膝を折った。

そしてカミューラは遊璃の残りのライフを見て、舌打ちをした。

『チツ……あの罨カードさえなければ私の勝ちも同然だったのに…
…まあいいわ。カードを1枚伏せ、ターンエンド。』

カミューラは開き直ったのか、1枚のカードを伏せて、ターンを終了した。

カミュラ：LP/1600

モンスター：《ヴァンパイア・ロード》（A2200）、《ヴァンパイア・バツ》（A1000）、《不死のワーウルフ》（A1900）

魔法・罫：1枚

手札：1枚

フィールド：なし

適用効果：なし

『…私のターン……ドロー！』

遊璃はピンチながらも諦めてはならないという気持ちでカードを引く。

そのカードは……

「主。」

『（ミルトウム。よかった。）』

《ドラグニティ ミルトウム》だった。

そして遊璃は手札に眠るモンスターを召喚する。

『手札から《ドラグニティ アイギス》を召喚！』

遊璃の場に出現したのは背中が丸まった白い竜。

それが、可愛い鳴き声をあげて体を丸めた。

《ドラグニティ アイギス》：DEF/1500

そして《ドラグニティ アイギス》は再び声を発し、遊璃の手札からモンスターを呼び寄せる。

『《ドラグニティ アイギス》の効果発動！ このカードの召喚成功時、手札から「ドラグニティ」と名のついたモンスター1体を特殊召喚しこのカードを装備することができる！ 《ドラグニティ ミリトゥム》を特殊召喚！』

呼び寄せられたのは緑色の兜を被った金髪の女性鳥人。それが空中で手に持つ短剣を数回振ってフィールドに舞い降りた。

《ドラグニティ ミリトゥム》：ATK/1700

『でも攻撃力1700だと、私を倒すことは……ハッ！ またシンクロ召喚！？』

カミューラはミリトゥムの攻撃力を見て自分は安泰だと思いが、すぐにシンクロ召喚のことを思い出して歯噛みをする。

その予想は間違っていないのだから。

『《ドラグニティ ミリトゥム》の効果発動！ 1ターンに1度、装備カード状態の「ドラグニティ」と名のつくモンスター1体を特殊召喚する事が出来る！ 《ドラグニティ アイギス》を特殊召喚！』

《ドラグニティ ミリトゥム》が短剣を振ると、魔法・畏ゾーンへと退避していた

《ドラグニティ アイギス》が再び戦闘態勢をとる。

それはシンクロ召喚への準備が整った事の表れだった。

《ドラグニティ アイギス》：DEF/1500

そして2体のモンスターを揃えた遊璃はエクストラデッキから1枚のカードを取出し、言い放つ。

『レベル4《ドラグニティ ミリトウム》にレベル3《ドラグニティ アイギス》をチューニング！』

《ドラグニティ アイギス》がその背を伸ばして3つの輪となり、その中を《ドラグニティ ミリトウム》が4つの星となって潜り抜けた。

+ || ×7

刹那、本日3度目の眩い光が辺りを照らす。

『秘境の竜騎士が二つの槍を用いて、永久に癒ぬ傷を与える！ 戦場を鎮める風となれ！ シンクロ召喚！ 恐怖せよ！ 《ドラグニティナイト ガデルグ》！』

光が晴れると、遊璃の場には真っ赤に染まった龍に跨り、2つの大ききの違う槍を振り回す竜騎士が現れた。

《ドラグニティナイト ガデルグ》：ATK/2500

そして遊璃は墓地から素早くカードを取出した。

『《ドラグニティナイト ガデルグ》の効果、シンクロ召喚に成功した時、墓地の「ドラグニティ」と名のつくモンスター1体をこのカードに装備する。そしてこのカードに「ドラグニティ」と名のつくカードが装備され、自分フィールドに他にモンスターが存在しない時、相手モンスターの攻撃力と守備力を500ポイント下げる効果を得る。 私は《ドラグニティ アイギス》を装備!』

『何ですって!?!』

遊璃が墓地から取り出したカードをデュエルディスクにセットすると同時に、

《ドラグニティナイト ガデルグ》がフィールドに威圧プレッシャーを発生させ、カミュラのモンスターを怯ませ、弱体化させた。

《ヴァンパイア・ロード》 : ATK / 2200 1700

《ヴァンパイア・バツツ》 : ATK / 1000 500

《不死のワーウルフ》 : ATK / 1900 1400

そして遊璃はカミュラのライフを見比べ、勝てるように攻撃を仕掛けた。

『これで私の勝ちよ! 《ドラグニティナイト ガデルグ》で《ヴァンパイア・バツツ》を攻撃! コトシユン・ツインランス 威圧二槍撃!』

《ドラグニティナイト ガデルグ》が乗る赤い龍が飛び立ち、《ヴァンパイア・バツツ》に気の籠った2つの槍を突き出す。

……しかし、それが届くことはなかった。

突如、《ヴァンパイア・バツツ》と《ドラグニティナイト ガデルグ》の槍の間に紅色の月が浮かび、槍は現れた月に突き刺さっていた。

『畏カード《妖かしの紅月》を発動したわ。このカードの効果により、手札のアンデット族モンスターを墓地に送ることで相手モンスターの攻撃を無効にし、その攻撃力分ライフを回復。その後、バトルフェイズを終了させるわ！』

《ドラグニティナイト ガデルグ》が槍を月から抜くと、月が不思議な力を発して《ドラグニティナイト ガデルグ》を後方……遊璃のフィールドまで吹き飛ばし、カミューラには夜の祝福を与えた。

カミューラ：LP / 1600 4100

『クツ……カードを1枚伏せて、ターンエンド！』

遊璃は攻撃を防がれた上にライフポイントを大幅に回復されたので自分の先程の浅墓さを悔やむ。

だが、対処ができなかったのもまた事実。

遊璃はそれを受け止め、カードを1枚伏せてターンを終了した。

遊璃：LP1400

モンスター：《ドラグニティナイト ガデルグ》（A2500）

魔法・罫：《ドラグニティ アイギス》、1枚

手札：1枚

フィールド：なし

適用効果：なし

『私のターン！……フフツ！ 見せてあげるわ！ 我が、ヴァンパイア一族の力を！』

カミューラはドロしたカードを見て、高々と笑い出した。

『私は《ヴァンパイア・ロード》をゲームから除外し、出でよ！
ヴァンパイアの真祖！ 《ヴァンパイア・ジエネシス》！』

カミューラがデュエルディスクにセットされていた《ヴァンパイア・ロード》のカードを……ドレスの中のデッキケースに収め、《ヴァンパイア・ジエネシス》のカードをデュエルディスクにセットした。

それと同時にフィールドの《ヴァンパイア・ロード》に変化が起きる。

その身を覆っていた紳士服は破れ、紫色の体が脈打ち、

顔は元の壮年の男性の顔を失い、悪魔と相違ない顔となる。

そして脈打っていた体が巨大化し、背に巨大な羽を生やした所でその変化を終えた。

《ヴァンパイア・ジエネシス》：ATK/3000 3200 2
700

出現したヴァンパイアの始祖、《ヴァンパイア・ジエネシス》にも《ヴァンパイア・バツツ》と《ドラグニティナイト ガデルグ》の効果は適用されるが、

結果として《ドラグニティナイト ガデルグ》の攻撃力を上回った。

手札のないカミューラはそのままバトルフェイズへと移行する。

『バトル！ 《ヴァンパイア・ジエネシス》で《ドラグニティナイト ガデルグ》を攻撃！ ヘルビシヤス・ブラッド！』

《ヴァンパイア・ジエネシス》はカミューラの攻撃命令が下ると同時にその身を血の粉末へと変え、《ドラグニティナイト ガデルグ》へと襲い掛かる。

その攻撃は寸分変わらず、《ドラグニティナイト ガデルグ》にヒットした。

遊璃：LP / 1400 1200

……

しかし、

『…何故！？ 何故破壊されていないの？』

カミューラは攻撃で破壊したはずの《ドラグニティナイト ガデルグ》が破壊されないことに疑問を感じ、声色を変えて聞く。

それに対し遊璃は

「…装備カード状態の《ドラグニティ アイギス》の効果を発動しました。装備状態のこのカードを破壊することで装備モンスターの破壊を無効にする事が出来ます。そしてこの効果で破壊された時、墓地の「ドラグニティ」と名のついたチューナーモンスターを1体を特殊召喚することが出来ます。……《ドラグニティ コルセスカ》を特殊召喚！」

遊璃の場に《ドラグニティ アイギス》の残滓が残り、そこから再び桃色の体を持つ小さな龍が現れた。

《ドラグニティ コルセスカ》：DEF/700

「だから何だっというのかしら？ 私のモンスターは《ドラグニティナイト ガデルグ》の効果から解放され、攻撃力を取り戻している。今更そんなモンスターを召喚しても意味ないでしょう？ 《不死のワーウルフ》で《ドラグニティ コルセスカ》に攻撃！ 吠えよ！ ハウリング・スラッシュュ！」

《ヴァンパイア・ジエネシス》：ATK/2700 3200

《ヴァンパイア・バツツ》：ATK/500 1000

《不死のワーウルフ》：ATK/1400 1900

力が元に戻った《不死のワーウルフ》が雄たけびをあげ、桃色の肢体の龍に迫る。

「畏カード発動。《和睦の使者》！ このターンの戦闘によって発生する自分へのダメージを0にする！」

《ドラグニティ コルセスカ》の前に修道服を着た何人かの女性が現れ、

《不死のワーウルフ》の鉤爪からモンスターを守り抜いた。

だが、カミューラは腑に落ちない。

先程の攻撃で《和睦の使者》を発動していれば、ダメージを受ける事も

カミューラのモンスターが攻撃力を取り戻す事もなかったからだ。

その事がカミューラに何故？ どうして？

と連鎖的に疑問が湧き上がらせ、疑心暗鬼を起こさせる。

結果カミューラは

『ターンエンド！』

そのままターンを終了してしまった。

《ヴァンパイア・バツ》の表示形式を変えるのを忘れて…

カミューラ：LP/4100

モンスター：《ヴァンパイア・ジエネシス》（A3200）、《ヴァンパイア・バツ》（A1000）、《不死のワーウルフ》（A1900）

魔法・罫：0枚

手札：0枚

フィールド：なし

適用効果：なし

『私のターン！』

遊璃はカードを思い切ってドローする。

side out

side yuri

私はドローしたカードを見た瞬間、後先を考えずにカードを発動した。

『私は《天使の施し》を発動！ デッキから3枚のカードをドローし、2枚捨てる。』

私はデッキから新しく3枚のカードを引き、その中から2枚を捨てた。

そしてさっきのターンから持っていたカードと今手札に加わったカードを見比べ、目を瞑った。

すると脳裏に1つの可能性が浮かび上がった。

私はそれに対して閉じた目を開け、頭の中で試行を始める。

・
・
・

そして結論に達した時、私は思わず口元を緩ませていた。

『…何を笑っている？』

カミューラがそれに気付き、声をかけてくる。

『いえ、このデュエル！ 私の勝ちです。』

『何！ 私とのライフの差は2900。この差を無くした上に手札2枚で私を倒すなど、無理に決まっている』

『確かに、フィールドの状況は絶望的ですね。でもカミューラさん貴女のミスのお蔭で勝利が確定しました。』

『!?!?』

私はカミューラさんに勝利宣言をし、カミューラさんはそれを信じられないのか否定する。

だから私はカミューラさんがプレイミスをしたことを指摘し、再び勝利宣言をした。

そしてカミューラさんが絶句している中、墓地から2枚のカードを取り出す。

『私は墓地の《ドラグニティ シンクロン》の効果を発動！ 墓地のこのカードと「ドラグニティ」と名のつくシンクロモンスター…：《ドラグニティガンナー リボルディング》をゲームから除外し、エクストラデッキから「ドラグニティ」と名のつくシンクロモンスター1体を特殊召喚します！』

『何！？ …… そうか。さっきの《天使の施し》で……』

カミューラが私のカードの発動に憶測を言う。

それは正しかったので私はただ頷き、エクストラデッキからカードをデュエルディスクにセツトした。

『特殊召喚！ 《ドラグニティナイト ヴァジュランダ》！』

私の場に小さな羽に赤い体を持つ《ドラグニティ シンクロン》とリボルバーを持つ少女が薄らと現れると、シンクロ召喚の時のような輪と星が現れた。

+ || x 6

そして光が晴れると真澄色の龍とそれに跨る真澄色の鎧を纏った女竜騎士が出現していた。

《ドラグニティナイト ヴァジュランダ》：ATK/1900

『《ドラグニティ シンクロン》の効果で特殊召喚されたモンスター1の効果は無効になります……この瞬間！ 手札から《ドラグニティ ミリウス》の効果を発動！ 自分フィールドに「ドラグニティ」と名のつくシンクロモンスターが特殊召喚された時、このカードを特殊召喚する事が出来ます。』

それと同時に私はデュエルディスクに《ドラグニティ アクユリス》の角を無くしたような赤い龍がイラストになっているカードをセツトする。

すると私の場にイラスト通りのモンスターが現れた。

《ドラグニティ ミリウス》：DEF/0

そして再びエクストラデッキから1枚のカードを取り出す。

『レベル6《ドラグニティナイト ヴァジュランダ》にレベル1《ドラグニティ コルセスカ》をチューニング!』

《ドラグニティナイト ヴァジュランダ》が空中で旋回し、1つの輪となった《ドラグニティ コルセスカ》へと飛び込む。

+ || ×7

そして段々と夜が明けてきた空に1筋の光が満ちる。

『秘境の竜騎士が聖なる槍を用いて邪龍を討つ。戦場を鎮める風となれ! シンクロ召喚! 爆誕せよ! 《ドラグニティナイトアスカロン》!』

光を振り払って現れたのは残った夜の闇に紛れる黒い龍に跨った白く輝く槍と白い外套を纏った男性。

《ドラグニティナイト アスカロン》の乗る龍が轟く咆哮をあげ、舞い降りた。

《ドラグニティナイト アスカロン》：ATK/2500

『…またシンクロ召喚!?!』

カミューラさんは私が2度のシンクロ召喚をしたように見えたのか数歩後ずさっている。

まあ、それはいいとして私は《ドラグニティナイト アスカロン》の効果を発動すべく口を開いた。

が、その前にフィールドに薄らと《ドラグニティナイト ヴァジユランダ》の槍が現れ、私に襲い掛かる。

『ウツ……』

遊璃：LP / 1200 250

《ドラグニティナイト ヴァジユランダ》がフィールドを離れた場合、

《ドラグニティ シンクロン》の効果でそのモンスターの攻撃力の半分のダメージを受ける。

私の勝利への1欠片ピースな以上仕方のない事だが、私のライフは僅か250にまで減った。

だが、私は最後の仕上げへと向かうために口を開く

『……シンクロ召喚した《ドラグニティナイト アスカロン》の効果を発動！ このカードのシンクロ召喚に成功した時、墓地の「ドラグニティ」と名のつくモンスター1体を装備する。《ドラグニティ コルセスカ》を装備！』

《ドラグニティナイト アスカロン》の持つ槍に桃色の光球が入り込んだ。

そして私はすぐにセットした《ドラグニティ コルセスカ》を墓地に送り、効果を発動する。

『《ドラグニティナイト アスカロン》の効果を発動！ このカードに装備されている「ドラグニティ」と名のつくカードを墓地に送ることで相手モンスターを1体破壊する！ 《ヴァンパイア・ジェネシス》を破壊！』

《ドラグニティナイト アスカロン》が光り輝く槍を手に飛び立ち、《ヴァンパイア・ジェネシス》にその光り輝く槍を突き刺す。突き刺された《ヴァンパイア・ジェネシス》は砂と化して消滅した。

『クツ……でもまだ私のライフは残る。』

カミューラは切り札を破壊されても尚諦めずにいる。

当然でしょうけどね。

私はそう考え、このターン3度目となるシンクロ召喚を行うためにエクストラデッキから1枚のカードを取り出した。

『行きます。 レベル7の風属性《ドラグニティナイト アスカロン》にレベル1の《ドラグニティ ミリウス》をチューニング！』

今度は1つの輪になった《ドラグニティ ミリウス》に《ドラグニティナイト アスカロン》が咆哮をあげながら飛び込んだ。

+ || x 8

そして、私とカミューラを包み込む光の塔が出現した。

『秘境の竜騎士が熱風を纏いて舞い降りる！ 戦場を鎮める風とな

れ！ シンクロ召喚！ 焼き尽くせ！ 《ドラグニティパラディン
ガラティン》！」

光が次第に炎へと変わり、その炎の中から両刃の大剣と、4つの大
小の対となっている羽をもつ白い鎧を着た人型の緑色の龍が降臨し
た。

《ドラグニティパラディン ガラティン》：ATK/2800

私が3度目のシンクロ召喚で呼び出したのは《ドラグニティパラデ
イン エクスカリバー》の対になるモンスター、《ドラグニティパ
ラディン ガラティン》。

「……（何？ この子、私を睨んでいるのかしら？）」

心なしか《ドラグニティパラディン ガラティン》がカミューラさ
んを睨んでいる気がするが気のせいでしょう…

私は、ガラティンに視線を向け、墓地から2枚のカードを取出し、
デュエルディスクにセットした。

「《ドラグニティパラディン ガラティン》の効果を発動！ シン
クロ召喚に成功した時、墓地に存在する「ドラグニティ」と名のつ
いたチューナー以外のモンスターをこのカードに2枚まで装備する。
《ドラグニティ ムラサメ》と《ドラグニティナイト ヴァジユ
ランダ》を装備します！」

私が墓地から選んだのは攻撃力をアップさせる《ドラグニティ ム
ラサメ》と《ドラグニティナイト ヴァジユランダ》。

それにより《ドラグニティパラディン ガラティン》の持つ大剣が

一振りの日本刀へと変化する。

《ドラグニティパラディン ガラティン》 : ATK / 2800 3
200

「攻撃力が……」

「《ドラグニティ ムラサメ》の効果です。このカードを装備したモンスターの攻撃力は400ポイントアップします！」

カミューラさんが突然上がった攻撃力に驚いていたので説明する。するとカミューラさんは何度か頷き、落ち着きを取り戻した。

それと同時に私はバトルフェイズに移行した。

「バトル！ 《ドラグニティナイト ガデルグ》で《ヴァンパイア・バツ》を攻撃！ 威圧二槍撃！」

《ドラグニティナイト ガデルグ》が《ヴァンパイア・バツ》に向かって2つの槍を突き出す。

《ヴァンパイア・バツ》は逃げようとするも、攻撃力に差が有り過ぎるためか抵抗する暇もなく槍に貫かれた。

「クウ…… 《ヴァンパイア・バツ》の効果発動。このカードが破壊される時、デッキから同名のカードを墓地に送ることでの破壊を無効にする。」

カミューラ : LP / 4100 2600

カミューラさんはライフポイントに差があるせいか、カミューラさ

んは余裕の表情で《ヴァンパイア・バツ》の効果を発動させた。それに私は少々安堵を覚える。

このデュエルの最後の方程式の空欄。

それが《ヴァンパイア・バツ》の復活にあつたからだ。

そして私はこのデュエルを閉幕させるべく最後の手札を発動した。

『手札から《風神の号令》を発動！ 自分フィールドの風属性モンスター1体をリリースする事でこのターン、自分フィールドに存在する風属性モンスター1体は2回攻撃する事が出来る！』

『何ですって！？』

『私は《ドラグニティナイト ガデルグ》をリリースし、《ドラグニティナイト ガラティン》の2回攻撃を可能にします。』

私が最後の手札を使うと、《ドラグニティナイト ガデルグ》が風となって《ドラグニティパラディン ガラティン》を包み込む。すると《ドラグニティパラディン ガラティン》の持つ日本刀が2つになった。

私は、きつとこれが2回攻撃の意味なのだろうと理解し、攻撃命令を出した。

『《ドラグニティパラディン ガラティン》で《ヴァンパイア・バツ》に攻撃！ 疾風怒濤 - 紅蓮の一撃！』
クリムゾン・エッジ

《ドラグニティパラディン ガラティン》の持つ日本刀に熱が走り、刀身が赤く輝く。

そして《ドラグニティパラディン ガラティン》は《ヴァンパイア・バツツ》に切り込む。

私は刀が壊れないかな？ と的外れなことを考えつつも《ヴァンパイア・バツツ》に向かう《ドラグニティパラディン ガラティン》を見送った。

…そして《ドラグニティパラディン ガラティン》の刀が《ヴァンパイア・バツツ》を切り裂いた。

『ウワアアアア……… 《ヴァンパイア・バツツ》は不死身。 デッキから《ヴァンパイア・バツツ》を墓地に送ってその破壊を無効にする！』

カミュラ：LP / 2600 400

カミュラさんはダメージを負いながら…

そして負けが確定しても《ヴァンパイア・バツツ》を特殊召喚した。

私はその行動に敬意を評する為、最後まで全力で攻撃をする。

『これで終わり！ 《ドラグニティパラディン ガラティン》で《ヴァンパイア・バツツ》を攻撃！ 紅蓮の一撃！』

《ドラグニティパラディン ガラティン》はその刀を腰に据え、《ヴァンパイア・バツツ》の眼前に飛ぶ。

そして居合切りの要領で一気に切り裂いた。

『……アアアアアアア………』

カミュラ：LP / 400 0

遊璃：WIN

・
・
・
・

デュエルが終わると同時に夜が段々と明けてきた。

これは私の推測だけれど、カミューラさんがこれまでにデュエルをしたのは夜。

そこから判断できる情報はカミューラさんは日光に弱い……始祖ではない吸血鬼。

そう判断するや否や、私は近くのブルー女子寮の私の部屋までカミューラさんを案内するのだった。

s i d e o u t

s i d e ? ? ?

『……カミューラを倒したのね。……流石、お姉様……』

闇の中で少女は姉と慕った者を思う。

しかし、その体は自分の意志では動かない物となっていた。

・ ・ ・ T o b e c o n t i n u e d

今回の新規使用カード

《ドラグニティ・アーチャー》

効果モンスター（にきにきさん投稿オリジナル）

星4 / 炎属性 / 鳥獣族 / ATK1700 / DEF1300

このカードの召喚に成功した時、手札のレベル2以下の炎属性チューナーを装備する。

このカードの攻撃力は装備しているモンスターの攻撃力の半分アップする。

《ドラグニティ ウイリオン》

チューナー・効果モンスター（にきにきさん投稿オリジナル）

星1 / 炎属性 / ドラゴン族 / ATK2000 / DEF2000

自分フィールド上に炎属性・鳥獣族のモンスターが存在する時、墓地に存在するこのカードを特殊召喚する事が出来る。

この効果で特殊召喚された場合、このカードがフィールドを離れた時、ゲームから除外される。

《ドラグニティガンナー リボルディング》

シンクロ・効果モンスター（にきにきさん投稿オリジナル）

星5 / 炎属性 / ドラゴン族 / ATK2000 / DEF1700

ドラゴン族チューナー+チューナー以外の炎属性・鳥獣族

このカードがシンクロ召喚に成功した時、手札・墓地から「ドラグニティ」と名の付いたモンスターを1体選択して装備する事が出来る。

1ターンに1度、自分のメインフェイズにこのカードが装備しているモンスターのレベルにより以下の効果を得る。

レベル1～3：攻撃力・守備力が500ポイントアップする。

レベル4～7：このカードが装備しているモンスターを墓地に送る

事で、墓地に送ったモンスターの攻撃力以下のモンスター1体を選択して破壊する。

8以上：装備しているモンスターを墓地に送る事で、送ったモンスターのレベル×100のダメージを相手に与える。

《ドラグニティ ダーインスレイヴ》

効果モンスター・チューナー（ネイビーさん投稿オリジナル）

星3/風属性/ドラゴン族/ATK300/DEF500

このモンスターは召喚成功時、墓地の「ドラグニティ」と名のつくモンスターを特殊召喚し、このカードを装備することができる。

このカードを装備したモンスターの攻撃力は500ポイントダウンする。

装備状態のこのカードがフィールドから離れたとき、装備モンスターを除外する。

装備モンスターが戦闘を行った場合、このカードと装備モンスターを除外することで、

戦闘を行ったモンスターを除外することができる。

《龍騎士の覇戦》

装備魔法（言羽・D・カラストロフィーさん投稿オリジナル）

「ドラグニティ」と名の付くチューナーモンスター以外のシンクロまたは融合モンスターにのみ装備することが出来る。

装備モンスターの攻撃力を1000ポイントアップする

このカードを装備したモンスターは、このカード以外のカード効果の対象にならない。

装備モンスターが破壊される場合、このカードを代わりに破壊することが出来る

《邪神の大災害》

通常罾

相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。 フィールド上に存在する魔法・罾カードを全て破壊する。

《救済の竜騎士》

通常罾（ユタさん投稿オリジナル）

自分場に「ドラグニティ」と名のついたシンクロモンスターが存在するとき発動できる

墓地から「ドラグニティ」と名のついたチューナーモンスターを一体特殊召喚する

この効果で召喚したモンスターはこのターンシンクロ素材に使用できない

《生者の書 禁断の呪術》

通常魔法

自分の墓地に存在するアンデット族モンスター1体を特殊召喚し、相手の墓地に存在するモンスター1体をゲームから除外する。

《不死のワーウルフ》

効果モンスター（アニメオリジナル）

星4 / 闇属性 / アンデット族 / ATK1200 / DEF600

このカードが戦闘で破壊された時、デッキから「不死のワーウルフ」1体を

自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

この効果で特殊召喚に成功した時、そのカードの攻撃力は500ポイントアップする。

《ドラグニティナイト ガデルグ》

シンクロ・効果モンスター（ユタさん投稿オリジナル）

星7 / 風属性 / ドラゴン族 / ATK2500 / DEF2300

ドラゴン族チューナー+チューナー以外の鳥獣族モンスター一体以上
このカードのシンクロ召喚に成功した時、自分の墓地に存在する「
ドラグニティ」と名のついたモンスターを装備カード扱いでこのカ
ードに装備する事が出来る。

このカードに「ドラグニティ」と名のつくカードが装備されていて、
自分フィールド上にこのカード以外のモンスターが存在しない場合、
このカードは以下の効果を得る。

相手フィールド上に表側表示で存在するモンスターの攻撃力と守
備力は500ポイントダウンする。

《ドラグニティ シンクロン》

チューナー・効果モンスター（ユタさん投稿オリジナル）

星1/風/ドラゴン族/ATK0/DEF0

このカードはフィールド上からのシンクロ素材にできない
墓地に存在するこのカードとこのカード以外のドラグニティと名の
つくシンクロモンスターをゲームから除外する事でこのカードと除
外したモンスターのレベルの合計と等しい「ドラグニティ」と名の
付くシンクロモンスターを特殊召喚する。

この効果で特殊召喚されたモンスターの効果は無効になる
またこの効果で特殊召喚したモンスターが場を離れた場合そのモン
スターの元々の攻撃力の半分のダメージを受ける。

都合上少し効果を変えました。 ユタさん勝手にすみません

《ドラグニティ ミリウス》

チューナー・効果モンスター（ユタさん投稿オリジナル）

星1/風/ドラゴン族/ATK0/DEF0

このカードは「ドラグニティ」と名の付くシンクロモンスターが特
殊召喚されたとき、手札から特殊召喚できる

《ドラグニティパラディン・ガラティン》

シンクロ・効果モンスター（辛味噌さん投稿オリジナル）

星8 / 風属性 / ドラゴン族 / ATK2800 / DEF2000

「ドラグニティ」と名のついたチューナー＋チューナー以外の風属性モンスター1体以上

このカードは炎属性としても扱う。

このカードがシンクロ召喚に成功した時、墓地に存在する「ドラグニティ」と名のついたチューナー以外のモンスターをこのカードに2枚まで装備する。

「ドラグニティ」と名のついたモンスターを装備している場合、自分のターンのみ、このカードは相手プレイヤーの魔法・罫・効果モンスターの効果を受けない。

《風神の号令》

速攻魔法《HEROさん投稿オリジナル》

自分フィールド上の風属性のモンスターを1体指定し、自分フィールド上の風属性モンスターを1体リリースする事で発動できる。

このターン指定されたモンスターはバトルフェイズ時もう一度攻撃する事ができる。

演出上アイコンを変更しました。 勝手に変更してしまって申し訳ありません。

26話：真祖と英雄の決闘の果てに。

（後書き）

* 質疑応答コーナー *

Q：蟹と魔女の娘が完結する…だと？

A：前書き通り8割の確率で終わる予定です。
なので今は未使用カードをどんどん出しています。

Q：炎属性のドラグニティシンクロモンスター…

A：にきにきさんが投稿してくださったシリーズですね。
ドラグニティナイトとは違って武器が遠距離武器になっています。

Q：ゲイボルグ…

A：本作始まってから一度も攻撃していないのですよね…
ノバスターを除いて…
いい加減攻撃させてあげないと…

Q：エクスカリバあー…

A：ネイビーさんには申し訳ないですが、毎回フィニッシュャーにしている皆様これで終わりだとか思われてしまいますので、
偶にはそのまま破壊させたりします。

Q：カミューラの言うあの女って？

A：もうお分かりだと思いますから書きません。

Q：なんかカミューラの発動するカードが“全て”ばかりじゃ…

A：そうですね。 態とです。

Aアニメでも、《幻魔の扉》、《ハリケーン》、《不死の王国ヘルバニア》とフィールド全てに及ぶカードを多く使用していましたので

《邪神の大災害》や《大嵐》、《激流葬》を入れてみました

Q：《生者の書 - 禁断の呪術 -》で除外するカード間違っていない？
A：アニメでも蘇生できる《古代の機械兵士》ではなく、蘇生できない《古代の機械獣》を除外していましたので、ステータスで判断しているのだと思います。

Q：《ドラグニティナイト ガデルグ》への攻撃に対して、《和睦の使者》を使わなかった理由は？

A：遊璃の残りの手札は《風神の号令》だったので是が非でも風属性モンスターを残すプレイをする必要がありました。

Q：BGM古くないか？

A：遊璃に合うBGMが見つからなかっただけです。
申し訳ありません

Q：遊璃結局何回シンクロしているんだ！

A：融合1回のシンクロ6回です。
正直やり過ぎた感が少しありますね。

Q：《ドラグニティパラディン ガラティン》が……

A：精霊ではありませんが、ガラティンはエクスカリバーと対を為す存在と言う設定なので、エクスカリバーを破壊したカミューラに怒気が湧いていたのでしょうか？

Q：あれ？ 悪魔の契約は？

A：デュエルが終わると同時に夜が明けてしまったので話し合いは後日に持ち越しになりました。

Q：最後の台詞は？

A：もう聡明な皆様であれば、お分かりでしょう？

あとはデュエルランサー買った。

カードプールが狭いですが、私のイメージする遊璃にほぼそっくりなアバターがあって少し感動。

そのまま「ゆური」と言う名前でデータつくりました。

勿論使用デッキは【ドラグニティ】です。

…どうでもいいですね。
では。。。

あ、次回の予告を忘れていましたね。

番外編です

コラボです

それだけです

アストラルさんお待たせしました。
ご希望を頂いてから2か月程経ってしまいましたが、やっと執筆まで辿り着きました。

デュエルをするのは遊璃と康太です

ではどうぞ

その前に今回の最強カード

《トラゴエディア》

効果モンスター

星10/闇属性/悪魔族/ATK?/DEF?

自分が戦闘ダメージを受けた時、このカードを手札から特殊召喚する事ができる。

このカードの攻撃力・守備力は自分の手札の枚数×600ポイントアップする。

1ターンに1度、手札のモンスター1体を墓地へ送る事で、

そのモンスターと同じレベルの相手フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体のコントロールを得る。

また、1ターンに1度、自分の墓地に存在するモンスター1体を選択し、

そのターンのエンドフェイズ時までこのカードは選択したモンスターと同じレベルにする事ができる。

遊璃『戦闘ダメージを受けると手札から出てくるモンスターね。』

瑞波『攻守は不安定だけど、効果が強力。』

遊璃『うん、どちらの効果もシンクロ召喚には欠かせないものね。』

5 / 9 文章補足

side yuri

「……寝不足ね。不動さん、最近まともに寝てないでしょう？」

鮎川先生にそう指摘され、私は思わず頷いてしまう。

寝不足の原因はカミューラさんだ。

彼女は吸血鬼なので夜行性。

だから必然的に話し合いは夜になる。

なので私も必然的に生活リズムを崩してしまったのだ。

そして今日、保健体育の授業中に私は倒れてしまった。

今は瑞波達に運ばれた保健室で鮎川先生の診断を受けているの。

・
・
・

あの後、鮎川先生に暫く保健室で寝ていなさいという指示を受け、私はぐっすりと寝ていた。

そして目覚めた時は既に夕方。

時計を見ると既に下校時刻を過ぎていた。

私は慌てて起き上がり、保健室の利用者名簿に名前などを書き込み、そこを後にした。

そして時は流れ、日曜日

私はここ数日で元に戻した生活リズムの通り、5時に起床した。

それから今日の瑞波と温泉に行くという約束の為に準備を整え、朝食を採り寮を出た。

・
・
・

お知らせ

戒鷺「これより暫く入浴シーンとなります。R指定ギリギリ(下手すると駄目かも…)でこの小説はやっていきますが、踏み込むつもりはないので音声のみでお楽しみください」

お知らせ終わり

入浴シーン

『うん。気持ちいいね』

『そうだな』

・
・
・

バチャバチャ

『キャツ…瑞波止めてよ』

『だが断る！ …それに止めてって言われると尚更やりたくなる！
食らえ！』

『ヤツ！』

・
・
・

『はあ、楽しかったね！』

『だな！ また来ような！』

「いや〜賑やかじゃったのう〜」

『『えっ！？』』

「元気な女子を見たのは久しぶりじゃ〜」

『『キヤアアアアア！！！！！』』

「これこれ待たんかい！ ……って行ってしまったのう…仕方ない。
無理矢理じゃが…」

入浴シーン終了

女湯で急に話しかけてきたのは《氷結界の龍トリシューラ》だった。

…私達は脱兎の如く急いで脱衣所まで行き、速攻で着替えてから再び風呂場を覗く。

すると《氷結界の龍トリシューラ》は、いなかった。

私と瑞波はお互いに顔を見合わせ、見間違いじゃないよね？と視線を交わす。

そしてお互いに見間違いだと思ったのか、頷きあった。

その瞬間

「戻ってきたな。 ……じゃあ、いただきます！」

パクッ

こうして私たちの意識はブラックアウトした。

s i d e o u t

s i d e k o t a

・氷結界の里・風華の家・

うーん、よく寝た。

最近沙也加が安眠させてくれないから久しぶりに安眠できた気がするな。

さて、ワームとの戦いで壊れた里の復興をしないとな。

今日は体力もあるし手伝うか！

俺はそう考えると、沙也加に見つからないように風華の家を出た。

・
・
・

ガヤガヤ

ん？ トリシューラの住処の方が騒がしいぞ？

どうしたんだ？

俺は騒動が気になって近くを通りかかった里民に聞く。

『どうしたんだ？』

「あ！ 康太さん。今呼びに行こうと思っていたんですよ。実はトリシューラ様が…」

俺が話しかけた人の話をまとめると…

俺たちとワームの戦いがあった。

ライホウが戦の途中にトリシューラの干し肉を輸入できなかった。

俺が意識を失っていた間は里に貯蔵していた干し肉で何とかなっていたが、

つい数日前に貯蔵がなくなった。

ライホウは急いで準備したかったが、どこも戦の爪痕の復興作業中で交易をする所ではない。

そして昨日の夕方に干し肉が食べられなくなったトリシューラが遂にキレて、突然いなくなった。

今朝咆哮が聞こえ、帰ってきたと思ったライホウが狩猟で手に入れた干し肉を持っていく。

ライホウがそれを持っていったら、トリシューラの住処には今にも人間を食べそうなトリシューラがいた。

ライホウが人間を食べようとしていたトリシューラを止め、干し肉と交換する。

保護した2人の内、片方の人間が目を覚まし、現在に至る

ざっとこんな感じだ。

それで人間同士なら話が通じるだろうと思って俺を呼びに来たところで俺と鉢合わせしたって訳。

因みに話の流れで大体わかったと思うけど、呼び止めた奴はライホウだ。

じゃなきゃそこまで詳しく知ってないと思うしな！

って、呑気に解説している暇なんてなかったな！

早速件の2人に会いに行ってみますか！

俺は早速ライホウに案内させるように言って、案内をもらった。

・
・
・

会いに行ってみるとそこには既に《氷結界の風水師》こと、風華がいた。

だけど、なんでかそわそわしている。

俺はどうしてそわそわしているのか風華に聞くべく、話しかけた。

『おい、風華。何をしているんだ？』

「あ、康太さん。実はトリシューラ様の連れてきた人たちなのですが……」

『どづした？』

俺が風華に話しかけると風華は困惑した顔つきになり、口を開いた

「…兎に角会ってみてください。途中で説明しますから！ さあ、こっちですよ」

『あ、ああ。』

俺は風華の案内の元、仮設テントの中へと入った。

side out

side yuri

ここは何処？

確かトリシューラに入浴中を覗かれて…

瑞波と一緒に急いで着替えたのよね？

でもその後…

と私が少し前の事を思い出そうと体を起こすと、隣には瑞波がいた。

『！ …瑞波。 ねえ！ 瑞波！ 起きて！』

『…』

私がつい大きかったと後で思うくらい大きな声を出して瑞波に呼びかけるが、全く返事を返さない。

呼吸はしているから死んではないんだけど…

私は瑞波が起きないという事と、今いる場所が分からないという2

つの事象に苦しめられていた。

そんな時、

「

」

私たちのいる場所に一人の女性が入ってきたのは。

そして女性が話しかけてきたが、

その言葉に私は全く覚えがなかったので別の言葉で返してみることにした。

『Where is this?』

そう返すと入ってきた女性は慌てだし、外に行ってしまった。

私は言葉が通じないとはいえ、折角の話し合えるチャンスを逃したことに落ち込んでしまった。

・
・
・

30分？ いや1時間は裕に経った頃、先ほどの女性が黒髪で顔の整っている男性を連れてきて戻ってきたのは…

そしてその男性は間違いなく私たちに通じる言葉で

『あ、あ、言葉、通じているか?』

と言った。

私はそれによつて今までに積み重なつた不安が一気に解放されたのか、
目から止めどなく涙を流した。

side out

side kota

なんでだ？ どうしていきなり泣き出した？

俺は困惑すると同時に2つの事を思い浮かべていた。

1つは案内される途中の風華の説明。

風華の説明によると、目を覚ました女子と言葉が通じないらしい。
だから俺を呼んだと言ってきた。

でもどうして風華の日本語が通じなくて、俺のは通じたんだ？

と俺は考え、心の内で苦笑した。

2つ目は今この場にはいないが、現状一番会いたくない人物ベスト
1位

俺の恋人の沙也加の事だ。

この瞬間絶対に沙也加が見ていたら

『あゝ…康太さんどうして女の子を泣かせているのですか!？
どうして泣かせているのか的な事』

を言われるに違いな……

って沙也加の声がしたような気がするんだが……気のせいか？

俺は恐る恐る後ろを振り返ってみる……

するとそこには……

気のせいであって欲しかった人物 沙也加がいた。

そして

『 ……もしかして康太さん、g…(ムグムグ…ん〜ん〜) 』

沙也加が恐らくは勘違いだと思つ言葉を発する前に俺は沙也加の口を塞いでいた。

•
•
•

(説得中)

•
•
•

『 なんだ康太さん早く言つてくださいよ〜 』

『 沙也加がいきなり勘違いしただけじゃないか! 』

あれから大体半刻程かけ、ようやく沙也加を説得することが出来た。
因みにこんなにも時間がかかった訳は沙也加が途中で

『康太さん、私の事は遊びだったのですね…グスッ』

なんて言って嘘泣き(?)をしだしたからだ。

…流石に知らない人の前であんなことをする訳にかなかったから
言葉のみで説得したが、それが返って時間をかけさせたという訳だ。

さて、沙也加の誤解も解けたし、さっきの女子に話しかけるか！

俺はそう決断してさっきの子の方を向く。

するとそこには…さっきの女子(というか何時の間に泣き止んだん
だ?)と

俺達の話声で起きたのか、もう1人の女子が目を覚ましていて、2
人で真剣な顔つきをして話していた。

てか、何でデュエルディスクを起動させているんだ？

俺は疑問を感じつつも、話を進める為に空気を読まないで2人に話
しかけることにした。

『あの〜……』

side out

s i d e y u r i

あ、うつかりしたわ。

あんなにも泣いてしまうなんて…

私は先ほどの行動を恥じると共に現状を把握することに努めた。

現状…はさつき入ってきた男性がその後に入ってきた女性を説得しているのかな？

そして最初に入ってきた女性は存在を忘れている感じかな？
出来れば一緒に話したいけれど、言葉が通じないのでは…ね。

と現状を把握し、これからの事を考え始めた時だった。

『ん、ううん…』

瑞波が呻き声を出し、起き上がったのだ。

私はすぐさま瑞波の意識を覚醒させるべく傍により、話しかけた。

『…瑞波、瑞波ってば！』

勿論3人に気付かれないように最小限の声だ。

それを数回繰り返すうちに、

『ん、ここは……』

瑞波が目を覚まし、声を発したので…

『分からないわ。 多分拉致されたのか、誘拐されたのかでしょうけど…』

『…えっ!?!』

私が予想を言うと、瑞波は目を見開き、大声を上げようとした。

流石に今気付かれるのは拙いと瞬時に私は判断し、
瑞波の口を塞ぎ、小声で話しかけた。

『…今気づかれるわけにはいかないわ。 さっき試したけれど、P
DAも生徒手帳も機能しないわ。 多分電波のないところなのかも
…』

私は最初の女の人が来たあとに試したことを瑞波に言うと
瑞波も漸く事態を理解したのか真剣な顔つきになる。

そして私たちは少しの間、脱出の為の作戦会議に入るのだった。

・
・
・

『……これでいい?』

『いいぞー!』

私たちの作戦はこうだ。

出口は男の人と女の人が話している後ろにある。

2人は無防備だし、余程騒ぎ立てなければ問題なく脱出できる。

問題は途中に立ちほだかっている女性だ。

私はそれについては考えがあると言い、何故か持っていたデュエルディスクを起動した。

そして瑞波とタイミングを計り、一気に行こうとした瞬間だった。

『あの〜 すまん。』

いきなり男性が話を止めたのか、いつの間にか私達に近づいていたのだ。

良く見れば、もう1人の女性も近くに来ていた。

私は気付かれては2人揃ったの脱出は無理だと判断し、両手を上げ、

『好きにきなさい！ 抵抗はしないわ。 だから瑞……もう1人の子は助けて』

と言った。

それに対して少しの間沈黙が走る。

そして

『ハア？』

近寄ってきた男女2人が同時に首を傾げた。

それで私は初めて今までの拉致や誘拐が勘違いだと理解したのだ
た。

・
・
・

「ハハハハハ！」

「もう康太さん笑いすぎですよ！」

「…だって拉致に誘拐だと思っていたなんてな。ハハハ…」

「もう、仕方ないじゃないですか！」

その後、私達2人は先程の男性 高嶺 康太さんとあとから来た女
性 藍沢 沙也加さんと《氷結界の風水師》こと風華さんと瑞波を
交えた5人で談笑していた。
因みに風華さんの言葉が通じないので藍沢さんが仲介役をしてくれ
ている。

今はつい先程の私の行動に高嶺君が吹き出して笑っているところだ。

そして、4人で暫く談笑した後に私たちの現状の説明に入る。

そして説明が終わると同時に沙也加さん（途中で許可をもらった。

その時についてに康太君も）が…

康太君に拳骨を噛ました。

『痛ッだああああああ……』

『康太さん、諸誘拐じゃないですか！ 笑い事じゃないでしょう？ 謝りなさい』

『で、でも……』

『何？』

『……は、はい。 本当にすみませんでした ！』

沙也加さんの説教に康太君が弁明しようとするが、一瞬で黙らされた。

そしていつの間にと思える速度で康太君はジャンピング土下座をしてきた。

私は話を聞いた限りでは康太君に非はないので恐らくはさっきの笑ったことに対する謝罪だと理解し、

『いえいえ、謝っていただければ大丈夫ですよ』

と返し、その後

『どうすれば私たちは元の世界に帰ることが出来るのでしょうか？』

と聞いた。 因みにそれはすぐに沙也加さんが風華さんに伝える

すると風華さんが何かを沙也加さんに言う。

それを聞いた沙也加さんが私達に言う。

『元凶のトリシューラ様に聞きに行けばいいのでは？ と風華さんが言っています。』

『『成る程！』』』

私と瑞波、康太君がそれに賛成する。

…それにしてもどうにかならないかな…この会話方法。

・
・
・

そして移動する事十数分、私たちはトリシューラの住処に着いたのだが…

『…な、何で寝てるんだ！ トリシューラー！』

康太君が叫び声を上げる。

康太君の言う通りだ。

すると沙也加さんが私たちの方を向いて口を開く

『トリシューラは干し肉を食べるとすぐに寝てしまいますから…それに寝ると余程の事がない限り起きません…』

『じゃあ、どうすれば起こせるのでしょうか？』

それを聞くと沙也加さんは康太君の所に行って聞き始め、それを聞

いた康太君もこっちに戻ってきた。

『トリシューラを起こすには…干し肉を与えるか、里の危機が迫るか、デュエルで召喚するしかないな!』

そして康太君がトリシューラを起こす方法を言い、少し考え始める。そして

『前者2つは絶望的だからデュエルしかないだろう。……それでこの中でエクストラデッキにトリシューラを入れているのは俺以外にいるか?』

と尋ねてきた。

手を上げたのは私だけだった。

『何! 遊璃だけか……じゃあ俺とデュエルだ。いいな?』

まさかの人数の少なさに康太君は驚き、その後で私にデュエルを申し込んでくる。

私は当然元の世界に帰らなくてはならないので

『望むところです。』

と答えた。

s i d e o u t

n o s i d e

寝ているトリシューラを挟んで遊璃と康太の2人は距離を取り、他の3人はトリシューラの前に移動する。

「グウ……」

『デュエル！』』

「グオ……」

そしてトリシューラの躰の合間にデュエルが始まった。

遊璃：LP / 4000 vs 康太：LP / 4000

『迷惑かけたからな。先攻は譲るぜ！』

『じゃあ遠慮なく。私のターン、ドロー！』

康太が遊璃に先攻を譲り、それを遊璃は遠慮なく受けた。そして遊璃はいつものように直立の体制でカードをドローし、6枚の手札を眺める。

『私はモンスターをセットし、カードを2枚セット。ターン終了です。』

遊璃の場に3枚の裏側表示のカードが現れ、遊璃はターンを終了した。

遊璃：LP / 4000

モンスター：1枚

魔法・罾：2枚

手札：3枚

フィールド：なし

適用効果：なし

『俺のターン！ ドローだ！』

康太は遊璃とは対照的に豪快にカードをドローする。

そして同じく遊璃のように考えるのかと思いきや、手札を一瞥しただけで行動を起こした。

『俺は《アイスブースト》を発動！ 手札の水属性モンスター3体を墓地に送り、デッキから3枚のカードをドローする！』

康太がいきなり発動したのは墓地を肥やしつつドローを加速させるカード。

遊璃はそれを無効にすることが出来ずに通した。

康太は3枚ドローした後に5枚になった手札を眺め、1枚のカードを取り出す。

『《氷結界の騎士》を召喚！ このカードは1ターンに1度相手モンスターの表示形式を変更できるんだ！ その裏守備モンスターを表側攻撃表示に変える。』

『えっ！？』

康太の場に雪結晶の盾と氷柱の剣を持ち、水色の鎧で全身を覆った

騎士が現れた。

《氷結界の騎士》：ATK/1700

そしてその騎士が氷柱の剣を振り下ろすと遊璃の場に地中から氷柱が生えるという摩訶不思議な現象が起こり、遊璃の裏守備表示のモンスターを攻撃表示に変えた。

さて、遊璃が伏せていたモンスターは……

『伏せていたモンスターは……《シールド・ウィング》です。』

遊璃の場に氷柱によって動きを封じられた緑色の羽を持つ翼竜が現れる。

《シールド・ウィング》：ATK/0

それを見た康太は笑みを深めた。

『これはこれは……いいサンドバックに出来そうだな。《氷結界の騎士》で《シールド・ウィング》を攻撃!』

氷柱の剣を持った騎士がフィールドを滑走し、《シールド・ウィング》に氷柱の剣を突き立てる。

しかし、それは突如現れた修道服を着た数人の女性に阻まれた。

『何!?!』

『畏カード《和睦の使者》を発動しました。よってこのターンに

私の受けるダメージは0です。』

康太の攻撃は遊璃の畏によって防がれた。

それを見た康太は軽く舌打ちをして、メインフェイズ2へとフェイズを移した。

『カードを1枚伏せてターンエンド!』

『ではこの瞬間! もう1枚の伏せカードを発動! 《ゴットバードアタック》! 私は《シールド・ウイング》をリリースして、康太君の伏せカードと《氷結界の騎士》を破壊します。』

《シールド・ウイング》の羽が激しく燃え上がり、《シールド・ウイング》を捕えていた氷柱を溶かした。

その後、羽の熱さに我慢の限界が来たのか《シールド・ウイング》が康太の場へと滑空していき、

その途中で康太の2枚のカードを焼き払い、《シールド・ウイング》が燃え尽きた。

康太：LP / 4000

モンスター：なし

魔法・罫：なし

手札：3枚

フィールド：なし

適用効果：なし

『私のターン!』

遊璃は自分が状況的に有利だと思うが、決して油断することなくカードを引いた。

そして4枚の手札から最善のカードを選び出す。

『私は、手札から《ドラグニティ レーダー》の効果を発動します。このカードを墓地に送ることでデッキからフィールド魔法《竜の渓谷》を手札に加えます。そして《竜の渓谷》を発動!』

遊璃が手札からモンスターを墓地に送るとデッキに線が入り、1枚のカードをデッキから押し出す。

遊璃はそれを手札に加え、すぐに発動した。

するとフィールドはトリシューラの周り以外を夕日の映える渓谷に変えた。

だがその瞬間、風華の様子が急変した。

```
「 Dragon Valley .
Dragon Valley .
Dragon Valley .
Dragon Valley .
Dragon Valley .
Dragon Valley .
.....」
```

その様子に遊璃が反応し、

『あの、風華さんはどうしたのですか?』

『ああ、あいつは《竜の渓谷》というか「ドラグニティ」にトラウマがあってな。悪いが、ちょっと中断していいか? 風華を落ち着けてくる。』

康太は遊璃の質問に答えつつ、中断を申し出、遊璃はそれを承諾した。

・
・
・
(康太、風華を落ち着ける)

『あゝ、服が汚れた。』

「
o s h i
H u t

康太は何とか風華を落ち着けることに成功するも、風華に泣き着かれ、それを包み込んだ上着は濡れてしまった。

康太はそれで少し落ち込み、風華は90°腰を曲げている。
∴ 格好からして謝っているようだ。

遊璃がそれを遠目に理解した頃、康太はいつの間にか遊璃の正面の位置に戻っていた。

『中断して悪かったな。再開しようぜ！』

『はい。私は《竜の渓谷》の効果を発動！手札からを1枚捨ててデッキから《ドラグニティ ファランクス》を墓地に送ります。』

更に《強欲な壺》！ デッキから2枚のカードをドロー！』

遊璃は手札を1枚墓地に送り、デッキサーチ機能で飛び出した1枚のカードも墓地へと送った。

その直後に発動したカードで2枚のカードをドローした。

そして3枚の手札の内1枚をデュエルディスクにセットした。

『《ドラグニティ レギオン》を召喚。 その効果で墓地の《ドラグニティ ファランクス》を装備！』

遊璃の場にファイティングポーズをとった緑色の仮面を被る鳥人が現れると

その後ろに二股の槍を頭に取り付けた青い竜が現れた。

《ドラグニティ レギオン》：ATK/1200

『そして《ドラグニティ ファランクス》を自身の効果で特殊召喚！』

《ドラグニティ レギオン》の背後で戦況を窺っていた《ドラグニティ ファランクス》が戦場に出陣する。

《ドラグニティ ファランクス》：ATK/500

『バトルよ！ 《ドラグニティ レギオン》で直接攻撃！』
ダイレクトアタック

《ドラグニティ レギオン》が康太の前まで飛び、拳打を浴びせる

『クッ……だが、自分が戦闘ダメージを受けた時、手札の《トラゴ

エディア』を特殊召喚できる!』

康太：LP / 4000 2800

康太はダメージを負うが、そのダメージが黒い塊となり、やがて殆どが黒一色で塗られた巨体を持つ化け物に変わった。

《トラゴエディア》：DEF / ?

『守備力が……!』

観戦していた瑞波から疑問が漏れるが、それを康太はすぐに返答することで返した。

『《トラゴエディア》の攻撃力と守備力はプレイヤーの手札の枚数×600となる。今俺の手札は2枚。よって1200だ。』

《トラゴエディア》：DEF / ? 1200

遊璃は自分の《ドラグニティ ファランクス》では倒せない攻撃力を持つモンスターだと

理解すると同時にバトルフェイズを終了し、エクストラデッキを見て1枚を取り出した。

『私はレベル3の《ドラグニティ レギオン》にレベル2の《ドラグニティ ファランクス》をチューニング!』

その言葉と共に《ドラグニティ レギオン》が飛び立ち、その周りを2つの輪となった《ドラグニティ ファランクス》が通り抜ける。

そして辺りが翡翠色の光で満たされる。

『秘境の竜騎士が勇気を持って、緑盾を握りし時、仲間を救う光となる。戦場を鎮める風となれ！ シンクロ召喚！ 飛翔せよ！』
《ドラグニティナイト イー吉斯》！』

少し経って翡翠の光が収まると遊璃の場に小柄な翡翠色の竜の上に乗った、緑の鎧を纏った小柄な少年騎士がエメラルドで出来た巨大な盾を持っていた。

《ドラグニティナイト イー吉斯》：DEF / 1500

『…なんか《スターダスト・ドラゴン》に似た感じがするな！』

『…そうですね。ありがとうございます。』

康太は遊璃がシンクロ召喚したモンスターが《スターダスト・ドラゴン》に似た雰囲気を持っていると言い、遊璃は遊星のエースモンスターと雰囲気似ていることを言われたことに嬉しくなりお礼を言った。

その後、手札のカードを全てデュエルディスクにセットする

『カードを2枚セットし、ターンエンドです。』

こうして遊璃の先制攻撃は決まったターンは幕を閉じた。

遊璃：LP / 4000

モンスター：《ドラグニティナイト イーゼス》（D1500）

魔法・罫：2枚

手札：0枚

フィールド：《竜の渓谷》

適用効果：なし

『俺のターン！』

康太は先ほどのターンと同じく、豪快にカードを引く。

そして引いたカードをすぐに発動した。

『俺も《強欲な壺》を発動！ デッキからカードを2枚ド…』

『ッ！ させません！ 罫カード《ドラグニティ・ジャマー》を発動！ 墓地の《ドラグニティ レギオン》と《ドラグニティ レーダー》をゲームから除外し、《強欲な壺》を無効にします！』

『クソッ！』

康太はドローした《強欲な壺》で手札を増やそうと試みるが、遊璃の方が1枚上手でそれを無効にされてしまった。そのせいか康太は悪態をつく。

だが、康太もここで終わるようなデュエリストではない。

すぐに立ち直ると残りの手札2枚から出来うることを考え、1枚の手札を取った。

『なら、《アイスカーペット》を発動するぜ！ 1ターンに1度、

俺は「氷結界」と名の付くモンスターを墓地から特殊召喚できる。』

《トラゴエディア》：DEF/1200 600

『……（発動タイミングを間違えたかしら？）』

康太が新しく発動したカードは1ターンに1度墓地からモンスターを特殊召喚できる永続魔法だった。

遊璃はその効果を聞いてから自分が無効にするべきカードを間違ったのか？ と考える。

…どちらかと言えば間違っていたのだが……

そして《アイスカーペット》の効果が無効にならなかったことを感じ取った康太は更に行動を起こした。

『俺は《アイスカーペット》の効果で墓地から《氷結界の守護霊》を特殊召喚する！』

康太の場に氷のカーペットが敷かれ、そこから下半身が幽霊のようになく、

上半身が半透明で小さな盾を持った人型のモンスターが現れた。

《氷結界の守護霊》：ATK/1000

『…いつの間に……ハッ！』

『そうさ、俺が最初に《アイスブリスト》の効果で墓地に送ったカードだ。』

遊璃は見覚えのないカードが墓地から出てきて驚いた。しかし、その謎が解決するのと康太が種明かしをするのは同時だった。

そして康太は遊璃に因縁の深いモンスターを召喚する手筈を整える。

『更に《トラゴエディア》のモンスター効果を発動！ 墓地のディマク……基、《氷結界の虎将ガンターラ》を指定し、エンドフェイズまでレベルをコピーするぜ！』

康太が墓地のモンスターを指定すると、《トラゴエディア》がドロドロに溶け、

やがてその姿は上半身が裸で下半身に腰布を巻いただけの男性の姿に変化を遂げた。

《トラゴエディア》：

『そしてレベル7となった《トラゴエディア》にレベル1の《氷結界の守護霊》をチューニング！』

黒い躰の男性の周りを《氷結界の守護霊》が輪へと変化しながら囲み、1つの光の柱と化した。

+

『現れよ！ 《スターダスト・ドラゴン》！』

光の塔を破って現れたのは、白い巨体に所々翡翠色の部位を持ち、星屑を身に纏っているような龍だった。

《スターダスト・ドラゴン》：ATK/2500

『……やっぱりパパのカード。異世界の人は皆持っている……（ボソ）』

『ん？　なんか言ったか？』

遊璃は異世界の人とデュエルをする度に《スターダスト・ドラゴン》を見かけているので

異世界の人は皆《スターダスト・ドラゴン》を持っていて羨ましいなどと言う感情が膨れ上がるが、何とか抑え込んだ。そして康太には

『いえ、なんでもありません』

『…そうか。』

と返し、康太も気になるところはあったが、気にしないようにした。

『バトル！　《スターダスト・ドラゴン》で《ドラグニティナイト イージス》を攻撃！』

『…罨カード《バスター・モード》を発動！』

『何！？　《バスター・モード》だと？』

康太は早速召喚した《スターダスト・ドラゴン》で攻撃を仕掛けるが、遊璃は更に1枚の罨カードで対抗する。

すると《ドラグニティナイト イーゼス》の周辺に翡翠色の結晶が数えきれなくらい浮き上がり、それが《ドラグニティナイト イーゼス》に取り込まれ、《ドラグニティナイト イーゼス》は翡翠色の光に包まれた。

* Assault Mode Activate *

《ドラグニティナイト イーゼス》

/ / / / / / / / / / / / / / / /

Assault Mode

/ / / / / / / / / / / / / / / /

《ドラグニティナイト イーゼスノバスター》

『降臨せよ！ 《ドラグニティナイト イーゼスノバスター》！』

遊璃のその言葉と共に翡翠色の光が辺りに解き放たれた。

そして翡翠色の光の中心には、

《ドラグニティナイト イーゼス》の小柄な竜を成龍に、乗っていた子供の竜騎士を青年に成長させた姿のような竜騎士が存在し、その竜の翡翠色の翼からは康太の場の《スターダスト・ドラゴン》の羽から零れ落ちる光の粒のような物が放出されていた。

《ドラグニティナイト イーゼスノバスター》：DEF / 3000

『綺麗だな……でも硬え！』

康太は《スターダスト・ドラゴン》を上回る守備力のモンスターを出されて、思わず叫び声をあげた。

…その時、

『…《ドラグニティナイト イージスノバスター》の効果を発動！
このカードの特殊召喚に成功した時、ゲームから除外されている
「ドラグニティ」と名の付くモンスターを2体まで特殊召喚するこ
とが出来ます。 私は《ドラグニティ レギオン》と《ドラグニテ
ィ レーダー》を特殊召喚！』

遊璃が《ドラグニティナイト イージスノバスター》の効果を宣言
すると、

遊璃の場に2つの翡翠色の光球が浮かび上がり、
それが2体のモンスターとなった。

1体は先ほど遊璃がシンクロ召喚に使用した《ドラグニティ レギ
オン》。

もう1体は遊璃が《竜の渓谷》を手札に加えるために墓地へと送っ
た黒色で平べったい体に所々線の入っている《ドラグニティ レー
ダー》だった。

《ドラグニティ レギオン》：DEF/800

《ドラグニティ レーダー》：DEF/1000

『でも新しく召喚されたモンスターなら倒せるぜ！ 《スターダス
ト・ドラゴン》で《ドラグニティ レギオン》を攻撃！』

康太の《スターダスト・ドラゴン》がその口に白っぽい塊を溜め、
それを一気に放った。

…《ドラグニティ レギオン》に迫るシューティング・ソニック。
遊璃はフィールドでは有利とはいえ、康太に流れを握られている。
さてこのデュエルの勝敗は。

そして遊璃と瑞波は無事に帰れるのか!?

・・・T o b e c o n t i n u e d

* 今回の新規登場カード*

《アイスブースト》（アストラルさんの作品のオリカ）
通常魔法

手札の水属性モンスターを3枚捨てる事で3枚ドロ―する。

《氷結界の騎士》（アストラルさんの作品のオリカ）
効果モンスター

星4 / 水属性 / 戦士族 / ATK1700 / DEF1000
1ターンに1度、相手モンスター1体の表示形式を変更する事が出
来る。

《トラゴエディア》

効果モンスター

星10 / 闇属性 / 悪魔族 / ATK? / DEF?

自分が戦闘ダメージを受けた時、このカードを手札から特殊召喚する事ができる。

このカードの攻撃力・守備力は自分の手札の枚数×600ポイントアップする。

1ターンの1度、手札のモンスター1体を墓地へ送る事で、そのモンスターと同じレベルの相手フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体のコントロールを得る。

また、1ターンの1度、自分の墓地に存在するモンスター1体を選択し、

そのターンのエンドフェイズ時までこのカードは選択したモンスターと同じレベルにする事ができる。

《ドラグニティナイト イーゼス》

シンクロ・効果モンスター（湊クレナイさん投稿オリジナル）

星5 / 風属性 / ドラゴン族 / ATK1000 / DEF1500

『ドラグニティ』と名のつくチューナー1体+チューナー以外の『ドラグニティ』と名のつくモンスター1体以上

このカードがシンクロ召喚に成功した時、除外された『ドラグニティ』と名のつくモンスターを二体手札に戻す。

フィールドの『ドラグニティ』と名のつくモンスターがカード効果で除外または破壊されるとき、このカードをリリースする事でその破壊、または除外を無効にする事が出来る。

この効果でこのカードがフィールドから離れたターンのエンドフェイズ、手札の『ドラグニティ』と名のつくモンスターを1体墓地に送る事でこのカードを墓地から特殊召喚する事が出来る。

《アイスカーペット》（アストラルさんの作品のオリカ）

永続魔法

1ターンに1度、墓地の「氷結界」と名のつくモンスターを特殊召喚出来る。

《氷結界の守護霊》（アストラルさんの作品のオリカ）

チューナー・効果モンスター

星1 / 水属性 / 戦士族 / ATK1000 / DEF1000

このカードをシンクロモンスターのシンクロ召喚に使用され墓地に送られたターンに墓地に存在する

このカードをゲームから除外する事出来る。

この効果でこのカードがゲームから除外された場合、次のターンのエンドフェイズ時まで、

フィールド上の氷結界と名のつくシンクロモンスターは破壊されない。

《氷結界の虎将 ガンターラ》

効果モンスター

星7 / 水属性 / 戦士族 / ATK2700 / DEF2000

自分のエンドフェイズ時、自分の墓地に存在する

「氷結界の虎将 ガンターラ」以外の「氷結界」と名のついたモンスター1体を選択して特殊召喚する事ができる。

この効果は1ターンに1度しか使用できない。

《ドラグニティナイト イージスノバスター》

効果モンスター（湊クレナイさん投稿オリジナル）

星10 / 風属性 / ドラゴン族 / ATK2000 / DEF3000

このカードは『バスターモード』とこのカード自身の効果でのみ特殊召喚する事が出来る。

このカードが『バスターモード』の効果で特殊召喚に成功した時、除外されている『ドラグニティ』と名のつくモンスターを2体まで特殊召喚出来る。

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、相手はこのカード以外の『ドラグニティ』と名のつくモンスターを攻撃対象にする事が出来ない。

自分フィールド上の『ドラグニティ』と名のつくモンスターが除外、または破壊される時、このカードをリリースする事でその除外、または破壊を無効にする事が出来る。

この効果を使ったターンのエンドフェイズ、手札の『ドラグニティ』と名のつくモンスターを1体、墓地に送る事で墓地に存在するこのカードを特殊召喚する事が出来る。

このカードが破壊された時、墓地に存在する『ドラグニティナイト・イージス』を特殊召喚出来る。

R指定に触れない程度にアストラルさんの作品のキャラの個性を生かすなんて難しすぎましたw

OCGに例えると全盛期のIFとかBFに長作vs万丈目の時の万丈目のデッキで挑むくらい無謀でしたw

そのせいでこんなにクオリティの低い話になってしまった。アストラルさんとその他の読者の皆様、申し訳ありません。

質疑応答コーナー

Q：瑞波って精霊見れたっけ？

A：番外編だけの特別設定の予定です。

Q：トリシューラ何やってんだw

A：覗きです。しかも周りからは姿が見られないから「堂々と」を付け足した酷いものです。

Q：トリシューラは何で干し肉が好物？

A：そこら辺の設定はアストラルさんの小説の設定を持ってきただけなのでよく分かりません。

Q：言葉がw

A：ネタですのでスルー推奨。

Q：結局、意味は？

A：風華が「起きましたか？」

遊璃が「ここは何処？」です。

見事に噛み合っていないですね・・・

デュエル中のは「竜の渓谷怖い竜の渓谷怖い…」「ごめんなさい、康太さん」です

Q：作者はロシア語分かるの？

A：いえ、さっぱり。

翻訳サイトに突っ込んだだけです。

Q：沙也加は何と勘違いしたの？

A：確か刑法第22章第177条…だった気がします。

Q：口は何で塞いだんだ！

A：普通に手ですよ？ 男としては口の方がいいのかもしれませんが、

アルトラルさんの小説の形状からしてアレになる可能性が高いので…

1113

Q：なんで脱出ミッション的な？

A：1回やってみただけです。

やる前に終了しましたが…

Q：つかテント広くな？

A：ご都合主義という事で…

Q：遊璃の考えて？

A：入ってくる一瞬で最初の女性を《氷結界の風水師》だと見破りました。

その為、同じデュエルモンスターズで手持ちのミリトゥムを召喚すれば対抗できると考えました。

Q：《氷結界の騎士》の効果のようなモンスターって表側表示しか

対象に出来ないのでは？

A：不明。 効果を見た感じ、表示形式（表裏を問わず）を変更すると読み取りました。

違うのであれば《シールド・ウィング》を表側守備で召喚させるだけです。

Q：スターダストの口上は？

A：私が確認した限り、康太はDDBと切り札以外の口上は言っていないです

Q：《スターダスト・ドラゴン》と《ドラグニティナイト イージスノバスター》って狙った？

A：狙いましたよ。 両方揃ったら綺麗だと思ったので…

Q：えw 途中で切るのかいw

A：前後編の方が楽しいじゃないですか（え

番外編・コラボ・ 遊戯王デュエルモンスターズGXの氷のデッキの使い方

前回の続きです。

あと「そして」を使い過ぎていた気がするので今回は減らして、地の文でなるべくキャラの動きが明確にわかるようにしてみました。

あとはもうすぐPV200000を越えるので一般感想を試しに解禁してみます。

一般の方のオリカや注意事項については後書きに書きますので、もし一般の方で感想を書いてくださる方がいらっしゃるのであれば、後書きの最後の1文字までしっかりと読んでください。

……では

っと、今回の最凶カード（字は間違っていないですよ？）

《ダーク・ダイブ・ボンバー》

シンクロ・効果モンスター

星7 / 闇属性 / 機械族 / ATK 2600 / DEF 1800

チューナー + チューナー以外のモンスター1体以上

自分フィールド上に存在するモンスター1体をリリースして発動する。

リリースしたモンスターのレベル×200ポイントダメージを相手ライフに与える。

遊璃『……（ポカーン）』

ミリ『………』

遊璃『なんで……なんでこれが最強カードなのよー！……！』

ミリ「……まあ、理に適ってはいる。うむ。」

という訳で今回の最強カードは……

あの《混沌帝龍・終焉の使者》の禁止カード行き日数を200日
近く破った

最悪の禁止カードでした。

…ライフ4000でこねって……はあ

番外編・コラボ・遊戯王デュエルモンスターズGXの氷のデッキの使い方

フィールドのおさらい

遊璃：LP/4000

モンスター：《ドラグニティナイト イージスノバスター》(D3000)、《ドラグニティ レギオン》(D800)、《ドラグニティ レーダー》(D1000)

魔法・罫：なし

手札：0枚

フィールド：《竜の渓谷》

適用効果：なし

康太：LP/2800

モンスター：《スターダスト・ドラゴン》(A2500)

魔法・罫：《アイスカーペット》

手札：1枚

フィールド：《竜の渓谷》

適用効果：なし

ターン：康太

フェイズ：バトルフェイズ

n o s i d e

康太の《スターダスト・ドラゴン》の攻撃が遊璃の《ドラグニティ レギオン》に迫る。

・ ・ ・

しかし、その攻撃は突如割り込んだ翡翠色の盾を構える竜騎士に遮られ、康太へと反射された。

康太：LP / 2800 2300

『何！ 攻撃が弾かれただど！？』

康太は攻撃が突然弾かれたことに驚きの声を上げた。

『………… 《ドラグニティナイト イー吉斯ノバスター》が自分フィールドに表側表示で存在するとき、自分フィールドに表側表示で存在する他の「ドラグニティ」と名のつくモンスターを攻撃対象にすることはできません！ よって、《スターダスト・ドラゴン》の攻撃は自動的に《ドラグニティナイト イー吉斯ノバスター》を対象になったものとなり、攻撃が反射されました。』

『………… 畜生！（何でなんだよ。 どうしてこんなにも思い通りに進まないんだ！）』

………… カードを1枚伏せてターンエンドだあ！』

遊璃が攻撃を弾かれた理由を種明かしして、康太のライフが削ら

れた理由を言うと、
康太は悪態をつき、自分の思い通りに進まない今までの内容を振り返り、焦りだした。

康太：LP/2300

モンスター：《スターダスト・ドラゴン》（A2500）

魔法・罫：《アイスカーペット》、1枚

手札：0枚

フィールド：《竜の渓谷》

適用効果：なし

『私のターン！』

遊璃は康太が少し焦りだしたことに気付いたが、今までと変わらない様子でカードをドロウした。

『……私は《騎乗竜 エアル》を召喚！ このカードの召喚に成功したとき、自分フィールドの「ドラグニティ」と名のつくモンスターに装備されます。 《ドラグニティ レギオン》に装備！』

遊璃は引いたカードをデュエルディスクにそのままセットする。すると緑色の輪郭を持ち、体に槍の入れ墨を入れている1体の竜が現れ、それに《ドラグニティ レギオン》が騎乗した。

『更に装備されている《騎乗竜 エアル》のモンスター効果を発動！ 1ターンに1度、このカードが装備カード状態の時、相手フィールド上の魔法・罫カードを手札に戻す！ 康太君の伏せカードを手札に戻すわ！』

遊璃が《騎乗竜 エアル》のモンスター効果を発動すると、《騎

乗竜 エアル』がその口から突風を噴出させた。

『させるかあ！！ 畏カード《強制脱出装置》！ 《ドラグニティ
リーダー》を手札に戻す！』

突如康太の場に巨大な機械が現れ、それに《ドラグニティ レー
ダー》が取り込まれる。

……そしてその機械から《ドラグニティ レーダー》が彼方の方に
射出された。

《ドラグニティ レーダー》はこれには溜まらず遊璃の手札に戻っ
た。

『クツ…… 《竜の渓谷》の効果を発動します。 《ドラグニティ
リーダー》を捨ててデッキから《ドラグニティ アクユリス》を手
札に。 ……ターンエンドです。』

流石にチューナーを手札に戻されては打つ手がなかったのか、遊
璃は《竜の渓谷》の効果を発動して手札を入れ替え、ターンを終了
した。

遊璃：LP/4000

モンスター：《ドラグニティナイト イー吉斯ノバスター》（D3
000）、《ドラグニティ レギオン》（D800）

魔法・罫：《騎乗竜エアル》

手札：1枚

フィールド：《竜の渓谷》

適用効果：相手は《ドラグニティナイト イー吉斯ノバスター》以
外の「ドラグニティ」と名の付くモンスターを攻撃対象に選択する
ことが出来ない。

『俺のターンッ！！』

康太は、焦りで我を見失いそうになるが、そこは必死に抑えてカードをドローした。

更にそのカードを見るとニヤリと笑ってそのカードを遊璃へと見せる。

『俺は、《天使の施し》を発動！ デッキから3枚カードをドローし、2枚を捨てる。』

康太が引いたのはまたしてもドロー加速カードだった。

それにより、康太はデッキから3枚のカードを引き、少し悩んだ後に2枚のカードを墓地へ送った。

そして手札に残した1枚のカードをデュエルディスクにセットする。

『俺は《氷結界の槍使い》を攻撃表示で召喚！ その効果をすぐに発動する。墓地の《氷結界の軍師》、《氷結界のガンターラ》、《氷結界の武士》をデッキに戻し、カードを3枚ドローする。』

その康太の台詞と共に、康太の場に強靱な肉体を持ち、氷で出来た槍を構え、顔を氷でできたフェイスカバーで覆っている人型のモンスターが現れる。

《氷結界の槍使い》：ATK/500

その槍使いの槍が一際大きく輝くと、康太の墓地から3枚のカードがデッキに戻り、康太にドローを促す。

康太はそのままカードを引いた。
その後、康太は《アイスカーペット》を指さして言い放つ。

『更に《アイスカーペット》の効果だ！ 《氷結界の守護霊》を特殊召喚！』

康太が再び永続魔法の効果を行使し、再びカーペットから氷像が出来上がり、

その氷像が砕けると、中から下半身が幽霊で上半身が半透明で小さな盾を持った人型のモンスターが出てきた。

《氷結界の精霊》：ATK/1000

『……合計レベルは2。《スターダスト・ドラゴン》を持っていることから恐らくあのカードも。（ボソ）』

遊璃は康太の場に召喚されたモンスターの合計レベルから召喚されるモンスターを予測しだす。

……それは寸分違わずに的中していた。

『レベル1《氷結界の槍使い》にレベル1《氷結界の守護霊》をチェーンニング！』』

槍を構えるのを止め、直立の姿勢を取る《氷結界の槍使い》を《氷結界の守護霊》が輪を作りながら囲む。

+ 11 x 2

その後、一筋の光が辺りを照らした。

『《フォーミュラ・シンクロン》をシンクロ召喚！　そしてその効果で1枚のカードをドロウする！』

康太がシンクロ召喚したのはF1カーを彷彿させ、その車体から顔や手足が出ているモンスターが現れた。

《フォーミュラ・シンクロン》：DEF/1500

それに加えて康太は《フォーミュラ・シンクロン》の効果を発動。デッキからカードを1枚ドロウし、手札に加える。

『……やっぱり。　という事はあのカードも……（ボソ）』

遊璃は予想通りの展開から次に出てくるであろうカードを予測してぼやく。

一方、康太は手札が4枚に増えた上に《ドラグニティナイト　イージスノバスター》を倒すことが出来る環境が出来上がった事にほくそ笑んだ。

……そして、

『フツ……クリア・マインド明鏡止水！　レベル8《スターダスト・ドラゴン》にレベル2《フォーミュラ・シンクロン》をチューニングー！』

突如、遊璃と康太の間の空間が薄緑色に変化し、所々に桃色の光が走る。

その中で2つの輪となった《フォーミュラ・シンクロン》の中を《スターダスト・ドラゴン》が飛び上がる形で潜り抜けた。

それと同時に頭上の雲が何かによって払われていく。

雲が完全に晴れると康太の頭上には、《スターダスト・ドラゴン》を少し筋肉質にし、全身から淡い光を輝かせる白い竜が出現していた。

《シューティング・スター・ドラゴン》：ATK/3300

それを見た遊璃は眉間に少し皺を寄せその竜を見つめ、誰にも聞こえないくらいの声で呟いた。

『……《シューティング・スター・ドラゴン》……パパの切り札』

勿論、その呟きは誰にも聞こえるはずがないので、誰もが遊璃が口で呼吸をしたようにしか見えなかった。

康太は《シューティング・スター・ドラゴン》をアクセルシンク口召喚をする際に頭を冷やしたのか、落ち着いた雰囲気口を開いた。

『俺は《シューティング・スター・ドラゴン》の効果を発動！ 1ターンに1度、デッキから5枚のカードを捲り、その中にあるチューナーモンスターの数まで《シューティング・スター・ドラゴン》は攻撃できる！』

そう言つと康太は目を閉じ、デッキの一番上に手を当てる。

そして誰もが固唾を呑み見守る中、1枚ずつカードを引き抜いた。

「……1枚目！ チューナーモンスター《氷結界の風水師》！」

康太が1枚目に捲つたのは沙也加たちと一緒に観戦している康太の精霊 風華こと《氷結界の風水師》だった。これにより、《シューティング・スター・ドラゴン》の1回の攻撃が決定した。

「……2枚目！ ……《苦渋の選択》。 残念ながら魔法カードだ。」

2枚目に康太が捲つたのはデッキから5枚のカードを選択した後、1枚を相手に選ばせ手札に加える魔法カード。……残念ながらチューナーモンスターではないので《シューティング・スター・ドラゴン》の攻撃回数は増えない。

一方、遊璃は康太がこのターンに《シューティング・スター・ドラゴン》が5回攻撃をした場合に自分の場のモンスターが全滅する事が決まっていたので、外れたことに安堵し、同時にこれ以上の攻撃がないように祈る。

「……3枚目！ ……フツ！ ……チューナーモンスター《デブリ・ドラゴン》！」

3枚目に捲られたのはチューナーモンスター《デブリ・ドラゴン》。これによって《シューティング・スター・ドラゴン》の2度目の攻撃が決定する。

「……4枚目！ ……チューナーモンスター《氷結界の防人》！」

4枚目に捲られたのもチューナーモンスター。

《シユールディング・スター・ドラゴン》の3度目の攻撃が決定した。

そして康太は最後のカードを捲るべくデッキの上に手を置いた。

……因みに投了^{サレンダー}ではない。

『……そして、5枚目!』

康太の手にした5枚目のカードに全員の視線が集まる。

そのカードは……

『……チューナーモンスター! 《氷結界の防人》!』

康太が捲った5枚目のカード。

それは奇しくも4枚目と同じカードであった。

康太と遊璃はお互いにその5枚を確かめ、康太は捲ったカードをデッキに戻し、シャッフルする。

デッキをシャッフルし、再びデュエルディスクにセットした康太は遊璃の《ドラグニティナイト イージスノバスター》を指さした。

『《シユールディング・スター・ドラゴン》で攻撃! スターダスト・ミラージユ!』

康太の《シユールディング・スター・ドラゴン》が体を1度丸めて力を溜めてから解き放つと、その反動からか、《シユールディング・

スター・ドラゴン》が赤、黄、青、緑の輪郭を纏った姿に分裂した。それぞれの《シューティング・スター・ドラゴン》はまるで康太の命令を待つように、空中で静止している。

そして康太から攻撃の命令が下った

『《シューティング・スター・ドラゴン》で《ドラグニティナイト イージスノバスター》を攻撃！』

《シューティング・スター・ドラゴン》の1度目の攻撃は、赤色の《シューティング・スター・ドラゴン》が翡翠の盾を構える《ドラグニティナイト イージスノバスター》突進……直撃し、その盾と青年の跨る竜諸共貫いた。

だが、遊璃の場には翡翠色の光の残滓が残った。

それはお互いにお互いを求めるように結びつき、それがやがて《ドラグニティナイト イージス》の形を具現する。

『この瞬間、《ドラグニティナイト イージスノバスター》の効果を発動！ このカードが破壊された時、墓地の《ドラグニティナイト イージス》を特殊召喚する！』

その言葉と共に形だけを作り出していた翡翠の光が四方に弾け、光が集まっていた中心から《ドラグニティナイト イージス》が現れる。

《ドラグニティナイト イージス》：DEF/1500

『だが、俺の《シューティング・スター・ドラゴン》の敵じゃない

！ 2回目のバトルで《ドラグニティナイト イージス》を攻撃！』

2度目の攻撃では黄色に彩られた《シューティング・スター・ドラゴン》が突進を敢行する。

《ドラグニティナイト イージス》は未熟な技術ながらも自信を守ろうと盾を構えるが、彼の青年期の竜と盾をも貫いた一撃に為す術もなく葬り去られた。

『次！ 《ドラグニティ レギオン》を攻撃！』

3度目として緑色の《シューティング・スター・ドラゴン》が《騎乗竜エアル》に跨った《ドラグニティ レギオン》に迫る。

遊璃は一瞬でデュエルディスクの《騎乗竜エアル》の効果を発動させるボタンを押し、攻撃によって発生する衝撃に耐えるべく、腕をクロスに構えた。

その瞬間、《シューティング・スター・ドラゴン》が《ドラグニティ レギオン》が跨っている《騎乗竜エアル》を貫く。

《ドラグニティ レギオン》は追突の瞬間に自らの翼を用いて空中に回避したが、貫かれた《騎乗竜エアル》は地面へと落ちて行った。

遊璃はそれを確認し、あまりにも残酷なやられ方だからか、目を背けながらカードを墓地に置いた。

しかし、墓地に行った《騎乗竜エアル》はすぐに墓地から出てきて、遊璃の手に収まった。

『……装備カード扱いの《騎乗竜エアル》が破壊された時、墓地の「ドラグニティ」と名の付くモンスター1体を特殊召喚する！……私は《ドラグニティ レーダー》を特殊召喚！』

貫かれ、地に臥した《騎乗竜エアル》から光が溢れ、中から全体的に平べったく、白い線の入った小さな竜へと転生を遂げた。

《ドラグニティ レーダー》：DEF/1000

一方、康太はいくら倒しても別の姿となって蘇って主を守る遊璃のモンスターに、そしてライフを削れないことにイライラが隠せなくなってきた。

現に、手札を持っていない右手は常に握り締められ、もう少し強く握れば血が出そうな勢いとなっている。

『4回目のバトル！ 《シューティング・スター・ドラゴン》で《ドラグニティ レギオン》を攻撃！』

最後の……青い膜を纏った《シューティング・スター・ドラゴン》が《ドラグニティ レギオン》へと迫る。

《ドラグニティ レギオン》は羽を飛ばたかせて退避しようとするが、先程の無理な移動が効いたのだろう。中々飛び上れない。

その内に《シューティング・スター・ドラゴン》に回避不能な距離まで間合いを詰められ、破壊された。

その後、4体に分裂した《シューティング・スター・ドラゴン》は集結し、元の白い体となって康太の場に戻る。

それを見届ける前に康太は手札を1枚デュエルディスクにセットする。

『速攻魔法《サイクロン》！ 《竜の渓谷》を破壊！』

康太が発動した魔法から青みがかった竜巻が出現し、遊璃の場に出ている《竜の渓谷》のカードを破壊する。それと同時にフィー

ルドに現れていた夕日が消え、溪谷の岸壁も消え去った。

『俺はカードを1枚伏せ、ターンエンド』

康太がエンド宣言をしたことで長かった康太のターンも終了した。

康太：LP / 2300

モンスター：《シューティング・スター・ドラゴン》（A3300）

魔法・罫：《アイスカーペット》、1枚

手札：2枚

フィールド：なし

適用効果：なし

『私の……ターン。』

遊璃は、自分のフィールドと手札を見比べて意気消沈しながらデッキに手を添える。

それもそのはずだ。遊璃は次のターンの《竜の溪谷》の効果を用できればと考えていたからだ。

それが康太の《サイクロン》によって逆転の希望が断たれたことによつて士気が落ちてしまったのだ。

それを見た康太が一瞬つまらなさそうな顔をして呼びかける。

『おい！ そんな顔していたら楽しめないぞ！ 俺は最近ここまで俺と渡り合った奴がいなかったから正直嬉しいんだ！ だがな、そんな顔をされちゃ楽しみもなんもないってんだ！』

だが遊璃はデュエル以上に帰る事も視野に入れている為に乗り気になれず

『……でもこのターンで《氷結界の龍トリシューラ》を出さなければ、私たちは帰れないのでしょうか？』

と弱気な返答を返してしまう。

それに対して康太はフツ　と笑い口を開く

『……心配ない！　遊璃のデッキが「ドラグニティ」だと分かったから、他にも解決法がある！　だから……思いっきり楽しもうぜ！』

最後に康太は笑顔と共にサムズアップを遊璃にしてきた。

余談だが、その表情にギャラリーの極1部が暴走したらしいが、ギリギリの所で取り押さえられたらしい。

さて、遊璃はその康太の言葉に安心し、今までの暗い表情は何処に行った？　と言わんばかりの明るい声でカードを引く。

『ドロー！　………来たわ！』

『何！？』

『私は魔法カード《ドラグニティ・コンタクト》を発動！　自分フィールドの「ドラグニティ」と名の付くチューナーモンスターと、手札の「ドラグニティ」と名の付くモンスター1体ずつを対象として発動する。対象モンスター2体をゲームから除外し、デッキからカードを2枚ドローする。但し、このカードと対象したカードの他に自分の手札とフィールドにカードが存在しない時、3枚のカードをドローする！　私はフィールドの《ドラグニティ　リーダー》と手札の《ドラグニティ　アキュリス》を対象にする。』

遊璃が引いたカードは手札交換の魔法カード。

その効果によって遊璃はフィールドの《ドラグニティ レーダー》と手札の《ドラグニティ アクユリス》をゲームから除外し、デッキから3枚のカードをドローした。

そして引いた3枚のカードを遊璃は見つめ、1枚のカードを取り出す。

『更に魔法カード《死者蘇生》！ 墓地から特殊召喚するのは……』

その時、遊璃の場に翡翠色の光が溢れてくる。

『……《ドラグニティナイト イー吉斯》！』

その言葉と共に溢れていた翡翠色の光が弾け、翡翠色の龍に乗り、エメラルドの盾を持った少年竜騎士となる。

《ドラグニティナイト イー吉斯》：ATK/1000

『そして《ドラグニティ ドウクス》を召喚！』

遊璃の場に今度は無数の白い鳥の羽が散り、その鳥の羽の中心に指揮棒のようなものを持つ白装束の鳥人が現れた。

《ドラグニティ ドウクス》：ATK/1500 1900

その後、《ドラグニティ ドウクス》は指揮棒を振る。

『《ドラグニティ ドウクス》の効果発動！ このカードの召喚に

成功したとき、自分の墓地のレベル3以下の「ドラグニティ」と名のつくドラゴン族モンスター1体を装備することが出来る。 《ドラグニティ ファランクス》を装備!」

指揮棒が振られた先に、小さな竜巻が起き、中から頭に二股の槍を付けた小さな青い龍がその姿を現した。

《ドラグニティ ドウクス》：ATK/1900 2100

康太はそれを見て小さく舌打ちをする。

自分が話を振ったにせよ、その言葉で負けるかもしれないからだ。

そんな考えを露知らず、遊璃は魔法・畏ゾーンの《ドラグニティ ファランクス》をモンスターカードゾーンに置き換える。

『《ドラグニティ ファランクス》の効果発動! 装備カード状態のこのカードを特殊召喚!』

遊璃が宣言するのと、カードを置き換えるのは同時だった。

それによって《ドラグニティ ドウクス》の後ろに隠れていた《ドラグニティ ファランクス》が、《ドラグニティ ドウクス》の横に並び、臨戦態勢を取る。

《ドラグニティ ファランクス》：ATK/500

その後、遊璃はエクストラデッキから1枚のカードを取り出して言う。

『レベル4《ドラグニティ ドウクス》にレベル2《ドラグニティ ファランクス》をチューニング!』

その言葉と共に2つの輪と変化した《ドラグニティ ファランクス》の中を《ドラグニティ ドウクス》が4つの星となって通り抜ける。

+ || x 6

そして通り抜けた輪を貫くように、竜巻と少量の黒い瘴気が流れ出した。

『秘境の竜騎士が魔槍を携え戦場を駆ける。戦場を鎮める風となれ』
『！』

発生していた竜巻と瘴気が弾け飛ぶ。

『推参！ 《ドラグニティナイト ゲイボルグ》！』

竜巻を吹き飛ばしたのは、白い胴長の竜に跨り、禍々しい瘴気を宿した槍を構えた竜騎士だった。

《ドラグニティナイト ゲイボルグ》：ATK/2000

《ドラグニティナイト ゲイボルグ》が無事に召喚された事を見るのと同時に遊璃は攻撃命令を出す。

『《ドラグニティナイト ゲイボルグ》で《シューティング・スター・ドラゴン》を攻撃！
イヴァイルツインランス 魔槍双突！』

《ドラグニティナイト ゲイボルグ》が空高く飛びあがり、同じく空を飛び続けている《シューティング・スター・ドラゴン》へと

突きを放った。

その速さたるは驚きの一言に尽き、まるで1度の刺突で2回突き出しているように見える。

『クツ……ダメージ計算時まではいかせない！ 畏カード《聖なるバリア ミラーフォース》！』

康太は《ドラグニティナイト ゲイボルグ》の効果を知っているようで、それを防ぐべく伏せていたカードを発動した。

そのカードは相手の攻撃表示モンスター全てを破壊するバリア。

それにより《シューティング・スター・ドラゴン》の前にバリアが張られ、《ドラグニティナイト ゲイボルグ》の攻撃を反射し始める………

しかし、バリアによってはじかれた攻撃は全て何処からか現れた盾によって防がれた。

『何！』

康太もこれには驚いたようで、驚きの声を上げた。

『この瞬間—《ドラグニティナイト イージス》の効果、守護昇華ガード・サクリファイス を発動！ 自分のフィールドの「ドラグニティ」と名の付くモンスターがカード効果で破壊か除外される時、このカードをリリースすることでその発動を無効にする！』

その言葉と同時に《聖なるバリア ミラーフォース》が本格的に攻撃を反射し始めるが、そのすべてを《ドラグニティナイト イ

《イージス》が持っている盾で緑色の障壁を作り、攻撃を受け止める。

やがて反射される攻撃がなくなる頃、《ドラグニティナイト イージス》もその力を使い果たしたのか、光となって消え去った。

そして《シユールティンク・スター・ドラゴン》を守るバリアが外れると同時に《ドラグニティナイト ゲイボルグ》が行動を再開するが、その前に康太の制止が入る。

『ならば《シユールティンク・スター・ドラゴン》の効果発動！ このカードを除外することで相手モンスターへの攻撃を無効にする。』

《シユールティンク・スター・ドラゴン》が一際高い咆哮をあげると、異次元への道が開き、その中に《シユールティンク・スター・ドラゴン》は飛び込んでいく。

それに加え、異次元への入り口が閉じた時の衝撃で《ドラグニティナイト ゲイボルグ》の竜が羽にダメージを受け、着陸した。どうやらこのターンの攻撃は無理そうだ。

遊璃はそう判断し、手札のカードをセットする。

『カードを1枚セットして、ターンエンド。そしてこの瞬間リリースした《ドラグニティナイト イージス》の効果発動！ 手札の《ドラグニティアームズ レヴァティン》を墓地に捨て、自身の効果でリリースしたこのカードを特殊召喚できる。』

遊璃の墓地から翡翠の光が溢れ、それが遊璃のフィールドで結集する。

その姿はエメラルドの盾を構える少年竜騎士、《ドラグニティナイト イージス》だった。

《ドラグニティナイト イーゼス》：DEF/1500

「……だが俺もこの瞬間に《シューティング・スター・ドラゴン》を特殊召喚できる。戻ってこい！ 《シューティング・スター・ドラゴン》！！！」

康太の場に再び異次元への穴が開き、その中から《シューティング・スター・ドラゴン》が飛び出し、咆哮をあげた。

遊璃：LP/4000

モンスター：《ドラグニティナイト ゲイボルグ》（A2000）、

《ドラグニティナイト イーゼス》（D1500）

魔法・罫：1枚

手札：なし

フィールド：なし

適用効果：なし

「俺のターン！ ……遊璃、このターン、俺はエースを出す。」

「えっ？」

康太の衝撃発言に遊璃は思わずそれを聞き返す。

それもそうだろう。《スターダスト・ドラゴン》や《シューティング・スター・ドラゴン》を出しているのにそれがエースではないと言いつつからだ。

康太はその言葉を繰り返し、手札から1枚のカードをデュエルデ

イスクにセットした。

『俺はチューナーモンスター《デブリ・ドラゴン》を召喚！ その効果で墓地の攻撃力500以下のモンスター、《氷結界の破術師》を特殊召喚する。』

康太が使用したのは水色の体に少々太り気味の体を持つ龍。それが康太の場で跳ね回り、ポーズを決めた。

《デブリ・ドラゴン》：ATK/1000

そして召喚された《デブリ・ドラゴン》が翼を1度羽ばたかせると、その横に吹雪が吹き出し、そこから雪結晶のような先端を持つ杖を持ち、青い鉢巻を巻く男女の区別の付き辛いモンスターが現れた。

《氷結界の破術師》：ATK/400

『そしてレベル3《氷結界の破術師》にレベル4《デブリ・ドラゴン》をチューニング！』

現れたばかりの《氷結界の破術師》が吹雪を発生させながら3つの星となり、
輪となった《デブリ・ドラゴン》はその吹雪で凍らせられる。

+ || x 7

その後、星と輪を貫くように何かの入った氷柱がそれらを貫くように康太の場に現れた。

『集いし氷の力により氷結界の村より、封印されし龍が蘇る！仲間との絆を紡ぐ力となれ！ シンクロ召喚！ 《氷結界の龍 グングニール》』

刹那……氷の柱が砕け散り、全体に青みがかつた体に折りたたんだ青い氷の翼、
そしてその青みがかつた躰からどこか赤い部分が見え隠れする「氷結界」に封じられる龍が現れた。

《氷結界の龍 グングニール》：ATK/2500

『そして《氷結界の龍 グングニール》の効果発動！ 1ターンに1度、手札を2枚まで墓地へ捨てることで相手フィールド上のカードを捨てた枚数分だけ破壊する！』

そう言っただけで康太は持っていた2枚の手札を捨て、破壊するカードを選んだ。

『俺は《ドラグニティナイト ゲイボルグ》と伏せカードを破壊する。』

『……でも《ドラグニティナイト イーゼス》の効果を忘れたわけじゃないでしょう？ 再び守護昇華 ガード・サクリファイス！』

《氷結界の龍 グングニール》が巨大な氷塊を2つ飛ばすが、その何れもが《ドラグニティナイト イーゼス》のエメラルドの盾によって阻まれる。

その氷塊を受け切った頃《ドラグニティナイト イーゼス》は光となって消えた。

それと同時に康太の墓地から1枚のカードが光を放った。

『な、何！？』

『この瞬間、墓地の《氷結界の防人》の効果発動！ このカードが「氷結界」と名の付くカードの効果によって手札から捨てられたとき、デッキからカードを1枚ドローする！』

康太の墓地でモンスター効果が発動し、康太のデッキを青色で染める。

康太はそれを用意もなくそれらを引き抜き、自分の手札とした。

『そして《シューティング・スター・ドラゴン》で《ドラグニティナイト》を攻撃！』

次に康太が宣言したのは《シューティング・スター・ドラゴン》の自爆特攻だった。

しかし遊璃はそれによってさらに苦しめられる。

『（このターンなら《ドラグニティ ドウクス》をゲームから除外すれば防げるけれど、エンドフェイズに《ドラグニティナイト》《イージス》の特殊召喚の為の手札がないから《ドラグニティナイト イージス》は帰ってこない。となれば、次のターンで鳥獣族モンスターを墓地に送ることが出来なければ、《氷結界の龍》《グングニール》に戦闘破壊されるのは確実。その一方で《ドラグニティナイト》《ゲイボルグ》が効果を使わなければ、私の伏せカードの発動条件を満たせる。……なら、私の選ぶ答えは………）』

遊璃は、《シューティング・スター・ドラゴン》の攻撃が迫るそ

の一瞬でそこまで考え、結論を出した。

「（……私の結論。……それは、《ドラグニティナイト ゲイボルグ》を戦闘破壊させて、康太君を肉薄にする。」

そして《シューティング・スター・ドラゴン》が《ドラグニティナイト ゲイボルグ》を貫いた。

「……ヤ！」

遊璃：LP / 4000 2700

だが、遊璃は、勝てる戦闘を捨てて賭けにでる。

その罠が今、起動した。

「罠カード《烈風嵐》！ 風属性シンクロモンスターが戦闘で破壊された時、ライフを半分払って発動する！ お互いのフィールド上のカードを全てデッキに戻す。」

遊璃：LP / 2700 1350

遊璃が罠カードの効果を説明すると康太は慌てふためきだす。だが、発動してしまったことは変わらない。

突如発生した嵐によって遊璃は何も被害を受けなかったが、康太は《氷結界の龍 グングニール》を始め、《シューティング・スター・ドラゴン》と《アイスカーペット》がデッキに戻された。

「……クソッ！（ダメージが通ったと思いきや、俺のモンスターがいなくなっちゃった。）……ターンエンド！」

康太は自分のモンスターが全滅した事と自分の手札を見つめて悪態をつけてからエンド宣言をした。

『……この瞬間！ 《ドラグニティナイト イー吉斯》の効果発動！ ……と言いたいけれど、私の手札は0。 《ドラグニティナイト イー吉斯》を特殊召喚することはできないわ。』

遊璃のフィールドが再び翡翠の光で満ち、それが《ドラグニティナイト イー吉斯》と化そうとしたが、あと一步の所で霧散した。

康太：LP/2300

モンスター：なし

魔法・罫：なし

手札：1枚

フィールド：なし

適用効果：なし

『……私のターン！』

遊璃はこのターンの為のさっきのターンの攻防があったと考え、思い切ってカードをドローする。そしてドローカードを確認し、そのカードをすぐにモンスターゾーンへセットした。

『《ドラグニティ ミリトゥム》を召喚！ 康太君に直接攻撃！
() ミリトゥム、お願い。』

遊璃が召喚したのは、緑色の兜に金髪が映える女性鳥人。
それが遊璃の場に降り立った。

《ドラグニティ ミリトゥム》：ATK/1700

「御意。」

その鳥人は召喚されるや否や、遊璃の指示で康太に向けてナイフを投げつけた。

無論、不意打ちのような形だったので康太は避けきれずにダメージを負う。

康太：LP/2300 600

『私はこれでターンエンド！』

遊璃：LP/1350

モンスター：《ドラグニティ ミリトゥム》(A1700)

魔法・罫：なし

手札：なし

フィールド：なし

適用効果：なし

『……俺のターン！』

康太のターンが始まる。

康太がドローカードを確認すべく視線をチラツとカードに向けた。そして康太はドローカードを確認すると自信満々の声で言い放った。

『遊璃……………俺の……………勝ちだ!』

『「!?!」』

遊璃とミリトゥムはその言葉に耳を疑った。

遊璃の場に伏せカードはないにしろ、場には攻撃力1700の《ドラグニティ ミリトゥム》がいる。

この状況で遊璃のライフ1350を0にするためには最低3050の攻撃力が、ミリトゥムを効果破壊した上で1350以上の攻撃力で攻撃するしかない。

しかし、遊璃がこのデュエルを振り返ると康太がこのデュエル中に使用したカード破壊系のカードは《氷結界の龍 グングニール》のみ。

可能性としては《デブリ・ドラゴン》を引いた可能性があるが、それならば墓地のあのカードで何とかなる。

そう遊璃は考えていた。

しかし、遊璃の予想は根底から覆させる。

『俺は《バイス・ドラゴン》を特殊召喚!』

康太の場に紫色の体を持と緑に染まった翼を羽ばたかせる龍が現れた。

《バイス・ドラゴン》：ATK/2000 1000

『更に《氷結界の防人》を召喚！』

続いて《バイス・ドラゴン》の横に氷の大盾を持った巨人が姿を現す。

《氷結界の防人》：ATK/1300

『（レベル合計は7。でも《氷結界の龍グングニール》は出せない。可能性としては《ブラック・ローズ・ドラゴン》だけど、それだと私のライフは残る………一体何かしら？）』

遊璃が知っているレベル7のシンクロモンスターを次々と頭の中で再生していくが、どれもしっくりこない。

その途中に康太がエクストラデッキのカードを1枚取り出した。

『レベル5《バイス・ドラゴン》にレベル2《氷結界の防人》をチューニング！』

その言葉によって《バイス・ドラゴン》は5つの星となり、《氷結界の防人》は2つの輪となりその周りを漂う。

やがて爆炎のような黒い煙が輪と星を包み込んだ。

+ || x7

『……自重？ 何それ？ 美味しいの？ 禁止カードの力をその目に焼き付ける！ シンクロ召喚！』

それと同時に煙の量が一気に増え、康太の場にゆっくりとその姿

を現した。

『忘れちゃったぜ……自重なんて言葉。 ……《ダーク・ダイブ・ボンバー》！』

康太の場に両肩にプロペラとミサイル発射口のような部品を搭載し、腹には色々な機械がむき出しのまま放置されている、オレンジ色の装甲を纏った機械が現れた。

《ダーク・ダイブ・ボンバー》：ATK/2600

その後、康太は攻撃宣言をした。

『《ダーク・ダイブ・ボンバー》で《ドラグニティ ミリトゥム》を攻撃！』

一瞬にして《ダーク・ダイブ・ボンバー》が肩のプロペラを使って飛びあがり、《ドラグニティ ミリトゥム》の真上を取る。

その大きさに唖然としていた《ドラグニティ ミリトゥム》が気付いた頃にはすでに大型の爆弾を投下していた。

流石のミリトゥムもそれを避けることは出来ずに破壊された。

遊璃：LP/1350 450

『……でもライフは残ったわよ？』

《ダーク・ダイブ・ボンバー》を見た瞬間、過去の資料でボマーが使用していたカードだと思った遊璃は当然このターンは効果の使用が出来ないと考えた上でその発言をした。

『《ダーク・ダイブ・ボンバー》の効果発動！ 自分のモンスター1体をリリースして、リリースしたモンスターのレベル×200のダメージを与える。 《ダーク・ダイブ・ボンバー》をリリース！』

康太の効果発動宣言により、《ダーク・ダイブ・ボンバー》が消え去り、遊璃の目の前に7つの爆弾が落ちてくる。

それらは地面に当たると同時に連鎖的に爆発し、遊璃にダメージを与えた。

遊璃：LP / 4500

康太：WIN

side end

•

•

•

•

side yuri

康太君強かった。

『……でも私たちがここに連れてきた《氷結界の龍 トリシューラ》、』

結局起きてないけれど、私達どうやって帰るのだろうか？

私はそれを聞くために風華さんと沙也加さんと一緒に喜んでいる康太君に尋ねることにする。

『……あの、康太君。結局私達どうやって帰ればいいの？』

『……あっ！』

康太君は私の質問に何か秘密がばれてしまっていて気まずいような顔を
をした。

……まさかとは思っけれど、

『……さっきの代替案……俺がもっとデュエルを楽しみたかったか
ら、口から出まかせに言ったんだ。……ごめん。』

康太君はそれと同時に頭を下げた。
私と瑞波はそれで更に困ってしまう。

・
・
・

あの後、全員で別案を模索するが、何も浮かばない。

だが、運はまだ私達を見捨ててなかった。

「……主、無事か？」

突然誰もいない虚空から聞き覚えのある声が響いた。
私はその声に反応して叫ぶ。

『……大丈夫。何とか無事よ！』

すると、何も無い空間が破け、その中から真澄色の髪、翼、尻尾

が見え隠れする人型の女性が出てきた。
私はついその姿を見て、

『レヴァティン！』

と声を上げた。

・
・
・
・
・

あのあと、私と瑞波は康太君たちに別れを告げ、レヴァティンの
力によって元の世界に戻ることが出来た。

因みにレヴァティンが私たちのいる平衡世界に気付けたのは私が
デュエルでミリトゥムとレヴァティンのカードを使ったかららしい。

本当にこの子達と一緒によかった。

私は素直にそう思う。

そして康太君、次に戦うときは負けないわ！

私はそう固く決心した。

・・・To be continued

今回の新規登場カード

《氷結界の槍使い》（アストラルさんの作品のオリカ）

星1 / 水属性 / 戦士族 / ATK 500 / DEF 200

自分の墓地に存在する「氷結界」と名のつくモンスターを1枚デッキに戻し1枚ドロウする。

《氷結界の軍師》

効果モンスター

星4 / 水属性 / 魔法使い族 / ATK 1600 / DEF 1600

手札から「氷結界」と名のついたモンスター1体を墓地へ送って発動する。

自分のデッキからカードを1枚ドロウする。

この効果は1ターンに1度しか使用できない。

《氷結界の武士》

効果モンスター

星4 / 水属性 / 戦士族 / ATK 1800 / DEF 1500

フィールド上に表側攻撃表示で存在するこのカードが表側守備表示になった時、

このカードを破壊し、自分のデッキからカードを1枚ドロウする

《シューティング・スター・ドラゴン》

シンクロ・効果モンスター

星10 / 風属性 / ドラゴン族 / ATK 3300 / DEF 2500

シンクロモンスターのチューナー1体+「スターダスト・ドラゴン」以下の効果をそれぞれ1ターンに1度ずつ使用できる。

自分のデッキの上からカードを5枚めくる。

このターンこのカードはその中のチューナーの数まで1度のバトル

フェイズ中に攻撃する事ができる。

その後めくったカードをデッキに戻してシャッフルする。

フィールド上のカードを破壊する効果が発動した時、その効果を無効にし破壊する事ができる。

相手モンスターの攻撃宣言時、このカードをゲームから除外し、相手モンスター1体の攻撃を無効にする事ができる。

エンドフェイズ時、この効果で除外したこのカードを特殊召喚する。

《氷結界の風水師》

チューナー・効果モンスター

星3 / 水属性 / 魔法使い族 / ATK800 / DEF1200

手札を1枚捨て、属性を1つ宣言して発動する。

宣言した属性のモンスターはこのカードを攻撃対象に選択する事ができない。

この効果はこのカードがフィールド上に表側表示で存在する限り1度しか使用できない。

《苦渋の選択》

通常魔法

デッキからカードを5枚選択して相手に見せる。

相手はその中から1枚を選択する。

そのカードを自分の手札に加え、残りは墓地に捨てる。

《氷結界の防人》（アストラルさんの作品のオリカ）

チューナー・効果モンスター

星2 / 水属性 / 戦士族 / ATK1300 / DEF2000

このカードが「氷結界」と名のつくカードの効果により手札から捨

てられた時、デッキからカードを1枚ドローする。

《ドラグニティ・コンタクト》
オリジナル
通常魔法

自分のフィールド上に表側表示で存在する「ドラグニティ」と名の付くチューナーモンスターと手札の「ドラグニティ」と名の付くモンスター1体ずつを対象にして発動する。

対象にしたカードをゲームから除外し、自分はデッキからカードを2枚ドローする。

この時、このカードと対象に取った2枚のカードの他に自分の手札とフィールドにカードがなければ、代わりにデッキからカードを3枚ドローする。

《氷結界の破術師》

効果モンスター

星3 / 水属性 / 魔法使い族 / ATK400 / DEF1000

自分フィールド上にこのカード以外の「氷結界」と名のついたモンスターが

表側表示で存在する限り、お互いに魔法カードはセットしなければ発動できず、

セットしたプレイヤーから見て次の自分のターンが来るまで発動する事はできない。

《氷結界の龍 ングニール》
オリジナル

シンクロ・効果モンスター

星7 / 水属性 / ドラゴン族 / ATK2500 / DEF1700

チューナー+チューナー以外の水属性モンスター1体以上
手札を2枚まで墓地へ捨て、捨てた数だけ相手フィールド上に存在
する

カードを選択して発動する。選択したカードを破壊する。
この効果は1ターンに1度しか使用できない。

《ダーク・ダンプ・ボンバー》

シンクロ・効果モンスター

星7/闇属性/機械族/ATK2600/DEF1800

チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

自分フィールド上に存在するモンスター1体をリリースして発動す
る。

リリースしたモンスターのレベル×200ポイントダメージを相手
ライフに与える。

オマケ

没シーン

『更に俺は《氷結界の舞姫》を召喚!』

康太の場に藍っぽい髪に茶色の色の服を着た女性のイラストが描
かれたカードが現れ、中からモンスターが飛び出す。

しかし、飛び出してきたのは酒瓶を持ち、千鳥足になっているイ
ラストの女性だった。

《氷結界の舞姫》：ATK/1700

まさかの光景に遊璃も目を疑い、康太に問う。

『……あ、あのそのカードって《氷結界の舞姫》………ですよ？』

『………そうだが？』

遊璃の問いに康太は真顔で返す。

遊璃はそれでいつもこうなのか、と納得した。

・
・
・

* 質疑応答コーナー *

Q：攻撃対象に取れないのであれば、攻撃がなくなるのでは？

A：一時はそうしようかと思いましたが、アニメでもこのような事は偶にあるのでそのまま攻撃が切り替わったようにしました。

Q：康太の心の声は…

A：あくまで私の私感ですが、康太はガチカードや奈落を使われるとあのような心の声を発していたので、規定ターン（康太が勝利する平均ターン数【2〜3】）以上経過してもあのような心の声を出すのだと思いました。アストラルさんすみません。

Q：《強制脱出装置》で《ドラグニティナイト イージス/バスタール》を戻さないの？

A：戻した場合、康太の負けになります。

手順としてはレギオンとリーダーでシンクロ。

ガイア。 エアルの効果でレギオンを蘇生。

ガイアの効果でレギオンを指定して墓地からファランクスを装備し、特殊召喚。

レギオン、ガイア、ファランクスでシンクロ トリシューラ

という展開になり、LP/2300の康太は敗北しています。

自棄になった行動が吉に働きましたね。

因みに、レギオンを戻すとパニツシユメント・ドラギオンからの展開が発生し、やはり康太の負けになります。

Q：初アクセルシンクロがコラボ相手……だと!?

A：登場希望にシューティング・スターがあります。

Q：因みにアストラルさんの要求は？

A：接戦、スターダスト、シューティング・スター、グングニールの3体の召喚と康太の勝利です。

Q：アクセルシンクロの時の文字列いらなくね？

A：お遊びなのでスルー推奨。因みに前話のバスター・モードの演出も思いつきです。

Q：自作自演w

A：こっしょうしないと……ねえ。

Q：なぜスタンディングなのに康太が消えた？

A：知りません。私はアストラルさんの設定を持ってきただけです。

Q：あれ？　じゃあ遊璃もそうなの？

A：不明。まずアクセルシンクロを体得するかどうかも未定です。

したとしても同じ方法では芸がないので独自の方法に改良します。

Q：投了wwww

A：遊びです……

Q：グロイの？

A：多分、私のグロの定義が皆さんと相違なければ……ですが。因みに《騎乗竜エアル》は頭から尾まで穴が開いて中身が見えてます……

Q：シューティング・スターの攻撃捌かれたよ？

A：書いてて自分でも遊璃のモンスターしつこいw と思いました。

Q：康太ってあんなに台詞吐く奴だっけ？

A：…… 答えられません。 でもあしないと遊璃に火がつかないというか、落としまくった康太の印象を回復できないというか……
って言い訳ですね。 ごめんなさい。

Q：沙也加www

A：抑えつけられませんでした。 でも暴走したとしか書いてないの
でR指定はかからないかと。

Q：《シューティング・スター・ドラゴン》、タイミング的に除外
できないのでは？

A：アニメではよくあった事なので大丈夫かと。
チェーン順として

1：ミラフォ

2：イージス

3：シューティング・スター

と思っておいてください。

そしてこれに関するコメントもしないでください。

同じことを書いたり、コピペするの面倒なので。

Q：どうしてレギオンを除外した？ ファランクスを除外すればま
だチャンスはあっただろうに……

A：ファランクスは遊璃のデッキの中核、エンジンと言っても言い
過ぎではありません。

なのでファランクスを除外しては今後の展開に支障が出ると考えた

のでしょうか。

Q：イージスの効果が分かっているのにグングニールの効果を発動した訳は？

A：手札と場調整です。

……なんて言ってみたいですけど、元々ミラフォはない設定で書き進めていたので編集したらズレが……
毎回ミスが多くてすみません。

Q：グングニール、破壊されないの？

A：イージスの効果は無効にして破壊ではなく、無効です。

Q：DDBの口上がアストラルさんの小説と違うよ？

A：許可は取っておりますので大丈夫です。

Q：口上、なんかパクってね？

A：満足さんの台詞を少し拝借しましたが、以外にマッチしたので採用しました。

Q：最後にブーイング!!

A：あれ意外にどうしろと？

Q：遊璃の知っている《ダーク・ダイブ・ボンバー》と効果が……

A：前提として遊璃は5D'sの世界の未来の存在。康太は転生者です。

その為効果の差異が生まれてしまいます。

遊璃はボマーのカードで召喚ターンに効果が発動できないと言ったような効果を持つカード。康太はOCGのカードみたいに1ターンに無制限に効果を使用できるカード。と言った風にです。

Q：てか攻撃しなくても勝てたじゃない？

A：相手モンスターをすべて破壊してから勝ってこそ、康太っぽい気がします。1000に満たないですが、若干のオーバーキルですし。

Q：遊璃の考えたあのカードって？

A：秘密。鳥獣族に効果耐性を与えるカードだと思っておいてください

因みに最初に竜の渓谷で捨てたカードです。

Q：結局トリシューラ起きてないじゃんw

A：まあ、そのまま起こすのもつまらないので。

Q：最後に一般の方のオリカ投稿や注意事項って？

A：

・第1に私の活動報告を読んだ上で投稿すること。
オリカの点は明確に記してあるので破ったカードはすぐにわかります。

もしもそのようなカードが投稿された場合は、完全に無視（感想が実在するが、無い扱い）しますのでご注意ください。

・第2に一般の方にはメッセージと言う伝達手段がないので、壊れカード（並びに修正があるカード）。もしくは小説の舞台を崩壊させるようなオリカも書かないください。

これが破られた場合はオリカ以外の部分に対してのみ返信を行います。

・第3にとは言ってもこれが最後であって『一般でない方』にも後で言う事ですが、

次の展開の推測を書くことは構いませんが、ネタバレは止めてください。

特に一般の方はブラリ指定が出来ないのでそこは徹底的にお願いします。

書かれた場合はコメント無視か削除の形となります。

これを書く理由は、最近雪乃の事が感想に書かれてモチベが9割減したからです。

一時はあのアンケートの結果抜きでこのコラボの前編で完結にしようか迷いました。

本当に名前が出てきたときに名前を出す分には構いません。

しかし喻え分かりきっていても名前が出ない限りは駄目です。

だから例え1文でも書くのは止めてください。

因みに一般でない方でこれからこの事に反した方がいた場合は、良くてコメントの削除（削除の旨を伝えます）か全オリ力返却（登場しているものがあれば、以後登場しない）。

悪くてブラリ入りか以後の感想への返信なし等、然るべき処置を取らせていただきます。

次回の予告

時期的にカイバーマン＝このコラボですので、

万丈目の兄弟対決になりますかね。

そろそろ瑞波も出してあげないといけませんので……

27話：万丈目家の闇（前書き）

予告通り今回は瑞波にデュエルさせる予定です。

えっ!?

カミューラと遊璃の話し合いは何処に行っただって？

後で分かりますから。

こつこつのはすぐにやっつけてしまつと詰まらないんです！

という訳でこの話題は引き伸ばしますよ！

ささ、最強カードにいきましょう

遊璃『逃げたわね。 まあいいわ。 今回の最強カードはこれ！』

《竜魔人キングドラグーン》

融合・効果モンスター

星7/闇属性/ドラゴン族/ATK2400/DEF1100

「ロード・オブ・ドラゴン - ドラゴンの支配者 - 」 + 「神竜 ラグナロク」

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、

相手はドラゴン族モンスターを魔法・罫・モンスターの効果の対象にする事はできない。

1ターンに1度だけ、手札からドラゴン族モンスター1体を自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

遊璃『ドラゴン族を対象にする相手のカード効果を無効にする効果と、1ターンに1度、手札のドラゴン族モンスターを特殊召喚でき

るカードね。』

瑞波『しかも、自身もドラゴン族だからキングドラグーンも効果の対象に出来ない』

戎鴛『《奈落の落とし穴》で一発だけどね!』

遊璃『…それは言わないお約束!』

27話：万丈目家の闇

私とカミューラさんとのデュエルから1週間がたったある日、デュエルアカデミアに買収話が持ち上がる。

買収相手はなんと万丈目君のお兄さんたち、万丈目グループだった。

そして万丈目君はデュエルアカデミアを守るべく、デュエルをするんだけど

突きつけられた条件は攻撃力500未満のモンスターカードしかデッキに入れちゃいけない事だった。

どうするの？ 万丈目君！？

遊戯王GX - 蟹と魔女の娘 - 第27話 万丈

目家の闇

side yuri

『ええ！ 万丈目君が学園の買収を賭けてデュエルの条件が、攻撃力500以上のモンスター禁止ですって？』

『そつなのよ……』

今、私と瑞波は明日香と三沢君と3日後の学園買収に関する話をしていた。

先ほどの私の叫び声は、普通のデュエルだと勘違いしていた私のものと、それに相槌を打つ明日香のものだ。

そこに……件の彼がやってきた。
それを見た明日香と三沢君が彼に話しかけようとするので、私と瑞波はそれに続いた。

・
・
・

『喧嘩している場合じゃないぜ！ 話は聞いた。』

『私たちに手伝えることがあったら言って。』

『協力するぜ！』

三沢君と明日香がそう言って遊城君と万丈目君が話しているところに出ていく。

それに対して私も同意して、

『そうですよ。 私達も協力します』

と手伝う事を申し出るが、

『断る』

万丈目君は頑なに拒む。

その後も何度か申し出るが、万丈目君は意思を変えなかった。

そんな時……

『……でもさ、サンダーって攻撃力500未満のモンスター持ってたか？』

今まで黙っていた瑞波が口を開く。
それを聞いた私は瑞波に聞く。

『どういうこと？』

『えつとな、サンダーはノース校にいたとき、攻撃力が500未満のカードなんてそんなに使っていなかったんだ。唯一あたしが見たのは、江戸川戦で《オジヤマ・イエロー》を出した時くらいだったな。』

瑞波はノース校出身という事も生かし、万丈目君のデッキについて冷静な分析をして、みんなに説明した。

それを万丈目君は同意しながらコートの内ポケットを漁る。

『元々俺のデッキはパワーデッキ。その上、瑞波の言うとおり俺が攻撃力500未満で持っているのは………《オジヤマ・イエロー》1枚だ。』

『『『『『ええ〜!!?』』』』』

そうして取り出した1枚をみてその場にいたほぼ全員（私と瑞波以外）が一斉に声を上げた。

それから暫くして騒ぎが収まった頃遊城君が話しかける。

『……そ、それじゃデッキも組めないってことなのか？』

『……………噂で聞いたことなのですが。』

遊城君の声に掻き消されて少し聞こえ難かったが、誰かが何かを言った気がする。

他の皆もそれが聞こえたらしく、声のした方を向く。

そこにはいつの間にか階段に腰かけていた大徳寺先生がいた。

その後、大徳寺先生は万丈目君のデッキを作る為のカードの在り処を言い残し、その場を去った。

……………3日後

いよいよ万丈目君のお兄さんと万丈目君のデュエルが行われる日だ。

2人はデュエルリングで向かい合い、互いのデッキをシャッフルした後に構え、デュエルを始めた。

(デュエル内容は原作通り。)

万丈目君のお兄さんは《竜魔人 キングドラグーン》など、強力なドラゴン族モンスターを並べ、万丈目君を追い詰めたが、万丈目君はモンスター効果を巧みに使ってそれを躲し、

最後は《カオスネクロマンサー》の一撃で勝利を？ぎ取った。

そしてライフが0となって後ろに後ずさり、デュエルリングに膝を着く万丈目君のお兄さん。

それと同時に会場は万丈目コール一色となるが、万丈目君はそれを手で制して言い放ったわ。

『否！ 俺の名は！』

そう言つて右手の人差し指を立て、

『—！』

その後に握りこぶしを握つて

『十！ 百！ 千！

万丈目サンダー！！！！』

と次々に言い放つた。

それと同時に会場は

『サンダー！ サンダー！ 万丈目サンダー！！』

と万丈目君を称える歓声に沸いた。

side out

side tyosaku

準、あんなにも大きくなっていたとはな。

私たちはお前を甘く見ていたらしいな。

政治家とあろう者が弟の成長を見逃すとは……情けない

そこに正司がやってきてきて私に言った。

『あ、兄者、この仕返しは必ず！！』

いけない。正司は準の成長が見えてないようだ。
ここは私が説得しなければ……

『止める正司。お前には見えないのか？ 準はとっくに俺たちの
思っより大きくなっていったんだ。』

これで納得してくれればいいんだが……

私はそう言って正司を見るが、正司の目に一縷の変化もない。

万事休すか。

私がそう思うのと同時に正司は私のデュエルディスクを奪い、デ
ュエルリングが上がってしまった。

side out

side yuri

ん？ 万丈目君のお兄さんと一緒にいたビジネスマンみたいな人
がデュエルリングが上がってきた。
会場の皆はそれに気づき、万丈目コールを止める。

同時に、デュエルリングが上がってきた男性は言い放つ。

『準！ 今度は私とデュエルだ！ 兄者の敵を討つ！』

『！？ 正司兄さん！ どうして』

兄さん？ という事はあの人も兄弟なのね。

それにしてもいきなりどうして？

私が思考の渦に沈み込む内にデュエルリング上でも口論が続いた。

side out

no side

準（ややこしいのでこの話のみ、準、長作、正司を表記します
by 戒駑）の疑問に正司は準を指さして言い放つ。

『準、今度は私とデュエルだ。だが、私も兄者と同じく初心者。
という訳で私もハンデをさせてもらう。』

『……いいだろう。だが、結果は変わらない！』

準が返答し、再びデュエルディスクを構えるが、

正司はそれを首を左右に振ることで返し口を開いた。

『準。私は兄者と違い、攻撃力のハンデは設けない。その代り、
お前のデッキのモンスターは効果モンスターなしでデュエルをして
もらう。更に、効果を持っていなくとも融合や儀式モンスターを
入れることも禁じる。』

『何！？』

『…滅茶苦茶だ！』

『そんな条件呑めるかよ！』

正司の指定に会場は一転して反対の呼び声に満ちた。
だがそれを正司は内ポケットから一枚の書類を取り出すことで黙
らせる

『……これが、このデュエルの許可証だ。 兄者が負けた場合、さ
つきの条件でデュエルを行う。 私の用件はオーナーの承諾済みだ
！』

会場のモニターがその書類をアップで写し、それを会場の人々は
見る。

そして内容と海馬瀬人のサインを見て、会場の人々は諦めだした。

『……だが私も鬼ではない。 3日間、デッキを作成する時間をや
る。 明日と明後日は確定申告云々で忙しいのでな。』

正司は3日間と条件をだしたが、その後の理由で会場の殆どの人
がずっこけた。

その後、正司は会場の面々に背を向け、出口に歩き出した。

……しかし

『ちよつと待ちな。』

その歩みは1人の掛け声で止まる。

正司はその言葉に振り返り、眉を潜める

『なにかな？』

『そのデュエル、今からでも問題ないよな？』

そう言って会場の観客席から飛び降りたのは、アカデミアの制服ではない少々露出が多い茶色の半袖に同じく茶色の膝丈位の長さのスカートを履いている女子……瑞波だった。

正司はまさかのデュエルを今からと言う点に驚くが、銀行員として培ったポーカーフェイスでそれを押し隠しながら答える。

『……いいだろう。だが、ハンデは分かっているよな？ 君は効果モンスター、融合モンスター、儀式モンスターをデッキに入れてはいけない。』

『ああ、大丈夫だ。……それに元々あたしのデッキに………』

正司のルール確認に瑞波は1度頷き、

『モンスターカードなんてないからな。』

そう決め台詞を言い放った。

それに対し、今度は正司の方がいきり立つ。それもそうだろう。

自分でも破格のハンデを付けてもらったのに、相手はそれをさらに超えた条件でデュエルに挑むというのだから。

当然正司の眉間には皺が寄り、瑞波を睨みつけている格好になった。

・
・
・

・
・

そうして瑞波と正司の突然のデュエルが決まり、2人は互いのデッキをシャッフルした後に向かい合う。

『デュエル!!』』

瑞波：LP / 4000

VS

正司：LP / 4000

こうして万丈目グループによるデュエルアカデミアの買収話の延長戦が幕を開けた。

『俺の先攻、ドロ―！ ……フツ!』

正司は先攻を取り、6枚の手札を確認すると、小さく鼻で笑った。その後、手札を1枚デュエルディスクに叩きつける

『俺は《サファイアドラゴン》を召喚!』

正司の場に青い体が宝石のように輝き、同じくその羽を羽ばたかせる竜が現れた。

それに加え、パラレルレア使用の為か不思議な光がその宝石のような輝きを数倍美しく見せている。

《サファイアドラゴン》：ATK / 1900

『そして俺は……ターンエンドだ。』

正司：LP / 4000

モンスター：《サファイアドラゴン》（A1900）

魔法・罫：なし

手札：5枚

フィールド：なし

適用効果：なし

『あたしのターン！ ドロー！』

対する瑞波も気迫だけでは負けない
熱の籠った吐息でカードをドローする

その後、手札から4枚のカードをデュエルディスクにセットした。

『あたしはカードを3枚伏せ、魔法カード《スライム互換装置》を
発動！ 手札を1枚ゲームから除外し、あたしのデッキから「スラ
イム」と名の付く永続魔法か永続罫カードを墓地に送る。
このカードの効果は墓地に送った永続魔法か永続罫の効果と同じに
なる。』

『!?!』

『あたしは《スライム増殖炉》を墓地に送る。』

瑞波の場に3枚のカードが伏せられた後、

乃亜編で出てきたダンスバトルゲームの転送装置の上にスライムの
いる装置が現れ、

その装置が瑞波のカードを2枚吸い込んだ。

やがてそれは《スライム増殖炉》の幻影を作り出す。

『ターンエンド』

そうして瑞波のターンは終わった。

瑞波：LP/4000

モンスター：なし

魔法・罫：3枚、《スライム互換装置》（スライム増殖炉の効果持ち）

手札：1枚

フィールド：なし

適用効果：自分は「スライムトークン」以外の召喚・反転召喚・特殊召喚が出来ない

『モンスターなしというのは本当のようだな。俺のターン！魔法カード《強欲な壺》。これにより2枚ドロー！』

正司は瑞波のデッキを冷静に分析した後デッキからカードを引き、さらに《強欲な壺》で2枚ドロし、それを確認した。

そうして1分くらい経った頃か、手札のカードを瑞波に見せる

『俺は手札の《沼地の魔神王》の効果を発動！このカードを墓地に送ることでデッキから《融合》を手札に加える！』

正司は《沼地の魔神王》を墓地に送るとデッキの中身を見出し、《融合》のカードを手札に加えた。

そして加えた融合と2枚のカードを新たに提示する

『更にさつき手札に加えた《融合》を発動。手札の《ロード・オブ・ドラゴン ドラゴンの支配者》と《神竜 ラグナロク》を融合する。』

正司の場に淡く光る渦が現れ、同じく淡く光る竜の骨のようなパーツを付けた魔法使いと、白い胴長の体を持つ竜を飲み込んだ。

Polymerization

《ロード・オブ・ドラゴン ドラゴンの支配者》

+

《神竜 ラグナロク》

||

《竜魔人キングドラグーン》

『来い！ 《竜魔人キングドラグーン》！！』

正司の場に新たに黄金色の体を眩しく輝かせ、黒い羽根を羽ばたかせながら轟雷を轟かせ、
右手には《ドラゴンを呼ぶ笛》だと思われる物を握っている、1体の龍が舞い降りた。

《竜魔人キングドラグーン》：ATK/2400

『クッ………』

それを見た瑞波は準戦で遊璃に効果を解説され、効果がわかっていたので、

手札にあるカードが使い物にならなくなったことを悔やんだ。

だが一方で正司も瑞波の伏せカードが対象を取らずにカードを破壊するカードかと思うと思うように動けない。

そう思っ手札を見たとき、その可能性を下げるカードを見つけた。

これはチャンスと思い、それをすぐに発動すべく行動を起こす。

『《竜魔人キングドラグーン》の効果、1ターンに1度手札のドラゴン族モンスターを特殊召喚できる。俺は《神竜 エクセリオン》を特殊召喚！』

正司の場の《竜魔人キングドラグーン》が手に持つ笛を吹くと、《竜魔人キングドラグーン》の横の上空に穴が出来上がり、中から全身が白い体で所々青い鬣のような物を持つ、眩しく輝く竜が現れた。

《神竜 エクセリオン》：ATK/1500

『……さらに、』

と手札のカードを1枚引き抜き、デュエルディスクにセットしながら正司が言う。

そうして発動したカードは……

『《巨竜の羽ばたき》を発動！俺は場の《神竜・エクセリオン》を手札に戻し、フィールド上の魔法・罠カードを全て破壊する！』

『!?いきなり負けるわけにはいかない！罠カード《和睦の使者》を発動！』

《巨竜の羽ばたき》が発動された瞬間、《神竜・エクセリオン》が上空に飛び上がり、フィールドに強風を巻き起こす。

が、瑞波の場に修道服を纏った女性数人が現れ、瑞波に加護の壁を作り出す。

その後、瑞波の《スライム互換装置》、《和睦の使者》ともう一枚のカードが破壊された。

しかし、瑞波の場には先程は幻影だった姿が現実として具現していた。

『何！？ どうして破壊されない！？』

正司は当然の如く、それに対して疑問の声を発した
それに対して瑞波は、

『破壊されないんじゃなく、発動し直したんだよ！』

『何！？ どういうことだ？』

瑞波の説明に正司は疑問の声を発する。
当然観客席も同様にざわめいた。

『あたしの破壊されたカードの中には、破壊されることで効果の発動するカードがあったのさ。カウンター罠—《倍養増殖炉》を墓地から発動！』

『墓地から罠だっ！？』

正司の言葉と同じように会場もその事実にはざわめきが大きくなっ

た。

それもそうだ。この時代にそんなカードなど両手で数えられるほどしかないのだから。

初心者である正司を含め、学生で閉鎖された空間で学業に励む学生も知らなくて当然だ。

遊璃を除いて……

『セットされたこのカードが相手のカード効果で破壊され、墓地に送られたとき、墓地の「増殖」と名のつく永続魔法カードをフィールド上に表側表示で発動できる！』

ざわめきが収まらないうちに瑞波は、その効果を説明する。

だが、その説明で大半の人々は効果を理解し、口を閉じた。

その中には正司もいて、息を整え、先ほどの騒動で解れたネクタイを元通り締め直してから口を開いた。

『……《和睦の使者》によって俺の攻撃は通らない。だがそれも1ターン命をつないだに過ぎない。……だが念には念を入れて魔法カード《未来融合 フューチャー・フュージョン》を発動！』

正司は、瑞波の抵抗に対して何の意味もないと言い、更なる魔法カードを発動した。

それにより正司の後ろに虹色の淡い空間が広がった。

『このカードはデッキから融合モンスターの素材となるモンスターを墓地に送り、融合召喚を可能とする！俺はデッキの《神竜・エクスリオン》2枚と《ダイヤモンド・ドラゴン》、《エメラルド・ドラゴン》、《スピア・ドラゴン》を墓地に送り………』

虹色の空間に5枚のカードが消え去り、会場を眩い光で照らす。加えて、パラレルレアの光も混じったので、それはもう迷惑としか言いようのないほどの光であった。

……しかし、その光もすぐに消え、今度は深淵の闇が広がり、その中にパラレルレアの光が所々に散らばっていた。

F u t u r e F u s i o n

《神竜・エクセリオン》

+

《神竜・エクセリオン》

+

《ダイヤモンド・ドラゴン》

+

《エメラルド・ドラゴン》

+

《スピア・ドラゴン》

=

《F・G・D》

そして深淵の闇が辺りに弾け飛び、中から炎に包まれた首、水のように透き通った首、強風に耐えられるような鎧を纏った首、闇に溶け込むような漆黒の首、そしてすべてを破壊するような雰囲気醸し出す白色の首の5つの首を持つ巨大な竜が同じくパラレルレアの光に包まれ、出現した。

『出でよー！』 《F・G・D》 『ー！』

正司のその台詞とともに《F・G・D》の5つの首は咆哮をあげた。

《F・G・D》：ATK/5000

まさかのデュエルモンスターズ界最強の元々の攻撃力を持つモンスターの出現に会場は再び喚き立つ。

瑞波もその効果を知っているからか、黙って眉を潜める。

『このモンスターをモンスターなしで倒せるわけがなかつ。カードを1枚伏せて、ターンエンド』

正司の場に伏せカードが1枚現れ、正司はターンを終了した。

正司：LP/4000

モンスター：《竜魔人キングドラグーン》（A2400）、《サフ

アリア・ドラゴン》（A1900）、《F・G・D》（A5000）

魔法・罫：1枚、《未来融合 フューチャー・フュージョン》

手札：1枚

フィールド：なし

適用効果：相手はドラゴン族を対象とする、魔法・罫・モンスター効果を発動できない

『……あたしのターンッ！』

瑞波は負けじとカードをドロし、直後に増殖炉を指さす

『あたしのスタンバイフェイズに《スライム増殖炉》の効果を発動！ 攻撃力500の《スライムトーカー》を特殊召喚！』

瑞波の場の増殖炉から1つの塊が放たれ、それが顔のある小さな水の塊となった。

《スライムトークン》：ATK/500

続けて瑞波は、手札に残しておいたカードを発動する

『永続魔法《スライムキャノン》を発動！ その効果で《スライムトークン》を生贄にし、《未来融合 フューチャー・フュージョン》を破壊する！』

瑞波の場に増殖炉をコンパクトにしたようなキャノン砲が現れ、その中に《スライムトークン》が吸い込まれる。

そして、キャノン砲が標準を定め、《スライムトークン》を射出した。

『……甘い。 リバースカード《非常食》！ 《未来融合 フューチャー・フュージョン》を墓地に送りライフを1000回復する。』

正司が伏せたカードは《非常食》だった。

そのカードが《未来融合 フューチャー・フュージョン》を消し去り、正司のライフを回復させる

正司：LP/4000 5000

『クツ……カードを1枚伏せてターンエンド』

《F・G・D》を倒すつもりで放った一撃は正司のカードによっ

て躲されてしまった。

その事に瑞波は唇を噛んだが、することがなくなってしまったのでカードを伏せてターンを終了するしかなかった。

瑞波：LP/4000

モンスター：なし

魔法・罫：《スライム増殖炉》、《スライムキャノン》 1枚

手札：0枚

フィールド：なし

適用効果：自分は《スライムトークン》以外の召喚・反転召喚・特殊召喚ができない

自分はドラゴン族モンスターを対象とする魔法・罫・モンスター効果を発動する事が出来ない。

『俺のターン！……せめてもの情けだ。　苦しまないよう一撃で決めてやる。』

正司はカードをドローした後、そのカードを確認すらせず、《F・G・D》を指さした。

『これで終わりだ！　《F・G・D》でプレイヤーに直接攻撃！』
ダイレクトアタック

正司の指示により、その5つの口に光弾を溜め込む《F・G・D》。

そしてそれは白の首の前方で合成され、瑞波へと放たれた。

瑞波へと迫る1つの色々な色の混じる光線。

果たして瑞波にこの攻撃を防ぐ術はあるのか！！

・・・To be continued

今回の新規カード

《サファイアドラゴン》

通常モンスター

星4 / 風属性 / ドラゴン族 / ATK1900 / DEF1600
全身がサファイアに覆われた、非常に美しい姿をしたドラゴン。
争いは好まないが、とても高い攻撃力を備えている。

《スライム互換装置》

オリジナル
永続魔法

自分の手札をランダムに1枚除外して発動する。
デッキから「スライム」と名の付く永続魔法または永続罫カード1
枚を墓地に送る。
このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、
このカードの効果は墓地に送ったカードの効果と同じになる。

《沼地の魔神王》

効果モンスター

星3 / 水属性 / 水族 / ATK500 / DEF1100

このカードを融合素材モンスター1体の代わりにする事ができる。

その際、他の融合素材モンスターは正規のものでなければならぬ。
また、このカードを手札から墓地へ捨てる事で、
デッキから「融合」魔法カード1枚を手札に加える。

《神竜^{しんりゅう} ラグナロク》

通常モンスター

星4 / 光属性 / ドラゴン族 / ATK1500 / DEF1000
神の使いと言いつたえられている伝説の竜。

その怒りに触れた時、世界は海に沈むと言われている

《竜魔人キングドラグーン》

融合・効果モンスター

星7 / 闇属性 / ドラゴン族 / ATK2400 / DEF1100
「ロード・オブ・ドラゴン - ドラゴンの支配者 - 」 + 「神竜 ラグ
ナロク」

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、
相手はドラゴン族モンスターを魔法・罫・モンスターの効果の対象
にする事はできない。

1ターンに1度だけ、手札からドラゴン族モンスター1体を自分フ
ィールド上に特殊召喚する事ができる。

《神竜^{しんりゅう} - エクセリオン》

効果モンスター

星5 / 光属性 / ドラゴン族 / ATK1500 / DEF900
このカードの召喚時に自分の墓地に存在する「神竜 - エクセリオン」
1体につき、以下の効果を1つ得る。

ただし同じ効果を重複して得る事ができない。

このカードの攻撃力は1000ポイントアップする。

このカードが戦闘によって相手モンスターを破壊した場合、もう一度だけ続けて攻撃を行う事ができる。

このカードが戦闘によってモンスターを破壊し墓地へ送った時、破壊したモンスターの攻撃力分のダメージを相手ライフに与える。

《倍養増殖炉》（因みに培養の間違ひではありません。倍と培を掛けてます）

カウンター罫 オリジナル

このカードは「増殖」と名のつくトークンを特殊召喚する効果を持つ魔法カードが発動したときに発動することが出来る。

このカードを発動するために発動したトークンを特殊召喚するカードの効果を持つカードの効果で特殊召喚するカードの元々の攻撃力は倍になる。

またセットされたこのカードが相手のカード効果で破壊され墓地に送られた場合、このカードを墓地から除外し、以下の効果から1つを選択して発動する。

自分の墓地に存在する「増殖」と名のついた永続魔法を発動する。
自分の墓地に存在する「増殖」と名のついたカードを1枚手札に加える。

《未来融合 フューチャー・フュージョン》

装備魔法（アニメ効果）

デッキから融合素材モンスターを墓地に送って融合デッキから融合モンスター1体を特殊召喚し、

このカードを装備する（この特殊召喚は融合召喚扱いとする）。

この効果で特殊召喚したモンスターはこのターン攻撃できず、

デュエル中に生け贄に捧げることもできない。
このカードが破壊されたとき、装備モンスターを破壊する。

《ダイヤモンド・ドラゴン》

通常モンスター

星7 / 光属性 / ドラゴン族 / ATK2100 / DEF2800
全身がダイヤモンドでできたドラゴン。まばゆい光で敵の目をくらませる。

《エメラルド・ドラゴン》

通常モンスター

星6 / 風属性 / ドラゴン族 / ATK2400 / DEF1400
エメラルドを喰らうドラゴン。
その美しい姿にひかれて命を落とす者は後を絶たない。

《F・G・D》

融合・効果モンスター

星12 / 闇属性 / ドラゴン族 / ATK5000 / DEF5000
このモンスターは融合召喚でしか特殊召喚できない。
ドラゴン族モンスター5体を融合素材として融合召喚する。
このカードは地・水・炎・風・闇属性モンスターとの戦闘によっては破壊されない。
(ダメージ計算は適用する)

《スライムキャノン》

永続魔法 (ガイウスさん投稿オリジナル)

1ターンに1度、「スライム」と名のついたモンスター1体をリリースする事で発動できる
フィールド上のカードを1枚破壊する。

27話：万丈目家の闇（後書き）

瑞波にデュエルさせるため、少々原作を改編させました
正司にデュエルさせる理由考えるの疲れました
結局社長を使いましたが……

あと、瑞波のオリカですが、勘違いする人が多いのですが、
皆様スライムデッキ最大の弱点を分かった上で投稿していますよね？
……すみません
失言でした

Q&A！！

Q：題名w

A：海馬家の闇のパクリですが何か？

Q：えっ！？ あらすじ？

A：皆さんがやっているようなのでちょっとお試しです。 気に入って下さったのであれば、コメントしてくれると助かります。 何もなければ消します。

Q：あれ？ カイザーは？

A：秘密です。 とりあえずその場にはいません。

Q：まさかの正司

A：長作に連続だとなんか面白みに欠けるので

Q：社長ww

A：社長は青眼が使えるから即答でOKを出しました

Q：確定申告って税理士じゃない？ どうして銀行員の正司が。
A：正司が確定申告をしに行くという事にしておいてください。
ぐちゃぐちゃになるので。

Q：あれ？ 万丈目が対象じゃないの？

A：社長はその条件でのデュエルだけです。 対戦相手までは決めていません

Q：瑞波の格好って？

A：私の想像するノース校の女子制服です。

Q：乃亜編に出てきたダンスバトルゲームって？

A：原作を見てください。それ以外には言えません
因みにプレイすると矢印ではなくスライムトークンを踏むものになります（笑）

Q：初心者なのに1分もの熟考だと???

A：効果を読んでいただけです（笑）

Q：エクセリオンだと!?

A：高レベルのドラゴンで下克上スライムを破壊できるのがこいつ
くらいしかいませんでした。

Q：どこが初心者じゃ!?

A：長作も初心者っぽくなかったですよね???

Q：F・G・DはやりすぎだろW

A：やりすぎですかね？

Q：F・G・DってBIG5とかデュエルマシンのカードじゃ？

A：こう思う方は原作を1から見直しましょう

翔と隼人もこのカードを持っていることが確認できますので。

Q：あれ？ 非常食のあとF・G・Dが破壊されてない

A：カード効果をよく読みましょう。

それでも分からないければ遊戯王wikiのこのカードの原作効果の所を見ましょう。

それでも分からない方は知りません。

Q：切るのW 短いのにW

A：これ以上筆が進まないんです。ごめんなさい。

28話：スライムの奮闘（前書き）

レポート地獄で更新遅れました><
流石に1週間2個ペースだと軽く死ねるw
お陰様で最近寝不足です……

さて、近況報告はここまでにして、正司と瑞波のデュエルにケリを
付けますかね。
では、28話スタートです

遊璃『今回の最強カードは……』

《ディフェンド・スライム》

永続罫（原作効果）

相手モンスターが自分のモンスターに攻撃した時、
自分のフィールド上に「スライム」と名の付くモンスターが表側表
示で存在している場合、
攻撃対象を「スライム」と名の付くモンスターに移し替える事がで
きる。

遊璃『瑞波のカードね。』

ミリ「攻撃力の低い《スライムトークン》が攻撃されても《下克上
の首飾り》を装備した《スライムトークン》に攻撃を移し替えるこ
とが出来るな。」

遊璃『レベル差の大きい戦闘程、相手に被害が出るわね』

と言っわけで今回の最強カードは原作版の《ディフェンド・スライム》でした。

原作とアニメじゃ破壊に対して無敵だった《リバイバルスライム》と一緒に使われましたね。

OCGでも「スライム」全般に効果が及べばもっと使い道はあったのよ……

28話：スライムの奮闘

フィールドのおさらい

瑞波：LP/4000

モンスター：なし

魔法・罾：《スライム増殖炉》、《スライムキャノン》、1枚

手札：0枚

フィールド：なし

適用効果：自分は《スライムトークン》以外の召喚・反転召喚・特殊召喚を行うことが出来ない

自分はドラゴン族を対象とする、魔法・罾・モンスター

効果を発動できない

正司：LP/5000

モンスター：《竜魔人キングドラグーン》（A2400）、《サフ

アィアドラゴン》（A1900）、《F・G・D》（A5000）

魔法・罾：なし

手札：2枚

フィールド：なし

適用効果：相手はドラゴン族を対象とする、魔法・罾・モンスター効果を発動できない

ターン&フェイズ：正司のバトルフェイズ

万丈目君のお兄さんの出した厳しい条件を関係ないような顔をし

て受けた瑞波。

しかし、万丈目君のお兄さんはそのハンディで相手が重要視する魔法・畏カードの対策を怠ってはいなかった。

次々に現れる高攻撃力のドラゴンたち。
手札0の瑞波に勝ち目はあるの？

遊戯王GX - 蟹と魔女の娘 - 第28話 スライムの奮闘

side mizuha

『終わりだ！ 《F・G・D》の直接攻撃！』

サンダーの兄さん（長いから以下正司さん）のモンスターの攻撃が私へと迫る。

だが、私もこのまま終わるわけにはいかない。

『畏カード発動！』

『フツ……俺の場には《竜魔人キングドラグーン》がいる。その効果で貴様はドラゴン族を対象とする魔法・畏・モンスター効果は発動できない。どう足掻いたって、勝ち目はない。』

確かにそうだが、ドラゴン族を対象に取らなければ問題ないな。
現に私のリバーズカードはそれだ。

『残念ながら、あたしの発動したのは……』

そう言った途端、私と正司さんの場の中にスライムの粘液によって出来た壁が現れる。

そしてそれが、《F・G・D》の攻撃を呑み込み、正司さんのドラゴンモンスター達へと降り注ぐ。

特殊なスライムの粘液を浴びたドラゴン族モンスターは手や口から炎などを出そうとするが、すべて不発に終わった。

『何！？』

正司さんがあまりにも驚いたから内心笑ってしまった。

まあ、いつか。そう割り切ってからあたしは発動したカードを指さして言い放つ

『あたしが発動したのは……《スライム隔壁》！このカードは、自分のフィールド上に「スライム」と名の付く永続魔法が永続罫が表側表示で存在する時にバトルフェイズ開始時に発動できる！発動時に墓地にある「スライム」と名の付く魔法・罫カードをゲームから除外することでバトルフェイズを強制終了させる！』

そう言うってからあたしは墓地の《スライム倍養装置》を太ももに止めてあるデッキケースの中に収める。

だけど……

私はデュエルディスクにセットされている《スライム隔壁》に視線を少し向けながらその維持コストについて考え、目を瞑る。

このカードの維持コスト、それは効果を使うたびに墓地の「スライム」と名の付くカード除外した上に、自分のスタンバイフェイズに700のライフを払わなければならない。

一応3回使えればメリットみたいなのはあるけど、私の墓地に残っている「スライム」と名の付くカードは残り1枚。今のままだとあと1回が限度。

しかも相手がハイパワーデッキだと尚更つらい。

とここで私はこれ以上悪い方に考えないようにする為、思考を打ち切った。

そしてそれと同時に攻撃が通らずにイラついている正司さんを尻目に内心ガッツポーズを決めた。

『クッ……ターン、エンドだ。』

そうして正司さんも攻撃が無効になった事ですることがなくなつたのか、ターンを終了した。

正司：LP/5000

モンスター：《竜魔人キングドラグーン》(A2400)、《サフ

アアドラゴン》(A1900)、《F・G・D》(A5000)

魔法・罫：なし

手札：2枚

フィールド：なし

適用効果：相手はドラゴン族を対象とする、魔法・罫・モンスター効果を発動できない

さて、私のターンだけど今の私の手札は0。

一応スタンバイフェイズに《スライムトークン》は出るが、《下克上の首飾り》をこのドロウで引き当てても《スライム隔壁》で防がれる。

《スライム隔壁》にはお互いのプレイヤーが使える上に除外コストはこのカードのコントローラーが支払わなければならないという弱点がある。

だからと言って《スライム隔壁》を維持出来なくなったとしたら私の負け。

なぜなら正司さんの手札には《神竜 エクセリオン》がいる。あのカードは墓地に同名カードがあれば3つの効果から同名カードの数だけ効果を選択できる。

その中の1つは攻撃力1000ポイントアップ。それを使われれば、例えば私の場に《下克上の首飾り》を装備した《スライムトークン》がいても相打ち。次の《F・G・D》の攻撃を防ぐ手立てがない。

……とまあ、色々と推測を並べたけれど、ドローしないことには始まらないかな。

『あたしのターン！』

私はそう言ってカードを思い切ってドローし、確認する。

そしてスタンバイフェイズを迎えたことで《スライム増殖炉》と《スライム隔壁》が蠢き出す。

だから私はドローしたカードに賭ける。

『スタンバイフェイズに《スライム隔壁》と《スライム増殖炉》の効果を発動！ ライフを700払って《スライム隔壁》を維持し、《スライムトークン》を特殊召喚する。』

私に向けて《スライム隔壁》から粘液が降り注ぎ、私のライフを

削った後、《スライム増殖炉》から1体のスライムが吐き出される。

《スライムトークン》：ATK/500

瑞波：LP/4000 3300

すべての処理が終わった後、私はさっき引いたカードをデュエルディスクにセットする。

『あたしは魔法カード《強欲な壺》を発動。デッキから更に2枚のカードをドロウする』

《強欲な壺》を確認し、2枚ドロウすると引いたカードは2枚の魔法カード。

私はこれを見て悟った。次のターンを乗り切れるかが勝負だと。

『あたしは更に《トークン生成補助》を発動する。このカードがフィールド上に存在する限り、トークンの特殊召喚によって出現するトークンは1体増える。……ターンエンド』

私はこれ以上することがなくなったので私の場に《スライム増殖炉》の幻影を持つ特殊な機械が出現するのを確認するとターンを終了した。

瑞波：LP/3300

モンスター：《スライムトークン》（A500）

魔法・罫：《スライム増殖炉》、《スライムキャノン》、《トークン生成補助》、《スライム隔壁》

手札：1枚

フィールド：なし

適用効果：自分は《スライムトークン》以外の召喚・反転召喚・特殊召喚を行うことが出来ない

自分はドラゴン族を対象とする、魔法・罫・モンスター効果を発動できない

『俺のターン！』

正司さんもカードをドローする。恐らくは魔法罫カードの除去できるカードを引きたいのだろうが、ドローカードを確認した表情はあまり良くない。

私はそれを見ると安心した。

だが、段々と私の脳裏に1つの考えが滲み出る

『（本当に初心者なのかしら？）』

それが私の中で疑問が浮かんだ瞬間であった。

『……………ターンエンドだ。』

そしていつの間にか正司さんのターンが終わったことに気付く。注意深く確認すると正司さんの場に新たなドラゴンが加わっていた。

そのドラゴンとは、翡翠に光る体を持ちながらその体を淡く、鉱石のように光らせ、何者をも魅了するような秀囲気を放つドラゴンだった。

《エメラルドドラゴン》：ATK/2400

正司：LP/5000

モンスター：《竜魔人キングドラグーン》（A2400）、《サファイアドラゴン》（A1900）、《F・G・D》（A5000）、《エメラルドラゴン》（A2400）

魔法・罾：なし

手札：2枚

フィールド：なし

適用効果：相手はドラゴン族を対象とする、魔法・罾・モンスター効果を発動できない

私はいつの間にかターンが周ってきたことよりも正司さんも《スライム隔壁》の弱点を分かったかのようにプレイすること驚いた。だけど……と私のターンが周ってきていたことを思い出し、思考を打ち切る。

『あたしのターン』

そしてデッキの1番上からカードを引き抜いた

同時に《スライム隔壁》と《スライム増殖炉》が蠢き出す

『……スタンバイフェイズに《スライム隔壁》を維持し、《スライムトークン》を2体特殊召喚する！』

すると、《スライム隔壁》は私のライフを削り、《スライム増殖炉》じゃ《トークン生成補助》の効果も相まってか、2体の《スライムトークン》を生み出した。

《スライムトークン》：ATK/500

《スライムトークン》：ATK/500

瑞波：LP/3300 2600

……これで準備は整った。

私は確信し、1ターン前に《強欲な壺》でドロしたカードをデュエルディスクにセットした。

『あたしは更に、《デストラクト・ドロ》を発動！ 《スライムトークン》2体を破壊し、デッキから3枚カードをドロする！』

私の場に現れた魔法カードによって2体の《スライムトークン》が膨張し、四散する。

その後、その滴が私のデッキに張り付いてドロを促した。

私とそのカードをドロするとその下の2枚のカードも張り付いていた。

そうして私の手札は一気に増え、4枚となった。

私は新たに引いた3枚のカードを見て、「行ける！」と瞬時に思った。

それを実行するため、次のターンへの準備を整える。

『あたしは魔法カード《下克上の首飾り》を《スライムトークン》に装備！ ターンエンド』

いつもの如く《スライムトークン》は首飾りを飲み込み、不思議な力を得る。

その後、私は《スライム増殖炉》を残すため、カードをセットしなかったが、セットする場所がなかった為、ターンを終了するしか

なかった。

瑞波：LP/2600

モンスター：《スライムトークン》（A500）

魔法・罫：《スライム増殖炉》、《スライムキャノン》、《トークン生成補助》、《スライム隔壁》、《下克上の首飾り》

手札：3枚

フィールド：なし

適用効果：自分は《スライムトークン》以外の召喚・反転召喚・特殊召喚を行うことが出来ない

自分はドラゴン族を対象とする、魔法・罫・モンスター効果を発動できない

『俺のターン！……ククク……ハーツハーツハ！！』

正司さんは自分のターンでカードを引くと何やら気味の悪い笑みを浮かべ高笑いを始めた。

私は勿論、観客席の皆も気になっているようで正司さんへと視線がいく。

『このカードだ。このカードが来るのを待っていたんだ。俺はカードを1枚伏せ！』

それと同時に正司さんの場に1枚のカードが現れる。

だが、正司さんはターン終了ではなく、次の行動をしてきた。

『《サファイアドラゴン》を生け贄に……《神竜・エクセリオン》を召喚！』

正司さんの場に《巨竜の羽ばたき》で手札へと戻った、白い体躯に神の気を発する竜が咆哮をあげながら現れた。

《神竜・エクセリオン》：ATK/1500

『《神竜・エクセリオン》の効果発動。このカードの召喚に成功したとき、墓地の《神竜・エクセリオン》の数だけ効果を選択して発動することが出来る。但し、重複して選ぶことはできない。俺は攻撃力を1000ポイントアップする効果と、相手モンスターを戦闘で破壊したときに続けて攻撃する効果を選択する。』

その声に《神竜・エクセリオン》は一際大きな咆哮をあげ、それがデュエルフィールドに雷鳴を齎す。

雷鳴をその身に宿し、《神竜・エクセリオン》がその力を増大した。

《神竜・エクセリオン》：ATK/1500 2500

『次のターン、俺のモンスターで総攻撃を仕掛けてやる！ ターンエンド！』

正司：LP/5000

モンスター：《竜魔人キングドラグーン》（A2400）、《神竜

エクセリオン》（A2500）、《F・G・D》（A5000）、

《エメルドラゴン》（A2400）

魔法・罫：1枚

手札：1枚

フィールド：なし

適用効果：相手はドラゴン族を対象とする、魔法・罫・モンスター効果を発動できない

正司さんは次のターンで勝利するというような勝利宣言をし、ターンを終えた。

私の予想では、あの伏せカードは魔法・畏破壊カード。

もし《スライム増殖炉》が破壊されたら私に勝ち目はないかもしれない。いや、ない。

そうならば私の生命線は立たれたも同然だから……

ならその未来にならないことを私は祈るしかない。

『あたしのターン！』

私は、ドローしたカードを確認した……が、待ち望んでいたものではなかった

だが、

『この瞬間畏発動！ 《砂塵の大竜巻》！ 《スライム隔壁》を破壊！』

正司さんの発動したカードによってそれは変わった。

突如出現した竜巻が《スライム隔壁》を呑み込み、消し去った。

これを見て私は内心ほくそ笑む。

正司さんが私の最も恐れていた《スライム増殖炉》の破壊ではなく、処理に困っていた《スライム隔壁》を除去してくれたからだ。

そしてたつた今引いたカードもそれで生きてくる。

だがその前に……と

私は《スライム増殖炉》を指さして口を開く

『スタンバイフェイズに《スライム増殖炉》の効果で《スライムトークン》を特殊召喚！ 更に《トークン生成補助》の効果でもう1体を特殊召喚！』

私の場に正司さんの場のモンスターに比べると豆サイズの粘液の塊が2つ現れる。

《スライムトークン》：ATK/500

《スライムトークン》：ATK/500

そしてそれを確認した私は一気にバトルフェイズへと移行することを決意した。

『バトル！ 《下克上の首飾り》を装備した《スライムトークン》で《竜魔人キングドラグリーン》を攻撃！ ……そして《下克上の首飾り》の効果で《スライムトークン》と《竜魔人キングドラグリーン》のレベル差×500ポイントが《スライムトークン》の攻撃力に加算される！』

《スライムトークン》が体を膨張させ、口から何かを吐き出す。それには《下克上の首飾り》も含まれており、《竜魔人キングドラグリーン》に接近することに大きさを倍増させた。

《スライムトークン》：ATK/500 3500

『攻撃力3500だと！？』

やがて粘液は《竜魔人キングドラグリーン》にぶつかり、そのまま

《竜魔人キングドラグーン》を消化していく。

そして粗方吸収した頃、《竜魔人キングドラグーン》は爆発した。その余波は双方に向かうが、私の方はスライムによって防がれたので正司さんに降り注いだ。

正司：LP / 5000 3900

『クツ……俺の《竜魔人キングドラグーン》が……』

《スライムトークン》：ATK / 3500 500

正司さんは私のモンスターにエースモンスターを破壊されたからか、悪態をつく。

だが私のターンはまだ終わっていない！

『バトルフェイズを終了し、再びメインフェイズに入る。そして《スライムキャノン》の効果を発動！ あたしは《スライムトークン》を生け贄にし、《神竜 エクセリオン》を破壊する！』

私の場に4ターンの間、起動せずにいたキャノン砲が起動し、《神竜 エクセリオン》に狙いを定める。

そして《スライムトークン》1体がその中に装填され、すぐに射出された。

当然すぐに発射され、避ける暇もなかった《神竜 エクセリオン》にスライムは衝突した。

「GYAAAAAAAAAAAAAAAA……………」

スライムに衝突された《神竜 エクセリオン》は、凄まじい咆哮

をあげ、地に臥し、破壊された。

『《神竜 エクセリオン》まで……』

正司さんは次のターンに備えて召喚したモンスターの破壊に、再び呟いた。

そして私かというと、次の《F・G・D》の攻撃に対する対策をするためにカードを伏せることにした。

『カードを1枚伏せ、ターンエンド！』

私は《スライム隔壁》が発動されていた場所に新しくカードを伏せ、ターンを終了した。

瑞波：LP / 2600

モンスター：《スライムトークン》（A500）、《スライムトークン》（A500）

魔法・罫：《スライム増殖炉》、《スライムキャノン》、《トークン生成補助》、《下克上の首飾り》、1枚

手札：3枚

フィールド：なし

適用効果：自分は《スライムトークン》以外の召喚・反転召喚・特殊召喚を行うことが出来ない

『クッ……俺のターン。』

さつきとは逆に、正司さんが追い詰められたような表情でカードを引く。

そしてそのカードを確認もせずに

『《F・G・D》で《下克上の首飾り》を装備していない《スライムトークン》を攻撃！ これで終わりだ！』

《F・G・D》が再び5つの首にエネルギーを溜め、それを放ってくる。

でも、私はこの時を待っていた。

『この瞬間、畏カード発動！ 《ディフェンド・スライム》！ 自分フィールドに「スライム」と名のつくモンスターがいる時に、相手モンスターが攻撃を仕掛けてきた場合に発動。その攻撃を「スライム」と名のつくモンスターに変更する。あたしは《下克上の首飾り》を装備した《スライムトークン》に攻撃対象を移し替える！』

『何だと!?!』

その瞬間、《下克上の首飾り》を装備した《スライムトークン》が《スライムトークン》の前に立ちはだかり、《F・G・D》の攻撃射線に入った。

そしてそのままの状態のまま、《下克上の首飾り》混じりの粘液を放つ。

・
・
・

そして両者の攻撃は両者の丁度中間で衝突した。

最初は、粘液が小さかったこともあり、《F・G・D》の攻撃が優勢となっていたが……

やがて、《下克上の首飾り》が光り、粘液の大きさを増させ、《F・G・D》の攻撃を一瞬にして打ち破った。

《スライムトークン》：ATK / 500 6000

『莫迦な……攻撃力6000!!』

そして、《F・G・D》の攻撃を破り、大きさを増した粘液の塊が、《F・G・D》へと殺到する。

しかし、その攻撃は、ギリギリで立ち直った水の首の攻撃によって逸らされ、《F・G・D》を倒すには至らなかった。

それでも逸らされた粘液が正司さんを翳め、ダメージを与えた。

正司：LP / 3900 2900

《スライムトークン》：ATK / 6000 500

『……《F・G・D》は、地、水、炎、風、闇属性のモンスターとの戦闘では破壊されない。……《エメラルドドラゴン》を守備表示にして、俺はこれでターンエンドだ。』

そして正司さんは《F・G・D》が力負けしたのに言葉を失いながらも、何とかターンを終えた。

《エメラルドドラゴン》：ATK DEF / 2400 1400

正司：LP / 2900

モンスター：《F・G・D》（A5000）、《エメラルドドラゴン》（D1400）
魔法・罫：なし
手札：2枚
フィールド：なし
適用効果：なし

さて、私のターンだけど、このターンで勝つには……あのカードが必要。
だから私はデッキを信じる。

『あたしのターン、ドロー！』

来た。私の望んだカード。

『スタンバイフェイズに《スライム増殖炉》の効果と《トークン生成補助》の効果を発動し、2体の《スライムトークン》を特殊召喚する。』

私の場に三度2つの粘液の塊が放たれ、それが生き物のよう動き出す。

《スライムトークン》：ATK/500

《スライムトークン》：ATK/500

そして私は今引いたカードを早速使う。

『フィールド魔法《湿地草原》を発動！ このカードの効果はレベル2以下の水属性・水族のモンスターの攻撃力を1200ポイント

アップする。』

私がフィールド魔法を発動させると、デュエルフィールド上空に暗雲が立ち込め、そこから豪雨が降り注ぐ。

その雨に何か入っていたのか、デュエルフィールドに雑草が少し生え、それらが急激に成長した。

《スライムトークン》 : ATK / 500 1700

《スライムトークン》 : ATK / 500 1700

《スライムトークン》 : ATK / 500 1700

《スライムトークン》 : ATK / 500 1700

でもこれだけでは勝てない。

……だから。

『更に《スライムキャンオン》の効果を発動！ 《スライムトークン》を生け贄に、《F・G・D》を破壊する！』

私が続けて《スライムキャンオン》の効果を発動させると、砲塔を《F・G・D》へと向け、《スライムトークン》を装填後、即座に射出される。

《神竜 エクセリオン》とは違い、少し時間があったのだが、巨体故に逃げ切れず、《F・G・D》はその体を貫かれた。

そして体を貫かれた《F・G・D》はそのまま地に臥し、破壊された。

『クツ………』

『そしてバトル！ 《スライムトークン》で《エメラルドドラゴン》を攻撃！』

私が攻撃を命じると、《下克上の首飾り》を装備した《スライムトークン》がそれに応え、粘液を放出する。

《スライムトークン》：ATK/1700 4200

それはやはり大きさを増して、《エメラルドドラゴン》を取り込み、溶かした。

それを見届けてから、私は一際大きな声を上げた。

『これで最後だ！ 《スライムトークン》2体で直接攻撃！』

残った2体の《スライムトークン》が、正司さんへと体当たりをする。

『う、うわあああああああああ………』

正司：LP/2900 1200 0

瑞波：WIN

・
・
・

『クツ……まさかモンスターなしに負けるとは……』

正司さんが悪態をつき、また何かをしよつとする。

しかし、長作さんがそれを止め、首を振る。

それを見た正司さんは、やろつとしていたことを諦め、長作さんと共に去っていった。

……つて、事後の事を簡潔にしちゃったけど、まあ何だ。

私とサンダーでデュエルアカデミアを守り抜いたって事だな。

さてと、藤原探しを再開するかな。

…… T o b e c o n t i n u e d

新規登場カード

《スライム隔壁》
オリジナル
永続罫

このカードは自分のフィールド上に「スライム」と名の付く永続魔法または永続罫が表側表示で存在する場合のみ、バトルフェイズ開始時に発動できる。

1ターンに1度、墓地の「スライム」と名の付く永続魔法または永続罫カードをゲームから除外することで、バトルフェイズを終了する。

このカードがフィールド上に表側表示で存在する時、自分のターンのスタンバイフェイズにライフを700払う。払えない場合はこのカードを破壊する。

この効果を3回使用した場合、このカードを破壊し、自分はライフを3000回復する。

この効果は相手プレイヤーも発動できる。

《トークン生成補助》

永続魔法（ユタさん投稿オリジナル）

「トークン生成補助」はフィールド上に一枚しか存在できない

このカードが存在する限りトークンを召喚するカードで召喚するトークンの数が1体多くなる

《エメラルドドラゴン》

通常モンスター

星6 / 風属性 / ドラゴン族 / ATK 2400 / DEF 1400

エメラルドを喰らうドラゴン。

その美しい姿にひかれて命を落とす者は後を絶たない。

《デストラクト・ドロー》

通常魔法（言羽・D・カタストロフィーさん投稿オリジナル）

自分フィールド上に存在するレベル3以下のモンスター2体を破壊して発動する。

デッキからカードを3枚ドローする。

《ディフェンド・スライム》

永続罫（原作効果）

相手モンスターが自分のモンスターに攻撃した時、

自分のフィールド上に「スライム」と名の付くモンスターが表側表示で存在している場合、

攻撃対象を「スライム」と名の付くモンスターに移し替える事ができる。

28話：スライムの奮闘（後書き）

今回は前回のようにはなくスライムデッキの弱点が目立つようなプレイングをさせてみました。

どこだかは一目瞭然ですね。

なので書きません。さっさと疑問解消に行きましょう

Q & a m p ; A

Q：瑞波の口調が可笑しくない？

A：何度か申し上げましたが、瑞波の本来の一人称は私です
ただノース校という男ばかりの所にいたせいで口調が荒くなってしまった。

それによって口調が可笑しくなっています。

Q：《エメラルドドラゴン》はどうやって？

A：キングドラゴンの効果です

Q：正司って本当に初心者なのか？

A：どうなのでしょうね。私としては違うと言いたいです

理由としては、十代vs万丈目（対抗戦時）にアームドラゴンLv7を見て「あんなカード、俺たちの与えたカードにはなかったはず…」という発言をしています。

こことあのランクケースの中身を察するに、ただの初心者があのランクケースの中身をすべて覚えるなんて事はまず無理でしょうから。

Q：砂塵で破壊するの違うw

A：スライムと初対戦する無知な人がよくする典型的なミスです

気を付けましょう。

Q：バトルフェイズの後ってメインフェイズ2ですよ？

A：5D'sではメインフェイズ2との表記がありました。DMとGX時代は表記されてはいません。

詳しくはKCカップの海馬VSジークでの海馬のセリフに注目しましょう。

Q：《スライムキャノン》で先に《F・G・D》を破壊しなかったのは何故？

A：エクセリオンのレベルを考えてから、正しいかどうか判断するとすぐにわかります。

Q：《デیفエンド・スライム》のどこが最強カード？

A：やっぱり瑞波の敗北を防いだ点辺りが……

Q：最後グダグダw

A：描写が下手で申し訳ありません

Q：因みに次回は？

A：タニヤ……のつもりです。

最後に今まで滅多に書いたりしていませんでしたが、

今回のオリカは、ユタさんと言羽・D・カラストロフィーさんが投稿してくださったカードです。

お二方どうもありがとうございました。

ではまた次回お会いしましょう

良かったら感想ください。
特に一般の方よろしく願います

29話：授業の時間だよ 遊璃先生！（前書き）

時系列としては三沢vsタニヤです。
多分2部構成になるかもしれません。

遊璃『今回の最強カードは……………』

瑞波『なし！今回はデュエルがないからな。』

遊璃『なるほどね。』

瑞波『それはいいとして、何で学園の連中って色々なカードの使い方が分かってないんだ？』

遊璃『主流が効果が強力でハイパワーの方がいいからじゃない？』

瑞波『なら尚更強いカードじゃなくてこのカードみたいなのやつ（そう言っつて《スキル・ドレイン》を見せる）を使っべきだと思っつのがな……………』

遊璃『確かに……………そうだよね。』

29話：授業の時間だよ 遊璃先生！

カミューラさん、そして正司さんと瑞波のデュエルから暫くの時
が経ったけど、
セブンスターズは中々姿を見せない。

いつかは現れるとは思っけど……………

そんな事を考え、明日香と一緒に吹雪さんのお見舞いに行った帰
り、私は校長室に呼び出されることになった。

遊戯王GX - 蟹と魔女の娘 - 29話：授業の時間だ
よ 遊璃先生！

side yuri

いきなりPDAの電話で呼び出されたけれど、一体なんなのかし
ら？

特に校則に触れるような事をした覚えはないんだけど……………

……………もしかして、カミューラさんを匿っていることがバレたのか
な？

……………そ、それは色々と不味そうね。
今の内に謝罪の言葉（という名の言い訳）でも考えておきましょう。
う。

そんな事を考えながら、私は校長室へと向かった。

・
・
・
・

コンコン。

『……誰かね？』

『校長先生、オベリスクブルー女子1年、不動遊璃です。 お呼びだと聞きました……』

『おお、入りたまえ。』

校長先生のその言葉と共に目の前の扉が静かに開く。

この前の七星門の鍵を受け取った時は見逃してしまったけれど、デユエルアカデミアの中でも出入り口がオートロックになっているのは校長室だけだ。

大方、七星門の鍵を保管しているから嚴重なのでしょうけど……私は扉が開くまでの数瞬でそれを考え、部屋に入るために足を踏み入れた所でその思考をやめた。

校長室に入り、扉が閉まる音を聞きながら一礼して口を開く。

『失礼します。 先ほど申し上げました、オベリスクブルー女子1年、不動遊璃です。』

私が丁寧に口上を述べると、校長先生が頷きながら口を開いた。

『おお！ 待っていたよ。不動さん、よく来てくれました。』

『いえ。……ところで私を呼び出したのはどうしてでしょうか？』

『……実は……』

校長先生と軽く挨拶を交わし、話題に入る。

校長先生の話はこうだった。

『……実は、数日前から我が校の実技担当最高責任者のクロノス先生が突然無断欠席をしておいてね。今日までは何とか私が代理の先生が代わりを務めていたのですが、生憎代理の先生がデュエルアカデミアサウス校に、私もこれから出張に行かなければならないので、代わりが出来ないのだよ。』

と言ったので、私は思い返す。

確かに別の先生が授業をしていたかも。

そしてそれと同時に結論が頭をよぎった。

私は、もしかしてと思い、

『えっと、それは、つまり、その……』

『うむ。我が校始まって以来の、入学試験から常に満点を続けて取っている君に代わりをお願いしたいのだよ。』

……やっぱり……でも私にはやることが……雪乃を探すことの方が……

うん。断るじ。
そう判断し、断るじと口を開いた。

『…………あの、やっぱり…………で…………』

『…………そうか！ やってくれるか。 うんうん。 助かるよ。 じゃあ、私は出張に行くので宜しく頼むよ』

そう言って校長先生は大きな鞆を持って、校長室を出ようとする。まさかの勘違いに私は思考がショートしかけたが、何とか言葉として返す。

『…………申し訳ないのですが…………』 『やってくれれば、次回のレポート提出を全教科免除するよ。』…………ウツ…………やります』

……………負けた。

・
・
・
・

翌日

はあ、憂鬱だよ。 1限は1年、2限以降はないけれど。。
なんでレポートと公休に負けちゃったのだろう。

確かに、未来では解明されていて、この時代では判明している事象を分からないように書くとかの面倒さとか、気持ち的に解明され

たことを書きたくなくなる気持ちが無回湧き上がってきて、何回か負けそうになりながらも強引に抑えていたけれど。

私は現在、全身から負のオーラを出しながら授業資料を手に廊下を歩いている。

ミリトゥムもこれには驚いてカードに引っ込んだくらいだし、余程なのね。

と、私はどこかの外れなことも考えていた。

……でもまあ、引き受けちゃったことは変わらないし、やるしかないか。

そうして、私は普段使わない教職者の入り口から教室へと入った。

・
・
・
・

キーン・コーン・カーン・コーン

『……クロノス先生が欠席しているので、特例として私が授業を始めます。今日は主にカード同士のコンボや、弱点について説明したいと思いましたが……』

私は教壇に立ち、小さなマイクを着けてそう宣言する。

入ってきた直後は騒ぎが続出したけれど、そこは瑞波が色々と言ってくれたお蔭で大体の人が静まった。

中には《偽物のわな》の件を覚えてくれていた人もいたようで、

直接私に聞きに来て、積極的に前の席を取った人もいた。

でも、始めたのはいいけれど、いつもは授業を受ける立場だからみんなの学力を知らない。

……だから、

『……………抜き打ちテストを始めます！』

『え、聞いてないぜ！』

どこかから声がしたので

『当たり前でしょう。抜き打ちなのだから。それにこれの結果で授業の内容を決めますので真剣にお願いしますね。（黒笑）』

『は、はい。』

私の声を聞いて全員が静まりかえった所を見計らい、解答用紙を回してもらった。

そしてテストを前のモニターに表示する。

『試験時間は……………10分です。始め！』

その一言で同級生たちは黙々と解き始める。

因みに、デュエル理論の授業なので内容はカードに関する事だ。

抜き打ちテスト 制限時間10分

第1問：手札から特殊召喚をすることが出来るモンスターを3体以上書け。

またそれらの召喚条件も書くこと。（無ければ「無し」または「x」を書け）

第2問：フィールド魔法《始皇帝の陵墓》を使用し、ライフポイントを2000ポイント払った時、相手が《サイクロン》を使って《始皇帝の陵墓》を破壊しました。この時、自分は手札の最上級モンスターを召喚できるか？ また、その答えにした理由を述べよ。

第3問：自分フィールドに天使族モンスター2体以上いて、《王宮のお触れ》が発動しているときに、相手が魔法カード《死者への手向け》を発動した。

この時、自分はカウンター罠《マジック・ジャマー》を使用し、手札の《裁きを下す者 ボルテニス》を特殊召喚することが出来るか？ また、その答えにした理由を述べよ。

以上

・ ・ ・

1分後。

瑞波は解き終えたみたいね。

何か、簡単すぎだという視線が来るんだけど……やっぱりレベル

低かったかな？

だって1問目の答えの1つ、3問目に書いてあるし。

・ ・ ・

更に4分後。

テストで毎回上位の人たちが解き終える。

中には汗を拭っている人もいるから、考えすぎたみたい……かな？

・ ・ ・

テスト終了

『やめ！』

私はその言葉と同時にモニターの画面を消し、解答用紙を回収した。そして、教卓に戻り、昨晚徹夜寸前で作り上げた機械にそれを通す。

すると結果がモニターに表示される。

勿論名前は出していないけれどね。

正答率

第1問： % 40%無解答 40%1体のみ 18%2体

完全解答2%

第2問：40%

第3問：4%

確か、この授業の出席人数っていつも大体100人くらいだったわよね。

今日は無断欠席ばかりで50人くらいだけ。

でもまさか、第1問に40%も無解答がいるとは思わなかったわ。これが最近改善されてきたとはいえ、クロノス先生が続けてきたエリート優遇教育の結果ね。

まあ、いいわ。

まさかの正答率に動揺しながらも、問題の解説に移る。

『え、とりあえず問題の解説に移りますね。』

そう言いつつ、事前に準備しておいたスライドを表示する。

『まず第1問の答えですが、このようなものがあります。あくまでその1部なのでこの中に無かったとしても正解している人もいますよ。』

《THE トリック》、《俊足のギラザウルス》、《ヴァンパイアジェネシス》

《真紅眼の閻魔》、《サイバー・ドラゴン》、《海竜神 ネオダイダロス》

《裁きを下す者 ボルテニス》、《冥王竜ヴァンダルギオン》、《冥府の使者ゴーズ》
《トラゴエディア》 等

『1体ずつ解説しては時間が足りなくなるので、少しだけ解説しますね。 まずは……』

そう言っただけで最初に《俊足のギラザウルス》をポインターで囲む。

『《俊足のギラザウルス》です。 このカードは、手札から召喚するとき、特殊召喚扱いでも召喚することが出来ます。この時、相手は墓地のモンスターを特殊召喚することが出来てしまうデメリットもあります。相手の墓地にモンスターがいなければ、無条件に特殊召喚することが出来ますね。』

『……先生!』

ん？ なんだか呼ぶ声が。

私がそつちを向くと1人の女子生徒が手をあげていた。

確かあの子は……宇佐美彰子さんだったかしら？ あまり話したことなかったのだけれどね。

『何ですか?』

『えっと……質問です。 あの……私も恐竜族を使っているのですが、もし相手の墓地に特殊召喚が可能なモンスターがいて、《俊足のギラザウルス》の特殊召喚に対して相手が墓地からの特殊召喚した場合に対して、相性のカードなどはありますか?』

ふむ。そうきたか。

私は頭の中で《俊足のギラザウルス》に相性のいいカードをはじき出した後、

その中から未来のカードを取り除いて答える。

『勿論ありますよ。《俊足のギラザウルス》は特殊召喚が可能なので、通常召喚権を残したまま《大進化薬》を使うための生け贄に使って上級の恐竜族を召喚したり、《狩猟本能》を使って更に手札の恐竜族モンスターを特殊召喚したりできます。変わったところでは《地獄の暴走召喚》を無理矢理発動できる状況を作ったり、相手が攻撃力1500以上のモンスターを特殊召喚したときに《奈落の落とし穴》が使用できます。』

『……ありがとうございます（まさかそんなにも相性のいいカードがあつたなんて……《地獄の暴走召喚》と《奈落の落とし穴》か……確か、両方とも安かつたはずよね。帰ったら調べてみようかな。それにしてもクロノス先生だったら無視か答ええないのに答えてくれるとは思わなかつたな。）』

さて、宇佐美さんの質問が済んだところで1つ言っておきますか。

『今のように、質問があればいつでも聞いてくださいね。但し授業に関係ないことはやめてください。さて、続いて《裁きを下す者 ボルテニス》ですが、これは第3問の答えにも関係するので、第3問と一緒に解説したいと思います。』

これに対して約3割の人が顔をしかめる。

大方3問目の答えを1問目に載せていたことに気付かなかつた人達ね。

残りの1割は本人たちの名誉のために黙っておきましょう。

・
・
・
・
・

さて、解説も後半に移ってきたわね。

2問目は《始皇帝の陵墓》の弱点を説明するだけだったし、3問目も1問目の関連性を軽く説明し終えた所だ。

今は、第3問の答えを言つところだ。

『さて、第3問の答えですが、これは正答率4%の問題でしたからね。詳しく解説したいと思います。』

まずは、《王宮のお触れ》の効果から振り返っていきましょう。』

そう言つて最初に《王宮のお触れ》のテキストを表示させる。

《王宮のお触れ》

永続畏

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、このカード以外のフィールド上の畏カードの効果は無効にする。

『似た効果を持つモンスターに《人造人間・サイコ・ショッカー》が存在するので勘違いをしやすいのですが、《王宮のお触れ》は畏カードの効果“無効”にするだけで“発動できない”訳ではありません。』

これに対して大半の人が首を傾げる。

……この言葉の意味が分かってくれないとこの先説明できないんだけれどな……

と私が思ったところで1人の生徒が手を挙げた。

『……その方どうぞ。』

私が手を挙げた人を指すと、その人が席を立った。

『似ている、勘違いしやすいと言いましたが、どこが違うのか分かりません。』

やっぱりそこからか。

ちよっとは予想できていたけれどね。

『少々お待ちください。　すぐに《人造人間・サイコ・ショッカー》のテキストも表示しますので。』

私は急いでそのデータをスライドに追加し、《王宮のお触れ》と並ぶようにした。

《人造人間・サイコ・ショッカー》

効果モンスター

星6 / 闇属性 / 機械族 / ATK2400 / DEF1500

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、お互いに畏カードを発動する事はできず、フィールド上の畏カードの効果は無効化される。

『先の2枚のカードを並べてみましたが、何か気づくことはありませんか？』

私はそれを先程の立った人に聞いてみる。

「うーん……………あつ！ 《人造人間 サイコ・シヨツカー》には罠カードを発動できないという効果がある！」

「正解！ このように《王宮のお触れ》には《人造人間・サイコ・シヨツカー》のように罠カードを発動できなくする効果を含んでいないので、効果は無効になります。発動する事はできます。よって、召喚条件がカウンター罠の”発動に成功する”という《裁きを下す者・ボルテニス》を自分のモンスターを全て生け贄にする事で特殊召喚することが出来ます。これは意外と知らない人が多いので、覚えておきましょうね。」

と私が大切なところを強調して言った時、更に手が上がった。

私が発言を許可すると、その人は立ち上がって質問をしてきた。

「もしも《王宮のお触れ》ではなく、《人造人間・サイコ・シヨツカー》を出された場合はどのように対処をすればよいのでしょうか？」

成る程。でもその質問も想定内。

「……………そうですね。色々と対策法はありますね。まずは《地割れ》や《死者への手向け》等の魔法カードで対処する事です。しかしこれでは、確実に《人造人間・サイコ・シヨツカー》を破壊できるか分かりませんし、一時的に手札を減らす、または次のターンに不利益を被るなどのデメリットも存在します。しかし、とあるカードを使えば罠カードでも対処をすることが出来ます。」

私はそこで一度言葉を区切り、みんなを見渡してから口を開いた。

『それは……《月の書》です。このカードは対象モンスターを裏側守備表示にすることが出来ます。そしてこのカードは、リバース効果モンスターを多く使うデッキ以外では（この時代は）あまり使われませんが、《人造人間・サイコ・ショッカー》には有効打の1つです。《人造人間・サイコ・ショッカー》の守備力は1500ですから、攻撃力1500より上のモンスターで攻撃すれば、破壊できますし、裏側守備時にしたので《抹殺の使徒》等でゲームから取り除くことも可能です。……』

そして、私はこの後も自己流や、未来でも流行ったコンボを織り交ぜながら、授業を進めるのであった。

『……では、授業もそろそろ終わりなのでまとめに移ります。今回の授業のポイントはコンボでした。私の紹介したものはデューエルモンスターズに数々あるもののうちの1%にもなりません。ですから、皆さんの方でも積極的に考えてみましょうね。』

キーン・コーン・カーン・コーン

こうして授業の時間が終わった。

『……じゃあ、これで授業は終了とします。』

と、授業を閉めて私は退出した。

・
・
・

はあ、何とか終わったわね。
授業が終わり、私は他にその日の受け持つ授業がなかったので寮の自室へと帰った。

そこで少し今日を振り返ってみる。

その中で私は内心笑みを浮かべ、

先生か。結構いいかもしれないわ。

そう考えた。

・ ・ ・

そして次の日の授業資料の準備と、雪乃の手がかりを探すのであった。

しかし、私はこの時気付いていなかった。

私が授業をしている間に三沢君がセブンスターズに破れたことを。そして、次の日に待ち構える修羅場を……

…… T o b e c o n t i n u e d

29話：授業の時間だよ 遊璃先生！（後書き）

聞くことはこの1つだと思っているのでこれだけ

Q：教員免許はどうした！

A：校長権限……………て事じゃ駄目ですかね？

一応学力の設定は、 遊璃 クロノス なのですがね。

全体像で出すと

海馬 遊璃 〓 校長 クロノス 亮 > 雪乃 〓

瑞波 〓 三沢 > 明日香 >> 万丈目 >>>> 翔以

外の原作キャラ（1期） >>>>>>（天才として転生して乗り

越えられる壁）>>>>>> 翔 という感じです。

今回は…………クロノスと勝負です。

30話：教職員もやる時はやる……はず。（前書き）

時系列的に十代VSタニヤです。

今回も遊璃先生の授業かもですよ。

遊璃『今回の最強カードはこれ！』

《古代の機械究極巨人》

融合・効果モンスター（アニメ効果）

星10/地属性/機械族/ATK4400/DEF3400

「古代の機械巨人」×3

このカードは融合召喚でしか特殊召喚できない。

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

このカードが攻撃する場合、相手はダメージステップ終了時まで魔法・罫カードを発動する事ができない。

このカードが破壊された場合、自分の墓地に存在する「古代の機械巨人」1体を

召喚条件を無視して特殊召喚する事ができる。

遊璃『クロノス先生の切り札。 攻撃力4400 守備力3400
と高い数値を持っているわ。』

瑞波『更に、攻撃時の相手の魔法、畏の封印と貫通能力も持っている。
あたしは苦手だな。』

遊璃『瑞波のカードって攻撃反応系多いものね。 しかもこのカードは《パワー・ボンド》に対応しているのがミソ。 攻撃力8800の化け物と化すわよ。』

瑞波『流石のスライムもこれには勝てないな。』

30話・教職員もやる時はやる……はず。

私の初授業の2日後、私は明日香から三沢君が敗れたことを伝えられて知る。

そして、今日は教師4日目、明日香からは遊城君がデュエルをしに行くとも聞いたけれど、教職の仕事があるからと断った。

しかし、私はこの時、間違った選択をしてしまったのかもしれない。い。

何故なら教室では別の試練が待っていたから……

遊戯王GX 蟹と魔女の娘 第30話 教職員も

やる時はやる……はず。

side yuri

ふう、教師の仕事も今日で4日目ね。

相変わらずクロノス先生は無断欠席だし、明日香からはいきなり三沢君が負けたと聞かされるし。

私はそうやって心の中で愚痴る。

幾ら公休とはいえ、他の一般科目の講義を受けられない以上、夜に瑞波のノートを借りて勉強するしかない。加えて、次の日の授業資料なども用意する関係上、食事と入浴以外に落ち着ける時間は殆どない。

教師の仕事も楽しいと言えば楽しいけれど、流石にこつも色々

重なるよね。

『ハア。』

私は再び誰もいない廊下でため息を零した。

・
・
・
・
・

あの後私はすぐに教職員用の入り口から教室へと入り、教壇に立ち、始業を待つ。

同時に授業資料をPCで立ち上げておくのは忘れないでやっておく。

……そして始業時刻を迎えた。

私はそれと同時に授業を開始した

『それでは授業を始めます。 前は……』

・
・
・

(授業が始まって数分後)

・
・

『全然駄目なノ〜ネ!』

ん？ 私はいきなりクロノス先生の声がしたので、一時授業を中断し、生徒たちの座っている席を見渡す。

しかし、その姿は見当たらない。

私は気のせいだと思い、授業を再開しようとするが、

『後ろなノ〜ネ！』

と再びした声に、今度は後ろに振り返る。

……そこには、

休んでいた途中の授業資料を一気に抱えたクロノス先生がいた。しかもその資料はいつ崩れるか分からない程、グラついている。

私は迷わず、手伝いを申し出てクロノス先生の資料を運ぶのであった。

•••••

•••••

•••••

•

……それを運び終えた後、頃合を見計らって私は問う。

『あの、私の授業のどこが悪かったのでしょうか？』

『そ、それはなノ〜ネ、……ぜ、全部駄目なノ〜ネ！』

クロノス先生の目は左、右、左と忙しなく動き、明らかに嘘っぱいが、私はそれを真意に受け止めた。

そして、クロノス先生が来たのであれば私の出番は終わり。
そう判断し、自分の授業資料を回収し、教科書等も持っていないか
つたため、瑞波の隣へと移動した。

……クロノス先生の授業に移行してから十数分後。

教室は増埒の渦という表現が合っているほど、騒々しかった。
事の発端はクロノス先生が1人の生徒の質問を無視したところか
ら始まる。

その生徒の質問は的確で、クロノス先生の説明不足を的確に突い
たものであった。

しかし、クロノス先生はそれを無視して授業を続行した。

これに対してその生徒は眉を潜め、今度は私の方に近づいてきて
同じ質問をしてくる。

私は授業中だから後にしてと言おうか迷ったが、これはクロノス
先生の説明不足に起因していると判断し、それを教えた。

教え終わると、質問をしてきた人は私にお礼を言って、自分の席
に戻った。

……それが何度か繰り返された頃、教室内は先ほどの言葉のよう
な状況となり、收拾がつかなくなっていた。

クロノス先生も流石にこれは授業にならないと判断したのだろう。
声を張り上げる。

『シニョール達、五月蠅いノ〜ネ！ もう少し静かにしなさい〜ノ
』

……言っていることは正しいけれど、クロノス先生が原因なんだ

けれどな。

私がそう思うのと同じくして、一部の生徒がクロノス先生に反抗する。

曰く、

『不動さんの方が分かりやすい』

別の人曰く、

『不動さんは先生のように質問に無視をしなかった！』

等と口々に言う。

そして大体の意見が出払った頃、その人達は声を揃えて言った。

『結局、不動【不動さん】（遊璃）の方が分かりやすい。 クロノス（おかつぱ）先生は引っ込んでろ（なさい）！』

『おかつぱじゃないノ〜ネ！ …… それよ〜りモ、その前〜の方が聞き捨てならない〜ノ！ シニョーラ遊璃、私とこの授業の講師役を賭け〜テ、デュエルするノ〜ネ！』

えっ！？ 何この行き成りの展開。

一応デュエルディスクとデッキは持ってきているけれど、やっぱり先生から本職を取るの是不味い。

私はそう考えて断ろうと口を開こうとする……が、

『不動頑張れよ！』

『また遊璃の授業受けたいから、必ず勝ってね!』

等と声援(という名の威圧)を受け、視線を集中される。

……とてもじゃないけれど、断れないわね。

私はそう判断し、クロノス先生の提案を受けた。

・
・
・
・
・

あれから私たちは授業を中断し、デュエル場へと移動した。

そして一緒だった瑞波や生徒たちは観客席に座り、私とクロノス先生はデュエルリングに上がり中央でお互いのデッキをシャッフルする。

ある程度シャッフルをした後、私たちはお互いに距離を取り合い、デュエルディスクを起動させる。

クロノス先生のデュエルディスク……いえ、デュエルコートだったかしら? それを先生は起動する。

するとデッキを収めたディスクから5枚のカードが自動的に排出され、手札となった。

一方私のデュエルディスクは、デッキをセットすると起動する設計となっているので、その方法起動した。

まず初めにヴァジュランダの目に光が灯り、モーメント装置が稼働する。

更に、それは他の連動し、モンスターゾーンはヴァジュランダとミ

リトウムの翼を模った物が広がり、墓地は絵のように収納されていた。フランクス額の2つの槍がせりあがり、枠を形成する。

そしてヴァジュランダの額の間、「4000」とライフカウンターの電子文字が出現し、起動が終わった。

それを確認した私は、目にも止まらぬ速さで5枚のカードを引き抜き、手札とした。

……私とクロノス先生は、お互いのデュエルディスクが移動したのを確認すると、頃合を見計らって宣言する。

『『デュエル！』』

遊璃：LP/4000 VS クロノス・デ・メデイチ：LP/4000

『私の先攻、ドロ〜ニヨ！』

ああ、また先攻とられた……

何か、私って譲ってもらわない限り、先攻って少ないわよね。どうしてかしら？

戒鷲「それは、私がリアルで9割以上の確率でじゃんけんに負けて、後攻にn（ry）」

ん？ 何か雑音が聞こえた気がするけれど、気のせいかしら？

まあ、今はデュエルに集中しなければ……

『私〜ハ、カードを2枚伏せて、《古代の機械騎士》1ヲ召喚するノ〜ネ！』

クロノス先生のフィールドに2枚の伏せカードと、歯車の盾と、槍を携える小型《古代の機械巨人》が現れた。

《古代の機械騎士》：ATK/1800

それにあのモンスターはデュアルモンスター。何とか、再召喚をされる前に破壊したいわね。

私は現在の5枚の手札から判断した。

『ターンエンドなノ〜ネ!』

クロノス：LP/4000

モンスター：《古代の機械騎士》：ATK/1800

魔法・罫：2枚

手札：3枚

フィールド：なし

適用効果：なし

『私のターンッ!』

私も負けじと何時もの態勢でカードを引き、横目でそれを確認する。そして少し前に見た残りの5枚の手札から最善の手を選び出す。

『私は、《ドラグニティ パルチザン》を召喚!』

私の場に大剣を背負った紫色の竜が、上空を旋回しながら現れる。

《ドラグニティ パルチザン》：ATK/1200

クロノス先生は私の召喚に対してカードを発動する気配を見せない
ので、その効果を発動する。

『私は、《ドラグニティ・パルチザン》の効果を発動！ その効果
で手札から《ドラグニティ・ミルトウム》を特殊召喚し、このカー
ドを装備する！』

《ドラグニティ・パルチザン》の大剣が光り、それと同時に私は
手札のミルトウムをデュエルディスクにセットする。

すると、《ドラグニティ・パルチザン》の横に、黄緑色の兜を被
つた人型の女性鳥人が現れ、《ドラグニティ・パルチザン》がミリ
トウムの後ろに控える。

《ドラグニティ・ミルトウム》：ATK/1700

「主、今回は出番が早いな。」

『（まあね。相手はクロノス先生だし、速攻で決めないと。）』

「成る程。“古代の機械”か。確かに速攻で決めた方がよさそう
だな」

『（うん。今回も宜しくね）』

「御意」

私は、召喚した私の精霊と意思疎通を取り、速攻で決めることを
決めた。

そして、速攻で大ダメージを与えるべく行動方針の計画を立てた。

『更に《ドラグニティ・ミリトゥム》の効果を発動！ 1ターンに1度、装備カード状態の「ドラグニティ」を特殊召喚する！』

その後、魔法・罨ゾーンにセットされていた《ドラグニティ・パルチザン》をモンスターゾーンにセットし直す。

同時に、紫色の竜が戦闘態勢を取ってミリトゥムの横に並んだ。

《ドラグニティ・パルチザン》：ATK/1200

『チューナーモンスターと、それ以外のモンスターが揃ったノ〜ネ！』
『という事は来るノ〜ネ！』

まあ、何度もシンクロ召喚はしているし、分かるわよね。

私はエクストラデッキから1枚のカードを取り出しながら、クロノス先生の言葉について考える。

でも、最早止まれない。

だから、思いっきり行く

『行きます。 レベル4《ドラグニティ・ミリトゥム》にレベル2《ドラグニティ・パルチザン》をチューニング！』

「参る」

ミリトゥムはその掛け声とともに4つの星と化し、《ドラグニティ・パルチザン》はその身を2つの輪にしてミリトゥムだった4つの星を囲んだ。

+ || x 6

そして合計6つの輪と星を1つの光が貫く。

『秘境の竜騎士が死に嘆くとき、天より新たに雷槍を授かる。戦場を鎮める風となれ！ シンクロ召喚！ 殲滅せよ！ 《ドラグニティナイト ヴァジュランダ》！』

光が晴れると、私の場には私のデュエルディスクの元となった雷を宿す槍を持った真澄色の竜騎士が鎮座していた。

《ドラグニティナイト ヴァジュランダ》：ATK/1900

『そ、そのモンスターは……実技試験の時のモンスターなの？ネ！』

『……（え？ そうなの？ 全然覚えてないんだけど……）』

私はクロノス先生の言葉に、記憶を探るが、どうにも1部だけ曇って思い出せない。

そうして考える中、思い出したことがあったのでミリトゥムに1つ、尋ねてみる。

『（ミリトゥム、聞こえる？）』

「……はい、聞こえております」

やっぱり。

私は心の中でサムズアップをした。

何故ならミリトゥムの声は目の前の《ドラグニティナイト ヴァジュランダ》の竜騎士からしたからだ。

私の思い出した事、それは……《ドラグニティナイト ヴァジュ

ランダ》に乗る竜騎士はミリトゥムであるという事。

これからはミリトゥムをデッキから引けなくても気兼ねなくデュエル中に話す事が出来そう。

私はそう思っただけで安心した。

『（……ミリトゥム、行くわよ）』

「……御意。」

『《ドラグニティナイト ヴァジュランダ》のシンクロ召喚に成功した時、自分の墓地のレベル3以下の「ドラグニティ」と名のつくレベル3以下のドラゴン族モンスターを装備する。……私は、《ドラグニティ パルチザン》を装備する！』

先ほどシンクロ召喚に使用された紫色の竜が、《ドラグニティナイト ヴァジュランダ》の背後に現れる。

ただ……

『（ごめんなさい）』

私は、《ドラグニティナイト ヴァジュランダ》の効果で装備カード扱いとなった《ドラグニティ パルチザン》に心の中で謝り、そのカードを手に取り、墓地へと送る。

『《ドラグニティナイト ヴァジュランダ》の効果発動。1ターンに1度、このカードに装備されているカードを墓地に送ることで《ドラグニティナイト ヴァジュランダ》の攻撃力をエンドフェイズまで倍にする。《ドラグニティ パルチザン》を墓地へ！』

私が《ドラグニティ パルチザン》を墓地に送った直後、フィー

ルドからそれが光となって消え、《ドラグニティナイト ヴァジュランダ》の槍に吸い込まれる。

それによって《ドラグニティナイト ヴァジュランダ》の攻撃力が跳ね上がった。

《ドラグニティナイト ヴァジュランダ》：ATK/1900 3800

『こ、攻撃力3800！（……でもあの時よりは低いノ〜ネ！）』

クロノス先生が驚いたような顔と安堵したような顔を交互に浮かべているが、今は無視。

『バトル！ 《ドラグニティナイト ヴァジュランダ》で《古代の機械騎士》を攻撃！ 救済の雷撃！』

「……喰らえ！」

《ドラグニティナイト ヴァジュランダ》の持つ槍に溜まった雷撃が《古代の機械騎士》に迫る。

これが決まれば2000ポイントのダメージ。圧倒的に有利になれる。

私はそう思つて、攻撃の軌道を見守つた。

……そして攻撃は《古代の機械騎士》に直撃し、大爆発を起こした。

クロノス：LP/4000 3800

えっ！？ ライフポイントが200しか減ってない。

私は目を疑ってしまふ。

そんな中、爆発によって発生した煙が次第に晴れ、クロノス先生と、伏せられていたカードの1枚が表になっていることが確認できた。

「危なかったノ〜ネ！ シニョーラ遊璃の攻撃時に、速攻魔法《リミッター解除》を発動したノ〜ネ！ このカードは機械族モンスターの攻撃力を2倍にするノ〜ネ！ 普通なら攻撃に使うのデスーガ、ダメーシ軽減〜や、迎撃等の防御にも使える便利なカードなノ〜ネ！」

……なるほど。

私はたった200しかライフを削れなかった訳を理解した。

あの時……

〜回想〜

「バトル！ 《ドラグニティナイト ヴァジュランダ》で《古代の機械騎士》を攻撃！ 救済の雷撃！」

「……喰らえ！」

「速攻魔法《リミッター解除》を発動するノ〜ネ！ これで《古代の機械騎士》の攻撃力を倍にするノ〜ネ！」

《古代の機械騎士》：ATK/1800 3600

〜回想終了〜

と、い、う、事、で、し、よ、う、ね。

私の速攻を読んだカードの使用。
やはり経験に差がある。

私は、速攻で決めるといふ気持ちだけで攻撃を挑んだことを若干後悔した。

しかし、それを読み取ったのか、ミリトゥムが声をかけてくる。

「主。主の判断は正しかった。もし、主が私の効果を使用せず、攻撃力をアップしていなければ、私は迎撃され、主のライフは1700ポイント削られていました。そしてエンドフェイズに《古代の機械騎士》が破壊されようとも、“古代の機械”で攻撃力2300を超えるのは比較的容易。攻撃宣言時から魔法・罫カードを発動できない主が負けていた可能性の方が高かった」

「……………うん、そうだね」

私はミリトゥムの言葉に励まされ、少し元の状態を取り戻す。

そして予定は狂ったが、次のターンに備えようとメインフェイズに移行しようとした……

そうしよう。

何故なら、クロノス先生の場に残されたもう1枚の伏せカードが発動していたから。

『罫カード《未完のタイムボックス時空機筐》を発動したノ〜ネ！ このカードは自分のモンスターが戦闘で破壊されたときに発動。攻撃した相手モンスターをゲームから除外し、デッキからカードを1枚ドロ〜するノ〜ネ！』

えっ！？ 除外？

クロノス先生の場に継ぎ接ぎだらけの機械仕掛けの箱が現れて、その蓋が開く。

すると、突然その中から透明な何かが《ドラグニティナイト ヴアジユランダ》へと伸び、《ドラグニティナイト ヴアジユランダ》を捕獲した。

「ぐ、ぐああああああ……」

そして捕獲された瞬間、ミリトゥムが悲鳴を上げる。

私は少し宙を彷徨いかけていた意識を覚醒。ミリトゥムの方を見る。

そこには……

透明な手によって狭い箱に無理やり竜毎押込められそうなミリトゥムとヴァジユランダの竜がいた。

……助けてあげたい。でも、私の手札の魔法・畏カードを破壊するカードはない。

だから、助けることはできない。

ごめんなさい。

私が心の中で謝ると同時に、《ドラグニティナイト ヴアジユランダ》は箱に閉じ込められ、フィールドからカードを残して消え去った。

その直後、クロノス先生はカード効果で1枚のカードをドロースる。

『クツ……カードを1枚セットしてターン、エンド』

私は、自分のフィールドから「ドラグニティ」がいなくなっ

まったことで手札にあったサポートカードが使えなくなり、ターンを終了するしかなかった。

遊璃：LP/4000

モンスター：なし

魔法・罫：1枚

手札：3枚

フィールド：なし

適用効果：なし

『私のターン、ドロ〜ニヨ!』

クロノス先生は、私のモンスターを0にして自分のターンを迎えたことを内心喜んでいるような感じでカードを引いた。

そしてドローカードを確認し、更に気持ちの悪い笑みを浮かべる。

『手札カーラ、魔法カード《トレード・イン》を発動! 手札の《古代の機械巨人》を捨てて、2枚のカードをドロ〜するノ〜ネ! 続いて《強欲な壺》。2枚を追加でドロ〜! ……そして《サイクロン》を発動。シニョーラの伏せカードを破壊するノ〜ネ!』

クロノス先生は、先ほど引いたカードだと思われるカードを発動し、手札交換と手札補充を行った。

そして、《サイクロン》を発動し、私の伏せカードを破壊した。

……でも、特殊召喚のできない《古代の機械巨人》をどうして……

『更に《古代の整備場》アンティーク・ギアガレージを発動。墓地の《古代の機械巨人》を手札に加えるの〜ネ!』

このために墓地に送ったカードを回収した!?

でも、手札に《古代の機械巨人》を回収してどうするのだろう。
実践向けなら、《古代の機械騎士》のはず。

『（生徒相手にこのカードを見せる時が来るとは思っていなかった
ノ〜ネ）……………そして《融合》を発動するノ〜ネ！』

え！？ 融合？ ハイトマン先生が使わなかった戦法…………

『手札の《古代の機械巨人》3体を墓地に送り、融合するノ〜ネ
』！』

Polymerization

《古代の機械巨人》

+

《古代の機械巨人》

+

《古代の機械巨人》

||

《古代の機械究極巨人》

クロノス先生の場に3体の《古代の機械巨人》が出現し、それら
の後ろに現れた渦に吸い込まれていく。

やがて、吸い込まれた先の渦の中から、4つの歯車が動力源の足
に、3つの爪のついた歯車の左腕。

そして《古代の機械巨人》よりも数倍太い右腕を持つ巨大な巨人
が現れた。

《古代の機械究極巨人》：ATK/4400

攻撃力4400!?

海馬社長の《青眼の究極竜》には100劣るけど、私はその攻撃力を超すには無謀すぎる。

加えて、《青眼の究極竜》には攻撃宣言時に魔法・罠カードを発動できるけれど、

“古代の機械”と名のついているのだから、恐らくは無理。

私のフィールドはがら空き、ミリトウムは先生の罠カードによって封印されている。

そう、私には今、何も無い。

この攻撃を防ぐ手立ては……ない。

『これで終わりなノ〜ネ! 《古代の機械究極巨人》でシニョーラ遊璃ーに直接攻撃なノ〜ネ!』

《古代の機械究極巨人》の巨大な右腕が私に迫る。

私は、負けを確信し、目を閉じた。

……しかし、

『遊璃、最後まで諦めちゃ駄目。』

『遊璃、最後まで希望は残っている。』

どこからか半年以上前に別れた………パパとママの声が聞こえた気がした。

その瞬間、先程の気持ちは何処に行ったのやら、私はまだ負けたくないと思った。

私は何か手立てはないかと、攻撃が迫る中、墓地を確認した後、手札を見る。

するとそこには……クロウおじさんから貰ったカードが見えた。

パパ、ママ、クロウおじさん。私に力を貸して。

『……私はまだ負けない！』

『又ウ？』

『手札から《BF - 熱風のギブリ》の効果発動！ 自分が直接攻撃を宣言された時、手札のこのカードを特殊召喚することが出来る！』

《古代の機械究極巨人》攻撃は、突如現れた所々赤い部分を持つ黒い鳥が現れ、それに直撃した。

《BF - 熱風のギブリ》：DEF / 1600

遊璃：LP / 4000 1200

『……どうして破壊されてないの〜ネ？』

そう、《BF - 熱風のギブリ》は破壊されていなかった。

私はクロノス先生の疑問に答えるために墓地からさつき《サイクロン》で破壊されたカードを取り出す。

『クロノス先生がさつき破壊した《ブレイク・フォース》の効果発動！ セットされたこのカードがカード効果で破壊された場合、エ

ンドフェイズまで自分のフィールドのモンスターはフィールドを離れませんか！」

『……………！！』

クロノス先生は危険排除の為に使った《サイクロン》が私のモンスターを守る結果になってしまった事に悔しそうな顔をする。

だけれど、いつまでもそうしているわけにはいかないと判断したのか、すぐに頭を振って元の調子に戻る。若干動揺して指が震えているのは気にしないことにするけど。

『クツ……………カードを1枚伏せてターンエンドなのネ！』

クロノス：LP / 3800

モンスター：《古代の機械究極巨人》：ATK / 4400

魔法・罫：《未完の時空機筐》、1枚

手札：0枚

フィールド：なし

適用効果：なし

次は私のターンね。

クロウおじさんに貰ったカードでこのターンは生き延びた。

なら、勝てなくても、ミリトゥムだけは助け出す。

私はそう思って、デッキの一番上に手を添える。

『私のターン！』

こうして私のデュエル中での別の目的を立てたターンが始まった。

・・・To be continued

新規登場カード

《古代の機械騎士》
アンティーク・ギアナイト

デュアルモンスター

星4 / 地属性 / 機械族 / ATK1800 / DEF500

このカードは墓地またはフィールド上に表側表示で存在する場合、通常モンスターとして扱う。

フィールド上に表側表示で存在するこのカードを通常召喚扱いとして再度召喚する事で、

このカードは効果モンスター扱いとなり以下の効果を得る。

このカードが攻撃する場合、相手はダメージステップ終了時まで魔法・罠カードを発動できない。

《リミッター解除》

速攻魔法

このカード発動時に、自分フィールド上に表側表示で存在する全ての機械族モンスターの攻撃力を倍にする。

この効果を受けたモンスターはエンドフェイズ時に破壊される。

《未完の時空機筐》
タイムボックス
アニメオリジナル
永続罠

自分フィールド上のモンスターが戦闘で破壊された時に発動する事ができる。

相手の攻撃モンスター1体をゲームから除外してデッキからカードを1枚ドロウする。

このカードがフィールドから離れた時、除外したモンスターを同じ表示形式でフィールドに戻す。

アンティーク・ギアカレージ
《古代の整備場》

通常魔法

自分の墓地に存在する「アンティーク・ギア」と名のついたモンスター1体を手札に戻す。

《古代の機械究極巨人》

融合・効果モンスター（アニメ効果）

星10 / 地属性 / 機械族 / ATK4400 / DEF3400

「古代の機械巨人」×3

このカードは融合召喚でしか特殊召喚できない。

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

このカードが攻撃する場合、相手はダメージステップ終了時まで魔法・罠カードを発動する事ができない。

このカードが破壊された場合、自分の墓地に存在する「古代の機械巨人」1体を召喚条件を無視して特殊召喚する事ができる。

《BF - 熱風のギブリ》

効果モンスター

星3 / 闇属性 / 鳥獣族 / ATK0 / DEF1600

相手が直接攻撃を宣言した時、このカードを手札から特殊召喚する事ができる。

1ターンに1度、このカードの元々の攻撃力・守備力を
エンドフェイズ時まで入れ替える事ができる。

《ブレイク・フォース》

通常罫（葦切さん投稿オリジナル）

セットされたこのカードが破壊されたターンのエンドフェイズ時ま
で、

自分フィールド上に存在するモンスターはフィールドから離れない。

30話：教職員もやる時はやる……はず。（後書き）

Q & a m p ; A

Q：クロノスは結局遊璃のどの辺りを駄目だしたの？

A：ありません。自分よりもうまく授業を行う事への嫉妬から出た台詞です。

Q：遊璃のデュエルディスク……アカデミア製じゃないんだ。

A：そういえば一度も描写を書いたことありませんでしたね。遊璃のデュエルディスクは遊星と遊璃の共同製作で、手作りの逸品です。

そして作中の説明のように、大体がヴァジュランダを模した形をしています。

因みにフィールド魔法の場所は《竜の渓谷》の絵が薄らと描かれているミリトウムの羽になっています。

女の子っぽくないですが、本人の希望もあってこの形となりました。

Q：途中の遊璃の後攻率の設定って作者の陰謀？

A：まあ、そうですね、理由も存在します。

本小説では、遊璃だけカードプールが広い+シンクロを使うという形になっています。

それがあるにも拘らず、遊璃を先攻にしてしまうと下手をすればアキュリスとフランクス等、ドラグニティに必要なチューナーを墓地に置いて、いつでもシンクロが出来る状況を整えられる事になります。

《D・D・クロー》などの墓地除外による妨害が注目されていない時代の設定上、遊璃が非常に有利になりやすい。接戦を保つ意味を含め、コラボや譲られた時以外は後攻にして相手に罠カードをセット

させたりする時間を設けています。

Q：エンドフェイズの表記が変わっている？

A：どっちの方が見やすいか実験です。

Q：遊璃は入学試験の時のことを覚えていないの？

A：性格豹変時の出来事は記憶に残っていないです。

Q：何故ヴァジュランダにしゃべらせた？

A：ミルトウムは大抵すぐにシンクロ素材として墓地に行ってしまうので、精霊なのに精霊としての出番が殆どないからです。

Q：遊璃って《古代の機械究極巨人》を知らなかったの？

A：ハイトマン先生が《古代の機械巨人》の展開からのごり押ししか見たことがなかった為に、古代の機械は3000が最高攻撃力だと思っていました。

Q：ギブリだと！？

A：クロウから渡されたもう1枚のカードはギブリでした。分かった方はいましたか？

まあ、“ドラグニティ”に本当に相性のいい“BF”は限られますから簡単でしたでしょうね。

今回のオリカは葦切さんオリカ投稿でした。葦切さんありがとうございました。ございました。

あと一般の方、コメントください。

外部の意見も知りたいんです。お願いします。

31話：教職員が生徒相手にやりすぎはいけないと思う（前書き）

今回もクロノスVS遊璃です。

攻撃力4400の《古代の機械究極巨人》に遊璃がどう挑むのか。

てか、遊璃のデッキを回させ過ぎました。

1ターンで8〜9000文字超ってどんだけw

長すぎるww

どうしてこうなった!?

はい、私が悪いのですけれどね。

次回から気を付けます（ そう言いながら中々治さない駄目な人 ）

今回の最強カード

遊璃『う〜ん。オリカだから紹介するのはどうかと思うんだけど

……』

《パニツシユメント・ドラギオン》

シンクロ・効果モンスター（タナトスさん投稿オリジナル）

星11/風属性/ドラゴン族/ATK2700/DEF3000

「ドラグニティ」と名のついたチューナー1体+チューナー以外のドラゴン族モンスター1体以上

このモンスターはシンクロ召喚以外でエクストラデッキから特殊召喚できない

このカードのシンクロ召喚に成功した時、墓地からレベルの合計が8になるように2体以上鳥獣族モンスターかドラゴン族モンスター

を選択し、選択したモンスターを特殊召喚する。

この効果で特殊召喚したモンスターはユニオンモンスターとして扱い、効果は以下の通りになる（そのモンスターの元々の効果は無効化される）

・1ターンに1度、自分のメインフェイズに自分フィールド上の「ドラグニティ」と名のつくシンクロモンスターに装備カード扱いとして装備、または装備を解除して表側攻撃表示で特殊召喚する（1体のモンスターが装備できるユニオンは1体まで、装備モンスターが破壊される時代わりにこのモンスターを破壊する）

装備されているモンスターの攻撃力はこのカードの元々の攻撃力の数値分アップする。

遊璃『私のレベル11のシンクロモンスター。シンクロ召喚時に墓地の鳥獣族とドラゴン族を特殊召喚する効果を持っているわ！』

瑞波『しかも、チューナーはチューナーのままだからシンクロ召喚もできるし、攻撃力アップにもなるし、使いようによって確実に化けるな。』

遊璃『そうだね。』

――

更新が遅れてしまって真に申し訳ありませんでした
風邪が治った後、書こうと思ったたら風邪で後回しにしておいた提出
期限前のレポートを一気に仕上げていまして……

……言い訳ですね。ごめんなさい。

2011/07/10

《ドラグニティナイト - ガジャルグ》のミス修正

31話：教職員が生徒相手にやりすぎはいけないと思う

フィールドのおさらい

クロノス：LP / 3800

モンスター：《古代の機械究極巨人》：ATK / 4400

魔法・罠：《未完の時空機筐》、1枚

手札：0枚

フィールド：なし

適用効果：なし

遊璃：LP / 1200

モンスター：《BF 熱風のギブリ》：DEF / 1600

魔法・罠：なし

手札：2枚

フィールド：なし

適用効果：なし

ターン&フェイズ：遊璃のドローフェイズ前

~~~~~

突如始まったデュエル理論の講師の座をかけたクロノス先生とのデュエル。

私は、早々に決着をつける為に《ドラグニティナイト ヴァジユランダ》の速攻を仕掛けたが、それはクロノス先生の読まれていた。

次第に追い詰められ、クロノス先生の場に現れたのは攻撃力4400の《古代の機械究極巨人》。

何とかクロウおじさんに貰った《BF 熱風のギブリ》で1ターンは凌いだけれど、どうすればいいの？

遊戯王GX - 蟹と魔女の娘 - 第31話：教職員が生徒相手にやりすぎはいけないと思う

side yuri

『私のターン！』

私は今までにも増して大きな声でカードをドローする。

直ぐにそのドローカードを確認し、合計3枚となった手札を見て思考する。

うん。

今回のエクストラデッキに《ドラグニティナイト セイリュウ》を入れていない以上これしかない。

私はそう判断し、1枚のカードに手をかける。

『魔法カード《天使の施し》を発動！ デッキから3枚カードをドローし、2枚を捨てる！』

『又ッ！？』



私はデッキから3枚カードを引き、一瞥してから2枚のカードを墓地へと送った。

そして手札に敢えて残したカードを召喚すべく、デュエルディスクにセットする。

『続いて《ドラグニティ ファランクス》を召喚！』

私の場に頭に2つの槍を付けた小さな青い龍が出現する。

《ドラグニティ ファランクス》：ATK/500

ここから《ドラグニティナイト グラシーザ》もシンクロ召喚できるけれど、それだと勝てない。

……だから、

『更に、《ドラグニティ ファランクス》を墓地に送り、《ドラグニティアームズ ミスティル》を特殊召喚！』

その言葉と同時に《ドラグニティ ファランクス》が脱皮だと思われる現象を起こし、黄色の体躯に鋭い1本の剣を持つ竜人へと成長した。

《ドラグニティアームズ ミスティル》：ATK/2100

そして現れた竜人はすぐさま手に持つ剣を虚空に振る。

すると剣によって空間が切り裂かれ、中から《ドラグニティ ファランクス》が出てきた。

『どうして墓地に送ったモンスターがフィールド上に戻っているの？』

『《ドラグニティアームズ ミスティル》の効果発動！ このカードの召喚・特殊召喚に成功したとき、墓地の「ドラグニティ」名をついたモンスターをこのカードに装備できます！』

『……なるほどなノ〜ネ』

クロノス先生の質問に私が答えると、クロノス先生はすぐにそれを理解した。

……それにしても、どうしてこんなにも理解力のある先生が素人のあんなにも酷い授業をするのかしら？

私は、墓地から出てきた《ドラグニティ ファランクス》のカードを魔法・罫ゾーンにセツトしながら思う。

そして、フィールドの《ドラグニティアームズ ミスティル》と《BF 熱風のギブリ》の間に再び現れた青色の竜が鳴き声をあげたことで、私の思考は終わった。

『……行くわ！ 《ドラグニティ ファランクス》を自身の効果で特殊召喚！』

その言葉と共に《ドラグニティ ファランクス》をモンスターゾーンへと置き換えると、《ドラグニティ ファランクス》は先程よりも数段高い鳴き声をあげてフィールドに舞い降りた。

《ドラグニティ ファランクス》：DEF/1100

これで合計レベルは11。

普段なら《ドラグニティナイト セイリュウ》をシンクロ召喚するところだけど……

今回の私のエクストラデッキにそれはない。  
だから、代わりにレベル11をシンクロ召喚する！

『レベル3《BF 熱風のギブリ》にレベル2《ドラグニティ  
アランクス》をチューニング！』

『レベル5……入学試験の時のモンスター、ナノネ？』

流石、覚えていましたか。

私が感心している間に、《ドラグニティ ファランクス》は2つ  
の星に変化し、直後に星が輪となる。

その中を《BF - 熱風のギブリ》が3つの星となりながら潜り抜  
ける。

+    ||    x 5

『……その通りですよ。……秘境の竜騎士が白槍を構え、守りし  
者を貫く！ 戦場を鎮める風となれ！ シンクロ召喚！ 舞え！

《ドラグニティナイト・グラシーザ》！』

やがて5つの星と輪を貫くように1つの光の柱が現れ、それが辺  
りを眩しく照らした。

……光が晴れると、私の場には紫色の竜に跨る女性竜騎士が白銀  
の槍を構えていた。

《ドラグニティナイト グラシーザ》：ATK/2300

『でも攻撃力18、2300ナノネ！ 私の《古代の機械究  
極巨人》よりーモ、遥かに下ナノネ！！』

『……確かに、今のままでは勝てません。……ですが!』

私はあっさりと敵わない事を認めるが、その後続く言葉を紡ぎだす為に、少し溜めてから話し出す。

『どんなに強いカードでも、複数のカードを合わせることで倒せることができます! 《ドラグニティナイト グラーシーザ》の効果発動! このカードのシンクロ召喚に成功した時、墓地の「ドラグニティ」と名のつくモンスター1体を装備できる。私は、《ドラグニティ パルチザン》を装備!』

《ドラグニティナイト グラーシーザ》が《ドラグニティアームズ ミスティル》のように空間を突くと。

……とは言っても武器の差はあるけれど。

空間に穴が開き、そこから《ドラグニティ パルチザン》が光りと化しながら飛び出てきて、《ドラグニティナイト グラーシーザ》の槍を大剣に変えた。

……これで準備は整った。……あとは思いつきりぶつかるだけ!

『レベル6《ドラグニティアームズ ミスティル》にレベル5《ドラグニティナイト グラーシーザ》をチューニング!』

そしてこの言葉にクロノス先生は大きく反応する。

まあ、いきなりだししょうがないと言えば、しょうがないわね。

『なっ!? シニョーラの《ドラグニティアームズ ミスティル》と、《ドラグニティナイト グラーシーザ》はチューナーモンスターではないはずナノ〜ネ!』

『……フフッ！ それはどうかしら？』

『何ですーと？』

クロノス先生は本当に間抜けそうな顔をしている。

何か無性にからかいたくなるけれど、今は効果の説明ね。

『《ドラグニティ パルチザン》の効果、このカードが装備カード状態のとき、装備モンスターを？チューナー として扱う！』

『！？』

『よってこのシンクロ召喚は成立！！』

そして《ドラグニティナイト グラシーザ》が《ドラグニティ パルチザン》の大剣の助力を得て、5つの星で止まっていた己の体を5つの輪と変化させ、その中を6つの星となった《ドラグニティ アイームズ ミステイル》が潜り抜けた。

+

|| x 1 1

『甦る溪谷に舞い降りし、再誕の龍。今ここに覚醒し眼前の障害を薙ぎ払え！』

私がこの言葉を言った途端、フィールドに崩れた《竜の溪谷》のイメージが写り、その地面からシンクロ召喚の時の光が溢れだす。

『シンクロ召喚！ 断罪せよ、《パニッシュメント・ドラギオン》』

！  
』

同時に渓谷のイメージが消え、シンクロ召喚の時の光が晴れると、私の場に《トライデント・ドラギオン》の赤い部分を白色に、ほかの部分を白銀に光らせた三つ首の龍が鎮座していた。

《パニツシユメント・ドラギオン》：ATK/2700

『……何ナノ〜ネ？ このモンスターは！？』

クロノス先生も、《パニツシユメント・ドラギオン》に気圧されている。

確かに分からないでもないわね。私だってもし対峙したら、気圧されそうだし。

でも、味方であれば心強い雰囲気も同時に持っている。

だから、大丈夫なはず！

『《パニツシユメント・ドラギオン》の効果発動！ コール・シャウト！ このカードのシンクロ召喚に成功した時、墓地からレベルの合計が8となるようにドラゴン族、または鳥獣族のモンスターを2体以上ユニオンモンスターとして特殊召喚します！ ……私は《ドラグニティ ミリトウム》、《ドラグニティ パルチザン》、《ドラグニティ ファランクス》を特殊召喚するわ！』

効果の発動と同時に《パニツシユメント・ドラギオン》が咆哮をあげる。

すると、デュエル場に3つの光の塔が現れ、中から3体のモンスターが姿を現した。

《ドラグニティ ファランクス》 : DEF / 1100

《ドラグニティ パルチザン》 : ATK / 1200

《ドラグニティ ミリトゥム》 : ATK / 1700

しかし、ミリトゥムは微動だにしない。

やはり、ヴァジュランダとして《未完の時空機筐》に捕らわれているよね。

……って、あれ？ またクロノス先生があたふたしているけれど、どうしたのかしら？

「また、チューナーモンスターとそれ以外のモンスターが揃ったノ  
ネ！」

ああ、そういう事。

……でも《古代の機械の究極巨人》を破壊するには至らない。

……ん？ でも《パニツシユメント・ドラギオン》の効果をうまく使えば……

……いける……かも？

……いやいや、でもクロノス先生の伏せカードが、攻撃力強化系  
だったら返り討ちに合う。

……だけど、行くしか……ない……よね？

「レベル4《ドラグニティ ミリトゥム》にレベル2《ドラグニティ  
ファランクス》をチューニング！」

いつもとは違って沈黙を保ったままのミリトゥムが4つの星となり、  
《ドラグニティ ファランクス》が2つの輪となって星を囲んだ。

+                    ||                    x 6

そして6つの星と輪が眩い光を放つ。

『秘境の竜騎士が赤槍を携え、飛び交う魔術を掌握する。戦場を鎮める風となれ！ シンクロ召喚！ 駆け抜けよ！ 《ドラグニティナイト - ガジャルグ》！』

……光が晴れると、《ドラグニティ レギオン》のような鳥人が、赤色の鎧を纏った紺色の竜に跨り、赤色の槍を構えていた。

《ドラグニティナイト ガジャルグ》：ATK/2400

『《ドラグニティナイト ガジャルグ》の効果を発動！ 1ターンに1度、デッキからレベル4以下のドラゴン、及び鳥獣族モンスター1体を手札に加え、その後手札のドラゴン及び鳥獣族モンスターを捨てる。』

『又又！ でもシニョーラの手札は0ナノネ！ デッキから加えられたカードはすぐに墓地に送られるのではナイノ？』

『確かにそうですが……私のデッキには手札から捨てられることで効果を発揮するカードがあるのですよ！』

『な、なるほど。一度手札を経由する事、その効果を発揮するノネ！』

私の効果の発動宣言に、クロノス先生が疑問を口にし、私がそれに答えると、クロノス先生はすぐにその真意を理解する。



やっぱり、いい先生だと思っただけねどな。  
どうしてエリート教育に走ったのかしら？

っと、今は疑問より眼前の敵ね。

『《ドラグニティナイト ガジャルグ》の効果で、デッキから《ドラグニティ フェアリ》を手札に加え、そのまま墓地へ。……そして《ドラグニティ フェアリ》の効果発動。このカードが「ドラグニティ」と名のつくカードの効果で手札から墓地に送られた場合、特殊召喚する事が出来る。』

私が《ドラグニティナイト・ガジャルグ》の効果で加えるカードを宣言すると、デッキからそのカードが検出され、デッキから押し出される。私がそれを取ると、デッキはオートシャッフルされた。そして、加えた《ドラグニティ・フェアリ》を墓地にそのまま送ると、墓地からすぐにそのカードが飛び出た。

再び私はそれを手に取り、デュエルディスクにセットする。すると、私の場に妖精のような透き通った羽を持つ淡く黄緑に光る龍が現れた。

《ドラグニティ・フェアリ》：DEF/100

『……また、チューナーモンスターナノネ！』

まあ、私もここまで展開するのは久しぶり………いえ、カニユーラさんの時もしたから最近ね。

だけど、これで《古代の機械究極巨人》を倒す手立てが揃った。

行くわよ。

『レベル6《ドラグニティナイト・ガジャルグ》にレベル2《ドラグニティ・フェアリ》をチューニング!!』

赤槍を構えた《ドラグニティナイト・ガジャルグ》が赤槍を振ると、その周りに何だかよく分からない球体が数個現れ、その中に《ドラグニティナイト・ガジャルグ》の星々が吸い込まれる。

そして《ドラグニティ・フェアリ》は2つの輪となってデュエル場の上空へと駆けあがった。

最後に6つの球体と2つの輪がデュエル場の天井より上に行き、暫くした後その場所から一筋の光がデュエル場に降り注いだ。

+                    ||                    x 8

『秘境の竜騎士が熱風を纏いて舞い降りる！ 戦場を鎮める風となれ！ シンクロ召喚！ 焼き尽くせ、《ドラグニティパラディン・ガラティン》！』

天井からの眩い光を振り払い、私の場に右手に両刃の大剣を持ち、巨大な翼と小さな翼を併せ持つ、白色の鎧を着た人型に近い緑色の龍が現れた。

《ドラグニティパラディン ガラティン》 : ATK / 2800

そしてそれと同時にお互いのフィールドに天井からの光の粒子が舞い落ちる。

『な、なんなの〜ネ!? この光〜ハ?』

……フフッ この光はね。

『この瞬間、《ドラグニティ フェアリ》の効果が発動！ 自身の効果で特殊召喚に成功した《ドラグニティ フェアリ》が「ドラグニティ」と名のつくシンクロモンスターのシンクロ召喚に使用された場合、特殊召喚したシンクロモンスターのレベル×100ポイントのライフを回復する！』

『ヌツ……シニョーラ遊璃の召喚した《ドラグニティパラディン ガラティン》のレベルは……8ナノ〜ネ！』

『つまり、100×8。 800ポイントのライフを回復するわ！』

先程まで綺麗な景色と化していた光の粒子が、私だけに降り注ぐようになり、それらがデュエルディスクのライフカウンターに溶け込み、私のライフを回復させた。

遊璃：LP/1200 2000

……これだけで終わるのであれば意味がない。

どうか最後まで妨害されませんように……私はそう願いながら効果の発動宣言をするべく口を開いた。

『更に《ドラグニティパラディン ガラティン》の効果発動！ このカードのシンクロ召喚に成功したとき、墓地から「ドラグニティ」と名のついたチューナー以外のモンスターをこのカードに2枚まで装備する。……私は《ドラグニティナイト グラーシーザ》、《ドラグニティナイト ガジャルグ》を装備！』

《ドラグニティパラディン ガラティン》の背後に2体の竜騎士、

グラリーシーザとガジヤルグが現れ、ガラティンを補佐するような姿勢となる。

するとガラティンの周りに不思議なバリアが張られた。それにはクロノス先生も気付いたようで、疑問の声を発してきた。

『シニョーラの《ドラグニティパラディン ガラティン》一ノ横にある膜はなんなノ〜ネ!?』

『これは《ドラグニティパラディン ガラティン》の特殊能力、輝グロリアスける壁ウォール』

です! 《ドラグニティパラディン ガラティン》は、「ドラグニティ」と名の付くカードを装備している場合、自分のターンの間相手の魔法・罠カードの効果を受けません!』

『何です〜ト!!!』

クロノス先生は私のカード効果の説明に少々オーバーとも取れるようなりアクションを取る。

……なるほど、あのカードは攻撃反応系の罠かしらね。どうして分かるかも、クロノス先生のあの驚きようから。恐らく、私の予想は正しいと思う。

……そしてガラティンとフェアリの効果処理が終わった頃、私の墓地が更に光り、1枚のカードが飛び出してくる。

私はそれをクロノス先生に見せ、発動を宣言した。

『私は更に墓地の罠カード、《ドラグニティ・スタン》を発動! このカードが墓地にあり、自分フィールド上に2枚以上「ドラグニティ」と名の付くカードを装備した「ドラグニティ」と名の付くモンスターが存在する場合のみこのカードは発動する事が出来る。』

このカードが墓地に存在し、自分のフィールド上に2体以上の「ドラグニティ」と名の付くモンスターを装備したモンスターがいる場合、相手フィールド上に表側表示で存在するモンスターの攻撃力と守備力を2枚以上「ドラグニティ」と名の付くカードを装備した「ドラグニティ」と名の付くモンスターのレベルの合計の半分×100ポイントダウンする。』

《ドラグニティパラディン ガラティン》が手に持つ大剣から雷を《古代の機械究極巨人》に向けて放つ。

すると、《古代の機械究極巨人》はそれに直撃。

直後に巨体全体が軽いショートを起こし、歯車の周りが鈍り、動きが遅くなった。

《古代の機械究極巨人》：ATK/4400 4000

『ノオ〜!! 私の《古代の機械究極巨人》があ〜……』

着々と《古代の機械究極巨人》を倒す準備を整えていく私に対し、クロノス先生は切り札の弱体化からか、嘆き声が止まらない。

さて、仕上げと行きますか。

『そしてユニオンモンスターとなった《ドラグニティ パルチザン》の効果発動! このカードを「ドラグニティ」と名の付くシンクロモンスターに装備し、その元々の攻撃力分装備モンスターの攻撃力をアップする! 私が選ぶのは《ドラグニティパラディン ガラティン》!』

『……とう事ゝハ、《ドラグニティ パルチザン》の攻撃力1200 - ガ、《ドラグニティパラディン ガラティン》に追加されー  
テ……』

クロノス先生が反応を返すまでの間に《ドラグニティ パルチザン》が《ドラグニティパラディン ガラティン》の背後に回り、小さな翼を懸命に動かし、追い風を起こす。

その追い風が《ドラグニティパラディン ガラティン》に更なる力を齎した。

《ドラグニティパラディン ガラティン》：ATK/2800 4000

『……4000!! 攻撃力の下がった《古代の機械究極巨人》と一緒にの〜ネ!!!』

これを狙っていたもの。《古代の機械究極巨人》を倒せば、クロノス先生の間はがら空き。

一気に勝負を決めるわ!

『……バトル! 《ドラグニティパラディン ガラティン》で《古代の機械究極巨人》を攻撃! 紅蓮の一撃!』

《ドラグニティパラディン ガラティン》が、刀に熱が走らせ、刀身が赤く輝かせる。

それを居合の要領で腰に携え、一刀の元に切り伏せんと飛び立った。

『ヌヌヌ(リバーズカードは《月の書》、《ドラグニティパラディン ガラティン》はその効果を受けないノーデ、使い物にならないの〜ネ!)……迎え打つの〜ネ!! 《古代の機械究極巨人》!!!』

対するクロノス先生も《古代の機械究極巨人》に迎撃命令を出す。すると、《古代の機械究極巨人》は4本足を高速で動かし、《ド

ラグニティパラディン ガラティン》へと体当たりをし、《ドラグニティパラディン ガラティン》だと思つて竜の態勢を崩す。それを好機と見たのか、《古代の機械究極巨人》は手に持った盾で動きを制限したのち、もう片方の手で止めを刺さんと腕を振り上げた。

……だが、振り上げた手が再び下されることはなかった。

ガシヤツ……

ジ……イ……ジイ……

そんな雑音が辺りに響く。

私は何の音かと周りを探ると、その音の発信源は《古代の機械究極巨人》であつた。

先程の音が、時間と共に大きくなっていく。

……やがて音が最大になったと思われた頃、《古代の機械究極巨人》は徐々にその体を崩壊していった。

……そういえば私のモンスター達は？

見れば、崩壊を続ける《古代の機械究極巨人》の他には《パニッシュメント・ドラギオン》の姿しか見当たらない。

つまりは《ドラグニティパラディン ガラティン》が見当たらない。

私がそう思つた時だつた。

《古代の機械の究極巨人》が完全に崩壊し、その後ろに《ドラグニティパラディン ガラティン》が現れたのは。

推測だけれど、《ドラグニティ・パルチザン》の追い風で超高速で背後に移動したのかしら？

『どうしてナノ〜ネ？ どうして私の《古代の機械の究極巨人》だけーが、破壊されているノ〜ネ！』

『……先生はユニオンモンスターの効果は知っていますよね？』

私が挑発気味にそれを言うと、クロノス先生は流石に馬鹿にされて悔しいような顔つきをして、何度か頷きながら答えた。

『……成る程ナノ〜ネ。ユニオンモンスターハ、装備モンスターが破壊されるとーき、代わりに破壊される効果があるの〜ネ！』

『……その通りです。ユニオンモンスターとなった《ドラグニティ・パルチザン》を墓地に送ることで破壊を免れました。まあ、攻撃力は元に戻ったのですが……』

《ドラグニティパラディン ガラティン》：ATK/4000 2800

私が魔法・罨ゾーンセットしてあった《ドラグニティ・パルチザン》を取り除くと、《ドラグニティパラディン・ガラティン》に吹いていた追い風が《ドラグニティパラディン・ガラティン》の周りに吹き初め、《ドラグニティパラディン・ガラティン》に迫っていた《古代の機械究極巨人》の残骸を吹き飛ばした。

暫くして、風が止んだ頃、《ドラグニティパラディン・ガラティン》が私のフィールド上に戻ってきた。

だが、《古代の機械究極巨人》の残骸は消えていなかった。

『……どうして消えていないの？』



私は、何故《古代の機械究極巨人》が破壊された後も消えていないのが理解できていなかった。

するとクロノス先生が、墓地のカードを1枚デュエルディスクにセットしながら口を開く。

『この瞬間、《古代の機械究極巨人》の効果を発動するノ〜ネ！

このカードが破壊された場合、墓地の《古代の機械巨人》1体を召喚条件を無視して特殊召喚するノ〜ネ！！』

何ですって！？

それじゃあ《パニツシユメント・ドラギオン》で大ダメージを狙えないじゃない！

私が内心驚きを隠せていない内に《古代の機械究極巨人》の残骸が奮え、中から1本の手が出てきた。

そしてその手は瓦礫をかき分けながら、その巨体を起こす。

やがてクロノス先生のフィールドに《古代の機械巨人》が姿を表した。

《古代の機械巨人》：ATK/3000

攻撃力3000。

普通なら《パニツシユメント・ドラギオン》では倒せない。

けれどね。私のフィールドには、あのカードが残っている。

『……なら私もこの瞬間、《ドラグニティ・スタン》の効果発動！

《古代の機械巨人》の攻撃力を400ポイントダウンさせるわ！』

《ドラグニティパラディン ガラティン》が手に持つ大剣から再び雷を放ち、《古代の機械巨人》をショートさせ、動きを鈍らせた。

《古代の機械巨人》：ATK/3000 2600

『この攻撃力なら倒せるわ！ 《パニツシユメント・ドラギオン》で《古代の機械巨人》を攻撃！ パニツシユメント・ブレス！』

《パニツシユメント・ドラギオン》が3つの首に白い息吹を溜め込みそれを一気に放つ。

1つに収束した息吹はショートして動きの鈍っている《古代の機械巨人》に向かっていた。

……だけど、

その攻撃は突然出現した1冊の本によって防がれた。

『えっ！？』

私はその事に驚き、思わず声を漏らしてしまう。

その本は未来で幾度も使われ、何度も邪魔された物であったからだ。

『速攻魔法—《月の書》を発動したノ〜ネ！ このカードの効果でモンスター1体を裏側守備表示にするノ〜ネ！！ さあ、《パニツシユメント・ドラギオン》を裏側守備表示に変更するノ〜ネ！』

クッ……

でも、どうして今使ったの？

このターンの最初の《ドラグニティ・ファランクス》を召喚したときに使えば、打つ手がなかったのに……

私は、《パニツシユメント・ドラギオン》を裏側守備表示にセッ

トし直しながら、その疑問を覚えたが、今はその後の事を考えることにした。

『……バトルフェイズを終了。　私の手札も0で何も出来ません。ターン終了です。』

遊璃：LP/2000

モンスター：《ドラグニティパラディン・ガラティン》：ATK/2800、モンスター（パニッシュメント・ドラギオン）×1

魔法・罫：《ドラグニティ・スタン》、《ドラグニティナイト・ガジャルグ》、《ドラグニティナイト・グラシーザ》

手札：なし

フィールド：なし

適用効果：相手モンスターの攻撃力と守備力は400ポイントダウンする。

『私のターン、ドロ！　ヌフフフ……』

クロノス先生は、自動的に排出されるドロカードを手に取り、それを眺めてから不気味な笑い声をあげた。

私があまりの気持ち悪さに引いていると、クロノス先生はそれに気づかないのかにやけ顔を直さない。

暫くした頃ようやく元に戻ったクロノス先生が、ドロしたカードを魔法・罫ゾーンにセットした。

『私ーハ、装備魔法《古代の機械戦車》を《古代の機械巨人》に装備するノ〜ネ！　このカードは「アンティーク・ギア」と名の付くモンスターにのみ装備出来、攻撃力を600ポイントアップするノ〜ネー！！』

《古代の機械巨人》の横に《古代の機械兵士》位の大きさなら裕に乘れる屑鉄の機械が現れるが、《古代の機械巨人》の大きさは《古代の機械兵士》とは段違いなので乗り込めない。

何度か試した後に無理だと悟ったのか、《古代の機械戦車》をサッカーボールを足元に止めるような動作で《古代の機械巨人》の足元に止まった。

《古代の機械巨人》：ATK/2600 3200

『攻撃力3200!?!』

『行くノ〜ネ!! 《古代の機械巨人》! 《ドラグニティパラディン ガラティン》を攻ゲーキ! アルティメット・パウンド!』

《古代の機械巨人》は、足元の《古代の機械戦車》をその拳で打ち出した。

打ち出された戦車は、パンチが来るだろうと構えていた《ドラグニティパラディン ガラティン》の大剣を真つ二つに叩き割り、そのまま腹部へと直撃。

《ドラグニティパラディン ガラティン》はその一撃によって破壊された。

『クツ………』

遊璃：LP/2000 1600

そして私の場に2体以上「ドラグニティ」と名のつくモンスターを装備しているモンスターが存在しなくなったことで、《ドラグニティ・スタン》は突如現れた異次元の扉に飲み込まれた。

《古代の機械巨人》：ATK/3200 3600

攻撃後、《ドラグニティパラディン ガラティン》に当たった《古代の機械戦車》は何もなかったかのように《古代の機械巨人》の足元に戻った。

『私はこれでターンエンドなの〜ネ!!』

クロノス：LP/3800

モンスター：《古代の機械巨人》：ATK/3600

魔法・罫：《未完の時空機筐》、《古代の機械戦車》

手札：0枚

フィールド：なし

適用効果：なし

《ドラグニティパラディン ガラティン》が破壊されたのは想定外だったけれど、

何とかライフは残ったわ。

……次のドローカードが勝負ね。

『私のターン!』

私は祈るような気持ちでデッキに手をかけ、勢いよく引き抜く。そしてドローカードを確認した。

『(待っていたカードじゃないけれど、まだ分からない)……カードを1枚伏せ、ターンエンド』

遊璃：LP/1600

モンスター：モンスター（パニツシユメント・ドラギオン）×1

魔法・罫：1枚

手札：なし

フィールド：なし

適用効果：なし

待っていたカードを引くことが出来ず、手札がドローカード以外になかった私は、

そのカードを伏せて、ターンを終了するしかなかった。

『打つ手なしなのかナノ〜ネ？ 私のターン！ ドロ〜ニヨ！ ……ムムム。』

クロノス先生は、カードをドローした直後、急に腕を組み唸りだした。

多分、思考中なのよね？ 体調不良じゃないわよね？

……そうした私のやり取りから数分後、クロノス先生はようやく腕組みを止め、顔をあげた。

……その顔は今までのどこかプライドに拘った顔ではなく、清々しい顔であった。

『……悪かったノ〜ネ』

突然、クロノス先生が謝罪をしてきた。

『……このデュエル、元は私の我が儘で始めたうえーニ、シニヨーラ遊璃や他の生徒たちにーモ、迷惑をかけてしまったノ〜ネ』

『……クロノス先生』

私は、……いえ、会場のみんなは静かにクロノス先生の話を聞いている。

『本来ナーラ、教職員とシーテ、至らない所ーハ、生徒達ーに指摘してもらって授業をするのが普通。しかーし、私はエリート教育と言う差別的な授業をした挙句、生徒に嫉妬するという教職員としてあるまじき行為をしてしまったノ〜ネ!』

クロノス先生は、その言葉を発した後、目を閉じ、深呼吸を何度かする。

そして目を見開き大声で宣誓した。

『……今までやってきた事ーハ、許されませんが、せめてもの罪滅ぼしとシーテ、このデュエルを今までの私への決別としーテ、最後まで全力でデュエルするノ〜ネ!』

その言葉に会場は沸く。

曰く、クロノス先生万歳

曰く、頑張れ! クロノス先生!

曰く、どっちも最後まで頑張れ!

などだ。

『シニョーラ遊璃、行くノ〜ネ!』

『はい、クロノス先生!』

クロノス先生は、周りの声援に後押しされたかのように、私に声をかけ、私はそれに応じた。

そして私の応答に大きく頷いて、ドローしたカードをデュエルディスクにセットした。

『魔法カード《天よりの宝札》を発動！ お互いにデッキから手札が6枚になるようにカードを引くノ〜ネ！ 現在、私たちの手札はお互いに0枚。 よってお互いに6枚のカードをドローするノ〜ネ！』

クロノス先生の発動したのは最強のドローカードとも名高い《天よりの宝札》。

……確かにお互いに手札が0枚では全力は出し切れないわね。

私はそんなことを考えながら、デッキから6枚のカードをドローし、手札とする。

ほぼ同時にクロノス先生もデュエルディスクから検出された6枚を手に取り、手札とした。

『行くノ〜ネ！ 魔法カード《パワー・ボンド》を発動！ このカードは機械族専用の融合カードなノ〜ネ。 しかし、私の手札と場にカードが揃っていないノード、速攻魔法《サイバネティック・フュージョン・サポート》を発動するノ〜ネ！ ライフポイントを半分支払い、融合素材モンスターを墓地から代用するノ〜ネ！ 私は、墓地の《古代の機械巨人》、《古代の機械騎士》、《古代の機械究極巨人》をゲームから除外し、《古代の機械究極巨人》を融合召喚するノ〜ネ！』

クロノス：LP / 3800 1900

クロノス先生が次に発動したのは丸藤先輩がカミュラさんとのデュエルでやったのと同じこと。



でも、融合素材がさつきと違う。  
どうして……？

しかし、融合は無事に終了し、私の目の前に先程やっとの思いで倒した《古代の機械究極巨人》が2倍の大きさとなって現れる。

《古代の機械究極巨人》：ATK/4400 8800

でも、私の伏せカードを甘く見ないでよね。

『クツ……罨カード《和睦の使者》！ このターンの私へのダメージを0にする！』

これでエンドフェイズになれば、クロノス先生は《パワー・ボンド》の効果で自滅する。

デュエル中にミリトウムを救出できなかったのは本当に申し訳ないけれど、今回ばかりは仕方がない。

『……甘いノ〜ネ！』

『えっ!?!?』

『エンドフェイズに速攻魔法《トラップ・ブースター》を發動するノ〜ネ！ 手札を1枚捨てて、手札の罨カードを瞬時に發動するノ〜ネ！』

手札から罨カードですって!?!?

そう私が驚いているとクロノス先生が1枚の手札を捨て、デュエルディスクに1枚のカードをセットした。

それにより発動した罨カードが姿を現す。

『罨カード《レインボー・ライフ》！ 手札を1枚捨てる事ーデ、このターンに発生する自分へのダメージをすべて無効にし、その数値分ライフポイントを回復するノ〜ネ！』

クロノス先生が《天よりの宝札》でドロ―した最後のカードを墓地に送るとクロノス先生の周りに虹色の壁が現れる。

同時に《古代の機械究極巨人》から何故かスパークが発生し、クロノス先生へと向かうが、それは虹色の壁によって遮断され、逆にクロノス先生のライフポイントを回復した。

クロノス：LP / 1900 6300

そしてエンドフェイズでの発動だった為、虹色の壁はスパークを吸収した後に消え去った。

クロノス：LP / 6300

モンスター：《古代の機械究極巨人》：ATK / 8800、《古代の機械巨人》：ATK / 3600

魔法・罨：《未完の時空機筐》、《古代の機械戦車》

手札：0枚

フィールド：なし

適用効果：なし

…… 《天よりの宝札》で手札は6枚に増えたけれど、クロノス先生の場には攻撃力8800と3600のモンスター。

私に勝ち目はあるの？

…… To be continued

\*新規登場カード\*

《パニツシユメント・ドラギオン》

シンクロ・効果モンスター（タナトスさん投稿オリジナル）

星11/風属性/ドラゴン族/ATK2700/DEF3000

「ドラグニティ」と名のついたチューナー1体+チューナー以外のドラゴン族モンスター1体以上

このモンスターはシンクロ召喚以外でエクストラデッキから特殊召喚できない

このカードのシンクロ召喚に成功した時、墓地からレベルの合計が8になるように2体以上鳥獣族モンスターかドラゴン族モンスターを選択し、選択したモンスターを特殊召喚する。

この効果で特殊召喚したモンスターはユニオンモンスターとして扱い、効果は以下の通りになる（そのモンスターの元々の効果は無効化される）

・1ターンに1度、自分のメインフェイズに自分フィールド上の「ドラグニティ」と名のつくシンクロモンスターに装備カード扱いとして装備、または装備を解除して表側攻撃表示で特殊召喚する（1体のモンスターが装備できるユニオンは1体まで、装備モンスターが破壊される時代わりにこのモンスターを破壊する）  
装備されているモンスターの攻撃力はこのカードの元々の攻撃力の数値分アップする。

テキストの装備対象の範囲を少し変えました  
タナトスさん勝手に申し訳ありません。

《ドラグニティ・フェアリ》

効果・チューナーモンスター（オリジナル）

星2 / 風属性 / ドラゴン族 / ATK1000 / DEF1000

このカードが「ドラグニティ」と名の付くカードの効果で手札から墓地に送られた場合、

このカードを特殊召喚する事が出来る。(誘発効果)

「ドラグニティ・フェアリー」の効果はデュエル中に1度しか使えない。(ルール効果)

このカードの効果で特殊召喚されたこのカードが「ドラグニティ」と名の付くシンクロモンスターのシンクロ素材として墓地に送られた場合、自分のライフポイントをそのシンクロモンスターのレベル×1000ポイント回復する。(誘発効果)

### 《ドラグニティ・スタン》

オリジナル  
永続罫

このカードは手札またはフィールド上から発動する事が出来ない(ルール効果)

このカードが墓地に存在し、自分フィールド上に2枚以上「ドラグニティ」と名の付くカードを装備した「ドラグニティ」と名の付くシンクロモンスターが存在する場合のみ、このカードは墓地からフィールドに戻すことで発動する事が出来る。(発動条件)

自分のフィールド上に2体以上の「ドラグニティ」と名の付くモンスターを装備したモンスターがいる場合、相手フィールド上に表側表示で存在するモンスターの攻撃力と守備力を2枚以上「ドラグニティ」と名の付くカードを装備した「ドラグニティ」と名の付くモンスター全てのレベルの合計の半分×1000ポイントダウンする。

(小数点は切り捨てる)(永続効果)

自分のフィールド上に2体以上「ドラグニティ」と名の付くモンスターを装備した「ドラグニティ」と名の付くシンクロモンスターが存在しなくなった場合、このカードをゲームから除外する。(ルール効果)

《古代の機械究極巨人》

融合・効果モンスター（OCG効果）

星10 / 地属性 / 機械族 / ATK4400 / DEF3400

「古代の機械巨人」+「アンテイク・ギア」と名のつくモンスター  
1×2

このカードは融合召喚でしか特殊召喚できない。

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

このカードが攻撃する場合、相手はダメージステップ終了時まで魔法・罠カードを発動する事ができない。

このカードが破壊された場合、自分の墓地に存在する「古代の機械巨人」1体を召喚条件を無視して特殊召喚する事が出来る。

《トラップ・ブースター》

アニメオリジナル  
速攻魔法

手札を1枚捨てて発動する。

自分はこのターンに1度だけ、手札から罠カードを発動する事ができる。

《レインボー・ライフ》

通常罠（OCG効果）

手札を1枚捨てる。

このターンのエンドフェイズ時まで、自分が受けるダメージは無効になり、その数値分ライフポイントを回復する。

### 31話：教職員が生徒相手にやりすぎはいけないと思う（後書き）

最初に約1か月も更新が停滞して申し訳ありませんでした。

リアルの忙しさが半端なく、夏+パソコンの熱+風邪が執筆意欲を奪い、気づけばかなりの時が……

これからもこのような事になる事はあるかもしれませんが、  
完結までには逃げたりしないのでこんなダメな奴ですが、応援よろしく  
お願いします。

Q & a m p : A

Q：遊璃のターン長すぎなんだよ！

A：分かっています。

ここでこうすれば、少ない手札で《古代の機械究極巨人》を倒せる……と執筆していたらいつの間にか80000〜90000字に……

Q：《パニツシユメント・ドラギオン》で特殊召喚したモンスター  
ってシンクロ素材にできるの？

A：できます。表記的には、「チューナー・ユニオン・効果モンスター」のようになりますので。

Q：ご都合主義カードの連打w

A：こうしないと解決しなかったんです。

恐らく二度と使う事もないと思うので今回だけは許してください。

Q：遊璃は《古代の機械究極巨人》の破壊された時の効果を知らなかったの？

A：そうなります。ハイトマンは《古代の機械巨人》による力押し

ですから。

Q：《古代の機械戦車》の扱いが……

A：どう考えても《古代の機械巨人》を乗せる事が出来なかったの  
で、扱いが酷くなっちゃいました。。

Q：えっ！？ まさかの急な展開！

A：《天よりの宝札》がこのタイミングで引けたという事と、生徒  
でありながら自分の切り札を破壊した遊璃。

それを考えていたらレッドやイエローの生徒たちもしっかりと教え  
れば伸びると気づいたのでしょう。

Q：《パワー・ボンド》おおおお……

A：機械族専用融合魔法ですし、《サイバー・ドラゴン》はサイバ  
ー流のカードでも《パワー・ボンド》は違うと判断しました。

サイバー流専用なら「サイバー」と名のつく機械族専用と入る筈で  
すし、そうなると翔が使いなくなりますしね。

という訳で、クロノスが使っても問題ないという決断です。

Q：今度はOCGVerかよw

A：そっちの方が盛り上がるかなと。

Q：攻撃力8800と3600。リアルなら兎も角対処できるの？

A：善処します。

Q：新規カードに違和感が……

A：オリジナルのみ 効果と分かるようにしてみました。  
見やすくなったでしょうか？

因みに投稿カードは、投稿者以外判別が付かないので付けていません。  
ん。

#### 次回の予告

今回クロノスとのデュエルを終了させるつもりが、まだ長引くような展開に仕上がった為、次回も続きです。  
文量によっては、ザルীগも混ぜます

感想お待ちしております。

特に一般の方、外部の意見が知りたいので特にお願いします。



### 32話：教師が本気になる手が付けられなくなるものだ（前書き）

皆様お久しぶりです。

テスト終わってからの急ピッチでの執筆作業でしたので下手したら誤字が多くなるかもしれません。

どンドン指摘してください。

――

遊璃『今回の最強カードはこれ！ またオリカなんだけれどね……』

《ドラグニティナイト・ロンギヌス》

シンクロ・効果モンスター（HIROさん投稿オリジナル）

星12/風属性/ドラゴン族/ATK3500/DEF2500

ドラゴン族チューナー+チューナー以外の鳥獣族モンスター2体以上

1ターンに1度、自分の墓地に存在する「ドラグニティ」と名の付

いたモンスター1体を装備魔法扱いとしてこのカードに装備できる

このカードに装備されている「ドラグニティ」と名の付いたモンス

ター×800ポイント攻撃力をアップする

1ターンに1度、相手が魔法・罫カードを発動した時このカードに

装備している「ドラグニティ」と名の付いたモンスターを破壊する

事でそのカードを無効にして破壊する。

この効果は相手ターンでも発動できる。

遊璃『現状で私の召喚できる最強の「ドラグニティナイト」の1体  
ね！』

瑞波『攻撃力は3500だが、効果で4300のようなものだな。』

……まあ、《古代の機械究極巨人》には全く届かないがな』

遊璃『……仕方ないじゃない。攻撃力8800だもん！』

-  
-  
-

では、ごきげん！

### 32話：教師が本気になる手が付けられなくなるものだ

\*フィールドのおさらい\*

遊璃：LP / 1600

モンスター：（パニッシュメント・ドラギオン）×1

魔法・罠：なし

手札：6枚

フィールド：なし

適用効果：なし

クロノス：LP / 6300

モンスター：《古代の機械究極巨人》：ATK / 8800、《古代の機械巨人》：ATK / 3600

魔法・罠：《未完の時空機筐》、《古代の機械戦車》

手札：0枚

フィールド：なし

適用効果：なし

ターン&フェイズ：遊璃ドローフェイズ前

- - -

私の決死の特攻によって《古代の機械究極巨人》を破壊したに思えたが、それは一時の静寂であった。

クロノス先生のターンにいきなりクロノス先生が改心し、その後  
に召喚してきたのは2体目の《古代の機械究極巨人》。しかも《パ  
ワー・ボンド》の効果で攻撃力は8800にまで上がっている。

その《パワー・ボンド》のリスクをメリットに変えライフを大幅に回復したクロノス先生を倒す術は!?

遊戯王GX - 蟹と魔女の娘 - 第32話：教師が本気になると手が付けられなくなるものだ

side yuri

私の手札はクロノス先生が発動した《天よりの宝札》で6枚まで増え、このドローで7枚まで増える。

そして私のライフはクロノス先生のライフよりも4倍近く差があり、攻撃力8800と3600の《古代の機械究極巨人》と《古代の機械巨人》の前ではないに等しい。

だけど、最後まで諦めない。

この程度の事で一々諦めていたら、未来に帰るなんて夢のまた夢だから!

『私のターン!』

私は意思を明確に込め、カードをドローし、7枚となった手札を一瞥する。

そしてこのターンですべきことを決め、デュエルディスクにセットされているカードに手をかけた。

『まず、裏側守備表示の《パニッシュメント・ドラギオン》を表側攻撃表示に変更!』

私が伏せ状態のカードを表にセットすると同時に裏側表示だったカードが表になり、そのカードから白と白銀に彩られた3つ首の龍が現れる。

《パニツシュメント・ドラギオン》：ATK/2700

……そして、先程ドロウしたカードを手札から発動させる。

『更に魔法カード《竜騎士の晩餐》を発動！ 自分のフィールド上に表側表示で存在するレベル8以上のドラゴン族シンクロモンスターを墓地に送り、墓地の「ドラグニティ」と名の付くチューナー以外のモンスターを2体まで特殊召喚できる。さらに手札から《竜の渓谷》をゲームから除外し、《竜騎士の晩餐》のもう一つの効果を発動する！』

『何です〜ト！？』

クロノス先生の疑問を余所に私は手札にある《竜の渓谷》を腰のデッキケースに戻し、デッキサーチ機能を起動させる。そして2枚のカードがそこから検出されるのを待ち、それらをデュエルディスクにセットした。

……刹那、《パニツシュメント・ドラギオン》の体内から光が漏れ、2つの影を生み出す。

光りは強まり、やがて一気に弾けた。《パニツシュメント・ドラギオン》の姿は跡形もなく消え去り、同時に2つの影の正体が明らかとなった。

1つは、右手に鞭を持ち盾のような翼を羽ばたかせる鳥人。

もう1つは梟の顔を模した帽子をかぶり、茶色の軽装をしている少女だった。

《ドラグニティ・プリムス・ピルス》：ATK/2200

《ドラグニティ・ディエムル》：ATK/1300

『シニョーラ遊璃の場にモンスターが途切れないノ〜ネ!』

まあ、シンクロ召喚をより効率よく行う為にデッキは場持ちのいいような構成だものね。

さて、次はこのカードを召喚つと。

私は残り5枚となった手札から次に出すべきカードを選択した。

『更にチューナーモンスター、《ドラグニティ・ブラックスピア》を召喚!』

《竜騎士の晚餐》によって現れた私のモンスターの横に全体的に黒の体躯を持ち、鋭利に尖った顔の黒竜が現れた。

《ドラグニティ・ブラックスピア》：ATK/1000

このモンスターの登場にクロノス先生は慌てだした。

『合計レベルは5+4+3〜デ、12ナノ〜ネ!!』

……その通りですよ。

今から召喚するのは私のデッキの中で最高のレベルを持つモンスターなんだから……

私は内心で焦っているクロノス先生に苦笑しながらエクストラデッキから1枚のカードを取り出し、宣言した。

『レベル5《ドラグニティ・プリムス・ピルス》とレベル4《ドラグニティ・ディエムル》にレベル3《ドラグニティ・ブラックスピ

ア』をチューニング！』

いつものようにチューナーである《ドラグニティ・ブラックスピ  
ア》が3つの輪になり、その中を9つの星となった他のモンスター  
が通り抜ける。

そして会場を埋め尽くすほどの光と、ソリットヴィジョン立体映像でなければ吹き飛  
んできたであろう暴風が会場内を吹き荒れた。

+ + || x 1 2

『秘境の竜騎士が解き放ちし禁じられし神槍の力よ、その力を持つ  
て戦場を鎮める風となれ！』

私が口上を述べる毎に暴風は弱まり、最後の方では風は止み、光  
だけが残る。

しかもそのシンクロ召喚したモンスターの持つ槍が光っているだ  
けとなった。

『……シンクロ召喚！ 肅清せよ！ 《ドラグニティナイト・ロン  
ギヌス》！』

私の最後の宣言により、眩く輝いていた光も鳴りを潜め、光の源  
には金色に輝く鱗を持った6枚羽の巨大な竜に跨がった同じく金色  
の鎧を身に纏い、絶えず光を発しし続けている槍を持った竜騎士が  
鎮座していた。

《ドラグニティナイト・ロンギヌス》：ATK/3500

『……な、何なの？ネ、この神々しい雰囲気を放つモンスターハ！  
？』

クロノス先生が恐らくは無意識化に後ずさりを見せている。確かに口上の通り神槍を持っているけれどね。そこまで恐れる必要はないと思うわよ？

……まあ、「今は」という言葉がその後につくけれど……ね。

『《ドラグニティナイト・ロンギヌス》の効果発動！ 1ターンに1度、墓地の「ドラグニティ」と名の付いたモンスター1体を装備カード扱いとしてこのカードに装備する。……私は墓地のこのカードを装備する！』

墓地から1枚のカードが飛び出して私の手に収まる。

そう、このカードは《天使の施し》で捨てたもう1枚のカード。それをクロノス先生に見せてから魔法・罫ゾーンへとセットすると、《ドラグニティナイト・ロンギヌス》の頭上に半身が赤っぽくもう半身が青っぽい色で彩られた小さな竜が現れた。

『装備したことにより《ドラグニティナイト・ロンギヌス》の効果発動！ このカードに装備されている「ドラグニティ」と名の付くモンスターカード1枚につき800ポイント、攻撃力をアップする！』

私の効果解説同時に《ドラグニティナイト・ロンギヌス》の槍が更に一層に輝いた。

00 《ドラグニティナイト・ロンギヌス》：ATK/3500 43

さて、今しか私にあのモンスターを倒せる<sup>チャンス</sup>機会はない。



『バトルよ！ 《ドラグニティナイト・ロンギヌス》で《古代の機械究極巨人》を攻撃！』

『『『『なっ！？』』』』

私の攻撃宣言に今まで双方を応援していた観客の人達も驚き、絶句する。

その中にはクロノス先生も含まれていた。

普通意味もなしに自爆特攻する訳ないでしょうに……

『……この瞬間《ドラグニティ・ソート》の効果発動！ 装備状態のこのカードを墓地に送ることで装備モンスターの攻撃対象モンスターの表示形式を変更する！』

『何でソート！？』

クロノス先生が驚きの声を上げると同時に《古代の機械究極巨人》はその足を折り、右腕を左手の持つ盾に添えた防御の構えをしてきた。

《古代の機械究極巨人》：ATK/8800 DEF/3400

00 《ドラグニティナイト・ロンギヌス》：ATK/4300 35

けれど、《古代の機械究極巨人》の守備力までは《パワー・ボンド》では変わらない。

装備モンスターを失って攻撃力の下がった《ドラグニティナイト・ロンギヌス》でも十分に破壊できる！

『行け！ 《ドラグニティナイト・ロンギヌス》！』

その手に眩く光る槍を手にした黄金の鎧を纏う竜騎士が、同じく黄金の鱗を持つ6枚羽の龍を操り、飛び立つ。

直後、それらは瞬く間に消え去り、次の瞬間には《古代の機械究極巨人》の目の前に現れた。

そして槍をの狙いを定め、一息に穿つ。一瞬の事に防御の構えのまま動けなかった《古代の機械究極巨人》の盾と構えの僅かな隙間を正確に槍で突き、動力源である歯車を木端微塵に破壊した。

動力源を破壊された機械に復活はない。巨人は本日2度目の崩落を見せ、数十秒後には瓦礫の山と化していたのであった。

『ナツ！？ 私の最強モンスターーガ、こんなにもあっさりト…破壊される何〜テ！！……シカーシ、私の墓地にはまだ《古代の機械巨人》が残っているノ〜ネ！ 破壊された《古代の機械究極巨人》の効果で墓地の《古代の機械巨人》を召喚条件を無視して特殊召喚するノ〜ネ！』

《古代の機械究極巨人》の瓦礫から手が生え、そこから本日何度も使いまわされているクロノス先生のエースモンスターが姿を現した。

《古代の機械巨人》：ATK/3000

さて、ここまでは計算通りだけれど、次のターンが最大の山場。クロノス先生のデッキに眠るこのデュエルの終止符を打つカードを引かれるか、否かのね。

『カードを1枚セットし、ターンエンド。』

遊璃：LP / 1600

モンスター：《ドラグニティナイト・ロンギヌス》：ATK / 3500

魔法・罫：1枚

手札：3枚

フィールド：なし

適用効果：なし

『私のターン……ドローニヨ！』

私はその一連の動作を見守る。

お願い、あのカードではないカードを！

『……メインフェイズを終了してバトルフェイズに入るの〜ネ！』

ふう、取り敢えずは一安心ね。

さて、私のこのターンの秘策を目にしない！

『この瞬間、伏せカード《疾き風》を発動！ 《ドラグニティナイト・ロンギヌス》の攻撃力をエンドフェイズまで500ポイント下げ、4つの効果の内1つを発動！ このターン《ドラグニティナイト・ロンギヌス》を攻撃対象とすることが出来ない！』

《ドラグニティナイト・ロンギヌス》：ATK / 3500 3000

私の発動した魔法カードによって《ドラグニティナイト・ロンギヌス》の周りを吹き出した風が、

《ドラグニティナイト・ロンギヌス》の体を包み込み、姿を不明瞭にしていく。

『ヌヌツ……攻撃対象モンスターがいないので攻撃できないの  
ネ！……ターンエンドナノ〜ネ！』

《ドラグニティナイト・ロンギヌス》：ATK/3000 35  
00

クロノス：LP/6300

モンスター：《古代の機械巨人》：ATK/3000、《古代の機  
械巨人》：ATK/3600

魔法・罫：《未完の時空機筐》、《古代の機械戦車》

手札：1枚

フィールド：なし

適用効果：なし

……何とか凌いだけれど、次のターンはどうかしら？

『私のターン！』

ドローフェイズを迎えたことよって私もカードをドローし、そ  
のカードと3枚あった手札を見比べる。

……残念ながら、《古代の機械巨人》2体を倒せる方法はないみ  
たい。

《古代の機械巨人》が守備表示モンスターを攻撃したときに超過  
分のダメージを与える効果を有している以上、  
下手にモンスターを並べることが出来ないし……

そう考えると、今の手札でできることは1つだけね。

私はその判断を信じて、口を開いた。

『《ドラグニティナイト・ロンギヌス》の効果を発動！ 1ターンの1度墓地の「ドラグニティ」モンスターを装備する事が出来る！  
《ドラグニティ・ソート》を装備！』

《ドラグニティナイト・ロンギヌス》の頭上に再び2色の鱗を持つ龍が出現した

『《ドラグニティナイト・ロンギヌス》 : ATK / 3500 4300

これでもう1つの効果の使用もできるようになったし、次のターンであのカードを引かれても恐らくは大丈夫なはず。

私は久々の熱戦に焦りだした自分に言い聞かせ、冷静さを保とうとする。

落ち着いた頃にもう1度考え直してから私は行動に移した。

『《ドラグニティナイト・ロンギヌス》で攻撃力3000の《古代の機械巨人》を攻撃！』

黄金に彩られた竜騎士が再び槍を構え、一瞬のうちに姿を消す。そして又もや一瞬で標的の前に現れ、手に持った槍で敵を貫いた。

《古代の機械巨人》の攻撃力以上のステータスを持つ《古代の機械究極巨人》の守備力よりも下のステータスである《古代の機械巨人》では耐えられるはずもなく、その一撃で崩れ去り、フィールドから消え去った。

『グヌヌ……』

クロノス : LP / 6300 5000

……あと1ターン。  
もう1体の《古代の機械巨人》さえ破壊できれば……  
お願いだから次のターンも引かないで！

『私はカードを1枚伏せてターンエンド』

私の場に裏側表示のカードが1枚現れ、ターンがクロノス先生へと移る。

遊璃：LP / 1600

モンスター：《ドラグニティナイト・ロンギヌス》：ATK / 4300

魔法・罫：《ドラグニティ・ソート》、1枚

手札：3枚

フィールド：なし

適用効果：なし

『私のターン！ ドロー！ ……来たの〜ネ！』

えっ！ 嘘よね？

『魔法カード《大嵐》を発動する〜ネ！ この効果でフィールド上の魔法・罫カードを全て破壊する〜ノ！！』

クツ……引いてしまったのであれば仕方ないわね。

私のモンスターは全滅してしまうけれど、無効にするしかない。

『私は《ドラグニティナイト・ロンギヌス》の効果発動！ 1ターンに1度、装備されている「ドラグニティ」を破壊することで相手

の魔法・畏カードの発動を無効にする！』

『何でスート！？』

私は内心《ドラグニティナイト・ロンギヌス》に謝りながら《ドラグニティ ソート》を手に取り、墓地へと送った。

同時に《ドラグニティナイト ロンギヌス》の頭上を飛んでいた竜が光となって四散し、《ドラグニティナイト・ロンギヌス》はその光の破片を槍の先端に収束させ、《大嵐》のカードへと放つ。

結果、発生しかけていた風は止み、《大嵐》も破壊されていた。

《ドラグニティナイト・ロンギヌス》：ATK/4300 3500

『……だがこれで《ドラグニティナイト・ロンギヌス》の攻撃力は《古代の機械巨人》を下回ったノ〜ネ！ バトルなノ〜ネ！ 《古代の機械巨人》ーデ、《ドラグニティナイト・ロンギヌス》を攻撃！ アルティメット・パウンド！』

《古代の機械巨人》は先程のように《古代の機械戦車》を蹴りあげるのかと思いきや、そのまま接近してきて拳を突き出した。

《ドラグニティナイト・ロンギヌス》は6枚の竜の羽を羽ばたかせ追い風を起こしながら接近し槍を振るうが、僅かに逸れ、致命傷とはならなかった。

その間に《古代の機械巨人》の拳が見事に決まって《ドラグニティナイト・ロンギヌス》は破壊された。

『クッ……』

遊璃：LP/1600 1500

不味いわね。また私のモンスターが全滅してしまった。  
次のターンのドロー次第で全てが決まりそう。

『いよいよ追い詰めたノ〜ネ！ カードを1枚伏せて、ターンエンドなノ〜ネ！！（でも、教師としてーハ、この状況をどう乗り越えるのかーを見たかったりするノ〜ネ！）』

クロノス先生の場に新たに伏せカードが現れ、ターンを終了してきた。

クロノス：LP/5000

モンスター：《古代の機械巨人》：ATK/3600

魔法・罫：《未完の時空機筐》、《古代の機械戦車》、1枚

手札：0枚

フィールド：なし

適用効果：なし

『……私のターン！ ドロー！』

……私はドローしたカードと持っていた3枚の手札を見比べて思う。

ギリギリ、運が良ければ、と。

大前提としてクロノス先生の伏せカードが召喚反応系であったら負けだから。

でも、やらなければこのままむざむざと敗北するだけ。  
負けるなら、せめて一矢報いましょう。  
そう判断し、手札のカード1枚に手をかけた。



『私は、手札の《ドラグニティ・トリアイナ》の効果発動！自分のフィールド上にモンスターが存在せず、相手の場にのみモンスターが存在する場合、このカードはレベル4のモンスターとして特殊召喚することが出来る！』

私はそのカードをデュエルディスクにセットすると、水泡に包まれた三又の槍のシルエットが浮かび上がった。

やがてそれが槍のシルエットと重なった時に弾け、続いて中のシルエットが変化しだす。

シルエットの変化が終わった時、そこには群青色で頭に三又の槍を装備している小さな竜が存在していた。

《ドラグニティ・トリアイナ》：ATK/900

『更に《ドラグニティ・レギオン》を召喚！』

私の場に新たに全体的に緑色の鳥人が現れる。

《ドラグニティ・レギオン》：ATK/1200

『そ、そのモンスターは！？』

クロノス先生が私の召喚したレギオンを見て顔を引き攣らせる。効果を使った事多分ないんだけど……

でも使用したカードは記録に残るし、調べてあっても自然よね。うんうん。

って納得している場合じゃないわね。

『《ドラグニティ・レギオン》の効果発動！ このカードの召喚に成功した時、墓地から「ドラグニティ」と名の付くレベル3以下のドラゴン族モンスターをこのカードに装備することが出来る！ …… 私は墓地から《ドラグニティ・ファランクス》を装備する！』

いつものように《ドラグニティ・レギオン》の後ろに控えて現れる《ドラグニティ・ファランクス》を一瞥し、  
《ドラグニティ・レギオン》の効果を発動する為に再びそのカードに手をかける。

『続いて《ドラグニティ・レギオン》のもう1つの効果を発動！ 自分フィールド上に装備カード状態となっている「ドラグニティ」と名の付くカードを1枚墓地に送ることで、相手フィールド上に存在する表側表示のモンスター1体を破壊する！』

『…………… やっぱり!?!』

やっぱり事前準備はしてあるようね。

まあ、効果の把握位は当然ね。今回は怠ってしまったけれど。

『その通り。《ドラグニティ・ファランクス》を墓地に送り、《古代の機械巨人》を破壊するわ!』

《ドラグニティ・レギオン》の後ろに控えていた《ドラグニティ・ファランクス》が地を離れ、自らの翼で飛び立つ。  
そして《古代の機械巨人》へと突進し、破壊した。

『ヌウ…………… シカーシ、この瞬間《古代の機械戦車》の効果が発動するノ〜ネ！ このカードが破壊されたトーキ、相手プレイヤーに600ポイントのダメージを与えるノ〜ネ!』

《古代の機械巨人》の崩壊によって突然《古代の機械戦車》が暴走を始めた。

それによって1つの砲弾を私に向けて放ち、その後に瓦礫に埋もれた。

当然避ける事も出来ず、私はその立体映像の砲弾を諸に受けた。

遊璃：LP / 1500 900

ライフが遂に1000を切ったわね。

でも手札0のクロノス先生に《古代の機械巨人》らを出されるはずはないはず。

『レベル3《ドラグニティ・レギオン》にレベル4《ドラグニティ・トリアイナ》をチューニング！』

私はこのデュエルで都合6度目のシンクロ召喚を行う為に宣言する。

すると、3つの星になった《ドラグニティ・レギオン》が4つの輪となった《ドラグニティ・トリアイナ》の中を潜り抜けた。

+        ||        x7

『秘境の竜騎士が赤槍を振るい、別れし黄槍を求め、数多の戦場を駆け巡る！ 戦場を鎮める風となれ！ シンクロ召喚！ 現れよ！  
《ドラグニティナイト・ゲイジャルグ》！』

私の場で2つの赤と黄色の槍が交差し光を放つが、黄色の槍の方が時間と共に消滅していく。

やがて、残った赤の槍を持ち、青みがかった龍に乗る真澄色に近

い黄色の鎧を纏った竜騎士が光を払って出現した。

《ドラグニティナイト・ゲイジャルグ》：ATK/2200

「……ま、また新しいシンクロモンスターナノ〜ネ！」

クロノス先生は新しく私が召喚したシンクロモンスター、《ドラグニティナイト・ゲイジャルグ》を見て震えながら声を出している。先ほどから新しいシンクロモンスターが出るたびに切り札級のカードが破壊され続けているからかな？

まあ、今は私の知るべきところではないわよね。

「《ドラグニティナイト・ゲイジャルグ》のシンクロ召喚に成功した時、墓地の「ドラグニティ」と名の付くドラゴン族モンスター1体を装備する。……私は墓地の《ドラグニティ・ソート》を装備する！」

《ドラグニティナイト・ゲイジャルグ》の頭上に《ドラグニティナイト・ロンギヌス》の時と同じように赤と青に彩られた翼竜が現れた。

一応次のターンの牽制は完了ね。これでクロノス先生は守備表示でモンスターを召喚できないのと同じ。

私は内心で一瞬勝ちを確信するが、何時ぞやの油断の話を思い出してすぐにそれを押し殺す。

……危ない危ない。また油断するところだったわ。

「続いてバトルよ！」 《ドラグニティナイト・ゲイジャルグ》でクロノス先生に直接攻撃！  
ダイレクト・アタック

赤槍を構え、《ドラグニティナイト・ゲイジャルグ》はクロノス

先生に突進し、その槍を何事もなくクロノス先生に突き立てた。

『グヌウウウ……』

クロノス：LP/5000 2800

……まさか通るとは思わなかったわ。

まあ、通ったのなら気にすることはない……

そこで私の思考がストップした。

クロノス先生の伏せカードが今になって表向きとなったからだ。

『このカードを伏せておいて良かったノ〜ネ！ 罠カード《ダメー  
ジ・コンデンサー》を発動したノ〜ネ！ このカードは相手から戦  
闘ダメージを受けた時に発動できるノ〜ネ！ このターンに受けた  
戦闘ダメージの合計以下の攻撃力を持つモンスター1体をデッキか  
ーら、攻撃表示で特殊召喚するノ〜ネ！ ……現れよ！ 《トロイ  
ホース》！』

クロノス先生の場に不気味な電撃を放つコンデンサーが現れたかと思  
うと、その電撃がクロノス先生の場で集結し、  
そこから茶色の馬のような体を持つ木馬が出現した。

《トロイホース》：ATK/1600

ここにきて私はクロノス先生の狙いが分かった。

『……まさか、手札も何もないこの状況でもう1度《古代の機械巨  
人》を召喚するつもりですか？』

私が推測したクロノス先生の狙いを口に出すとクロノス先生は軽く笑みを浮かべ、頷きながら返答してきた。

『その通りなノ〜ネ！ 私もシニョーラ遊璃と同じような境遇になつて分かったノ〜ネ！ この追い詰められた状況、次に自分が何を引くか。私が昔に忘れてしまった感情なノ〜ネ！ だから久しぶりにこの感情を楽しみたい〜ノ！』

……そういう事ですか。

ならその方法見せてもらいましょうか。

『カードを1枚伏せて、ターンエンド！』

今伏せたのは長く囚われたままになっていたミリトウムを開放する為のカード。

うまくいくか、それはクロノス先生次第だけれどね！

遊璃：LP/900

モンスター：《ドラグニティナイト・ゲイジャルグ》：ATK/2200

魔法・罫：《ドラグニティ・ソート》、2枚

手札：1枚

フィールド：なし

適用効果：なし

私のターンエンドの言葉と同時に、会場全体が静まり返る。

皆、クロノス先生の拳足軽重……意味が間違っている気もするけれどそんな感じで、クロノス先生の動きに期待し、待ち望んでいる。

このクロノス先生のドローで全てが変わってしまうかのよう。

『私のターン！……………ドロー！』

クロノス先生は、デッキの上に手を軽く添えながら高々と宣言し、カードが排出されるのを待ち、それを受け取ると、それを確認した。

……………そして、クロノス先生は……………

……………見事に引き当てた。

『……………来たノ〜ネ！』

本当に引くとはね……………

『魔法カード《魔法再生》を発動すルーノデス！ この効果で墓地の《古代の整備場》を手札に加え発動するノ〜ネ！ 墓地から《古代の機械巨人》を手札に加える〜ノ！』

クロノス先生は次々と魔法カードを発動し、手札を入れ替え、最後には《古代の機械巨人》を手札に加えた。

『……………そして《トロイホース》の効果を発動するノ〜ネ！ このカードを地属性モンスターの生け贄召喚に使用する場合、1体で2体分の生け贄とする事ーガ、出来るノ〜ネ！ 《トロイホース》を生け贄ーに《古代の機械巨人》を召喚するノ〜ネ！ー！』

クロノス先生がその言葉を発し、デュエルディスクにカードをセツトした瞬間、《トロイホース》が左右2つに割れ、2体のモンスターと化してから生け贄となってフィールドから消え去った。

同時に会場に地響きが起こり、立体映像だが、地面を破って《古代の機械巨人》が姿を現した。

《古代の機械巨人》：ATK/3000

『バトルなノ〜ネ！ 《ドラグニティナイト・ゲイジャルグ》を攻  
ゲーキ！ アルティメット・パウンド！！』

《古代の機械巨人》の拳が幻影のように飛来し、《ドラグニティ  
ナイト・ゲイジャルグ》に炸裂する。

《ドラグニティナイト・ゲイジャルグ》は、拳が来るのかと思っ  
ていただけにタイミングを見誤り、為す術もなく破壊された。

『キヤアアア……………』

遊璃：LP/900 100

……………でも私はこの瞬間を待っていたんだ。

『わたしはこれでターンエンドな……………』

『ちよつと待つてください！ エンドフェイズ時に罫カード《竜騎  
士の威信》を発動！ 自分のフィールド上に表側表示で存在する「  
ドラグニティナイト」と名の付くモンスターが戦闘で破壊され、墓  
地に送られたターンのエンドフェイズに発動する事が出来る！ 破  
壊されたモンスター1体を攻撃表示で自分のフィールドに特殊召喚



し、その後そのモンスターの攻撃力・守備力を0にする！ 戻ってきて！ 《ドラグニティナイト・ゲイジャルグ》！」

私はクロノス先生のエンド宣言の言葉を遮ってカードを発動した。それによって私の墓地が輝きだし、1枚のカードが排出される。私は迷わずそのカードをデュエルディスクにセットした。

それにより、私の場に先程破壊されたばかりの《ドラグニティナイト・ゲイジャルグ》が蘇る。

ただし、鎧はボロボロであり、槍も折れ、とても戦闘が可能と言う状態ではないが……

《ドラグニティナイト・ゲイジャルグ》 : ATK / 2200 0  
DEF / 2000 0

でも、私の狙っていたのはこれ！

『続いて速攻魔法《竜騎士の咆哮》！ シンクロ召喚以外の方法で「ドラグニティ」と名の付くシンクロモンスターの特殊召喚に成功した時、相手フィールド上の魔法・罠カードを1枚破壊します！

……破壊するのは《未完の時空機筐》！」

『何デースート！？』

私の場に特殊召喚された《ドラグニティナイト・ゲイジャルグ》が龍と鳥人共々咆哮を放ち、その音波で《未完の時空機筐》を破壊した。

これで戻ってくるはず。

ミリトウム、遅れてごめんなさい。

破壊されてから少しして、私の場に光の粒子が舞い降りた。それらはやがて積み重なり、1つの形を形成する。

その姿は最初のターンから常に閉じ込められた状態となっていた《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》であった。

《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》：ATK/1900

『(ミルトウム!)』

「主、助かった。ありがとう。」

『(ううん、私こそ遅れてしまつてごめんなさい)』

「……まあ、今はこのデュエルに決着を付けましょう。話し合つのはまた後で。」

『(うん!)』

戻ってきたミルトウムに喜びを隠せず、私は数言念話で話をつけたが、ミルトウムに宥められ、再びデュエルに集中しだした。

『……改めて、ターンエンドなの〜ネ!』

若干置いてきぼりとなつてしまったクロノス先生が一言告げた事で私のターンが回ってきた。

クロノス：LP/2800

モンスター：《古代の機械巨人》：ATK/3000

魔法・罫：なし

手札：0枚

フィールド：なし  
適用効果：なし

『……私のターン！』

なるほど。私も望んでいたカードを引いたわ！

『魔法カード《竜操術》を発動！ 更に《ドラグニティ・ドライブ》を発動するわ！ 《ドラグニティナイト・ゲイジャルグ》を墓地に送って、カードを2枚ドローする！』

私がドローしたのは《ドラグニティ・ドライブ》！

それによって攻撃力が0となってしまうた《ドラグニティナイト・ゲイジャルグ》をリリースして発動し、デッキから2枚のカードをドローした。

いつもは大抵損が大きいけれど、今回は別。

『そして《竜操術》の効果で今ドローした《ドラグニティ・ブランディストック》を装備し、《接続 ジャンクシヨン》を発動！ 墓地の《ドラグニティナイト・ロンギヌス》を更に装備する！』

《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》の背後に次々と私の発動したカードが出現し、最終的に水色の小さな竜と《古代の機械巨人》によって破壊された6枚の羽を持った龍に跨る竜騎士が存在していた。

《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》：ATK/1900  
2400

『……あの時の状況と同じナノ〜ネ！』

……あの時……もしかして入学試験の私の記憶のない部分かしら。確かにこれなら攻撃力4800の2回攻撃が可能となるわね。

私は記憶にない入学試験の時の状況をクロノス先生の些細な一言から察し、納得した。

『最後に《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》の効果発動！このカードに装備されたカードを1枚墓地に送る事で、《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》の攻撃力をエンドフェイズまで倍にする！ 《ドラグニティナイト・ロンギヌス》を墓地へ！』

私がカード効果を話しながら《ドラグニティナイト・ロンギヌス》のカードを墓地に送ると、《ドラグニティナイト・ロンギヌス》の6枚羽の龍が消えながら羽を羽ばたかせ、追い風を《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》に与えた。

《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》：ATK/2400  
4800

『バトル！ 《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》で《古代の機械巨人》を攻撃！ 救済の雷撃！』

「ハア！！」

ミリトゥムが帯電した槍の矛先を《古代の機械巨人》に向けると、槍の矛先より白い電撃が溢れ、《古代の機械巨人》を破壊した。

『グヌウウウウ……』

クロノス：LP / 2800 1000

『……そして、これで最後です！ 《ドラグニティナイト - ヴァジ  
ユランダ》でクロノス先生に直接攻撃！ 救済の雷撃2!!』』

『……長々とあの暗くて狭い空間に閉じ込めよって……食らえ!』

一度目の攻撃と同様にミリトウムが帯電した槍の矛先をクロノス先生に向けると、槍の矛先より再び白い電撃が溢れ、クロノス先生に直撃した。

『ギヤアアアア……ペ、ペペロンチ〜〜ノ〜〜』

何か、白い線がクロノス先生から見えるけれど……気のせいよね？

クロノス：LP / 1000 0

遊璃：WIN

・  
・  
・  
・

その後、デュエルには勝ったが、何故かクロノス先生は頭をボサボサにし、倒れていた。

不自然に思った私が近づくと、クロノス先生はピクピク痙攣しながら気絶していた。

不味いと思い、授業中の鮎川先生を急いで呼び、駆けつけた鮎川先生によってクロノス先生は処置され、翌日には動けるようになった。

ていた。

また、デュエルをした夜にミリトゥムに聞いたが、なんだかはぐらかされてしまった。

……絶対に怪しい。

まあ、そんなこんなで私の数日の教師生活が終わった。

遊城君も無事セブンスターを倒したようだし、クロノス先生も改心したし、良い事ばかりね！

だが、その次の週、私は3日間連続で色々な事が起こる事を全く知らなかった。

\*後日談\*

『クロノス先生、どうして《月の書》を私のターンの最初に《ドラグニティ・フランクス》に使わなかったのですか？ ……シンク口召喚を行うためには素材となるモンスターは全て表側表示でなければならぬのですか……』

『何です〜ト！？ それは初耳だったノ〜ネ……』

えっ！？ てことは単純に知らなかっただけで本当はクロノス先生の勝ちだったって事よね？

はあ、あの後の熱戦、意味あつたのかな？

∴ T o b e c o n t i n u e d

\* 今回の新規登場カード\*

《竜騎士の晚餐》

オリジナル  
通常魔法

自分のフィールド上に表側表示で存在するレベル8以上のドラゴン族シンクロモンスターか「ドラグニティ」と名の付くシンクロモンスターを墓地に送って発動する。（発動コスト）

墓地に送った「ドラグニティ」と名の付くシンクロモンスターと同じレベルまで墓地の「ドラグニティ」と名の付くチューナー以外のモンスターを2体まで特殊召喚する。

またこのカードの発動時に手札の「竜の渓谷」をゲームから除外する事で墓地から特殊召喚しない代わりにデッキからそのモンスター2体までを特殊召喚することが出来る。

この効果で特殊召喚されたモンスターの効果は無効になる。（ルール効果）

《ドラグニティ・デイエムル》

効果モンスター（にきにきさん投稿オリジナル）

星4 / 炎属性 / 鳥獣族 / ATK1300 / DEF700

このカードがフィールド上に表側表示で存在する時、

墓地からモンスターが特殊召喚されたら、

デッキからカードを1枚ドローする。

この効果は1ターンに1度しか発動できない。

《ドラグニティナイト・ロンギヌス》

シンクロ・効果モンスター（HIROさん投稿オリジナル）

星12 / 風属性 / ドラゴン族 / ATK3500 / DEF2500

ドラゴン族チューナー+チューナー以外の鳥獣族モンスター2体以上

1ターンに1度、自分の墓地に存在する「ドラグニティ」と名の付

いたモンスター1体を装備魔法扱いとしてこのカードに装備できる

このカードに装備されている「ドラグニティ」と名の付いたモンス

ター×800ポイント攻撃力をアップする

1ターンに1度、相手が魔法・罫カードを発動した時このカードに

装備している「ドラグニティ」と名の付いたモンスターを破壊する事でそのカードを無効にして破壊する。  
この効果は相手ターンでも発動できる。

#### 《ドラグニティ ソート》

チューナー・効果モンスター（オリジナル）

星4 / 風属性 / ドラゴン族 / ATK700 / DEF700

このカードが「ドラグニティ」と名の付くモンスターに装備されている時に

装備モンスターの攻撃宣言時に発動する事が出来る。（誘発効果）  
このカードを墓地に送る事で攻撃対象モンスターの表示形式を変更する。

（この時リバーズ効果モンスターの効果は発動しない）

このカードをシンクロ召喚の素材として使用する場合、「ドラグニティ」と名の付くシンクロモンスターの素材としてのみ使用することが出来、他のモンスターは通常召喚・反転召喚したモンスターでなければならない。（ルール効果）

#### 《疾き風》

速攻魔法（ONEさん投稿オリジナル）

自分の場に存在する風属性モンスター1体を選択し、エンドフェイズまで攻撃力を500ポイント下げて発動する。以下の効果から1つを選択して適応する。

選択したモンスターは発動ターンのバトルフェイズのみ、2回攻撃ができる。

選択したモンスターは発動ターンのバトルフェイズのみ、直接攻撃ができる。この効果を選択した場合、選択したモンスターはバトルフェイズ終了時に手札に戻る。

発動ターンのエンドフェイズまで、選択したモンスターを対象とする相手の魔法・罫・モンスター効果を無効にし、破壊する。



発動ターンのバトルフェイズのみ、選択したモンスターは攻撃対象とならない。

《ドラグニティ・トリアイナ》

チューナー・効果モンスター（オリジナル）

星3 / 風属性 / ドラゴン族 / ATK900 / DEF600

相手フィールド上にモンスターが存在し、自分フィールド上にモンスターが存在していない場合、

このカードは手札から特殊召喚する事ができる。（召喚ルール効果）

この効果で特殊召喚に成功した場合このカードのレベルは1つ上がる。（永続効果）

《ドラグニティナイト・ゲイジャルグ》

シンクロ・効果モンスター（バラランシヤさん投稿オリジナル）

星7 / 風属性 / ドラゴン族 / ATK2200 / DEF2000

ドラゴン族チューナー+チューナー以外の鳥獣族モンスター1体以上このカードがシンクロ召喚に成功した時、墓地に存在する『ドラグニティ』と名の付くドラゴン族モンスター1体を装備する。

このカードは魔法カードの効果を受けない。

このカードが相手のカードの効果の対象になった時、このカードに装備されている装備カード1枚を墓地に送ることで、そのカードの効果が無効にし、破壊する。

《ダメージ・コンデンサー》

通常罠（アニメ効果）

自分が戦闘ダメージを受けた時に発動する事ができる。

このターンに受けた戦闘ダメージの合計数値以下の攻撃力を持つモンスター1体を

デッキから攻撃表示で特殊召喚する。

《トロイホース》

効果モンスター

星4 / 地属性 / 獣族 / ATK1600 / DEF1200

地属性モンスターを生け贄召喚する場合、

このモンスター1体で2体分の生け贄とする事ができる

《竜騎士の威信》

オリジナル  
永続罨

このカードは自分のフィールド上に表側表示で存在する「ドラグニティナイト」と名の付くモンスターが戦闘で破壊され、墓地に送られたターンのエンドフェイズに発動する事が出来る。(発動条件)破壊されたモンスター1体を攻撃表示で自分のフィールドに特殊召喚し、このカードを装備する。

このカードが装備カードとして装備されている限り、そのモンスターの攻撃力・守備力を0となり、効果を発動する事が出来ず無効となり、シンクロ召喚の素材としてに使用することは出来ない。(永続効果)

このカードがフィールドを離れた時、装備モンスターをゲームから除外する。(永続効果)

装備モンスターがフィールドを離れた時、このカードを破壊する。

(永続効果)

《竜騎士の咆哮》

オリジナル  
速攻魔法

自分がシンクロ召喚以外の方法で「ドラグニティ」と名の付くシンクロモンスターの特殊召喚に成功した時のみこのカードは発動する事が出来る。

相手フィールド上の魔法・罨カードを1枚破壊する。

《ドラグニティ・ドライブ》

オリジナル  
通常魔法

自分のフィールド上に存在する「ドラグニティナイト」もしくは「ドラグニティアームズ」と名の付くモンスター1体をリリースして発動する。

デッキからカードを2枚ドロウする。

### 32話：教師が本気になる手が付けられなくなるものだ（後書き）

累計14ターンに及ぶクロノス教諭との激闘でした。

リアルではこの位のターン数ライフポイント8000なので稀ですが、

4000でこれは物凄く長いかと。

本来であれば《古代の機械究極巨人》は1体しか出ない設定であった為に設定変更によって物凄く延びてしまいました。

そのせいでこの3話だけで約2か月とおかしな更新となってしまうて申し訳ありませんでした。

Q&A：Aは今回は疲れたのでパス。

何か質問があれば感想・メッセージにて返答します。

次回の予告

次はザルグです。

ザルグ（ミーネ）は遊璃の鍵を盗めるのか、必見です！

もう一般の方からの感想は来ないので期待しません。

今回以降投稿後10日で来なければ、元のユーザーのみ感想を受け付ける設定に戻します。

### 33話：盗賊も色々と気苦労が絶えない（前書き）

今回ザルグさんにご登場願いますよ！

目標は「ッ！ それが黒蠍盗掘団！」を10回以上！  
どれだけネタが持つか……

因みにデュエルはサンダーVSザルグですが、内容は原作と変えます。

遊璃『今日の最強カードは……』

瑞波『これだ！』

《追<sup>お</sup>い剥<sup>は</sup>ぎゴブリン》

永続罨

自分フィールド上のモンスターが相手プレイヤーに戦闘ダメージを与える度に、

相手はランダムに手札を1枚捨てる。

遊璃『相手に戦闘でダメージを与えるたびに相手の手札を破壊するカードね。』

瑞波『ダイレクトアタッカーとかとの相性が最高だな！』

何か展開丸分かりですね。

まあたまにはそんなのもいいかなと

では話始まりです

### 33話：盗賊も色々と気苦労が絶えない

私の教師生活とクロノス先生の復帰から1週間が経った。  
クロノス先生の授業は前と格段に変わったように質問が飛び交うようになった。

この1週間は他にこれと言った事は……  
……いやあつたわね。

遊城君が突然来た潜水艦で誘拐されかけたっていう噂があったわ。  
私は雪乃探してそれどころではなかったけれど……  
まあ、そんな訳で短い平和な時を満喫していた私達だったけれど、  
遂に七星門の鍵を持った残りの4人が校長室へと呼び出される。  
今度はどんな人が来たっていうの!?

遊戯王GX - 蟹と魔女の娘 - 第33話：盗賊も色々と気苦労が  
絶えない

side yuri

校長室に呼び出された私達、遊城君、万丈目君、明日香、私は一  
列……いや私だけ半歩から1歩ぐらい下がったところに並んでいる。  
目の前には校長先生と茶色のコートを身に纏い右目に不気味な眼  
帯をした男性。

先程自己紹介をされて、男性自身はマグレ警部と名乗っていたが、  
何か雰囲気からして怪しい。

そんな時、ミリトウムが念話で私に話しかけてきた。

「主、彼の者人間ではない何かだと思われませう」

突然の告白に表情を崩しそうになるが、それを必死に抑えて同じ

く念話で返答を返す。

『（えっ！？　じゃあマグレ警部さんがセブンスターズ？）』

「……断定はできません。　ですが、お気をつけて」

『（分かったわ。　ありがとう）』

ミリトゥムの話を検討に入れ、再びマグレ警部と校長先生を交えた話に耳を傾けながらマグレ警部の様子を窺う事にした。

『……という訳で皆さんの鍵を保管しようという事になりましたな  
』』

校長先生が鍵の保管と言い始めたけれど、今更な気がするのはい私  
だけかしら？

本来であれば鍵を預けた時にその話を万が一の為にして保管させ  
ると思うのだけれど……

私は、校長先生の言葉に関する不信感から、この話を持ちかけた  
であろうマグレ警部の事を更に怪しい人物だと思っただった。

・  
・  
・  
・  
・

鍵の保管する話が大体終わりかけた頃、マグレ警部が口を開いた。

『……して、皆さんは鍵をどこに持っているのですか？』



……唐突ね。

私が皆から一步下がっていたので他の人の対応が見えた。

まず、遊城君。

彼は七星門の鍵を首からかけていた。

不用心ね。もし手刀で気絶なりなんなりさせられたら簡単に奪われてしまうじゃない。

セブンスターズは闇のゲームを扱うのだものそれ位に体を鍛えていても可笑しくないわ。

次に万丈目君。

彼もまた首にかけていた。

不用心だけれど、瑞波から聞いた限りではノース校の入学試験を乗り越えたのだもの。

ある程度は鍛え抜かれているでしょうね。

遊城君より身に着けていても安全だと思うわ。

最後に明日香。

彼女も首にかけていたけれど、制服の中に隠れるように巧妙にかけていた。

これならば一見ただけでは分からないし、3人の中では一番安全ね。

……それにしても明日香が制服から鍵を取り出す際に途中で顔を真っ赤にして顔を背けた万丈目君はいいとして、遊城君デリカシーなさすぎ。

……どこかのトリシューラみたいだわ。

まあ、私以外の3人は一致して首にかけていた。

3人がそれぞれ見せ合った後、マグレ警部が私にも問いかけてくる。

『3人の方は分かりましたが、御嬢さんはどこに持っているのですか？』

私以外の5人は私の隠し場所に興味があるのか、こちらを見つめてくる。

……3人が言ったのも、私も言わなければ不公平よね。

私はそうして自分を無理やり納得させ、制服のポケットに入っているヒモ付きのそれを取り出した。

『ん？ それは D じゃないか！ 俺達は君がどこに鍵を持っているのかを聞いているんだ！』

私の出したものを見た万丈目君が抗議の声を発する。

見ると遊城君や明日香も怪訝な顔をしていた。

ハア、私がそんなに簡単に見えるようにしまうはずないじゃない。

『だからこれに鍵を入れてあるの！ 見た目がまず違うから盗人にも気づかれないだろうし、もし気付かれ、盗まれたとしても私の声門・指紋・網膜・静脈が一致しつつ、私の部屋の中に隠してあるパスワードの入ったカードキーをこの機械のこの部分にスライドしないと開かないの。加えてGPSも搭載しているし、例えば、カードキーをスライドしたとしても、詰めデュエルを5問連続でクリアしなければ開かない仕掛けになっているから、それを開こうと必死になっている犯人を捕まえるのも容易よ。』

私は万丈目君に負けなくらい大きな声を出し、D(？)のあちらこちらを指さしつつ、説明していく。

ついでに言うとならば私にとってはその詰めデュエルは簡単なものだけれど、この時代の人には難問中の難問、いえ奇問でしょうね。だっ

て、シンクロモンスターをふんだんに使った詰めデュエルですもの。

……さて、説明を続けるうちにマグレ警部さんは啞然とし、遊城君達は途中から何を言っているのか理解できなくなったのか思考が停止しているようだ。

……それにしても思考停止は分かるけれど、明らかに啞然として  
いるあの顔。

怪しすぎる。そのカードキーが私の部屋の中に隠してあるという  
のは嘘。

だってカードキーはただの……いえ、私にとっては特別なカード  
ですものね。

肌身離さず持っているわ。

まあ、この位言っておけば、もしマグレ警部が黒だとしても私の  
鍵は盗まれない。

私にはまだ言っていない切り札があるから……

……というかこのマグレ警部の声聞き覚えがある気がするのだけ  
れど、どこかで会った事あったかしら？

side out

・  
・  
・  
・

\*時を越え未来\*

『ぶえつくしよい！！』

ネオドミノシティに密かに残されたスラム街のバーで1人の大男が盛大なくしゃみをする。

『おや？ 風邪でも引きましたか？ 氷室さん？』

それに声をかけたのはバーのマスター。

『いや、体調は悪くねえ。……きっと誰かが俺の噂をしているんだらうよ』

『……そうですね』

その大男……氷室の声は遊璃が過去の世界で遭遇しているマグレ警部と偶然か同じであった。

・  
・  
・  
・  
・

\*再び時を越え過去の世界\*

side yuri

あれから少しして、皆は思考の海から帰ってきた。  
マグレ警部はわざとらしく咳払いをしながら話を進める。

『んん！ ゴホン！ どうやらしっかりと保管している方もいらっしやるようですが……』

そこで私の方を軽く睨んでくる。

間違いない。この人黒だ。

マグレ警部はその直後、私とその視線に気付いているのを察したかのように視線を逸らしてから目を瞑って続きを話し出した。

『確かに、大事なものを自分に身に着けているのは一見安全に思える。しかし、それは同時に大事な者の場所を教えている事にもなるのです。』

まあ、言う事は正論ね。

何か裏がある気がして仕方ないけれど……

『……そこで警部さんと話し合った結果、皆の持っている鍵をきちんと保管しようという事になったのです。』

校長先生もマグレ警部さんの後押しをする。

まあ、私は大丈夫だと思うけれど、念には念を入れてあそこに保管しようかな。

私が思案し終わった時は他の皆も考えているのか、遊城君は腕を頭の後ろで組み、万丈目君は胸の前でそれを組み、明日香は顎に手を当てて考えていた。

そしてそのあと数分が経過し、皆が考え終わるとマグレ警部の提案でそれぞれの鍵を隠しに向かった。

その場にいた校長先生以外の人、全員を連れて。

・  
・  
・  
・  
・

道中皆を連れて行く理由をそれとなく聞いてみたが、マグレ警部さん曰く、

『もし、隠し場所を忘れてしまった場合の保険』

だそうだ。

もう隠す意味がないと思うのは私だけかしら？

まあ、そんなこんなで皆と一緒に行動し最初に辿り着いたのは万丈目君の部屋。

だけど、扉が開けっ放しに中身がベッドだけって……  
良く見れば調度品を入れていると思うテントまであるし……

因みに現在の位置取りは部屋の中に万丈目君とマグレ警部さん。  
私と明日香と遊城君は玄関の辺りから中を伺っている感じね。  
万丈目君は一通り部屋を見回した後に隠す場所を決めたのかベッドを降り、流しの下の取っ手を開いた。

『……俺はここに保管しよう』

どうやらそこに保管するみたいね。

するとマグレ警部が一度頷いてから口を開く。

『なるほど。流しの下とは意表を突く場所だ』

ガタゴト

『ッ！ 誰だ！？』

突然の音にマグレ警部が声を発し、私たちは開いている扉の向こ

うを見る。

そこには何時の間に来たのか、清掃員の格好をした大男がいた。  
こんな人いたかしら？

案の定マグレ警部は訝しんだ。

すると遊城君が、

『管理人のゴーグさんだ。心配ないよ』

管理人って……

レッド寮の管理人兼寮長って大徳寺先生だったような？

私にとって今回がレッド寮の訪問は2度目であった為、記憶が曖昧で結局遊城君の言葉を信じるしかなかった。

・  
・  
・  
・

『……俺は……ここにしようかな』

場所は移り今度は遊城君の部屋。

入る時に丸藤君と前田君には部屋を出てもらい、鍵を持っている私達とマグレ警部だけが入室する。

そして遊城君も少し考えた後に個人個人に与えられているであろう机の引き出しを開けてその中に鍵をしまい込んだ。

『うむうむ。返ってシンプルな場所の方が見つからないものです。』

マグレ警部はそう言っているけれど、実際はどうなのだろう。

私がここで思考の海に浸ろうとした時に今度は扉がノックされた。

『誰だ!』

今度は遊城君が扉を開け、問う。

扉の外には、金髪の髪を逆立つように固めたレッドの生徒がいた。そこに戻ってきた丸藤君と前田君が言うには

『チツク、また部屋を間違えたの?』

『彼はオシリスレッドの同級生のチツク君なんだな』

と言った。

部屋を間違えたにしてはタイミングが良すぎるし、加えてチツク君なんて生徒いたかしら?

私は先週の教師生活の中でなるべく生徒の顔を覚えようとする為に見ていた名簿を思い出しながらチツク君を探す。

結果は、いない。

もしかしたらクロノス先生達と一緒に行方不明だった人かもしれないけれど、それでも今週の間1度も見かけていないのが可笑的い。

私はまた1つ疑問を持った。

・  
・  
・  
・  
・

再び場所を移して明日香の部屋。

鮎川先生が留守だったので、他の男性3人も入ってきた。



なので今、明日香の部屋には男性3人と女性2人ね。  
で、明日香は余り迷わず、宝石箱の中に隠した。

『……無難な場所ですな』

マグレ警部さんも余りその事には口を挟まず、1か所を見ている。  
私が気付かれないようにその視線を追うと、天井裏へと続く部分  
があった。

あそこから長いものを伸ばせば届きそう？

私はそんな事を一瞬考えるが、すぐに頭を振った。  
天井裏から宝石箱までは一直線で何かをかける場所はない。  
棒などでは駄目だし、下手すると落としてしまう危険性が高い。  
そこを考えると注意しなかったのはそれを可能とする人がいる？

今日何回目になるか分からない思考の海に入ろうとするが、再び  
妨害が入った。

『皆さん！この寮に男性の出入りは困りますね』

そう言っに入ってきたのは白衣を着た茶髪の女性。  
女医の格好をしているけれど、付け爪をしている所が怪しすぎる。  
カルテのようなボードで必死に隠そうとしているけれど、横にい  
る私には丸見え。

というかブルー女子寮に彼女はいたかしら？

私が誰だか思い出そうと必死になっていると、

『ん？彼女は！？』

『怪しい人じゃないわ。 女医のミーネさんです』

そうそうミーネさんよ！

…… ってそんな人知らないのですが……  
臨時の先生かしら？

・

・

・

・

で、最後に私の部屋。

ミーネさんはマグレ警部さん達が不埒な事しないようにと監視で  
ついてきてもらっている。

私の隠す場所は…… やっぱりあの中ね！

私は皆のいる前で箱を開け、その中にMD型のケースを入れた。

『ふむ。 小さな物を敢えて大きな入れ物に入れるとは意表を突き  
ますな。』

マグレ警部、どこまでが本心かは知らないけれど、今回は素直を  
受け取っておきましょう。

こうして私たちはそれぞれ鍵を保管し、女子寮の前で解散した。

私は自室。明日香とミーネ先生は食堂へ。

マグレ警部さんは宿直室へ、遊城君と万丈目君はレッド寮へだ。

そうして、私が自室に戻り夕食をすます頃には外には夜の帳が満  
ち、月が輝いていた。

私はもう一度鍵が無事かどうかを確かめる為に鍵の入った箱を少

し開け、覗いた。

……すると

『ん？ 何かしら？』

その箱の中に見慣れないカードが置いてあったのだ。

そのカードを確認すると、『おジャマ・グリーン』であった。

私はそのカードを手に入れた記憶がないので、今日この部屋に来た誰かのものだと思った。

だから私はそのカードを腰のデッキケースの端に収め、箱の蓋を閉めてから私は眠りについた。

・

・

・

・

ガタゴト

ガタゴト

ん？ こんな時間に誰かしら？

私は部屋が少し騒がしいので、眠りから覚めてしまった。

そして目を擦り、手探りで部屋の電気をつけた。

その瞬間、

『フ〜ガフガフガ、フガ〜ア……』

『ホラッ！ おとなしくしなさい！ しないと血を吸わせて頂こうかしら……』

『!?!? ンツ!?!?』

誰かのくぐもった声とそれを叱責する声が聞こえたのでそちらの方、つまりは箱の方を向くと

……茶色の髪をした女医が、緑の髪に扇情的な衣装を纏う女性、つまりは、ミーネさんがカミューラさんに取り押さえられていた。私が起きて電気をつけた時にはもう作業は終わった後だったのか、ミーネさんの口にはタオルが噛まされ、両腕は後ろでタオルで縛られ、足は折り曲げられた状態でやつぱり縛られていた。私がそれを目視すると同時に少し呆れた。予想が余りにも的中しすぎたからだ。

私がああ箱……つまりカミューラさんの寝ている棺桶の中に隠した理由は、昼間はまず盗賊であれば盗まない。目撃される恐れがあるからだ。ならいつ盗む。答えは1つ夜だ。だから私は夜行性の吸血鬼であるカミューラさんの棺桶の中に鍵を入れたのだ。

流石にカードは予想外だったが……

私が今後の事を考えていると、私の生徒手帳がなった。私がそれを素早くとると相手は万丈目君だった。

『不動さん、俺と十代の鍵が盗まれた。天上院君達の鍵も盗まれた危険性がある。それを確認次第レッド寮に集合だ。』

『あ、ちよつと待つて……』

万丈目君は伝えたいことを伝えるだけ伝えて電話を切った。

私の鍵が無事な事と、犯人の1人を捕まえた事を報告しようと思  
ったのに……

まあいいわ。行けば他に誰が犯人かはつきりするでしょう。

だって、レッド寮とブルー女子寮。かなり距離があるのにこんな  
に同時に盗みを働ける訳無いものね。

『ねえ、こいつどうする？ そのまま連れて行く？ それとも血を  
抜いて意識を混濁させておく？』

いやいやカミューラさん、幾らなんでも後者はないでしょう。

明らかに犯罪ですって……

『……とりあえず連れて来てくれませんか？ 多分ミーネさんの仲  
間もそこにいると思いますので。』

『分かったわ。ハア残念ね。 久々に美味しそうな血が飲めそう  
だったのに……』

まあ、そう言わないで。

私はそのような意思を込め、カミューラさんを煽てる。

するとすぐに気をよくしたのか、ミーネさんを抱きかかえて窓か  
ら飛び降りた。

……って！？ 飛び降りた！？

私は急いで外を確認するとそこには堂々と歩いているカミューラ  
さんの姿が。

私は安心して、自分の鍵を持って明日香と共にレッド寮へと行く  
のであった。

・  
・  
・

レッド寮に着いた後、私たちは成り行きでそのまま万丈目君の部屋に入るようになった。

そして全員が揃ったと同時に万丈目君が口を開く。

『全員揃ったな。では誰も動くな。何故なら鍵を盗んだ犯人は……この中にいる!』

『『『『『『ええ〜!?』』』』』』』

当然犯人の1人を捕まえた私は驚かず、言い出した万丈目君も同様の気配はない。

因みにカミューラさんとミーネさんは別室で待機してもらっている。

本当は呼びたいのだけれど、カミューラさん皆に嫌われているからね。

でも何故か皆ミーネさんがいないことに気付かない。どうしてかしら?

まあ、そんな事を考えている間に私たちは万丈目君を囲うような姿勢で座っていた。

『……この事件は俺が必ず解決してみせる。“名”探偵万丈目サンダーの名に懸けて!』

もう犯人の1人捕まえているのですけれどね……

まあ、どんな推理をするのか面白そうだし、一応最後まで聞こう

かしら。

（推理シーンは原作通り）

『……………鍵を盗んだ犯人は……………お前！　お前！　お前！　お前！　そしてなぜかこの場にいない女医だ！』

万丈目君の自分で証拠を消すような呆れた推理の後、カードが見張っていたとか言いだして、ゴージュさん、チック君、クリフさんを指さす。

最後になつてようやくミーネさんがいないことに気付いたのか、言葉を付け足してミーネさんの事を言った。

お見事。確かに犯人はあっているわ。ただ、証拠を自分自身で処分し、精霊の見える人にしか分からない証言を証拠として扱うなんて、証拠不十分だと思つたよ？

それにまだ黒幕がいるし……………

これでは“名”探偵ではなく、“迷”探偵ね。

だが、万丈目君は、一通り宣言した後にもた手を挙げた。

『そしてこの事件には黒幕が2人いる……………』

『何！？　誰なんだ！』

遊城君が万丈目君の出鱈目な推理に感心しながらも問う。すると万丈目君は1度鼻で笑い、挙げた手を下した。その手は指をさす形になり、2人を指していた。

『黒幕は……………マグレ警部と……………不動さん、貴女だ！』

なっ！？

なんで私が犯人に！？

マグレ警部はそうだと私も睨んでいたけれど、私が黒幕だと言われるいわれはないわよ？

それを正直に万丈目君に伝えたと、万丈目君は、

『……なら何故、君の部屋に置いてきた《おジャマ・グリーン》のカードがない。それこそが、俺に本当の犯人を知られないようにする為にカードに気付いた君がそれを隠した隠蔽工作だ！』

『……なんて身勝手な。私は誰かが忘れていったのかと思ってデッキケースに入れただけよ。はい、返すわ。』

私は万丈目君の理不尽な言葉に対し、感情をなるべく抑えながら対応し、万丈目君のカードを返す。

万丈目君はそれを受け取り、精霊に確認したようだ。それにより私の事を信じてくれた。

はあ、何とか一段落ね。

さて、今度は本当の黒幕についてね。

『……で貴方たちは一体何者なの？ ……最も私はもう知っているけれどね』

『何！？ どういう事だ！』

私はマグレ警部の方を向き、そう問いかけるとマグレ警部は冷や汗を垂らしたような表情をし、答えた。

だってミーネさんカミューラさんが血を吸うって脅す度に私の質問に答えてくれたしね……



彼らは、そう……

### 黒蠍盗掘団。

マグレ警部以外の4人の内3人の名前を聞いてから何か引つかかる思っていたら、そういう事だったのかと聞いた時は納得したわ。……ってそれよりもミーネさんをここに呼ぼうかしら。

私は小型の通信機を使ってカミューラさんに連絡を取った。

するとすぐに万丈目君の部屋の壊された扉の向こうに2人の人影が見えた。

1人は未だに縛られているミーネさん。

もう1人は元セブンスターズで私以外の人は余りいい印象を抱いていないカミューラさん。

その2人、特にミーネさんが縛られているのを見るや否や、マグレ警部、チック君、ゴークさん、クリフさん(?)は変装を解き、カミューラさんへと襲い掛かる。

しかし、夜はカミューラさんの舞台。

その不意打ち染みた攻撃をのりくらりと躲し、いつの間にか私の横に来ていた。

勿論、ミーネさんも一緒だ。

実力行使で奪うことが出来ないのを悟ったのかマグレ……いえ、変装を解いた以上この名前で呼ぶ必要はないわね。

《首領・ザルグ》は言う。

「おい！ ミーネを返せ！ つかお前ら人質何て卑怯だぞ！」

……まあ確かに言えていることは言えているけれど、私たちは私以外鍵を盗まれているからね。  
ただで返すというのも味気ないわね。

『では取引と行きませんか？』

「取引？」

私の提案にザルグさんは少し思慮深い顔をしてから一言答えた。

「……いいだろう」

・

・

・

・

取引は至って単純。

こちらからはミーネさんを開放する事。

あちらは奪った鍵を持ち主に返すこと。

そして、取引は円滑に進められ、向こう側には解放されたミーネさんが、  
こちらには3人分の鍵が返ってきた。

だが、お互いに取引で十分に満足した頃に万丈目君が何気なく発した言葉が、その場に緊張をもたらす。

『そついや、鍵は戻ってきたが、七星門は開いてないよな？』

確かに、もし開いているとすれば、向こうは使用済みの鍵を私達に渡すだけだし、仮に相手無かったとしても鍵が開くかどうかは試しているだろうからどちらにせよ用無し。  
明らかに損じゃない。

私はここにきて取引が大損になった事に気付き、齒を噛みしめるのであった。

さて、私が悔しさから思考の海に逃げようとした時、他の皆はと言いつと……

『……安心しろ！ 鍵は持って行っただが、開かなかった。七星門はまだ4つの鍵が掛かっていた。』

『……成る程。 なら何故、直接奪って開かない方法をやった？』

「……………ッ！ それが！ 黒蠍盗掘団！」「……………」

《首領・ザルグ》の声に万丈目君が反応を示すと、5人の盗掘団は1枚のカード《黒蠍団招集》のイラストとほぼ同じポーズとり、見事な五重奏を奏でた。

同時にミーネさんは今まで来ていた服を脱ぎ捨て、他の4人と同じく、黒の動きやすそうな格好をしていた。

だけど、開ける方法知らずに鍵だけを盗むなんて、ちよつと間抜けなのね。

案の定明日香がそれを指摘すると再度5人は同じポーズのままに言った。

「……………ッ！ それが！ 黒蠍盗掘団！」「……………」

『……結構面白れえな！ こいつら！』

今度はそれが遊城君の壺に入ったのか、笑いを堪えた遊城君の声が静かな夜の空間に響く

すると、それにも5人は、

「……………ッ！ それが！ 黒蠍盗掘団！」「……………」

と反応した。

『でも、鍵は奪っただけでは開かない。それも知らずに盗みに入るなんてな……………』

万丈目君が止めと言わんばかりに発言するが、また

「……………ッ！ それが！ 黒蠍盗掘団！」「……………」

と返ってきた。

ただ、その後に《首領・ザルグ》の質問が重なったのだが……

「……………で、どうすりゃ開くんか!?」

『……………簡単な事だ。この俺とのデュエルに勝てば、鍵が開く。』

ん？ ちょっと待って。

その言い方だと万丈目君1人に勝てば鍵が4つ開くように聞こえるわよ？

すると《首領・ザルグ》も私と同じ考えに至ったのか、デュエルディスクを取り出したが、

『ああ……依頼の時に貰ったこいつが……』

えっ！？ 知らなかったの？  
本当に間抜けね。

「……ッ！ それが！ 黒蠍盗掘団！」

！？ どうしていきなり？

私が考えが読まれた？ ……と焦っていると

《首領・ザルグ》は左腕にデュエルディスクを付け、万丈目君を一睨みし、

「ならばデュエルだ小僧！」

『いいだろう、この“名”探偵万丈目サンダーが相手をしてやる』

いや、どう考えても貴方がデュエルするように仕込んだようにしか思えないんだけど……

……まあ、《首領・ザルグ》もやる気みたいだし、“迷”探偵万丈目……サンダー君もセブンスターの対戦をやっていないからいい機会だとは思っけね。

……でも、これで負ければ鍵は奪われ、残りの鍵は半数を切ってしまう。負けないでよ。

私は万丈目君の勝利を信じ、心の中でそれを祈った。

・  
・  
・  
・

推理やら何やらで走り回り、少し疲れたからとお互いに小休止を挟んでから、万丈目君と《首領・ザルীগ》はお互いにレッド寮の前で距離を取って、デュエルディスクを構えた。

……そして、

『「デュエル！」』

万丈目 準：LP/4000 VS 首領・ザルীগ：LP/4000

2人の探偵と盗掘団の首領のデュエルが静かに幕を開けた。

「先行は私だ。 ドロー！」

先行は《首領・ザルীগ》が取り、慣れていなさそうな手つきだったが、カードをドローしたわ。

そして6枚の手札を片方の目で睨みつけながら、1枚のカードを手取る。

「魔法カード《天使の施し》を発動！ デッキからカードを3枚ドロし、その後2枚を捨てる。」

行き成りの手札交換。

余程初手が悪かったのか、はたまたデッキを回す為か。

私の予想では恐らく後者でしょうね。

セブンスターズのような闇のゲームを好き好んでする人達が自分から事故を起こすようなカードを入れるとは思えない。

私の思考中に《首領・ザルীগ》も捨てる手札を選んだのか、2

枚の手札を選び、墓地へと送った。

「更に私はモンスターを裏側守備表示でセット。カードを2枚セットしてターンエンドだ。」

《首領・ザルグ》の場に合計3枚のセットカードが現れた。

それを確認した《首領・ザルグ》はターンを終了する宣言をした。

ザルグ：LP / 4000

モンスター：裏側守備表示×1

魔法・罠：セット×2

手札：3枚

フィールド：なし

適用効果：なし

「フツ……俺のターン！」

……そういえば万丈目君のデュエルを見るのって、万丈目君がノース校に行く前よね。

対抗戦の時は緊張でそれどころではなかったしね。

……まあ、その万丈目君のターンが始まった。

「……俺は、《仮面竜》を攻撃表示で召喚！」

万丈目君の場に白い仮面で顔を覆い隠した、主に白と赤色で体を構成している龍が現れた。

《仮面竜》：ATK / 1400

『そして、《仮面竜》でセットモンスターを攻撃!』

《仮面竜》の仮面の下の口の部分から、《仮面竜》は炎を吐き、  
《首領・ザルグ》のセットモンスターを焼き尽くそうとする。

……しかし、《仮面竜》の攻撃は外野から放たれた鞭によって弾  
き返された。

えっ!? ……外野?

私がデュエルをしているフィールドから目を離し、《首領・ザル  
グ》の後方に待機していたはずの4人の黒蠍盗掘団の様子を見て  
みる。

すると、いつの間にか彼らは各々の武器を取り出し、準備運動ら  
しきものを始めていたわ。

そして再び視線をフィールドに戻し、攻撃を遮った鞭の根を辿っ  
て行くと、その鞭はカミューラさんによって先程までぐったりとし  
ていたミーネさんが鞭を《首領・ザルグ》のフィールドまで伸ば  
していた。

……もしかして。

私は《首領・ザルグ》のように他のメンバーも精霊なのでは、  
と疑問を感じ、フィールドで漸く表側になったセットモンスターだ  
ったカードを見る。

そのカードは……

「セットモンスターは、《黒蠍・棘のミーネ》だ。(《黒蠍・棘の  
ミーネ》……)」

私の確認したカードと《首領・ザルグ》の声が揃った事から、  
それは正しかったのだと判断した。

実際、《仮面竜》の攻撃が収まると同時に《首領・ザルグ》は



このように話したからだ。

「……折角だから、ここは我々自身がフィールドに参上しよう。」  
とね。

その言葉に答えるかのようにミーネさん……いや、《黒蠍・棘のミーネ》は、《首領・ザルグ》のフィールドに移動した。  
そして同時に鞭を操り、万丈目君を叩いた。

『グツ……』

準：LP / 4000 3600

だけど「黒蠍」相手にダメージだけでは済まない。  
彼らは相手に戦闘ダメージを与えれば、その特殊効果を発動することが出来る。

現にその効果を発動させる為のカードも存在しているしね。

「……そして《黒蠍・棘のミーネ》の効果を発動……と言いたいところだが、その前にこのカードを見てもらおう。」

そう言った直後、《首領・ザルグ》のセットカードの1枚が起き上がる。

そのカードとは……

『クツ……そのカードは……忌々しい。』

万丈目君の言う事も言い過ぎではない。

寧ろ、「黒蠍」とそのカードが合わされば、本当の意味で相手は何もできなくなるも同然だから。

まあ、それはこの時代だからの話ですけれどね。  
私のデッキとしては助けになってくれるわね。

「……小僧の攻撃前に私はカード発動していた。……そう、この《追い剥ぎゴブリン》をな！」

《首領・ザルグ》の発動したカードは《追い剥ぎゴブリン》。

「黒蠍」と同じく相手に戦闘ダメージを与えた時に発動するカード。<sup>ト。</sup>

勿論、今回のダメージも反射ダメージとはいえ戦闘ダメージ、効果は問題なく適用される。

……そう、《黒蠍・棘のミーネ》と一緒に。

同時に万丈目君の手札のホログラムがフィールド上に現れ、その1枚を同じくフィールドに現れたゴブリンが隙を見て持ち去り、そのカードは万丈目君の墓地へと送られた。

万丈目君も墓地に送られたカードを見て軽く歯ぎしりをしている。相当いいカードを墓地に送られたみたいね。

……でも、まだそれだけでは終わらない。

「まだだ。更にミーネの効果を発動する」

「私が相手にダメージを与えた時、デッキから「黒蠍」と名のつくカード1枚を手札に加える」

「クククツ……その通り、その効果で私は《黒蠍団召集》をデッキから手札に加える」

《首領・ザルグ》がここで1度言葉を切ると、今度はフィールド

ドの《黒蠍・棘のミーネ》が口を開いた。

そしてその言葉通り、《首領・ザルグ》は目的のカードをデッキから選択して手札に加えたわ。

加えたカードも加えたカードで拙いわね。

あのカードは手札のモンスターを複数特殊召喚するカード、今の万丈目君だと防ぎ切れるか分からない。

そんな中、事の成り行きを見ていた万丈目君が手札に手をかけた。

『……俺はカードを2枚伏せ、ターンエンド!』

万丈目君の場に2枚のセットカードが現れたわ。

でも万丈目君、彼らのカード効果を知っているのかしら？

準：LP / 3600

モンスター：《仮面竜》：ATK / 1400

魔法・罫：2枚

手札：2枚

フィールド：なし

適用効果：なし

「私のターン!」

《首領・ザルグ》がカードをドロウする。

さっきのターン、《黒蠍団召集》を手札に加えたのだから当然あるはず。

彼自身のカードが。

「魔法カード《強欲な壺》を発動! デッキからカードを2枚ドロウする」

《首領・ザルグ》は、さっきのターンに続けて引いたであろうドローカードを用い、デッキからカードを2枚ドローした。でもそれだけではないはず。

「続けて魔法カード《増援》を発動！ この効果でデッキからレベル4以下の戦士族モンスターを手札に加える。……加えるのは勿論私自身のカード、《首領・ザルグ》だ。」

やはり、《首領・ザルグ》。

という事は既に他のカードも手札に揃っている！？  
だとしたら相当拙い。

「そして私はそのまま私自身、《首領・ザルグ》を召喚する！」

そういつて《首領・ザルグ》のカードをデュエルディスクにセツトした後、“彼自身”がフィールドに出てきた。

《首領・ザルグ》：ATK/1400

そしてフィールドに出てきた《首領・ザルグ》が腰に入れてあった拳銃のホルスターからそれらをいつでも抜けるようにしてから新たなカードに手をかけた。

「行くぞ！ 魔法カード《黒蠍団召集》を発動！ フィールドに《首領・ザルグ》がいる時、手札に「黒蠍」と名のつくカードを全て特殊召喚する。……集まれ野郎共！ お勤めだあ！」

「「「おう！」「」」

《首領・ザルグ》が《黒蠍団召集》を発動した後に、手札のカード3枚をデュエルディスクにセットし、後ろの3人に声をかけた。すると、後方に控えたいた3人もそれに応え、フィールドに見参する。

同時に《首領・ザルグ》と《黒蠍・棘のミーネ》もその姿勢を変え、先ほど見た5人が並ぶように移動しながら4人の団員がそれぞれが名乗る。

「黒蠍一の力持ち、強力のゴグー!!」

《黒蠍・強力のゴグー》：ATK/1800

「黒蠍団の紅一点、棘のミーネ!」

「ふうん」

「どんなトラップでも朝飯前、畏外しのクリフ」

《黒蠍・畏外しのクリフ》：ATK/1200

「お宝頂きゃ、あとはとんずら! 逃げ足のチツク」

《黒蠍・逃げ足のチツク》：ATK/1000

「そして、私たちの三カ条……“誰も殺めず傷つけず、貧しき者からは何も盗まず”を守り抜く……」

「……ッ!!」それが我ら、黒蠍盗掘団!!」「」「」

やっぱり5人揃ってしまった。

という事はあの伏せカードは当然あのカードでしょうね。

……でも、その三カ条少し変じゃない？

だって、いくら肉体には傷をつけなかったとしても……盗まれた人の心には傷がつくのだから。

そう、似たようなもので違つかもしれないけれど、どこかに行ってしまった雪乃を想う私のように。

「……そして畏カード《必殺！黒蠍コンビネーション》！ フィールドに黒蠍団5人が勢ぞろいした時、このターン我らは相手プレイヤーを直接攻撃する事が出来る。……尤も、ダメージは400ポイントとなるがね。」

《首領・ザルグ》が自嘲気味に話しているが、《追い剥ぎゴ布林》がある以上笑い話にならない。

もし通れば2000ポイントのダメージと、最低でも手札5枚を捨てさせられるのだから……

「さて、バトルだ！ 行くぜ野郎共！ ……必殺！ 黒蠍コンビネーション！！」

こうして5人の盗掘団が万丈目君へと襲い掛かり始めるのだった。

……T o b e c o n t i n u e d

・新規登場カード・

《黒蠍・棘のミーネ》  
シメツクシ

効果モンスター

星4 / 闇属性 / 戦士族 / ATK1000 / DEF1800

このカードが相手プレイヤーに戦闘ダメージを与えた時、次の効果から1つを選択して発動することができる。

「黒蠍」という名のついたカードを自分のデッキから1枚手札に加える。

「黒蠍」という名のついたカードを自分の墓地から1枚手札に加える。

#### 《追い剥ぎゴブリン》

永續罫

自分フィールド上のモンスターが相手プレイヤーに戦闘ダメージを与える度に、相手はランダムに手札を1枚捨てる。

#### 《黒蠍団召集》

通常魔法

自分フィールド上に「首領・ザルグ」が表側表示で存在する時に発動する事ができる。

自分の手札から「黒蠍」という名のついたモンスターカードを全て特殊召喚する事ができる。

(同名カードは1枚のみ)

#### 《増援》

通常魔法

自分のデッキからレベル4以下の戦士族モンスター1体を手札に加える。

#### 《首領・ザルグ》

効果モンスター

星4 / 闇属性 / 戦士族 / ATK1400 / DEF1500

このカードが相手プレイヤーに戦闘ダメージを与えた時、

次の効果から1つを選択して発動することができる。  
相手の手札をランダムに1枚選択して捨てる。  
相手のデッキの上から2枚を墓地へ送る。

《黒蠍 - 強力くわちからのゴーク》

効果モンスター

星5 / 闇属性 / 戦士族 / ATK1800 / DEF1500

このカードが相手プレイヤーに戦闘ダメージを与えた時、  
次の効果から1つを選択して発動することができる。

相手フィールド上のモンスターカード1枚を持ち主のデッキの一番上に戻す。

相手のデッキの一番上のカードを1枚墓地へ送る。

《黒蠍 - 畏おそはずしのクリフ》

効果モンスター

星3 / 闇属性 / 戦士族 / ATK1200 / DEF1000

このカードが相手プレイヤーに戦闘ダメージを与えた時、  
次の効果から1つを選択して発動することができる。

フィールド上の魔法または罫カード1枚を破壊する。

相手デッキの上から2枚を墓地に送る。

《黒蠍 - 逃げ足にげあしのチック》

効果モンスター

星3 / 闇属性 / 戦士族 / ATK1000 / DEF1000

このカードが相手プレイヤーに戦闘ダメージを与えた時、  
次の効果から1つを選択して発動することができる。

フィールド上のカード1枚を持ち主の手札に戻す。

相手のデッキの一番上のカードを1枚めくる（相手は確認する事はできない）。

そのカードをデッキの一番上か一番下かを選択して戻す



《必殺！黒蠍コンビネーション》  
通常罨

自分フィールド上に「首領・ザルグ」「黒蠍 - 罨はずしのクリフ」

「黒蠍 - 逃げ足のチツク」「黒蠍 - 強力のゴーグ」「黒蠍 - 棘のミ  
ーネ」が表側表示で存在する時に発動する事ができる。

これらのカードは発動ターンのみ相手プレイヤーに直接攻撃をする  
事ができる。

その場合、相手プレイヤーに与える戦闘ダメージはそれぞれ400  
ポイントになる。

### 33話：盗賊も色々と気苦労が絶えない（後書き）

Q & A

Q：アナシス……

A：特に書くべき事がなかったので粗筋の数文の存在になってもらいました

Q：場所が原作と違う

A：原作では大徳寺先生が鍵を持っていた為に廊下での会話でしたが、

本作では大徳寺先生は鍵を持っていなかったなので大徳寺先生が原作で話していた「校長先生と話し合っ」の部分に4人を登場させる形としました。

Q：遊璃の言うどこかのトリシューラって……

A：あのトリシューラですよ

Q：遊璃の鍵が嚴重すぎるw

A：世界の覇権が掛かっているともしえる鍵を預かっているのですもの、これくらいは当然でしょう。

Q：詰めデュエルが……

A：シンクロモンスターを交えることでこの時代の人には解けないような問題となっています。

付け加えて、シンクロモンスターの事を知れたとしても選択肢を何通りも用意し、正解をその中の1つにした上で制限時間を設け、1度間違えた途端に問題が終了し、全てがやり直しになるので開く気力は遊璃以外は完全に失われます。

Q：遊璃の切り札って……

A：勿論あれです。

Q：氷室ww

A：彼の声ってザルグと同じなんですよねー。

初めて聞いたときにあれ？ この人って思いましたからw

Q：クリフは？

A：いませんよ。強いて言えばミーネのサポートですね

明日香の鍵はミーネが彼に渡し、その後遊璃の部屋に行った感じですよ

Q：何重ものロックにカミューラの護衛って盗むの不可能じゃんw

A：そうなりますね。間抜けな黒蠍盗掘団には元より遊璃の策を破る手はなかったですよ。

Q：よっ！？ 迷探偵！

A：やっぱりこの話にはこれを出さないかね……

Q：遊璃が犯人扱いだとお！

A：現に万丈目からすれば、目撃者として残して置くはずだったカードが消え、鍵も消えていたのですから怪しむのは当然と言えば当然かと。

Q：途中から脱線にているような……

A：すいませんギャグ調苦手なんです

Q：読心術う！？

A：…この場合、正確には読唇術になります。

遊璃の口が微小ですが、動いたことに気付いた黒蠍盗掘団がそれに反応を見せました

Q：遊璃はザルグ達がセブンスターズだって気づいているのですねw

A：まあ、ミリトウムから精霊だと言われていますし、鍵を盗むような人は彼ら位でしょうからね。

Q：《増援》を最初に使わなかった様な描写ですが、その訳は？

A：もしミーネが破壊された場合に後に必要なカードが手札に加えられないのでは元もこうもないからです。

Q：ザルグのイラスト日本版なんですね

A：そうですね。でないとダブルリボルバーって出来ないじゃないですか。

Q：遊璃が自傷少女っぽくなっている気がするのですが……

A：スルー推奨！！ ただ三カ条に関しては私の本音混じりです。

Q：10回言っていないじゃん！

A：召集の時も含めれば現在6回ですね

あと4回分のネタどこに詰めようかな……

今回は、この続きとアビドスをお届けしたいと思います。もしかしたらアビドスはその次になるかもしれませんが……

それでは感想・ご意見・ご要望お待ちしております。

### 34話：迷探偵と間抜けな盗賊と絆（前書き）

展開に悩み過ぎて手が止まったの連続でした……

万丈目ハンデス対策なさすぎw

あとはユニークがもう少しで30000になるのでその記念の土台作りと、学園祭編のコラボ特集のネタ集めで大変だったので更新が非常に遅れました。

申し訳ありません

- - -

遊璃『今回の最強カードは……これ！』

《アームド・ドラゴン レベル LV7》

効果モンスター

星7 / 風属性 / ドラゴン族 / ATK2800 / DEF1000

このカードは通常召喚できない。

「アームド・ドラゴン LV5」の効果でのみ特殊召喚できる。

手札からモンスター1体を墓地へ送る事で、そのモンスターの攻撃力以下の攻撃力を持つ、相手フィールド上に表側表示で存在するモンスターを全て破壊する。

遊璃『万丈目君が愛用するモンスターの1体、手札のモンスターを捨てることでそのモンスターの攻撃力以下の相手モンスターを全て破壊できるわ！』

瑞波『それに、それによって捨てたカードが遊璃のように墓地で真価を発揮するカードであったならば、2倍美味しいぞ！』

遊璃『一応更に進化するのだけど、《レベルアップ!》を使えな  
いから、Lv7の方が使いやすそうよね……』

瑞波『……確かにな』

――

今回は迷探偵万丈目サンダーの最強カードでした。  
では結果がどうなるか、お楽しみに！

### 34話：迷探偵と間抜けな盗賊と絆

突然やってきた黒蠍盗賊団によって、私以外の鍵は盗まれてしまった。

しかし、カミューラさんの手助けもあり何とかそれらを取り返すことに成功した。

そして夜も大分更けた頃、迷探偵万丈目サンダーと《首領・ザルグ》の一戦が幕を開けるのであった。

デュエルが始まり万丈目君は比較的落ち着いたスタートを切ったけれど、《首領・ザルグ》は相手の手札を捨てさせる《追い剥ぎゴブリン》と自身のカードを用いた戦術を使ってきた。

加えて《必殺・黒蠍コンビネーション》によって直接攻撃も可能になった全ての攻撃を通せば最低5枚の手札を捨てさせられるこの状況、万丈目君はどうするつもり！？

遊戯王GX - 蟹と魔女の娘 - 第34話：迷探偵と間抜けな盗賊の絆

\*フィールドのおさらい\*

準：LP / 3600

モンスター：《仮面竜》：ATK / 1400

魔法・罫：2枚

手札：2枚

フィールド：なし

適用効果：なし

ザルীগ：LP / 4000

モンスター：《首領・ザルীগ》：ATK / 1400、《黒蠍・棘のミーネ》：DEF / 1800、《黒蠍 - 畏外しのクリフ》：ATK / 1200、《黒蠍 - 強力のコグ》：ATK / 1800、《黒蠍 - 逃げ足のチック》：ATK / 1000

魔法・罾：《追い剥ぎゴブリン》

手札：1枚

フィールド：なし

適用効果：なし

ターン&フェイズ：ザルীগのメインフェイズ1

side yuri

「行くぜ野郎共！ …… 必殺！ 黒蠍コンビネーション！！」

《首領・ザルীগ》が他の4人の黒蠍盗掘団に言い放ち、攻撃が始まるのかと思えば、まだ始まらなかった。何故かと思ひ私が《首領・ザルীগ》のフィールドを注視すると……

《黒蠍・棘のミーネ》が未だ守備表示のままであった。

恐らくそれに気付いたのよね……

「……おおっと、ミーネを攻撃表示にするのを忘れていたぜ！」

……やっぱり。



……私の考え通り、《首領・ザルグ》は《黒蠍・棘のミーネ》の表示形式を変更した。

それに伴い、黒蠍盗掘団のポーズを解いた後、自分の体を鞭で覆うように操って防御の態勢を整えていた女性が腰にそれを束ね、いつでも動けるとばかりに《首領・ザルグ》に目配せをした。

《黒蠍・棘のミーネ》：DEF / 1800      ATK / 1000

……これで本当にバトルフェイズね。

もしこれが全て通ってしまえば、万丈目君の場はほぼがら空き兼手札は0。

《黒蠍・棘のミーネ》の効果で《必殺・黒蠍コンビネーション》を墓地から回収できるから次のターンまで持たない可能性が高い。

絶対に通しちゃ駄目よ、万丈目君。

「……いくぞ！ まずは《黒蠍・強力のゴグ》で直接攻撃！」  
ダイレクトアタック

「じつりきハンマー！！」

《首領・ザルグ》の命令に目に傷を負った清掃員さん……じゃなかった、《黒蠍・強力のゴグ》が一気呵成にと万丈目君へと突進していく。

それにしても、その攻撃名……持っている槌の名前にしか聞こえないのですが、気のせいでしょうか？

……まあ、私がそんな考えをしている内に目の前のフィールドでは新たな変化が起こっていた。

『畏カード《立ちはだかる強敵》！ この効果で攻撃対象は俺が選択する！ 《仮面竜》を攻撃しろ！』

うまい！ 万丈目君の罨カード《立ちはだかる強敵》は攻撃対象を自分で選択できるカード。

この効果を受けたモンスターは確実に対象モンスターを攻撃しなければならぬ。

…… 例え直接攻撃可能なモンスターでも！

…… そして、攻撃対象モンスターがフィールドを離れた場合、そのターンは他のモンスターで攻撃宣言が出来ない。

これで攻撃は《黒蠍 - 強力のゴッグ》のみね！

その後、《黒蠍 - 強力のゴッグ》の槌は異様な威圧感を醸し出し、攻撃を強要した《仮面竜》に吸い込まれ、《仮面竜》の頭を拉げる程に打ち砕き、破壊した。

「クツ……」

準：LP / 3600 3200

「…… チツ！ 追撃は止まったが、ゴッグの効果と《追い剥ぎゴブリン》の効果は受けてもらう。さあ、手札を1枚ランダムに捨てる！」

《首領・ザルグ》は自身のコンボが万丈目君のカードによって防がれた事で1度舌打ちをし、その後に効果を発動した。

万丈目君は手札を裏返し、シャッフルした後に2枚の手札から1枚を引き抜いて墓地へと送った。

そして次は《黒蠍 - 強力のゴッグ》の効果だけれど、何故か効果を選択するのが発動した本人だった。

「そして俺の効果で貴様のデッキの一番上のカードを墓地に送る」

《黒蠍・強力のゴーク》はそう一言言い、万丈目君はそれに従いデッキの一番上のカードを墓地へと送った。

「……なら今度はこちらの番だ。破壊された《仮面竜》の効果発動！ このカードが戦闘で破壊された時デッキから攻撃力1500以下のドラゴン族モンスターを特殊召喚できる！ ……俺は《アームド・ドラゴン LV3》を守備表示で特殊召喚する！」

今度は万丈目君の場に《仮面竜》の砕けた仮面が浮き上がり、それが光りを放ちつつ、別の龍の形へと変化する。

変化が終わり光が収まると、そこには薄紫色の外甲殻に真澄色のような体を持つ小さな竜が存在していた。

《アームド・ドラゴン LV3》：DEF/900

「クッ……これ以上攻撃はできねえ。カードを1枚伏せてターンエンドだ」

《首領・ザルグ》も《立ちはだかる強敵》の効果によって攻撃がこれ以上出来ない事を知っていたのか、悔しそうな表情を見せてからカードを1枚セットしてターンを終了した。

ザルグ：LP/4000

モンスター：《首領・ザルグ》：ATK/1400、《黒蠍・棘のミーネ》：ATK/1000、《黒蠍・畏外しのクリフ》：ATK/1200、《黒蠍・強力のゴーク》：ATK/1800、《黒蠍・逃げ足のチック》：ATK/1000

魔法・罫：《追い剥ぎゴブリン》、1枚

手札：0枚

フィールド：なし  
適用効果：なし

何とか凌ぎ切ったわね……

本当に《立ちはだかる強敵》が万丈目君の場になかった事を考えるとゾツとするわね……

まあ、次は万丈目君のターン。きっと突破口を開いてくれるでしょう。

『……いくぜ！ 俺のターン、ドロー！』

万丈目君が意を決し、デッキに手を添えカードをドローし、その直後デュエルディスクにセットしてある《アームド・ドラゴン LV3》に手をかけた。

『俺のターンのスタンバイフェイズを迎えた事で《アームド・ドラゴン LV3》は進化する！ このカードを墓地に送ることで、手札またはデッキから《アームド・ドラゴン LV5》を特殊召喚する事が出来る！ 俺は《アームド・ドラゴン LV3》を墓地に送り、《アームド・ドラゴン LV5》をデッキから特殊召喚する！ 出でよ！ 《アームド・ドラゴン LV5》！』

万丈目君のフィールドで体を丸めていた薄紫色の外甲殻の小さな龍が全身から光を放ち、その背を脱皮のように背を割る。

……すると中から《アームド・ドラゴン LV3》と同じような顔つきで、黒っぽく固そうな外甲殻に赤色の体を持つ龍が現れた。

《アームド・ドラゴン LV5》：ATK/2400

攻撃力2400。

《首領・ザルグ》の場にいる黒蠍盗掘団の攻撃力を全て上回っているわね。

問題は1枚の伏せカードだけれど、それを突破できるかしら？

『更に魔法カード《レベルアップ》！ 《アームド・ドラゴンLV5》を墓地に送り、《アームド・ドラゴンLV7》を特殊召喚する！ 出でよ！ LV7！』

万丈目君が更に魔法カードを発動すると先程現れたばかりの黒の外甲殻龍が再び光出す。

そして光が止むと、そこには更に大きさを増した黒の外甲殻の龍が現れた。

《アームド・ドラゴン LV7》：ATK/2800

成る程、一気にLV7まで進化させる事で黒蠍盗掘団を一掃する気なのね！

うまくいけばいいけれど……

私がそうして考えている間に万丈目君が更に行動を起こした。

『行くぞ！ 《アームド・ドラゴンLV7》の効果発動！ 手札の攻撃力1800の《闇魔界の戦士 ダークソード》を墓地に送り、貴様の場の攻撃力1800以下のモンスターを全て破壊する！ ジエノサイド・カッター！』

うまい！ 《首領・ザルグ》の場のモンスターは最大攻撃力1800。

この効果が決まれば全て破壊できるわ！

そして《アームド・ドラゴンLV7》の腹から物凄く鋭利な衝撃波が5つ放たれ、黒蠍盗掘団へと向かう。

……そしてその場に土煙が舞い上がった。

『やったか？』

それを視認した遊城君が呟く。

「ただ私には見えた。」

あの瞬間フィールドから離れる彼らの姿を。

「フン！ 残念だったな」

私の見た通り、煙が晴れてくるに連れ、《首領・ザルーグ》の聲が辺りに響く。

『な、何故……』

『奴の声が……』

『するんだ？』

明日香、万丈目君、遊城君が順に疑問の声を発する。

そしてその声に反応するように煙が晴れ、姿を現した《首領・ザルーグ》が応答する。

「フフツ……それはこのカードを発動したからだ」

そうやって《首領・ザルーグ》はフィールドに起き上がっている一枚のカードを指さした。

そのカードは……

『……《黒蠍団撤収》だと!？』

「そうだ。このカードの効果によりフィールド上の「黒蠍」と名の付くモンスターは全て手札に戻る！」

なんか、本当に盗掘団っぽいカードを使ったわね……  
現実でもこれ位であれば張り合いが合った気がするのだけれど……

その時……丁度《首領・ザルグ》が「手札に戻る」と言った瞬間、残っていた煙が晴れ、残りの4人の姿が見えた。  
そしてその4人が各々に口を開く。

「……風のように姿を現し」

「……林のように静かにお宝に忍び寄り」

「……火のようにお宝は一気に盗みだし」

「……そして陰のように痕跡を残さず、雷のように撤収する」

「……ッ！……それが黒蠍盗掘団！」「」「」

……なんか風林火山陰雷を黒蠍盗掘団用に換ったような言い回しをして、さっきとっていたポーズをしたけれど……山が抜けているわよ！ 山が！

まあ、山のように動かなかつたら盗掘団と言えないだろうし、第一その風林火陰雷かな？ を守れてないじゃない。

\*注意：わざと山を抜いています。決して脱字ではありません\*

風のように姿を現すならいつの間にか私達の仲間内に入っているだろうし、

林のように静かにお宝に忍び寄るのなら事前に鍵を別の場所に保

管させるなどの怪しい行動はさせなさそうだし、

火のように一気に盗み出す……のは私以外の鍵については大丈夫だけれど、方法が乱雑だし、

陰のように痕跡を消すなら付け爪とか落とさないだろうし、雷のように退くなら盗んだ後に姿を再び現さないだろうしね。

……ってあれ？

どうして黒蠍盗掘団の皆が俯いて中には四つん這いになっている人がいるのかしら？

それに明日香達も何故か私を見ているし……

「……主、全て声に出ていました……」

ミリトゥムの声がやけに寂しく聞こえ、私は先程の思考が思わず口に出ていたことに気付く。

『……あ、別に今の事はちょっと本音が……あ……』

また思った事を……

それと同時に《首領・ザルグ》は胸を押さえて崩れ落ちた。

私たちが少しそれを見ていると急に立ちあがり、細々と声を出した。

「……野郎共、これ位で凹むんじゃないぞ……」

「お頭……ああ！ そうだな！ 俺たちは……」

「『『『『『黒蠍盗掘団！』』』』』」

あれ？ いつの間にか調子が戻っているわね。



まあ、何にしても調子が戻って良かったわ。主に私のせいだし……  
と、そこに声が挟まる

『……おい、そろそろ続けていいか？』

声の主に向くと、万丈目君が若干イライラした様子を見せていた。  
……ああ、忘れていたわね。  
心の中で謝っておくわ……

「……ああ、続けてくれ！」

《首領・ザルグ》も完全に立ち直り、万丈目君に反応する。  
万丈目君はその台詞を聞くと直ぐに《アームド・ドラゴン レベル7》を指さして言い放った。

『なら直接攻撃だ！ 《アームド・ドラゴン レベル7》！ アームド・ヴァニツシャー！』

《アームド・ドラゴン レベル7》は万丈目君の命を受けると同時に右腕を振り回しだして、《首領・ザルグ》に襲い掛かる。  
そしてそれは、伏せカードもない《首領・ザルグ》に直撃した。

「グ、グオオオオオオ……」

「……お……お頭！」「……」

ザルグ：LP / 4000 1200

一気にライフポイントが2000ポイント上回ったわ。

現在《首領・ザルグ》の5枚の手札は黒蠍盗掘団のモンスターカード5枚。

次のターン、彼のドローカード次第によってはそのまま決着が着きそうね。

『フツ……俺はこれでターン終了だ』

万丈目君は攻撃が綺麗に決まった事を見届けるとターンエンドの宣言をした。

準：LP / 3200

モンスター：《アームド・ドラゴン LV7》：ATK / 2800

魔法・罫：1枚

手札：0枚

フィールド：なし

適用効果：なし

さて、《首領・ザルグ》の運命のターンね。

「お、お頭……」

《黒蠍・棘のミーネ》が《首領・ザルグ》を心配している表情をしているわね

確かに団長がピンチなら心配するのは分かりますね……

まあ、それだけではない気もしますが……

「俺のターン！」

《首領・ザルグ》はダメージを気にしていない様子でカードを引く。

そしてそのカードを確認し、ニヒルに笑った。  
一体何を……

「俺は魔法カード《壺の中の魔術書》を発動！ お互いにデッキからカードを3枚ドローする！」

《首領・ザルグ》の引いたカードはまたもやドローカード。

これによってお互いにデッキからカードを3枚ドローし、《首領・ザルグ》は8枚、万丈目君は3枚となった。

更に、ドローしたカードが更に良かったのか、続けて手札のカードを使用する。

「俺は再び俺自身を召喚！」

その言葉を発し、再び《首領・ザルグ》がフィールドに出てくる。

《首領・ザルグ》：ATK/1400

「そして、《黒蠍団招集》を発動！ 再び集まれ！ 野郎共！」

《首領・ザルグ》の掛け声に反応し、4人がフィールドに出てきた。

《黒蠍 - 棘のミーネ》：ATK/1000

《黒蠍 - 罨外しのクリフ》：ATK/1200

《黒蠍 - 強力のゴーク》：ATK/1800

《黒蠍 - 逃げ足のチック》 : ATK / 1000

「再び招集した！」

「……」「黒蠍盗掘団！！」「……」

と招集後お約束のポーズを決めたところで私はその不審な点に気付く。

どうしてこのタイミングで黒蠍盗掘団全員を招集したのかと云う点に。

確かに《闇よりの罨》等のカードによって墓地から罨カードを発動するとかならまだしも、伏せカードがない。

まあ逆に考えれば、伏せカードはないから《必殺！黒蠍コンビネーション》を発動される心配はないけれど、それが更に疑問に感じる……

そして、このターンに勝つ手段を講じたりしなければ次のターンに恐らく《アームド・ドラゴン Lv7》の効果が炸裂するでしょうに……

という事は何か策があるのかしら？

と、そこに《首領・ザルグ》と《黒蠍 - 棘のミーネ》の音が静かに響く。

「……ミーネ、すまない」

「お頭、覚悟はできています」

その一言二言のやり取りに私の脳裏に1枚のカードが浮かび上がった。

……もしかしてあのカードを！？

「魔法カード《黒蠍・愛の悲劇》！ フィールド上にザルグとミネがいる時、ミネを生け贄にする事で相手のモンスターを全て破壊する！」

『何い！？』

万丈目君の驚愕の声を同じくして《黒蠍・棘のミネ》の振るった鞭が《アームド・ドラゴン Lv7》に直撃し、それを破壊する。しかし、その代償にそれによって発生した爆風によって《黒蠍・棘のミネ》は破壊……いや、フィールドの外まで飛ばされた。そしてその姿を見た他の4人のメンバーがいきり立ちだす。

「ミネの敵を討つぞ！」

「……おう！」

「まずは俺で直接攻撃！ その後チック、クリフ、ゴークの順で直接攻撃だ！ ダブル・リボルバー！！！」

《首領・ザルグ》は腰に備えていた2丁の拳銃を抜き、それを万丈目君へと放つ。

しかしそれが万丈目君に届くことはなかった。

黒っぽい外甲殻に覆われた武装龍が万丈目君を守っていたから……

《アームド・ドラゴン Lv7》：ATK/2800

「……何故だ。何故破壊したモンスターが……」

《首領・ザルグ》が驚きを隠せない表情で言う。

まあ、無理はないでしょうね。

彼らが怒りで我を失っている時に万丈目君が1枚の畏カードを発動させたのですもの。

……そう、そのカードは……

「……俺は貴様が攻撃した瞬間、1枚のカードを発動した。……この《レベル調整》をな！ このカードは相手にカードを2枚ドロウさせる代わりに墓地の「LV」モンスターを召喚条件を無視して特殊召喚する事ができる！」

何とか首の皮1枚って所かしら？

でも《首領・ザルグ》も新たにカードを2枚引いて態勢が整ったわね。

「チツ……攻撃は中止だ。カードを3枚伏せてターンエンド！」

《首領・ザルグ》は舌打ちを一つし、《レベル調整》を含めてドロウした3枚の手札を全て伏せた。

次は万丈目君のターンで《アームド・ドラゴン LV7》も効果の使用が可能になるけれど、《首領・ザルグ》もそれには気づいているはず。

一体何を伏せたのかしら？

ザルグ：LP/1200

モンスター：《首領・ザルグ》：ATK/1400、《黒蠍・畏

外しのクリフ》：ATK/1200、《黒蠍・強力のゴーグ》：A

TK/1800、《黒蠍・逃げ足のチツク》：ATK/1000

魔法・罫：《追い剥ぎゴブリン》、3枚

手札：0枚

フィールド：なし

適用効果：なし

『よし！ 俺のターン！ 俺はアームド……』

「ちょっと待った！ 罠カード《ダスト・シユート》！ さあ、貴様の手札を見せてもらおうか」

万丈目君がターン開始早々に《アームド・ドラゴン Lv7》の効果を発動しようとするが、その前に《首領・ザルীগ》の制が入り、伏せられた3枚のカードの内、1枚が起き上がる。

それは相手の手札が4枚以上の時に相手の手札を確認し、モンスターカードをデッキに戻させる手札破壊のカードだった。

当然万丈目君にそれを止める術はなく、2人の間に万丈目君の4枚の手札が公開された。

《おジャマジック》

《打ち出の小槌》

《X・ヘッド・キャノン》

《融合》

何というか、どんなデッキなのか本当に分からなくて頭痛がしてきたわ。

アームド・ドラゴンとWXYZとおジャマ？

良く回せるわね………素直に感心するわ。

でもこれで万丈目君の手札から選ばれるモンスターは《X・ヘッド・キャノン》ね！

……案の定、《首領・ザルグ》はそれを選択し、《X・ヘッド・キャノン》はデッキに戻された。

でもまだ万丈目君には《打ち出の小槌》があるわ！ それで攻撃力1800以上のモンスターを引ければ……

「……これで終わったと思うなよ！ 続いて《打ち出の小槌》を言し、《マインドクラッシュ》を発動！ 貴様の手札から《打ち出の小槌》を墓地に送る」

『……クツ……』

使う事が出来なかった。

しかも万丈目君の手札に攻撃反応系のカードがない事はすぐに分かるから、このターンはもう攻撃しかできない。

確かに《首領・ザルグ》、《黒蠍・逃げ足のチック》、《黒蠍・畏外しのクリフ》を戦闘破壊できれば万丈目君が勝つけれど、その可能性は低すぎる。

ここで失う訳にはいかない……

『……ターンエンドだ』

と、万丈目君はこのままターンを終了するしか手立てがなかった。

準：LP/3200

モンスター：《アームド・ドラゴン LV7》：ATK/2800

魔法・罫：0枚

手札：2枚



フィールド：なし  
適用効果：なし

「フツ……万策尽きたか？ 俺のターン！」

《首領・ザルグ》はそれをニヒルに笑った表情を浮かべながらカードをドローする。

そしてドローしたカードと後ろの既に先程の爆風のダメージから回復していた《黒蠍・棘のミーネ》を見て引いたカードを発動した。

「魔法カード《戦士の生還》！ この効果で墓地からミーネを手札に加える！ そしてそのままミーネを召喚！」

そして《黒蠍・棘のミーネ》を再び召喚すると、後ろから《黒蠍・棘のミーネ》がフィールド上に舞い戻った。

《黒蠍・棘のミーネ》：ATK/1000

「お頭、皆待たせたね！」

「ああ……………さあいくぜ！ 野郎共！」

「……おう！」「……」

舞い戻った《黒蠍・棘のミーネ》が他の4人に声を掛け、《首領・ザルグ》がそれに反応し一言返す。

しかし、その直後に4人に声を掛け、デュエルディスクに手をかけた。

「畏カード《必殺！黒蠍コンビネーション！》を発動！ 黒蠍盗掘

団が勢揃いしている時、直接攻撃を可能とする！　いくぞ！」

《首領・ザルグ》の伏せた最後のカードは《必殺！黒蠍コンビネーション！》。

これで万丈目君の手札はポロポロになってしまっわ！

そして黒蠍盗掘団は発動と同時に構えをしていたのか、一気に飛び出した。

「さっきのお返しだよ！　棘の鞭！」

「トラップナイフ！」

「元氣槌！」

「じつりきハンマー！！！」

「食らえ！　ダブルリボルバー！！！」

そして5人の攻撃は防ぐ手立てのない万丈目君に直撃した。

『グ、グアアアアアア』

|        |      |      |      |      |      |
|--------|------|------|------|------|------|
| 準：LP / | 3200 | 2800 | 2400 | 2000 | 1600 |
| 1200   |      |      |      |      |      |

畏カードの効果で一応敗北にはならないけれど、その代償はあまりにも大きすぎる。

なんせ黒蠍盗掘団の効果全てを一気に受けるのだから……

「まずはあたしの効果で墓地から……」

「《黒蠍団撤収》だ」

「えっ！？ 《必殺！黒蠍コンビネーション！》じゃないのかい？」

「……ああ」

「お頭がそう言うなら……墓地から《黒蠍団撤収》を手札に加え、《追い剥ぎゴブリン》の効果でお前の手札を1枚捨てさせてもらおうよ！」

《首領・ザルグ》は何故か《必殺！黒蠍コンビネーション！》ではなく、《黒蠍団撤収》を手札に加えさせるよう《黒蠍・棘のミネ》に言い、《黒蠍・棘のミネ》は《首領・ザルグ》の言う通りにした。

その後、《追い剥ぎゴブリン》の効果で万丈目君の手札の1枚

《おジャマジック》を捨てさせた。

『なら捨てられた《おジャマジック》の効果を発動する！ このカードが手札またはフィールド上から墓地に送られた時、デッキから《おジャマ・ブラック》、《おジャマ・グリーン》、《おジャマ・イエロー》を1枚ずつ手札に加える！』

当然その効果が発動し、デッキから3枚のカードを手札に加え、手札は4枚となった。

でも他の団員の効果で全て無に帰すのでしょうか……

「次に俺の効果を受けてもらう。貴様の場のモンスター1体をデッキの一番上に戻し、《追い剥ぎゴブリン》の効果で手札を1枚捨てる」

次に口を開いたのは《黒蠍・強力のゴーグ》。その効果で万丈目君の場で唯一の壁にもなっていた《アームド・ドラゴン LV7》が足元から光となって消え去り、万丈目君のデッキの一番上に戻された。

その直後、《追い剥ぎゴブリン》の効果で万丈目君の手札の《おジヤマ・ブラック》が墓地に送られる。

その時、

「お、おまえら〜〜〜」

「ブラック兄ちゃん〜〜」

「兄貴〜〜」

と言った悲痛な叫び声があったような気がしたのですが、気のせいでしょうか？

まあ、そんな事を考えている内に次の効果を発動しようと残った黒蠍盗掘団3人の1人《黒蠍・畏外しのクリフ》が口を開く。

「次は俺だ。俺の効果でデッキの上からカードを2枚墓地に送り、《追い剥ぎゴブリン》の効果で手札を1枚墓地に送るぜ」

万丈目君は言われた通りに行動し、デッキの一番上にあつた《アームド・ドラゴン LV7》と1枚のカードが墓地に送られる。

その後手札から《融合》が墓地に送られたわ。

残り2人で残りの手札も2枚。全て捨てられることは明白ね。

「最後はお頭に任せ、俺の効果だ。貴様のデッキの一番上を確認し、それを一番上か下に戻す。さあそのカードを見せな！」

……これによって下手をすれば万丈目君は何も出来なくなって敗北する。

そして万丈目君が見せたデッキの一番上のカードは……

### 《死者蘇生》

逆転のカード。

この効果で《アームド・ドラゴン Lv5》を特殊召喚し、《黒蠍・逃げ足のチック》辺りを攻撃すれば、例え手札が0枚になろうとも万丈目君は勝利できていた。

それを封じられたのだ。

因みに《死者蘇生》はデッキの一番上に戻された。

多分万丈目君のデッキに《打ち出の小槌》があるのを思い出し、《首領・ザルグ》の効果で墓地に送るつもりなのでしょーうね。

そう考えた時、《黒蠍・逃げ足のチック》は再び口を開いた。

「そして《追い剥ぎゴブリン》の効果で手札を1枚捨ててもらおう」  
万丈目君の手札1枚がランダムに射抜かれ、墓地へと送られる。  
その時再び、

「お、弟よ〜」

「グリーン兄ちゃん〜」

と悲痛な叫び声パート2が聞こえたと思うのだけれど、やっぱり気のせいかしらね？

さて、最後は首領の《首領・ザルグ》。

選ぶ効果は分かりきっているけれどね。

「最後に俺の効果だ。《追い剥ぎゴブリン》の効果で最後の手札を墓地に送り、デッキの一番上から2枚のカードを墓地に送る！」

万丈目君はそれに従い、最後の手札である《おジャマ・イエロー》を墓地に送り、デッキの一番上から2枚のカードを墓地に送ったわ。

その時驚愕の顔を見せたから恐らく逆転をそのカードに賭けていたのかもしれないわね。

ついでにその時、

「ま、万丈目の兄貴……」

と悲痛な叫び声パート3が聞こえた気がしたけれど、本人は聞こえていないみたいね……

同時に効果処理を終えた5人がそれぞれポーズを決め、

「……これが必殺！」

「……黒蠍コンビネーション！」

と言っていた。

まあ、確かに万丈目君の手札は0。フィールド上にも何もなく、《死者蘇生》は既に墓地にある。

相手のライフポイントは1200だけけど、そう都合よく攻撃力2200以上のレベル4以下のモンスターを引けるとも思えない。

けれども魔法カードを手札に戻すカードの類を引けると考えればまだ可能性はある。

そう、デッキの一番下のカードを手札に加えるなんて芸当よりはるかに可能性がね。

私のような考えをした時、《首領・ザルグ》が口を開く。

「フンツ……手札もフィールドにもカードがない貴様はもう勝つ術はないだろう。カードを伏せてターンエンド！」

今伏せたのは十中八九《黒蠍団撤収》。

次のターンに万丈目君が万が一《黒蠍・愛の悲劇》のような全体破壊果持ちのカードを引いた時の対策。

その類のカードは魔法カードや罠カードの可能性が高いから黒蠍盗掘団を手札に戻すことでそれを回避し、返しターンで止めを刺すつもりね……

ザルグ：LP/1200

モンスター：《首領・ザルグ》：ATK/1400、《黒蠍・棘

のミーネ》：ATK/1000、《黒蠍・罠外しのクリフ》：AT

K/1200、《黒蠍・強力のコグ》：ATK/1800、《黒

蠍・逃げ足のチック》：ATK/1000

魔法・罠：《追い剥ぎゴブリン》、1枚

手札：0枚

フィールド：なし

適用効果：なし

本当にこのターンの万丈目君のドローカードで全てが変わる。

私はそれを見る為万丈目君に目を向けた。

……しかしそこには……

デッキの上に手を置こうとしている万丈目君がいた。  
だから私は無意識に叫んでいた。

『……サレンダーなんて駄目！ 自分のデッキを信じて最後まで続けなさい！』

その言葉に遊城君と明日香が反応する。

『諦めるなんてお前らしくないぞ！ 万丈目！』

『そうよ！ 最後まで諦めないで！』

その言葉に万丈目君は俯いていた顔を少し上げ、

『……だが俺にはどうする事も出来ない。俺のデッキに攻撃力2200以上のレベル4以下のモンスターはいないし、唯一召喚できる《死者蘇生》は墓地に送られた。これでは……』

と言ったが、目が虚ろになりかけていた。

私はそんな弱気な万丈目君を見たい訳でもなく、再び叫んでいた。

『……なら引いてから決めればいいでしょう！！ デッキを信じれば奇跡だって起こせるわよ！』

『そうだ万丈目！ こういうピンチの時って次に何を引くのか考えるとワクワクしないか？』

私の言葉に遊城君が便乗する。

まあ、確かにワクワクはするかもしれないわね。



でも、やっぱり大切なのはデッキを信じることに、それに尽きると思っわ！

その証拠に虚ろになりかけていた万丈目君の瞳に光が戻り、サレンドーしようとしていた手は拳となり、強く握りしめられていた。

『……そうだな。十代、不動さんの言う通りだ。……俺は最後まで諦めん！……俺は……俺は！……万丈目サンダーだ！！』

万丈目君は私達に対して顔を向けながら話しているうちに声がいっつもの調子に戻り、声も話すことに元に戻った。

『……俺のターン！！』

「フン、手札もフィールドにもカードがない状態で何を言っている。貴様に勝ち目はないだろう？」

『……そいつはどうかな！』

『何？』

万丈目君が先程のターンの開始同様にカードを引いたことに《首領・ザルグ》は言葉を投げかけるが、万丈目君はドロートしたカードを見てから言い返した。

本当に希望を掴みとったのね！

『……まさか、兄さんとデュエルした後に抜き忘れたカードのお陰で勝てるとはな。……まあ、偶には悪くない。……俺は《カオス・ネクロマンサー》を召喚！』

万丈目君の引いたカードは、以前万丈目長作さんとハンデデュエ

ルをした時にフィニッシュャーになったモンスター。  
どうやら先程の呟きからして抜き忘れだそうね。  
でもそれが今回は味方したわね！

万丈目君はそのモンスター……《カオス・ネクロマンサー》を  
召喚すると、万丈目君の場に仮面のようなアイシールドを付け、紫  
色の街頭に中途半端な鎧を付けている説明に困るモンスターが現れ  
た。

《カオス・ネクロマンサー》：ATK/0

「……攻撃力0？ そんなモンスターで何が……」

「……出来るさ。この《カオス・ネクロマンサー》は墓地に存在す  
るモンスターの数×300ポイントの攻撃力を得る！ 俺の墓地に  
はおジャマ3兄弟、アームドラゴンLV3、LV5、LV7！  
そして《仮面竜》と《闇魔界の戦士 ダークソード》の合計8体の  
モンスターがいる。よって攻撃力は2400だ！」

《カオス・ネクロマンサー》：ATK/0 2400

《首領・ザルグ》は《カオス・ネクロマンサー》の事を知らない  
いよつで攻撃力0と言う点を指摘し、それを万丈目君は冷静に回答  
した。

それを聞いた直後、《首領・ザルグ》は額に青筋を浮かべたが、  
どうやっても攻撃を防ぐ事は出来ない事を知ると、諦めたように目  
を瞑った。

『行くぞ！ 《カオス・ネクロマンサー》で《黒蠍・逃げ足のチツ  
ク》を攻撃！ ネクロ・パペットショー！』

《カオス・ネクロマンサー》の頭上に現れた8つの霊魂が《黒蠍  
- 逃げ足のチック》へと放たれる。  
けれども、それが当人に決まることはなかった。  
決まったのは《首領・ザルグ》であつたからだ。

「俺の間には手を出させはしねえ！ 《黒蠍団撤収》を発動！  
黒蠍団全てを手札に戻す！ …… グオオオオオオオオオオオオオオオオ……」

ザルグ：LP / 1200 0

準：WIN

突然の事にフィールド外に黒蠍盗掘団は逃げはしなかったが、《  
黒蠍 - 逃げ足のチック》に代わり、《首領・ザルグ》が受けた事  
を知ると、一目散に《首領・ザルグ》に駆け寄つた。

「…」  
「…」  
「お、お頭!!」  
「…」

しかし、その声も虚しく《首領・ザルグ》と他の4人のメンバ  
ーは急に光に包まれ、各々のカードへと変化する。

……結果そこには5枚の黒蠍盗掘団のカードが落ちていた。

・  
・  
・  
・  
・

デュエルが終わつた後部屋に戻つた私達はカミューラさんにお礼

を言い、窓際へと移動した。

カミューラさんは変な時間に起こされ、鍵の護衛を任されたせいで眠いらしく、早めに寝るらしい。

私は窓際で今日のデュエルで使用されたレッド寮の方角に浮かんでいる月を見ていた。

……すると空に浮かんでいた月に一瞬だけあの5人が浮かんでこう言っていた気がする。

「…………それが黒蠍盗掘団！」「…………」

ってね。

さて、私も寝ようかな。

明日も明日で早いし！

そう思った私はベッドへと移動し、すぐに夢の中に落ちるのであった。

……T o b e c o n t i n u e d

\*新規登場カード\*

《立ちはだかる強敵》  
通常罫

相手の攻撃宣言時に発動する事ができる。

自分フィールド上の表側表示モンスター1体を選択する。

発動ターン相手は選択したモンスターしか攻撃対象にできず、

全ての表側攻撃表示モンスターで選択したモンスターを攻撃しなけ

ればならない。

《アームド・ドラゴン LV3》

効果モンスター

星3 / 風属性 / ドラゴン族 / ATK1200 / DEF900

自分のスタンバイフェイズ時、フィールド上に表側表示で存在するこのカードを墓地へ送る事で、

手札またはデッキから「アームド・ドラゴン LV5」1体を特殊召喚する。

《アームド・ドラゴン LV5》

効果モンスター

星5 / 風属性 / ドラゴン族 / ATK2400 / DEF1700

手札からモンスター1体を墓地へ送る事で、

そのモンスターの攻撃力以下の攻撃力を持つ、

相手フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を選択して破壊する。

また、このカードが戦闘によってモンスターを破壊したターンのエンドフェイズ時、

フィールド上に表側表示で存在するこのカードを墓地へ送る事で、手札またはデッキから「アームド・ドラゴン LV7」1体を特殊召喚する。

《レベルアップ!》

通常魔法

フィールド上に表側表示で存在する「LV」を持つ

モンスター1体を墓地へ送り発動する。

そのカードに記されているモンスターを、  
召喚条件を無視して手札またはデッキから特殊召喚する。

《アームド・ドラゴン LV7》

効果モンスター

星7 / 風属性 / ドラゴン族 / ATK2800 / DEF1000

このカードは通常召喚できない。

「アームド・ドラゴン LV5」の効果でのみ特殊召喚する事ができる。

手札からモンスター1体を墓地へ送る事で、  
そのモンスターの攻撃力以下の攻撃力を持つ、  
相手フィールド上に表側表示で存在するモンスターを全て破壊する。

《闇魔界の戦士 ダークソード》

通常モンスター

星4 / 闇属性 / 戦士族 / ATK1800 / DEF1500

ドラゴンを操ると言われている闇魔界の戦士。  
邪悪なパワーで斬りかかる攻撃はすさまじい。

《黒蠍団撤収》

通常罨 (アニメ効果)

自分フィールド上に「首領・ザルグ」「黒蠍 - 罨はずしのクリフ」

「黒蠍 - 逃げ足のチック」「黒蠍 - 強力のゴীগ」「黒蠍 - 棘のミネ」が表側表示で存在する時に発動する事ができる。

自分フィールド上のモンスターを全て持ち主の手札に戻す。

《黒蠍・愛の悲劇》

通常魔法（アニメ効果）

自分フィールドに「首領・ザルグ」と「黒蠍・棘のミーネ」と「黒蠍・棘のミーネ」が表側表示で存在する場合のみ発動できる。  
自分フィールドの「黒蠍・棘のミーネ」1体を生け贄に捧げる事で、相手フィールド上のモンスターを全て破壊する。

《レベル調整》

通常罫（アニメ効果）

相手はカードを2枚ドローする。  
自分の墓地に存在する「LV」を持つモンスター1体を、召喚条件を無視して特殊召喚する。  
この効果で特殊召喚したモンスターは、このターン攻撃できず効果を発動及び適用する事もできない。

《ダスト・シユート》

通常罫

相手の手札が4枚以上の場合に発動する事ができる。  
相手の手札を確認してモンスターカード1枚を選択し、そのカードを持ち主のデッキに戻す。

《おジャマジック》

通常魔法

このカードが手札またはフィールド上から墓地へ送られた時、自分のデッキから「おジャマ・グリーン」「おジャマ・イエロー」「おジャマ・ブラック」を1体ずつ手札に加える。

《おジャマ・ブラック》

通常モンスター

星2 / 光属性 / 獣族 / ATK0 / DEF1000

あらゆる手段を使ってジャマをされると言われているおジャマトリオの一人。

三人揃うと何かが起こると言われている。

《おジャマ・グリーン》

通常モンスター

星2 / 光属性 / 獣族 / ATK0 / DEF1000

あらゆる手段を使ってジャマをされると言われているおジャマトリオの一人。

三人揃うと何かが起こると言われている。

《おジャマ・イエロー》

星2 / 光属性 / 獣族 / ATK0 / DEF1000

あらゆる手段を使ってジャマをされると言われているおジャマトリオの一人。

三人揃うと何かが起こると言われている。

《カオス・ネクロマンサー》

効果モンスター

星1 / 闇属性 / 悪魔族 / ATK0 / DEF0

このカードの攻撃力は、自分の墓地に存在する

モンスターカードの数×300ポイントの数値になる。



### 34話：迷探偵と間抜けな盗賊と絆（後書き）

ああ、大学の課題と併用するとやる気が湧かない。これだといつコラボに辿り着けるか不安だ……

と考えていたら更新が遅れてしまいました。

上は前書きの他の理由です。

言い訳たっぷりですみません

本文の筋書きは数日前から決まっていたのですが、どうにも執筆意欲が湧かなくて……

申し訳ありません。

まあ、取り敢えず今年中に1期完結を目指して頑張ります！

Q & a m p ; A

Q：10回言った？

A：何とか。色々と強引に入れましたけれどね……

Q：《立ちはだかる強敵》か……

A：最初は《闇より出でし絶望》のイラスト繋がりで使ったのですが、漫画で使われているのですね……

G Xと5 D ' sの漫画は読んでないので……

Q：《闇魔界の戦士 ダークソード》！？

A：彼のデッキで攻撃力1800の手ごろなモンスターで一番最初に浮かんだのがこれでした

嘘です。書いた時点で思いつきませんでした。《X・ヘッドキャノン》が。

すみません

Q：撤収したけれど3ドローはないの？

A：TF効果を書き終わるまで知りませんでした。

なのでドローは入れず原作のままにして、《壺の中の魔術書》を使いました。これについては後述

Q：風林火山陰雷ってw

A：なんとなく10回に至るようにする為のネタの1つですね

こじ付けで山以外は思いついたのですが、どうも山だけは思いつかなくて……

Q：《壺の中の魔術書》にした理由は？

A：万丈目の手札が足りなかったからです

Q：《黒蠍・愛の悲劇》も原作効果？

A：はい、こちらもライボル効果になったのを書き終えるまで知らなくて……

無知ですみません

Q：《レベル調整》も原作だけれど、類似効果の《レベルの絆》は？

A：あれって自分のターンにしか使えないらしくて、《レベル調整》にさせていただきました。

Q：ハンデス怖いw

A：本当ですね……何も出来なくなりましたし……

Q：悲痛な叫び声って言うていたけれどおジャマ達の存在忘れているの？

A：いいえ、正確にはまだおジャマ達の事を知らないだけです

棺桶で見つけた時もすぐにケースに入れましたし、今まで1度も

遭遇していませんから。

Q：遊璃良く言った

A：本当にこの展開を思いついた時は自分でも自画自賛しましたよ  
(え)

Q：抜き忘れて……

A：……こうすればすんなり勝てるかなと

### 次回の予告

アビドス……速攻で終わるけれど

アビドス『何故だ!?!』

戎鴛『魔改造すると瑞波とデッキスタイルが被るから』

アビドス『何……だと』

特別番外編 - 2011/09/01適用の新禁止制限について -

戒「皆さんこんにちは。戒鴛です。題名通りなのですが、新禁止制限が発表されたのでその考察……出来たらいいな」

遊「どうも遊璃です。戒鴛はしっかりとする」

戒「はい。ではリストの発表です

・新禁止カード

《ハリケーン》

《王宮の弾圧》

《メンタルマスター》

《フィッシュボーグ・ガンナー》

・新制限カード

《カオス・ソルジャー - 開闢の使者 -》

《大嵐》

《真六武衆・シエン》

《紫炎の狼煙》

《貪欲な壺》

《TG ハイパー・ライブラリアン》

《デブリ・ドラゴン》

《ローンファイア・ブロッサム》

《フォーミュラ・シンクロン》

《原初の種》

・準制限カード

《マインドクラッシュ》

《リビングゲデッドの呼び声》  
《召喚僧サモンプリースト》  
《氷結界の虎王ドウローレン》  
《デステニー・ドロー》  
《光の護封剣》  
《トラゴエディア》  
《ネクロ・ガードナー》

・新無制限カード

《裁きの龍》  
《サイクロン》  
《魂を削る死霊》  
《オーバード・フュージョン》  
《巨大化》  
《グラヴィティ・バインド - 超重力の網 - 》  
《ゴッドバードアタック》

以上です」

遊「戒駑としてどんな感じ？」

戒「痛い。デブリ、貪壺を愛用していたので尚更……まあゴトバと嵐は嬉しいですけどね」

遊「そういうえば最近の畏カード強すぎてリアルでデュエルしていなかったんだっけ？」

戒「そうだよ。畏カード嫌いだからね」

遊「そうですか。私としては、デブリ・ドラゴンが少し痛い程度で

すかね。まあ元々私のデッキにはデブリ・ドラゴンは1枚なので気にならないですが……ゴッドバードアタックは嬉しいですね！ドラグニティ使いとしては。」

戒「なるほど」

遊「てか、戒鴛大切なものから目を逸らし続けてないですか？」

戒「えっ！？　！？　何の事かな（汗）」

遊「カオスソル……」

戒「止めてくれw　トラウマなので……」

遊「ヴァーユとはどちらの方が？」

戒「勿論！　ヴァーユ！」

遊「ええ！？」

戒「だってヴァーユで止めとか嫌になるよ。うん。……まあ長々と目を逸らしていたけれど開闢ね。最近墓地肥やし余裕だからね……色々なデッキにも入ってくるのでは！？」

遊「……でしょうね。私は風属性が殆どなので使い道がありませんが……」

戒「てか、何で帰ってきたんだ？　この人。まあ帰ってきてもおかしくないほど他に色々な強力カードが出ましたけれどね……」

遊「ですね……」

以降グダグダ話が続く

さて現実逃避はこの辺に致しまして、そろそろ真面目に考えて行  
つてみます

《ハリケーン》

《大嵐》

《サイクロン》

魔法・罫系を割ったりするカード達ですね

《ハリケーン》は大方《大嵐》と交換で禁止行きでしょうね。

その証拠に大嵐が制限復帰していますし……

それにしても《サイクロン》の制限解除は驚いた。

今まででさえ影の薄かった《ツイスター》たちの御役目終了では  
!?

でもやっぱり強いな〜罫カード……

《王宮の弾圧》

特殊召喚を800ライフで互いに止められるカードですね……

個人的には使わないので気にも留めていませんが、やっぱり嬉しい事は嬉しいですね

特殊召喚を多用する人なので……

《メンタルマスター》

《フィッシュボーグ・ガンナー》

まあ、仕方ない。これらを使うと簡単にクエーサーまで持って行けますからね

除外関連のサイキック然り、雲魔物然り、レスキュー・ラビット然り。

恐らくフィッシュボーグはラビットが出たから行った様な気がしますね……

まあ、双方とも使用しませんので気にならないです（え

《カオス・ソルジャー - 開闢の使者 - 》

なんで帰ってきたのでしょうかその1。

召喚時の起動効果に対する優先権がなくなったから除外効果を防げるからとかですかね？

昔の時点でも墓地を少し肥やせば簡単に湧いてきたのに今の高速で墓地肥やしが出来る時代に何故帰ってきた！？

休暇後は絶対に開闢に殴り殺される日々が始まるのだろうな……  
ゲイボルグは除外され、ヴァジュとガジャルグは2回攻撃の餌にされる未来がはっきりと浮かびます

また自分で使おうにも持ってない！

もともと所持していて売った訳でもなく、一度も手に入れたことがないだけです。



そういう訳なので私が使うことはないでしょうね。  
主に金の問題で……………（既に高騰していますからね）  
CGIとかではあるかもしれませんが……………

てか、今年もゴールド出るとしたら絶対ノーレアで入っているだ  
ろうな〜このカード。

### 《原初の種》

これは上記が帰ってきた以上制限指定されて当然でしょうね。  
これ2枚と何枚かで ループを起こせますからね……………  
手順はwiki見ればすぐに出てきますよ！

### 《真六武衆・シエン》

### 《紫炎の狼煙》

六武衆関係ですね……………

普通にこの2枚が強いと言つのもありますけれど、狼煙はレベル  
3以下六武衆専用の《増援》みたく扱えて、且つ《真六武衆 シエ  
ン》のパーツを集めやすく出て出しやすいからでしょうね〜

あと《真六武衆・シエン》がかかった理由は……………レベル5シンク  
ロモンスターの規制でしょうか？

ライブラなど出しやすくして強いモンスターが多いですからね。

まあ、一応シンクロ素材の規制はありますけれど……………出しやす  
いことは変わらないのと、573としては折角作り出したエクシー  
ズをもっと売る為にシンクロにブレイキをかけたとか？

……………最後のは微妙かな？

《貪欲な壺》

痛いな……これ。

準制限なら困らなかつたけれど、制限か。

使っているのスタバと青眼だから尚更痛い。

素材回収とか、青眼過労死とかで使いまわしていたのに……

まあ、仕方ないと割り切りますか（え

《TG ハイパー・ライブラリアン》

《フォーミュラ・シンクロン》

予想通り。

まあ、あれだけ暴れ続ければ引っかかりますよね

ライブラさんもTGチューナーとか付いていれば少しは落ち着いたであろうに……

フォーミュラは仕方ないですが……

個人的影響としては無問題ですね。両方1枚しか所持していませんので！

やっぱりシンクロブレーキかな？ これ？

《デブリ・ドラゴン》

《ローンファイア・ブロッサム》

クイダンが……… 粹出来て良かったあああああ！！

これで今まで40枚に強引に詰め込んだせいで入れることのできなかったカードを入れられて万々歳ですね〜

ドラグニティのデブリは痛いですが……

そういえば友人にデブリを愛用していた人がいたけれど、その人も大打撃かな……

さて、ドラグの方も1年振りに再調整にしますか〜（え

《マインドクラッシュ》

あれ？ ハンデスが……

まあ、今の時代サーチしたカードを潰せたりした方が美味しいですからね〜

そこまで私は危険視しませんね。

寧ろ喜ぶと思います（え

《リビングゲテッドの呼び声》

何で帰ってきたのでしょうかその2

普通に色々と悪用できそうですよね〜これ。

ファルコンとか、雷神鬼とか……

雷神鬼と言えば、流星キラリさんの小説の雷神鬼怖かったな〜（今関係ないだろ

《召喚僧サモンプリースト》

個人的には嬉しいの一言に尽きますけれど、明らかにエクシーズ推奨の為としか思えない

レベル4のエクシーズか。私はエクシーズを使ったことも持ったこともないので粗方スタバ並べの強化に使ったりですかね……

《氷結界の虎王ドウローレン》

氷結界はトリシューラしか使わない（トリシューとグング以外  
氷結界を持っていない）のでよく分かりません（え

《デステニー・ドロー》

何か悪い事をしそうな予感がしますね……

気のせいだといいいのですが……

《光の護封剣》

ロツク強くしたいの？ 573。

今のままの罫でも十分に強いと思えますよ

今回嵐戻るから絶対とは言えませんが……

カウントダウン作るのかな……

《トラゴエディア》

あれ？ シンクロを規制したのではないの？

やっぱりレベルを調整してからのエクシースというエクシース推奨カードでしょ、こいつ。

てか、何で戻ってきたの？ その3

あと考えられる点としては開闢無双を抑制でしょうかね？

《ネクロ・ガードナー》

やっぱりロック強化？ もしくは開闢の暴走を抑制と言ったところでしょうか？

開闢の最初の攻撃を止めれば十分に戦えますからね。私としては嬉しい限りです。

《裁きの龍》

なんで帰ってきたの？ その4

一応召喚成功時の起動効果に対する優先権の撤廃によって処理するのは簡単になりましたけれど、それでも強いですよ？ こいつ。1000ライフでぶっぱ。

今後ぶっぱか、ロックの2択になるのでは？（今でもそんな気がしてなりません……）

《魂を削る死霊》

なんか鬱陶しいの帰ってきたな

やっぱり開闢抑制？

裏でも除外できるから意味ない気が……

そう考えるとロック？

何か怠いなあ〜

### 《オーバードロード・フュージョン》

なんで帰ってきたのでしょつかその5

1キル流行らせたいの？ 巨大化と一緒に……

まあ、未来融合制限のままだから気にならないかな。使わないし  
(え)

### 《巨大化》

使わないけれど、Dが強くなるのかな〜装備魔法だし

あとはやっぱり大逆転？

開闢無双のお助けアイテムな気がして仕方がない

### 《グラヴィティ・バインド - 超重力の網 - 》

やっぱりロック推奨でしょ。

ロック嫌いだから作らなかつたけれど、いい加減意地張るの止めようかな……

### 《ゴッドバードアタック》

今回の改定の中で最も嬉しい。

BFのとばっちりでドラグが打撃を受けていたので戻ってきてよかったです。

尚の事ドラグの調整頑張らないといけないようですね。

と、途中から怠けて書く量も激減して怠くなったけれど、自分の考えを整理できた点は良かったと思いますね。

さて、最後に今回の制限改定を漢字一文字で表してみます。

ズバリ、

です。

開闢にしてもロックにしてもトリアウマやら嫌いな戦法やらで怠い  
ですね……

憂鬱です……

もうデュエルするの止めようかな……



### 35話：戦慄のエンブレイループ 前編（前書き）

大学の制作活動に行き詰った時に執筆していたので投稿が遅れました。

ついでに偶には題名から話の内容を推測できないようにしてみました

まあ、前話で次回の予告をしているので少しは分かる方もいるかもしれませんが……  
では始めます。

遊璃『……今回の最強カードは……なしよ!』

瑞波『なんと!? じゃあ、今回はデュエルがないのか?』

遊璃『ええ、まあ、多分ね。でも今回は暗い話だそうよ』

瑞波『へえ〜』

因みに今回デュエルは一瞬だけありますが、まだ効果を公開する訳にはいかないのです。  
諸注意としてアビドス出番少ない上に性格が変です。ご注意ください。

では今度こそ35話の始まりです。

### 35話：戦慄のエンブティーループ 前編

side yuri

《首領・ザルグ》と万丈目君との決戦が行われた翌日、大徳寺先生の授業で私達は古代エジプトに伝説のデュエリスト 武藤遊戯や海馬瀬人のような人物……アビドス3世がいたとの講義を受けた。

大徳寺先生曰く、彼は生涯無敗の伝説を残し、デュエルの神と呼ばれた少年王だという。

遊城君と万丈目君と丸藤君はそれを聞くと騒ぎだし、結果大徳寺先生に居残り掃除を任された。

まあ、自業自得よね……

そして講義が終わり、私は真っ直ぐブルー女子寮に帰ろうとした。

「ん？ 何かしら？」

……しかし、私は突如胸騒ぎを覚えた。

振り向いてみると何も無い。何も無いが、それを感じた方向は立ち入り禁止の特待生寮。

雪乃が最後に姿を消した場所だ。

「……もしかして！」

そして胸騒ぎの赴くまま、私は立ち入り禁止の特待生寮の方へと向かった。

……前に来たときは暗かったから不気味だったけれど、まだ夜に

は少し時間があるからそこまで酷くはないわね。

私は安易にそう考えていた。

まさか、急に周りが暗くなり、地面からミイラが這い出てくるとは思わなかったから……

遊戯王GX 蟹と魔女の娘 - 35話：戦慄のエンプティール

プ 前編

「ウオオオオオ……」

「グオアアア……」

「ウウウウウ……」

私の目の前に3体のミイラが現れ、呻き声を上げながら私へと迫ってくる。

……でもこのミイラどこかで見覚えがあるわ。

えっと、確か……

そうよ！ 《さまようミイラ》だわ！

《さまようミイラ》：ATK/1500

《さまようミイラ》：ATK/1500

《さまようミイラ》：ATK/1500

攻撃力1500なら……

『（ミリトウム、毎回で悪いけれどもお願い！）』

「（御意）」

私の念話に応え、《ドラグニティ・ミリトウム》が私の前に姿を

現す。

《ドラグニティ・ミリトゥム》：ATK/1700

「ウオオオオオ……」

「グアグオウウ……」

「ウワアウウウ……」

私の前にミリトゥムが現れたことで3体のミイラは動揺し、一瞬隙が出来る。

そこをミリトゥムが1体を持っていた短剣を投擲して破壊し、もう1体をもう片方の手に持っていた刀で切り裂いたわ。

それによって2体のミイラが土に還った。

どうやらミイラらしく復活ではなく、カード効果のように不死身ではなさそうね。

さて、ミリトゥムはと言うと、残った《さまようミイラ》と対峙していた。

先程と同じように隙を見せれば簡単に屠れるのであるが、3体の目の中には全くそれが見当たらない。

ミリトゥムもそのせいで攻めあぐねているらしい。

戦局は拮抗しているように見えた。

だが、その拮抗も長くは続かなかった。

「グオオオオオ……」

残った《さまようミイラ》が一際高い呻き声を発すると、急に体が巨大化し始めた。

……いや、別のモンスターに変わったと言っべきかしら？

なんせ先程の《さまようミイラ》とは違い、太った体系に腐った

包帯。そして一番違つのが斧のような武器を持っている事であった。

《ジャイアントマミー》：ATK1700

「ウオオオオオ……………鍵ヲ……………ヨコ……………セ」

そうして現れた《ジャイアントマミー》は呻き声以外に声を発し、ミルトウムに襲い掛かる。

鍵？ という事はこのミイラはセブンスターズ！？

私の脳裏に1つの可能性が浮かび上がった。だが、それを確かめるためにもここを突破しなければ……………

私は再び視線をミルトウム達に戻した。

「ウオオオオン……………鍵……………ヨコセ……………グオオオオオ……………」

「クツ……………ハア！」

《ジャイアントマミー》の猛攻に、ミルトウムも反応しカウンタ―で切りつけるのだが、《ジャイアントマミー》の守備力は2000。

一向にダメージを与えられそうにない。

ならミルトウムの精霊の力を使って私もミルトウムのサポートカードを使えば……………

私はそう思つてデュエルディスクを起動し、デッキの中の2枚のカードを取り出した。

『魔法カード《竜操術》！ 続いてミルトウムに《ドラグニティ・アキュリス》を装備！』

……………結果は予想通り。ミルトウムの後ろに赤い体の小さな龍がサポートする形として現れ、ミルトウムの攻撃力をアップさせた。

《ドラグニティ・ミリトゥム》：ATK/1700 2200

しかしミリトゥムは……

『主！ 今精霊の力を使つては……！』

「グオオオオオ……」

「鍵………ヨコセ……ウワアウウ……」

ミリトゥムの声を最後まで聞く前に私の背後で新たな呻き声が出た。

咄嗟に振り向くと、新しい《さまようミイラ》が何体も現れ、私の背後を取っていた。

「………主！」

ミリトゥムが《ジャイアントマミー》を力押しで切り裂いて私の方に移動してきたが、もう遅い。

私の意識は突如現れた明滅する光によって奪われたからだ。

・

・

・

・

『……い！ 不……！ お………！』

ん？ 誰？ 私に声を掛けているのは？

ミリトゥムじゃないことは確かよね……

『ん、ううん……』

私は誰だか分からない呼びかけに対して目を開く。

するとそこには現在七星門の鍵を持っている人達

遊城君、

万丈目君、明日香。

そして既に鍵を失ってしまったけれど、持っていた人

丸

藤先輩。

それと何故かいる丸藤君がいた。

『……う、ううんは？』

まだ意識がぼんやりとする中、私は目の前の遊城君に問う。

『……分からない』

まあ、予想通りと言えばその通りよね……

こんなに金？ だと思われる足場を用意できる人も知らないし、

何故か月が近くに感じるわ。

そして、私はそれを把握すると共にミリトゥムの事を思い出し、

左手の起動されたデュエルディスクを見る。

………良かった。 3枚ともデュエルディスクにセットされた  
ままね。

私はその事に安堵し、ミリトゥムに心の中でお疲れ様と労い、 3  
枚のカードをデッキケースに戻した。

ジャーンジャーン

急に辺りに銅鑼の音が響き渡る。

その音に反応し、全員がその音の方向へと移動した。

……音のした場所の近くには王座があり、誰かが座っている。

『……………』

私たち全員が息を潜めていると、王座に座っていた人が顔を上げ、立ち上がった。

そしてそれに反応するが如く、遊城君が台座に登った。

『十代！』

明日香はそれを心配するような顔つきをし、名前を呼ぶ。

対する遊城君はそれを無視し、王座から立ちあがった人物に尋ねた。

『お前は何者だ！？』

するとその言葉に反応するかのようになり、その人物は歩を進めながら名乗った。

『余の名はアビドス3世。セブンスターズの1人だ。そなた達の持つ4つの鍵を貰い受ける』

アビドス3世？ 確か今日の授業でやった人よね？ 生涯無敗の伝説を成し遂げた人だったかしら？

……そんな人が相手とは……セブンスターズ、遂に本命を出してきたわね……

明日香達も何やら不安そうな声をあげる。

まあ、気持ちは分からないでもないわね。

『……………鍵を置いて逃げるのであれば今の内だ。……………さあどうする？』



アビドス3世は威圧感を醸し出し、私達に尋ねてくる。  
そして挑戦を受ける人が手を挙げた。

……私と遊城君である。

私の場合古代エジプトには無かったシンクロ召喚を使用できるからと言うアドバンテージがある。

私はそれに賭け、手を挙げた。遊城君が手を挙げた理由はよく分からないけれど、くだらなそうな事だけは分かるわね……

案の定、遊城君が挙手をした理由は

『俺、前からお前と1度デュエルしたいと思っていただけだ』

という、やっぱりか、セブンスターズやら三幻魔に関係ない理由だったわ。

明日香達も呆れる中、アビドス3世だけは動じていなかった。

そして、遊城君に対して言葉を発するのかと思ったら、アビドス3世は私の方を向き、

『で、そちらの女子おんなは……』

と言ってきた。

拙い、理由考えてなかったわ。

仕方がないので正直に……

『いえ、特に理由はありません』

と答えた。

『……無礼な。ファラオに向かって……』

『構うな!』

『ハッ』

私の曖昧な答えに、アビドス3世の側近らしき人物が、叱責するが、それをアビドス3世は一言で一蹴した。

そして、アビドス3世は私の方に寄って来た。

突然の事に慌てながらも少し首を傾げる。

『……汝、余と婚姻を結べ! ……これはファラオの命である!』

……え!?

余りにも突然の告白にその場にいた人達は皆凍りつく。

一方それを受けた私の頭の中は滅茶苦茶で阿鼻驚嘆のような様相を呈していた。

こんいん? コンイン? KONNINN? 婚姻って結婚?

ケツコン? けっこん。 KKKKONN! 血痕 ……最後

違う。

確かに年齢は16歳だから法律上は結婚できる年だけれど、まだ未成年だから親の同意が……

ってパパとママは未来だからここにはいないだった。という事は保護者代わりの海馬社長が?

あうあう、そんな事より、あつて数秒で告白して……心の準備をなしに……あうあうあうあう(強制終了)

プシュ……

私自身でも今の顔が真っ赤で頭から湯気が出たであろう事が容易

に予想できた。

しかし、体が動かせないわね。心の中は冷静なのに体はピクリともしないし……

私がそんな事を考えているとアビドス3世は私の手を引き、王座へと戻っていく。

『そうか嬉しいか。何、緊張するな。そなたは余に全てを任せておればよいのだ!』

『あうあう』

反論したいのに口からは小さな音しか出ない。

体に力が入らないことも相まって私はアビドス3世に引かれていった(手を引くという意味で)。

ふと視線が1瞬明日香達の方に向いたので視線で助けてと送ってみる。

『……………』

駄目だわ。完全に固まってる。

このままではどう足掻いても無理矢理アビドス3世の妃にさせられてしまう。

……………もう誰でもいい。私をこの場から助けて!

私は藁にも縋る思いで声が出ないので心の中で祈った。

・  
・  
・

まさかとは思ったが、それは見事に叶った。

突如、王座に黒い仮面を纏い、黒衣に体を包んだ人物が現れたわ。その人物は私の手をアビドス3世が握っている地点にカードを投げつけ、私と彼の繋がりを断った。

そして私にも止まらぬ速さで近寄り、お姫様抱っこの要領で抱えて私を遊城君の前まで運んだ。

その後、私に対して待てとでもいうように手を翳し、未だに手を痛めてそれを振っているアビドス3世に近づいた。

……それにしてもあの人。どこか懐かしい感じがする。

しかもさつき担ぎ上げられたときに……女の人のような感じがしたわ。

……もしかして……あの人……

しかし、極度のショックから急激に解放されたせいで、私の意識はそこまでしか持たなかった。

最後に見たのは、あの人……いえ、彼女がアビドスとデュエルを始め、1枚のカードを発動した光景であった。

そのカードの名は永久輪廻<sup>エンペティールブ</sup>……

・

・

・

・

そして翌朝。

私は自室で目を覚ました。

いつそこに私が移動したのかは分からない。

しかし、机の上に1つの書置きがあった。

『今夜、特待生寮地下決闘場にて待つ。 6人目のセブンスターズ』

と書かれていた。

一瞬、私の脳裏に昨夜私を助けてくれた人物が頭を過ぎるが、直ぐに頭を振ってかき消す。

セブンスターズ同士が仲間割れなんてあり得ないはずだもの……

私はそうやって自己完結し、その夜を待つのであった。

……T o b e c o n t i n u e d

### 新規登場カード

《さまようミイラ》

効果モンスター

星4 / 地属性 / アンデット族 / ATK1500 / DEF1500

このカードは1ターンに1度だけ裏側守備表示にする事ができる。

この効果を使用した時、自分フィールド上に裏側守備表示で存在する全てのモンスターを

シャッフルして、再び裏側守備表示で並べ替える。

《ジャイアントマミー》

効果モンスター

星5 / 地属性 / アンデット族 / ATK1700 / DEF2000

このカードは1ターンに1度だけ裏側守備表示にする事ができる。

裏側守備表示のこのカードを攻撃したモンスターの攻撃力が

このカードの守備力よりも低い場合、攻撃モンスターは破壊される。

エンブティールブ  
《永久輪廻》

オリジナル  
通常魔法  
効果不詳

### 35話：戦慄のエンブレイループ 前編（後書き）

Q&Aというより寧ろ突っ込みコーナー

・今回は短いな

すみません。これ以上長引かせると切るタイミングを見失ってしま  
うので……

・何かリアルファイトまでは行かないけれど、なにやっているの？  
偶にはミリトゥムの出番も増やさないといけませんし……

・《さまようミイラ》と《ジャイアントマミー》懐かしいな！

ですね！ ミイラと聞かれてすぐにこの2体が浮かんだので採用し  
ました。

・《ジャイアントマミー》はどうやって？

普通にアドバンス召喚ですね

・ミリトゥムの注意の真意は？

自分が大々的に精霊の力を使って敵をおびき寄せていたのに遊璃が  
使うことでそれが分散し、遊璃へもミイラが襲い掛かる危険があっ  
たからです。

・アビドス何やっとなじゃコオラ！

所謂一目惚れであり、職権乱用ですね。はい。

・軽くショートしている遊璃について

まあ、元々友達も少なく、恋愛なんて全く気にしていなかった子で  
すからね。アキのお陰で異性に対しては鈍感ではない為、耐性がな

くあんな感じになってしまった感じですよ。

・黒衣の人って誰？  
皆様の予想しているあの方ですよ

・カード投げたよ  
遊戯王世界ではカードで奇跡が起こりますからね。  
拳銃の撃鉄に挟んで発砲を封じたり、手に刺さったり、偽千年パズルを壊したり……

・永久輪廻でエンプティーループ？  
当て字みたいなものなので気にしないでください

・挑戦予告かい  
6人目の方は1人ずつ呼び寄せてデュエルをする方なのです。

今回の予告  
黒衣の人と黒衣の人のデッキがついに明かされる。  
絶望に満ちたループコンボを遊璃は崩せるのか？

最後に注意事項とお知らせ

黒衣の方の名前は“まだ出していない”ので“まだ書かないでください”  
無論予想は可能ですので好きにどうぞ。

あと200人ほどでユニーク30000になります。



ユニーク30000記念は依然活動報告で書いた通り流星キラリさんの小説

遊戯王GX〜青空の少女〜とのコラボとなります。

お楽しみに。

ではまた次回。

### 36話：戦慄のエンブティーループ 中編（前書き）

さて、少しずつ大学の課題も完成に近づき、執筆時間がほんの少し増えました。

大学の課題を仕上げるのも楽しいですが、同時に怠くて仕方ない一面もあります……

まあ、これ以上続けると愚痴になり兼ねないので最強カードに移りますね。

遊璃『今回の最強カードはこのカード！』

エンブティーループ  
《永久輪廻》 - ???? -  
オリジナル  
通常魔法

???

遊璃『えっ！？ 効果が分からない……』

瑞波『どうということだ？』

戒鴛『本編を見て確かめろという事だ』

瑞波『そんな適当でいいのかよ……』

という訳で最強カードは謎に包まれた永久輪廻でした。  
効果の程は後程。

ではでは36話始まりますよ

### 36話：戦慄のエンプティールプ 中編

side yuri

アビドス3世に求婚され、あたふたしながらも突如現れた黒衣の人物に助けられた私はその場で気を失ってしまった。

次に目を覚ましたのは自室であり、私は全てが夢だったのかと疑ったが、机の上にあった書置きで現実であったと理解した。

書いてあった内容は、今夜に私がタイタンさんとデュエルをした場所に来いという一言の文と差出人の名前 六人目のセブンスターズ。

私は、その6人目の人が昨夜私を助けてくれた人だと心のどこかで感じながらも、その可能性を否定するしかなかった。

そして、時は経ち夜。

私は明日香や瑞波に夕食はいらないと言い残し、ブルー女子寮を出た。

向かうは旧特待生寮、その地下デュエル場だ。

その中に何が待ちうけているのかは言うまでもないが、私はただ不安を感じつつもそこに向かうのであった。

遊戯王GX - 蟹と魔女の娘 - 36話：戦慄のエンプティール

プ 中編

旧特待生寮に着くまでこれと言って変わった事はなかったわ。

でも最後まで油断しちゃ駄目よ！ 昨日みたいな事もあるだろうし！

私はそう自分を引き締め、旧特待生寮に足を踏み入れた。

•

•

•

•

拍子抜けたとでもいうのかしら。

旧特待生寮の中でもこれと言って何もなく、私はすんなりと地下デュエル場まで来る事が出来た。

とは言ってもまだ入り口前。今は気を落ち着かせている所。

万が一昨日のような事になれば、何も出来なくなってしまう可能性もあるから……

……

……

うん、大丈夫。大分落ち着いたわ！

さて、早く用を済ませないとね。

いくら夕食はいらないと言ったとはいえ、いつ私がないという事が知れるか分からないし、

夜の間中に戻らないと罰則を受ける可能性が十分にあるからね！

私は意を決し、地下デュエル場へ足を踏み入れた。

•

•

•

『……………来たか』

私が地下デユエル場に足を踏み入れた途端に部屋に重々しい男性の音が響く。

私は昨日助けてくれた黒衣の人物が女性のような感じがしたからか、他人でよかったと安心しながらも口を開いた。

『書置きの通りに来ましたよ。6人目のセブンスターズさん？』

カツカツカツカツカツ……………

私のその言葉に対し、突如部屋の中に靴音が響く。

だが、私には薄暗くその音の源を知ることとは出来ない。

そして足音が止まったと思いきや、急に部屋に蝋燭の明かりが灯る。

私は突然の明かりに目を瞑り、少しした後で目を開いた。  
すると目の前には……………

灰色……………いえ銀色の仮面の中央に目のようなマークを付けた仮面を被った人物がいた。

その人物の服装は暗めな物を基調としていた。

黒衣を纏っていないので確かな事は言えないけれど、目の前の人  
は昨日私を助けてくれた人。

でもさっきの声は男性の物だった。……………という事は昨日私は男の  
人に助けられたの？

……………でも昨日の感じだと女性の雰囲気を持っていた。だから目の  
前の人物はただ似ているだけよね!?

確証は持てないが、私はそう思うことで気持ちを落ち着かせた。

『ククク……戸惑っているな。不動遊璃よ』

『……べ、別に戸惑ってなんかいないわよ!』

嘘だ。私は今の指摘で先程落ち着けた気持ちを再び乱してしまっ  
た。

私はそれを隠そうと必死に虚勢を張る。

しかしそれも、次の言葉で崩れてしまった。

『……嘘は止めておけ。我には全てお見通しなのだ。そう、貴様と  
は何度も何度も会っているのだから……』

『ッ……嘘よ! 私、貴方のような人会った事ないわよ!』

これは本当。実際に目の前の人物に会った事はなく、見覚えもな  
かった。

すると仮面の男は再び笑いだし、仮面に手をやった。

『ククク……ならば見せてやろう。私の顔を……貴様が最期に拝む  
人の顔なのだからな!』

そう言うと、仮面の男は仮面を取り、顔を私に晒す。

途端私の頬に一筋の涙が零れ落ちた。

『……グスツ……ゆ、雪乃? 雪乃なの?』

なんと私に顔を見せた人物は、数か月前に姿を消し行方不明とな  
っていた私の親友 藤原雪乃だったのだ。

でも、先程の声は男性だった。どうしてなの？

『……分かる、分かるぞ。貴様の考えていることが！……貴様は我が貴様の知るこの者の声で話さない事を気にしているのだろうか？  
ククククク……』

悔しいけれど凶星。雪乃の顔をしているのに目の前の人は男の声を出す。

まるで別人のように……

『こいつを我から解き放つ方法を教えてもいいぞ！ 但し我との闇のデュエルに勝てたらなあ……』

雪乃を取り戻せるかもしれない。

でも、闇のゲーム……私か雪乃、負けた方どちらかが消える。

さっきの推測からすると目の前の人は雪乃の格好をしただけの偽物かもしれない。

でも、もし本物だったら……

私はその可能性を想像すると足が竦んでしまった。  
しかし、相手は待つてくれない。

『……沈黙は肯定と取らせてもらおう』

『えっ！？ ちょっと待つて！』

『問答無用！』

私が悩み続けている中、雪乃？ は仮面をいつの間にか被り直し、デュエルディスクを起動させていた。



私はそれに制止をかけようとするが、雪乃？ はそれを聞かなかつた。

なら私はデュエルディスクを起動させなければいい。  
そう思った矢先、

私のデュエルディスクが勝手に起動した！？

『……………どうして！？』

『クククツ……………貴様がデュエルを拒もうとする事など承知の上だ。  
だから我はこの闇のデュエルに仕掛けをしていたのだ』

『……………仕掛けですって？』

『そうだ。我の闇のデュエルが始まったと同時に我と一番距離の近いデュエルディスクが起動し、強制的にデュエルとなるのだ！』

なんてこと！ という事は私は最初から雪乃？ の術中に嵌っていたって事なの？

『ククク……………さあデュエルを始めようか。ルールは簡単。我か貴様の勝者が次へ進み、負けた者は……………これ以上言うのは止めておこう。女にはきつい事かもしれないから！ さあ始めるぞ！ デュエル！』

私の意思を無視してこのどちらかが消えてしまう闇のデュエルは幕を開けた。

不動遊璃：LP / 4000 VS ……：LP / 4000

\*注意：……………は遊璃が本当の正体を把握していない為、……………と

表記されています。尚正体が分かるまでデュエル中でも???と表記するのでご了承下さい\*

『私の先攻、ドロー！……ククク』

???は先攻を取りカードをドローした。

そしてそのカードを見るや否や不気味な笑い声を出す。

『……私はカードを1枚伏せ』

???の場に1枚の裏側表示のカードが現れる。

一体どんなデッキを使うの!? 私はまだデュエルをする気は起きないが、そんな事を考えてしまう。

雪乃が大変だと言うのにデュエリストの嵯峨は恐ろしいわね……

でも、昨日の記憶通りなら、エンブティールプ永久輪廻というカードを使うはずだけれど……

『我は手札よりエンブティールプ《永久輪廻 - 煉獄の呻き声》を発動。このカードは発動された時、墓地へと送られる。……ククク、ターンエンドだ』

発動したカードは効果を発揮せずに墓地へ送られた。

もしかして墓地にあると効果を発揮するカードかしら?

私はこの時、ブルー女子寮を出る前に明日香達に少しでも情報を得る事をしなかった事を悔いた。

お陰で相手の狙いが全く分からない。

それにモンスターを召喚しない理由も気になるわ。

??? : LP / 4000

モンスター : なし

魔法・罫 : 伏せ x 1枚

手札：4枚

フィールド：なし

適用効果：なし

とはいってもいつまでも悩んでいては、相手のペースに飲まれるだけ。

でもデュエルをする気にはならないわ。

ターンが周ってきてても私がプレイしないのを見ると????は口を開いてきた。

『……やる気がないのであれば再び私のターンとするのもいいが、それでは面白くない。貴様の苦しむ姿は実に画になりそうだ。……そこでだ。貴様がターンを放棄する度にこの者の腕や足などの各部位を消し去ってやるのか?』

なんて卑劣な!

という事は私がこのままデュエルを進行しなければ、????のターンが周って来る度に雪乃が……雪乃が……

偽物だったとしてもそれは見たくない。

……とはいっても、今のあれが雪乃である可能性もいがめない。

2人共助かる方法がどこかにあるはず! ……だから私はそれをデュエルの中で見出す!

『私のターン、ドローカード!』

私は意を決し、カードを引き、そのカードを確認する。

良かった。今回は事故を起こしてはいなさそうね……

『私は手札から《溪谷の魔女》を墓地に送る事でその効果を発動するわ! この効果はデッキから「ドラグニティ」と名の付くチュー

ナーモンスター1体を手札に加えることができる!」

私は????がこの効果に対して何も応答しないのを見て、何もチエーンがないと判断した。

その為、デッキサーチ機能を起動し、1枚のカードをデッキから手札に加える。

「私は《溪谷の魔女》の効果で《ドラグニティ・フアランクス》を手札に加える! ……更に《調和の宝札》を発動! 《ドラグニティ・フアランクス》をコストに2枚のカードをドロウする!」

「フンツ! 好きにするがいい」

言ったわね!? 目に物を見せてさつさと雪乃を助け出す方法を聞かせてもらおうよ!

私は次に使うカードを間違えないように手札を確認し、1枚のカードを手に取り、そのままデュエルディスクにセットした。

「……そして《ドラグニティ・ドウクス》を召喚!」

セットしたカードがフィールドに現れ、中からモンスターが姿を現す。

姿を現したのは、白い羽織に指揮棒を持つ鳥人 《ドラグニティ・ドウクス》が徐々に私の場に出現した。

《ドラグニティ・ドウクス》：ATK/1500

好きにしるってさつき言ったわよね?

なら好きなだけ暴れさせてもらいましょか。

『今召喚した《ドラグニティ・ドゥクス》の効果発動！ このカードの召喚に成功した時、墓地のレベル3以下の「ドラグニティ」と名の付くドラゴン族モンスター1体を装備する！ 《ドラグニティ・フアランクス》を装備！』

《ドラグニティ・ドゥクス》の後ろに隠れるように短い腕を顔の前でクロスした、頭に二又の槍を携える青い龍 《ドラグニティ・フアランクス》が姿を現す。

いつもは元気に出てくるのに今日に限ってどうしたのかしら？

まあ、今それを気にしても仕方がないわね。《ドラグニティ・ドゥクス》の効果も忘れるわけにはいかないしね！

『この瞬間《ドラグニティ・ドゥクス》の効果発動！ このカードの攻撃力は「ドラグニティ」と名の付くカードの枚数×200ポイントアップする！ 私の場には2枚の「ドラグニティ」がいる！ よって400ポイントアップ！』

《ドラグニティ・ドゥクス》：ATK/1500 1900

問題はここから。

好きにしろとは言われたけれど、必ずしも全てを通してくれるわけじゃないはず。

となると考えられるのは攻撃反応系か召喚反応系。

前者であれば攻撃するまで分からないけれど、後者であれば《ドラグニティ・ドゥクス》が召喚されたい点で発動されているはず。

でなければ、そのまま攻撃されたらダメージを受けるしかないもの……

となるとあの伏せカードは攻撃反応系だと思う。

しかし、攻撃反応系にも色々あるから本当に攻撃してから出ない

と分からない。

となれば、アドバンテージ損覚悟で大きい攻撃力を狙う！

『装備カード状態の《ドラグニティ・ファランクス》の効果発動！  
装備状態のこのカードを特殊召喚する！ 私はこのカードを守備  
表示で特殊召喚！』

《ドラグニティ・ドウクス》の後ろに隠れていた《ドラグニティ  
・ファランクス》が先程とは違う……とても張り切った様子を見せ、  
フィールドに飛び出した。

《ドラグニティ・ファランクス》：DEF/1100

……そしてこれにも???が反応を示さない。

まるでさつさと続けるとでも言わんばかりに……

ならここまで来たのだし、一気に行かせてもらおうよ！

『レベル4《ドラグニティ・ドウクス》にレベル2《ドラグニティ  
・ファランクス》をチューニング！』

私がいつものように指示をすると《ドラグニティ・ファランクス  
》はその身を2つの輪と変え、《ドラグニティ・ドウクス》は4つ  
の星となってその中を駆け抜けた。

+            ||            x 6

『秘境の竜騎士が魔槍を携え戦場を駆ける。戦場を鎮める風となれ  
』！

私がシンクロ召喚の口上を述べると、収束した2つの輪と4つの

星を中心に1筋の光が突き抜けた。

『シンクロ召喚！ 推参！ 《ドラグニティナイト・ゲイボルグ》  
』！』

その光が一気に弾けると、私の場に《ドラグニティ・ドウクス》  
のような竜騎士を乗せている白い胴長の龍が強力な風を伴いながら  
現れた。

《ドラグニティナイト・ゲイボルグ》：ATK/2000

恐らく伏せカードは攻撃反応系だとしても、このまま臆したまま  
では突破口は開けないから、このまま攻撃に移るわ！

『バトル！ 《ドラグニティナイト・ゲイボルグ》で？？？に直接  
攻撃！ イーヴィルツインランス魔槍双突！』

私の命令に対し、《ドラグニティナイト・ゲイボルグ》は一気呵  
成にと魔槍を振り回し、？？？へと襲い掛かった。

しかし、その槍は寸での所で現れた黒っぽい渦に弾かれ、その渦  
は隠していたであろう触手のような物体を使い、《ドラグニティナ  
イト・ゲイボルグ》を捕える。

『……ククク、我はこの時を待っていた。永続罫カード《招かれし  
災禍》さいがを発動！ 自分の墓地に存在する「永久輪廻」と名の付くカ  
ード1枚をゲームから除外する事で相手モンスター1体の攻撃を無  
効にし、そのモンスターの元々の攻撃力の半分の数値分ライフポイ  
ントを回復する。その後、次の貴様のターンのドローフエイズ時ま  
でそのモンスターの元々の攻撃力は半分となる。我は《永久輪廻・  
煉獄の呻き声》を除外する』

『クツ……《ドラグニティナイト・ゲイボルグ》の元々の攻撃力は2000』

『ならば、その半分の1000ポイントのライフを回復し、《ドラグニティナイト・ゲイボルグ》の攻撃力も1000になる。』

その言葉と共に謎の物体から解放された《ドラグニティナイト・ゲイボルグ》であったが、ソリットヴィジョン立体映像でなければ息切れが絶えないほどであるう程に衰弱した様子であった。

それ故か攻撃力も格段に落ちていた。

《ドラグニティナイト・ゲイボルグ》：ATK/2000 1000

????:LP/4000 5000

私の速攻は防がれ、《ドラグニティナイト・ゲイボルグ》の攻撃力は半減し、相手のライフも回復させてしまった。

完全に私の作戦ミスだわ。私はこの結果を顧みてから迂闊に攻撃した事、雪乃を救う事にばかり気が行き、注意が疎かであった事を後悔した。

でも、やってしまった事は済んだこと。2度と繰り返さず、次に続けなければね。

私は残った手札5枚に目をやり、その中の2枚を選びデュエルデイスクにセットした。

『私は、カードを2枚伏せてターン終了』



遊璃：LP / 4000

モンスター：《ドラグニティナイト - ゲイボルグ》：ATK / 1000

魔法・罫：伏せ×2枚

手札：3枚

フィールド：なし

適用効果：次のターンのドローフェイズに《ドラグニティナイト - ゲイボルグ》の元々の攻撃力は元に戻る。

『フツ……私のターン！』

私がターンを終了すると同時に????が雪乃の体を使ってデュエルを進行し始める。

ドロウしたカードを見てから他の4枚の手札と照らし合わせ、3枚のカードを選出した。

『我は魔法カード《永久輪廻 - 絶望に染まる未来》を発動！このカードが発動された時、墓地へと送られる』

また発動しても意味のないカード……

一体永久輪廻ってなんなの？

『……時期に分かる』

しかも????は何もかも見透かしているような言動をしてくるし

……

本当に何を狙っているの？

『……カードを2枚伏せ《暗黒の扉》を発動し、私のターンは終了だ』

新たに????の場に2枚の伏せカードと不気味な白色の扉が現れたわ。

これでお互いにモンスターは1体でしか攻撃できない。

しかも????の墓地には「永久輪廻」があと1枚あるから《招かれし災禍》がもう1度発動できる。

もう1体モンスターを召喚しても攻撃できないから意味がない。

????:LP/5000

モンスター:なし

魔法・罫:伏せ×2、《招かれし災禍》、《暗黒の扉》

手札:1枚

フィールド:なし

適用効果:お互いにモンスターは1体でしか攻撃できない

私のターンだけれど、ここまで固められたら打つ手があまりない。装備魔法が多いから私のデッキには《大嵐》が入っていない事もそれを強調する。

でも雪乃を助けなければ……いえ、私と雪乃2人とも皆の所に戻るんだ。

『私のターン!』

私は気迫を込めカードをドローした。

……ドローしたカードを確認した私は心の中でひっそりと笑みを浮かべる。

『この瞬間、《招かれし災禍》の効果が切れ、《ドラグニティナイト・ゲイボルグ》の攻撃力は元に戻る』

衰弱していた《ドラグニティナイト・ゲイボルグ》が再び覇気を取り戻し、空中を旋回し始め、やがて私の場に着陸した。

《ドラグニティナイト・ゲイボルグ》：ATK/1000 2000

それ確認した私は今引いたカードをそのままデュエルディスクにセットした。

『魔法カード《シンクロキャンセル》！ 《ドラグニティナイト・ゲイボルグ》をエクストラデッキに戻し、その素材となったモンスター1組が墓地に存在すれば、そのカードを特殊召喚する事が出来る！ 私は《ドラグニティ・ファランクス》、《ドラグニティ・ドウクス》を特殊召喚！』

私の場の《ドラグニティナイト・ゲイボルグ》が光の奔流に飲まれ、その姿を2つの輪と4つの星に変える。

x 6 +

その後、2つの輪と星は私の場に2体のモンスターとなって消え去った。

《ドラグニティ・ファランクス》：DEF/1100

《ドラグニティ・ドウクス》：ATK/1500 1900

そして、私は残った3枚の手札の内1枚を引き抜いてデュエルディスクにセットする。

『続いてレベル4《ドラグニティ・ドウクス》にレベル2《ドラグニティ・ファランクス》を再チューニング!』

先程《シンクロキャンセル》によって再召喚された私のモンスター12体が再び2つの輪と4つの星となって重なり合い、一筋の光となる。

+                    ||                    x 6

『秘境の竜騎士が死に嘆く時、天より新たに雷槍を授かる! 戦場を鎮める風となれ! シンクロ召喚! 殲滅せよ! 《ドラグニティナイト ヴァジュランダ》!』

私が再び同じ素材のモンスターで呼び出したモンスターは先程とは違い、真澄色の龍に真澄色の鎧を纏った女竜騎士であった。そして召喚された竜騎士が上空……: ……といっても部屋の天井付近からゆっくりと降下しながら念話で話しかけてくる。

《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》: ATK/1900

「主、今度のセブンスターはどんな相手なのですか?」

『……(雪乃よ)』

「何ですと!?! あの主が良く話していた藤原雪乃という方ですか?」

『(ええ、そうよ。でも何かに操られているようなの。ねえ、何が原因だか分からない?)』

「……少々お待ちを」

念話でミリトゥムに簡潔に相手を伝え、原因を探ってもらおうよう私は頼んだ。

するとミリトゥムは見えないように精霊の力を行使し、それを実行しようとした。

『……無駄だ。精霊の力など効かぬわ!』

だが、???はそれを見越したように重々しい言葉を発する。それは真実でもあり、私に手がかりを掴ませる切っ掛けにもなった。

「申し訳ありません。あの者の言う通り、精霊の力が何かに疎外されています。原因は分かりませんが、恐らく操っている正体は精霊か何かでしょう」

『（………という事は、雪乃が精霊に操られてこのデュエルを強制されているって事?）』

私は念話の中でミリトゥムを捲くし立てながら問う。  
するとミリトゥムは一言

「その通りかと」

と返してきた。

つまり、雪乃に取り付いている精霊を何らかの方法で取り除けば雪乃が返ってくる可能性がある訳だ。

でもまだその時期ではない。

とにかく相手にダメージを与えて優位に立ってからならそれも可

能だと思っから。

だから雪乃、もう少しだけ我慢してね。  
そして……

『（ミリトゥム……ごめんなさい）』

「いえ、これも作戦の内。主の勝利の為全てを尽くしましょう」

私はこれからしようとしていることに対し、ミリトゥムに詫びた。  
そして手札のカードを新たに使用する。

その為にデュエルディスクの左端のフィールド魔法ゾーンを開いた。

……つと、その前に！

『……《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》の効果！ このカードのシンクロ召喚に成功した時、墓地の「ドラグニティ」と名の付くレベル3以下のドラゴン族モンスター1体を装備する！ 私は《ドラグニティ・ファランクス》を装備！』

私が墓地から1枚のカードを取り出し、セットすると《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》の背後に再び2又の槍を頭に取り付けた小さな青い竜がその姿を現す。

『クククツ……好きなだけ足掻くがいい。』

正直これだけ動けば何かしらしてくると思ったのだけれど、何も無いのかしら？

その疑問が更に私を悩ませる。

でも今は進めるだけ進むしかない！

私はデュエルディスクのフィールド魔法ゾーンをもう1度開きな

がらそう思った。

『手札からフィールド魔法《復興の渓谷》を発動！ このカードの効果はフィールド上の鳥獣族またはドラゴン族のモンスターの攻撃力を300ポイントアップする！』

薄暗かった地下室が、緑に覆われた《竜の渓谷》へと変わり、辺りに竜の咆哮が響き渡る。

その加護を受け、《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》が力を得た

《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》：ATK/1900  
2200

『フン！ 我の場にはお互いにモンスター1体でのみ攻撃を可能とする《暗黒の扉》と攻撃を無効にする効果を持つ《招かれし災禍》がある。いくら攻撃力を上げようと無駄な事だ』

『……ならその隙を突けばいい！』

『！？』

『私は《復興の渓谷》の効果により、墓地の《渓谷の魔女》を除外し、手札の《ドラグニティアームズ・レヴァテイン》を墓地に送る事で、デッキからカードを1枚ドロし、《復興の渓谷》にドラグニティカウンターを乗せる！』

私の場に薄緑色の髪の毛のママに似たモンスター《渓谷の魔女》が現れ、光となって消える。

それを見届けてから手札のモンスターを墓地に送り、カードを1

枚ドローした。

同時に《復興の渓谷》にカウンターが1つ乗る。

《復興の渓谷》：ドラグニティカウンター/0 1

『墓地の《ドラグニティアームズ・レヴァティン》の効果発動！  
自分フィールドの「ドラグニティ」と名の付くモンスターを装備したモンスターをゲームから除外する事でこのカードを特殊召喚する！  
……私は《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》を除外！』

私が墓地から《ドラグニティアームズ・レヴァティン》のカードを取り出しながら宣言すると、《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》は光の粒子となりながら消え去り、装備カード状態であった《ドラグニティ・ファランクス》もその後を追うように消えたわ。  
ミリトゥムには悪いと思うけれど、これが現時点でできる最大の策。

私はそう思っただけ先程墓地から取り出したカードをデュエルディスクにセットすると、私の場に真澄色の翼に真澄色の尻尾を持つ巨大な龍が一際大きな咆哮をあげながら舞い降りた。

《ドラグニティアームズ・レヴァティン》：ATK/2600

『そして特殊召喚した《ドラグニティアームズ・レヴァティン》の効果発動！ このカードの特殊召喚に成功した時、墓地のドラゴン族モンスター1体を装備する事が出来る。……墓地から《ドラグニティ・ファランクス》を装備！』

私の言葉に応じて、《ドラグニティ・ファランクス》がフィールド上に現れた。

そしてこれに対しても謎の精霊は反応を示さない。



私にとってこれは途轍もなく不気味に思えて仕方がなかった。

……でもやれるだけやる！ この状況を作り出す為に犠牲となったミリトウムの為にも。今日の前で苦しんでいるであろう雪乃の為にも！

……その気持ちで不気味に思っ止まりそうになった気持ちを鼓舞し、何とか動かす。

『《ドラグニティ・ファランクス》の効果を発動し、このカードを特殊召喚する！』

《ドラグニティ・ファランクス》が私の指示に従ってフィールドに出てきた。

《ドラグニティ・ファランクス》：DEF/1100

『……クククツ。性懲りもなくシンクロ召喚か。貴様にはそれしか芸がないのか？』

今まで意味の分からない行動しかしていない貴方に言われたくないわね！

私は心の中でそう思いつつも、ここで何か言ってしまうとそれこそ相手のペースに飲まれると判断し、それを抑えた。

その後、エクストラデッキから1枚のカードを取り出して宣言した。

『レベル8《ドラグニティアームズ・レヴァティン》にレベル2《ドラグニティ・ファランクス》をチューニング！』

私がいつものようにシンクロ召喚の為の前台詞を言うと対象となったモンスターが飛び上がり、シンクロ召喚の準備にかかる。

《ドラグニティアームズ・レヴァティン》は体を擦らせながら8つの星に、《ドラグニティ・ファランクス》はその周りを飛びながら2つの輪に変化する。

+                                   ||                                   x 10

『秘境の奥に封ぜられし厄災の龍。今、長き年月を経て、秘境の龍達と共に立ち未来への道を開け！』

私がここまで言った時、

……ドグオオオオン

《復興の渓谷》の立体映像の端に見える火山地帯辺りで轟音が鳴り響いたような気がした。

『シンクロ召喚！ 破壊せよ！ 《トライデント・ドラギオン》！』

『！』

そして轟音が響いたのであろう場所から、真っ赤に染まった胴体に、3つの首を持ちその其々が禍々しい顔を持ち炎を吐き続ける龍が飛来し、私の場に着陸した。

《トライデント・ドラギオン》：ATK/3000

これこそが今の私に出来る精一杯の事。

このカードを使えば、あの畏カードを突破できる！

『シンクロ召喚した《トライデント・ドラギオン》の効果発動！ このカードのシンクロ召喚に成功した時、自分フィールドのカードを2枚まで破壊し、破壊した枚数だけこのターン《トライデント・

『ドラギオン』は通常の攻撃とは別に攻撃する事が出来る！』

『……………！？』

謎の精霊はそれに対して一瞬……一瞬だけど反応を見せた。

まるでダメージを負うことを恐れるかのように……

それを見た瞬間私は何が何でもダメージを与えてやる！ そう思った。

……………それと同時にこの効果で破壊するカードも決めた。

『私が《トライデント・ドラギオン》の効果で破壊するのは《復興の渓谷》と私から見て左側の伏せカード！ 行け！ トライ・デストロイ！』

『……………』

謎の精霊はやはり何も反応しない。

それを見たのか《トライデント・ドラゴン》は3つの口の内、2つから灼熱の業火を吐き出し、2枚のカードを破壊したわ。

それと同時に私は破壊されたカードの効果を使う為に墓地に送ったカードを再び手に収めた。

『そして破壊された《復興の渓谷》の効果発動！ このカードがフィールドから離れた時、このカードに乗っていたカウンターの数までゲームから除外されているモンスターを墓地に戻す！ この効果で私は《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》を墓地へと戻す』

私はゲームから除外したことでデッキケースの中に入れておいた《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》のカードを墓地に置く。

それを無事に見届けた後、私はすぐに攻撃宣言を行った。

『続いてバトルフェイズ！ 《トライデント・ドラギオン》でプレイヤーに直接攻撃！ トライデント・ヴォルカノンバースト！』

《トライデント・ドラギオン》の1つ目の首が灼熱の業火をまき散らし、攻撃を開始する。

『……ならば、《招かれし災禍》の効果を発動。私の墓地から《永久輪廻 - 絶望に染まる未来》を除外し、攻撃を無効にし、そのモンスターの方々の攻撃力の半分のライフを回復する。そして攻撃モンスターの方々の攻撃力を次の貴様のターンまで半分にする』

謎の精霊が再び《招かれし災禍》の効果が発動すると、《トライデント・ドラギオン》の攻撃の直線状に黒っぽい渦が現れ、攻撃を弾く。

同時に触手のような謎の物体が《トライデント・ドラギオン》に巻きつき、そのエネルギーを奪った。

謎の精霊：LP / 5000 6500

《トライデント・ドラギオン》：ATK / 3000 1500

…… 《トライデント・ドラギオン》、負けては駄目。貴方にはあと2回の攻撃が残っているのだから！

『攻撃力は下がったけれど、《トライデント・ドラギオン》には2回の攻撃が残っているわ！ 行け！ トライデント・ヴォルカノンバースト2！』

謎の物体に取り付かれて攻撃力を落とされた《トライデント・ド

ラギオン』だったけれど、残る2つの首にはまだエネルギーが残っていたようでそのエネルギーを溜める。

そして先にエネルギーを溜めた2つ目の首がその口から灼熱の業火を放つ。

……放った業火は謎の精霊へとぶつかった。

謎の精霊：LP / 6500 5000

『……』

『……まだよ！ 《トライデント・ドラギオン》で3回目のバトル！ トライデント・ヴォルカノンバースト3！』

やつとの事で攻撃のエネルギーを溜め終えた3つ目の首の灼熱の業火が謎の精霊へ放たれ、そのまま直撃する。

謎の精霊：LP / 5000 3500

『……ぬっ』

『！っっ』

謎の精霊のライフポイントが4000になった瞬間、謎の精霊が一瞬呻き声を上げ、雪乃の体から一瞬だが黒い腕を露出したのを私は見逃さなかった。

きつと謎の精霊はライフポイントの残量で雪乃の体に取り付いている。

さっきまでダメージを受けても反応を見せなかったのは4000を下回っていなかったからダメージを受けていなかったからだわ！ 私の中に1つの確証が出来あがった。

しかし、次の言葉によって私は再び頬に涙を流す羽目となる。

『……クククツ……まさかライフポイントをここまで大きく削られるとは思わなかった。……しかしだ。我は対してダメージを受けていないが、貴様の親友はどうか？』

そう言いながら仮面を再び外すと、雪乃の瞳に光が戻っており、一言だが雪乃の声で言葉を発した。

『……お姉様、……痛い』

それを聞いた途端、私はその場に崩れ落ちた。

雪乃を開放する手段を見つけたからと言って、雪乃を傷つけたのは私。

決して許されることではない。

ごめんなさい、雪乃。ごめんなさい。

私は言葉に出ない分、必死に心の中で謝り続けた。

少し経った頃、再び謎の精霊の声が私の耳に入ってきた。

『……クククツ。これで分かっただろう。貴様が我にダメージを与えれば与えるほど貴様の親友が傷つくのだ。だから我にダメージを与えることは止めるのだな！ ハッハッハハハハハ！』

私はこれに対して何も言い返せない。

だって雪乃を気付付けずに開放する手段が思いつかないから。

そしてそのまま黙っていた私に一頻り笑い終えた謎の精霊が再び声を発した。

『さて、貴様のターンはまだ終わっていないはずだ。早くデュエル

を続けるがいい。……それとも何か？ このまま進行を放棄してこいつの体が切り刻まれるのを待つか？」

……それだけは駄目！

『……駄目に決まっているでしょ。……クツ……ターンエンド』

私は普段なら伏せるべきカードを手札に持っていたが、実質雪乃を人質に取られた状態ではそんな気も起きず、エンド宣言をするしかなかった。

『……ならばターン終了前にこちらから動かさせてもらう。畏カード《鳳翼の爆風》！ 手札を1枚捨て、相手フィールドにあるカード1枚を持ち主のデッキの1番上に戻す。戻すのは勿論《トライデント・ドラギオン》だ！』

『……！？ どうして私が攻撃した時とかに発動しなかったのですか？ そのカードならいつでも発動できたでしょう？』

『クククツ……勘違いされては困る。我はデュエルをしたいのではない。貴様の苦痛に悩まされた顔を見ただけだ。だからわざと貴様の行動は妨害せず、攻撃を通し、貴様の親友にも喋らせてやったのだ』

……最低だ。

こいつとことん腐っている。

そんな奴が雪乃に取り付いている。

それが私の心に影を差し、私は目を開けていられなくなった。

……そして私は見ていなかったが、《鳳翼の爆風》によって《ト

ライデント・ドラギオン』はエクストラデッキへと戻された。

『……まだだ。続いてエンドフェイズに罠カード《暴食》を発動！このカードの発動時デッキからカードを5枚ドロし、ドロしたエンドフェイズに手札が5枚以下であれば、デメリット効果を受ける。今はエンドフェイズだからすぐに効果を受ける。我的手札全てとデッキの上から5枚のカードをゲームから除外する。』

謎の精霊が再び何かを発動し、合計10枚のカードをゲームから除外した。

いつもの私ならきつと何か反応を返していただろう。

……でも、あの雪乃の顔。あれを思い出すだけで全てがどうでもよくなってくる。

何もする気が無くなってくる。

『……次のターン、本当の地獄を貴様に見せてやろう……』

謎の精霊の声が重くのしかかり、私の意識はシャットダウンした。

遊璃：LP / 4000

モンスター：なし

魔法・罠：伏せ×1

手札：2枚

フィールド：なし

適用効果：お互いにモンスター1体でしか攻撃できない

…… To be continued

\*新規登場カード\*



エンブティールブ  
《永久輪廻 - 煉獄の呻き声》  
オリジナル  
通常魔法

このカードは発動された場合、そのまま墓地へと送られる。  
このカードは墓地にカードを送ることが出来ない効果が適用されて  
いる場合も発動することが出来る。(ルール効果)

「永久輪廻」と名の付くカードを手札またはフィールドから発動す  
る場合、そのターンの間、他の「永久輪廻」と名の付くカードを手  
札またはフィールドから発動する事は出来ない。(ルール効果)

?????  
?????

オリジナル  
《招かれし災禍》  
永続罫

1ターンの1度、相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事が出来  
る。(起動効果)

墓地の「永久輪廻」と名の付くカードを1枚ゲームから除外する事  
でその攻撃を無効にし、そのモンスターの攻撃力を次の相手のター  
ンのドローフェイズ開始時まで半分にする。その後攻撃モンスター  
の元々の攻撃力の半分の数値分ライフポイントを回復する。

このカードが相手プレイヤーのカード効果によってフィールドを離  
れた時、このカードの効果を適用した回数×1000ポイントのダ  
メージを受ける。(誘発効果)

オリジナル  
《永久輪廻 - 絶望に染まる未来》  
通常魔法

このカードは発動された場合、そのまま墓地へと送られる。

このカードは墓地にカードを送ることが出来ない効果が適用されて

いる場合も発動することが出来る。(ルール効果)

「永久輪廻」と名の付くカードを手札またはフィールドから発動する場合、そのターンの間、他の「永久輪廻」と名の付くカードを手札またはフィールドから発動する事は出来ない。(ルール効果)

?????

?????

### 《暗黒の扉》

#### 永続魔法

お互いのプレイヤーは、バトルフェイズにモンスター1体でしか攻撃する事ができない。

### 《復興の渓谷》

#### フィールド魔法(タナトスさん投稿オリジナル)

フィールド上の鳥獣族とドラゴン族モンスター全ての攻撃力と守備力は300ポイントアップする

1ターンに1度墓地の鳥獣族またはドラゴン族モンスターを1体ゲームから除外し、

手札のモンスターカードを1枚墓地へ送り、デッキから1枚ドロースする。

この効果の発動に成功するたびに、このカードの上にドラグニティカウンターを1つ置く。

このカードがフィールド上から離れたとき、このカードの上に置かれていたカウンターを1つ取り除くことで、

このカードがフィールド上から離れる効果を無効とする事が出来る。この効果を発動しない場合、このカードの上に乗っているカウンターの数までゲームから除外されているモンスターを墓地に戻すことが出来る

《鳳翼の爆風》  
ほうよく ばくふう

通常罫

手札を1枚捨て、相手フィールド上に存在するカード1枚を選択して発動する。

選択した相手のカードを持ち主のデッキの一番上に戻す。

《暴食》

通常罫（タナトスさん投稿オリジナル）

デッキからカードを5枚ドローする。ドローしたターンのエンドフェイズに手札を5枚デッキの一番下にする。手札が5枚以下の場合、次のうち1つを選択する

手札の足りない枚数×400ポイントのライフポイントを支払い手札のカードをデッキの一番下にする

手札のカード全てとデッキの上から5枚をゲームから除外する

### 36話：戦慄のエンブテイループ 中編（後書き）

さて遂に姿を現した6人目。  
今回から雪乃話題も解禁です。

……なんて言つてられませんね！

どうしてここまで外道と言うか卑劣になったのか……

これだけで皆様からの感想の8割が予想できてしまいます。  
その内、処刑準備が7割かな？

まあ、いいですけどね。

ではそろそろ突っ込みコーナーに移りますのでまた次回！

・銀色の仮面って？

タイタンが被っていた仮面を想像していただければ幸いかと

・心でも読んでいるの？

いえ、雪乃の記憶の覗いているので遊璃の性格デュエルスタイル等  
殆どの点を熟知しています。

また、26話で雪乃がカミューラとのデュエルを何らかの方法で観  
戦していたように、遊璃のデュエルを何処からか観戦していて最近  
のデータも完備しています

・やっぱり雪乃か。予想通りで面白くないな

雪乃にしないルートもあったのですがね。

そうすると彼女の入るタイミングを完全に見失うので……  
捻りがなくてすみません。

・今回の闇のゲームのルール

明日香VSタイタン戦のように負けたらスライム擬きにごっくりです

・おいおい、強制的に始められるのかよ  
そうしないと遊璃デュエルしないでしょ

・発動したら何もなく墓地に送られるって……  
まあ、次回のお楽しみという事で。

・手足を消し去るなんて軽々しく言うなよ！  
こういう相手にしてしまったので……  
いろんな意味で申し訳ありません

・ゲイボルグ、不憫な子  
この小説で未だに攻撃を成功させていないのですよね  
可愛そうに……

・触手ww  
表現が思いつかなかったので……つい。  
もっといい表現方法が見つかり次第修正します。

・《暗黒の扉》と《招かれし災禍》でロックか  
まあ、そうなりますね  
遊璃がこれの隙を突いてくる事を承知の上でこのようなロックに  
しましたけどね。

・だからとらドラ出したのか。  
そうです。

とらドラのように複数回攻撃できればライフを削れますからね

・4000以下で分離し出すのか、でもそれを教えたら遊璃更にダメージ与えようとするのでは？

そうならないように雪乃の部分を出して間接的に脅迫したのですね  
あの卑劣な精霊は。

・しかも《鳳翼の爆風》をあのタイミングで発動させるし……  
彼の台詞通りとしか言いようがありません

・とことん卑劣で外道だな  
どこかの邪神を改悪したりカオエンで街破壊する人や、どこかのキングに消し炭にされた洗脳大好きな奴には劣りますよ（該当するお二方勝手に作品内容を書いてしまっって申し訳ありません）

・《暴食》強過ぎ。どうして修正要請ださなかったの？  
出したくても出せませんでした。  
タナトスさんの作品中で既に使用されていたカードだったので、修正不可でした。その為、今回だけ使われるであろうオリカシリーズの中に積み込みました。

・本当の地獄ってまだ地獄じゃなかったの？  
そうですね。

次回永久輪廻の真の効果が明かされます。

・永久輪廻、まだ？の部分があるけれど  
それも次回のお楽しみという事で

\*次回の予告\*

迫りくる永久輪廻の魔の手

雪乃を盾に取られ、デュエルを気力がなくなってしまうた遊璃はどうなってしまうのか!?

また雪乃は無事に元に戻るのか!?

37話：戦慄のエンプティールプ 後編 続く

### 37話：戦慄のエンブティーループ 後編（前書き）

さーて、謎の精霊に殺意を湧いた方って何人くらいいらっしやいますかね？

まあ、そんな細かい事項はおいておいてさっさと読ませる！ って気持ちの方も多いと思うのでさっさと始めます。

- - -

今回の最強カード！

#### 《溪谷の竜姫》

チューナー・効果モンスター（オリジナル）

星2 / 風属性 / ドラゴン族 / ATK800 / DEF1200

このカードを「ドラグニティ」と名のつくシンクロモンスターのシンクロ素材として使用する場合、他のカードは「ドラグニティ」と名のついたモンスターでなければならぬ。

このカードをシンクロ素材として使用する時、他のシンクロ素材は手札のモンスター1体でなければならぬ。

このカードはレベル7以上のシンクロモンスターのシンクロ素材に使用する事は出来ない。

このカードは「ドラグニティ」と名のつくシンクロモンスター以外のシンクロモンスターのシンクロ素材として使用することはできない。

この効果でシンクロ召喚されたモンスターはシンクロ召喚されたターンに攻撃宣言ができず、フィールドを離れた場合、自分はそのモンスターの守備力分のダメージを受ける。



遊璃『戎鴛曰く《エキセントリック・ボーイ》のような効果を持つ私のカード』

ミリ「攻撃力、守備力は低いけど、「ドラグニティ」のエースともいえるレベル6までのモンスターであれば手札のモンスターを代用できる」

遊璃『色々と縛りはあるし、シンクロ素材は正規の物でなければならず且つ、フィールドから離れた場合のデメリットがあるわ!』

ミリ「……だが、逆にそのシンクロモンスターを維持できれば強力なことこの上ないな!」

### 37話：戦慄のエンブティーループ 後編

（ファイルドのおさらい）

遊璃：LP / 4000

モンスター：なし

魔法・罫：伏せ×1

手札：2枚

ファイルド：なし

適用効果：お互いにモンスター1体でしか攻撃できない

謎の精霊：LP / 3500

モンスター：なし

魔法・罫：《招かれし災禍》、《暗黒の扉》

手札：0枚

ファイルド：なし

適用効果：お互いにモンスター1体でしか攻撃できない

ターン&フェイズ：謎の精霊・ドローフェイズ前

side yuri

6人目のセブンスターズに呼び出され、旧特待生寮に向かった私はその地下で6人目のセブンスターズでに出会う。

しかし、そこで会ったのは行方不明であった親友  
藤原雪  
乃であった。

そして雪乃に取り付いている謎の精霊と強制的にデュエルを始め

させられてしまう。

私がデュエルの進行を拒めば雪乃の体が傷つき、私が攻めても雪乃が傷つくように仕組まれたこのデュエル！

一体私はどうしたらいいの？

遊戯王GX - 蟹と魔女の娘 - 37話：戦慄のエンプティール

プ 後編

『くっ………』

私は俯いたまま唇を噛みしめる。

私が動いても、動かなくても雪乃が傷つく。

どうしたら！ …… どうしたらいいの！

…… 私はこの倒錯した感情の中、私の意識はブラックアウトした。

……

……

『……クククッ！ 意識を失ったか………』

『……こうなってしまったのなら、貴様の負けだ』

『……そして、貴女には依頼主の要請通り、アビドスに変わる闇のデュエリストとして生まれ変わって貰うぞ！』

ヤメテ！

私は何故か聞こえる声に反論する。

しかし、私の叫びは届かない。

でも、これでいいのかもしれない。  
また雪乃と立場は違っても一緒にいられるし……  
私の手で雪乃を傷つけてはいない。

そう考えて私は考えることも放棄した。

side out

no side

5分程時を巻き戻す。

遊璃が意識を失い、数分の時が経ち、謎の精霊も遊璃の様子を見て歓喜の声を上げた。

なんせただ一度宿主の声を聞かせただけで、対戦相手は気絶し、デュエルは自分の勝利で終わると思ったからだ。

その為に気を良くし、謎の精霊は遊璃を敗者の末路へと送り込もうと右手を翳した。

それにより、廃寮の地下から突然無数とも言える謎の生物が溢れ出てきた。

その生物は、遊璃が倒れている事を確認するや否や、遊璃に飛びかかる。

……しかし、それらは何者かによって弾かれた。

『何!』

謎の精霊もそれは予想外であったようで、驚愕の顔つきをし、そ

の原因を探る。

尤も、原因は言うまでもなくミリトゥムなのだが……

……そのミリトゥム、は両手に持つ長剣と短剣を組み合わせ、次々と謎の生物を屠っていく。

そう、次々次々次々……次々と。

その様子は精霊だからこそできる技であった。

それも長くは続かないのもまた通り。

孤軍奮闘を続けていたミリトゥムの背後に回るように謎の生物も動きを変える。

正面からだけでなく、全方向からミリトゥムと遊璃を襲えるようにする為だ。

ミリトゥムもそれを防ごうと更に動き回る。

しかし、いくら精霊でも1体で360°。全てを常に守り続けることは不可能だった。

……次第にミリトゥムの防衛の隙を掻い潜り、謎の生物が遊璃に取り付く。

それと同時にミリトゥムの実体化が解かれ、体が半透明になる。

「むっ！ ……くっ！」

ミリトゥムもその事態に一瞬驚きの声をあげるが、すぐに事情を理解し唇を噛み締めたような顔をする。

奇しくもそれは、遊璃が思考を放棄したのと同時であった。

実体化が解ける……いや強制的に解かれたというべきか。

ミリトゥムが防衛を続ける事を遊璃が拒否したのだ。

精霊は基本的に主の意志で存在する。

主が戦う意志を持っている限り力の限り戦う。

……という事はその逆も然り。

主が意志を失えば精霊も戦う力を失い、消えてしまうのだ。

さて、すっかりと説明のみになってしまったが、こうしている間にも謎の生物は遊璃を包み込み、闇の世界へと引きずり込もうとする。

ミリトゥムはそれを半透明のまま見続けるしかできなかった。

……

……

……

…

s i d e o u t

s i d e y u r i

ん？ ……ここは？

私は、周りが白一面の世界で目を覚ました。

『（確か、雪乃とデュエルをしていて……雪乃を傷つけたくないからと放棄したのよね？）』

私は、目を覚ます前の事を思いだしながら辺りを見回す。

だが、辺り一面白一色。

凹凸もなければ壁のような物もない、果ての見えない白の世界。

『……でも、この場所、なんだか懐かしい気がする』

私は、再びその景色を見て眩いた。  
そう、この場所は……

私が未来で落ち込んだ時に夢の中でよく来た場所。

そして、その都度私に勇気などを与えてくれた場所。

でも、どうして？

私は自らの意思で今回の選択をした。

別に……落ち込んだり、悲しい思いをしていたりしない。

もしかして………心のどこかでまだ諦めてない部分があるの!？

それならば、私は再び立ち上がるべきなのかもしれない。

でも大切な存在を傷つけてまでデュエルをしたくはない。  
ない。

……そんな時、私の耳に不思議な声のような音が聞こえます。  
こんな事、今までなかったのに……  
そう思いながらも私はその声に耳を傾けた。



『……………け！……………ダ……………ド……………ン！……………テ……………二……………ク！』

けダドンテニク？

何の事かしら？

でもこの声のような音もなんだか懐かしい。  
もう1度聞きたい。

私がそう思ったのを汲み取ってか、先程の声と違う言葉であったが、同じ人だと思っ声が、私の耳に流れ込んでくる。  
……………しかもさっきよりも鮮明に。

『ス……………ダ……………ドラ……………ン！ヴ……………ム……………ンクチュ……………！』

スダドラン！ ヴムンクチュ？

……………どこかで聞いたことのある様な言葉ね。

……………まあ、言葉の主は少しおいておいて、内容について考えましようか。

私は白い空間に座り込み、先程の声について考え出した。

『（最初のけダドンテニク。行き成りだったから余裕はなかったけれど、多分2度目のように間があったはず。……………でも、その間隔までは覚えていないから、先に2番目を考えましよう。）』

私は1度、1度目の音についての思考を切り、2度目の音を間も含めて思い出しながら口ずさむ。

『ス……ダ……ドラ……ン！　ヴ………ム……ンクチュ……！  
……こんな感じだったわね』

恐らく、最初のスタドランと1度目の音のダドンは音的に同じものを指していそうね……

それにドラ……ンから思いつくのは……デュエルモンスターズだとドラゴンかドラギオン？

……でもドラギオンならスタダはあり得ないわよね？

……という事はドラゴンの事かしら？

……でもドラゴンって色々あるわよね……

でも懐かしい声ということを考慮すると……

……と私が少しずつ推理しながら思考を重ねていくと、私の脳裏に1体のドラゴンの姿が浮かんだ。

……そのドラゴンは……

『……《スターダスト・ドラゴン》』

私の脳裏に浮かんだのはそのドラゴンだった。  
すると、同時に全ての謎が解けてくる。

最初の声は

『 (《スターダスト・ドラゴン》！ シューティング・ソニック！)

』  
と《スターダスト・ドラゴン》の攻撃名。

そして2つ目の声は……

『 (《スターダスト・ドラゴン》！ ヴイクテム・サンクチュアリ  
！) 』

…… 《スターダスト・ドラゴン》の効果名。

という事は……声の主はパパ？

その瞬間、何もなかった空間に1つの映像が流れ始めた。

その映像に映っていたのは、どこか見覚えの塔に対して攻撃をし  
続けているパパ。

……そして、ママ、クロウおじさん、ジャックおじさん、鬼柳お  
じさんに龍亞兄、龍可姉さんの姿。

皆何をしているの？

もしかして

私の脳裏に1つの可能性が浮かび上がる。

私が未来に帰れるように努力をしている？

そう思った瞬間、私にどうしても生き残らなければいけない理由が出来た。

……パパとママそれに皆に再び健康な私の姿を見せるといつ目的、  
そしてその理由が！

……ならここで諦めるのはまだ早すぎる。

私にはまだ、諦めきれない理由があるから！

その瞬間、私の周りの景色が歪みだした。

……

……  
……  
……

カッ！

私を覆っていた何かに反応するように私の周りに謎の光が溢れる。その光に押されてか、私を覆っていた物が私から徐々に離れた。……覆っていた物がなくなると、私の目前には戸惑う姿の謎の精霊がいた。

『……な、何故。何故貴様は平気にいる！』

『……私には、まだ……まだ負けられない理由が……あるのよ！』

私は、謎の精霊の言葉に対し、明確な意思を持って答えた。それに対して謎の精霊も狼狽えながら言葉を返してくる。

『……だ、だが、貴様が我にダメージを与えれば、我が憑代が傷つくのだぞ？』

私はその言葉に対して答えた。

『……確かにね……』

『フンッ！ 分かっているなら、我に攻撃はやめるのだな！』

……少し前の私なら確実に折れていたでしょうけれど、今は大丈夫。夫。

『でも、私が傷ついても雪乃が傷つくのは同じ事。……それに、私が敗れても雪乃は更に別の誰かと戦い、それ度に雪乃は傷つく事になる。……それこそ私には耐えられない。……だから、傷つくのは私だけで十分!』

私はこの世界で生き続けなければならない。

……パパやママ、他の皆と再び会う為に……

……その為にはこの場で雪乃を倒し、雪乃を救わなければならない。  
い。

……例えそれによって雪乃が私を拒絶しても、それはそれで構わない。  
ない。

……少し悲しいけれど……でも、一度親友になた雪乃を救い出す、それが今私がすべき事!

『……さあ、貴方のターンよ?』

私は決意を新たにし、雪乃……いいや謎の精霊と雌雄を決する事にした。

……私はそう考え、再びデュエルディスクを構えた。

そして、私が気絶する寸前にターンを終了した事を思い出し、相手に進行を促した。

『……ぬう……私のターン!』

謎の精霊は私の勢いに反応したのか、1度呻き声をあげてからカードをドロした。

だが、その様子もすぐに収まる。

それに対し、私も怪訝な顔つきをすると、謎の精霊は再び笑い声を上げ始めた。

『……クツクツク。貴様がそこまでデュエルを続行したのであれば仕方がない。我もそろそろ本気で相手をしてやるっ』

『……どういう事？』

私は謎の精霊の言葉に顔を顰め、少し思考を巡らすが、次のターンに地獄を見せる。という言葉しか思い当たらない。

ん？ 次のターンを……。

私は謎の精霊がその言葉を発した時の事を思い出した。

\*回想\*

『……まだだ。続いてエンドフェイズに罠カード《暴食》を発動！このカードの発動時デッキからカードを5枚ドローし、ドローしたエンドフェイズに手札が5枚以下であれば、デメリット効果を受ける。今はエンドフェイズだからすぐに効果を受ける。我の手札全てとデッキの上から5枚のカードをゲームから除外する』

\*回想終了\*

……あの時、私は雪乃の事に動揺し、反応できなかつたけれど、謎の精霊は意味のないタイミングでカードを大量に引き、その後、10枚のカードをゲームから除外した。

今思えば、謎の精霊のデッキの動きは不自然すぎる。

手札・フィールドで発動しても意味のない効果、そしてそれらを除外する事で効果を発揮する罠。

極めつけに大量のカードをゲームから除外する事。

これらから導き出される結論は……

『……除外デッキ。しかも、相手ではなく自分のカードを……』

『……フン、漸く気づいたか。……だが、もう遅い！　ハハハハハハ！』

私が結論をポロツつと口に出すと、謎の精霊はそれを肯定し、笑い出した。

それと同時に謎の精霊の目の前に深き闇が吹き出し、1枚のカードがその中から出てくる。

そのカードは……

『……《永久輪廻 - 煉獄の呻き声》』

そう、そのカードは謎の精霊が先行1ターン目に発動し、畏れカードの効果によって除外されたカードだった。

でもどうして今になって……？

私が疑問に感じていると、謎の精霊は漸く笑い声を潜め、説明をしてきた。

『《永久輪廻 - 煉獄の呻き声》の真の効果！　除外されたこのカードの上に10枚以上の「永久輪廻」と名の付いたカードが存在する時、このカードをデッキの1番上に戻す事で相手プレイヤーに800ポイントのダメージを与える！　このカードの上には、《永久輪廻 - 絶望に染まる未来》、《永久輪廻 - 闇の蜃気楼》、《永久輪廻 - 闇に帰する光》、《永久輪廻 - 明滅する威光》、《永久輪廻 - 忌むべき罪》、《永久輪廻 - 塗りつぶされた過去》、《永久輪廻 - 靈魂の苦痛》、《永久輪廻 - 黄泉と現世の天秤》、《永久輪廻 - 超克された死》、《永久輪廻 - 混沌の裁き》、《永久輪廻 - 墮落への誘い》の11枚のカードがある。……よって、800ポイントのダメージを食らうがいい！』



まさかの効果に私が驚きを隠せていないでいると、それは唐突に起こった。

私の足元から黒い瘴気と共に頭痛と耳鳴りが止まらなくなりそうな不快な音が響く。

『き、きゃ、やあああああ………』

遊璃：LP / 4000 3200

私はその音に脱力し、頭痛のする頭を抱えて膝から崩れ落ちた。それ程までに不快で強力な音……否、声だったのだ。

『クツクツク……「永久輪廻」の恐ろしさはまだまだこれからだ。

……我は更に《永久輪廻 - 絶望に染まる未来》を発動！ 除外されているこのカードの上に10枚以上「永久輪廻」と名の付くカードが存在する時、自分のデッキの上から3枚のカードをゲームから除外し、その後このカードをデッキの1番上の戻す』

頭を抱えた状態で薄らと見えたが、謎の精霊は《永久輪廻 - 煉獄の呻き声》をデッキに戻した直後、別のカード……《永久輪廻 - 絶望に染まる未来》を発動し、《永久輪廻 - 煉獄の呻き声》を含む3枚のカードをゲームから除外し、《永久輪廻 - 絶望に染まる未来》をデッキの1番上に戻したわ。

……これで謎の精霊の除外されている中で「永久輪廻」の真の効果を発揮できるのは最大であと4枚。

発動条件が厳しいだけに決まれば一気に動き出す。

一体次は何が……

私は次の事を考えつつ、まだ頭痛と耳鳴りのする中何とか立ち上

がった。

『ククク……立ち上がったか。それでないと面白くない。……………アビドス3世はこれだけで廃人と化したからな。ククククク……………』

謎の精霊は私が立ち上がった事に歓喜の声を上げ、アビドス3世に対して小言を零した。

『ウウ……………どういう事よ?』

当然私はそれが気になり、駄目元で聞いてみる。

すると、謎の精霊は笑うのを止め、《永久輪廻・煉獄の呻き声》を見せながらポツポツと語りだした。

『……………このカードは対象となった相手が恨まれていれば恨まれていく程、精神的ダメージが大きくなるカード。故にアビドス3世が本当に生きていた頃に裁かれた者共の恨み・妬み・憎しみが長年の間に積もりに積もった拳げ句、一気に襲い掛かったのだ』

……………確かに、アビドス3世は王だったはずだから、当然恨まれる事も多かったでしょうね。

加えて、生前から現代までかなりの時を経ているから尚更。

私は、いきなりとはいえ、求婚してきたアビドス3世に同情する。同時にそれを受けた私はそこまでダメージを受けなかった事に安堵した。

しかし、その安堵していた気持ちも長くは続かない。

『……………だが、安心するのはまだ早い。我は続いて《永久輪廻・闇の塵気楼》を発動。勿論このカードの上にも13枚のカードがある。故に発動条件は満たされている』

謎の精霊は3枚目となるカードが深き闇から姿を現す。

……それに加えて、先程の謎の精霊の言葉から推測するに先程除外されたカードは全て「永久輪廻」みたいね……

私は、次の効果に対する畏敬と、まだ続くのかと言う恐怖の感情に蝕まれる。

『……ククク、いいぞ、その顔。絶望に染まった貴様の顔は実にいい。……さて、このカードの効果は同じく10枚以上の「永久輪廻」と名の付くカードがこのカードの上に存在する時、デッキからカードを2枚ドロシーし、このカードをデッキの一番上に戻す』

「永久輪廻」3枚目の効果によって謎の精霊は2枚のカードをドロシーし、発動したカードをデッキの一番上に戻した。

これで謎の精霊の手札は3枚。

そしてまだ「永久輪廻」の効果は残っている。

私がそう思ったと同時に謎の精霊の目の前の闇から2枚のカードが沸き出た。

『次はこいつらだ。……《永久輪廻・闇に帰する光》、《永久輪廻・明滅する威光》！ 他の「永久輪廻」と同じくこれらのカードの上に10枚以上の「永久輪廻」が存在する時、これらのカードをデッキの一番上に戻す事でその効果を発動する。……まず、《永久輪廻・闇に帰する光》の効果により、貴様の手札と墓地のカード1枚ずつをデッキに戻し、シャッフルする。……さあ、手札1枚と《ドラグニティ ファランクス》をデッキに戻せ！』

『ッ……』

謎の精霊の発動したカードの効果によって、周りの明るい部分が

闇に包まれる。

そして、その闇が私の手札と墓地を蝕み、デッキに戻した。カードが戻ったデッキはオートシャッフルにより入念に混ぜられたわ。

それを見た私が歯を噛み締めた瞬間、今度は目の前が眩しく輝きだす。

それにより、私は咄嗟に目を瞑った。

『次は《永久輪廻・明滅する威光》の効果。自分のデッキからカードを1枚ドロし、デッキの1番下のカード1枚を墓地に送る。その後このカードをデッキの一番上に戻す』

私が目を瞑っていると私の耳が謎の精霊の声を聞き取る。

そしてデュエルディスクからデッキを外した音とカードを引き抜く音、最後にデッキをデュエルディスクに収める音が静かに響き、眩しく光っていた光が収まった。

光が収まったのを目を瞑ったまま感覚で掴み取り、私が目を開けると、それを確認した謎の精霊がプレイを再開する。

『フンツ……本来であれば次のカードも発動するのだがな。次のカードは今は意味をなさない。……われは手札より《永久輪廻・絶望に染まる未来》を発動し、そのまま墓地へ送る。……カードを1枚伏せ、ターンエンドだ』

謎の精霊の目の前に周りが墓場のようになった《未来融合・フューチャー・フュージョン》の絵柄の書かれたカードが現れ、そのまま墓地へと送られた。

その後、謎の精霊の場に新たな伏せカードが現れ、ターンが私へと回ってきた。

謎の精霊：LP / 3500

モンスター：なし

魔法・罫：《招かれし災禍》、《暗黒の扉》、1枚

手札：2枚（内1枚は《永久輪廻 - 明滅する威光》）

フィールド：なし

適用効果：お互いにモンスター1体でしか攻撃できない

除外ゾーンの「永久輪廻」の枚数：11枚

……ようやく私のターンだけれど、もう私にターンが回ってくる機会は殆どない気がする。

先程の手札0枚からのスタートだけで何度もカードを発動したのもので。

確実に手札がある今、次のターンで一気に決められる可能性が高い。

このターンで何か布石を打たないと……負ける。

『……私のターン！』

私は時間と共に再び続行する意欲の減る自らの体に鞭を打ち、カードをドロウする。

現在私の手札は2枚。

墓地に《ドラグニティ・フランクス》がない上、今の手札ではこれしか手はない。

『……私は、《天使の施し》を発動！ デッキからカードを3枚ドロウし、2枚を捨てる！』

『ぬう、ここでドロウカードか……』

私がこのタイミングで引いたカードは私のデッキにとって重宝される墓地肥しの可能なカード。

これによりカードを3枚引き、4枚となった手札を眺める。

……手札のカードは、

《鳥龍昇華》、《溪谷の竜姫》、《ドラグニティ・アキュリス》、

《ドラグニティ・アーチャー》ね。

ここから2枚のカードを捨てなければならぬけれど、今排除しなければならぬカードは……《招かれし災禍》と《暗黒の扉》の2枚。

それを可能にする為には……

私は次の事を考えて決断し、2枚のカードを捨てる。

そして残った2枚の内、1枚に手をかけた。

『《溪谷の竜姫》を召喚！』

私を手札に残したカードの1枚である、……美しいのはドラゴンの顔をしているから分らないけれど、ドラゴンの顔を持ち、羽衣を付けた人間の女性のような体つきのドラゴンが私の場に現れた。このカードこそこのデュエルで私が希望を託すキーカード。

《溪谷の竜姫》：DEF/1200

私の召喚したモンスターには謎の精霊は反応を示さない。

やはり、防御を《招かれし災禍》に頼っているわね……

『《溪谷の竜姫》の効果発動！ このカードをレベル6以下の「ドラグニティ」と名のつくシンクロモンスターのシンクロ素材として使用する場合、他のモンスターを手札から代用する事が出来る！

私は手札の《ドラグニティ・アーチャー》に《渓谷の竜姫》をチュ  
ーニング！！」

私は《天使の施し》によって残しておいたもう1枚のカードをシ  
ンクロ素材として使用した。

すると、《渓谷の竜姫》の羽衣が2つの輪を描き、その中に2体  
のモンスターが入り込む。

……そしてその2体を1本の火矢が貫いた。

+  
x 6

『灼熱の矢雨を降らす異界の弓士、熱風をその身に宿し、渓谷の新  
たな風となれ！ シンクロ召喚！ 放て！ 《ドラグニティガンナ  
ー・ノルマスト》！』

2体を貫いた火矢が羽衣に燃え移り、炎の壁と化す。

……少しするとその炎の壁から、両刃を頭に付けた紅の竜と手に  
西洋弓を携え、その竜に跨る竜騎士が現れた。

《ドラグニティガンナー・ノルマスト》：ATK/2400

そして、現れた《ドラグニティガンナー・ノルマスト》を指さし  
ながら、私は言い放つ！

『シンクロ召喚された《ドラグニティガンナー・ノルマスト》の効  
果発動！ このカードのシンクロ召喚に成功したとき、墓地に存在  
するこのカードのシンクロ素材として墓地に送られたカード1組を  
ゲームから除外することで、相手フィールド上に存在する魔法・罫  
カードを2枚まで除外します！ ……私はこの効果で《招かれし災  
禍》と《暗黒の扉》を除外！ 炎獄の矢陣！』

私は墓地の《溪谷の竜姫》、《ドラグニティ・アーチャー》をデ  
ツキケースにしまうと、指示された《ドラグニティガンナー・ノル  
マスト》が、手に持つ西洋弓に2本の火矢を携え、一呼吸で同時に  
放つ！

……その矢は寸分狂いなく《招かれし災禍》と《暗黒の扉》に突  
き刺さり、2枚のカードを燃やし尽くした。

更に《招かれし災禍》を燃やした炎は、何故か飛び火し、謎の精  
霊に襲い掛かる。

『ぐぬあああああ……』

謎の精霊：LP/3500 1500

『……どうしてライフが？』

『ああああ……《招かれし災禍》は相手のカード効果……に  
よってフィールドを離れたとき、コン……ゼエ……ハア……トロー  
ラーにこのカード……の効果を適用した……回数×1000ポイン  
トのダメージ……与える』

謎の精霊のライフが2000を切った影響かは分からないが、謎  
の精霊は息も絶え絶えになりながら私の疑問に答えてきた。

『……それよりも、雪乃は大丈夫なのでしょうね？』

私はまさか《招かれし災禍》にこのような効果があることは知ら  
ずにプレイしてしまったことに後悔の念を抱きながら、雪乃の安否  
を問う。



「……宿主がいなく……なれば、我も消える、運命……」  
不本意だが、今の一撃は我らが全て受けた……」

謎の精霊がすんなりと話した事に驚きながらも、私は心の中で安堵の溜息を吐いた。

……というか、先程の声を聞いていると 謎の精霊の声が何重にもなつて聞こえるわね。

……もしかして！ 謎の精霊が取りついた状態が解かれ始めている？

……私の脳裏に1つの可能性が浮かび上がった。

私はそれを思いつくと同時にミリトゥムに指示を出した。

『（ミリトゥム、恐らく今なら精霊の力も効くはず！ 雪乃から奴らを解き放つて！）』

「……仰せのままに」

私の指示に今度はミリトゥムが動き出す。

両手に持つ剣を交差して構え、雪乃の前に移動した。

「……どうやらこれが原因のようだな！ てえい！」

私には見えないが、ミリトゥムには雪乃に取りついている正体と、その原因が見えたらしく交差した剣を雪乃の頭上を切り裂いた。

……シュバツ！

何もないそこに何かが切れた音が響く。

「ぐわあああ……馬鹿なああああ……」

それと同時に謎の精霊の悲痛な悲鳴が響き渡り、雪乃の両脇に黒い瘴気が塊となって現れる。

そして、雪乃が力を失い、膝を立ててから倒れた。

『……雪乃！？』

私は、自然と体を動かし、私と雪乃の間を詰め、彼女をお姫様抱っこの要領で抱える。

図らずも先日とは逆の状況になった。

その後、私が2つの瘴気の塊から離れた場所に雪乃を運び終えたと同時に2つとなった塊となった瘴気が晴れる。

『ッ！？ 貴方達は！』

瘴気が晴れた先には私が知った2つの顔が存在していた。

……そう、

《天魔神ノーレラス》

《天魔王ジャミラ》

の姿が。

……To be continued

新規登場カード (効果が判明した永久輪廻を含む)

《永久輪廻 - 煉獄の呻き声》

オリジナル  
通常魔法

このカードは発動された場合、そのまま墓地へと送られる。  
このカードは墓地にカードを送ることが出来ない効果が適用されている場合も発動することが出来る。(ルール効果)

「永久輪廻」と名の付くカードを手札またはフィールドから発動する場合、そのターンの間、他の「永久輪廻」と名の付くカードを手札またはフィールドから発動する事は出来ない。(ルール効果)  
ゲームから除外されたこのカードの上に10枚以上の「永久輪廻」と名の付いたカードが存在する時、このカードをデッキの1番上に戻す事で相手プレイヤーに800ポイントのダメージを与える。  
?????

オリジナル  
通常魔法

《永久輪廻 - 絶望に染まる未来》

このカードは発動された場合、そのまま墓地へと送られる。

このカードは墓地にカードを送ることが出来ない効果が適用されている場合も発動することが出来る。(ルール効果)

「永久輪廻」と名の付くカードを手札またはフィールドから発動する場合、そのターンの間、他の「永久輪廻」と名の付くカードを手札またはフィールドから発動する事は出来ない。(ルール効果)

ゲームから除外されたこのカードの上に10枚以上の「永久輪廻」と名の付いたカードが存在する時、このカードをデッキの1番上に戻す事でこのカードの下にあるカードを3枚までゲームから除外する。  
?????

オリジナル  
通常魔法

《永久輪廻 - 闇の蜃気楼》

このカードは発動された場合、そのまま墓地へと送られる。

このカードは墓地にカードを送ることが出来ない効果が適用されている場合も発動することが出来る。(ルール効果)

「永久輪廻」と名の付くカードを手札またはフィールドから発動する場合、そのターンの間、他の「永久輪廻」と名の付くカードを手札またはフィールドから発動する事は出来ない。(ルール効果)

ゲームから除外されたこのカードの上に10枚以上の「永久輪廻」と名の付いたカードが存在する時、このカードをデッキの1番上に戻す事でこのカードの下に存在するカードを2枚手札に加える。

?????

#### 《永久輪廻 - 闇に帰する光》

オリジナル  
通常魔法

このカードは発動された場合、そのまま墓地へと送られる。

このカードは墓地にカードを送ることが出来ない効果が適用されている場合も発動することが出来る。(ルール効果)

「永久輪廻」と名の付くカードを手札またはフィールドから発動する場合、そのターンの間、他の「永久輪廻」と名の付くカードを手札またはフィールドから発動する事は出来ない。(ルール効果)

ゲームから除外されたこのカードの上に10枚以上の「永久輪廻」と名の付いたカードが存在する時、このカードをデッキの1番上に戻す事で相手の手札と墓地のカード1枚ずつを選択し、そのカードを元々の持ち主のデッキに戻す。

?????

#### 《永久輪廻 - 明滅する威光》

オリジナル  
通常魔法

このカードは発動された場合、そのまま墓地へと送られる。

このカードは墓地にカードを送ることが出来ない効果が適用されている場合も発動することが出来る。(ルール効果)

「永久輪廻」と名の付くカードを手札またはフィールドから発動する場合、そのターンの間、他の「永久輪廻」と名の付くカードを手札またはフィールドから発動する事は出来ない。(ルール効果)

ゲームから除外されたこのカードの上に10枚以上の「永久輪廻」と名の付いたカードが存在する時、このカードをデッキの1番上に戻す事で、このカードの下にあるカード1枚を手札に加え、デッキの一番下に存在するカード1枚を墓地に送る。

?????

#### 《永久輪廻 - 忌むべき罪》

オリジナル  
通常魔法

このカードは発動された場合、そのまま墓地へと送られる。

このカードは墓地にカードを送ることが出来ない効果が適用されている場合も発動することが出来る。(ルール効果)

「永久輪廻」と名の付くカードを手札またはフィールドから発動する場合、そのターンの間、他の「永久輪廻」と名の付くカードを手札またはフィールドから発動する事は出来ない。(ルール効果)

?????

?????

#### 《永久輪廻 - 塗りつぶされた過去》

オリジナル  
通常魔法

このカードは発動された場合、そのまま墓地へと送られる。

このカードは墓地にカードを送ることが出来ない効果が適用されている場合も発動することが出来る。(ルール効果)

「永久輪廻」と名の付くカードを手札またはフィールドから発動す

る場合、そのターンの間、他の「永久輪廻」と名の付くカードを手札またはフィールドから発動する事は出来ない。(ルール効果)  
?????  
?????

《永久輪廻 - 靈魂の苦痛》

オリジナル  
通常魔法

このカードは発動された場合、そのまま墓地へと送られる。  
このカードは墓地にカードを送ることが出来ない効果が適用されている場合も発動することが出来る。(ルール効果)

「永久輪廻」と名の付くカードを手札またはフィールドから発動する場合、そのターンの間、他の「永久輪廻」と名の付くカードを手札またはフィールドから発動する事は出来ない。(ルール効果)

?????  
?????

《永久輪廻 - 黄泉と現世の天秤》

オリジナル  
通常魔法

このカードは発動された場合、そのまま墓地へと送られる。

このカードは墓地にカードを送ることが出来ない効果が適用されている場合も発動することが出来る。(ルール効果)

「永久輪廻」と名の付くカードを手札またはフィールドから発動する場合、そのターンの間、他の「永久輪廻」と名の付くカードを手札またはフィールドから発動する事は出来ない。(ルール効果)

?????  
?????

《永久輪廻 - 超克された死》  
オリジナル  
通常魔法

このカードは発動された場合、そのまま墓地へと送られる。

このカードは墓地にカードを送ることが出来ない効果が適用されている場合も発動することが出来る。(ルール効果)

「永久輪廻」と名の付くカードを手札またはフィールドから発動する場合、そのターンの間、他の「永久輪廻」と名の付くカードを手札またはフィールドから発動する事は出来ない。(ルール効果)

?????  
?????

《永久輪廻 - 混沌の裁き》  
オリジナル  
通常魔法

このカードは発動された場合、そのまま墓地へと送られる。

このカードは墓地にカードを送ることが出来ない効果が適用されている場合も発動することが出来る。(ルール効果)

「永久輪廻」と名の付くカードを手札またはフィールドから発動する場合、そのターンの間、他の「永久輪廻」と名の付くカードを手札またはフィールドから発動する事は出来ない。(ルール効果)

?????  
?????

《永久輪廻 - 墮落への誘い》  
オリジナル  
通常魔法

このカードは発動された場合、そのまま墓地へと送られる。

このカードは墓地にカードを送ることが出来ない効果が適用されている場合も発動することが出来る。(ルール効果)

「永久輪廻」と名の付くカードを手札またはフィールドから発動す

る場合、そのターンの間、他の「永久輪廻」と名の付くカードを手札またはフィールドから発動する事は出来ない。(ルール効果)  
?????  
?????

《溪谷の竜姫》

チューナー・効果モンスター(オリジナル)

星2/風属性/ドラゴン族/ATK800/DEF1200

このカードを「ドラグニティ」と名のつくシンクロモンスターのシンクロ素材として使用する場合、他のカードは「ドラグニティ」と名のついたモンスターでなければならぬ。

このカードをシンクロ素材として使用する時、他のシンクロ素材は手札のモンスター1体でなければならない。

このカードはレベル7以上のシンクロモンスターのシンクロ素材に使用する事は出来ない。

このカードは「ドラグニティ」と名のつくシンクロモンスター以外のシンクロモンスターのシンクロ素材として使用することはできない。

この効果でシンクロ召喚されたモンスターはシンクロ召喚されたターンに攻撃宣言ができず、フィールドを離れた場合、自分はそのモンスターの守備力分のダメージを受ける。

《ドラグニティガンナー・ノルマスト》

シンクロ・効果モンスター(にきにきさん投稿オリジナル)

星6/炎属性/ドラゴン族/ATK2400/DEF2000

ドラゴン族チューナー+チューナー以外の炎属性・鳥獣族1枚以上

このカードのシンクロ召喚に成功した時、このカードのシンクロ召喚に使用したカード1組を墓地から除外する事が出来る。

除外した場合、相手フィールド上の魔法・罫カードを2枚までゲ-



△から除外する。

### 37話：戦慄のエンブティーループ 後編（後書き）

ノルマストの口上、やはり私には合わないとのメッセを戴きました  
&投稿後に逆お気に入りユーザーが激減したので変更しました。

突っ込みコーナー！

・いきなり精神世界w

前回、思いつきで気絶したという文を入れたが為に補足文章となります。

思いつきで入れるものではないと思いましたが、色々とフラグを立てられたので満足です。

・永久輪廻止まらない

発動条件が厳しいだけに動き出せば一気にというカード群です。

・アビドス……南無。

本当にご愁傷様です。

・雪乃救出！

本当にやっとですよ……

でも今度は雪乃とカミューラの修羅場が待っているのですよねw

・「永久輪廻」にまだ？があるのですが……

次回明かされます

・え？ 後編なのに終わらないの？

後編で終わらなければならぬ法則なんて無いと思うのですが……

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1348r/>

---

遊戯王GX - 蟹と魔女の娘 -

2011年10月8日10時02分発行